

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第244集

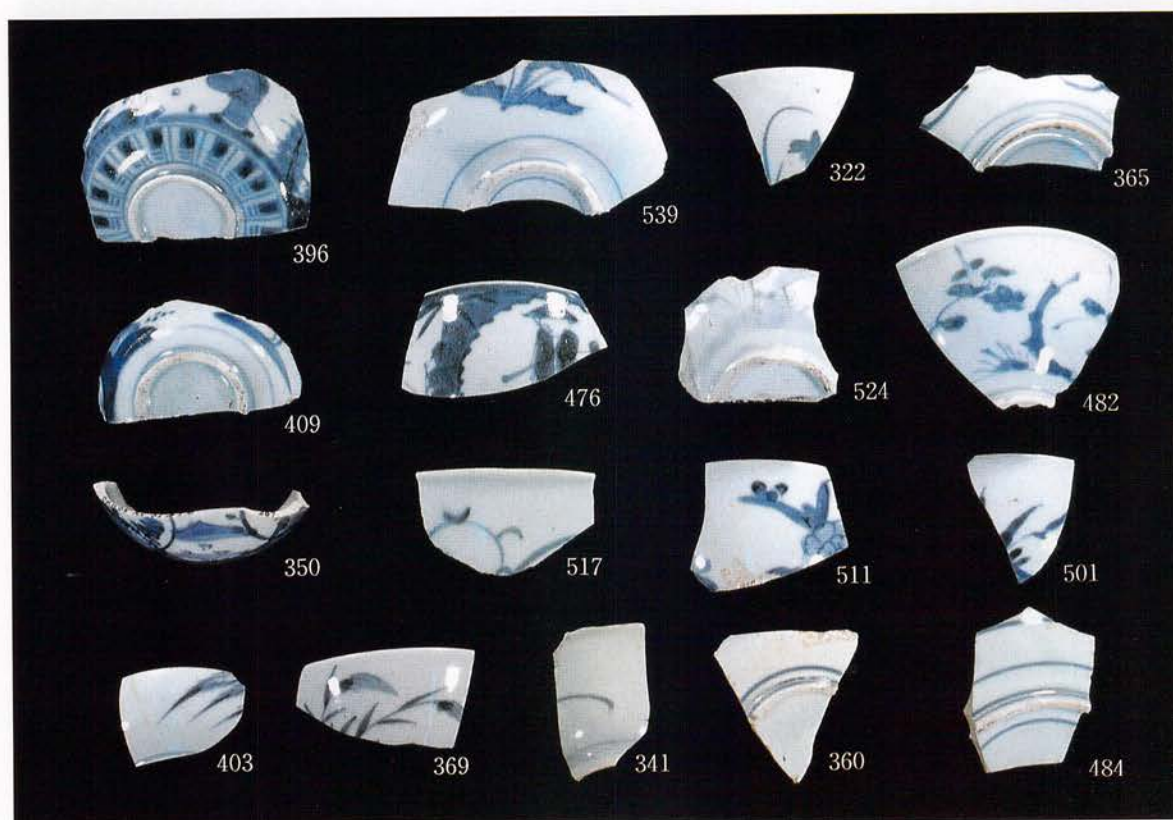
小幅遺跡第2次発掘調査報告書

—盛岡南新都市開発整備事業—

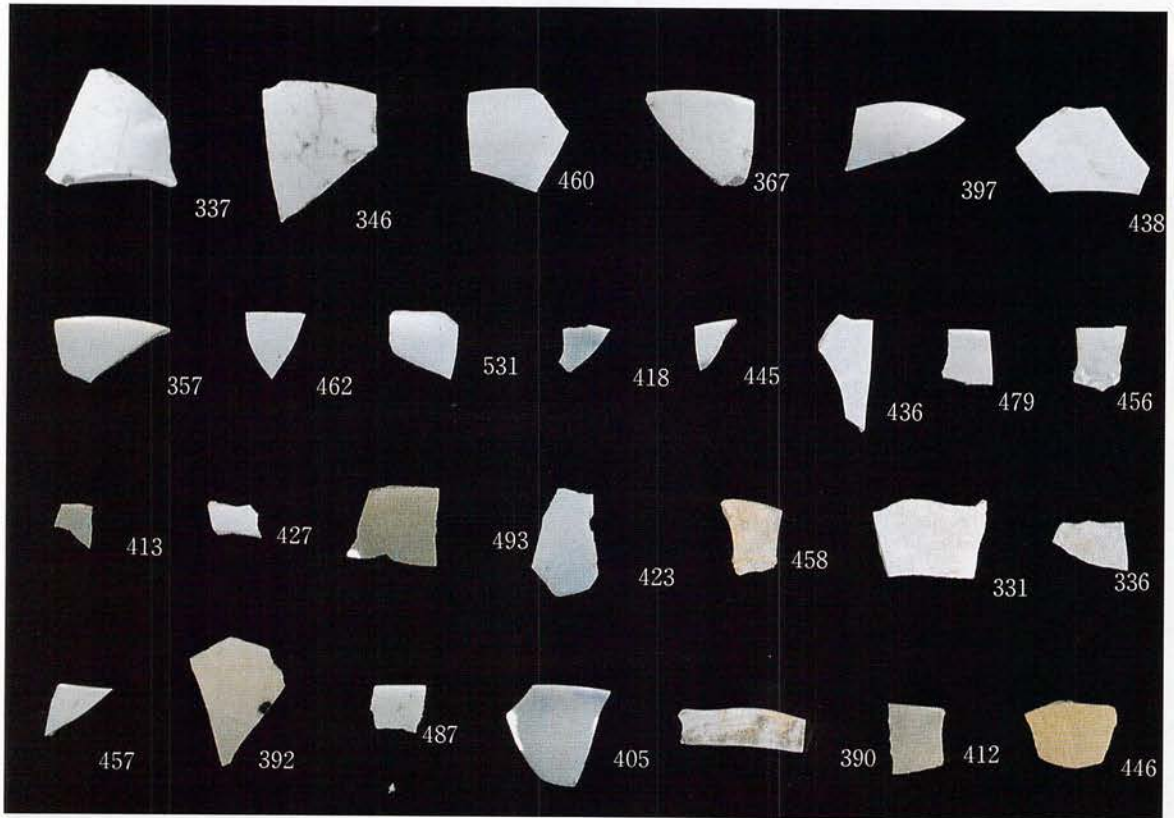
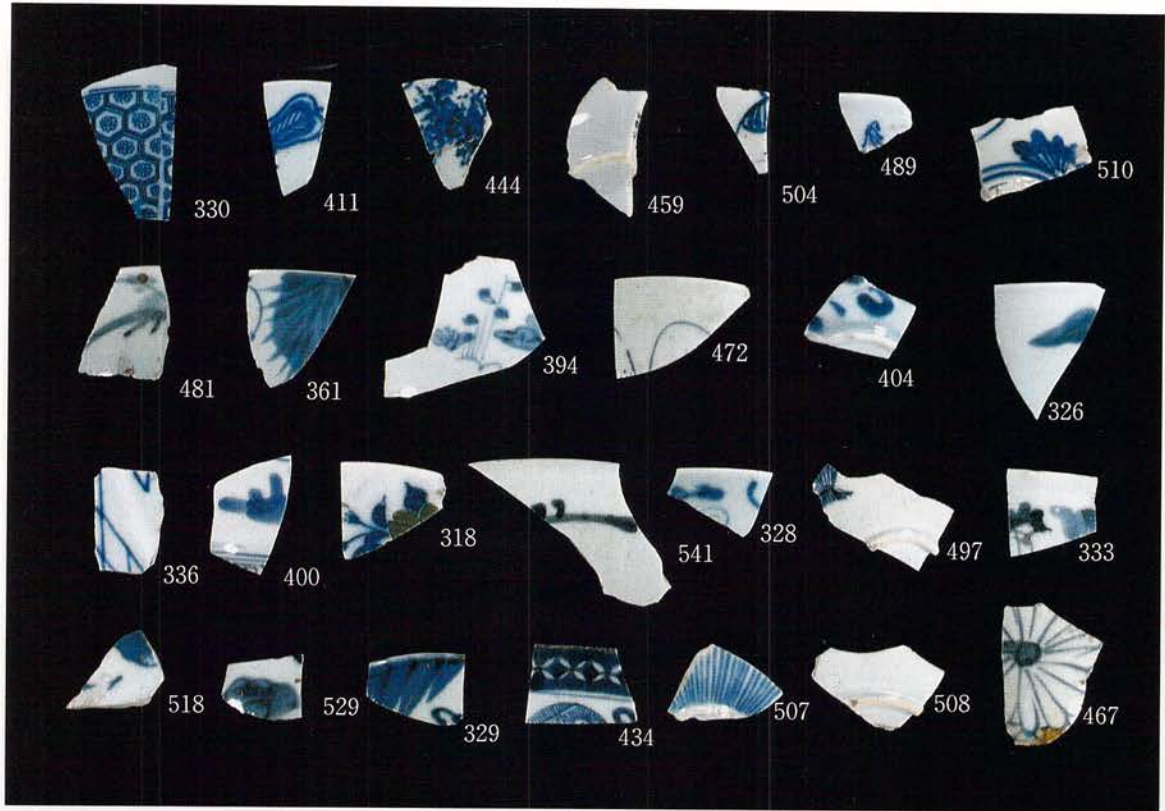
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
盛岡市

小幅遺跡第2次発掘調査報告書

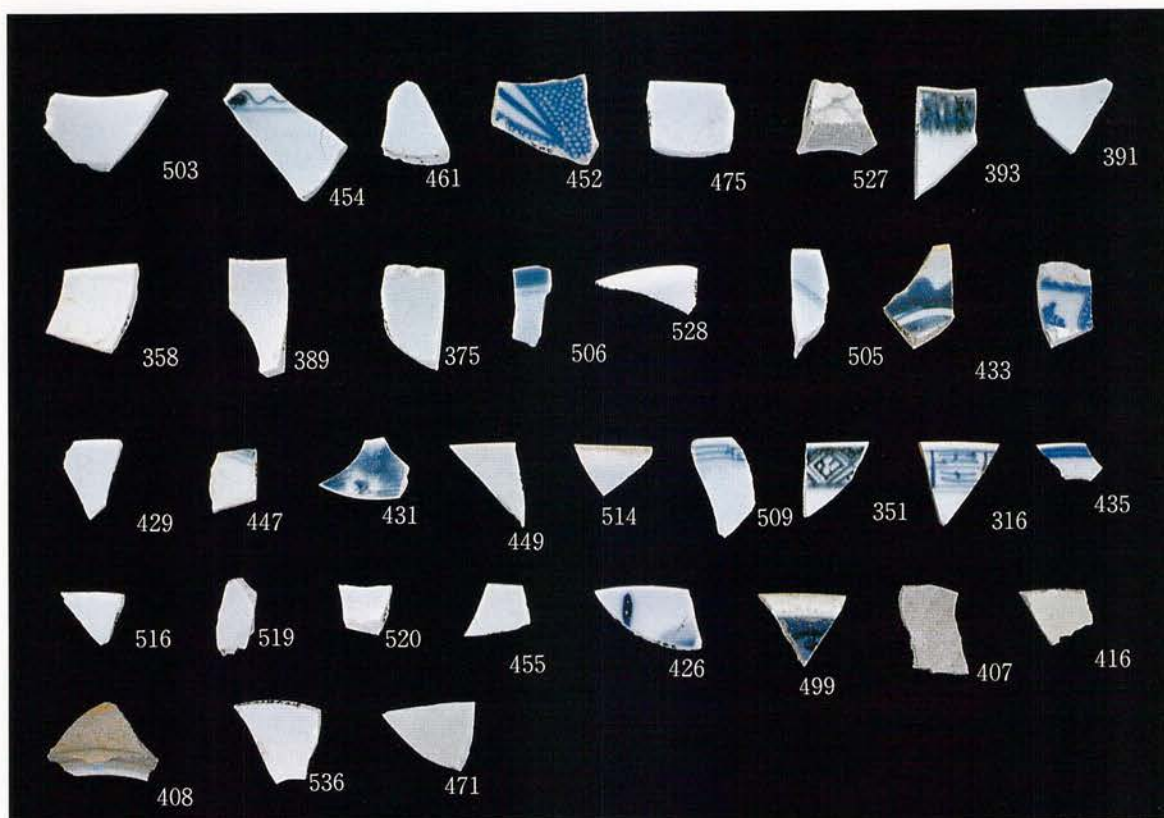
—盛岡南新都市開発整備事業—



卷頭写真 1



卷頭写真 2



卷頭写真 3



卷頭写真 4

序

岩手県には旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地域にあり、平成5年度の岩手県教育委員会のまとめでは8,700箇所を超えております。先人の残したこれらの埋蔵文化財を保護し、保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりました盛岡市南新都市開発整備事業を例にあげるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活をおくるための地域開発もまた県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存と地域開発という相容れない要素をもつ事業の調和のとれた施策が今日の課題となっております。

財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたって、県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむをえず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本書は、平成5年度から発掘調査が開始された盛岡南新都市開発整備事業に関連した小幅遺跡の調査結果をまとめたものであります。遺跡は雫石川右岸の河岸段丘上に立地した平安時代を中心とした集落跡であることが明らかになりました。竪穴住居跡や溝跡などの各種の遺構や遺物は志波城以降の当地域の状況を知る上で貴重な資料を提供することができました。本書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望します。

最後になりましたが、発掘調査および報告書作成にご協力とご援助を賜りました盛岡市開発部盛南開発課や盛岡市教育委員会をはじめとする多くの関係諸機関・関係各位に深く感謝申し上げます。

平成7年7月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 千葉浩一

例 言

1. 本報告書は、盛岡新都市開発整備事業に伴う小幅遺跡の第2次発掘調査の結果を収録したものである。
なお、第1次調査として盛岡市教育委員会により試掘調査が実施されている。
2. 遺跡は岩手県盛岡市本宮字小幅9-1外に所在する。
3. 調査は岩手県教育委員会事務局文化課の調整を経て、盛岡市開発部盛南開発課の委託を受けた(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
4. 岩手県遺跡台帳に登録されている遺跡番号はLE16-2009、遺跡略号はOKH02である。
5. 野外調査の期間と調査面積・調査担当者は次のとおりである。
期 間：平成6年4月8日～8月10日
調 査 面 積：13,548m²
調査担当者：斎藤邦雄・大道篤史
6. 室内整理作業は平成6年11月1日～平成7年3月31日まで実施し、本報告書の執筆はIを高橋與右衛門、それ以外は斎藤邦雄が担当した。
7. 下記の項目の分析・鑑定には次の個人・機関に委託した(敬称略)。
石材鑑定……佐藤二郎(長内水源工業) 樹種同定……高橋利彦(木工舎「ゆい」)
火山灰分析…三辻利一(奈良教育大学)
8. 野外調査や室内整理・報告書の作成には次の個人や機関の協力・指導助言を頂いた(敬称略)。
大橋康二(佐賀県立九州陶磁文化館)・岩手県教育委員会文化課・盛岡市教育委員会・盛岡市開発部盛南開発課・光井文行(盛岡市大宮中学校)・吉田務(滝沢村教育委員会)・小幅地区をはじめとする地元の方々。
9. 調査成果の一部については現地説明会資料や調査略報に発表してきたが、本書の内容が優先するものである。
10. 国土地理院発行の地形図を複製したものは図中に図幅名と縮尺を記した。
11. 遺構の埋土観察・出土遺物の色調観察は、『新版標準土色帖』(小山・竹原：1989)を参考にした。
12. 掲載した実測図の凡例については、Ⅲ.調査方法と整理方法等によった。
13. 出土した遺物及び調査にかかわる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管してある。

本文目次

序

例言

| | |
|----------------|-----|
| I. 調査にいたる経過 | 3 |
| II. 遺跡の立地と環境 | 3 |
| 1. 遺跡の立地と地形 | |
| 2. 周辺の遺跡 | |
| 3. 基本層序 | |
| III. 調査方法と整理方法 | 13 |
| 1. 野外調査 | |
| 2. 室内整理 | |
| IV. 検出された遺構と遺物 | 15 |
| 1. 竪穴住居跡 | 15 |
| 2. 掘立柱建物跡 | 27 |
| 3. 土坑類 | 33 |
| 4. 竪穴状遺構 | 73 |
| 5. 炉・焼土遺構 | 84 |
| 6. 溝跡 | 89 |
| 7. 集配石遺構 | 98 |
| 8. 井戸跡 | 98 |
| 9. 柱穴群 | 110 |
| 10. その他 | 113 |
| 11. 出土遺物 | 115 |
| V. まとめ | 156 |
| 1. 遺物について | 156 |
| 2. 遺構と遺跡について | 177 |

付 篇

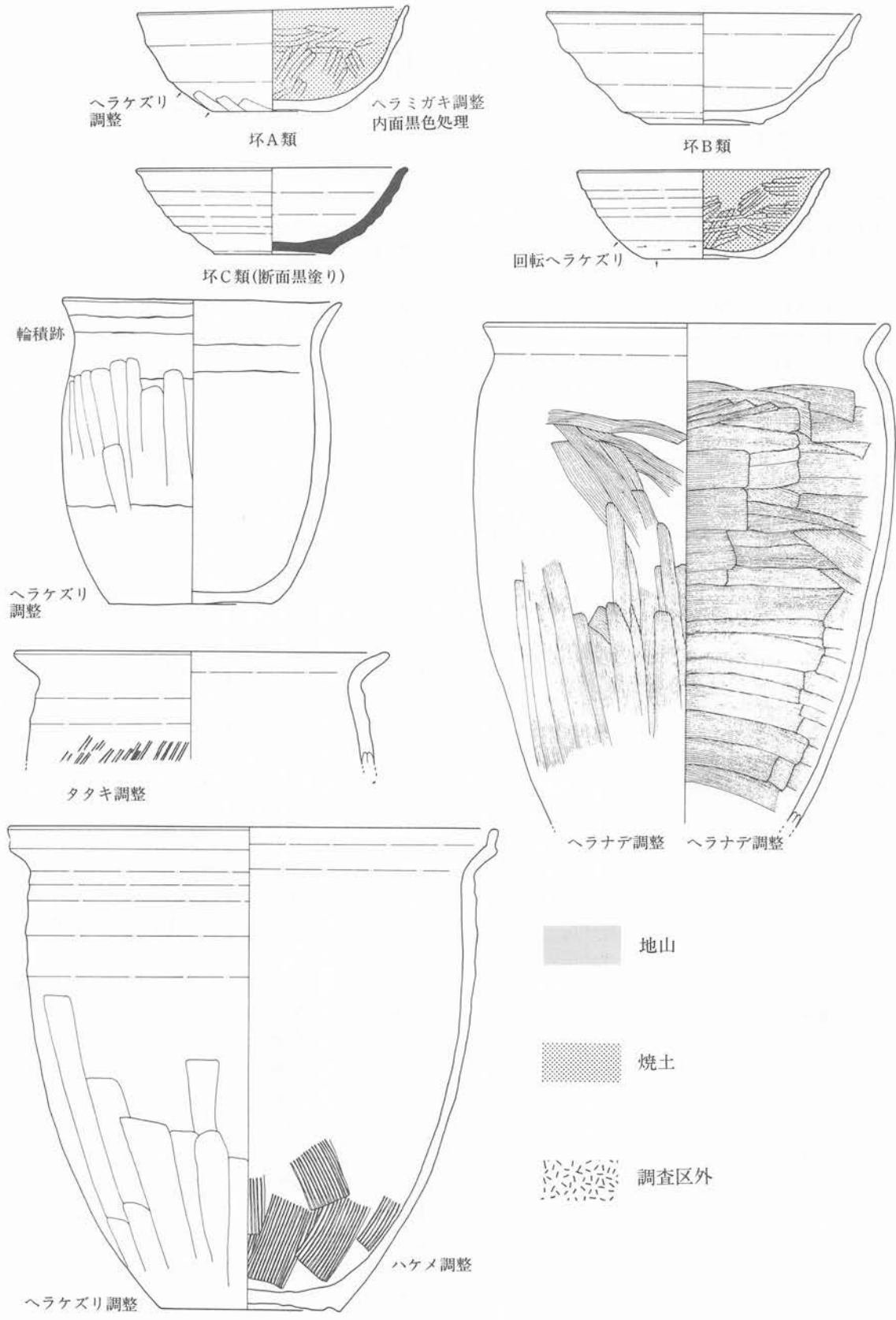
| | |
|---------------|-----|
| 小幅遺跡出土の材の樹種同定 | 179 |
| 小幅遺跡出土の蛍光X線分析 | 181 |

図 版 目 次

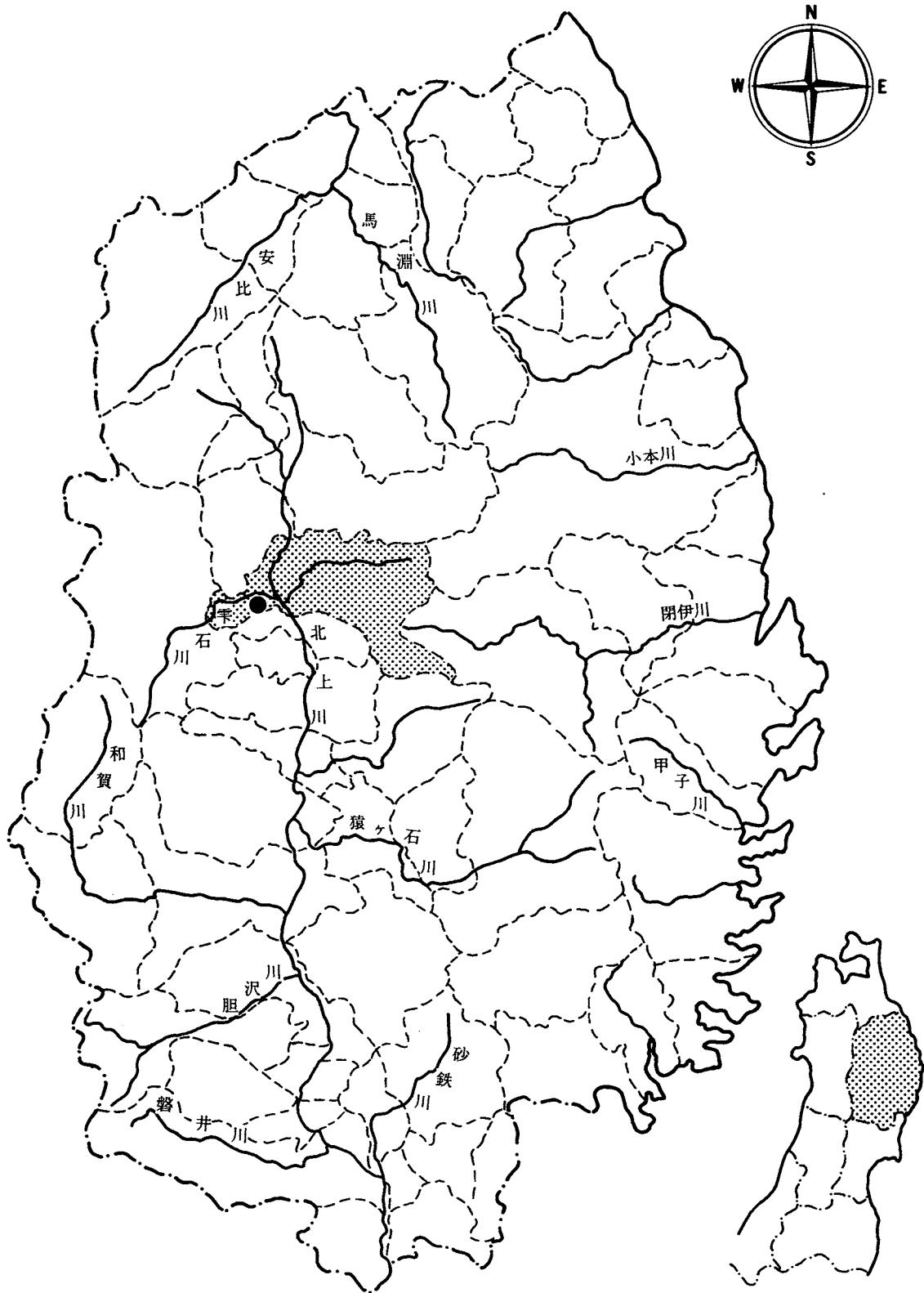
| | | |
|----------------------------|--------------------------------|-----|
| 付図 1～4 遺構配置図 | 第41図 RA01出土遺物(1)…………… | 116 |
| 第 1 図 岩手県図に見る遺跡の位置…………… | 第42図 RA01出土遺物(2)…………… | 117 |
| 第 2 図 遺跡位置図…………… | 第43図 RA01出土遺物(3)・RA02出土遺物…………… | 118 |
| 第 3 図 遺跡周辺の地形図…………… | 第44図 RA03出土遺物(1)…………… | 119 |
| 第 4 図 基本土層概念図…………… | 第45図 RA03出土遺物(2)…………… | 120 |
| 第 5 図 周辺の遺跡分布図…………… | 第46図 RA05出土遺物(1)…………… | 121 |
| 第 6 図 調査区割図およびグリッド配置図…………… | 第47図 RA05出土遺物(2)…………… | 122 |
| 第 7 図 RA01…………… | 第48図 RA05出土遺物(3)…………… | 123 |
| 第 8 図 RA02…………… | 第49図 RA06出土遺物(1)…………… | 124 |
| 第 9 図 RA03…………… | 第50図 RA06出土遺物(2)…………… | 125 |
| 第10図 RA04…………… | 第51図 RA06出土遺物(3)…………… | 126 |
| 第11図 RA05…………… | 第52図 RA06出土遺物(4)…………… | 127 |
| 第12図 RA06…………… | 第53図 RA06出土遺物(5)…………… | 128 |
| 第13図 RB01…………… | 第54図 RA06出土遺物(6)…………… | 129 |
| 第14図 RB02…………… | 第55図 RA06出土遺物(7)…………… | 130 |
| 第15図 RB03…………… | 第56図 RA06出土遺物(8)…………… | 131 |
| 第16図 RD(1)…………… | 第57図 RA06出土遺物(9)…………… | 132 |
| 第17図 RD(2)…………… | 第58図 RB03・RD・RE・出土遺物…………… | 133 |
| 第18図 RD(3)…………… | 第59図 RE出土遺物…………… | 134 |
| 第19図 RD(4)…………… | 第60図 RE出土遺物…………… | 135 |
| 第20図 RD(5)…………… | 第61図 RE・RF・RG出土遺物…………… | 136 |
| 第21図 RD(6)…………… | 第62図 RG出土遺物…………… | 137 |
| 第22図 RD(7)…………… | 第63図 RG出土遺物…………… | 138 |
| 第23図 RD(8)…………… | 第64図 RG出土遺物・遺構外出土遺物…………… | 139 |
| 第24図 RD(9)…………… | 第65図 遺構外出土遺物…………… | 140 |
| 第25図 RD(10)…………… | 第66図 遺構外出土遺物…………… | 141 |
| 第26図 RE01・02・04…………… | 第67図 陶磁器類(1)…………… | 142 |
| 第27図 RE03・05…………… | 第68図 陶磁器類(2)…………… | 143 |
| 第28図 RE06・07・11・12…………… | 第69図 陶磁器類(3)…………… | 144 |
| 第29図 RE08・13…………… | 第70図 陶磁器類(4)…………… | 145 |
| 第30図 RE09・10…………… | 第71図 銭貨…………… | 151 |
| 第31図 焼土遺構分布図(RF)…………… | 第72図 木製品(1)…………… | 152 |
| 第32図 焼土遺構RE01～10…………… | 第73図 木製品(2)…………… | 154 |
| 第33図 RG01・03・04・07・08…………… | 第74図 土器分類図(1)…………… | 163 |
| 第34図 RG02…………… | 第75図 土器分類図(2)…………… | 164 |
| 第35図 RG06・11～14…………… | 第76図 土器分類図…………… | 165 |
| 第36図 RG09・10…………… | 第77図 遺構別土器集成図(1)…………… | 168 |
| 第37図 RG18～20・27・28…………… | 第78図 遺構別土器集成図(2)…………… | 169 |
| 第38図 RG15～17・22～25・29…………… | 第79図 遺構別土器集成図(3)…………… | 170 |
| 第39図 RH01・RI01…………… | 第80図 遺構別土器集成図(4)…………… | 171 |
| 第40図 RZ01…………… | 第81図 遺構別土器集成図(5)…………… | 172 |

写真図版目次

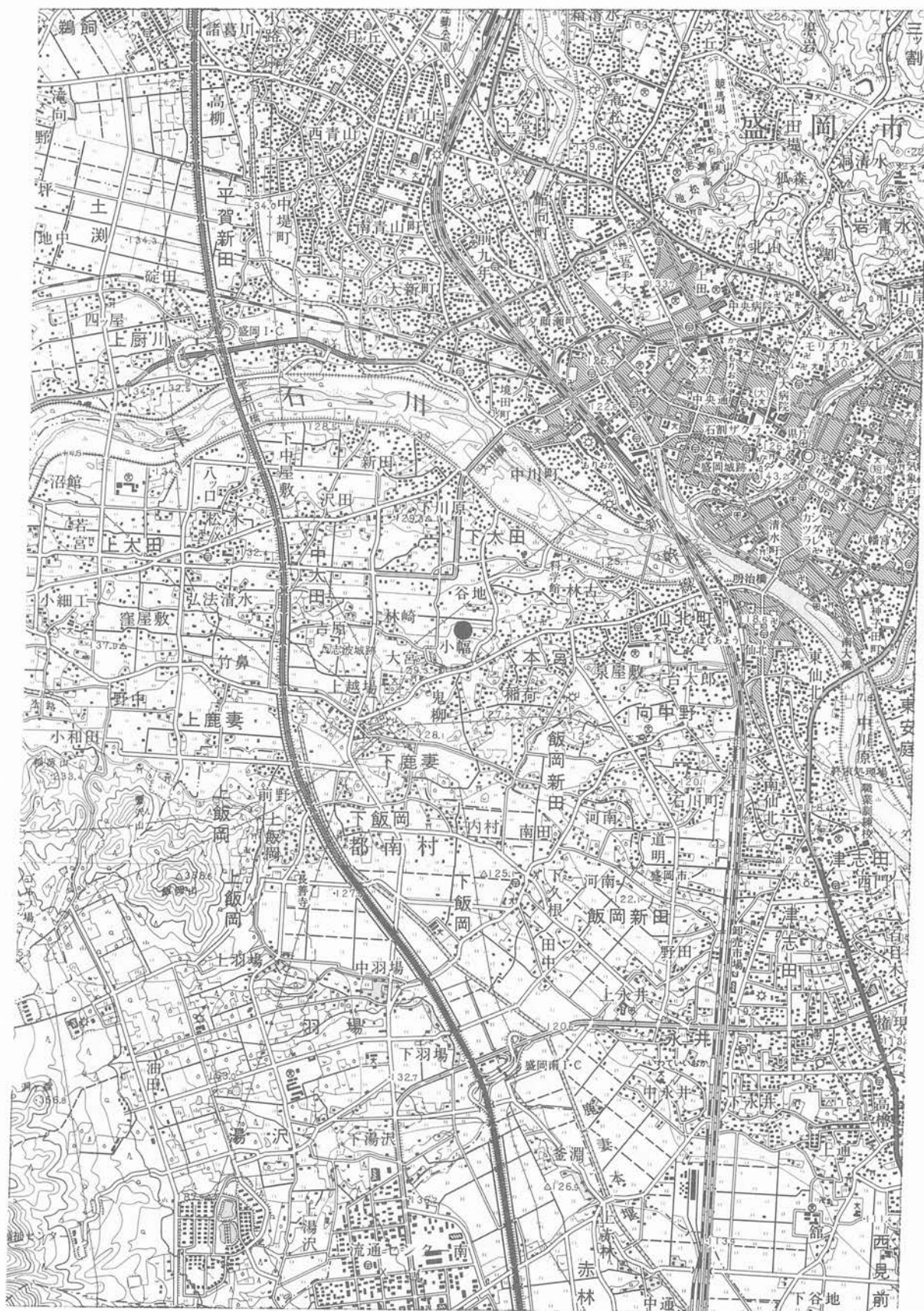
| | |
|-------------------------------|---------------------------------------|
| 図版 1 空中写真・遺跡遠景…………… 185 | 図版 46 RF01(2)05～08…………… 230 |
| 図版 2 空中写真…………… 186 | 図版 47 RF01(3)08～10・RH01・RI01…………… 231 |
| 図版 3 基本土層(G調査区)・作業風景…………… 187 | 図版 48 RG01…………… 232 |
| 図版 4 RA01…………… 188 | 図版 49 RG02(1)…………… 233 |
| 図版 5 RA02…………… 189 | 図版 50 RG02(2)…………… 234 |
| 図版 6 RA03(1)…………… 190 | 図版 51 RG03・04…………… 235 |
| 図版 7 RA03(2)・RA04(1)…………… 191 | 図版 52 RG06…………… 236 |
| 図版 8 RA04(2)…………… 192 | 図版 53 RG07・08…………… 237 |
| 図版 9 RA05(1)…………… 193 | 図版 54 RG09・11…………… 238 |
| 図版 10 RA05(2)…………… 194 | 図版 55 RG10(1)…………… 239 |
| 図版 11 RA06(1)…………… 195 | 図版 56 RG10(2)…………… 240 |
| 図版 12 RA06(2)…………… 196 | 図版 57 RG12・13…………… 241 |
| 図版 13 RB01・RB02…………… 197 | 図版 58 RG14・15…………… 242 |
| 図版 14 RB03…………… 198 | 図版 59 RG16～19…………… 243 |
| 図版 15 RD(1)…………… 199 | 図版 60 RG20～22…………… 244 |
| 図版 16 RD(2)…………… 200 | 図版 61 RG23・24…………… 245 |
| 図版 17 RD(3)…………… 201 | 図版 62 RG25・28…………… 246 |
| 図版 18 RD(4)…………… 202 | 図版 63 RG27…………… 247 |
| 図版 19 RD(5)…………… 203 | 図版 64 RGH29・RZ01…………… 248 |
| 図版 20 RD(6)…………… 204 | 図版 65 遺構内出土土器(1)…………… 249 |
| 図版 21 RD(7)…………… 205 | 図版 66 遺構内出土土器(2)…………… 250 |
| 図版 22 RD(8)…………… 206 | 図版 67 遺構内出土土器(3)…………… 251 |
| 図版 23 RD(9)…………… 207 | 図版 68 遺構内出土土器(4)…………… 252 |
| 図版 24 RD(10)…………… 208 | 図版 69 遺構内出土土器(5)…………… 253 |
| 図版 25 RD(11)…………… 209 | 図版 70 遺構内出土土器(6)…………… 254 |
| 図版 26 RD(12)…………… 210 | 図版 71 遺構内出土土器(7)…………… 255 |
| 図版 27 RD(13)…………… 211 | 図版 72 遺構内出土土器(8)…………… 256 |
| 図版 28 RD(14)…………… 212 | 図版 73 遺構内出土土器(9)…………… 257 |
| 図版 29 RD(15)…………… 213 | 図版 74 遺構内出土土器(10)・遺構外出土土器…………… 258 |
| 図版 30 RD(16)…………… 214 | 図版 75 陶磁器類(1)…………… 259 |
| 図版 31 RD(17)…………… 215 | 図版 76 陶磁器類(2)…………… 260 |
| 図版 32 RD(18)…………… 216 | 図版 77 陶磁器類(3)…………… 261 |
| 図版 33 RD(19)…………… 217 | 図版 78 陶磁器類(4)…………… 262 |
| 図版 34 RD(20)…………… 218 | 図版 79 陶磁器類(5)…………… 263 |
| 図版 35 RD(21)…………… 219 | 図版 80 陶磁器類(6)…………… 264 |
| 図版 36 RD(22)…………… 220 | 図版 81 陶磁器類(7)…………… 265 |
| 図版 37 RD(23)…………… 221 | 図版 82 陶磁器類(8)…………… 266 |
| 図版 38 RD(24)…………… 222 | 図版 83 陶磁器類(9)…………… 267 |
| 図版 39 RE01・02・04…………… 223 | 図版 84 銭貨…………… 268 |
| 図版 40 RE03・12…………… 224 | 図版 85 木製品(1)…………… 269 |
| 図版 41 RE05・06・07…………… 225 | 図版 86 木製品(2)…………… 270 |
| 図版 42 RE09・10…………… 226 | 図版 87 木製品(3)…………… 271 |
| 図版 43 RE08…………… 227 | 図版 88 木製品(4)…………… 272 |
| 図版 44 RE13…………… 228 | 図版 89 木製品(5)…………… 273 |
| 図版 45 RF01(1)01～04…………… 229 | |



挿図凡例



第1図 岩手県図に見る遺跡の位置



第2図 遺跡位置図

1 : 50000

I. 調査にいたる経過

盛岡南新都市開発整備事業は、盛岡市がきたるべき21世紀に向けて、経済・文化などに対する各機能を兼ね備えた北東北の拠点都市を目指して、盛岡市の既成市街地の他に盛岡市南部地域を新市街地として開発し、両者が有機的に結びついた軸状都心を形成するために策定された土地区画整理事業である。

この事業は、岩手県、盛岡市、都南村（現盛岡市）の三者で地域振興整備公団に対し平成2年9月に事業要請され、事業要請を受けた地域振興整備公団は事業実施基本計画を作成し、平成3年12月に建設大臣と国土庁長官から許可され、平成3年度から平成17年度までの15年間を事業予定期間として、面積約320haを対象とした土地区画整理事業が実施されることとなった。

事業の対象地域に係る埋蔵文化財の取扱については協議が重ねられ、その結果、本調査に先立って盛岡市教育委員会が試掘調査を行って、本調査を必要とする範囲を確定することとし、本調査は財団法人岩手県文化振興事業団の受託事業とすることとなった。

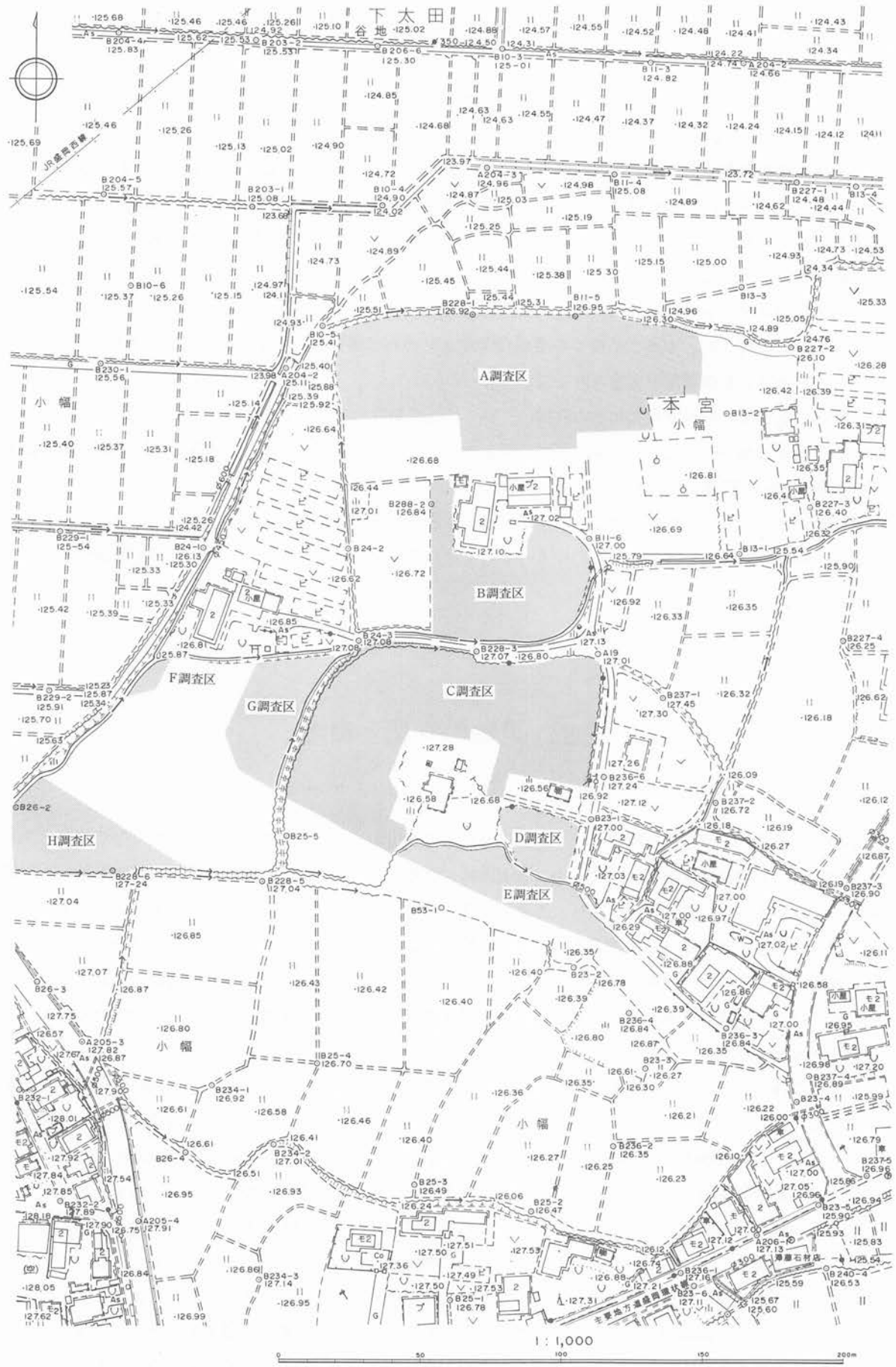
当遺跡については、岩手県教育委員会が盛岡市と協議の結果、平成6年度の事業として確定した。それを受けて、平成6年4月1日付けの契約によって当文化振興事業団の受託事業として本調査を実施することとした。

II. 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の立地と地形（第1～3図）

小幅遺跡の所在する県都盛岡市は北上川・中津川・雫石川の三河川の合流点に開けた城下町で、北上高地と奥羽山脈の間を南北に貫流する北上川と奥羽山脈に源を発する雫石川によって形成された北上盆地の北端に位置している。北は滝沢村・玉山村、東は岩泉町・川井村、南は矢巾町・紫波町・大迫町、西は雫石町と境を接している。北上川は東北地方第一の河川で幹線流路延長247km、流域面積10,200km²、支川数216を有する大河で、岩手・宮城の両県にまたがって流れておりそのうちの7分の6は岩手県内を流れている。盛岡市周辺はちょうど中流域に相当し、右岸には新第三紀層の砂岩・凝灰岩を基盤とする台地、扇状地の末端に侵食崖を形成している。

北上川に注ぐ支流の多くが奥羽山脈に源をもつことから、奥羽山脈支流から供給される砂礫量は北上山地に源をもつ支流から運搬される量に比較して著しく多く、そのため北上川の右岸では大小の段丘や扇状地、河岸平野・起伏量の小さい丘陵地がお互いに入り組む構造となっている。北上川左岸では北上山地支流の中津川・梁川は開析平野を流域にほとんど形成しておらず、これに対し奥羽山脈の支流である雫石川はその右岸に扇状地状の広い平坦面を形成している。これらの平坦面の大部分は扇状地や旧河床が段丘化したものであり、中川久夫氏は高位の石鳥谷段丘、中位の二枚橋段丘、低位の花巻段丘・都南段丘に区分している。本遺跡の立地する本宮地区も雫石川の右岸に形成された沖積段丘上に立地している。この沖積段丘は雫石川が周辺から供給した砂礫やシルト質土で被覆され、雫石川により下刻や堆積が繰り返し行われてきており、常に河川の影響をうけた不安定な地形である。不安定な流路の変遷は現在でも自然堤防上への集落の立地や水田・畦畔の配置状況から読みとることができる。



第3図 遺跡周辺の地形図

本遺跡は東日本旅客鉄道東北本線仙北町駅の西約3kmに位置し、雫石川によって形成された標高126m±の河岸段丘の微高地上に立地している。現在の雫石川との比高差は約数mである。一帯の地目は畑・水田・宅地でシルトや砂礫層が耕作土直下に見られることなどから当時の地表面がかなり開墾時に削平されている。現況は畑地・水田・宅地である。

2. 周辺の遺跡 (第5図)

盛岡市教育委員会が作成した1989年度版『盛岡市遺跡地図』および岩手県教育委員会作成の遺跡台帳を参考に、河南地区に相当する太田・本宮・鹿妻地区に所在する遺跡の概要について紹介を行う。

この周辺の遺跡分布状況を見ると雫石川左岸と右岸では非常に対称的な様相を示している。左岸には大館遺跡群をはじめとした縄文時代の遺跡が数多く知られているが、右岸の沖積段丘面上には該期の遺跡は少数例しか確認されていない。これに対して志波城跡やその周辺には本遺跡を含め古墳時代末から平安時代の遺跡が数多く分布している。

以下に述べるように本遺跡は志波城跡の外郭東辺の外に位置する10世紀前後の平安時代の一般集落である。時代的には本遺跡と近い遺跡として林崎遺跡・矢盛遺跡・本宮熊堂B遺跡・百木目遺跡・湯沢遺跡などが過去に調査されている。

3. 基本層序 (第4図)

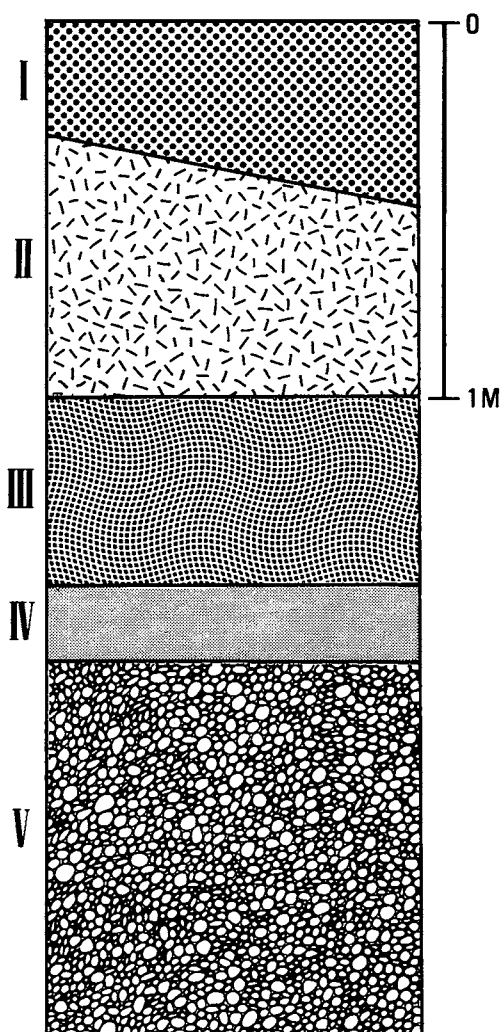
調査区が広範囲なため各調査区では状況が一様ではないが基本的には以下に記すような土壌の堆積が認められる。なお、基本層序についてはローマ数字で表現している。

第I層 黒色～黒褐色。耕作土。水田跡・畑地跡では状況が異なっているが30cm～50cm程度の層厚である。

A・B・C調査区では耕作土を除去した段階で遺構が検出される場合もある。

第II層 褐色～灰黄褐色の砂質および粘土質シルト。局所的に発達している層である。H・F・G・C調査区の西側・B調査区の西側に分布しており、A・B・C調査区の東側、D・E調査区には分布が認められず遺跡の西側を中心に形成されている。層厚50cm±。砂層と粘土質シルト層が繰り返し薄く堆積している状況も観察され、水流により形成されたと考えられる。遺跡の西側に相当するH・F・G調査区では特に層厚が厚く、この層中に平安時代の土器が含まれている。志波城跡で検出されている水成シルト堆積の層と同一と考えられる。

灰白色火山灰を含む遺構はこのII層を掘り込んで構築している。



第4図 基本土層概念図

第Ⅲ層 黒色土のシルト。層厚50cm±。ABC調査区の東側部分ではこの層はすでに消失している。

第Ⅳ層 褐色～黄褐色土。粘土質土である。遺跡の東半に相当するA・B・C調査区等で確認される。この地域では第Ⅰ層の耕作土直下に認められる。層厚約20cm±。

第Ⅴ層 基底をなす水成砂礫層である。A調査区の深掘りの観察では砂・礫の精粗や粒度で幾層かに細分可能である。

引用・参考文献

岩手県企画開発室1974『北上山系開発地域土地分類基本調査一日誌一』

岩手放送株式会社1975『北上川』岩手の地誌三部作 第二部

伊東 格1994『矢盛遺跡第1次発掘調査報告書』(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財査報告書205集

『岩手県遺跡分布図』

1994岩手県教育委員会

| No | 遺跡名 | 種別 | 遺構・遺物 | 時代 | 所在地 | 備考 |
|----|----------|---------|--------------------------|-------|-----------|---------------|
| 1 | 板橋Ⅱ | 散布地 | 縄文土器、土師器 | 縄文・古代 | 繫字山根 | |
| 2 | 北ノ浦 | 散布地 | 縄文土器、土師器 | 縄文・古代 | 繫字北ノ浦 | |
| 3 | 板橋Ⅰ | 散布地 | 縄文土器、土師器 | 縄文・古代 | 繫字尾入野 | |
| 4 | 尾入野 | 散布地 | 縄文土器 | 縄文 | 繫字尾入野 | |
| 5 | 下猿田 | 集落跡 | 縄文土器、土師器、住居跡 | 縄文・古代 | 繫字北ノ浦 | |
| 6 | 下猿田Ⅱ | 散布地 | 縄文土器(早～中期) | 縄文 | 繫字下猿田 | |
| 7 | 下猿田Ⅰ | 散布地 | 縄文土器(早～中期) | 縄文 | 繫字下猿田 | |
| 8 | 堂ヶ沢 | 集落跡 | 縄文土器(中期)、住居跡 | 縄文 | 繫字堂ヶ沢 | |
| 9 | 新成館 | 散布地・城館跡 | 縄文土器 | 縄文・中世 | 繫字堂ヶ沢 | |
| 10 | 下猿田Ⅲ | 散布地 | 縄文土器(早～中期) | 縄文 | 繫字下猿田 | |
| 11 | 湯坂峠 | 関所跡 | 塚1基 | 中世～近世 | 猪去字湯坂峠 | |
| 12 | 田面野木 | 散布地 | 縄文土器、土師器 | 縄文・古代 | 猪去字田面野木 | |
| 13 | 猪去八幡館 | 城館跡 | 堀、郭 | 中世 | 猪去字田面野木 | |
| 14 | 上猪去 | 集落跡 | 縄文土器(中・後期)、土師器、土坑、掘立柱建物跡 | 縄文・古代 | 猪去字上猪去 | 平成2年調査 |
| 15 | 細田 | 散布地 | 土師器 | 平安時代 | 上太田字細田 | |
| 16 | 松ノ木 | 集落跡 | 土師器 | 平安時代 | 上太田字松ノ木 | |
| 17 | 八ッ口 | 散布地 | 土師器、住居跡 | 古代 | 上太田字八ッ口 | |
| 18 | 八卦 | 集落跡 | 土師器、土坑、住居跡 | 奈良時代 | 中太田字八卦 | |
| 19 | 太田蝦夷森古墳群 | 古墳 | 土師器、刀、玉、和銅開宝 | 奈良時代 | 上太田字森合 | |
| 20 | 館 | 集落後・城館跡 | 土師器、堀、土塁、住居跡 | 平安時代 | 上太田字館 | |
| 21 | 上野屋敷 | 散布地 | 土師器 | 古代 | 上太田字上野屋敷 | |
| 22 | 畑中 | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 上太田字畑中 | |
| 23 | 小沼 | 集落跡 | 土師器、住居跡、緑釉陶器 | 平安時代 | 中太田字小沼 | |
| 24 | 一本木 | 集落跡 | 土師器、住居跡 | 平安時代 | 上太田字一本木 | |
| 25 | 五兵衛新田 | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 上鹿妻字五兵衛新田 | |
| 26 | 天沼 | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 上鹿妻字天沼 | |
| 27 | 竹鼻 | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 上鹿妻字竹鼻・朴 | |
| 28 | 志波城 | 城館跡 | 土器、掘立柱建物跡、門跡、築地、堀、大溝 | 平安時代 | 下太田字方八丁 | 国指定史跡 |
| 29 | 田貝 | 集落跡 | 土師器、住居跡 | 古代 | 上鹿妻字田貝 | |
| 30 | 竹花前 | 集落跡 | 土師器、住居跡、緑釉陶器 | 平安時代 | 上鹿妻字田貝 | |
| 31 | 新堰端 | 城館跡 | 縄文土器(晩期)、土師器、土坑、大溝、住居跡 | 縄文・平安 | 下太田字新堰端 | |
| 32 | 石仏 | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 本宮字石仏 | |
| 33 | 田中 | 散布地 | 土師器 | 平安時代 | 下太田字田中 | |
| 34 | 林崎 | 集落跡 | 土師器、須恵器、掘立柱建物跡 | 平安時代 | 下太田字林崎 | |
| 35 | 小幡 | 集落跡 | 土師器、住居跡、溝 | 古代 | 本宮字小幡 | 旧大宮Ⅰ遺跡、平成6年調査 |
| 36 | 大宮 | 集落跡 | 土師器、住居跡 | 古代・中世 | 本宮字大宮 | |
| 37 | 大宮北 | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 本宮字大宮 | |
| 38 | 鬼柳B | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 本宮字鬼柳 | |
| 39 | 小林 | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 本宮字小林 | |
| 40 | 水門 | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 本宮字水門 | |
| 41 | 上越場A | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 本宮字上越場 | |
| 42 | 宮沢 | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 本宮字宮沢 | |
| 43 | 本宮熊堂A | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 本宮字熊堂 | |
| 44 | 本宮熊堂B | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 本宮字熊堂 | 平成5年調査 |

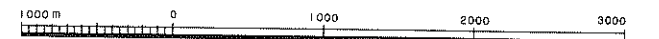
| No | 遺跡名 | 種別 | 遺構・遺物 | 時代 | 所在地 | 備考 |
|-----|-------|---------|-----------------------|----------|------------|-------------|
| 45 | 鬼柳A | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 本宮字鬼柳 | |
| 46 | 稲荷 | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 本宮字稲荷 | |
| 47 | 鬼柳C | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 本宮字鬼柳 | |
| 48 | 野古A | 集落跡 | 土師器、住居跡 | 平安 | 本宮字北、野古 | |
| 49 | 野古B | 散布地 | 土師器 | 古代 | 本宮字北、野古 | |
| 50 | 台太郎 | 集落跡 | 土師器、溝跡、住居跡 | 古代 | 向中野字台太郎 | |
| 51 | 矢盛 | 集落跡 | 縄文土器(後・晩期)、土墳墓、住居跡 | 古代 | 飯岡新田 | 平成4年調査 |
| 52 | 萩内 | 集落跡 | 堀、郭、土塁 | 縄文 | 繫字萩内川原 | 消滅 |
| 53 | 館市館 | 城館跡 | 堀、郭 | 中世 | 繫字館市 | |
| 54 | 上野館 | 城館跡 | 堀、堀切、郭、石器 | 中世 | 繫字萩内沢 | |
| 55 | 萩内館 | 散布地・城館跡 | 縄文土器 | 縄文・中世 | 繫字萩内沢 | |
| 56 | 除Ⅱ | 散布地 | 縄文土器、弥生 | 縄文 | 繫字除 | 消滅 |
| 57 | 上野 | 散布地 | 縄文土器 | 縄文・弥生 | 繫字上野 | 消滅 |
| 58 | 除Ⅰ | 散布地 | 縄文土器 | 縄文 | 繫字除 | 一部消滅 |
| 59 | 繫Ⅰ | 散布地 | 縄文土器 | 縄文 | 繫字湯ノ館 | 消滅 |
| 60 | 繫Ⅲ | 集落跡 | 縄文土器(中期)、住居跡、掘立柱建物跡 | 縄文・中世 | 繫字湯ノ館 | 消滅 |
| 61 | 繫Ⅳ | 集落跡 | 縄文土器、土師器、住居跡 | 縄文～中世 | 繫字館市 | |
| 62 | 繫Ⅱ | 集落跡 | 縄文土器(中期)、住居跡 | 縄文 | 繫字湯ノ館 | |
| 63 | 湯ノ館 | 城館跡 | 堀、堀切、郭、土塁 | 中世 | 繫字湯ノ館 | |
| 64 | 繫Ⅴ | 集落跡 | 縄文土器(中～晩期)、古銭、土坑、住居跡 | 縄文・中世 | 繫字館市 | 縄文中期主体 |
| 65 | 一本松経塚 | 経塚跡 | 経塚跡? | 中世 | 繫字湯ノ館 | |
| 66 | 繫Ⅵ | 集落跡 | 縄文土器(中～晩期)、弥生、土坑、住居跡 | 縄文・弥生 | 繫字館市 | |
| 67 | 上平 | 集落跡 | 縄文土器(中～晩期)、弥生、土師器、住居跡 | 縄文・古代 | 猪去字上平 | 昭和61・62年調査 |
| 68 | 猪去館 | 集落跡・城館跡 | 縄文土器、土坑、堀、掘立柱建物跡、住居跡 | 縄文・古代・中世 | 猪去字釈迦堂 | 昭和62年調査 |
| 69 | 蟹沢下 | 散布地 | 土師器 | 古代 | 上鹿妻字蟹沢 | |
| 70 | ニツ沢 | 散布地 | 縄文土器(中・後期)、土師器 | 縄文・古代 | 上鹿妻字ニツ沢 | |
| 71 | 小和田館 | 城館跡 | 堀、郭 | 中世 | 上鹿妻字小和田 | |
| 72 | 蟹沢 | 散布地 | 縄文土器、土師器 | 縄文・古代 | 上鹿妻字蟹沢 | |
| 73 | ヘビ堂 | 散布地 | 縄文土器、土師器 | 縄文・古代 | 上鹿妻字蟹沢 | |
| 74 | オミ坂 | 散布地 | 縄文土器(早～晩期)、土師器 | 縄文・古代 | 上鹿妻字蟹沢 | |
| 75 | 大ヶ森 | 散布地 | 縄文土器、土師器 | 縄文・古代 | 猪去字大ヶ森 | |
| 76 | 辻屋敷 | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 下鹿妻字辻屋敷 | |
| 77 | 西田A | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 下鹿妻字西田 | |
| 78 | 上越場B | 集落跡・散布地 | 土師器 | 古代 | 本宮字上越場 | |
| 79 | 西田B | 集落跡 | 土師器・須恵器 | 古代 | 下鹿妻字西田 | |
| 80 | 前田 | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 下鹿妻字前田 | |
| 81 | 向中野館 | 城館跡 | 堀、土塁 | 中世 | 向中野字才川 | |
| 82 | 細谷地 | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 向中野字細谷地、野原 | |
| 83 | 南仙北 | 散布地・集落跡 | 縄文土器、土師器、土坑、住居跡 | 縄文・古代 | 南仙北二丁目 | |
| 84 | 向中野幅 | 集落跡 | 土師器 | 古代 | 向中野字幅 | |
| 85 | 飯岡沢田 | 集落跡 | 住居跡 | 古代 | 飯岡新田1沢田 | |
| 86 | 飯岡才川 | 集落跡 | | 古代 | 飯岡新田2才川 | |
| 87 | 中村 | 散布地 | 土師器、須恵器 | 平安 | 上飯岡字中村 | |
| 88 | 月見山 | 散布地 | 縄文土器(後期)、土師器、須恵器 | 縄文・古代 | 上飯岡字山中 | |
| 89 | 山中 | 散布地 | 縄文土器(早・中期)、土師器 | 縄文・古代 | 上飯岡字赤坂 | |
| 90 | 飯岡館 | 城館跡 | 縄文土器(中期)、空堀 | 中世 | 上飯岡字赤坂 | |
| 91 | 堤 | 散布地 | 縄文土器、土師器 | 縄文・古代 | 上飯岡字堤 | |
| 92 | 高館古墳群 | 古墳 | 炭刀子、切子玉、土師器 | 奈良～平安 | 上飯岡字堤 | 市史跡指定 |
| 93 | 藤島Ⅱ | 散布地 | 土師器 | 平安? | 上飯岡字藤島 | |
| 94 | 高館 | 散布地 | 縄文土器(中期)、石器 | 縄文 | 上飯岡字堤 | |
| 95 | 大柳Ⅰ | 集落跡 | 土師器、須恵器 | 古代 | 上飯岡字大柳 | 大柳遺跡改め |
| 96 | 大柳Ⅱ | 散布地 | 土師器? | 古代? | 上飯岡字大柳 | 十日市場遺跡改め |
| 97 | 館野前 | 散布地 | 縄文土器(後期) | 縄文 | 上飯岡字館野前 | 在家遺跡改め |
| 98 | 飯岡山館 | 城館跡 | | 中世 | 上飯岡 | |
| 99 | 飯岡赤坂 | 散布地 | | 古代 | 上飯岡9赤坂 | 赤坂Ⅱ遺跡? |
| 100 | いたこ塚 | 祭祀跡 | | 近世 | 上飯岡字茨島 | 消滅 |
| 101 | 赤坂Ⅱ | 散布地 | 土師器 | 平安? | 上飯岡字赤坂 | 赤坂遺跡改め |
| 102 | 羽場館 | 城館跡 | 空堀 | 中世 | 羽場字百目木 | |
| 103 | 羽場百目木 | 散布地 | 縄文土器(中期) | 縄文 | 羽場字百目木 | |
| 104 | 砂子塚 | 散布地 | 小塚 | 古代 | 羽場字南百目木 | |
| 105 | アイノ野 | 散布地 | 縄文土器(晩期) | 縄文 | 上飯岡字土山 | 土山遺跡改め |
| 106 | 因幡 | 散布地 | 縄文土器、須恵器、土師器 | 縄文・古代 | 羽場字因幡 | 因幡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡統合 |
| 107 | 木節 | 集落跡 | | 平安 | 羽場字木節 | |
| 108 | 福千代 | 集落跡 | | 奈良 | 羽場字福千代 | |
| 109 | 二又 | 散布地 | 土師器、須恵器 | 平安 | 下飯岡字二又 | 二又Ⅰ・Ⅱ遺跡統一 |
| 110 | 内村 | 集落跡 | 土師器、常滑 | 平安 | 下飯岡字石橋 | |
| 111 | 中屋敷 | 散布地 | 土師器 | 古代 | 下飯岡字中屋敷 | 三竹遺跡改め |
| 112 | 藤島Ⅰ | 集落跡 | 縄文土器、土師器、須恵器 | 縄文・古代 | 上飯岡字林崎 | |

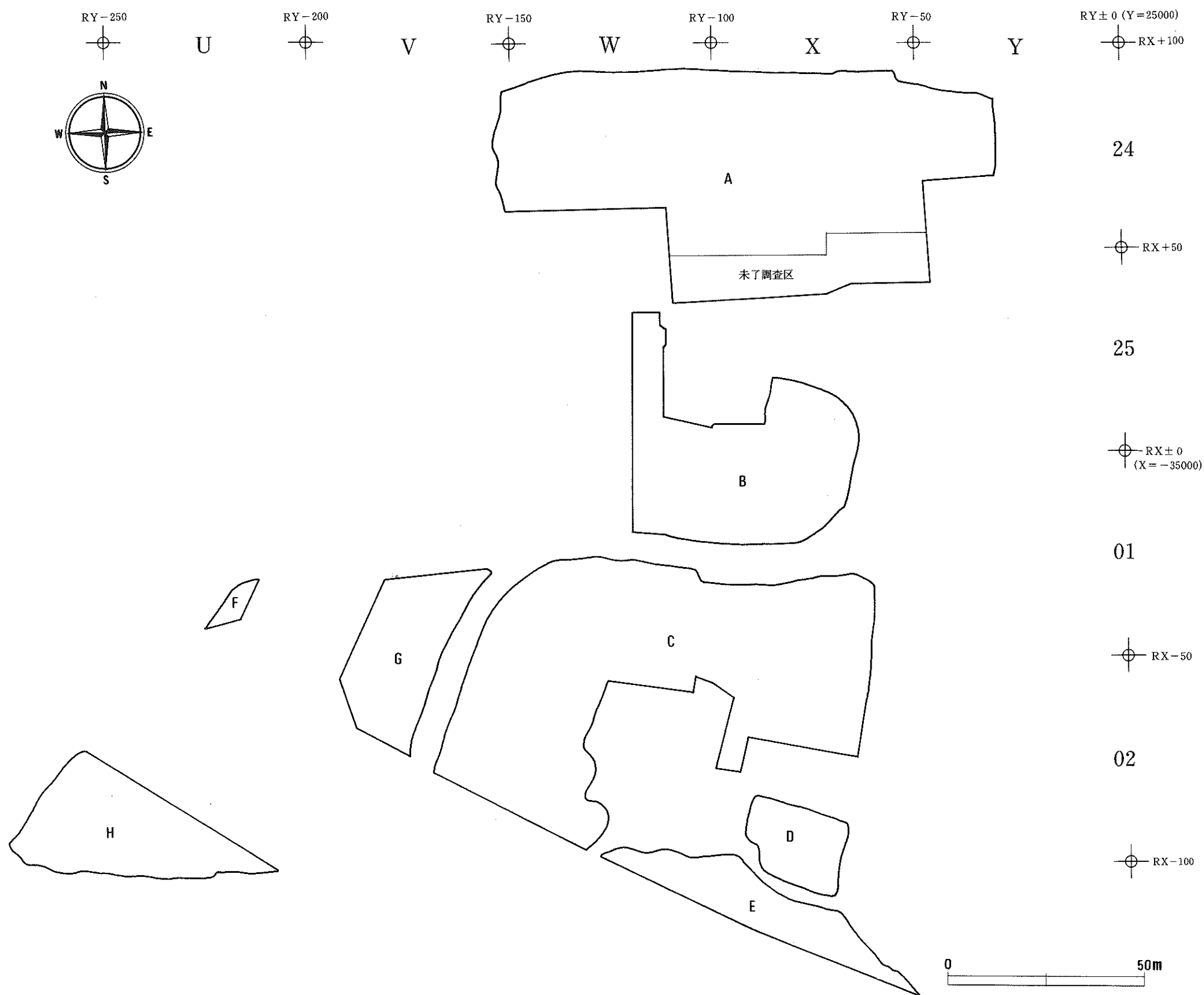
| No | 遺跡名 | 種別 | 遺構・遺物 | 時代 | 所在地 | 備考 |
|-----|-------|---------|-----------------|-------|-----------|-----------------|
| 113 | 深淵Ⅰ | 集落跡 | 住居跡 | 平安 | 下飯岡字深淵 | |
| 114 | 高屋敷Ⅰ | 散布地 | 須恵器 | 古代 | 下飯岡字高屋敷 | |
| 115 | 法嶺権現塚 | 祭祀跡 | | | 飯岡新田字畑中 | |
| 116 | 飯岡林崎Ⅱ | 集落跡 | 土師器、須恵器、住居跡、硯 | 古代 | 下飯岡字新田 | 旧林崎 |
| 117 | 飯岡林崎Ⅰ | 集落跡 | 土師器 | 平安 | 上飯岡6上新田 | 上新田Ⅰと重複 |
| 118 | 上新田Ⅰ | 集落跡 | 土師器、住居跡 | 平安 | 下飯岡 | 飯岡林崎Ⅰと重複 |
| 119 | 深淵Ⅱ | 集落跡 | 住居跡 | 平安 | 下飯岡字深淵 | 地点変更 |
| 120 | 上新田Ⅱ | 集落跡 | 土師器、住居跡 | 平安 | 下飯岡6上新田 | |
| 121 | 下久根Ⅰ | 散布地 | 縄文土器、土師器 | 縄文・古代 | 下飯岡字下久根 | |
| 122 | 石持 | 散布地 | 土師器、須恵器 | 古代 | 下飯岡字石持 | 下久根Ⅲ遺跡改め |
| 123 | 高屋敷Ⅱ | 散布地 | 土師器、須恵器 | 平安 | 下飯岡字高屋敷 | |
| 124 | 西 | 集落跡 | 土師器、住居跡 | 平安 | 下飯岡字西 | |
| 125 | 西田 | 集落跡 | 須恵器 | 平安 | 下飯岡字西田 | |
| 126 | 下久根Ⅱ | 散布地 | 縄文土器 | 縄文・古代 | 下飯岡字下久根 | |
| 127 | 熊堂Ⅰ | 集落跡 | 縄文土器、石器、土師器、住居跡 | 縄文・平安 | 下飯岡字熊堂 | |
| 128 | 松島 | 集落跡 | 土師器、須恵器 | 古代 | 飯岡新田字松島 | |
| 129 | 熊堂Ⅲ | 集落跡 | 土師器、須恵器、住居跡 | 平安 | 下飯岡字熊堂 | |
| 130 | 熊堂Ⅱ | 集落跡 | 土師器、須恵器、住居跡 | 平安 | 下飯岡字熊堂 | 南谷地Ⅰを統合 |
| 131 | 田中 | 集落跡 | 土師器、須恵器、石器 | 平安 | 下飯岡字田中 | |
| 132 | 南谷地 | 集落跡 | 土師器、須恵器、住居跡 | 平安 | 下飯岡字南谷地 | 南谷地Ⅱを改め |
| 133 | 夕覚 | 散布地 | 土師器 | 古代 | 飯岡新田字夕覚 | 畑中遺跡改め |
| 134 | 横屋 | 集落跡 | 土師器、須恵器 | 古代 | 飯岡新田字横屋 | |
| 135 | 葛本 | 散布地 | 土師器、石器 | 古代 | 下飯岡字葛本 | |
| 136 | 新井田Ⅰ | 散布地 | 土師器、須恵器 | 古代 | 羽場字新井田 | |
| 137 | 新井田Ⅱ | 散布地 | 土師器、須恵器 | 古代 | 羽場字木伏~新井田 | |
| 138 | 新田 | 集落跡 | 土師器、須恵器 | 平安 | 羽場字新井田 | |
| 139 | 間渡Ⅰ | 散布地 | 土師器 | 古代 | 湯沢字間渡 | |
| 140 | 下羽場 | 集落跡 | 土師器、須恵器、緑釉陶器 | 平安 | 羽場字新井田 | 稻荷を統合 |
| 141 | 下湯沢 | 散布地 | 土師器、須恵器 | 古代 | 湯沢字間渡 | 湯沢A遺跡改め、湯沢B・C統合 |
| 142 | 大島 | 散布地 | 土師器、須恵器 | 古代 | 羽場字大島 | |
| 143 | 湯壺 | 散布地 | 縄文土器(晩期)、石器 | 縄文 | 湯沢字上屋敷 | |
| 144 | 湯壺経塚 | 経塚 | 常滑 | 中世 | 湯沢字後沢 | 地点不詳? |
| 145 | 後島 | 散布地 | 縄文土器、石器 | 縄文 | 湯沢字後島 | |
| 146 | 湯沢 | 散布地 | 縄文土器(前・中・後期)、石器 | 縄文 | 湯沢字早稲屋敷 | |
| 147 | 島 | 墳墓 | 小塚 | 不明 | 湯沢字中塚 | |
| 148 | 小田Ⅰ | 散布地 | 土師器 | 古代 | 湯沢字小田 | 小田Ⅲ遺跡改め |
| 149 | 間渡Ⅱ | 散布地 | 土師器、須恵器 | 古代 | 湯沢字間渡 | |
| 150 | 間渡Ⅲ | 散布地 | 土師器、須恵器 | 古代 | 湯沢字間渡 | |
| 151 | 森子 | 散布地 | 土師器 | 古代 | 湯沢字森小 | |
| 152 | 小田Ⅱ | 散布地 | 土師器 | 平安 | 湯沢字小田 | 旧小田Ⅰ・Ⅱ遺跡統合 |
| 153 | 湯沢大館 | 散布地・城館跡 | 土師器、須恵器 | 古代~中世 | 湯沢字館 | 大館と館統合改め |
| 154 | 猪沢 | 散布地 | 土師器 | 古代 | 湯沢字猪沢 | |
| 155 | 盛岡城 | 城館跡 | 瓦、陶磁器、その他 | 中世・近世 | 内丸 | |



第5図 周辺の遺跡分布図

1:50,000 盛岡・日詰





第6図 調査区およびグリッド配置図

Ⅲ. 調査方法と整理方法

1. 野外調査

(1) グリッドの設定

おおよその調査範囲は東西約250m・南北約250mの範囲のなかにあり、各所に分散している。グリッドの設定にあたっては盛岡市教育委員会の方針に準じた。平面直角座標第X系を座標変換した調査座標で表示した。調査座標軸方向は第X系に準じており、今回の調査座標原点は $X = -35000.000$ 、 $Y = +25000.000$ である。50mの大グリッドは北西隅を基点に、東方向へはアルファベットの大きい文字でA～Y・南方向へは算用数字で1～25となり、これを組み合わせて1A、2B・・・25Yというように示される。更に50m四方の各大グリッドは北西隅を基点に、東方向へはアルファベットの小さい文字でa～y・南方向へは算用数字で1～25となり、これを組み合わせて1a、1b・・・25yというように2m四方の小グリッドとして示され、最少グリッドは1A2b区というように呼称される。また、平面図の作成にあたっては調査原点の $X = -35000.000$ 、 $Y = +25000.000$ を基点として $RY \pm 0 \cdot RX \pm 0$ と表現している。つまりこの調査原点を中心にして北方向へは $RX +$ ・南方向へは $RX -$ 、西方向へは $RY -$ ・東方向へは $RY +$ というように平面図上では表現している。

なお、調査区は現況の水田や畑地を単位としており、虫喰い状に分散しているため便宜上第6図に示したようにA～H調査区という設定を行った。粗掘り段階の遺物の採取にはこの調査区名を使用している。

(2) 粗掘り

本調査に先立ち盛岡市教育委員会により試掘調査が実施されており、今回の調査対象面積の約40%の部分について遺構・遺物の状況が調査されている。その結果、遺構の粗密や層序・遺物の出土状況がある程度把握されており、この結果を受けて本調査に着手した。層序が比較的単純でしかも水平であることや遺物が僅少であることなどから粗掘りには状況が許す限り重機を使用した。このなかでD地区については地形的にも遺構の存在の可能性が極めて薄いことから2m×10mのトレンチを4本設定し部分的な調査を行っているが、その他の調査区については全面調査を行っている。また、E地区についても全面調査を行ったが耕作土直下にすぐ礫層が露出しており遺構は確認されなかった。

(3) 遺構の命名

遺構の命名については盛岡市教育委員会の方法に準じており、下記のとおりに行った。各種遺構の遺構名は検出順に付されており、欠番となっているものについては調査進行の過程で遺構としての認定から除外したものである。

| | | |
|-------------|--------------|---------------------|
| 竪穴住居跡 RA01～ | 掘立柱建物跡 RB01～ | 土坑類（陥し穴状遺構含） RD001～ |
| 竪穴状遺構 RE01～ | 炉・焼土遺構 RF01～ | 溝跡 RG01～ |
| 集配石遺構 RH01～ | 井戸跡 RI01～ | その他 RZ01～ |

(4) 精査と実測

竪穴住居跡・竪穴状遺構は4分法で精査を実施し、遺構の平面図・断面図は20分の1の縮尺で実測を行った。一部竪穴住居跡のカマドについては10分の1の断面図を作成している。溝跡については任意に土層観察用のベルトを残し平面図は40分の1、断面図は20分1で実測を行っている。一部、溝跡の平面図については平板で測量を行っている。その他の遺構については2分法で精査を実施し、遺構の平面図・断面図は20分の1の縮尺で実測を行った。また、基本層序についてはローマ数字・遺構の埋土の層序については上位から順に算用数字を用いて表現することを原則とした。

(5) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、35mm判のモノクロ、カラー・リバーサル、6×7 cm判のモノクロを使用した。また、調査終了間近に空中写真の撮影を実施している。

2. 室内整理

(1) 作業内容

遺物の処理は水洗いとラベルの記入を行い、遺構ごと・種類ごとに仕分け・接合復元・実測・トレース・採拓・写真撮影の順に実施した。遺構図版は原図の点検・修正・合成の後、第2原図を作製し、トレース・図版作製の順に進めた。

(2) 挿図について

遺構図版の縮尺は竪穴住居跡・竪穴状遺構・掘立柱建物跡については平面図・断面図とも50分の1、溝跡は平面図が100分の1・断面図が50分の1を原則として掲載し、各図版の下にはスケールを付した。遺物図版は遺構内出土遺物と遺構外出土遺物に分けて掲載した。縮尺は土器類・石器類は3分の1、鉄製品類は2分の1、木製品類は6分の1、銭貨は原寸で掲載し図中にスケールを付した。写真図版の中で遺構写真の縮尺については不定である。遺物写真の縮尺についてはほぼ実測図版に準じている。遺物の実測図番号と遺物写真図版に付した番号は同一である。巻頭写真に掲げた陶磁器類の遺物番号は本文中・実測図中の番号と同一である。

(3) 遺物の掲載について

多くを掲載することに努めたが、実測不可能な細片については本文・遺物観察表中にその遺物の特徴を記載し、実測図は割愛し写真のみ掲載したものもある。

(4) 実測図版中の土器の調整方法等については凡例図に記した。

(5) 遺物観察表中の記号は次に記したものの略号である。

・HM…ヘラミガキ HK…ヘラケズリ HN…ヘラナデ H…ハケメ KHK…回転ヘラケズリ
THK…手持ちヘラケズリ TT…たたき目

・土器の色調は標準土色帳によった。

・遺物観察表中の分類の欄および本文中の遺物記載に使用されている分類記号はまとめの項の土器の分類によっている。特に平安時代の土器については以下のようになっている。

A類…酸化炎焼成内面黒色処理の坏類 B類…酸化炎焼成非内黒の坏類 C類…還元炎焼成の坏類

D類…酸化炎焼成の高台の付く坏類 E類…酸化炎焼成でロクロ成形の甕類

F類…酸化炎焼成で非ロクロ成形の甕類 G類…酸化炎焼成の埴・鉢類

・土器の胎土は主観的であるが以下のような分類に従った。

A…精選され良質できめの細かい胎土が使用されているものである。内面黒色処理の酸化炎焼成の坏や非黒色処理の酸化炎焼成の一部、還元炎焼成の土器などが該当する。

B…AとCの中間的なもので細礫・小礫をやや含むものである。

C…細礫や小礫を多量に含むもので非常に粗雑である。

・土器の焼成の度合いも主観的であるが以下のような分類に従った。

A…焼きしまりがよく比較的硬質なものである。

B…AとBの中間的なものである。

C…軟質で脆弱なものである。

IV. 検出された遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

RA01 竪穴住居跡

遺構（第7図、写真図版4）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Yグリッドの西端に位置する。RD002・RD006より古い。畑地の耕作土である第I層を除去した段階で検出した。遺構の上部はかなり耕作等により削平を受けている。

〈形状・規模〉 ほぼ隅丸正方形に近い形状である。主軸方向はほぼ東西で、東辺4.8m・西辺4.7m・南辺4.6m・北辺4.7m、床面積は11.4㎡である。

〈埋土〉 細礫を比較的多く含む黒褐色～暗褐色のシルト質土で構成されている。自然堆積と考えられる。

〈壁・床〉 砂礫層上部まで掘り込んで構築されており、約5cm±の厚さで黒褐色のシルト質土により全面が貼床されている。床面はほぼ水平である。壁は外傾気味に立ち上がっており、各壁中央部の壁高の残存値は東壁13cm・西壁19cm・南壁14cm・北壁15cmである。

〈柱穴〉 検出されなかった。

〈カマド〉 東壁の中央よりやや北に寄ったところに構築されている。上部が削平を受けていることや新期の土坑により攪乱を受けていることから構造については不明な部分が多い。煙道は東壁より約1.8m屋外に延びており、煙道の底面はほぼ水平である。削り貫き式か掘り込み式のいずれかは判断できなかった。燃烧部は床面より若干下がっており両袖部は土器片や垂円礫を芯材として他から持ち込んだシルト質粘土を巻いて構築している。

遺物（第41～43、写真図版65～66）

〈出土状況〉 カマド周辺を中心に出土している。西壁の中央部からやや北寄りの床面付近から鉄製品の痕跡が認められたが、非常に脆弱であるためとりあげはできなかった。図化できたものは酸化炎焼成内黒坏7点・酸化炎焼成非内黒坏3点・還元炎焼成坏2点、ロクロ成形甕3点・非ロクロ成形3点である。坏類で底部の切り離し技法が確認できたものは6点ですべて回転糸切り・無調整のものである。19はロクロ成形で内外面に丁寧なミガキ調整が施された小形の壺である。底部切り離し技法は回転糸切りで再調整は行われていない。甕はすべて酸化炎焼成で全体を還元できたものは少ないが、ロクロ成形甕は胴部上半から下には幅の広い工具によりケズリ調整が加えられている。非ロクロ成形甕では同様に外面にケズリ調整が加えられており、さらに内面にはナデ調整がなされている。

〈所属時期〉 平安時代である。

RA02 竪穴住居跡

遺構（第8図、写真図版5）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Yグリッドの西端でRA01の南東に位置する。遺構の上部はかなり削平を受けている。カマドは検出されておらず竪穴状遺構と認識されるが事実記載についてはこの項で述べる。

〈形状・規模〉 ほぼ隅丸正方形に近い形状である。東辺2.2m・西辺2.2m・南辺2.1m・北辺2.0m、床面積は5.4㎡である。

〈埋土〉 細礫を比較的多く含む黒褐色～暗褐色のシルト質土で構成されている。自然堆積と考えられる。

〈壁・床〉 砂礫層上部まで掘り込んで構築されており、床面は水平であるが礫による凹凸が見られる。壁は

外傾気味に立ち上がっており、各壁中央部の壁高の残存値は東壁15cm・西壁20cm・南壁19cm・北壁13cmである。

〈柱穴〉 検出されなかった。

〈カマド〉 設けられていない。

遺物（第43図、写真図版66）

〈出土状況〉 すべて埋土中からの出土である。図化できたものは酸化炎焼成内黒坏1点・酸化炎焼成非内黒坏1点で、底部の切り離し技法が確認できたものは1点で回転糸切り・無調整のものである。還元炎焼成の甕が出土している。22・23は同一個体である。

〈所属時期〉 平安時代である。

RA03 竪穴住居跡

遺構（第9図、写真図版6・7）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドの南東に位置する。住居跡の約半分は調査区外にのびている。

〈形状・規模〉 ほぼ隅丸正方形に近い形状と思われる。主軸方向はほぼ東西で、すべてが検出されている北辺から一辺4.2mの規模と思われる。床面積は推定で9.0㎡である。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土で構成されている。水平な堆積状況を示しており自然堆積と考えられる。

〈壁・床〉 砂礫層上部まで掘り込んで構築されている。約5cm±の暗褐色のシルト質土により全面が貼床されている。床面はほぼ水平である。壁は直立気味に立ち上がっており、各壁中央部の壁高の残存値は東壁33cm・西壁31cm・南壁66cm（表土より）・北壁37cmである。

〈柱穴〉 検出されなかった。

〈カマド〉 東壁の中央よりやや北に寄ったところに構築されており、刳り貫き式の構造をもつものである。煙道は東壁より約1.2m屋外に延びており煙道の底面は煙出し部分に向かってさがっている。燃烧部は床面より若干下がっており、両袖部は基本土層の第IV層を低く掘り残し、その上に土器片や亜円礫を芯材として他から持ち込んだシルト質粘土を巻いて構築している。検出面の煙出し部分に数個の礫が認められた。

〈その他〉 カマド焚口の1m手前付近の貼床下部に小規模であるが現地性の焼土が認められる。

遺物（第44～45図、写真図版66～67）

〈出土状況〉 埋土・カマド周辺および床面から出土している。41の鉄製品は北壁に接したような状態で、42の鉄製品は埋土上部から出土している。24・25は酸化炎焼成内黒坏、27～33は酸化炎焼成非内黒坏、34は還元焼成の坏である。すべて底部切り離し技法は回転糸切り無調整である。35～37はロクロ成形、38は非ロクロ成形の甕である。39は外面ヘラミガキと黒色処理が施された酸化炎焼成の壺形土器である。底部は上げ底で凹線状となっている。還元炎焼成の壺を模倣した作りである。40はロクロ成形の埴である。

RA04 竪穴住居跡

遺構（第10図、写真図版7・8）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Yグリッドの西側に位置する。住居跡の北側約半分ほどを後世の攪乱により破壊されている。遺構の大部分は削平を受けており、カマドの燃烧部付近に相当すると思われる部分から痕跡的に現地性焼土が検出されたため住居跡と認定した。

〈形状・規模〉 ほぼ隅丸正方形に近い形状と思われる。主軸方向はほぼ北西－南東方向で、すべてが検出されている南西辺から一辺が約2.4mの規模と推定される。床面積は推定で5.1㎡である。

〈埋土〉 黒色のシルト質土で構成されている。

〈壁・床〉 砂礫層上部まで掘り込んで構築されている。各壁中央部の壁高の残存値は北西壁5cm・南西壁5cm・南東壁2cmである。

〈柱穴〉 検出されなかった。

〈カマド〉 北西壁の中央よりやや南に寄ったところに構築されている。煙道は北西壁より約1.3m屋外に延びており煙道の底面は水平である。煙道の構築方法については不明である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 平安時代である。

RA05 竪穴住居跡

遺構（第11図、写真図版9・10）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドのほぼ中央部分に位置する。数メートル南にはRA06住居跡が位置している。耕作土除去後第IV層を検出面としている。

〈形状・規模〉 ほぼ隅丸正方形に近い形状である。主軸方向はほぼ東西方向で、東辺4.0m・西辺4.0m・南辺4.1m・北辺4.4m、床面積は11.4㎡である。

〈埋土〉 4層で構成されており、壁際の最下部に壁の崩落土と思われる褐色土が堆積している。全体に黒褐色～暗褐色のシルト質土であり埋土の下部は自然堆積、黄褐色シルトが粒状・ブロック状に入り込んでいる埋土上部は人為的に形成された層と考えられる。

〈壁・床〉 この周辺に厚く分布する第IV層を掘り込んで構築している。床面はほぼ水平で中央付近はよく踏み締められている。これに対し壁際部分の四周は中央部に比べ軟らかくなっている。壁は外傾気味に立ち上がっており、各壁中央部の壁高の残存値は東壁44cm・西壁41cm・南壁41cm・北壁41cmである。

〈柱穴〉 やや不規則であるがP1・P2・P3・P5が主柱穴を構成すると思われる。

〈カマド〉 東壁の中央よりやや北に寄ったところに構築されている。削り貫き式の煙道で東壁より約1.2m屋外に延びており、煙道の底面はほぼ水平で煙出し部分でやや下がっている。燃焼部は床面より若干下がっており両袖部は土器片や壺円礫を芯材として他から持ち込んだシルト質粘土を巻いて構築している。長い扁平な礫を袖部に懸け渡して天井部を構成し、菊の紋状に長めの壺円礫を配置して掛け口を作りだしている。燃焼部には人頭大の壺円礫に扁平な礫を載せ、さらにその上に坏形土器を2個伏せて支脚としている。

〈付属施設〉 カマドの右袖部の右側には貯蔵穴状の小土坑が設置されている（P5）。この小土坑は開口部分が周囲より若干高くなっており黄褐色土を土手状に掘り残して造作している。内部から小形の甕が出土している。カマドと反対側の西壁のほぼ中央部に出入口に相当すると考えられる深さ12cmの屋外に張り出した半月状の掘り込みが見られる。この掘り込み部分と西壁付近の床面とは約28cmの落差がある。

〈その他〉 床面の中央付近には現地性焼土、床面直上に炭化物・炭化材の分布が認められることから焼失を受けた住居と思われる。

遺物（第46～48図、写真図版67～68）

〈出土状況〉 カマド周辺を中心に出土している。43・44は酸化炎焼成内黒坏、45～56は酸化炎焼成非内黒坏

である。このなかで46・49はカマドの支脚に利用されていたものである。底部が確認できたものは全て回転糸切り無調整である。57～67は酸化炎焼成の甕である。明らかにロクロ成形されているものは57～63、64～67は非ロクロ成形と思われる。66の底部は砂底である。66は甕としてあるが鉢・埴の可能性も考えられる。外面に叩きの痕跡を残す例、体部の下半に幅の広いケズリ様のナデが施される例が多い。68は還元炎焼成の壺、69は大甕である。69の多くはこの住居跡のカマド付近から出土しているが、一部隣接するRA06のものと接合している。

〈所属時期〉 平安時代である。

RA06 竪穴住居跡

遺構（第12図、写真図版11・12）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドのほぼ中央部分に位置する。RA05と隣接している。西壁でRD075陥し穴と重複しており住居跡が新しい。耕作土除去後第IV層を検出面としている。

〈形状・規模〉 隅丸正方形が歪んだ形状をしている。主軸方向はほぼ東西方向で、東辺5.9m・西辺5.4m・南辺6.3m・北辺6.0m、床面積は29.4㎡である。

〈埋土〉 壁際の最下部に壁の崩落土と思われる褐色土が堆積している。全体に黒褐色～暗褐色のシルト質土であり埋土の下部は自然堆積、黄褐色シルトが粒状・ブロック状に入り込んでいる埋土上部は人為的に形成された層と考えられる。カマドの左袖付近には土器片や焼土・炭化物・灰白色粘土などが見られ、人為的に投棄された土と思われる。

〈壁・床〉 この周辺に厚く分布する第IV層を掘り込んで構築している。床面はほぼ水平で中央付近はよく踏み締められている。これに対し壁際部分の四周は中央部に比べ軟らかくなっている。厚さ5cm±の暗褐色系のシルト質土で貼床がなされている。壁は外傾気味に立ち上がっており、各壁中央部の壁高の残存値は東壁40cm・西壁36cm・南壁25cm・北壁41cmである。南西側の壁高が低いのは調査の不手際のためである。

〈柱穴〉 屋内に12個検出している。このなかで主柱穴と思われるものはP1・P3・P4・P5と考えられる。屋外に煙出しを挟むように左右に各2個ずつの柱穴が見られる（P13～P16）。これらはこの住居跡に伴うと思われるものである。埋土はRA06住居跡に類似しており上部に黄褐色土を斑状に含む黒褐色土が主体の土である。

〈カマド〉 東壁の中央よりやや北に寄ったところに構築されている。削り貫き式の煙道で東壁より約2.0m屋外に延びており、煙道の底面は煙出し部分に向かって緩やかに傾斜している。燃焼部は床面より若干下がっており、両袖部は土器片や垂円礫を芯材として他から持ち込んだシルト質粘土を巻いて構築している。

〈付属施設〉 カマドの右袖部の右側には貯蔵穴状の小土坑が設置されている。この小土坑は開口部分が周囲より約5cmほど高くなっており黄褐色土を土手状に掘り残して造作している。またこの土坑の底面にも小ピットが認められ柱穴とは別の機能が考えられる。内部から略完形の坏や甕の破片が多数が出土している。カマドと反対側の西壁のほぼ中央部に出入口に相当すると考えられる深さ20cmの屋外に張り出した半月状の掘り込みが見られる。この掘り込み部分と西壁付近の床面とは約16cmの落差がある。煙道の両側に2口ずつ見られる柱穴は、埋土の観察で黒褐色系のシルト質土に霜降り状に黄褐色土を含む状況が見られ当住居跡の埋土と類似しているためこの住居に伴うものと考えた。

〈その他〉 床面の中央付近には現地性焼土、床面直上に炭化物・炭化材の分布が認められることから焼失を受けた住居と思われる。東壁に接して見られるP11・P12は汚れた黄褐色土の下部から検出されているこ

とや住居の平面形がいびつなことなどから建て替えの可能性が考えられる。

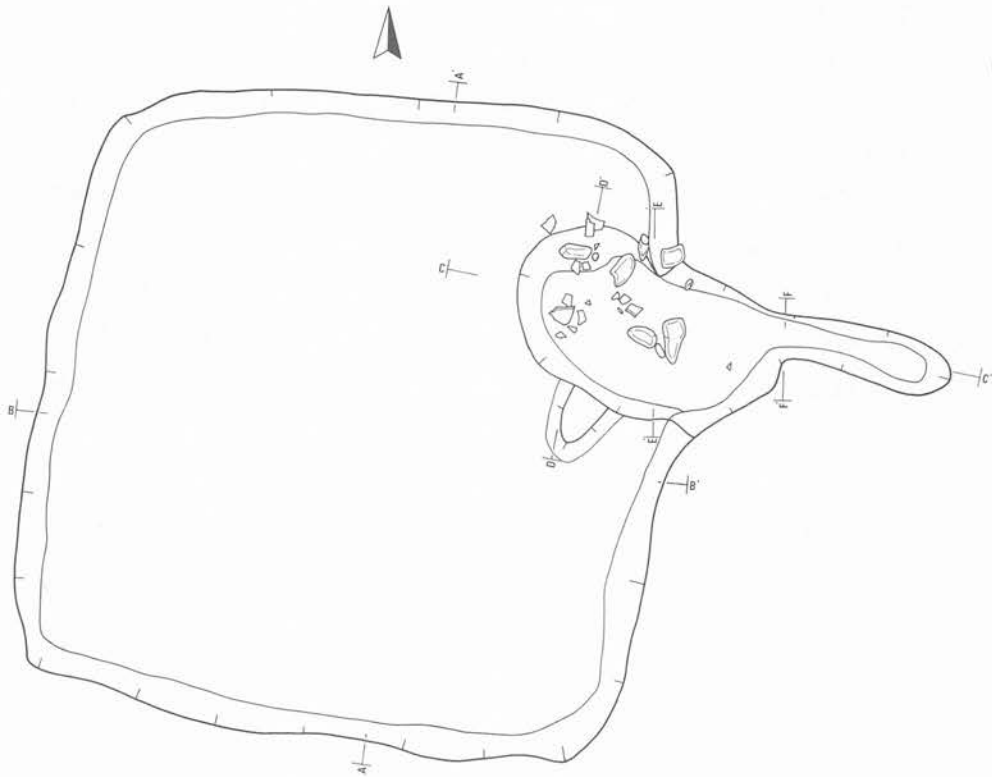
遺物（第47～57図、写真図版68～83）

〈出土状況〉埋土およびカマド周辺、カマドの右袖脇の貯蔵穴から大量の土器が出土している。図化したなかでは、坏A類が26点（70～95）・同B類43点（96～38）・同C類（139～142）が4点出土している。甕類はロクロ成形のもの10点（143～151・153）、非ロクロ成形（152）のもの1点、不明7点である。155はヘラミガキ・黒色処理の施された鉢である。これらの鉢・甕類のなかで155・157～160・164の底部に意図的な砂の付着が認められた。161～163は埴である。3点ともロクロ成形である。163は底部外端に脚状の痕跡が認められるが詳細は不明である。161の埴は口縁部の一部に歪みが認められ片口状のものと思われる。165は還元炎焼成の長頸壺の頸部で叩きの痕跡が認められる。24～26は鉄製品で25は刀子で木質部は残存していないが基部から先端まで残存している。24・26は手鎌と思われる。流れ込みと思われが煙出しの埋土上部から肥前産の染付碗（313）と陶器片（312）が出土している。

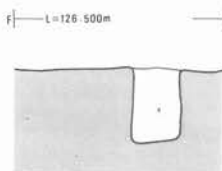
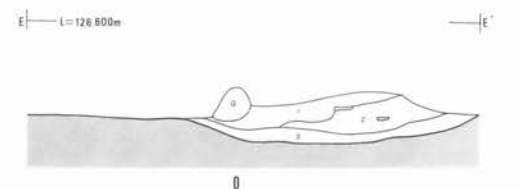
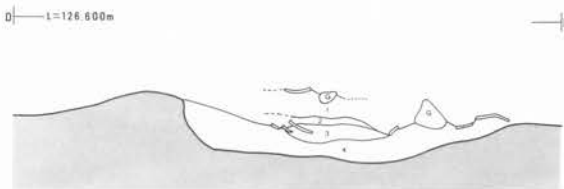
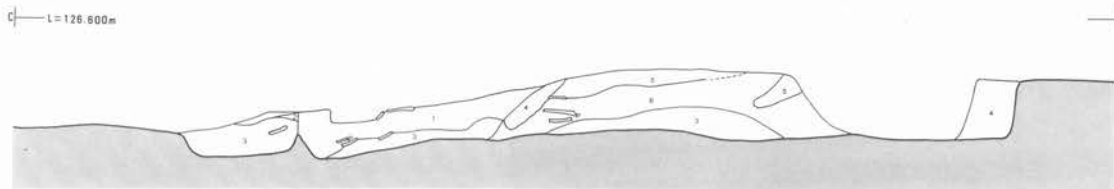
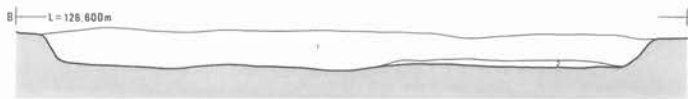
〈所属時期〉平安時代である。

R Y - 49
R X + 78

R Y - 42
R X + 78



- 1. 10Y R2/3 黒褐色 シルト 頭大~拳大の礫を含む
- 2. 10Y R3/3 暗褐色 シルト しまりあり粘性なし



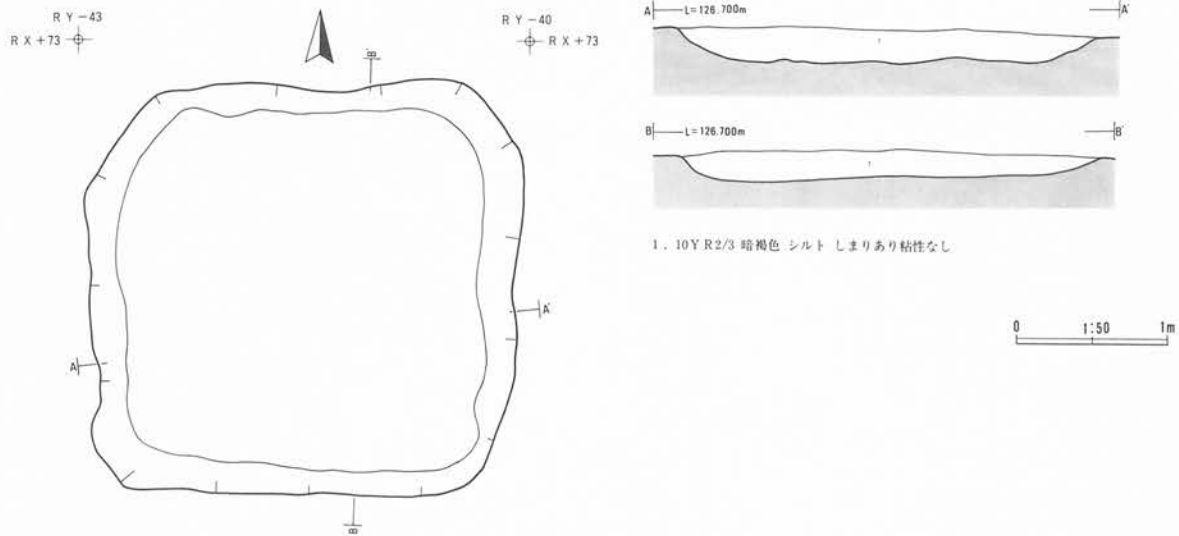
- カマド断面C-C'
- 1. 7.5Y R3/1 黒褐色 シルト 焼土に黒色土が混じる
 - 2. 7.5Y R4/6 黒褐色 シルト 粘性ややあり
 - 3. 7.5Y R3/4 暗褐色 シルト 小石混じり
 - 4. 10Y R3/1 黒褐色 シルト 粘性ややあり小石混じる
 - 5. 10Y R2/3 黒褐色 シルト 小石混じる
 - 6. 7.5Y R3/2 黒褐色 シルト 粘性ややあり土器片含む

- カマド断面D-D'
- 1. 10Y R2/2 黒褐色 シルト 小石混じる
 - 2. 7.5Y R3/1 黒褐色 シルト 焼土に黒色土が混じる
 - 3. 7.5Y R4/6 褐色 シルト 粘性ややあり
 - 4. 7.5Y R3/4 暗褐色 シルト 小石混じる

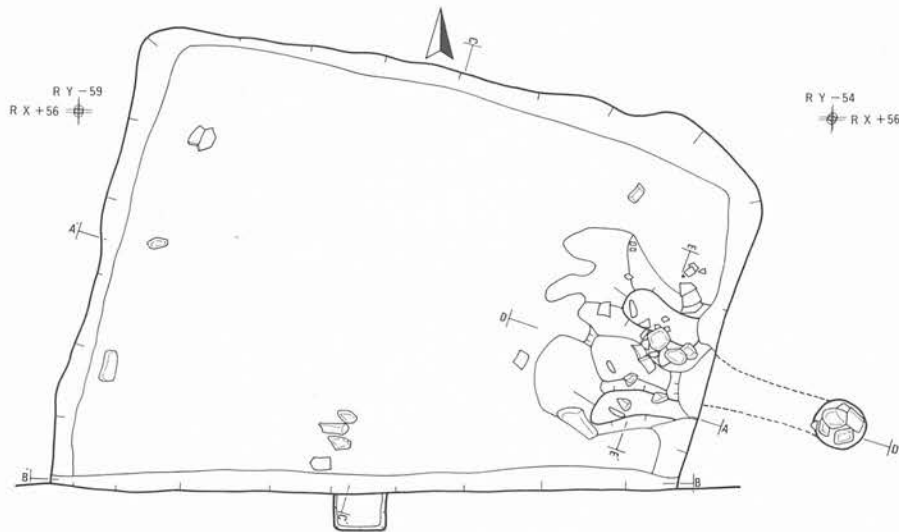
- カマド断面E-E'
- 1. 7.5Y R4/3 褐色 シルト 粘性ややあり
 - 2. 7.5Y R3/1 黒褐色 シルト 焼土に黒色土が混じる
 - 3. 7.5Y R3/4 褐色 シルト 小石混じる

- カマド断面F-F' (煙出し部分)
- 1. 10Y R2/2 黒褐色 シルト 粘性しまりなし

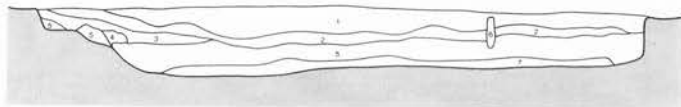
第7図 RA01



第 8 図 RA02

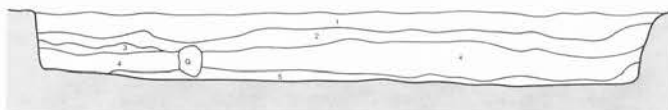


A—L=127.000m



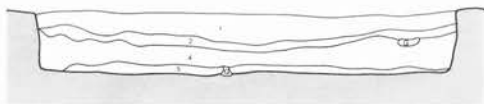
1. 10Y R3/3 暗褐色 シルト しまりあり粘性なし、砂少量含む
2. 10Y R2/2 黒褐色 シルト しまりあり粘性ややあり
3. 10Y R3/3 暗褐色 シルト しまりあり粘性ややあり
4. 10Y R4/4 褐色 シルト しまりあり粘性ややあり粘土少量含む
5. 10Y R2/3 黒褐色 シルト しまりあり粘性ややあり
6. 10Y R2/3 黒褐色 シルト 植痕
7. 10Y R3/3 暗褐色 シルト しまりあり粘性なし砂多く含む

B—L=127.000m



1. 10Y R3/4 暗褐色 シルト しまりややあり粘性なし、砂少量含む
2. 10Y R2/2 黒褐色 シルト しまりあり粘性なし
3. 10Y R3/3 暗褐色 シルト しまりあり粘性なし
4. 10Y R2/3 黒褐色 シルト しまりあり粘性ややあり
5. 10Y R3/3 暗褐色 シルト しまりあり粘性ややあり

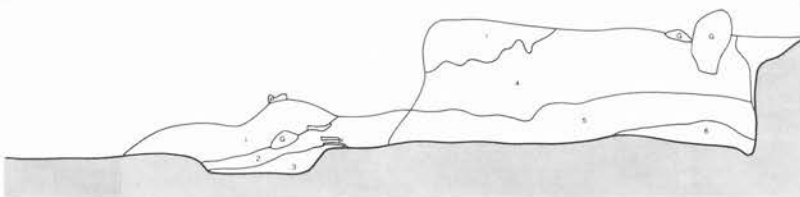
C—L=127.000m



1. 10Y R2/3 黒褐色 シルト しまりあり粘性なし
2. 10Y R2/2 黒褐色 シルト しまりあり粘性やや
3. 10Y R2/3 黒褐色 シルト しまりあり粘性やや
4. 10Y R3/3 暗褐色 シルト しまりあり粘性ややあり砂を含む
5. 10Y R4/6 褐色 砂 粘性しまりなし

0 1:50 1m

D—L=127.000m



1. 10Y R2/3 黒褐色 シルト しまり粘性なし植痕あり
2. 10Y R3/3 暗褐色 シルト しまり粘性なし植痕あり
3. 10Y R4/6 褐色 シルト 全体に焼土・焼けた砂を含む植痕あり
4. 10Y R3/2 黒褐色 シルト 粘性・しまりなし
5. 10Y R2/2 黒褐色 シルト しまり粘性なし植物あり
6. 10Y R3/2 黒褐色 シルト 粘性しまりなし、植痕あり

E—L=127.000m

E' E'—L=127.000m

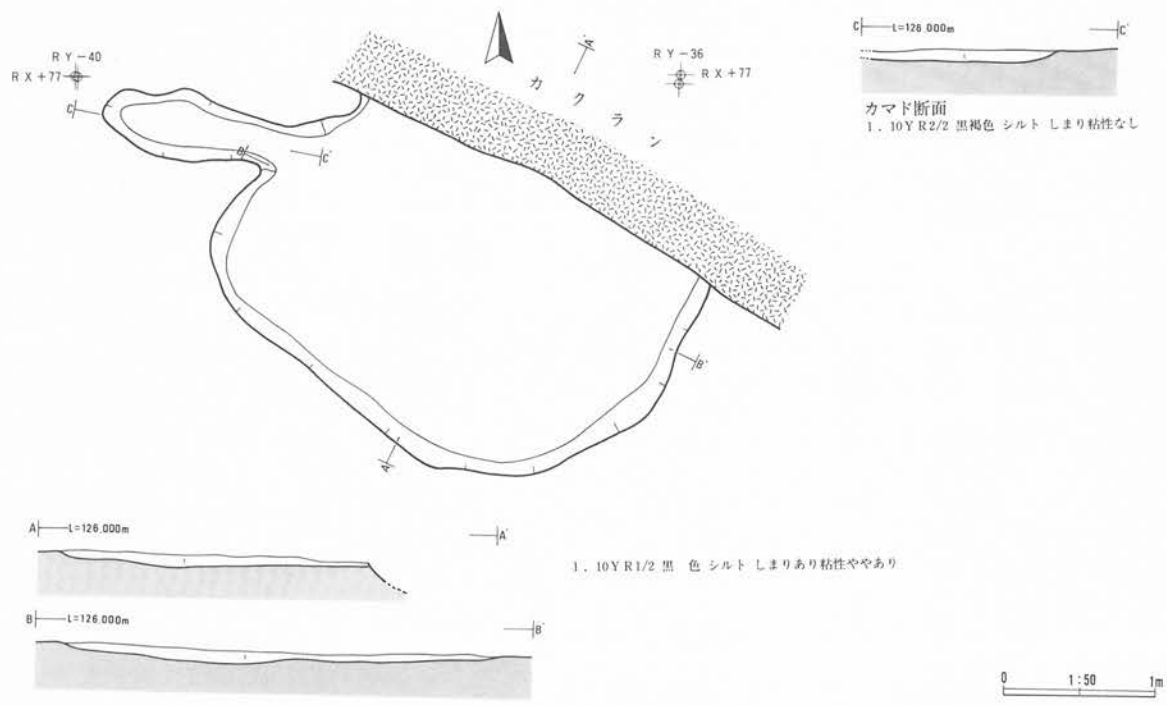
E—L=127.000m



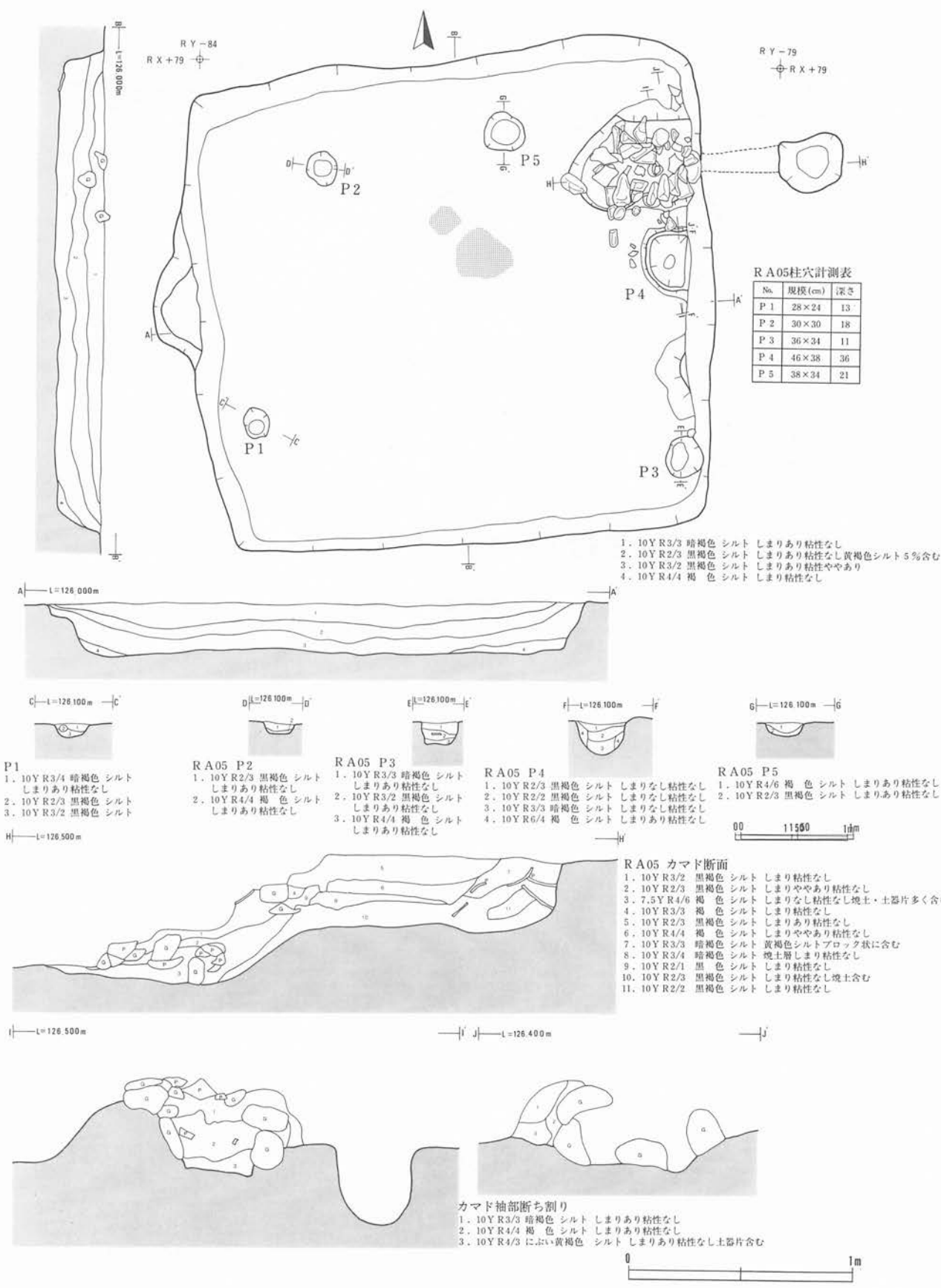
0 1m

- カマド袖部断ち割り
1. 10Y R4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 非常に細かい炭化物含む
 2. 砂

第9図 RA03



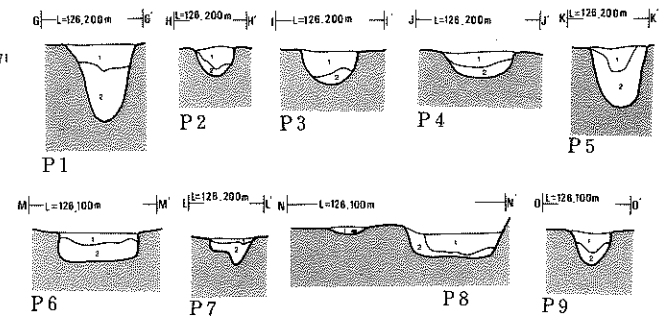
第10図 RA04



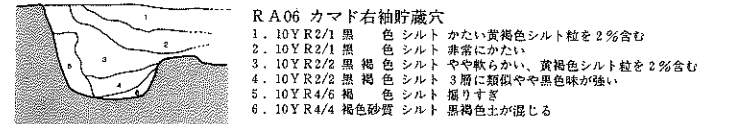
第11図 RA05

RY-88
RX+71

RY-78
RX+71



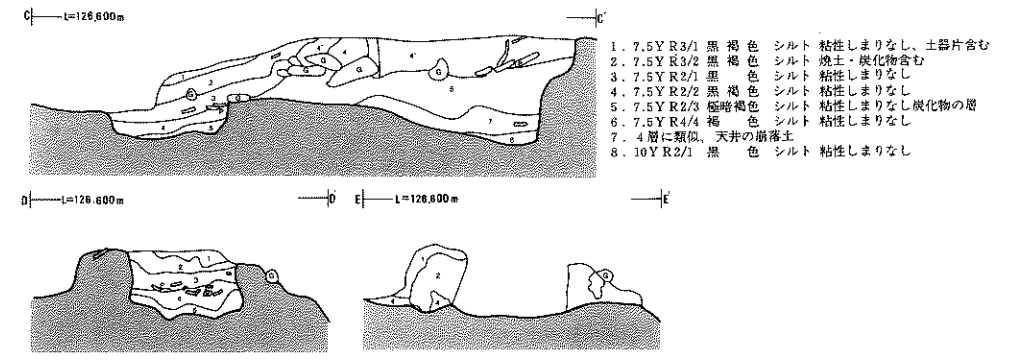
- P1**
- 10Y R2/2 黒色シルト しまりあり粘性なし砂含む
 - 10Y R3/4 暗褐色シルト しまりなし粘性なし細礫含む
- P2**
- 10Y R3/1 暗褐色シルト しまりあり粘性なし
 - 10Y R3/4 黒褐色シルト しまりあり粘性なし
- P3**
- 10Y R2/2 黒褐色シルト しまりあり粘性ややあり黄褐色シルト含む
 - 10Y R4/6 黒褐色シルト しまりあり粘性なし
- P4**
- 10Y R3/1 黒褐色シルト しまりなし粘性あり
 - 10Y R3/4 暗褐色シルト しまりなし粘性ややあり
- P5**
- 10Y R2/2 黒褐色シルト しまりあり粘性ややあり
 - 10Y R4/3 黄褐色シルト しまりあり粘性ややあり
- P6**
- 10Y R2/1 黒色シルト しまりあり粘性ややあり
 - 10Y R3/2 黒褐色シルト しまりなし粘性あり



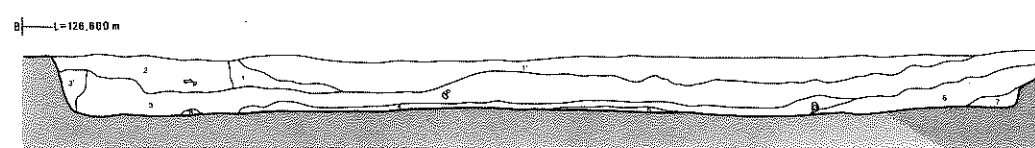
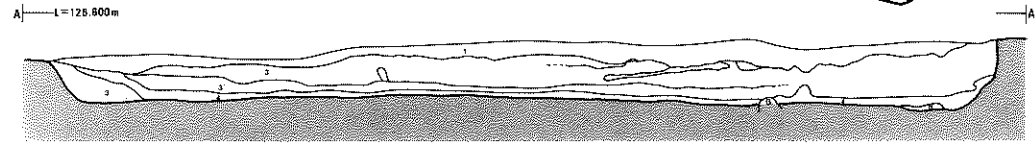
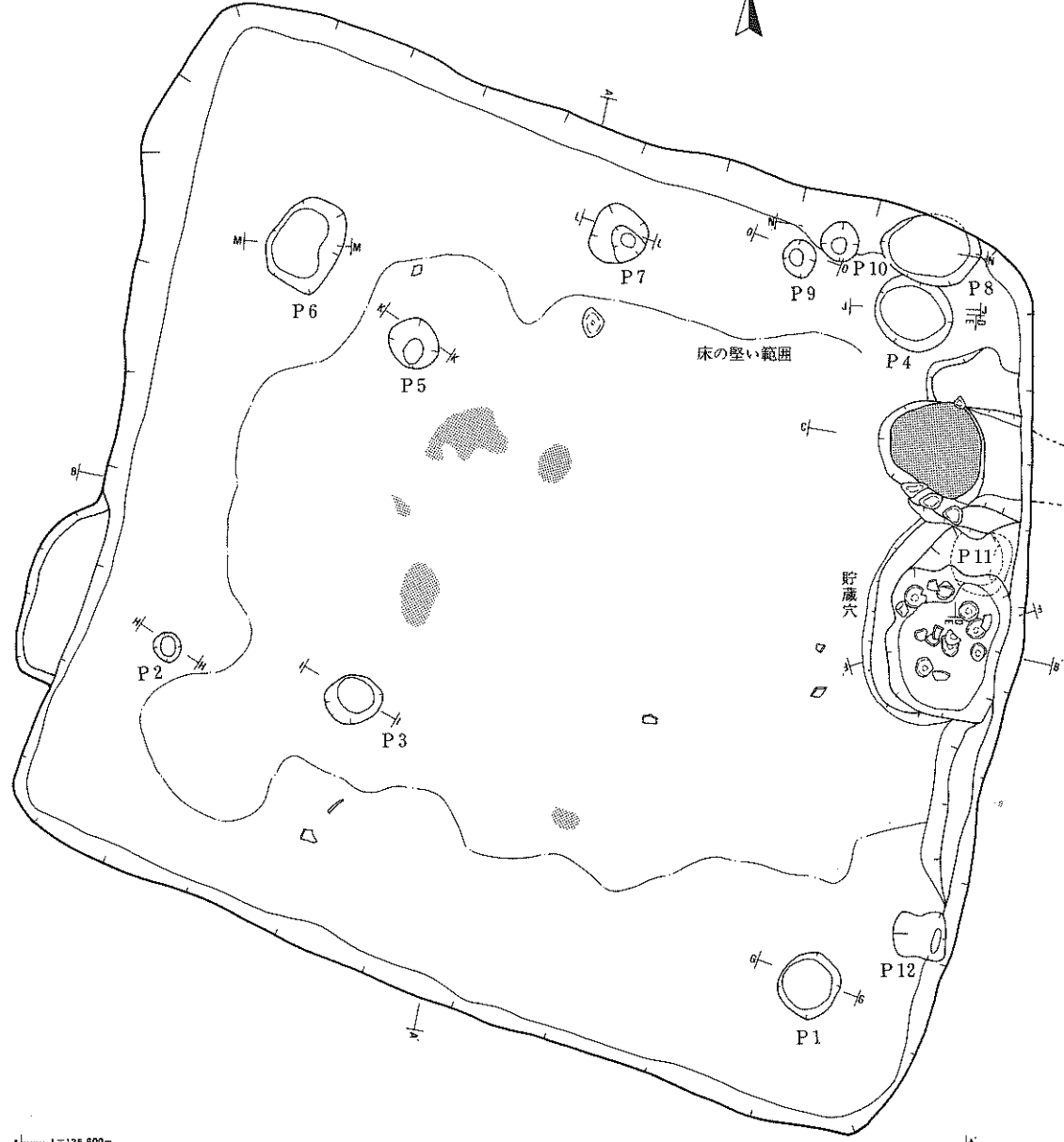
P A06柱穴計測表

| No. | 規模 (cm) | 深さ |
|-----|---------|----|
| P1 | 16×46 | 23 |
| P2 | 22×22 | 19 |
| P3 | 44×34 | 50 |
| P4 | 56×50 | 25 |
| P5 | 38×34 | 40 |
| P6 | 66×50 | 26 |
| P7 | 44×42 | 21 |
| P8 | 68×50 | 23 |

| | | |
|-----|-------|----|
| P9 | 28×26 | 23 |
| P10 | 28×26 | 9 |
| P11 | 46×42 | 34 |
| P12 | 36×36 | 38 |
| P13 | 46×44 | 42 |
| P14 | 30×28 | 25 |
| P15 | 52×40 | 49 |
| P16 | 36×34 | 24 |



- カマド袖部断ち割り**
- 10Y R3/3 暗褐色シルト しまりあり粘性なし土器片・炭化物多く含む
 - 10Y R4/3 黄褐色シルト しまりあり粘性なし土器片・焼土多く含む
 - 10Y R3/3 暗褐色シルト しまりややあり粘性なし黄褐色砂質シルト含む
 - 10Y R5/6 黄褐色砂質シルト しまりあり粘性なし



- 10Y R4/6 褐色砂質シルト 黄褐色土を斑状に含む
- 10Y R2/3 黒褐色シルト にかたいがしまりがなく間隙比大
- 10Y R2/3 黒褐色シルト 粘性なくかたい、黄褐色シルト2%含む、非常にかたい
- 10Y R2/3 黒褐色シルト 2層に類似黄褐色土5%含む
- 10Y R2/3 黒褐色シルト 3層に類似やや黒色味が強い
- 10Y R2/2 黒褐色シルト 粘性なくかたい、非常にかたい
- 10Y R2/3 黒褐色シルト 粘性なくかたく緻密、炭化物・焼土少量含む
- 10Y R2/3 黒褐色シルト φ2~10mmの黄褐色シルトを7~10%含む
- 10Y R2/3 黒褐色シルト 6層に類似より黄褐色土が卓越する
- 10Y R4/6 褐色砂質シルト ブロック状に入る

0 1:50 1m

第12図 RA06

2. 掘立柱建物跡

RB01 掘立柱状建物跡

遺構（第13図、写真図版13）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24 Xグリッドの南西側に位置している。IV層面が検出面である。RE01より新しい。

〈形状・規模〉 平面形は長方形である。桁行3間・梁行1間の規模である。桁行の軸方向はN13°Wである。構成柱穴の規模はP1（54cm×32cm・深さ50cm）・P2（36cm×32cm・深さ57cm）・P3（34cm×34cm・深さ44cm）・P4（54cm×38cm・深さ46cm）・P5（32cm×32cm・深さ42cm）・P6（34cm×34cm・深さ35cm）・P7（34cm×28cm・深さ32cm）P8（28cm×28cm・深さ32cm）である。柱間寸法は桁行P1-P2は245cm・P2-P3は245cm・P3-P4は248cm・P5-P6は235cm・P6-P7は255cm・P7-P8は248cm、梁行P1-P8は375cm・P4-P5は385cmである。

〈埋土〉 しまりのない黄褐色土がやや混じる黒褐色～暗褐色のシルト質土である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RB02 掘立柱状建物跡

C調査区2 Xグリッドの北西側に位置している。IV層面が検出面である。多数の柱穴が検出されおりこのなかで2棟のほぼ南北に桁行のある掘立柱建物跡が確認された。ほぼ同位置での立て替えで少なくとも2時期の変遷が考えられる。南側には更に延びるものと思われるが、今回の調査で得られた知見で事実記載を行う。古い方をRD02-1、新しい方をRD02-2として記述を行う。またこの掘立柱建物跡の北側に位置するRD098・RD099土坑、RE11・RE12竪穴状遺構はこれらの母屋に付随する屋外施設の可能性がある。

RB02-1掘立柱建物跡

遺構（第14図、写真図版13）

〈重複関係〉 RD02-2掘立柱建物跡より古い。

〈平面形式〉 掘立柱建物跡である。桁行4間+α間、梁行5間の直屋と思われる。間取りは上手に2間×2間と3間×3間の部屋が作られている。

〈建物方位〉 桁行の軸方向はN10°Eである。

〈埋土〉 掘り方はしまりのない黒褐色のシルト質土である。柱痕跡の認められるものもあり、P8では杭状の部材が残存していた（第72図556）。

〈柱穴〉 各柱穴の規模は観察表に記した通りである。

〈柱間寸法〉 実測図にメートル法で示した。

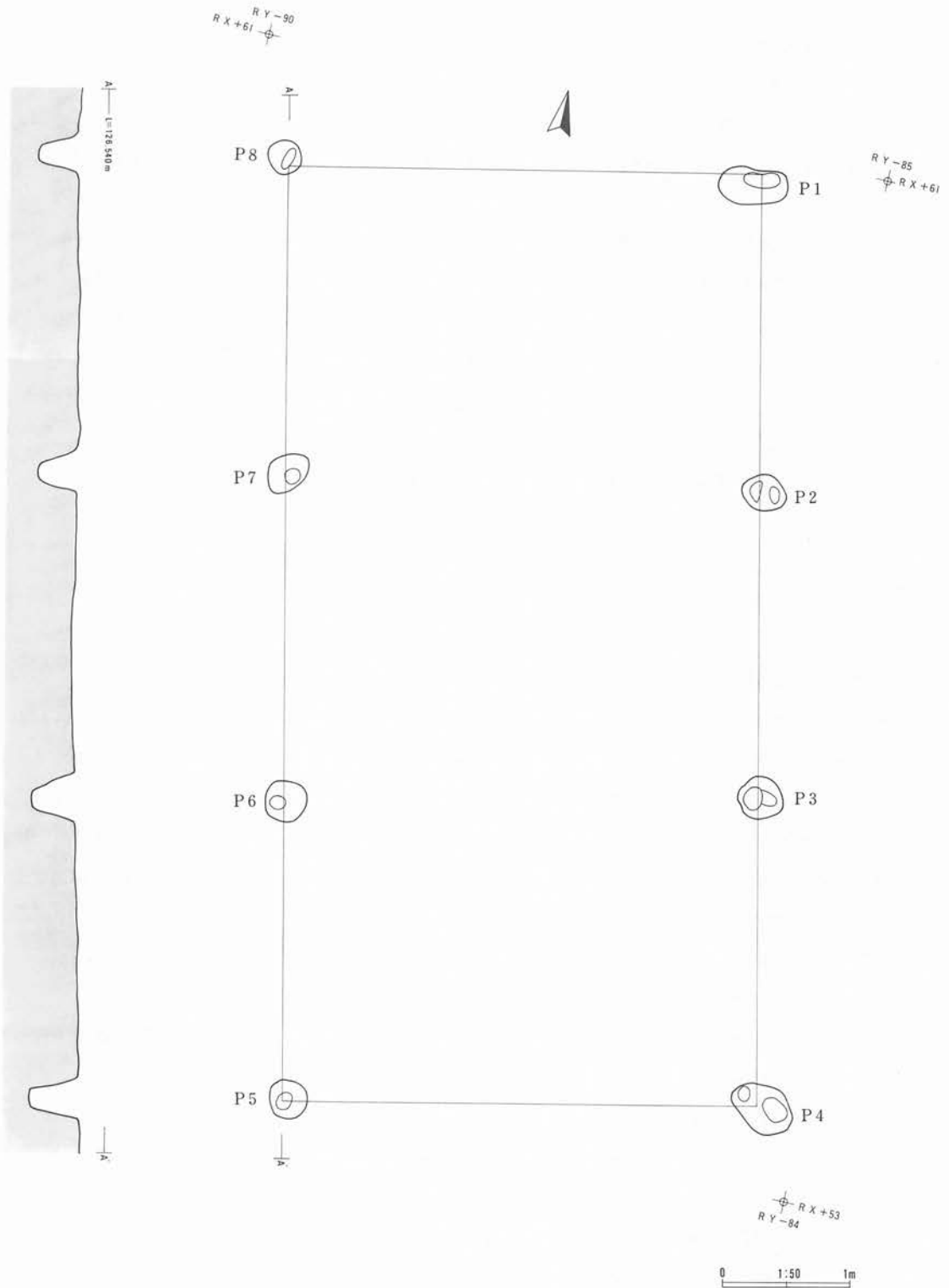
RB02-2 掘立柱建物跡

遺構（第14図、写真図版13）

〈重複関係〉 RB02-1掘立柱建物跡より新しい。

〈平面形式〉 掘立柱建物跡である。桁行2間+α間、梁行2間の直屋と思われる。東側に下屋がついている。間取りは上手に1間×1間の部屋が2部屋作られている。

〈建物方位〉 桁行の軸方向はN12°Eである。



RB03柱穴観察表

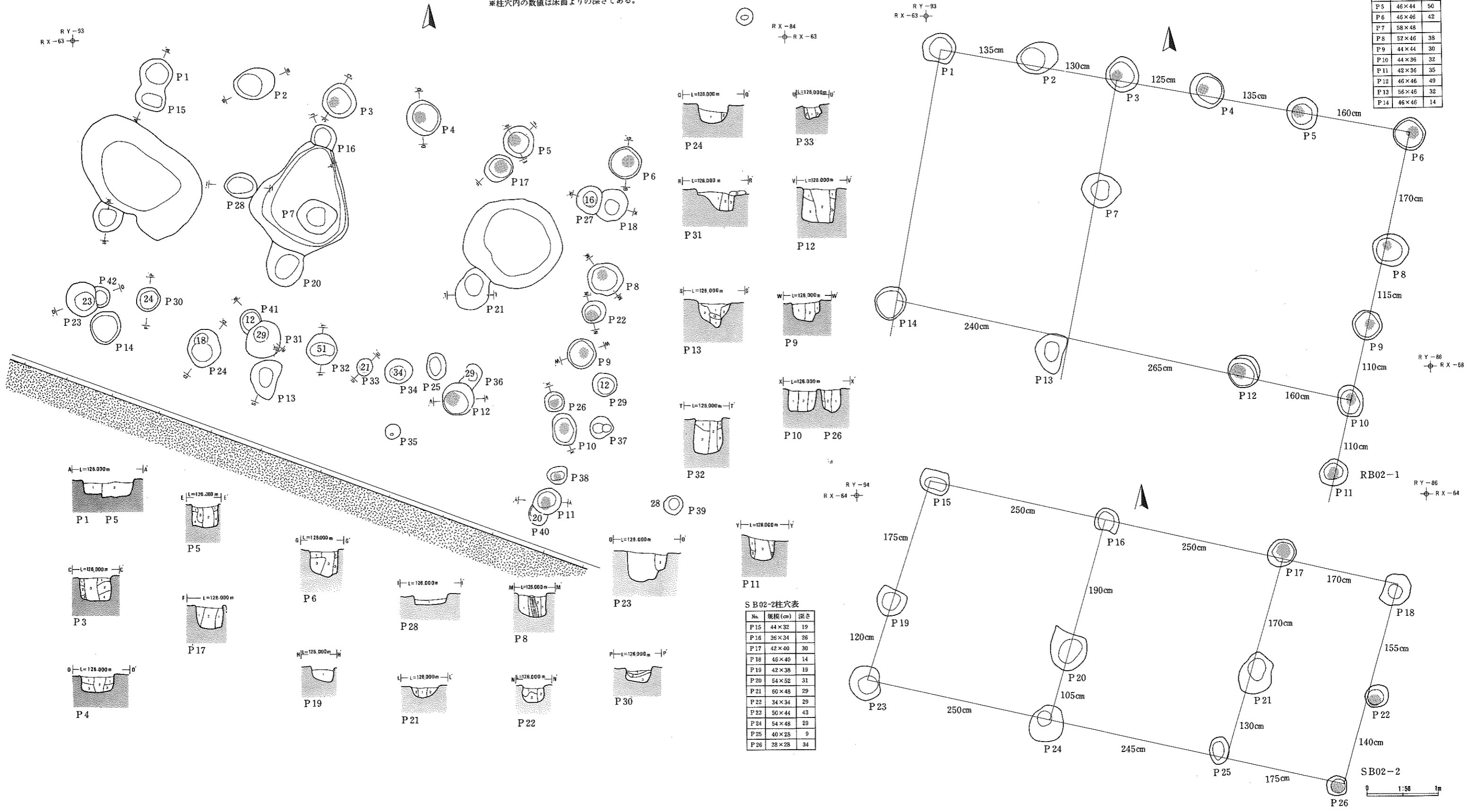
| No | 規模 (cm) | 深さ | 色調・土性 | |
|----|---------|----|----------------|------------------------|
| P1 | 54×32 | 54 | 10YR2/2 黒褐色シルト | 掘り方に黄褐色土10%含む、柱状跡φ10cm |
| P2 | 36×32 | 57 | 10YR2/2 黒褐色シルト | 黄褐色土10%斑状に含む |
| P3 | 34×34 | 44 | 10YR2/2 黒褐色シルト | 黄褐色土7%含む、下部はしまりなし |
| P4 | 54×38 | 46 | 10YR2/2 黒褐色シルト | 掘り方に黄褐色土10%、底面に酸化鉄集積 |
| P5 | 32×32 | 42 | 10YR2/3 黒褐色シルト | 黄褐色土5%含む |
| P6 | 34×34 | 35 | 10YR2/3 黒褐色シルト | 黄褐色土5%斑状に含む |
| P7 | 34×28 | 32 | 10YR2/2 黒褐色シルト | 黄褐色土2%散在 |
| P8 | 28×28 | 32 | 10YR2/2 黒褐色シルト | 黄褐色土2%散在 |

第13図 RB03

R B02-1柱穴表

| No. | 規模 (cm) | 深さ |
|-----|---------|----|
| P1 | 46×42 | 27 |
| P2 | 60×44 | 16 |
| P3 | 50×48 | 32 |
| P4 | 50×50 | 26 |
| P5 | 46×44 | 50 |
| P6 | 46×46 | 42 |
| P7 | 58×48 | 35 |
| P8 | 52×46 | 35 |
| P9 | 44×44 | 30 |
| P10 | 44×36 | 32 |
| P11 | 42×36 | 35 |
| P12 | 46×46 | 49 |
| P13 | 56×46 | 32 |
| P14 | 46×46 | 14 |

※柱穴内の数値は床面よりの深さである。



S B02-2柱穴表

| No. | 規模 (cm) | 深さ |
|-----|---------|----|
| P15 | 44×32 | 19 |
| P16 | 36×34 | 26 |
| P17 | 42×40 | 30 |
| P18 | 46×40 | 14 |
| P19 | 42×38 | 19 |
| P20 | 54×52 | 31 |
| P21 | 60×48 | 29 |
| P22 | 34×34 | 29 |
| P23 | 50×44 | 43 |
| P24 | 54×48 | 29 |
| P25 | 40×28 | 9 |
| P26 | 28×28 | 34 |

第14図 RB02

〈埋土〉RB02-1と同様に掘り方はしまりのない黒褐色のシルト質土で柱痕跡の認められるものもある。

〈柱穴〉各柱穴の規模は観察表に記した通りである。

〈柱間寸法〉実測図にメートル法で示した。

遺物

〈出土状況〉この遺構が位置するC地区周辺から近世の陶磁器類が多数出土している。

〈所属時期〉近世と考えられる。

RB03 掘立柱状建物跡

遺構（第15図、写真図版14）

〈検出状況・重複関係〉F調査区1 Uグリッドに位置している。II層面を掘り込み面としている。この周辺ではII層の褐色砂質シルトは30cm～50cm±の層厚がある。一部は調査区外に延びており全容については明かでないが掘立柱建物跡を構成する柱穴を6個検出した。

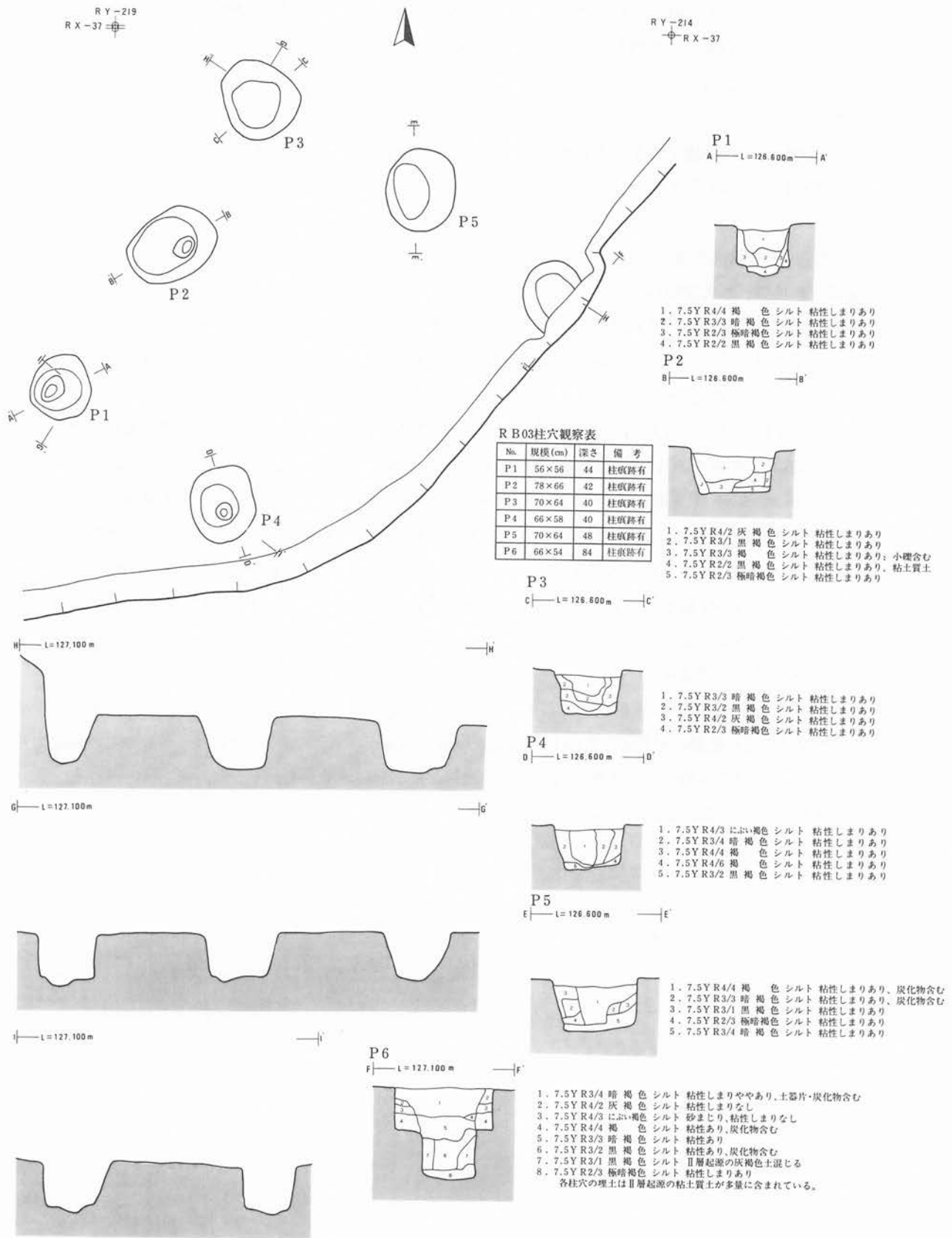
〈形状・規模〉北西-南東方向に長く平面形は長方形である。桁行2間+α・梁行2間の規模である。桁行の軸方向はN59°Wである。構成柱穴の規模はP1（56cm×56cm・深さ44cm）・P2（78cm×66cm・深さ42cm）・P3（70cm×64cm・深さ40cm）・P4（66cm×58cm・深さ40cm）・P5（70cm×64cm・深さ48cm）・P6（66cm×54cm・深さ80cm）である。P6の深さはII層上面より、P1～P5はIII層面からの深さである。柱間寸法は桁行P3-P5は160cm・P5-P6は160cm・P1-P4は182cm、梁行P1-P2は180cm・P2-P3は160cmである。

〈埋土〉材の残存は見られなかったが柱痕跡部分は暗褐色土、掘り方部分はII層起源の褐色系の砂質分のある粘土質シルトである。

遺物（第58図、写真図版71）

〈出土状況〉柱穴内から平安時代の土器が出土している。図化できたものは8点（169～176）の坏類である。176をのぞき他は底部回転糸切り無調整の酸化炎焼成非内黒の坏B類である。176は小破片からの図化で法量に問題が残るが内外面ヘラミガキ・黒色処理の施された小形の坏である。

〈所属時期〉平安時代と思われる。



第15図 R B03

3. 土坑類

RD001 土坑

遺構（第16図、写真図版15）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Yグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は略円形、138cm×136cm・深さ31cmの規模である。中央部に64cm×56cm深さ12cmの円形の落ち込みがある。

〈埋土〉 小石混じりの黒～黒褐色のシルト質土で構成されている。人為堆積である。

〈壁・底面〉 緩やかに立ち上がり、挿り鉢状である。

遺物（第58図、写真図版71）

〈出土状況〉 ロクロ成形E類の酸化炎焼成長胴甕が出土している（177）。

〈所属時期〉 不明である。

RD002 土坑

遺構（第16図、写真図版15）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Yグリッドに位置する。RA01住居跡より新しい。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は小判形、148cm×116cm・深さ11cmの規模である。

〈埋土〉 黄褐色土がブロック状に入る軟らかい灰褐色土で人為堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 現代のゴミ穴と思われる。

RD003 土坑

遺構（第16図、写真図版15）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Yグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は小判形、170cm×84cm・深さ58cmの規模である。

〈埋土〉 しまりのない黒褐色のシルト質土で人為堆積である。

〈壁・底面〉 断面図は作製しなかった。

遺物

〈出土状況〉 埋土内からガラス片・腐朽したブリキ缶が出土している。

〈所属時期〉 近現代のゴミ穴である。

RD004 土坑

遺構（第16図、写真図版15）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Yグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は略円形、206cm×180cm・深さ20cmの規模である。

〈埋土〉 やや砂を含む黒色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD005 土坑

遺構（第16図、写真図版15）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Yグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、200cm×186cm・深さ16cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土がマトリックスで上部に部分的に黒色土が入る。人為堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面はやや凹凸がある。

遺物（第71図、写真図版84）

〈出土状況〉 寛永通宝（古寛永）が1点出土している（543）。

〈所属時期〉 近世以降の土坑と思われる。

RD006 土坑

遺構（第16図、写真図版16）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Yグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は南北方向に長軸をもつ隅丸長方形、136cm×66cm・深さ20cmの規模である。

〈埋土〉 黒色のシルト質土が主体で砂が含まれる。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD007 土坑

遺構（第16図、写真図版16）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は南北方向に長軸をもつ隅丸長方形、190cm×130cm・深さ46cmの規模である。

〈埋土〉 南側の壁際底面には壁の崩落である褐色の砂質土が堆積している。埋土上部は根等により攪乱を受けている。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD008 土坑

遺構（第16図、写真図版16）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はほぼ南北方向に長軸をもつ小判形、104cm×66cm・深さ12cmの規模である。

〈埋土〉 しまりのないシルト質の黒褐色である。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土してない。

〈所属時期〉 不明である。

RD009 土坑

遺構（第16図、写真図版16）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はほぼ南北方向に長軸をもつ隅丸方形、104cm×74cm・深さ52cmの規模である。

〈埋土〉 粒状の黄褐色土を1～15%含む黒褐色のシルト質土である。人為堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD010 土坑

遺構（第16図、写真図版17）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、179cm×136cm・深さ56cmの規模である。

〈埋土〉 黒～黒褐色のシルト質土がマトリックスであり、壁の崩落土である砂を含む。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。南側では上端で一段を形成し深さ16cmである。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD011 土坑

遺構（第16図、写真図版17）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。第IV層上面で検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、174cm×134cm・深さ60cmの規模である。

〈埋土〉 軟らかい黄褐色の粘土質シルトおよび砂で構成される。人為堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉埋土中よりプラスチック片が出土している。

〈所属時期〉近現代の土坑である。

RD012 土坑

遺構（第17図、写真図版17）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Xグリッドに位置する。第I層除去後第IV層上面で検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は東西に長軸をもつ長方形、124cm×70cm・深さ60cmの規模である。

〈埋土〉黒～黒褐色のシルト質土が主体であるが各層に大量の砂が含まれる。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD013 土坑

遺構（第17図、写真図版17）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Xグリッドに位置する。第IV層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は南北方向に長軸をもつ長方形、198cm×72cm・深さ59cmの規模である。

〈埋土〉第V層の砂礫層まで掘り込まれ2層で構成され、下部にはしまりのない黒褐色のシルト質土、上位には約25cmの厚さの砂が堆積している。

〈壁・底面〉壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平でやや南側に向かって傾斜している。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD014 土坑

遺構（第17図、写真図版17）

〈検出状況・重複関係〉A調査区W24グリッドに位置する。第III層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は円形、82cm×72cm・深さ16cmの規模である。

〈埋土〉黒褐色のシルト質土が主体で2層には微量の炭化物を含んでいる。全体に非常にかたい。自然堆積である。

〈壁・底面〉壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（第71図、写真図版84）

〈出土状況〉埋土中より寛永通宝が1点出土している（544）。

〈所属時期〉近世以降の土坑と思われる。

RD015 土坑

遺構（第17図、写真図版17）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区W25グリッドに位置する。第Ⅲ層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、54cm×44cm・深さ10cmの規模である。

〈埋土〉 粘性のある黒～黒褐色のシルト質土である。自然堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD016 土坑

遺構（第17図、写真図版18）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区W25グリッドに位置する。第Ⅲ層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、54cm×46cm・深さ10cmの規模である。

〈埋土〉 粘性のある黒～黒褐色のシルト質土である。自然堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD017 土坑

遺構（第17図、写真図版18）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は東西方向に長軸をもつ長方形、104cm×52cm・深さ51cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色～黄褐色の砂質分が非常に多いシルト質土である。自然堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD018 土坑

遺構（第17図、写真図版18）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整楕円形、210cm×156cm・深さ80cmの規模である。

〈埋土〉 上部を削平されている。しまりのない軟らかい黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に緩やかに立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 内部より埋葬されたとと思われる約1頭分の馬の骨が得られている。

〈所属時期〉 近現代と思われる。

RD019 土坑

遺構（第17図、写真図版18）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は東西方向に長軸をもち長方形、118cm×90cm・深さ32cmの規模である。

〈埋土〉 埋土下半には砂が厚く堆積し、その上に層厚数センチメートルの灰と焼土の混土が載る。人為堆積である。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 近現代と思われる。

RD020 土坑

遺構（第17図、写真図版18）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はほぼ南北方向に長軸をもつ長方形、156cm×48cm・深さ5cmの規模である。

〈埋土〉 砂を斑状に含むシルト質の黒褐色土である。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD021 土坑

遺構（第17図、写真図版19）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区Y24グリッドに位置する。RG04より古い。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はほぼ南北方向に長軸をもつ小判形、196cm×88cm・深さ52cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土である。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 平安時代と思われる。

RD022 土坑

遺構（第17図、写真図版19）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。RE05の貼床下部にありこれより古い。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は楕円形、182cm×130cm・深さRE05の床面下30cmである。

〈埋土〉 黒褐色土を主体に黄褐色土が斑状に混じるシルト質土である。自然堆積と思われる。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD023 土坑

遺構（第18図、写真図版19）

〈検出状況・重複関係〉A調査区Y24グリッドに位置する。上部はかなり削平を受けている。検出面はV層上面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉推定で平面形は方形基調、残存部の最大幅134cm・深さ4cmである。

〈埋土〉黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉図化しなかったが外面にケズリ調整の見られる酸化炎焼成甕の破片が出土している。

〈所属時期〉不明である。

RD024 土坑

遺構（第18図、写真図版19）

〈検出状況・重複関係〉A調査区Y24グリッドに位置する。上部はかなり削平を受けている。検出面はV層上面である。誤って平面図は作成していない。

〈形状・開口部規模・深さ〉推定で平面形は方形基調、残存部の最大幅134cm・深さ4cmである。

〈埋土〉黒～黒褐色のシルト質土である。人為堆積と思われる。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は掘り鉢状である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RD025 土坑

遺構（第18図、写真図版20）

〈検出状況・重複関係〉A調査区Y24グリッドに位置する。RG02により古い。

〈形状・開口部規模・深さ〉推定で平面形は円形基調、残存部の最大幅150cm・深さ28cmである。

〈埋土〉小石が少量混じるシルト質の黒色土である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉図化できなかつたが黒色処理の施された酸化炎焼成の坏・酸化炎焼成非内黒坏、ロクロ成形の甕が出土している。

〈所属時期〉不明である。

RD026 土坑

遺構（第18図、写真図版20）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、84cm×76cm・深さ11cmである。

〈埋土〉 シルト質の黒褐色土である。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD027 土坑

遺構（第18図、写真図版20）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、82cm×74cm・深さ32cmである。

〈埋土〉 シルト質の黒褐色土が主体を占める。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD028 土坑

遺構（第18図、写真図版20）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区W1グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、174cm×128cm・深さ24cmである。

〈埋土〉 IV層起源の黄褐色の粘土質シルトである。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD029 土坑

遺構（第18図、写真図版21）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区W1グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は南北方向に長軸をもつ楕円形、120cm×70cm・深さ26cmである。

〈埋土〉 シルト質の黒～黒褐色土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD030 土坑

遺構（第18図、写真図版21）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区X25グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、204cm×160cm・深さ14cmである。

〈埋土〉 埋土上部は微量の焼土を含む黒色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD031 土坑

遺構（第19図、写真図版21）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区X25グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、178cm×152cm・深さ26cmである。

〈埋土〉 砂質シルトの暗褐色土を主体に黒色土が上部に入り込む。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD032 土坑

遺構（第19図、写真図版21）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区X1グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、212cm×112cm・深さ30cmである。東半部分が周囲より5cm前後低くなっている。

〈埋土〉 黒色のシルト質土をマトリックスに褐色シルトが斑状に入り込む。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD033 欠番扱い

RD034 土坑

遺構（第19図、写真図版22）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区X1グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は北西－南東方向に長軸をもつ方形、128cm×106cm・深さ10cmである。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土をマトリックスに微量の炭化物・焼土・黄褐色の砂質シルトを含む。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD035 土坑

遺構（第18図、写真図版22）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区X1グリッドに位置する。PP026より古い。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はほぼ東西方向に長軸をもつ長方形、160cm×70cm・深さ14cmである。

〈埋土〉埋土下部はV層起源の砂質シルトでその上位には水田の床土に類似した黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（写真図版83）

〈出土状況〉 図化していないが東北産と思われる陶器の播り鉢片が出土している（315）。

〈所属時期〉 不明である。

RD036 土坑

遺構（第18図、写真図版22）

〈検出状況・重複関係〉

〈形状・開口部規模・深さ〉

〈埋土〉 黒～黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、途中に段を形成し底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD037 土坑

遺構（第18図、写真図版22）

〈検出状況・重複関係〉

〈形状・開口部規模・深さ〉

〈埋土〉 単層で黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD038 土坑

遺構（第19図、写真図版23）

- 〈検出状況・重複関係〉 B調査区X 1グリッドに位置する。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、90cm×86cm・深さ12cmである。
- 〈埋土〉 黄褐色の砂質シルトが混じる黒色のシルト質土である。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 不明である。

RD039 土坑

遺構（第19図、写真図版23）

- 〈検出状況・重複関係〉 B調査区X 1グリッドに位置する。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は楕円形、96cm×72cm・深さ24cmである。
- 〈埋土〉 黒色～黒褐色のシルト質土をマトリックスに砂質シルトが混じる。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平で南東側に向かって傾斜している。

遺物

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 不明である。

RD040 土坑

遺構（第19図、写真図版23）

- 〈検出状況・重複関係〉 B調査区X 1グリッドに位置する。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は楕円形、96cm×66cm・深さ12cmである。
- 〈埋土〉 単層で黒褐色のシルト質土である。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 不明である。

RD041 土坑

遺構（第19図、写真図版23）

- 〈検出状況・重複関係〉 B調査区X 1グリッドに位置する。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は略円形、110cm×92cm・深さ10cmである。北西側がやや低くなっている。
- 〈埋土〉 褐色～暗褐色のシルト質土である。人為堆積と考えられる。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は皿状である。

遺物（第図、写真図版）

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 不明である。

RD042 土坑

遺構（第19図、写真図版26）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 推定で平面形は方形基調、残存部の最大幅は110cm・深さ10cmである。

〈埋土〉 埋土上部には黄褐色のシルト質土を含む黒色土でその下部には汚れたV層起源の砂質シルトが堆積している。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD043 土坑

遺構（第19図、写真図版24）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、90cm×78cm・深さ22cmである。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土である。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は皿状である。

遺物（第58図、写真図版71）

〈出土状況〉 酸化炎焼成の非内黒無調整の坏B類が出土している（178）。

〈所属時期〉 不明である。

RD044 土坑

遺構（第19図、写真図版24）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、90cm×78cm・深さ36cmである。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土が主体で微量であるが炭化物を含んでいる。人為堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり底面は播り鉢状である。

遺物（第58図、写真図版71）

〈出土状況〉 土坑南西の壁際の埋土上部より略完形の酸化炎焼成の坏が出土している（179）。底部は回転糸切り無調整、内外面に丁寧なヘラミガキ調整が施される。

〈所属時期〉 不明である。

RD045 土坑

遺構（第19図、写真図版24）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はほぼ南北方向に主軸をもつ隅丸長方形、148cm×96cm・深さ34cmである。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土が主体で黄褐色土を斑状に含んでいる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（第58図、写真図版71）

〈出土状況〉 180は酸化炎焼成非内黒の大形の坏B類である。図化は不能であったが酸化炎焼成でロクロ成形の小形甕が出土している。

〈所属時期〉 最下部に堆積する黄褐色土を斑状に含む黒～黒褐色のシルト質土がRA05・06竪穴住居跡の埋土上部の土と酷似しており平安時代の遺構と考えられる。

RD046 土坑

遺構（第19図、写真図版24）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、74cm×74cm・深さ24cmである。

〈埋土〉 褐色～暗褐色のシルト質土が主体である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD047 土坑

遺構（第19図、写真図版25）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、124cm×118cm・深さ30cmである。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土である。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 図化は不能であったが酸化炎焼成で無調整の坏B類が出土している。

〈所属時期〉 不明である。

RD048 土坑

遺構（第20図、写真図版25）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X25グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 東西方向に長軸をもち平面形は長方形、156cm×42cm・深さ8cmである。

〈埋土〉 軟らかい褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD049 土坑

遺構（第20図、写真図版25）

- 〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は南北方向に長軸をもつ隅丸長方形、120cm×76cm・深さ12cmである。
- 〈埋土〉 軟らかい黄褐色のシルト質土である。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 不明である。

RD050 土坑

遺構（第20図、写真図版25）

- 〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は北東-南西方向に長軸をもつ小判形、92cm×54cm・深さ28cmである。
- 〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土である。人為堆積と考えられる。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（第71図、写真図版84）

- 〈出土状況〉 埋土中より4点の銭貨が出土している（545～548）。このなかで546は朝鮮通宝、547は永楽通宝と判読され、他の2点については判読不可能であった。
- 〈所属時期〉 中世以降の土坑と思われる。

RD051 土坑

遺構（第20図、写真図版26）

- 〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、134cm×126cm・深さ48cmである。
- 〈埋土〉 黒褐色のシルト質土を主体としており下部にはブロック状に黄褐色土が入る。自然堆積である。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は掘り鉢状に湾曲している。

遺物

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 不明である。

RD052 土坑

遺構（第20図、写真図版26）

- 〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。
- 〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、146cm×136cm・深さ30cmである。
- 〈埋土〉 黒褐色のシルト質土を主体としており下部にはブロック状に黄褐色土が入る。
- 〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

- 〈出土状況〉 出土していない。
- 〈所属時期〉 不明である。

RD053 土坑

遺構（第20図、写真図版26）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は北西－南東方向に長く小判形、86cm×48cm・深さ24cmである。

〈埋土〉

〈壁・底面〉

遺構

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD054 土坑

遺構（第20図、写真図版26）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は北西－南東方向に長く長方形、74cm×46cm・深さ26cmである。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土である。自然堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD055 土坑

遺構（第20図、写真図版27）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区W1グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はほぼ南北方向に長軸を持つ楕円形、180cm×110cm・深さ40cmである。

〈埋土〉 黒色～黒褐色のシルト質土が主体でIV層起源と思われる黄褐色土を斑状に含んでいる。人為堆積と考えられる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD056 土坑

遺構（第20図、写真図版27）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は南北方向に長軸を持つ小判形、78cm×40cm・深さ34cmである。

〈埋土〉 黒色～暗褐色のシルト質土が主体で埋土上部に微量の炭化物を含んでいる。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は直立気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD057 土坑

遺構（第20図、写真図版27）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 やや歪みがあるが平面形は略円形、76cm×64cm・深さ42cmである。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土が主体で部分的にIV層起源の褐色土がブロック所状に入る。人為然堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は直立気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD058 土坑（陥し穴）

遺構（第24図、写真図版37）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。V層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で400cm×98cm・底面で412cm×23cm・深さ98cmである。長軸方位はN3°Wである。

〈埋土〉 埋土下部にIV層起源の褐色の粘土質シルトがU字状に堆積しその上位に黒色～暗褐色のシルト質土が見られる。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に直線的に立ち上がり、底面は水平で長軸方向の両端部は奥に入り込んでいる。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 縄文時代である。

RD059 土坑（陥し穴）

遺構（第24図、写真図版37）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。V層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で346cm×98cm・底面で287cm×25cm・深さ80cmである。長軸方位はN22°Wである。

〈埋土〉 黒色～暗褐色のシルト質土である。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 縄文時代である。

RD060 土坑

遺構（第20図、写真図版36）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区W24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は略円形、174cm×164cm・深さ26cmである。

〈埋土〉 黒色～暗褐色のシルト質土である。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD061 土坑（陥し穴）

遺構（第24図、写真図版37）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。V層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で310cm×94cm・底面で281cm×37cm・深さ102cmである。長軸方位はN11°Wである。

〈埋土〉 埋土下部にはV層上部起源と思われる褐色の砂がU字状に堆積し、上部には黒褐色～暗褐色のシルト質土が載っている。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 縄文時代である。

RD062 土坑（陥し穴）

遺構（第24図、写真図版37）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。V層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で424cm×102cm・底面で358cm×40cm・深さ108cmである。長軸方位はN13°Wである。

〈埋土〉 全体に砂が充填されており、埋土下部から上部に行くに従い側壁のV層上部の砂層の崩落土が順次堆積している。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は凹凸があるものの外傾気味に直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 縄文時代である。

RD063 土坑（陥し穴）

遺構（第24図、写真図版37）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。V層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で424cm×102cm・底面で350cm×24～45cm・深さ106cmである。長軸方位はN15°Eである。

〈埋土〉 埋土下部にはV層起源の砂が堆積し、上部には黒褐色のシルト質土が載っている。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は直線的に立ち上がり、開口部付近で大きく外傾している。底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 縄文時代である。

RD064 土坑（陥し穴）

遺構（第25図、写真図版37）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。V層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で346cm×100cm・底面で322cm×7～30cm・深さ106cmである。底面の両端は奥に入り込んでいる。長軸方位はN7°Eである。

〈埋土〉 埋土下部にはV層起源の砂が堆積し、上部には黒褐色～暗褐色のシルト質土が載っている。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は直線的に立ち上がり、開口部付近で大きく外傾している。底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 縄文時代である。

RD065 土坑（陥し穴）

遺構（第25図、写真図版38）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。V層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で360cm×104cm・底面で308cm×29～46cm・深さ112cmである。長軸方位はN10°Eである。中段の両端は奥に入り込んでいる。

〈埋土〉 埋土下部にはV層起源の砂が堆積し、上部には黒褐色～暗褐色のシルト質土が載っている。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 縄文時代である。

RD066 土坑（陥し穴）

遺構（第25図、写真図版38）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。V層上部の非常に堅い砂層まで掘り込んでいる。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で330cm×94cm・底面で256cm×8～29cm・深さ28cmである。長軸方位はN33°Wである。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土である。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面はU字状である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 縄文時代である。

RD067 土坑

遺構（第20図、写真図版27）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区2X4グリッドに位置する。RA02より古い。

〈形状・開口部規模・深さ〉 推定で平面形は円形基調、残存部の最大幅142cm・深さ20cmである。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土である。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は緩やかに直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 図化不能であったが酸化炎焼成非内黒の坏B類が出土している。

〈所属時期〉 不明である。

RD068 土坑

遺構（第20図、写真図版28）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は小判形、110cm×62cm・深さ10cmである。

〈埋土〉 黄褐色の砂質シルトが混じった黒色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は大きく波打っている。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD069 土坑

遺構（第21図、写真図版28）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、82cm×76cm・深さ22cmである。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土である。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は掘り鉢状である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD070 土坑

遺構（第21図、写真図版28）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は略円形、64cm×56cm・深さ22cmである。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土である。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は播り鉢状である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD071 土坑

遺構（第21図、写真図版28）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整円形、110cm×94cm・深さ32cmである。

〈埋土〉 黒褐色～褐色のシルト質土で各層にはV層起源の砂が混じる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD072 土坑

遺構（第21図、写真図版29）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は略円形、174cm×164cm・深さ48cmである。

〈埋土〉 III層起源と思われる黒色のシルト質土である。埋土の上部および埋土下部付近に拳大～人頭大の礫がそれぞれ数個ずつ見られたが特に意識的に組み合わせた様子は見られなかった。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は播り鉢状である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD073 土坑（陥し穴）

遺構（第25図、写真図版38）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区X24グリッドに位置する。III層を検出面としてV層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は溝状、開口部で374cm×108cm・底面で330cm×14～32cm・深さ104cmで

ある。長軸方位はN 6°Eである。

〈埋土〉最下部に薄くシルト質の暗褐色土が堆積し、それより上部には側壁の崩落土の砂が載っている。

〈壁・底面〉壁は直立気味に立ち上がり開口部付近で広がる。底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

〈所属時期〉縄文時代である。

RD074 土坑（陥し穴）

遺構（第25図、写真図版38）

〈検出状況・重複関係〉A調査区X24グリッドに位置する。Ⅲ層を検出面としてV層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。RD083より新しい。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は溝状、開口部で394cm×106cm・底面で348cm×12～38cm・深さ90cmである。長軸方位はN 8°Eである。

〈埋土〉最下部に砂が堆積し、それより上部は砂層と黒褐色～暗褐色のシルト質土が互層をなす。自然堆積である。

〈壁・底面〉壁は直線的に立ち上がり開口部付近で広がる。底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

〈所属時期〉縄文時代である。

RD075 土坑（陥し穴）

遺構（第25図、写真図版38）

〈検出状況・重複関係〉A調査区X24グリッドに位置する。Ⅲ層を検出面としてV層下部の基底礫層まで掘り込んで構築している。RA06竪穴住居跡より古い。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は溝状、開口部で364cm×110cm・底面で335cm×14～24cm・深さ28cmである。長軸方位はN 0°Eである。

〈埋土〉V層上部起源の砂と黒褐色～暗褐色のシルト質土である。自然堆積である。

〈壁・底面〉壁は直線的に立ち上がり開口部付近で広がる。底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

〈所属時期〉縄文時代である。

RD076 土坑

遺構（第21図、写真図版29）

〈検出状況・重複関係〉C調査区1Xグリッドに位置する。Ⅳ層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉ほぼ東西方向に長軸をもち平面形は小判形、120cm×76cm・深さ24cmである。

〈埋土〉シルト質の黒褐色土である。

〈壁・底面〉壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD077 土坑

遺構（第21図、写真図版29）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、106cm×78cm・深さ14cmである。

〈埋土〉 シルト質の黒褐色土で下部には黄褐色の砂が堆積している。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に緩やかに立ち上がり、底面は浅皿状である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD078 欠番扱い

RD079 土坑

遺構（第21図、写真図版29）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は小判形、106cm×68cm・深さ38cmの規模である。

〈埋土〉 砂混じりの黒褐色～褐色のシルト質土である。人為堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD080 土坑

遺構（第21図、写真図版30）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はやや歪みのある隅丸方形、106cm×74cm・深さ14cmの規模である。

〈埋土〉 砂混じりの黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD081 土坑

遺構（第21図、写真図版30）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。
〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は小判形、59cm×44cm・深さ22cmの規模である。
〈埋土〉 黄褐色土が混じる黒褐色のシルト質土である。
〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。
〈所属時期〉 不明である。

RD082 欠番扱いとする。

RD083 土坑

遺構（第21図、写真図版30）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24 Xグリッドに位置する。III層が検出面である。RD074より古い。
〈形状・開口部規模・深さ〉 推定で平面形は円形基調、残存部の最大幅70cm・深さ14cmの規模である。
〈埋土〉 暗褐色～褐色の砂分の多いシルト質土である。自然堆積である。
〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。
〈所属時期〉 不明である。

RD084 土坑

遺構（第21図、写真図版30）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。
〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はほぼ東西方向に長軸を持つ小判形、118cm×50cm・深さ10cmの規模である。
〈埋土〉 黒褐色～褐色の砂を含むシルト質土で最下部の層には少量の焼土を含んでいる。
〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。
〈所属時期〉 不明である。

RD085 土坑

当初土坑と認定して調査を進めたが精査の結果、井戸跡と判明しこの遺構については井戸跡R Iの項で事実記載を行う。故に、RD085は欠番扱いとする。

RD086 土坑

遺構（第21図、写真図版31）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、90cm×86cm・深さ10cmの規模である。

〈埋土〉 黄褐色土を含む黒褐色の非常にかたいシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 図化できなかったが埋土中より木胎部は腐朽し残存していなかったが、漆の皮膜片が出土している。

〈所属時期〉 不明である。

RD087 土坑

遺構（第21図、写真図版31）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、156cm×46cm・深さ46cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土が主体である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は掘り鉢状である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD088 土坑

遺構（第22図、写真図版31）

〈検出状況・重複関係〉 G調査区1Vグリッドに位置する。Ⅲ層面で黒色土中の暗褐色土の広がりとして検出された。V層まで掘り込んである

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、130cm×130cm・深さ24cmの規模である。

〈埋土〉 暗褐色のシルト質土が主体である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は掘り鉢状である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD089 土坑

遺構（第22図、写真図版31）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区1Wグリッドに位置する。IV層面で検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、76cm×48cm・深さ24cmの規模である。

〈埋土〉 黒色～黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平、北側に向かって浅くなっている。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD090 土坑

遺構（第22図、写真図版32）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドに位置する。Ⅳ層面で検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、134cm×96cm・深さ28cmの規模である。

〈埋土〉 黒色～黒褐色のシルト質土である。全体に黄褐色の砂質シルトが含まれている。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は緩やかな播り鉢状である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD091 土坑

遺構（第22図、写真図版32）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Uグリッドに位置する。Ⅱ層面で検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は楕円形、214cm×150cm・深さ30cmの規模である。

〈埋土〉 黒色～褐色のシルト質土である。埋土の上部に数センチメートルの層厚の灰白色火山灰がレンズ状に堆積している。自然堆積である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平で東側がやや高くなっている。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 平安時代である。

RD092 土坑

遺構（第22図、写真図版32）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Uグリッドに位置する。Ⅱ層面で検出した。RD096より新しい。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、148cm×124cm・深さ50cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土が主体である。3層の黒褐色土層中にはⅡ層起源の褐色の砂質シルトが斑状に入る。人為堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 平安時代である。

RD093 土坑

遺構（第22図、写真図版32）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Uグリッドに位置する。Ⅱ層面で検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は楕円形、148cm×112cm・深さ48cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土が主体である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 平安時代である。

RD094 土坑

遺構（第22図、写真図版33）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Uグリッドに位置する。Ⅱ層面で検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は北東－南西方向に長軸をもつ小判形、126cm×78cm・深さ18cmの規模である。

〈埋土〉 暗褐色のシルト質土とⅡ層起源の褐色の砂質シルトで構成される。人為堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は垂直に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（第58図、写真図版71）

〈出土状況〉 底面より約10cm浮いた埋土上部に、内面が上に向いた状態の完形の酸化炎焼成非内黒無調整坯B類が1点出土している（181）。

〈所属時期〉 平安時代である。

RD095 土坑

遺構（第22図、写真図版33）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Uグリッドに位置する。Ⅱ層面で検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は略円形、94cm×78cm・深さ14cmの規模である。

〈埋土〉 暗褐色のシルト質土とⅡ層起源の褐色の砂質シルトで構成される。人為堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は垂直に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 平安時代である。

RD096 土坑

遺構（第22図、写真図版33）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Uグリッドに位置する。Ⅱ層面で検出した。RD092より古い。

〈形状・開口部規模・深さ〉 推定で平面形は円形基調、残存部の最大幅112cm・深さ42cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土で構成されている。自然堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は垂直に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 平安時代である。

RD097 欠番扱いとする。

RD098 土坑

遺構（第22図、写真図版33・34）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。上部は削平を受けている。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、84cm×84cm・深さ26cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土で上部に約3cm程度の厚さの砂と小石が混じった層が載る。

〈壁・底面〉 壁は垂直に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（第72図、写真図版80・83）

〈出土状況〉 この土坑の底から桶の底板が出土している。用材はスギである。側板は残存していなかった。底板の直上から陶磁器類が2点（315・316）出土している。316は東北産あるいは肥前産とされる染付の碗である。

〈所属時期〉 近世以降と思われる。

RD099 土坑

遺構（第23図、写真図版34）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。上部は削平を受けている。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、130cm×126cm・深さ28cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土で上部に約3cm程度の厚さの砂と小石が混じった層が載る。

〈壁・底面〉 壁は垂直に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（第72・73図、写真図版33・34）

〈出土状況〉 この土坑の底から桶の底板が出土している。側板は残存していなかった。材はスギを使用しており、用材の接合には竹釘が使用されている。

〈所属時期〉 近世以降と思われる。

RD100 土坑

遺構（第22図、写真図版35）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。東端部分については調査の制約があり全容は明らかにできなかった。

〈形状・開口部規模・深さ〉 推定で平面形は長円形、残存部で124cm×50cm・深さ20cmの規模である。

〈埋土〉 黄褐色のシルト質土を含む黒色土とその下位には酸化鉄を含む褐色の粘土質土が見られる。

〈壁・底面〉 壁は緩やかに直線的に立ち上がり、底面は段状になっている。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 近世以降と思われる。

RD101 土坑

遺構（第23図、写真図版35）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、開口部で96cm×86cm・深さ8cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD102 欠番扱いとする。

RD103 土坑

遺構（第23図、写真図版35）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は三角形を基調とする。開口部150cm×150cm・深さ80cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（第図67、写真図版75）

〈出土状況〉 317は肥前産とされる染付の猪口である。図化はできなかったが埋土中より漆塗りと思われる木胎容器が出土している。

〈所属時期〉 近世以降と思われる。

RD104 土坑

遺構（第23図、写真図版35）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、開口部200cm×150cm・深さ80cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 図化はできなかったが埋土中位より部材と木胎の漆器椀が出土している。

〈所属時期〉 近世以降と思われる。

RD105 土坑

遺構（第23図、写真図版35）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドに位置する。南半部分が調査不可能の場所にあり全容は明らかにできなかった。

〈形状・開口部規模・深さ〉 推定で平面形は円形基調、残存部の最大幅は100cm×86cm・深さ80cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土が主体で、周囲には小石や粘土質の黄褐色土をブロック状に含む黒褐色で構成されている。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD106 欠番扱いとする。

RD107 土坑

遺構（第23図、写真図版35）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Tグリッドに位置する。検出面はⅡ層面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、開口部56cm×56cm・深さ44cmの規模である。

〈埋土〉 暗褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD108 土坑

遺構（第23図、写真図版36）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Tグリッドに位置する。検出面はⅡ層面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、開口部60cm×44cm・深さ18cmの規模である。

〈埋土〉 暗褐色のシルト質土である。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RD109 土坑

遺構（第23図、写真図版36）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2 Tグリッドに位置する。検出面はⅡ層面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、開口部52cm×50cm・深さ18cmの規模である。

〈埋土〉 Ⅱ層起源の黄褐色の砂混じりの粘土質シルトである。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物（第58図、写真図版71）

〈出土状況〉 酸化炎焼成非内黒、底部静止糸切り無調整の坏B類が出土している（182）。

〈所属時期〉 平安時代と思われる。

RD110 土坑

遺構（第23図、写真図版36）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区 2 Tグリッドに位置する。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は円形、開口部104cm×100cm・深さ20cmの規模である。

〈埋土〉 黒褐色シルト、極暗褐色シルト主体である。

〈壁・底面〉 壁は外傾しており、東側ほど傾斜はゆるい。底面はほぼ水平である。

〈遺物〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

R Y - 41
R X + 70

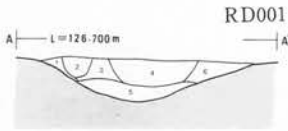
R Y - 40
R X + 70

R Y - 45
R X + 77

R Y - 44
R X - 77

R Y - 42
R X + 27

R Y - 48
R X + 78



1. 10Y R3/1 黒褐色シルト 小石少々含む
2. 10Y R2/1 黒色シルト 小石含む
3. 10Y R2/2 黒褐色シルト 小石含む
4. 10Y R1.7/1 黒色シルト
5. 10Y R3/4 暗褐色シルト 砂地に石混じり
6. 10Y R2/2 黒褐色シルト

R Y - 44
R X + 67

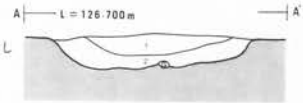
RD002

RD003

R Y - 48
R X + 77

RD006

R X + 76
R Y - 42



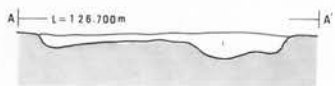
1. 10Y R2/3 黒褐色シルト 粘性しまりなし
2. 10Y R2/1 黒色シルト 粘性しまりなし 10Y R4/4 褐色砂質シルトをブロック状、小石含む

R Y - 57
R X + 65

R Y - 56
R X + 65

R Y - 43
R X + 83

R X + 66
R Y - 44



1. 10Y R1.7/1 黒色シルト 粘性しまりなしや砂っぽい

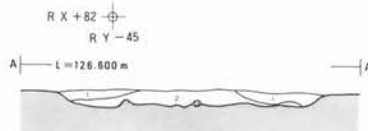
R Y - 54
R X + 61

R Y - 52
R X + 61

R Y - 70
R X + 56

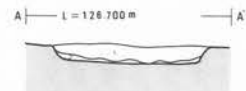
R X + 55
R Y - 70

RD005



1. 10Y R2/2 黒褐色シルト 粘性しまりなし小石若干含む
2. 10Y R2/1 黒色シルト 粘性しまりなし黄褐色土を2%含む

RD008



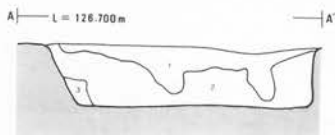
1. 10Y R2/2 黒褐色シルト 粘性しまりなし
2. 10Y R2/3 黒褐色シルト 粘性しまりなしや砂っぽい

R Y - 67
R X + 58

R Y - 66
R X + 58

RD009

RD007



1. 10Y R2/2 黒褐色シルト 粘性しまりなしほそばその根おおい
2. 10Y R3/1 黒褐色シルト 粘性しまりなし黄褐色土まばらに含む
3. 10Y R4/4 褐色砂 地山の再堆積、自然堆積

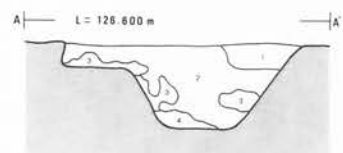
R Y - 56
R X + 83

R X + 82
R Y - 56

R X + 82
R Y - 56

R X + 82
R Y - 56

RD010

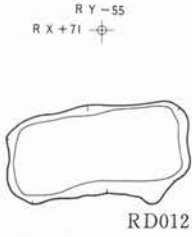


1. 10Y R1.7/1 黒色シルト 粘性しまりなし黄褐色の砂質シルトまばらに含む
2. 10Y R2/1 黒褐色シルト 粘性しまりなし黄褐色土10~15%含む
3. 10Y R3/2 黒褐色シルト 砂質粘性しまりなし
4. 10Y R5/6 黄褐色シルト 砂質地山の再堆積

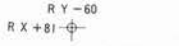
RD011

0 1:50 1m

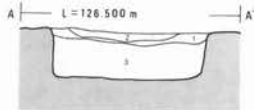
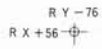
第16図 RD(1)



1. 10Y R2/1 黒褐色 砂質シルト 粘性しまりなし
2. 10Y R6/6 明黄褐色 砂質シルト
3. 10Y R2/2 黒褐色 シルト 黒褐色土主体に明黄褐色土を部分的に含む



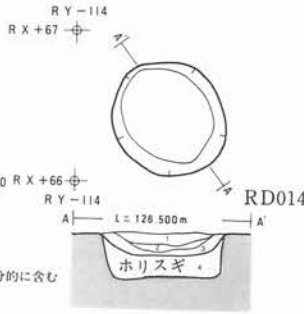
1. 10Y R2/2 黒褐色 シルト 粘性しまりなし



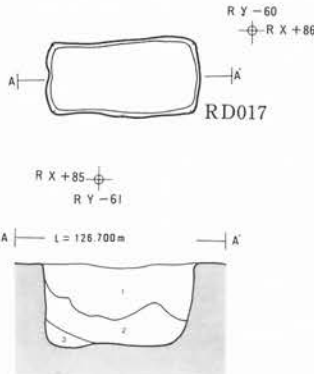
1. 10Y R2/1 黒褐色 シルト 粘性ややあり焼土部分的に含む
2. 10Y R3/1 黒褐色 シルト 灰および焼土
3. 10Y R5/6 黄褐色 砂



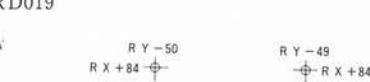
1. 10Y R2/2 黒褐色 シルト 粘性しまりなし黄褐色砂質シルトを斑状に含む



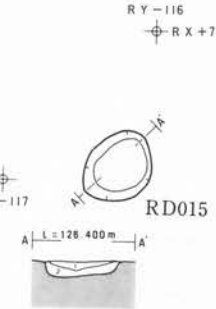
1. 10Y R2/2 黒褐色 シルト 粘性ややありしまりあり
2. 10Y R2/1 黒色 シルト 粘性ややありしまりあり
3. 10Y R2/2 黒褐色 シルト 粘性ややありしまりあり
4. 掘りすぎ



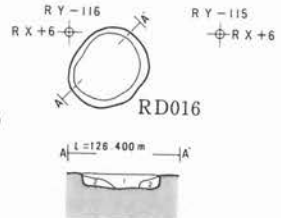
1. 10Y R2/2 黒褐色 シルト 粘性しまりなし砂まじり25%
2. 10Y R2/2 黒褐色 シルト しまりややあり小石含む
3. 10Y R5/6 黄褐色 砂



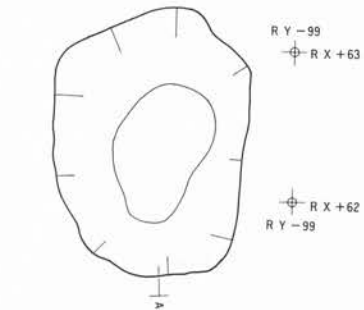
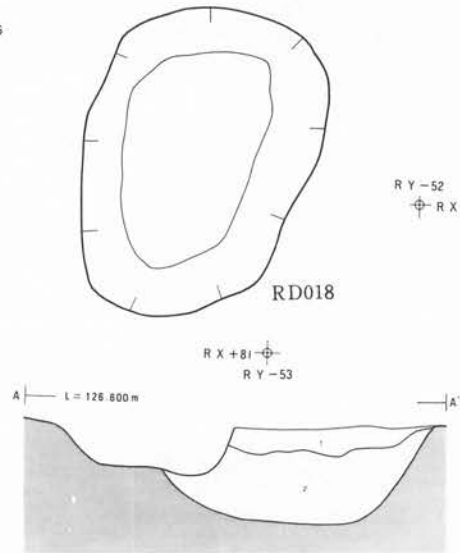
1. 10Y R2/3 黒褐色 シルト しまりあり粘性なし
2. 10Y R2/2 黒褐色 シルト しまりあり粘性なし



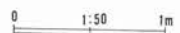
1. 10Y R2/3 黒褐色 シルト しまりあり粘性なし
2. 10Y R1.7/1 黒色 シルト しまりあり粘りややあり



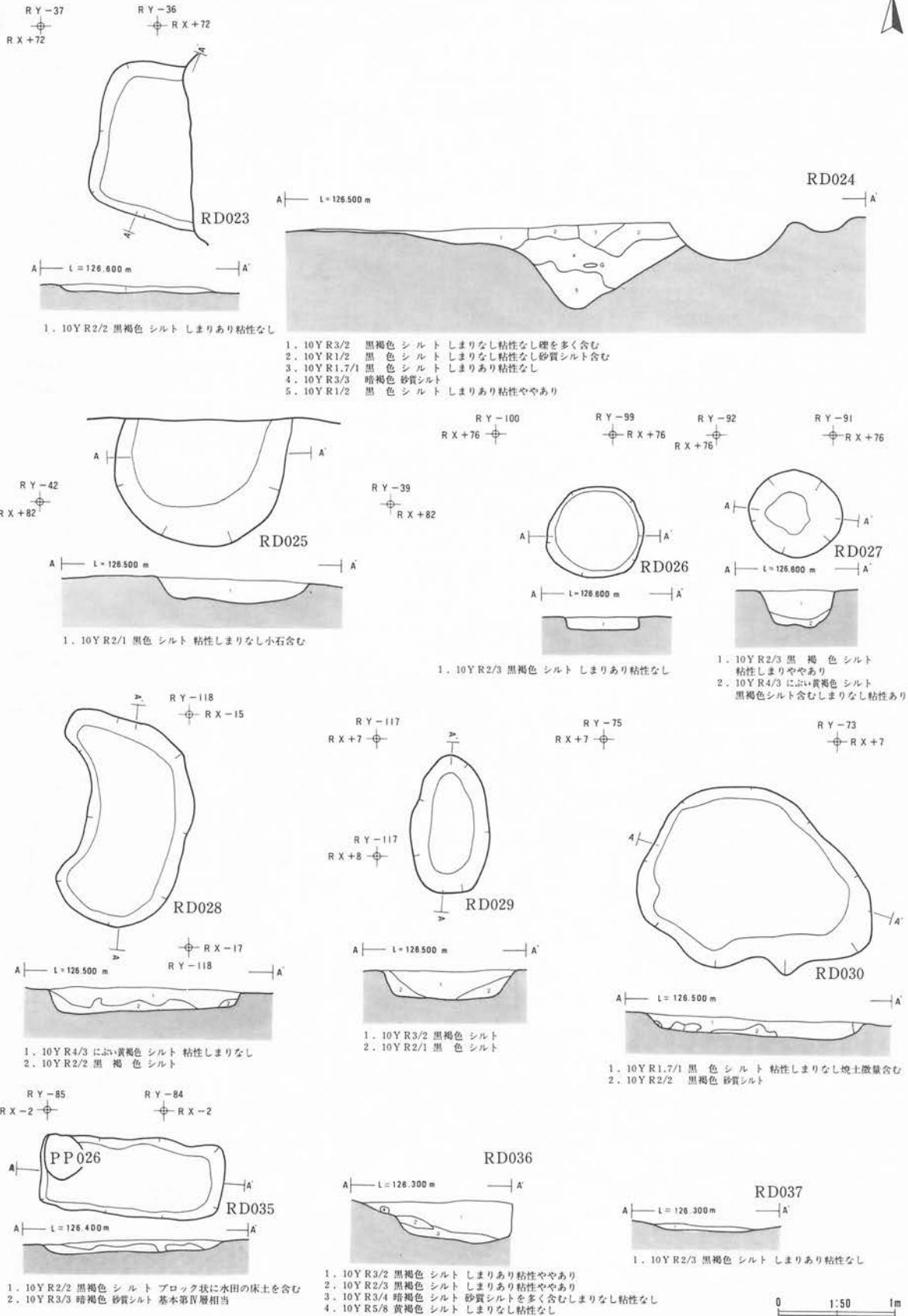
1. 10Y R2/3 黒褐色 シルト しまりあり粘りなし
2. 10Y R1.7/1 黒色 シルト しまりあり粘りややあり



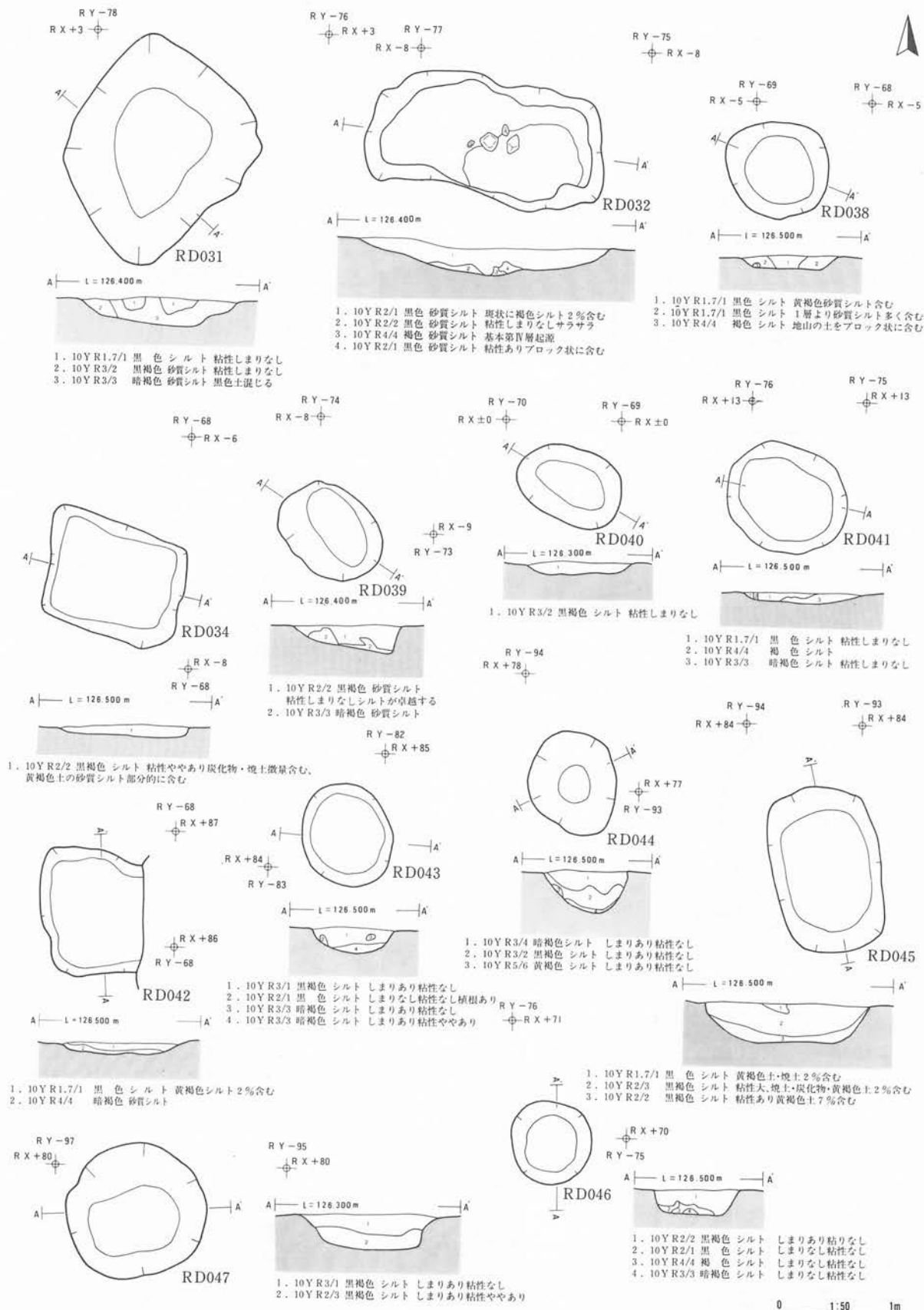
1. 10Y R2/2 黒褐色 シルト
2. 10Y R2/3 黒褐色 シルト
3. 10Y R2/2 黒褐色 シルト 黄褐色土が散在 (RE05の粘床)
4. 10Y R2/3 黒褐色 シルト 黄褐色土が散布



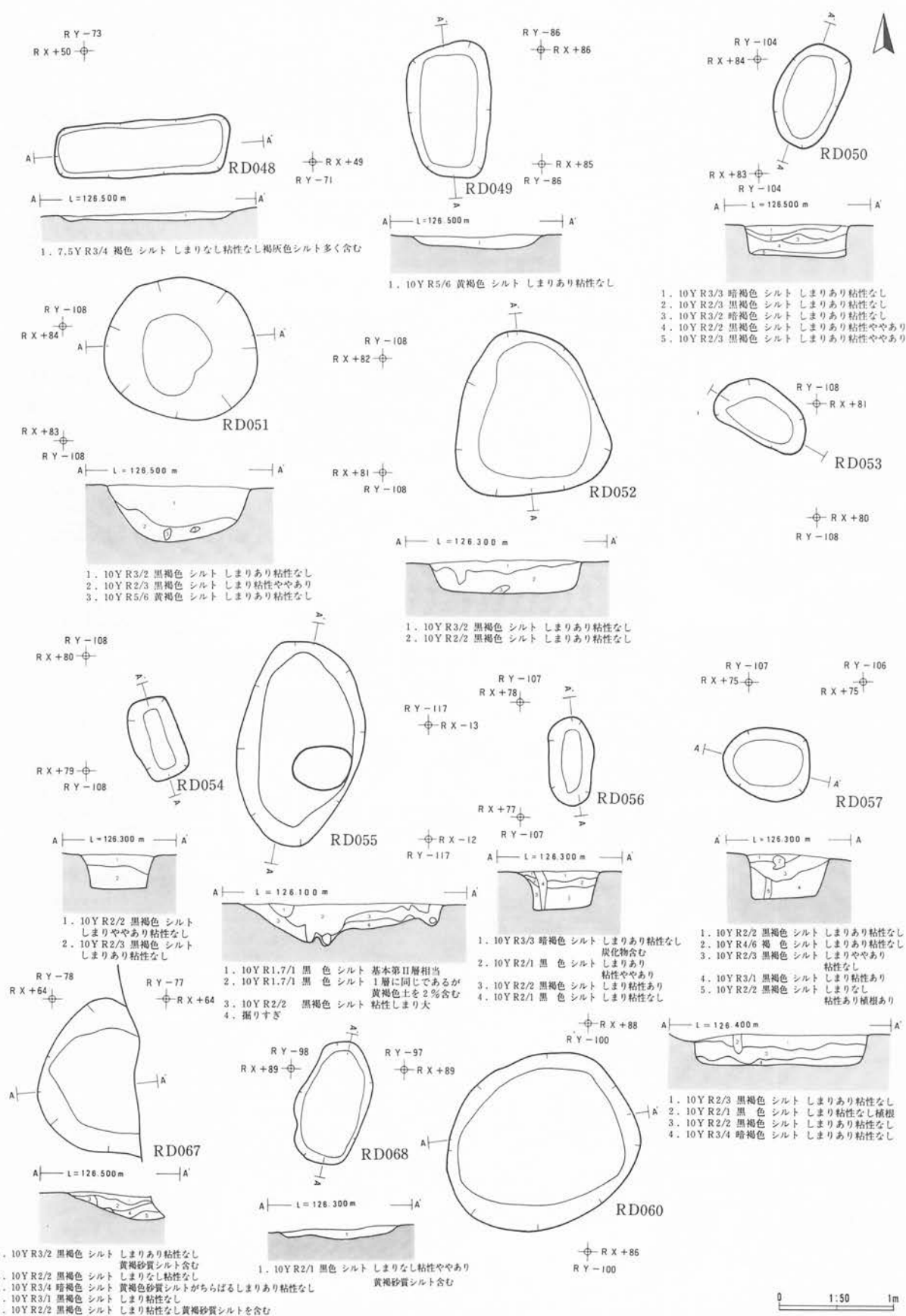
第17図 RD(2)



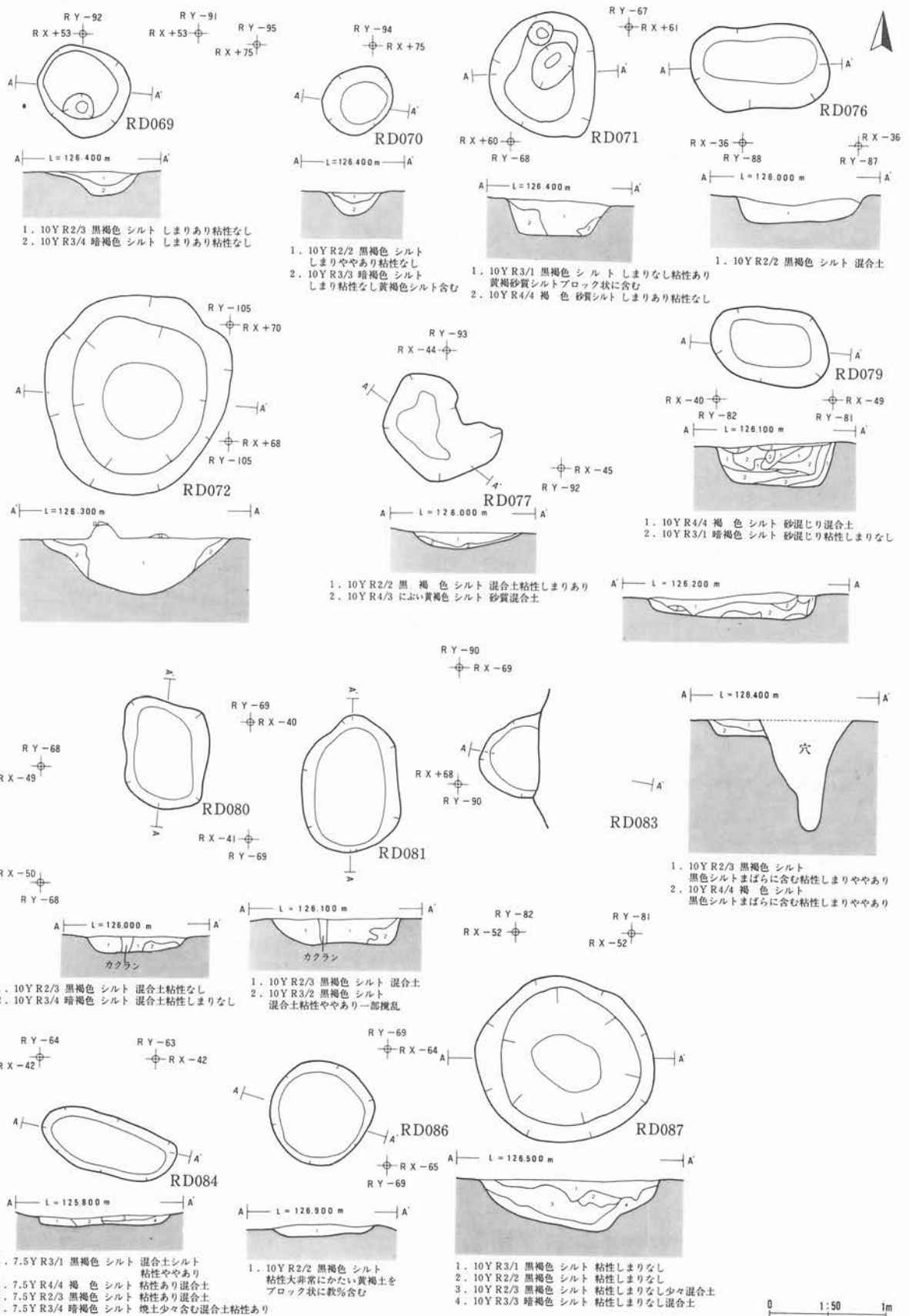
第18図 RD(3)



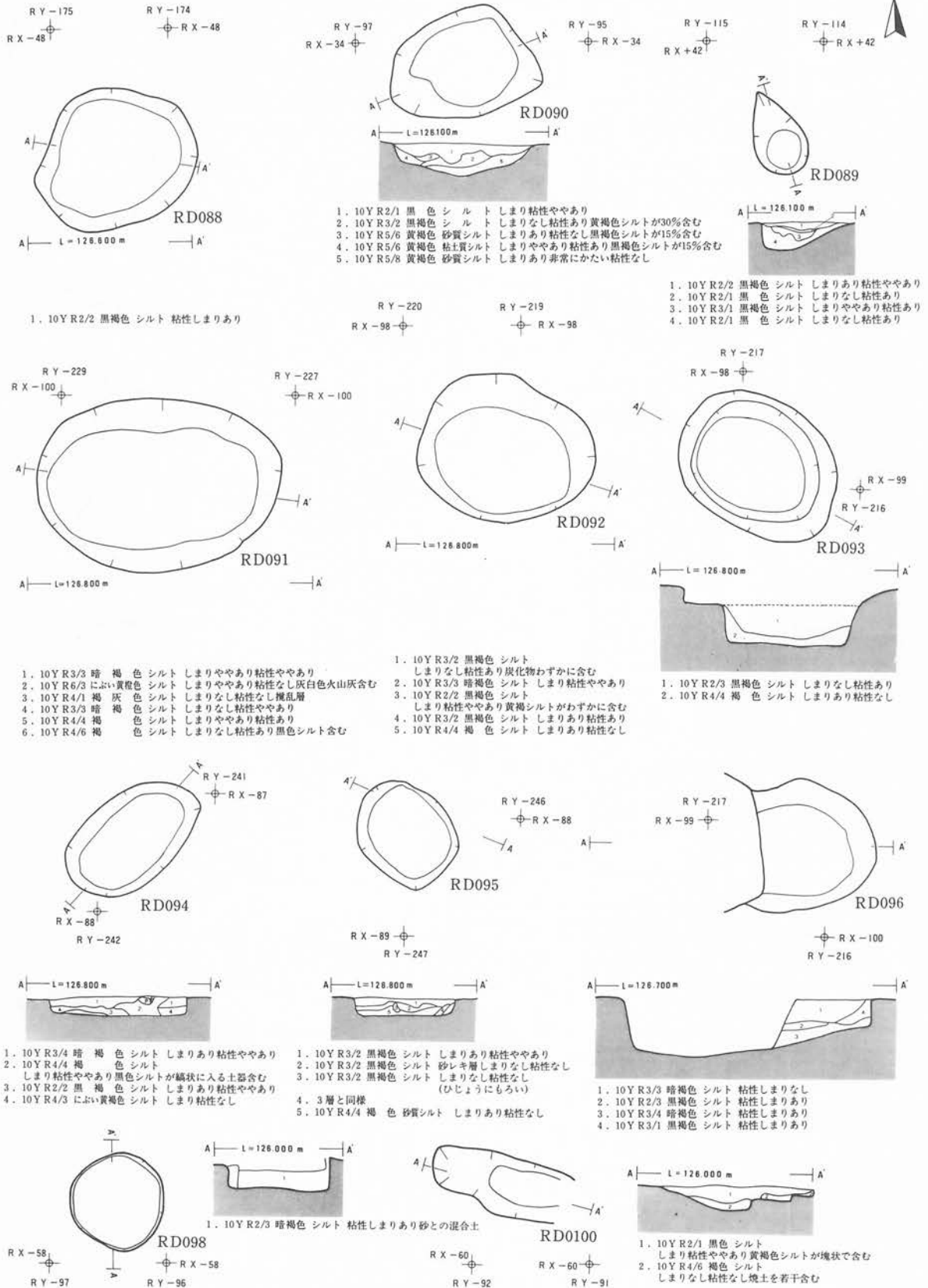
第19図 RD(4)



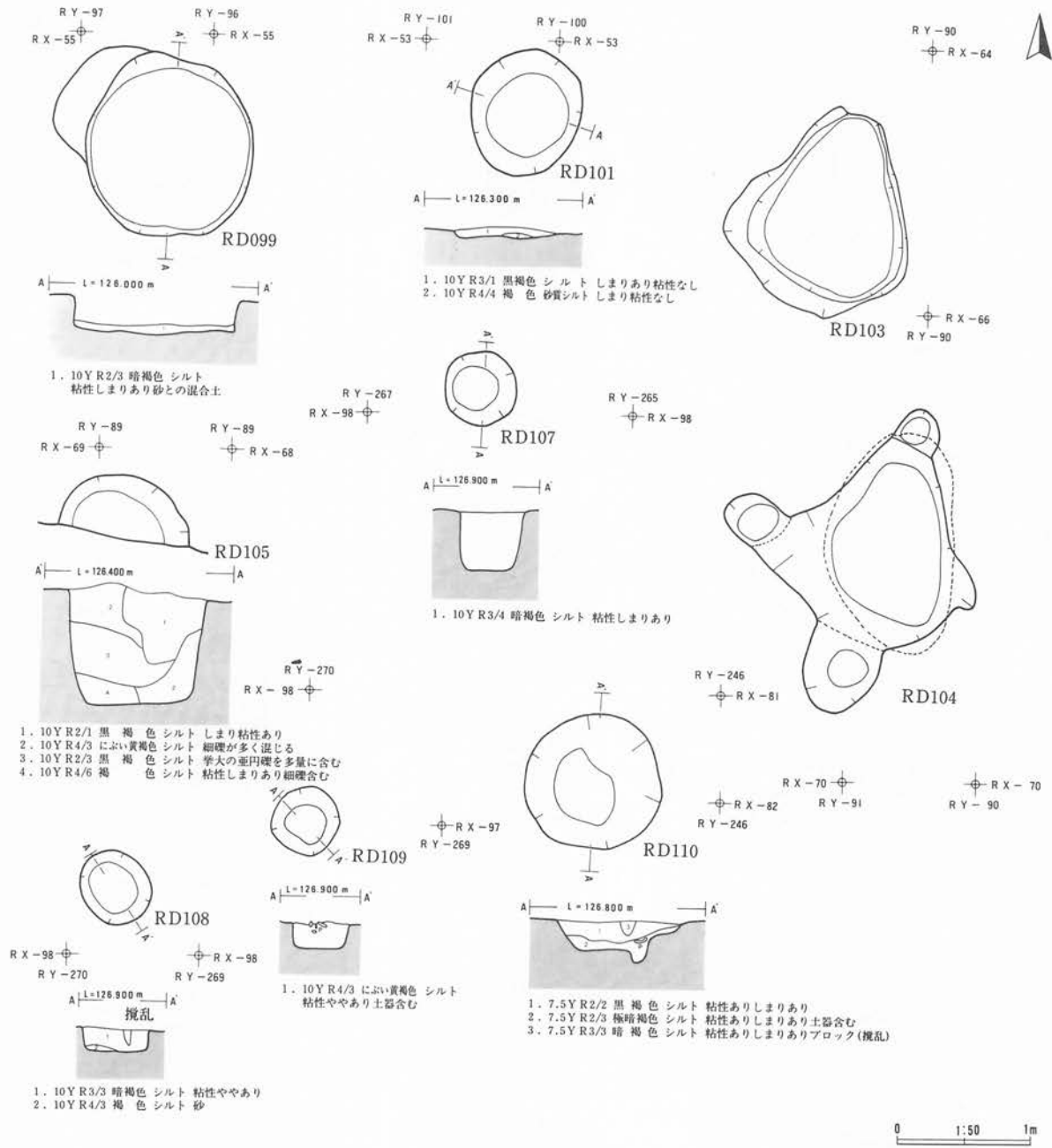
第20図 RD(5)



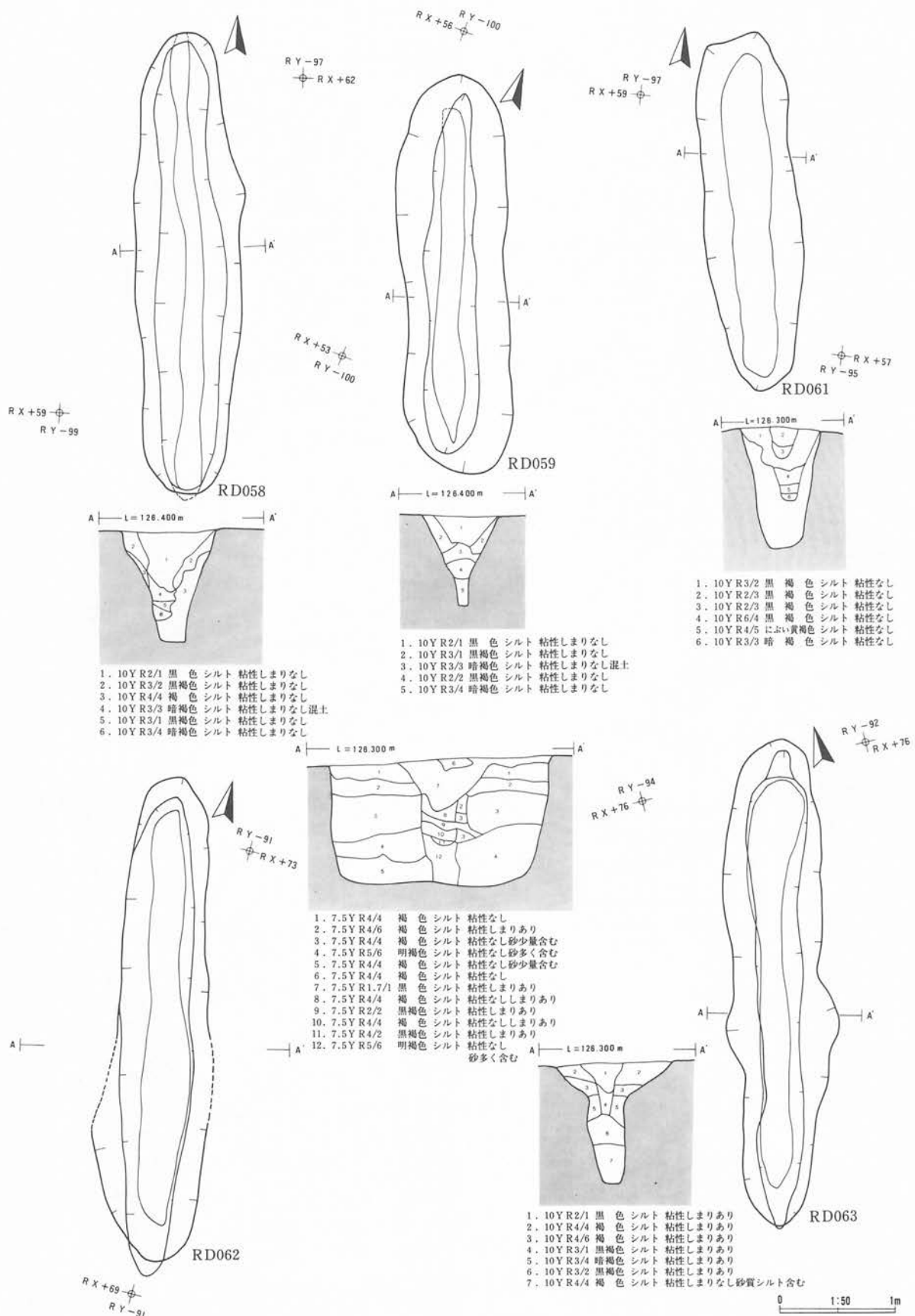
第21図 RD(6)



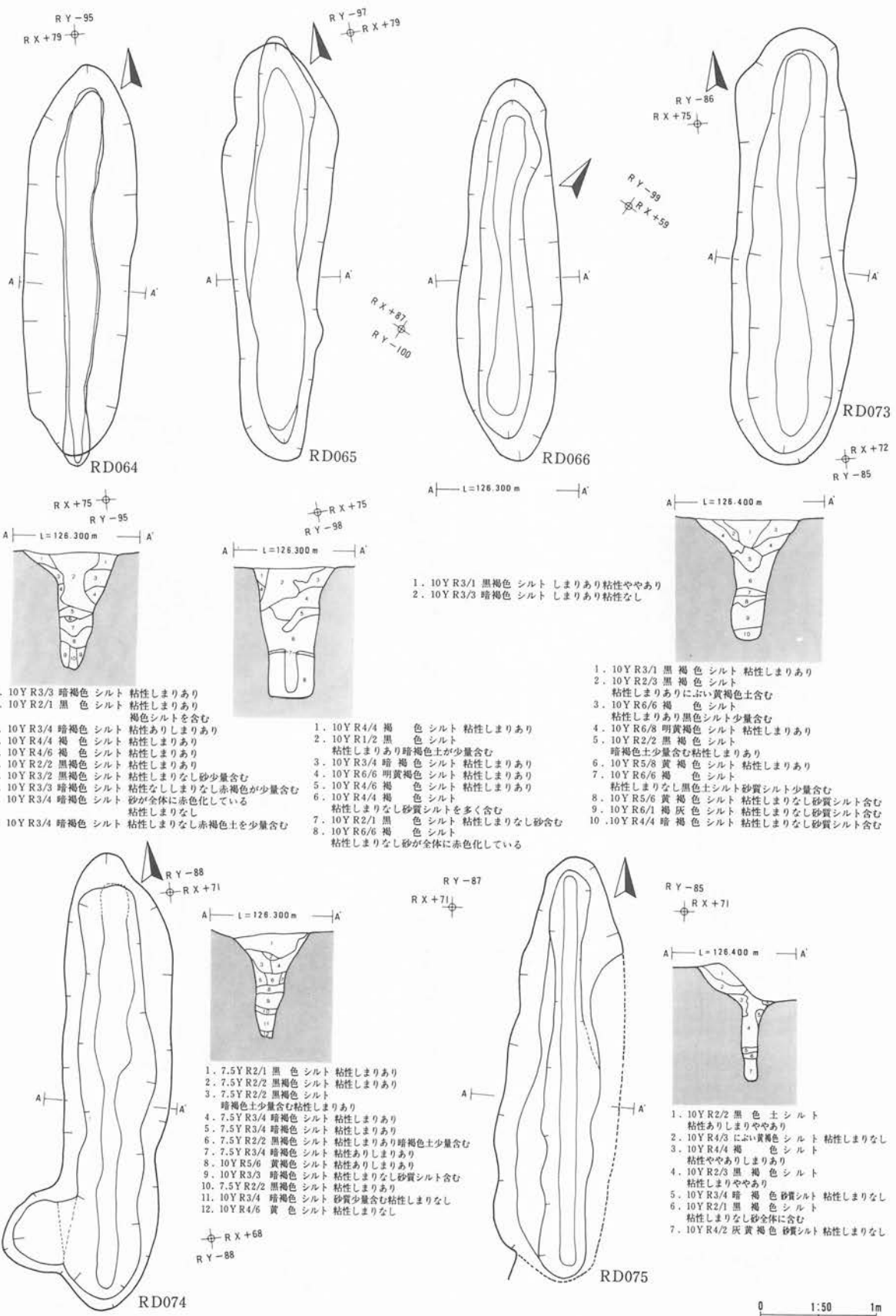
第22図 RD(7)



第23図 RD(8)



第24図 RD(9)



第25図 RD(10)

4. 竪穴状遺構

規模や形状はさまざまであるが竪穴状遺構として12棟を検出した。

RE01 竪穴状遺構

遺構（第26図、写真図版39）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24 Xグリッドの南西側に位置している。IV層が検出面である。RB01掘立柱建物跡を構成する柱穴により切られておりRB01より古い。

〈形状・規模〉 ほぼ東西方向に長軸を持ち両端が凸辺状の隅丸長方形に近い形状である。開口部3.36m×1.94m・深さ18cm～28cmである。

〈埋土〉 全体に軟らかい黄褐色砂質シルトを含む黒褐色土で構成され、埋土途中に薄く炭化物の層が入る。人為堆積と考えられる。

〈壁・床〉 壁は外傾気味に立ち上がり各辺中央部の壁高は東壁14cm・西壁26cm・南壁20cm・北壁21cmである。床面は凹凸がある。

〈柱穴〉 検出されなかった。

遺物（第58図、写真図版71）

〈出土状況〉 184は酸化炎焼成非内黒の坏B類である。底部は回転糸切り無調整である。図化できなかったが酸化炎焼成の甕が出土している。

〈所属時期〉 現代のものと思われる。

RE02 竪穴状遺構

遺構（第26図、写真図版39）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24 Xグリッドの西側に位置している。III層が検出面である。RG06溝跡より新しい。上部は削平を受けている。

〈形状・規模〉 ほぼ北東-南西方向に長軸を持ち、両端が凸辺状のやや歪みのある隅丸長方形に近い形状である。開口部2.70m×1.44m・深さ28cmである。

〈埋土〉 全体に堅い黒褐色～暗褐色のシルト質土で構成されており、1層中には比較的多量の焼土が集中して見られる。

〈壁・床〉 壁は外傾気味に立ち上がり、各辺の壁高は北壁21cm・北西壁22cm・南壁29cm・南東壁30cmである。床面は水平である。

〈柱穴〉 検出されなかった。

遺物（第59図、写真図版71～72）

〈出土状況〉 埋土中および底面付近から平安時代の土器が出土している。185～187は酸化炎焼成内黒の坏A類である。187は底部に再調整が見られる。その他は回転糸切り無調整である。188～196は酸化炎焼成非内黒の坏A類である。底部の観察可能なものでは全て回転糸切り無調整である。197・199は甕で199の底部には意図的な砂の付着が見られる。198は埴である。図化はできなかったが他に還元炎焼成の長頸壺、内外面に叩き目の残る酸化炎焼成の甕の破片が出土している。353は陶器の甕の破片で流れ込みによるものである。

〈所属時期〉 平安時代である。

RE03 竪穴状遺構

遺構（第27図、写真図版40）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24 Yグリッドの北西側に位置している。IV層面が検出面でV層の礫層まで掘り込まれて構築されている。RG02溝跡・RD022土坑より古い。上部は削平を受けている。北半は調査区外に延びている。

〈形状・規模〉 全容は明かでないが平面形は隅丸長方形を基調としたものでやや歪みがあり、東西辺は凸辺状となっている。開口部で $(5.0\text{m} + a) \times 3.9\text{m}$ ・深さ $20 \pm \text{cm}$ である。

〈埋土〉 しまりのある黒色のシルト質土が主体でこの黒色土の上部に部分的に耕作土が見られる。

〈壁・床〉 壁は外傾気味に立ち上がり、各辺の壁高の残存値は西壁17cm・南壁17cm・東壁9cm・北壁54cm（現況の畑地の畦面から）である。床面は礫層面で凹凸があるが全体に水平である。

〈柱穴〉 検出されなかった。

〈その他〉 当遺構の北東隅の壁際に70cm×66cm・深さ5cm程度の皿状の浅い落ち込みがあり、この部分から略完形の土器がまとまって出土している。

遺物（第60図、写真図版72）

〈出土状況〉 埋土下部および北東壁際の小土坑内から出土している。またRG02から出土している土器類はこの遺構に伴う可能性がある。全体に削平されて覆土も10cm±しか残存しておらず、これらもこの遺構にともなうものと思われる。北東隅の落ち込み部分及び床面付近から平安時代の土器が出土している。204以外は土坑からの一括出土資料である。200・201は酸化炎焼成内黒の坏A類である。200は判読不能であったが墨書の跡が見られる。底部全面および体部下端にヘラケズリが施されている。202～208は酸化炎焼成非内黒の坏B類である。207・208は特に大形で口縁部が内湾している。209は外面にナデ調整が施された還元炎焼成の壺である。これらの他に図化はできなかったが内外面に叩きの残る酸化炎焼成の甕が出土している。

〈所属時期〉 平安時代である。

RE04 竪穴状遺構

遺構（第26図、写真図版39）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24 Xグリッドの西側に位置している。III層黒色土面が検出面である。RD022より新しい。上面は削平を受けている。

〈形状・規模〉 平面形は楕円形、開口部4.85m×2.90m・深さ $20 \pm \text{cm}$ の規模である。

〈埋土〉 しまりのある黒色のシルト質土が主体で、この黒色土の上部に部分的に耕作土が見られる。

〈壁・床〉 壁は湾曲して外傾気味に立ち上がり、各辺の壁高の残存値は北壁23cm・西壁20cm・南壁23cm・東壁26cmである。床面は全体に水平である。東壁の張り出しは調査のミスで掘りすぎである。

〈柱穴〉 西側を除く壁際に12口・中央付近に2口が検出されている。

〈その他〉 RD022と重複する床の北半部分には貼床が施されている。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RE05 竪穴状遺構

遺構（第27図、写真図版41）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区25 X グリッドの南西側に位置している。IV層面が検出面である。RD036土坑より古い。また、RG07溝跡との直接的な重複関係は認められなかったがRG07よりも古い。

〈形状・規模〉 北側に浅い張り出し部分があるがこの部分を除くと平面形は方形、規模は2.7m×2.5m・深さ30±cmである。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土が主体である特に混入物当は見られなかったが埋土の下部はグライ化していた。人為堆積と考えられる。

〈壁・床〉 壁は外傾気味に直線的に立ち上がり、各辺中央部の壁高の残存値は北壁16cm（北側の張り出しの底面から）・西壁25cm・南壁30cm・東壁33cmである。床面は全体に水平である。

〈その他〉 柱穴とは認められないが床面から当遺構に伴うと思われる小土坑が6口検出されており、規模は次に示す通りであり深さは床面からの数値である。P1（78cm×68cm・深さ13cm）、P2（58cm×42cm・深さ7cm）、P3（86cm×54cm・深さ6cm）、P4（84cm×54cm・深さ5cm）、P5（102cm×62cm深さ16cm）、P6（58cm×32cm・深さ2cm）、P5の内部壁際から腐朽して取りあげは不可能であったが木枠の痕跡が認められた。

遺物（第67・70図、写真図版75・80）

〈出土状況〉 210は埋土上部から出土している酸化炎焼成非内黒、回転糸切り無調整の坏B類である。埋土上部～下部から陶磁器類（318～329）および床面直上からガラスの目薬瓶（542）が出土している。このなかで322・323・326・329は肥前産、328は瀬戸・美濃系の染付とされている。

〈所属時期〉 近現代と考えられる。

RE06 竪穴状遺構

遺構（第28図、写真図版41）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24 X グリッドの中央付近に位置しRA05と隣接している。III層下部漸移層が検出面である。RG06より新しい。

〈形状・規模〉 平面形は南北方向に長軸をもつ長方形、規模は開口部2.70m×1.12m・深さ30±cmである。

〈埋土〉 斑状の黄褐色土を含む黒褐色～暗褐色のシルト質土が主体で全体に焼土や炭化物が散在している。ある。底面全体に厚さ5cm±の粉状の炭化物が薄く堆積していた。人為堆積と考えられる。

〈壁・床〉 壁は直線的に立ち上がり、各辺中央部の壁高の残存値は北壁29cm・西壁26cm・南壁30cm・東壁29cmである。床面は水平である。

遺物（第60～61図、写真図版72）

〈出土状況〉 埋土および底面付近から土師器が出土している。211～215は酸化炎焼成内黒の坏A類である。215は底部および体部下端に再調整が加えられている。216は回転糸切り無調整、酸化炎焼成非内黒の坏B類である。217は底部砂底の甕である。図化はできなかったが叩きの残る酸化炎焼成の甕の破片が出土している。

〈所属時期〉 平安時代と考えられる。

RE07 竪穴状遺構

遺構（第28図、写真図版41）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24 X グリッドの中央よりやや南側に位置している。IV層面が検出面である。RG02溝跡より古い。

〈形状・規模〉 全容は明かでないが推定で平面形は膨らみのある方形基調と考えられる。残存部の規模は南北方向で1.95mで、深さは15cm±である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土が主体である。自然堆積と考えられる。

〈壁・床〉 壁は皿状に緩やかに立ち上がり、各辺中央部の壁高の残存値は北壁13cm・南壁9cm・東壁19cmである。床面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RE08 竪穴状遺構

遺構（第29図、写真図版43）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドの北西側に位置している。IV層面が検出面である。RE13竪穴状遺構より古い。

〈形状・規模〉 全容は明かでないが平面形は不整形、規模は開口部4.40m×3.35m・深さ35cm±である。

〈埋土〉 最下部に黄褐色砂質シルトが堆積し、上部に黒褐色～暗褐色のグライ化の見られるシルト質土が載る。人為堆積と思われる。

〈壁・床〉 壁は外傾気味に立ち上がり各辺中央部の壁高の残存値は北西壁47cm・北壁28cm・東壁36cm・南壁38cmである。床面は水平である。

遺物（第71図、写真図版75・80）

〈出土状況〉 図化はできなかったが回転糸切り坏B類の底部破片が出土している。床面より寛永通宝が1点（549）と陶器が1点（330）出土している。

〈所属時期〉 近世以降と思われる。

RE09 竪穴状遺構

遺構（第30図、写真図版42）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドの南西側に位置している。IV層面が検出面である。RG10溝跡より新しく、RE10竪穴状遺構とは同時存在の可能性もある。

〈形状・規模〉 平面形は南北方向に長軸を持つ不整楕円形、規模は開口部8.05m×4.30m・深さ20cm±である。

〈埋土〉 汚れた黄褐色砂質シルトの上にグライ化の黒褐色シルトが載る。

〈壁・床〉 壁は直線的に立ち上がり各辺中央部の壁高の残存値は北壁13cm・東壁29cm・東壁36cm・南壁17cmである。床面は水平である。西側に1.3m×0.8m・深さ24cmの小土坑が見られる。

遺物（第67・71図、写真図版80・84）

〈出土状況〉 埋土中位より判読不能であるが銭貨が1点出土している（550）。図化はできなかったが漆塗りの木胎容器の破片が出土している。331～339は陶磁器類でこの中で332～335・337・338は肥前産、339は相馬産とされている。

〈所属時期〉 近世以降と思われる。

RE10 竪穴状遺構

遺構（第30図、写真図版42）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドの南西側に位置している。IV層面が検出面である。RG10溝跡より新しく、RE09竪穴状遺構とは同時存在の可能性もある。

〈形状・規模〉 平面形は南北方向に長軸を持つ不整楕円形、規模は開口部6.30m×3.10m・深さ20cm±である。

〈埋土〉 RE09と同様の層相で、汚れた黄褐色砂質シルトの上にグライ化の黒褐色シルトが載る。

〈壁・床〉 壁は直線的に立ち上がり各辺中央部の壁高の残存値は北壁27cm・西壁20cm・南壁20cmである。床面は水平である。

遺物（第67図、写真図版75）

〈出土状況〉 図化はできなかつたが回転糸切り坏B類の底部破片と染付の小坏（341）が出土している。

〈所属時期〉 不明である。

RE11 竪穴状遺構

遺構（第28図、写真図版42）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドの北西側に位置している。IV層面が検出面である。

〈形状・規模〉 平面形は隅丸方形、規模は開口部3.55m×3.55m・深さ5cm±である。

〈埋土〉 全体に粒状の酸化鉄が散在する黒色のシルト質土である。

〈壁・床〉 壁は皿状に緩やかに立ち上がり各辺中央部の壁高の残存値は北壁5cm・西壁9cm・南壁9cm・東壁3cmである。床面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 図化はできなかつたが漆塗りの木胎容器の皮膜片が出土している。

〈所属時期〉 近世以降と考えられる。

RE12 竪穴状遺構

遺構（第28図、写真図版40）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区2 Xグリッドの北西側に位置している。IV層が検出面である。北側部分については制約上調査が不可能であった。竪穴状の部分とその東側にある鍵状の溝によって構成されている。

〈形状・規模〉 竪穴状部分の平面形は方形基調、規模は開口部3.5m×2.6m・深さ5cm±である。西壁部分にはこの遺構と同時存在と思われる170cm×84cm・深さ34cmの規模で平面形が楕円形の土坑がある。さらにこの土坑に隣接して東壁の外側に10cm程度の落ち込みが認められる。鍵状の部分は短い方で1.25m、長い方で3.15m、総延長4.4m、幅30cm～50cm・深さ5cm±である。

〈埋土〉 竪穴状の下層は褐色の砂質シルト、その上部にグライ化しはじめた黒褐色のシルト質土が堆積している。1・2層の境には酸化鉄の集積が見られる。鍵状の部分の埋土は竪穴状部分の上部に堆積している土層に類似している。

〈壁・床〉 壁は皿状に緩やかに立ち上がり各辺中央部の壁高の残存値は西壁10cm・南壁8cm・西壁8cmである。床面は水平である。

〈柱穴〉 鍵状遺構の南側に開口部60cm×46cm・深さ29cmの柱穴が検出されている。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 近世以降と考えられる。

RE13

遺構（第29図、写真図版44）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区1 Xグリッドに位置している。IV層面が検出面である。RE08竪穴状遺構より新しい。

〈形状・規模〉 平面形は不整形、規模は開口部3.95m×3.75mである。

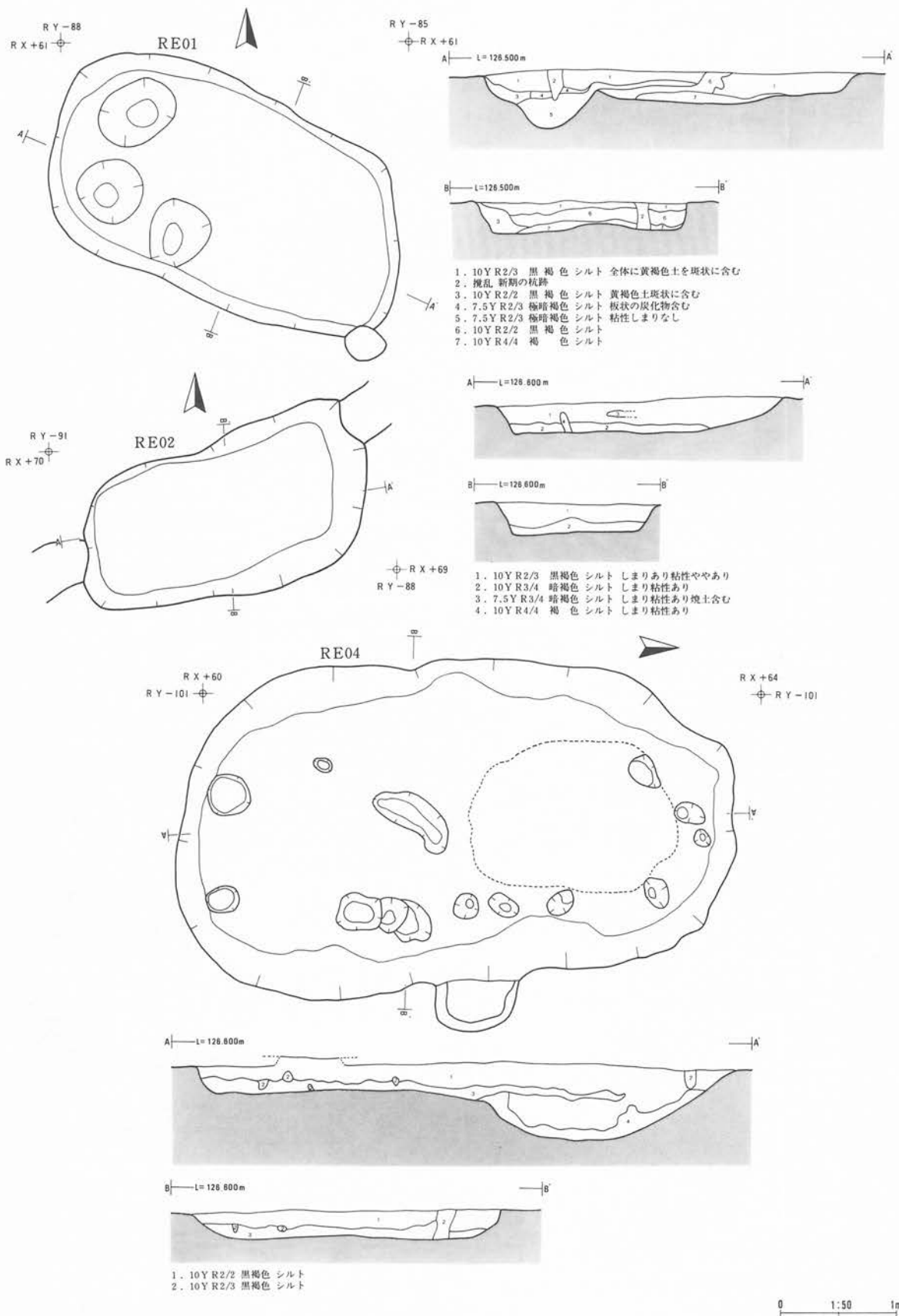
〈埋土〉 上部は黄褐色のシルト質土を含む黒褐色土、下部はしまりのない砂質シルト主体の土である。

〈壁・床〉 壁は皿状に緩やかに立ち上がり各辺中央部の壁高の残存値は北壁24cm・西壁12cm・南壁10cmである。床面は水平である。

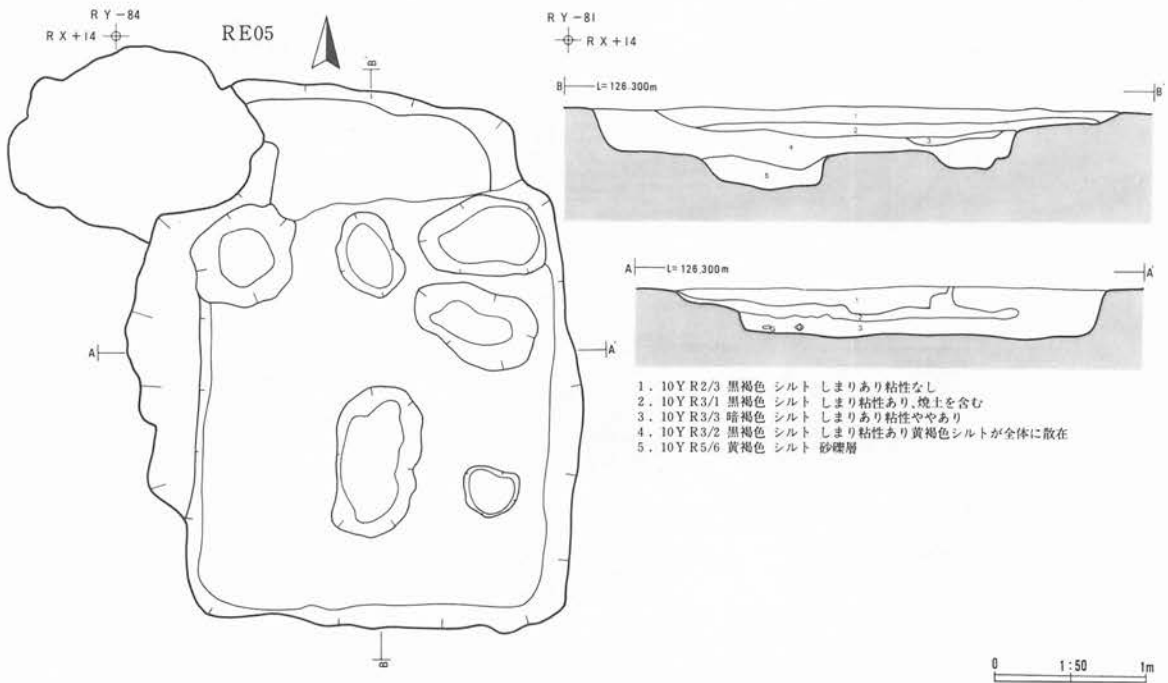
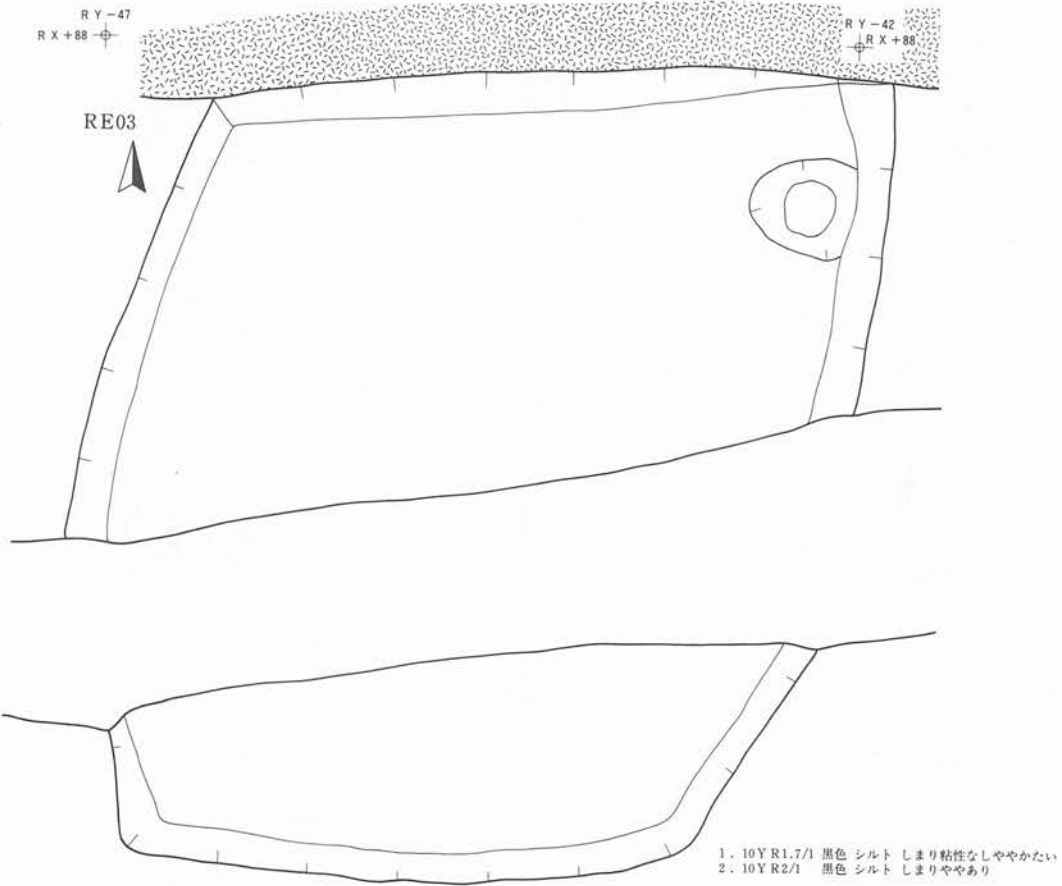
遺物

〈出土状況〉 図化はできなかったが漆塗りの木胎容器の皮膜片が出土している。

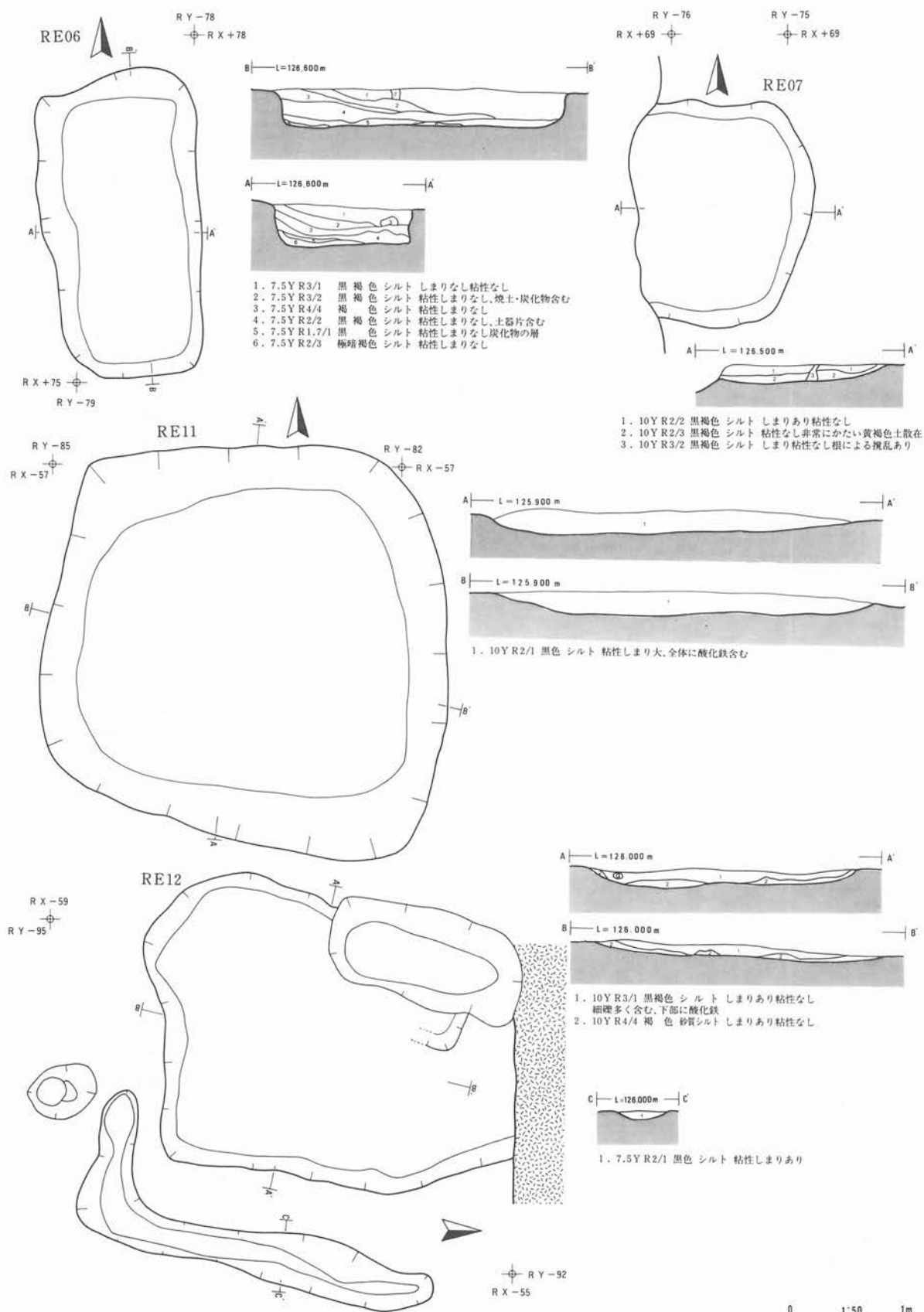
〈所属時期〉 近世以降と考えられる。



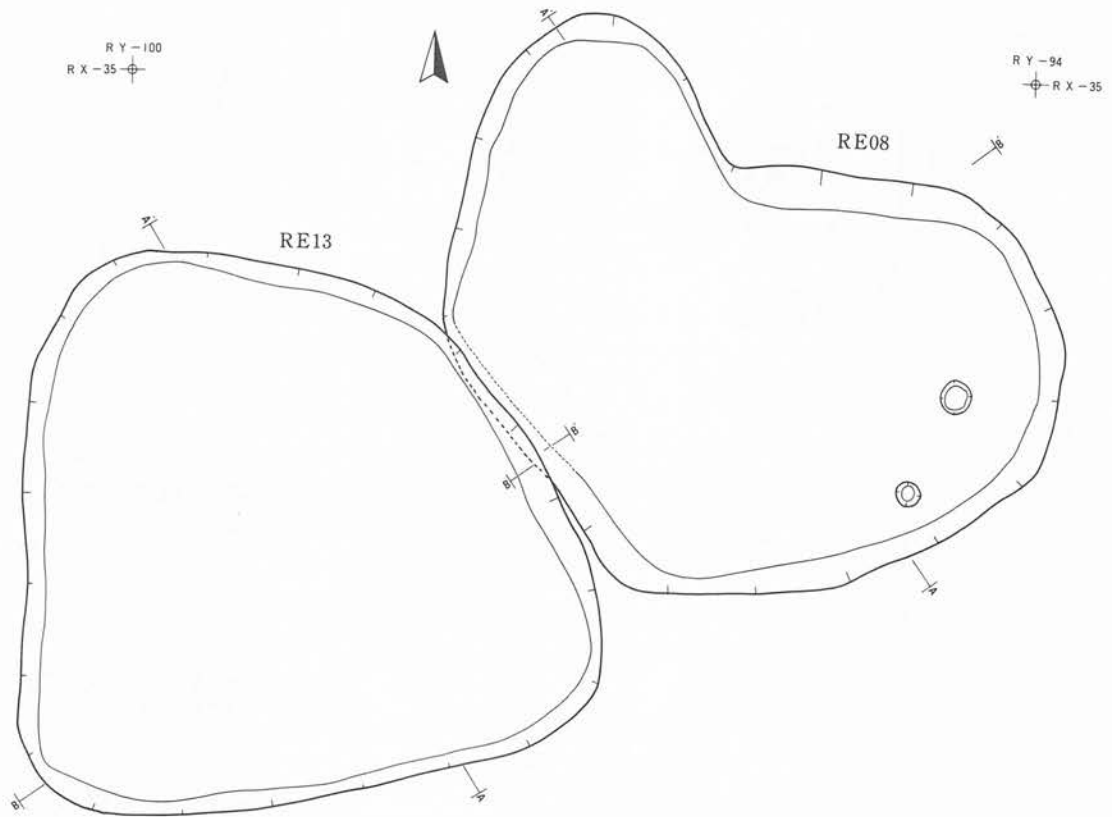
第26図 RE01・RE02・RE04



第27図 RE03・RE05



第28図 RE06・RE07・RE11・RE12



RE13

A | L = 126.100 m | A'



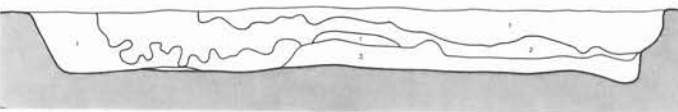
1. 10Y R3/1 黒褐色シルト しまり粘性ややあり
黄褐色土ブロック状に含む
2. 10Y R4/3 黄褐色 砂質シルト 粘性なししまりあり

B | L = 126.100 m | B'



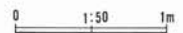
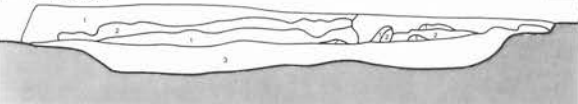
RE08

A | L = 126.100 m | A'

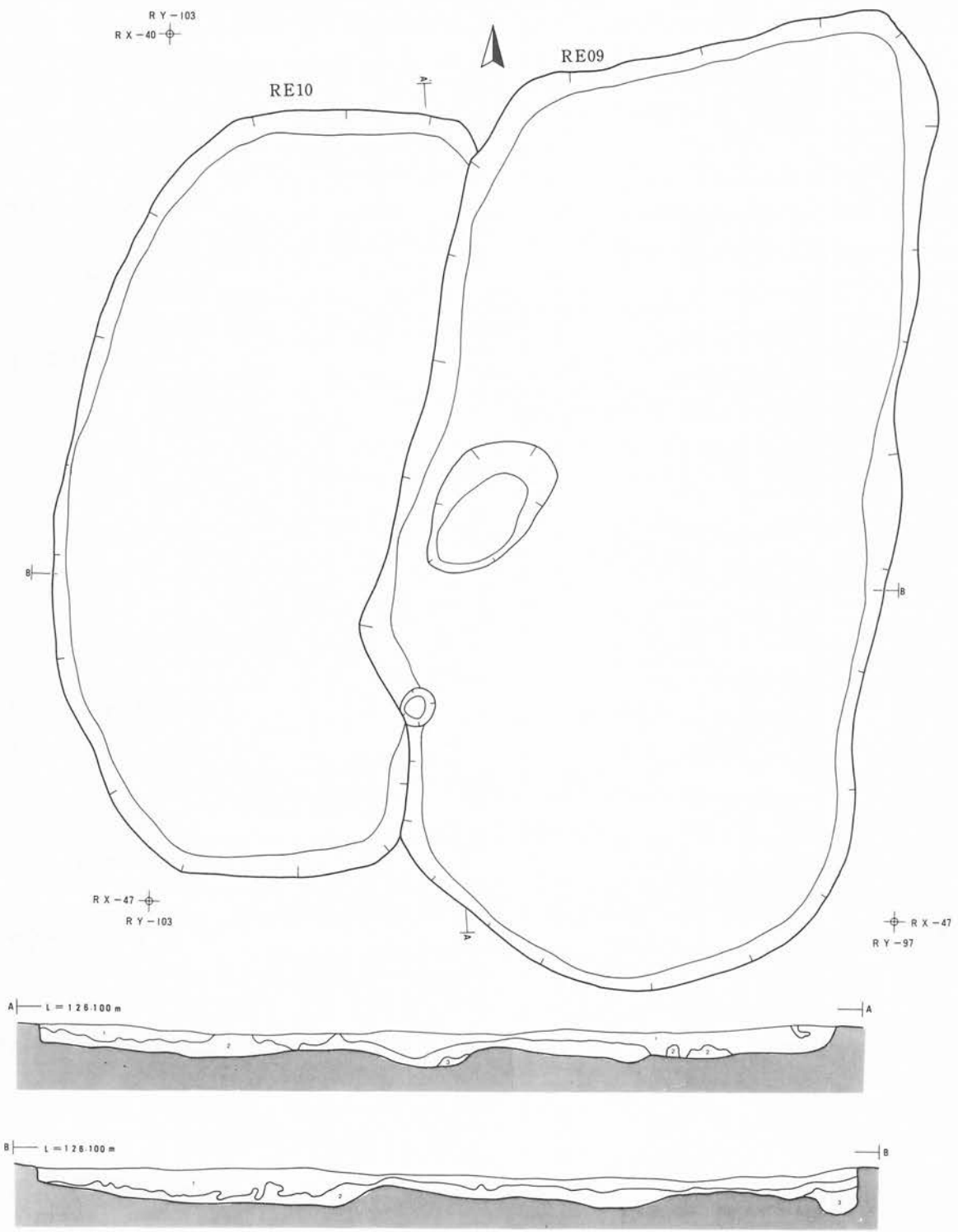


1. 10Y R2/3 黒・褐色シルト
粘性しまりあり黄褐色シルト2%含む
2. 10Y R3/3 暗褐色シルト
粘性しまりあり黄褐色シルト15%含む
3. 10Y R4/3 黄褐色 砂質シルト 粘性しまりあり

B | L = 126.100 m | B'



第29図 RE08・RE13



- 1. 10Y R2/3 黒 褐色 シルト 粘性ややありしりあり
- 2. 10Y R4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性ややありしりあり
黒褐色シルト酸化鉄微量混じる、小礫含む
- 3. 10Y R4/6 黒 褐色 シルト 粘性しりあり

0 1:50 1m

第30図 RE09・RE10

5. 炉・焼土遺構

焼土を埋土に多く含む遺構は全部で10基検出した。RF08を除く9基はA調査区24Wグリッドの東半に集中して位置している。

RF01 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版45）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Wグリッドの東側に位置する。水田床土下部のⅢ層面の黑色土中に褐色がかった黑色土の広がりとして検出した。

〈形状・規模〉 平面形は南北に細長い長円形、規模は170cm×60cmである。北半の膨らみを持つ部分はリング状に焼土が密に集積している。

〈埋土〉 Ⅲ層の黑色土を底面とし、その上に厚さ10cmで現地性焼土が形成され、その上部に焼土粒を多く含む黑色土がのっている。

〈断面〉 壁は内湾しながら外傾気味に立ち上がり底面は浅皿状である。

遺物

〈出土状況〉 焼土内および周辺からも遺物は出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RF02 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版45）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Wグリッドの東側に位置する。水田床土下部のⅢ層面の黑色土中に褐色がかった黑色土の広がりとして検出した。南端は若干試掘坑により破壊を受けている。プランに沿った北半の部分には特に焼土の集積が顕著である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は南北方向にやや長い不整形、規模は94cm×48cm・最深部14cmである。

〈埋土〉 Ⅲ層の黑色土を底面とし、その上に播り鉢状に焼土が形成されている。中央部分には炭化物を含む黑色土が載っている。

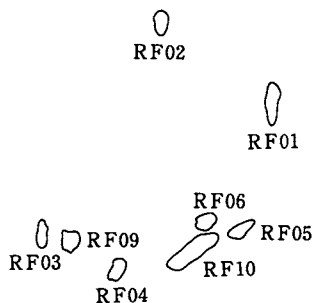
〈壁・底面〉 南側の壁は直線的に立ち上がり、底面はこの部分から北側にむかって緩やかに傾斜しながら立ち上がって行く。

RY-123
RX+85



RY-82
RX+85

○RF08



第31図 焼土遺構分布図(RF)

遺物

〈出土状況〉埋土内および周辺からも遺物は出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RF03 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版45）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Wグリッドの東側に位置する。水田床土下部のⅢ層面の黒色土中に褐色がかかった明褐色の焼土の広がりとして検出した。プランに沿って幅5cm部分が特に焼土の集積が顕著であった。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は南北方向に長い長円形、規模は114cm40cm・深さ6～10cmである。

〈埋土〉Ⅲ層の黒色土を底面とし、その上に多量の炭化物・焼土混じりの黒褐色土が形成されている。

〈壁・底面〉南北の両端は浅皿状に緩やかに立ち上がり中央部分で特に深くなっている。

遺物

〈出土状況〉埋土内および周辺からも遺物は出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RF04 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版45）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Wグリッドの東側に位置する。水田床土下部のⅢ層面の黒色土中に褐色がかかった明褐色の焼土の広がりとして検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は北東－南西方向に長軸を持つ不整形、規模は94cm×60cm・深さ14cmである。

〈埋土〉Ⅲ層の黒色土を底面としその上に多量の炭化物・焼土混じりの黒褐色土が形成されている。

〈壁・底面〉南北の両端は外傾気味に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉埋土内および周辺からも遺物は出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RF05 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版45）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Wグリッドの東側に位置する。水田床土下部のⅢ層面の黒色土中に褐色がかかった明褐色の焼土の広がりとして検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は北東－南西方向に長軸を持つ長円形、規模は122cm×60cm・深さ10cmである。

〈埋土〉Ⅲ層の黒色土を底面としその上に多量の炭化物・焼土混じりの黒褐色土が形成され、中央部分には黒褐色土が載っている。

〈壁・底面〉南北の両端は外傾気味に立ち上がり、底面にはやや凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉埋土内および周辺からも遺物は出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RF06 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版46）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Wグリッドの東側に位置する。水田床土下部のⅢ層面の黒色土中に褐色がかった明褐色の焼土の広がりとして検出した。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は不整形、規模は80cm×76cm・深さ40cmである。

〈埋土〉 Ⅲ層の黒色土を底面としその上に焼土層が形成され、さらに凹状に黒褐色土堆積し窪み部分に焼土を含む暗褐色土が載る。

〈壁・底面〉 南北の両端は外傾気味に立ち上がり、底面にはやや凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉 埋土内および周辺からも遺物は出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RF07 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版46）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Wグリッドの東側に位置する。水田床土下部のⅢ層面の黒色土中に褐色がかった明褐色の焼土の広がりとして検出した。東端に礫が1個見られたが特に熱を受けた痕跡は認められなかった。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形はほぼ東西に細長い長円形、規模は216cm×78cm・深さ28cmである。

〈埋土〉 Ⅲ層の黒色土を底面とし間に炭化物を含む褐色の粘土質シルトを挟み上下に焼土層が形成されている。

〈壁・底面〉 東西の両端は外傾気味に緩やかに立ち上がり、底面にはやや凹凸がある。

遺物

〈出土状況〉 埋土内および周辺からも遺物は出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RF08 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版46・47）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区24Xグリッドの西半に位置する。Ⅳ層面の褐色土中に褐色がかった明褐色の焼土の広がりとして検出した。南東側の開口部付近の壁にはプランに沿うように他から持ち込んだ黄褐色の粘土質シルトを貼りつけている。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は北西－南東方向にやや膨らみを持つ、略円形、規模は102cm×96cm・深さ56cmである。

〈埋土〉 Ⅳ層の褐色土面を底面としている。最下層には粘性のある粘土質シルトが堆積し、上部には投棄されたとと思われる焼土や炭化物を多く含む黒褐色～暗褐色の土が見られる。人為堆積と思われる。

〈壁・底面〉 壁は垂直気味に直線的に立ち上がり底面は水平である。

遺物（第61図、写真図版72）

〈出土状況〉特に埋土内の3層から投棄されたとされる焼土とともに土器片が出土している。219・220は底部回転糸切り無調整、酸化炎焼成非内黒の坏B類である。218・221・222は甕である。222の底部は砂底である。

〈所属時期〉平安時代である。

RF09 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版47）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Wグリッドの東半に位置する。Ⅲ層面の黒色土中に褐色がかった明褐色の焼土の広がりとして検出した。開口部の壁際にはプランに沿うように特にかたい焼土の分布が見られた。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は不整形、規模は96cm×74cm・深さ16cmである。

〈埋土〉Ⅲ層の黒色土層を底面としている。焼土がレンズ状に堆積し中央部分には焼土を少量含む黒褐色土が載っている。

〈壁・底面〉壁は垂直気味に直線的に立ち上がり、底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RF10 焼土遺構

遺構（第32図、写真図版47）

〈検出状況・重複関係〉A調査区24Wグリッドの東半に位置する。Ⅲ層面の黒色土中に褐色がかった明褐色の焼土の広がりとして検出した。北西端の膨らみの部分には、眼鏡状の焼土の集積が見られる。

〈形状・開口部規模・深さ〉平面形は北東-南西方向に細長い長円形、規模は228cm×72cm・深さ16cmである。

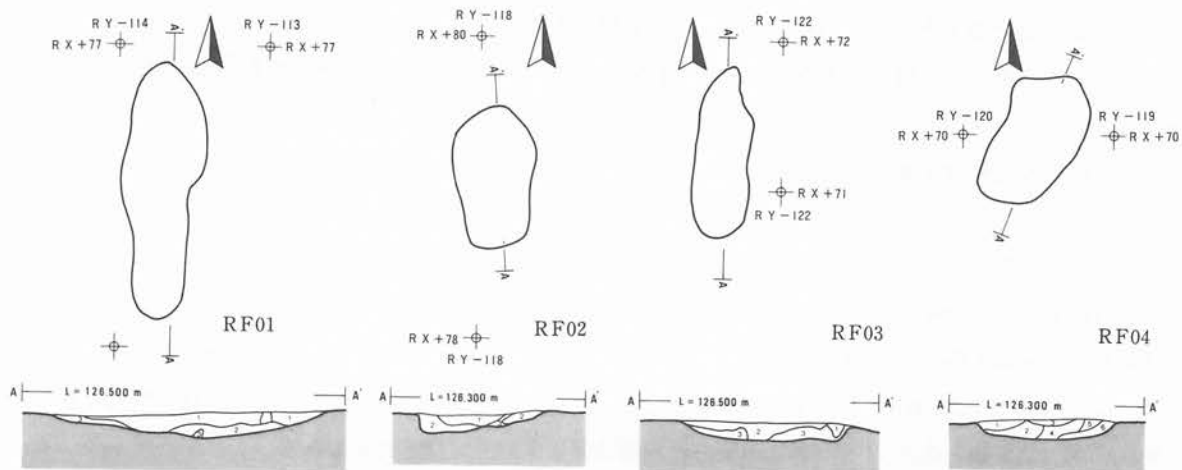
〈埋土〉Ⅲ層の黒色土層を底面としている。黒褐色土を挟み上下に焼土が分布している。

〈壁・底面〉壁は垂直気味に直線的に立ち上がり底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

〈所属時期〉不明である。

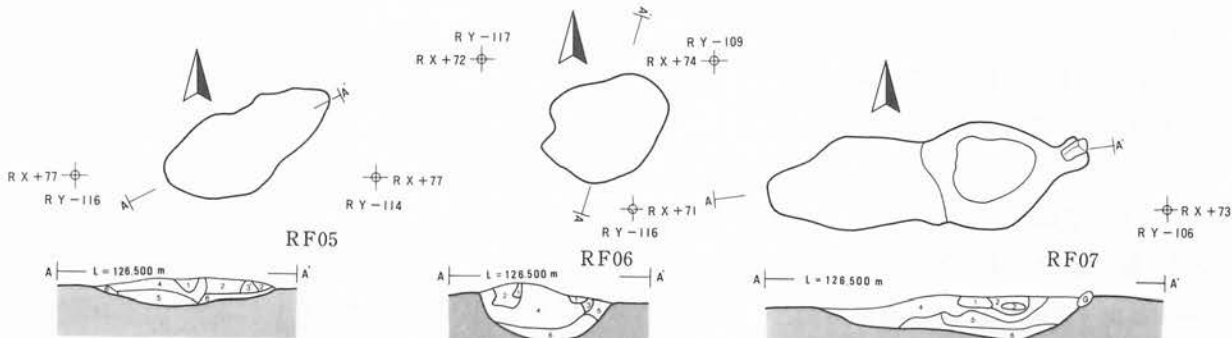


- RF01
1. 10Y R1.7/1 黒色シルト しまり粘性ややあり 焼土散在
 2. 7.5Y R4/6 褐色シルト 焼土層
 3. 10Y R1.7/1 黒色シルト 粘性しまりあり

- RF02
1. 10Y R2/1 黒色シルト 粘性ややあり 炭化物含む
 2. 7.5Y R3/4 暗褐色シルト 焼土層
 3. 10Y R1.7/1 黒色シルト 粘性しまりあり

- RF03
1. 7.5Y R5/8 明褐色 焼土層 しまりあり粘性なし
 2. 10Y R3/1 黒褐色シルト 炭化物・焼土含むしまりあり粘性ややあり
 3. 10Y R1.7/1 黒色シルト 粘性ややあり

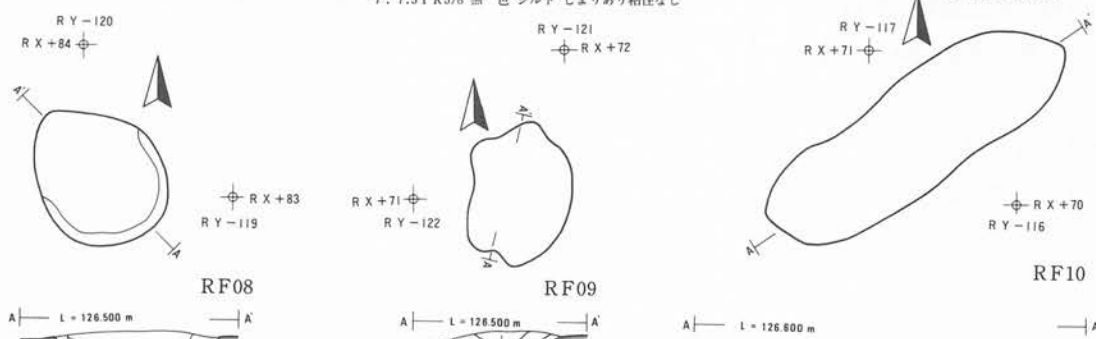
- RF04
1. 7.5Y R5/8 明褐色 焼土層 しまりあり粘性なし
 2. 10Y R3/1 黒褐色シルト 炭化物・焼土含むしまりあり粘性ややあり
 3. 10Y R1.7/1 黒色シルト 粘性ややあり



- RF05
1. 10Y R2/3 黒褐色シルト しまりあり粘性なし
 2. 10Y R2/3 黒褐色シルト しまりあり粘性なし 焼土含む
 3. 10Y R2/1 黒色シルト 粘性なし
 4. 10Y R2/3 黒褐色シルト しまりあり粘性なし 焼土散在
 5. 10Y R5/8 明褐色シルト しまりあり粘性なし
 6. 10Y R1.7/1 黒色シルト しまりあり粘性ややあり

- RF06
1. 7.5Y R5/8 明褐色シルト しまりあり粘性なし
 2. 7.5Y R3/4 暗褐色シルト しまりあり粘性なし
 3. 10Y R2/3 黒褐色シルト しまりあり粘性ややあり
 4. 10Y R2/2 黒褐色シルト 粘性ややあり
 5. 10Y R2/1 明褐色シルト しまりあり粘性なし
 6. 7.5Y R3/4 黒褐色シルト しまりあり粘性なし 焼土・炭化物を含む
 7. 7.5Y R5/8 黒色シルト しまりあり粘性なし

- RF07
1. 10Y R2/3 黒褐色シルト しまりあり粘性ややあり焼土含む
 2. 10Y R2/2 黒褐色シルト しまりあり粘性なし
 3. 10Y R3/3 暗褐色シルト しまり粘性あり
 4. 10Y R2/2 黒褐色シルト しまりあり粘性ややあり 焼土斑状を含む
 5. 7.5Y R5/8 明褐色 粘土質シルト しまりあり粘性あり 炭化物含む
 6. 10Y R2/3 黒褐色シルト しまりあり粘性あり 焼土・炭化物を含む



- RF08
1. 10Y R3/2 黒褐色シルト しまりあり粘性ややあり 黄褐色砂質シルトブロック状を含む
 2. 10Y R2/2 黒褐色シルト しまり粘性なし、焼土少量含む
 3. 7.5Y R5/6 明褐色シルト しまり粘性あり、土器片多量を含む
 4. 10Y R4/4 褐色シルト 粘性ありしまりなし、黄褐色土と黒褐色土の混土
 5. 7.5Y R3/4 暗褐色シルト しまりなし粘性あり炭化物含む
 6. 10Y R2/2 黒褐色シルト しまりなし粘性ややあり 黄褐色砂質シルトブロック状を含む
 7. 10Y R3/2 黒褐色 粘土質シルト しまり粘性あり
 8. 10Y R3/4 暗褐色シルト しまりなし粘性ややあり
 9. 10Y R5/6 黄褐色シルト しまり粘性なし

- RF09
1. 10Y R2/2 黒褐色シルト 粘性ややあり 焼土少量含む
 2. 10Y R2/2 黒褐色シルト しまり粘性なし、焼土散在
 3. 7.5Y R5/8 明褐色シルト しまり粘性なし 焼土層
 4. 10Y R1.7/1 黒色シルト 粘性なし
 5. 10Y R2/2 黒褐色シルト しまりなし 粘性ややあり

- RF10
1. 10Y R3/4 暗褐色シルト
 2. 7.5Y R5/8 明褐色シルト
 3. 7.5Y R3/1 黒褐色シルト
 4. 7.5Y R4/4 褐色シルト 炭化物含む
 5. 10Y R2/2 黒褐色シルト
 6. 7.5Y R3/1 黒褐色シルト

0 1:50 1m

第32図 焼土遺構RF01~10

6. 溝跡

計26条の溝が検出された。

RG01 溝跡

遺構（第33図、写真図版48）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区の24 Xグリッドの南東側に位置している。I層の耕作土除去後第IV層面で検出した。耕作の溝等で一部破壊を受けている。走行は北西－南東方向で全長27.3mにわたり検出され、南東方向については調査区外に延びており、北西方向の延長については追跡できなかった。途中で緩やかなカーブを描いている。

〈規模〉 上端幅は50cm ± ・ 下端幅30cm ± ・ 深さ5～30cmで、横断面形はU字状である。両端のレベル差は5cm程度で、南西端がやや低くなっているが全体に底面は水平である。

〈埋土〉 耕作土に類似した黒褐色のシルト質土である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 区画を目的とした溝で、近現代と思われる。

RG02 溝跡

遺構（第34図、写真図版49・50）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区の24 Y・24 Xグリッド、B調査区25 Xグリッドの広範囲にわたって検出された。調査当初は別々の独立した溝と考えていたが、精査の進行でコーナー部分が見つかったことから一連の溝であることが判明した。RE03・RE07竪穴状遺構・RG06溝跡・RD025・RD067土坑より新しく、RG08・RD005より古い。全体に方形状の溝であり、今回の調査では北辺・西辺・南辺の一部・北西コーナー・南西コーナーを調査しただけである。南辺は航空写真などから現在の用水路と一致していることが判読された。東西辺・南北辺の走行はグリッド線と一致している。東西に走る北辺は約50mにわたり検出され、東端は土取り穴等で破壊を受けている。また南西コーナーから続く南辺の東端も攪乱で破壊を受けている。

〈規模〉 上端幅は150cm ± ・ 下端幅50cm ± ・ 深45cm ± で横断面形は逆台形状である。高低差はほとんどなく底面は水平である。

〈埋土〉 黒～黒褐色のシルト質土で自然堆積である。底面付近の両壁付近には壁の崩落土と思われるIV層起源の土の堆積が見られる。

遺物（第61図、写真図版72・73）

〈出土状況〉 平安時代の土器が出土しているが、出土の場所が北辺の東端・西辺の住居跡分布付近であり、これらの遺物は近隣にある平安時代の遺構に関連する遺物の流れ込みと考えられる。図化したものはRE03の重複部分および東側から出土しており、RE03竪穴状遺構に帰属する可能性が高い。223・224は酸化炎焼成内黒の坏A類、225は還元炎焼成坏C類である。226はロクロ成形の小形の甕である。227は砥石で全ての面に使用痕が見られる。

〈所属時期〉 区画を目的とした溝である。具体的な時期については特定できないが、「寛永通宝」が出土した土坑や近世の染付を含む攪乱土坑、現代の物を含む攪乱土坑よりは古く位置づけられる。

RG03 溝跡

遺構（第33図、写真図版51）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区の24 X・24 Yグリッドに位置している。I層の耕作土除去後第IV層面で検出された。全体に削平を受けており、溝の底面付近が残存した状況である。走行は東西方向で、全長33.2mにわたり検出され、RG02の北辺と並行している。RG04・RG06溝跡・RD011・RD013・RD018土坑より古い。

〈規模〉 上端幅は60～90cm±・下端幅25～56cm±・深さ15cm±で横断面形は浅皿状である。レベル差はほとんどなく、全体に底面は水平である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土である。

遺物（第61図、写真図版73）

〈出土状況〉 埋土から平安時代の土器が出土している。228は回転糸切り無調整で酸化炎焼成内黒の坏A類である。229は内外面に叩きのある還元炎焼成の甕である。他に図化できなかったが酸化炎焼成非内黒の坏B類が出土している。

〈所属時期〉 平安時代の土器を出土していることや、RG06溝跡より古いことなどから平安時代の溝と考えられる。

RG04 溝跡

遺構（第33図、写真図版51）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区の24 Xグリッドに位置している。I層の耕作土除去後第IV層面で検出された。全体に削平を受けている。走行は東西方向で、全長22.3mにわたり検出された。RG03溝跡より新しく、RD021土坑・RG02溝跡より古い。

〈規模〉 上端幅は70～105cm±・下端幅40～60cm±・深さ12cm±で横断面形は浅皿状である。レベル差はほとんどなく、全体に底面は水平である。

〈埋土〉 黒褐色のシルト質土である。

遺物

〈出土状況〉 埋土中より出土している。図化できたものはなかったが酸化炎焼成非内黒、酸化炎焼成非内黒底部回転糸切り無調整の坏B類が出土している。340は陶器である。

〈所属時期〉 不明である。

RG05 溝跡

当初、単独の溝として調査を行っていたがその後RG02溝と一連のものであることが判明し、この遺構名については削除する。

RG06 溝跡

遺構（第35図、写真図版52）

〈検出状況・重複関係〉 A調査区の24 Xグリッドに位置している。I層の耕作土除去後Ⅲ層・Ⅳ層面で検出された。全体に削平を受けている。走行は南西―北東方向で、全長約42mにわたり検出された。RD062・RD074土坑より新しく、RG02溝跡・RE06・RE02竪穴状遺構より古い。

〈規模〉 上端幅は45cm±・下端幅35cm±・深さ5～10cm±で、横断面形は逆台形状である。レベル差はほとんどなく、全体に底面は水平である。

〈埋土〉黄褐色の砂質シルトを斑状に含む黒褐色のシルト質土が主体である。

遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

〈所属時期〉重複関係から平安時代以前と考えられる。

RG07 溝跡

遺構（第33図、写真図版53）

〈検出状況・重複関係〉B調査区の25X・1Xグリッドに位置している。I層の耕作土除去後IV層面で検出された。全体に削平を受けている。走行は北西―南東方向で、全長約16.2mにわたり検出された。

〈規模〉上端幅は50cm±・下端幅20cm±・深さ15cm±で、横断面形は逆台形状である。レベル差はほとんどなく、全体に底面は水平である。

〈埋土〉黒褐色～暗褐色のシルト質土である。

遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RG08 溝跡

遺構（第33図、写真図版53）

〈検出状況・重複関係〉A調査区の24Xグリッドに位置している。I層の耕作土除去後IV層面で検出された。全体に削平を受けている。走行はほぼ東西方向で、全長約17.4mにわたり検出された。RG02溝跡より新しい。

〈規模〉上端幅は35cm±・下端幅15cm±・深さ5～10cm±で、横断面形は浅皿状である。レベル差はほとんどなく、底面は全体に水平である。

〈埋土〉黒褐色～暗褐色のシルト質土である。

遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RG09 溝跡

遺構（第36図、写真図版54）

〈検出状況・重複関係〉C調査区の1X・2Wグリッドに位置している。I層の耕作土除去後IV層面で検出された。全体に削平を受けている。走行はほぼ北東―南西方向で、全長約47.4mにわたり検出された。

RG10溝跡より新しい。両端は調査区外に延長しており、鈴木氏宅の敷地内を含めると図面上では95.3mの長さとなる。〈規模〉上端幅は40cm±・下端幅15～20cm±・深さ40cm±で横断面形はU字状で壁は垂直気味に立ち上がっている。両端部のレベル差は約15cmほどで南西側に向かって低くなっている。

〈埋土〉黒～黒褐色のシルト質土が主体で部分的に底面に薄く砂の堆積が認められる。

遺物

〈出土状況〉遺物は出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RG10 溝跡

遺構（第36図、写真図版55・56）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区の1 X・2 Wグリッドに位置している。I層の耕作土除去後II・IV層面で検出された。走行はほぼ北東-南西方向で、途中で南西方向に緩やかにカーブし、全長約45mにわたり検出された。RG09溝跡・RE10・RE09竪穴状遺構より古い。両端は調査区外に延長している。

〈規模〉 上端幅は70～150cm±・下端幅45cm±・深さ30cm±で、横断面形は逆台形状を呈し、壁は外傾気味に立ち上がっている。両端部のレベル差は約10cmほどで、南西側に向かって低くなっている。

〈埋土〉 黒～黒褐色のシルト質土が主体で、部分的に底面に薄く砂の堆積が認められる。また埋土上部にレンズ状に灰白色火山灰が認められる。

遺物（第62・67図、写真図版73・75）

〈出土状況〉 火山灰の上位から平安時代の土器が出土している。230～235は酸化炎焼成非内黒の坏B類である。底部が観察できたものは全て回転糸切り無調整である。図化でなかったが酸化炎焼成内黒の坏A類も出土しているが、圧倒的に坏B類が卓越している。流れ込みと思われるが肥前産の染付が1点（341）出土している。

〈所属時期〉 平安時代と思われる。埋土に壁の崩落土が認められないことや砂の堆積が見られること、埋土の最下部の土が一部グライ化していることなどから水流を目的とした溝と考えられる。

RG11 溝跡

遺構（第35図、写真図版54）

〈検出状況・重複関係〉 F調査区の1 Uグリッドに位置している。I層の耕作土除去後II層面で検出された。走行はほぼ北西-南東方向で、全長約3.3mにわたり検出された。

〈規模〉 上端幅は90～125cm±・下端幅60～90cm±・深さ15cm±で、横断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。両端部のレベル差はほとんどなく、底面は水平である。

〈埋土〉 黒褐色～暗褐色のシルト質土が主体で黄褐色の砂質シルトが含まれる。

遺物（第62図、写真図版73）

〈出土状況〉 埋土中から出土している。236は酸化炎焼成内非黒の坏B類である。底部については摩滅が著しく回転糸切りの痕跡が僅かに認められる程度で、再調整の有無については判定できなかった。他に酸化炎焼成内黒で底部回転糸切り無調整の坏A類や回転糸切り無調整で酸化炎焼成非内黒の坏Aの破片も認められた。

〈所属時期〉 不明である。

RG12 溝跡

遺構（第35図、写真図版57）

〈検出状況・重複関係〉 G調査区の1 Vグリッドに位置している。II層の耕作土除去後III層面で検出された。走行はほぼ南北方向で全長約25.1mにわたり検出された。RG14より古い。

〈規模〉 上端幅は105～115cm±・下端幅20～15cm±・深さ15～25cm±で、横断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。両端部のレベル差は5cm程度で南側がやや低くなっている。

〈埋土〉 II層起源の褐色の砂質シルトである。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RG13 溝跡

遺構（第35図、写真図版57）

〈検出状況・重複関係〉 G調査区の1Vグリッドに位置している。II層の耕作土除去後III層面で検出された。走行はほぼ東西方向で、全長約9.6mにわたり検出された。

〈規模〉 上端幅は25～36cm・下端幅24～30cm±・深さ10cm±で、横断面形はU字状を呈し、壁は外傾気味に立ち上がっている。両端部のレベル差は16cm程度で、自然地形に沿って東側がやや低くなっている。

〈埋土〉 II層起源の暗褐色～褐色の砂質シルトである。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RG14 溝跡

遺構（第35図、写真図版58）

〈検出状況・重複関係〉 G調査区の2Vグリッドに位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行はほぼ南西～北東方向で、全長約5.7mにわたり検出された。

〈規模〉 上端幅は150～180cm・下端幅105～146cm±・深さ5cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差は06cm程度で南西端がやや低くなっている。

〈埋土〉 II層起源の暗褐色～褐色の砂質シルトである。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RG15 溝跡

遺構（第38図、写真図版58）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区に位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行は南北～東西方向の鍵状で、全長約15.1mにわたり検出された。RG16溝跡より古い。

〈規模〉 上端幅は50～75cm・下端幅20～45cm±・深さ5～23cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はほとんどなく水平である。

〈埋土〉 II層起源の暗褐色～褐色の砂質シルトである。

遺物（第62図、写真図版73）

〈出土状況〉 237は回転糸切り無調整で酸化炎焼成非内黒の坏B類である。

〈所属時期〉 不明である。

RG16 溝跡

遺構（第38図、写真図版59）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区に位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行はほぼ北西-南東方向で、全長約9.5mにわたり検出された。

〈規模〉 上端幅は58~80cm・下端幅38~48cm±・深さ17~27cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベルは差10数cmで南側がやや低くなっている。

〈埋土〉 II層起源の暗褐色~褐色の砂質シルトである。

遺物

〈出土状況〉 図化はできなかったが酸化炎焼成非内黒の坏B類が出土している。

〈所属時期〉 不明である。

RG17 溝跡

遺構（第38図、写真図版59）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区に位置している。RG16溝跡の下位から検出された。走行はほぼ北西-南西方向で全長約9.5mにわたり検出された。

〈規模〉 上端幅は58~80cm・下端幅38~48cm±・深さ17~27cm±で横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差は10数cmで南側がやや低くなっている。

〈埋土〉 II層起源の暗褐色~褐色の砂質シルトである。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RG18 溝跡

遺構（第37図、写真図版59）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区に位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行は北東-南西方向で、全長約15.7mにわたり検出され、ほぼ直線的である。一部試掘坑により破壊されている。RG16溝跡より新しい。

〈規模〉 上端幅は84~100cm・下端幅36~54cm±・深さ23~32cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。。

〈埋土〉 II層起源の黒褐色の砂質シルトである。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RG19 溝跡

遺構（第37図、写真図版59）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区に位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行は北東-南西方向で、全長約11.0mにわたり検出され、緩やかに蛇行している。一部攪乱坑により破壊されている。

RG16溝跡より新しい。

〈規模〉 上端幅は45～35cm・下端幅18～32cm±・深さ5cm±で横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。

〈埋土〉 II層起源の黒褐色の砂質シルトが主体で黒色土を斑状に含む。

遺物

〈出土状況〉 図化できなかったが酸化炭焼成非内黒の坏B類が出土している。

〈所属時期〉 不明である。

RG20 溝跡

遺構（第37図、写真図版60）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区に位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行は北東—南西方向で、全長約20.7mにわたり検出され、ほぼ直線的である。一部試掘坑により破壊されている。

RG16溝跡より新しい。

〈規模〉 上端幅は40～48cm・下端幅22～36cm±・深さ20cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。

〈埋土〉 II層起源の黒褐色の砂質シルトが主体である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RG21 欠番扱いとする。

RG22 溝跡

遺構（第38図、写真図版60）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区に2Wグリッドに位置している。I層の耕作土除去後IV層面で検出された。走行は北東—南西方向で、全長約11.4mにわたり検出された。底面は礫層面である。

〈規模〉 上端幅は88～175cm・下端幅158～56cm±・深さ15cm±で横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。

〈埋土〉 II層起源の褐色の砂質シルトが主体である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 不明である。

RG23 溝跡

遺構（第38図、写真図版61）

〈検出状況・重複関係〉 H調査区2Tグリッドに位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行は北西—南東方向で、全長約6.3mにわたり検出された。溝の一部と考えられ溝として精査を行った。

〈規模〉 上端幅は50cm・下端幅30cm±・深さ20cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はそ

れほどなく、底面は水平である。

〈埋土〉Ⅱ層起源の黒褐色の砂質シルトが主体である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RG24 溝跡

遺構（第38図、写真図版21）

〈検出状況・重複関係〉H調査区2 Tグリッドに位置している。Ⅰ層の耕作土除去後Ⅱ層中で検出された。走行は北西－南東方向で、全長約3.3mにわたり検出された。溝の一部と考えられ溝として精査を行った。

〈規模〉上端幅は74～95cm・下端幅38～68cm±・深さ10cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。

〈埋土〉Ⅱ層起源の黒褐色の砂質シルトが主体である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RG25 溝跡

遺構（第38図、写真図版62）

〈検出状況・重複関係〉H調査区2 Tグリッドに位置している。Ⅰ層の耕作土除去後Ⅱ層中で検出された。走行は北西－南東方向で、全長約3.4mにわたり検出された。溝の一部と考えられ溝として精査を行った。

〈規模〉上端幅は62～92cm・深さ5～10cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。

〈埋土〉Ⅱ層起源の黒褐色の砂質シルトが主体である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

RG26 欠番扱いである。

RG27 溝跡

遺構（第37図、写真図版63）

〈検出状況・重複関係〉H調査区2 Tグリッドに位置している。Ⅰ層の耕作土除去後Ⅱ層中で検出された。走行は東西方向で、全長約27.3mにわたり検出された。RG28より新しい。

〈規模〉上端幅は210～250cm・下端幅40～60・深さ100～12cm±で、横断面形は逆台形状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。壁は直線的に外傾しており、断面形は葉研掘状である。

〈埋土〉底面にやや薄く砂の層がみられる。埋土は両壁の遺構掘り込みの層が逆転した状態で堆積している。埋土下部にはⅡ層起源の砂質シルト、黄褐色土上部にはⅢ層起源の黒色土が堆積しており、これらの上部に

灰白色火山灰が認められる。

遺物（第62～64図、写真図版73～74）

〈出土状況〉主に火山灰の上部から平安時代の土器が出土している。流れ込みの可能性も十分に考えられるが遺物の特徴に類似性が高く一括廃棄も考えられる。239～242は静止糸切り無調整で酸化炎焼成内黒の坏A類である。4点とも底部は上げ底気味で体部下端に再調整の痕が見られる。243～263は酸化炎焼成非内黒の坏B類である。底部は261の静止糸切り無調整のもの以外は回転糸切り無調整である。これらの多くは器高が低く外傾角度も小さく、またロクロ成形による凹凸が顕著である共通性が見られる。265～267は「ハ」字状の高台が付いた酸化炎焼成非内黒の高台付坏である。263は非ロクロ成形の小形の甕で器壁は非常に薄く粘土の輪積み痕が明瞭である。図化はできなかったが他に回転糸切り無調整で酸化炎焼成内黒の坏A類、酸化炎焼成非内黒坏B類、還元炎焼成の甕が出土している。坏類では量的には圧倒的にB類が卓越している。

〈所属時期〉平安時代と考えられる。

RG28 溝跡

遺構（第37図、写真図版62）

〈検出状況・重複関係〉H調査区2 Tグリッドに位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行は北西－南西方向で、大きくカーブを描き全長約10.2mにわたり検出された。RG27溝跡より古い。

〈規模〉上端幅は230～235cm・下端幅100～150・深さ15～35cm±で横断面形は浅皿状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。

〈埋土〉黒褐色～暗褐色のシルト質土である。

遺物（第64・67図、写真図版74・76）

〈出土状況〉埋土中より出土している。269・270とも回転糸切り無調整で酸化炎焼成非内黒の坏B類である。図化できなかったが回転糸切り無調整で酸化炎焼成内黒の坏A類も少数出土している。342は陶器甕の底部である。流れ込みと思われる。

〈所属時期〉平安時代と思われる。

RG29 溝跡

遺構（第38図、写真図版29）

〈検出状況・重複関係〉H調査区2 Tグリッドに位置している。I層の耕作土除去後II層中で検出された。走行は北西－南西方向で、全長約4.5mにわたり検出した。RX01遺構より古い。

〈規模〉上端幅は30cm・深さ5～20cm±で横断面形はU字状である。両端部のレベル差はそれほどなく、底面は水平である。

〈埋土〉黒褐色～暗褐色のシルト質土である。

遺物

〈出土状況〉出土していない。

〈所属時期〉不明である。

7. 集配石遺構

RH01 集石遺構

遺構（第39図、写真図版47）

〈検出状況・重複関係〉 B調査区 1 Xグリッドの北西端に位置する。IV層が検出面である。精査当初の段階では特に意識的に石を組み合わせた様子は見られなかったが、この周辺にこのような石が認められず明らかに人為的にこれらの石が持ち込まれており、断面観察では柱穴状の明瞭な掘り方が認められたことなどから遺構として扱った。

〈形状・開口部規模・深さ〉 直径24cm・深さ30cmのあまりの柱穴状の小ピットの上部に拳大～15cm前後の亜円礫が集中して見られた。この小ピットの上部の側壁には意識的に縦長の石が埋置されている。これらの礫には熱を受けたような痕跡は認められなかった。

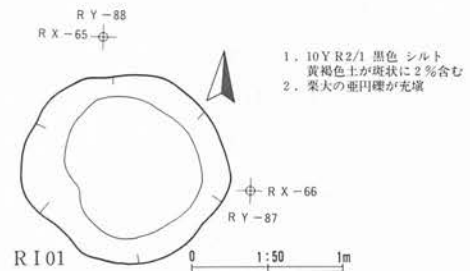
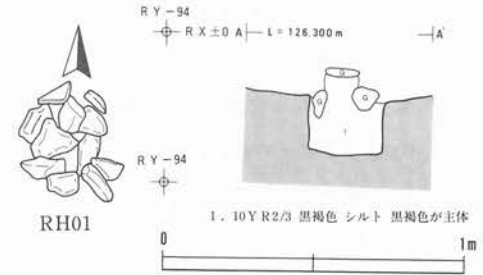
〈埋土〉 黒褐色のシルト質土がマトリックスで特に下部には黄褐色のシルト質土が含まれる。

〈壁・底面〉 小ピットの壁は直線的に立ち上がり底面は水平である。

遺物

〈出土状況〉 遺物は出土していない。

〈所属時期〉 不明である。



第39図 RH01・RI01

8. 井戸跡

RI01 井戸跡

遺構（第39図、写真図版47）

〈検出状況・重複関係〉 C調査区 2 Xグリッドに位置する。IV層が検出面である。

〈形状・開口部規模・深さ〉 平面形は略円形、140cm×126・深さ200cm以上の規模である。

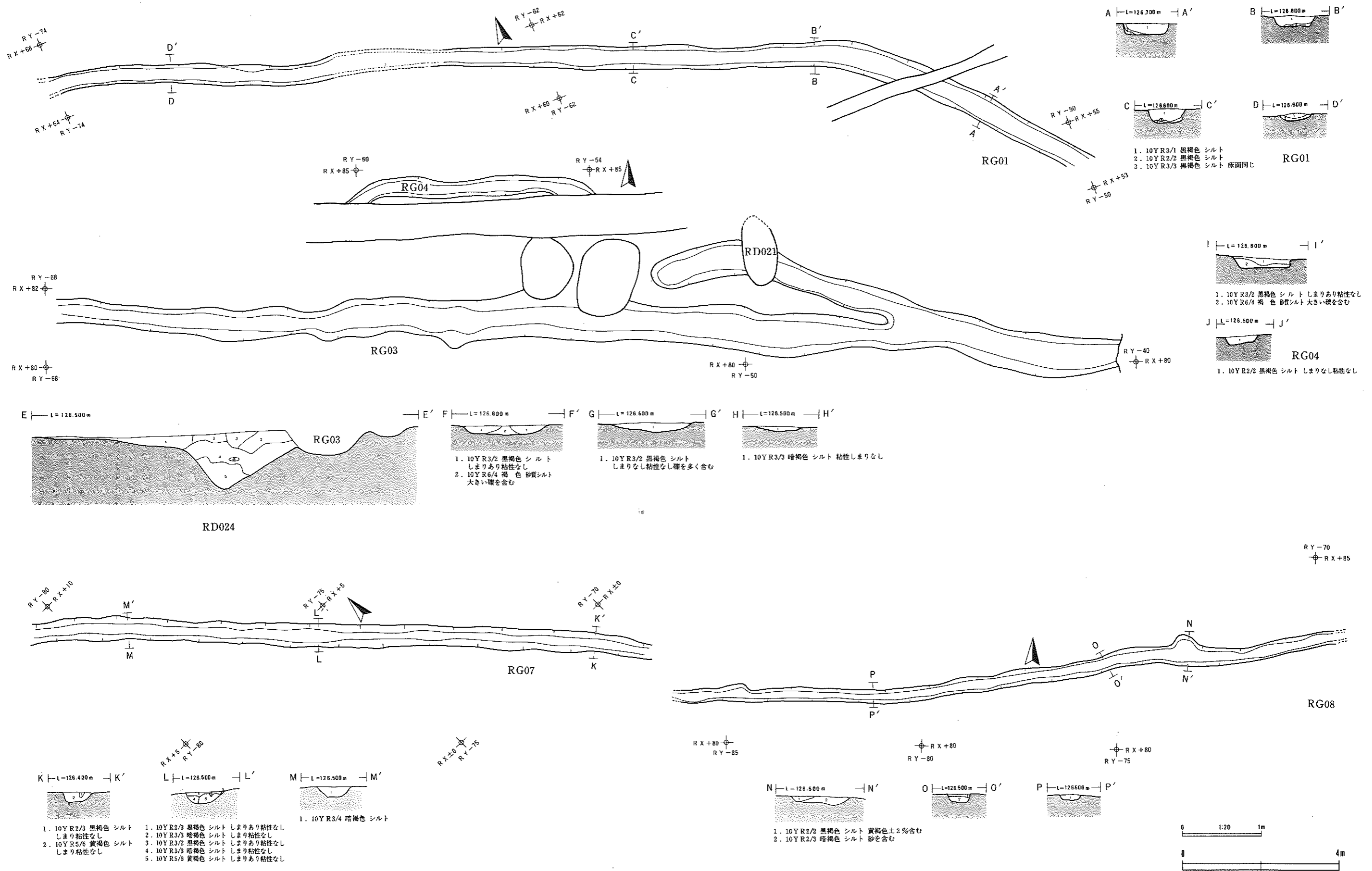
〈埋土〉 埋土上部約30cmほどは黄褐色土が斑状に入る黒色のシルト質土である。それより下位は周囲の礫の崩落と思われる栗石大の亜円礫で充填されている。地下水の浸透と壁である礫層の崩落が生じたため開口部より約2m掘り下げた段階で調査を断念した。

〈壁・底面〉 壁は直立気味に立ち上がっている。

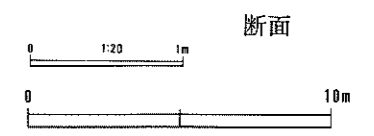
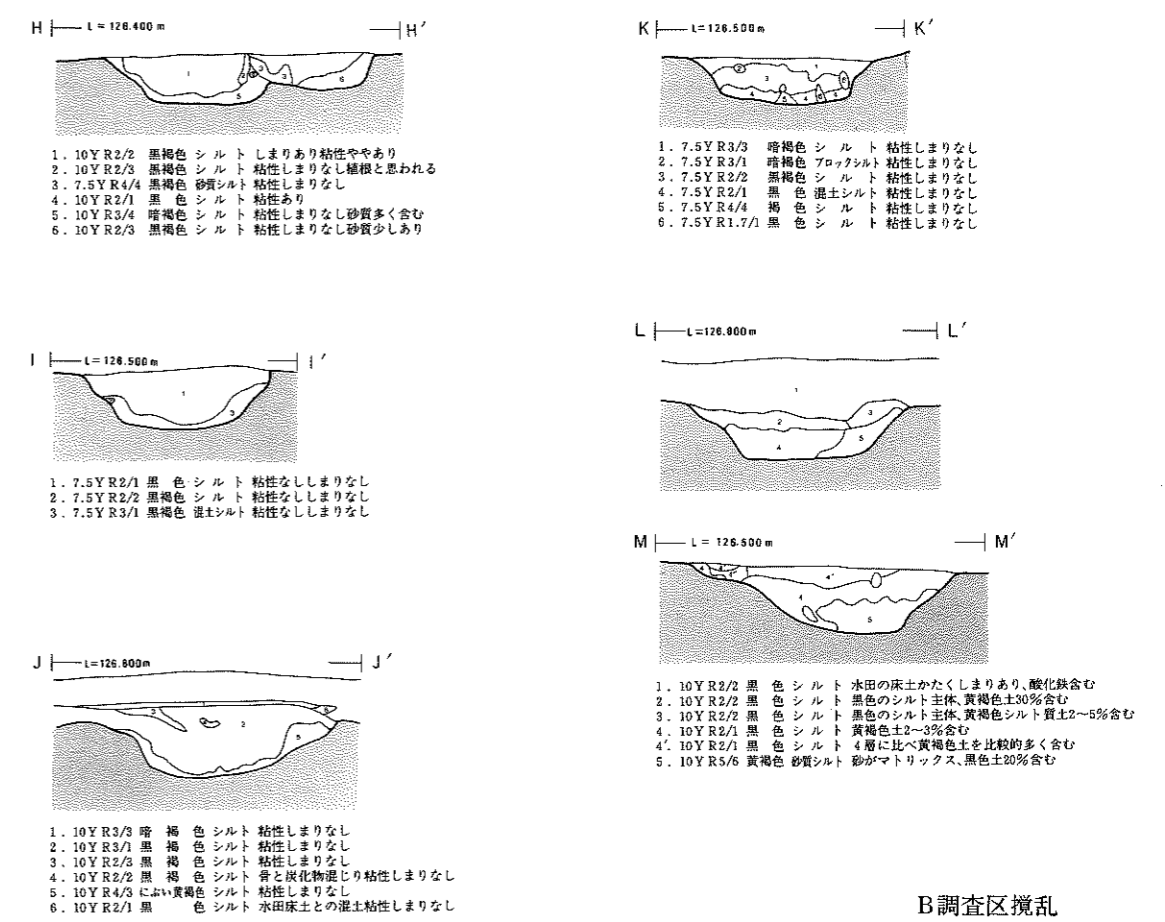
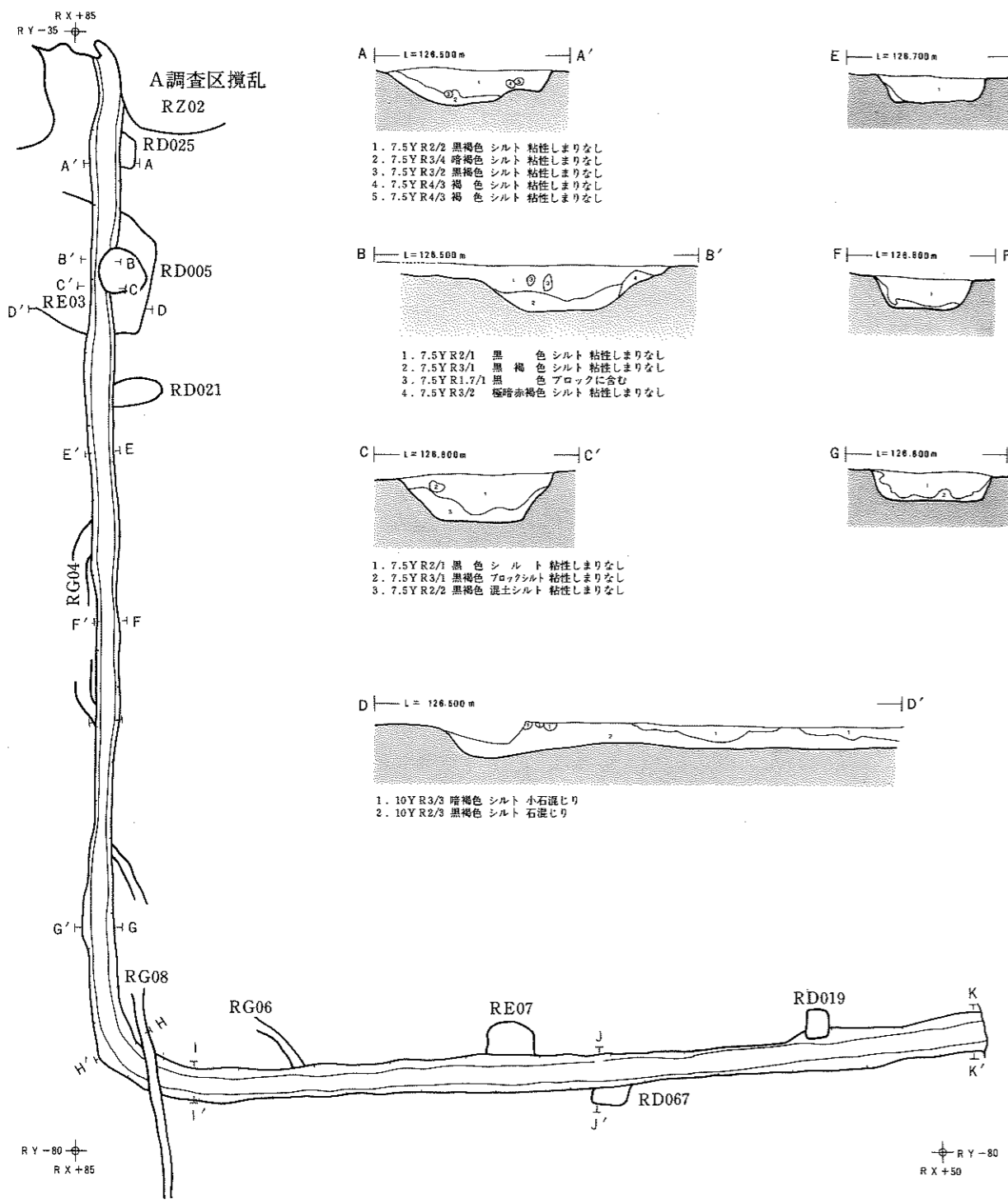
遺物

〈出土状況〉 出土していない。

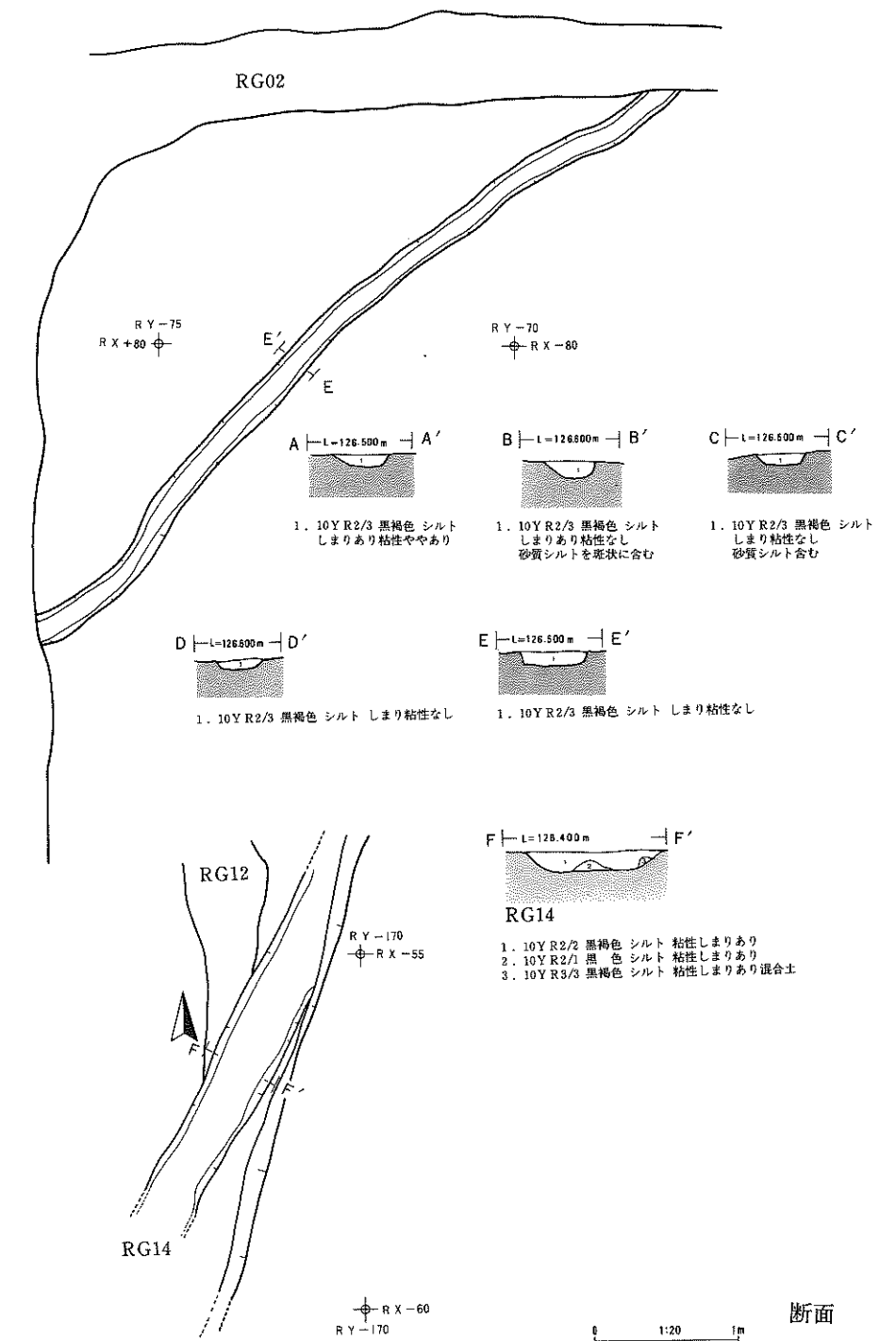
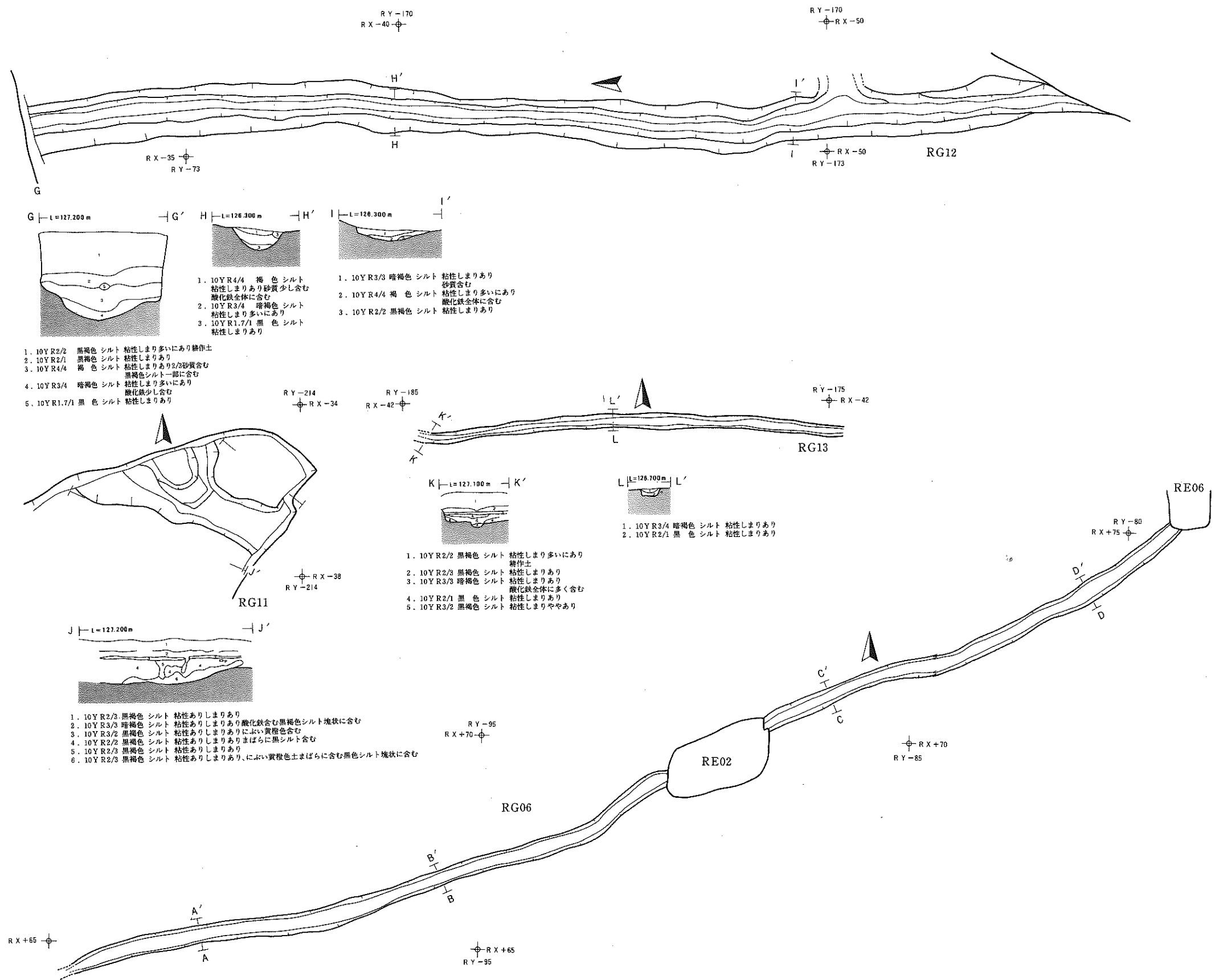
〈所属時期〉 近世以降と思われる。



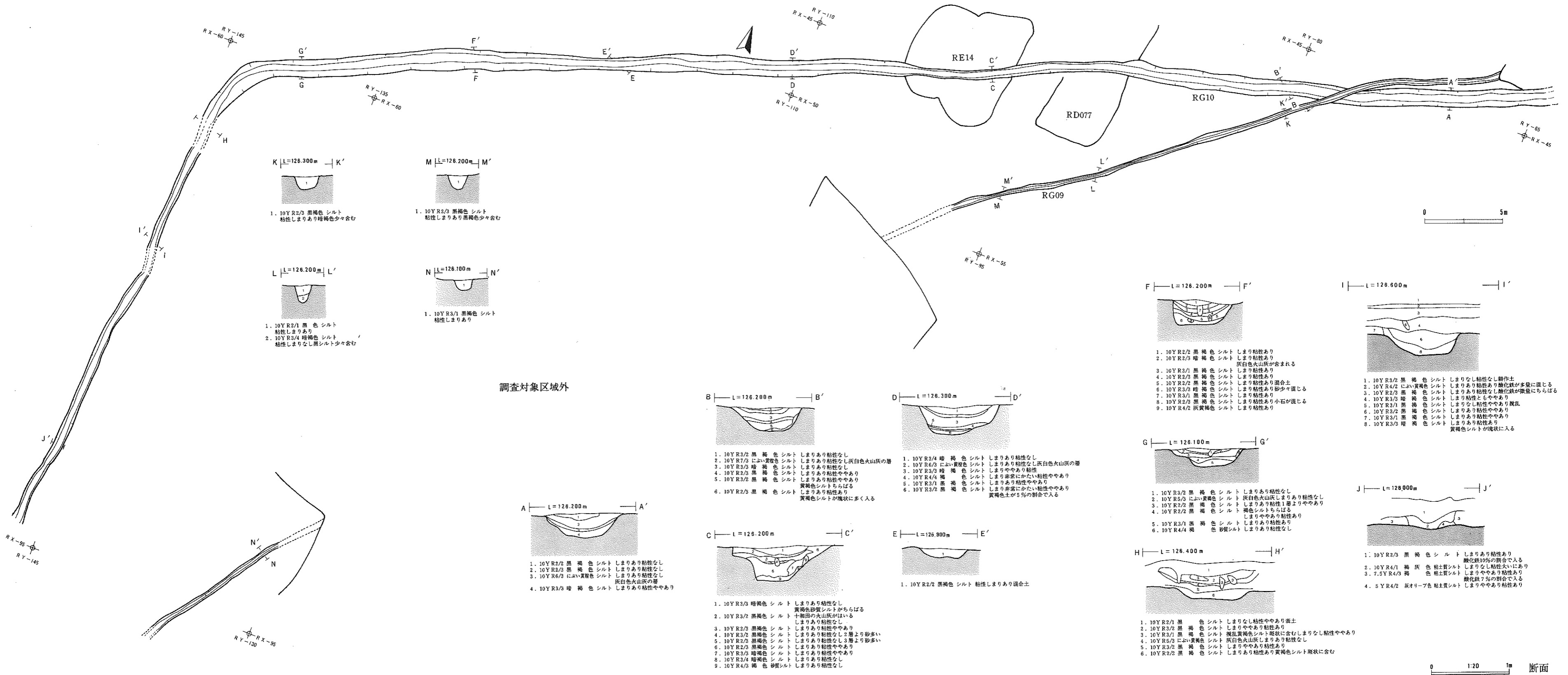
第33図 RG01・03・04・07・08



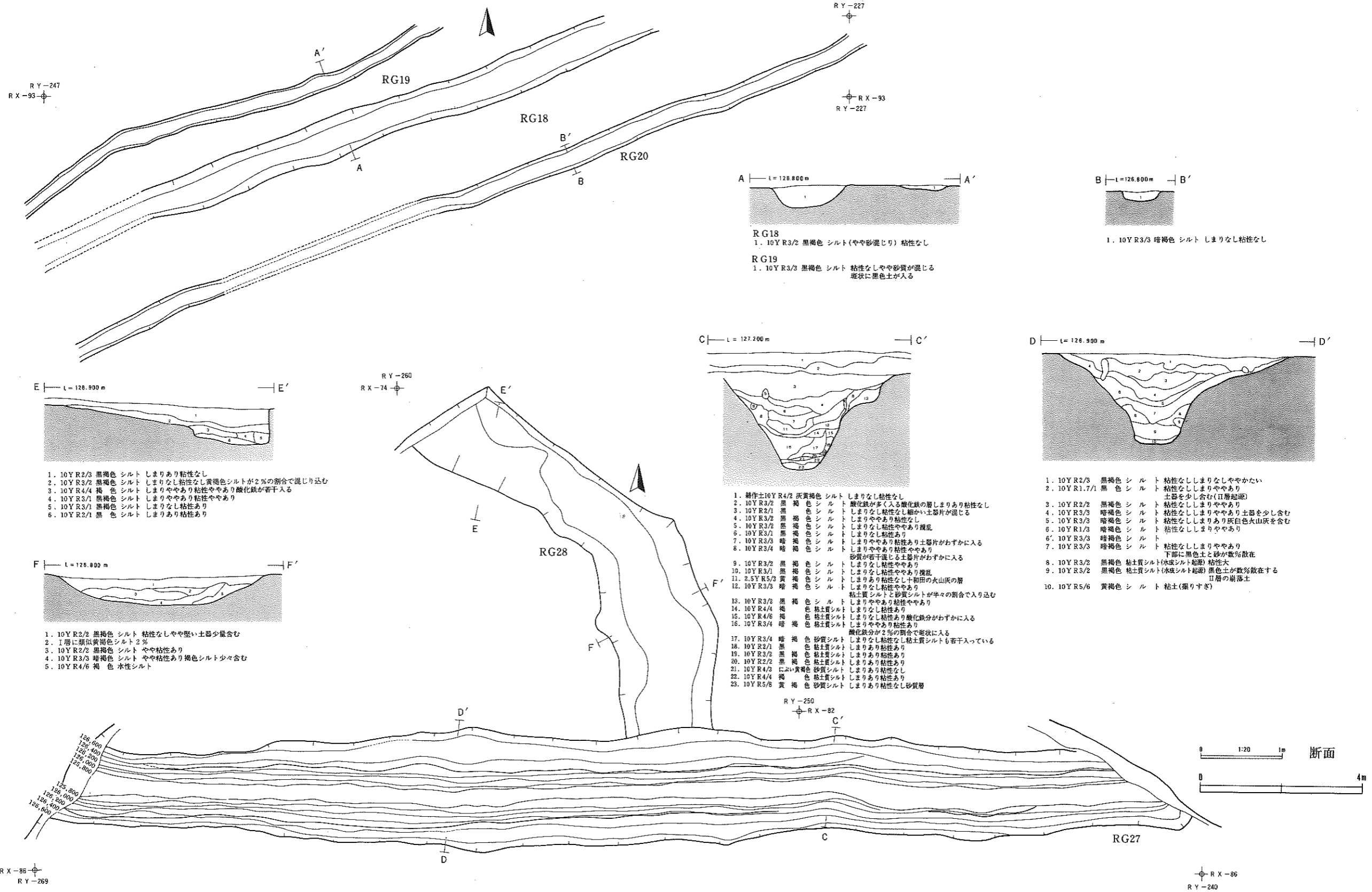
第34図 RG02



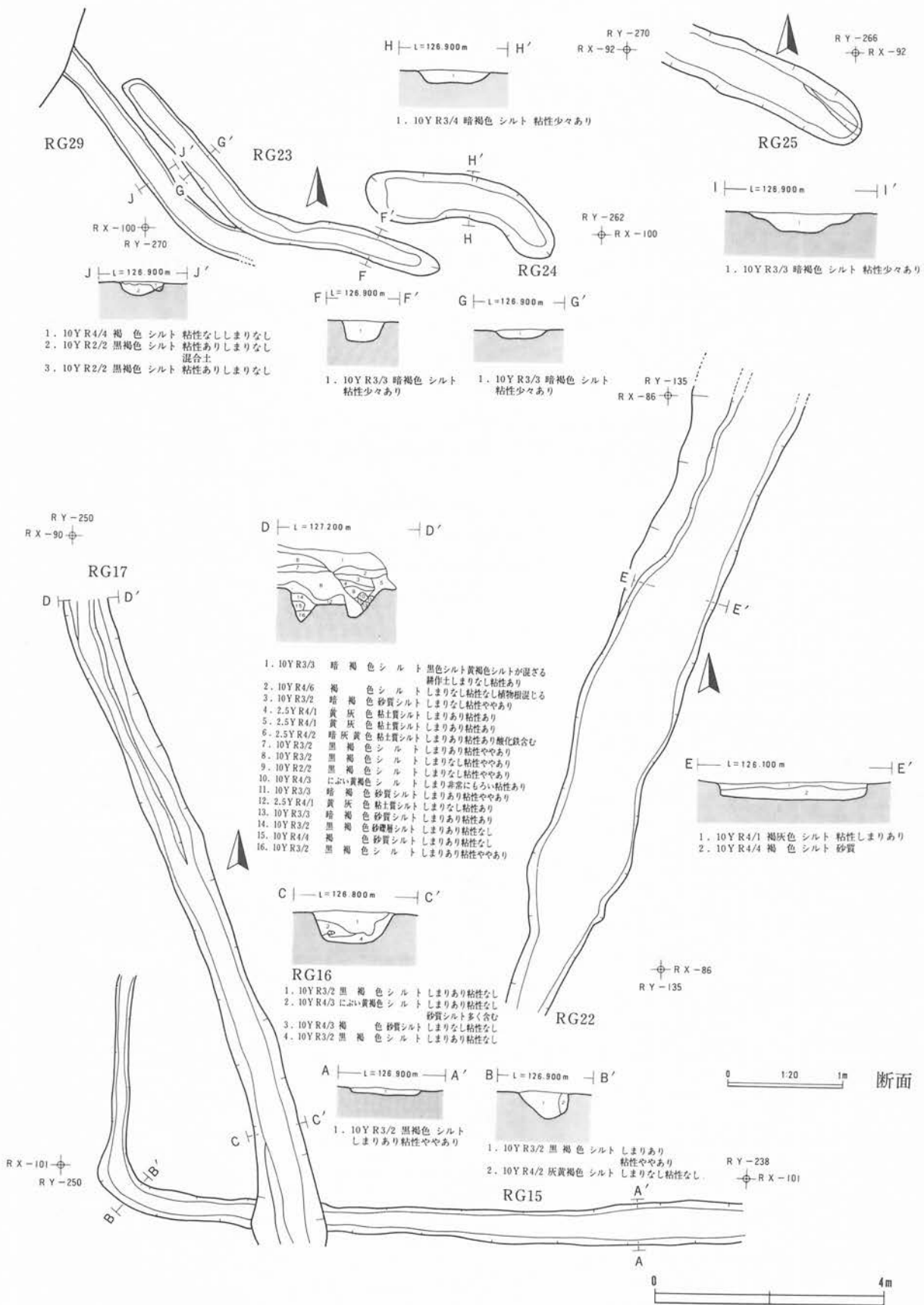
第35図 RG06・11・12・13・14



第36図 RG09・RG10



第37図 RG18・19・20・27・28



第38図 R G 15・16・17・22・23・24・25・29

9. 柱穴群 (付図)

平面図は全体配置図に、柱穴の計測値は別表に示した。

柱穴観察表

| 柱穴No | グリッド | 規模 (cm) | 深さ | 色調・土性 | 備考 |
|-------|------|---------|----|--|--------------|
| PP001 | A調査区 | 38×30 | 41 | 10YR2/1 黒色 シルト 粘性・しまりなし | 酸化炎ロクロ成形甕311 |
| PP002 | A調査区 | 42×30 | 43 | 10YR2/1 黒色 シルト 粘性・しまりなし (古い土) | |
| PP026 | A調査区 | 44×40 | 21 | | |
| PP037 | A調査区 | 44×44 | 33 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 柱痕跡φ15cm、掘り方部分に黄褐色土50%含む | |
| PP038 | A調査区 | 46×30 | 24 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 粒状の黄褐色土、1%含む | |
| PP039 | A調査区 | 44×36 | 38 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 非常にかたい、黄褐色土2%含む | |
| PP040 | A調査区 | 32×30 | 21 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 埋土下部に黄褐色土5%含む | |
| PP043 | A調査区 | 38×36 | 14 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 下部に黄褐色土2%、上部にφ2cmの炭化物含む | |
| PP044 | A調査区 | 44×38 | 31 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 黄褐色土50%斑状に含む | |
| PP045 | A調査区 | 34×26 | 30 | | |
| PP047 | A調査区 | 34×32 | 23 | 10YR4/6 褐色 シルト 黄褐色土5%含むRDO48脇 | |
| PP048 | A調査区 | 24×24 | 32 | 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト | |
| PP049 | A調査区 | 28×26 | 26 | 10YR2/2 黒褐色 シルト | |
| PP050 | A調査区 | 30×28 | 41 | 10YR2/2 黒褐色 シルト | |
| PP051 | A調査区 | 26×26 | 31 | 10YR2/2 黒褐色 シルト | |
| PP052 | A調査区 | 30×28 | 17 | 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト 黄褐色土散在 | |
| PP053 | A調査区 | 36×36 | 22 | 10YR3/2 黒褐色 シルト 黄褐色土5%含む | |
| PP054 | A調査区 | 36×34 | 32 | 10YR3/4 暗褐色 シルト 下部に10YR4/4褐色砂質シルトを含む | |
| PP055 | A調査区 | 36×30 | 15 | 10YR2/3 黒褐色 シルト | |
| PP056 | A調査区 | 42×36 | 35 | 10YR2/3 黒褐色 シルト すり鉢状 | |
| PP057 | A調査区 | 42×34 | 21 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 西半に半頭大の礫あり | |
| PP058 | A調査区 | 30×30 | 21 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 部分的に砂質シルト含む | |
| PP059 | A調査区 | 22×22 | 14 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 上部に砂質シルト含む | |
| PP060 | A調査区 | 22×20 | 20 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 塊状の黄褐色土を含む | |
| PP061 | A調査区 | 34×26 | 30 | 10YR2/2 黒褐色 シルト 黄褐色土2%含む | |
| PP062 | A調査区 | 42×26 | 36 | 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト 下部に10YR3/1黒褐色土含む | |
| PP063 | A調査区 | 26×26 | 22 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 柱痕跡あり | |
| PP064 | A調査区 | 38×38 | 29 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 上部に帯状に黄褐色土を含む | |
| PP065 | A調査区 | 32×32 | 13 | 10YR3/2 黒褐色 シルト 浅い没? | |
| PP066 | A調査区 | 26×26 | 19 | 10YR2/3 黒褐色 シルト しまりあり、塊状の砂質シルト含む | |
| PP067 | A調査区 | 40×36 | 20 | 10YR4/4 褐色 シルト かたい、黄褐色土2%含む | |
| PP068 | A調査区 | 32×26 | 18 | 10YR3/4 暗褐色 シルト しまりありかたい | |
| PP079 | A調査区 | 46×46 | 21 | 10YR2/3 黒褐色 シルト しまりがありかたい、上部に多量の炭化物含む | |
| PP080 | A調査区 | 36×34 | 48 | 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりあり、上部に黄褐色2%含む | |
| PP081 | A調査区 | 40×40 | 17 | 10YR2/2 黒褐色 シルト かたい、黄褐色土2%含む | |
| PP082 | A調査区 | 44×44 | 53 | 10YR2/2 黒褐色 シルト かたい、黄褐色土3%含む、柱痕跡10cm | |
| PP083 | A調査区 | 32×34 | 47 | 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりあり、上部に焼土微量含む | |
| PP084 | A調査区 | 52×48 | 37 | 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりあり、上部に焼土・黄褐色土微量含む | |
| PP085 | A調査区 | 46×46 | 33 | 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりあり、上部に焼土・黄褐色土微量含む | |
| PP086 | A調査区 | 48×46 | 39 | 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりあり、上部に5cmほどの黒色土 | |
| PP087 | A調査区 | 52×36 | 43 | 10YR2/1 黒色 シルト かたい、上部に黄褐色土含む | |

| 桂穴No | グリッド | 規模(cm) | 深さ | 色調・土性 | | | 備考 | |
|-------|------|--------|----|---------|-----|-----|--------------------------|-------------|
| PP088 | A調査区 | 36×36 | 47 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | 上部に黄褐色土2%含む | |
| PP089 | A調査区 | 56×46 | 30 | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト | かたい、黄褐色土を小塊状に2%含む | |
| PP090 | A調査区 | 40×38 | 28 | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト | かたい | |
| PP091 | A調査区 | 44×44 | 27 | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト | かたい | |
| PP092 | A調査区 | 36×36 | 55 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | かたい、上部に黄褐色土少量含む | |
| PP093 | A調査区 | 42×42 | 28 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | かたい、上部に黄褐色土少量含む | |
| PP094 | A調査区 | 32×30 | 46 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりあり | |
| PP095 | A調査区 | 42×40 | 46 | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト | しまりあり、最下部に拳大の礫 | |
| PP096 | A調査区 | 36×36 | 53 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりあり、焼土微量含む | 杯B類 |
| PP097 | A調査区 | 46×44 | 23 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | | |
| PP098 | A調査区 | 46×44 | 40 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりあり、黄褐色土少量含む | |
| PP099 | A調査区 | 52×50 | 37 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | しまりあり、焼土微量含む | |
| PP104 | A調査区 | 34×32 | 27 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | 上部二黄褐色土2%含む、RA06付属 | |
| PP105 | A調査区 | 42×40 | 12 | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト | かたい、黄褐色土含む | |
| PP106 | A調査区 | 48×40 | 18 | 10YR2/1 | 黒色 | シルト | 黄褐色土2%含む | |
| PP107 | A調査区 | 40×40 | 18 | 10YR2/1 | 黒色 | シルト | 黄褐色土含む | |
| PP108 | A調査区 | 44×38 | 19 | 10YR2/1 | 黒色 | シルト | 黄褐色土5%含む | |
| PP109 | A調査区 | 40×40 | 11 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | 全体に汚れる | |
| PP110 | A調査区 | 42×38 | 20 | 10YR4/4 | 褐色 | シルト | 黒色土との混土 | |
| PP111 | A調査区 | 36×34 | 13 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | 黄褐色土散在 | 酸化炭焼成ロクロ成形甕 |
| PP118 | A調査区 | 26×20 | 23 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | 黄褐色土2%含む(新しい) | |
| PP122 | A調査区 | 42×34 | 17 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | | |
| PP123 | A調査区 | 54×46 | 18 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | | |
| PP124 | A調査区 | 26×26 | 11 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | 底面に酸化鉄集積 | |
| PP125 | A調査区 | 52×26 | 17 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | 楕円形 | |
| PP126 | A調査区 | 50×28 | 8 | 10YR2/3 | 黄褐色 | シルト | しまりあり、浅い | |
| PP127 | A調査区 | 40×32 | 5 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | しまりあり、浅い | |
| PP128 | A調査区 | 50×30 | 20 | 10YR2/1 | 黒色 | シルト | しまり粘性あり | |
| PP129 | A調査区 | 38×36 | 24 | 10YR2/1 | 黒色 | シルト | 黄褐色砂質シルト少量含む | |
| PP130 | A調査区 | 44 42 | 10 | 10YR2/1 | 黒色 | シルト | しまり粘性あり | |
| PP131 | A調査区 | 34×34 | 18 | 10YR3/1 | 黒褐色 | シルト | 褐色シルトが混じる | |
| PP132 | A調査区 | 34×30 | 13 | 10YR3/1 | 黒褐色 | シルト | しまりあり、粘性ややあり | |
| PP133 | A調査区 | 34×30 | 16 | 10YR2/1 | 黒色 | シルト | 下部は暗褐色シルトが堆積 | |
| PP134 | A調査区 | 44×36 | 19 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | 黄褐色砂質シルト含む | |
| PP135 | A調査区 | 36×34 | 16 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりなし | |
| PP136 | A調査区 | 34×30 | 9 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | しまりなし、浅い | |
| PP137 | A調査区 | 30×30 | 12 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりなし、粘性なし | |
| PP138 | A調査区 | 42×30 | 13 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | | |
| PP140 | A調査区 | 44×44 | 23 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | | |
| PP141 | A調査区 | 44×40 | 17 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりあり、粘性なし、下部に黄褐色砂質シルト入る | |
| PP143 | A調査区 | 46×42 | 11 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | しまり粘あり | |
| PP144 | A調査区 | 42×40 | 22 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまり粘性あり | |
| PP145 | A調査区 | 30×28 | 8 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまり粘性あり、黄褐色シルトが少量混じる | |
| PP146 | A調査区 | 28×28 | 14 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまり粘性あり | |
| PP147 | A調査区 | 20×16 | 30 | 10YR3/1 | 黒褐色 | シルト | しまり粘性あり、黄褐色シルト少量混じる | |
| PP148 | A調査区 | 18×18 | 19 | 10YR3/1 | 黒褐色 | シルト | しまり粘性あり | |

| 柱穴No | グリッド | 規模 (cm) | 深さ | 色調・土性 | | | 備考 | |
|-------|------|---------|----|-----------|-----|-------|---------------------------------|-------------|
| PP149 | A調査区 | 22×22 | 25 | 10YR3/1 | 黒褐色 | シルト | しまり粘性あり、下部に暗褐色シルト含む | |
| PP152 | A調査区 | 50×40 | 26 | 10YR2/1 | 黒褐色 | シルト | しまり粘性あり、下部に暗褐色シルト含む | |
| PP153 | A調査区 | 30×30 | 18 | 10YR1.7/1 | 黒色 | シルト | しまり粘性なし | |
| PP154 | A調査区 | 26×22 | 2 | 10YR3/4 | 暗褐色 | シルト | しまり粘性なし | |
| PP155 | A調査区 | 42×24 | 7 | 10YR1.7/1 | 黒色 | シルト | しまり粘性なし | |
| PP156 | A調査区 | 32×30 | 13 | 10YR3/4 | 暗褐色 | シルト | しまり粘性なし | |
| PP157 | A調査区 | 30×28 | 23 | 10YR1.7/1 | 黒色 | シルト | しまり粘性なし | |
| PP158 | A調査区 | 34×30 | 21 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | 暗褐色土少量混じる | |
| PP159 | A調査区 | 26×24 | 19 | 10YR2/2 | 黒色 | シルト | 黒褐色土少量混じる | |
| PP160 | A調査区 | 26×24 | 26 | 10YR3/1 | 黒色 | シルト | 暗褐色土少量混じる | |
| PP161 | A調査区 | 32×28 | 29 | 10YR2/2 | 黒色 | シルト | 暗褐色土少量混じる | |
| PP162 | A調査区 | 54×44 | 17 | 10YR3/4 | 暗褐色 | シルト | しまり粘性なし | |
| PP164 | A調査区 | 36×34 | 28 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまり粘性なし、暗褐色土混じる | |
| PP165 | A調査区 | 26×26 | 27 | 10YR3/1 | 黒褐色 | シルト | しまり粘性なし、暗褐色土少量混じる | |
| PP166 | A調査区 | 26×26 | 27 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまり粘性なし、暗褐色土少量混じる | |
| PP167 | A調査区 | 40×30 | 17 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまり粘性なし、炭化物・土師器片含む | 杯A・B類 |
| PP168 | A調査区 | 32×30 | 17 | 10YR3/1 | 黒褐色 | シルト | ややかたい | |
| PP169 | A調査区 | 16×14 | 12 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりあり、かたい、やや砂質 | |
| PP170 | A調査区 | 38×36 | 25 | 10YR3/1 | 黒褐色 | シルト | ややかたい | |
| PP171 | A調査区 | 30×32 | 12 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | しまりあり、粘性ややあり | |
| PP172 | A調査区 | 54×52 | 26 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | | |
| PP003 | B調査区 | 36×34 | 29 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | 黒褐色土主体に黄褐色土10%ブロック状に含む | |
| PP004 | B調査区 | 30×34 | 23 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | ややかたい、黒褐色土主体に黄褐色土10%ブロック状に含む | |
| PP005 | B調査区 | 32×28 | 15 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | 非常にかたい、黄褐色土10%含む | |
| PP006 | B調査区 | 42×36 | 26 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | ややかたい | |
| PP007 | B調査区 | 34×32 | 33 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | ややかたい、黄褐色土斑状に1%含む | |
| PP008 | B調査区 | 28×28 | 22 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | かたい、黄褐色土ブロック状に含む | |
| PP009 | B調査区 | 36×34 | 21 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | 粘性しまりなし黄褐色土3%含む | |
| PP010 | B調査区 | 26×26 | 26 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | ややかたい、黄褐色土3%含む | |
| PP011 | B調査区 | 44×42 | 32 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | 黒褐色土主体に黄褐色土20%含む | |
| PP012 | B調査区 | 30×26 | 25 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | かたい、酸化鉄散在、新しい | |
| PP013 | B調査区 | 34×28 | 27 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | 新しい | |
| PP014 | B調査区 | 54×48 | 26 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | ややかたい、下部に25%の黄色土含む | |
| PP015 | B調査区 | 30×30 | 29 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | 黄褐色土1%ブロック状に含む | |
| PP016 | B調査区 | 32×30 | 26 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | ややかたい、微量の焼土と黄褐色土1%ブロック状に含む | |
| PP017 | B調査区 | 48×40 | 23 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | 拳大の亜円礫数個、斑状に黄褐色土1%ブロック状に含む | |
| PP018 | B調査区 | 32×26 | 39 | 10YR2/1 | 黒色 | シルト | ややかたい、古い | |
| PP019 | B調査区 | 36×30 | 26 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | ややかたい、掘り方に黄褐色土3%散在、柱痕跡φ10cmほど含む | |
| PP020 | B調査区 | 36×36 | 41 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | かたい、黄褐色土2%散在 | |
| PP069 | B調査区 | 50×40 | 43 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | かたい、黄褐色土2%含む | |
| PP070 | B調査区 | 36×34 | 15 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | 黄褐色土7%含む | |
| PP071 | B調査区 | 26×14 | 6 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | 黄褐色土7%含む | |
| PP074 | B調査区 | 60×30 | 29 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | かたい、少量の焼土・土師器片を含む、PP073と同一 | 杯B類、酸化炎クロロ成 |
| PP075 | B調査区 | 46×28 | 9 | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりなし、サラサラ | |
| PP076 | B調査区 | 34×32 | 12 | 10YR2/2 | 黒褐色 | 砂質シルト | | |
| PP077 | B調査区 | 32×32 | 36 | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | しまりなし、黄褐色土含む | |

| 柱穴No | グリッド | 規模(cm) | 深さ | 色調・土性 | 備考 |
|-------|------|--------|----|--|-------------|
| PP078 | B調査区 | 34×32 | 15 | 10YR2/2 黒褐色 シルト 黄褐色土含む | 酸化炭ロク成形窠311 |
| PP021 | B調査区 | 24×32 | 37 | 10YR2/2 黒褐色 シルト 粒状の黄褐色土2%散在 | |
| PP022 | B調査区 | 42×40 | 39 | 10YR2/3 黒褐色 シルト かたい、黄褐色土2%散在、柱痕跡有り | |
| PP023 | B調査区 | 36×36 | 37 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 埋土下部に黄褐色土2%散在 | |
| PP024 | B調査区 | 34×30 | 23 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 黄褐色土2%斑状に含む | |
| PP025 | B調査区 | 36×34 | 47 | 10YR2/3 黒褐色 シルト かたい、埋土下部に黄褐色土2%散在 | |
| PP027 | B調査区 | 36×28 | 34 | 10YR2/3 黒褐色 シルト しまりなし、黄褐色土2%含む | |
| PP028 | B調査区 | 32×30 | 26 | 10YR2/3 黒褐色 シルト しまりなし、埋土下部に黄褐色土10%斑状含む | |
| PP029 | B調査区 | 32×30 | 34 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 黒褐色土主体に黄褐色土を斑状に含む | |
| PP030 | B調査区 | 34×30 | 33 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 全体に黄褐色土を2%含む | |
| PP031 | B調査区 | 40×40 | 25 | 10YR2/3 黒褐色 シルト かたい、壁際を中心に黄褐色土2%含む | |
| PP032 | B調査区 | 46×34 | 25 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 黄褐色土10%散在 | |
| PP033 | B調査区 | 32×28 | 33 | 10YR2/3 黒褐色 シルト しまりなし、黄褐色土10%全体に散在 | |
| PP034 | B調査区 | 26×26 | 33 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 柱穴と思われる | |
| PP035 | B調査区 | 40×28 | 23 | 10YR2/2 黒褐色 シルト かたい、耕作土、酸化鉄散在 | |
| PP036 | B調査区 | 44×26 | 20 | 10YR2/2 黒褐色 シルト かたい、耕作土、酸化鉄散在 | |
| PP042 | B調査区 | 32×28 | 24 | 10YR2/3 黒褐色 シルト 黄褐色土を2%斑状に含む、柱痕跡あり杭跡? | |
| PP046 | B調査区 | 50×46 | 18 | 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりなし、黄褐色土2%含む | |

10. その他

RZ01

遺構 (第40図、写真図版64)

〈検出状況・重複関係〉 H調査区の最西端に位置している。Ⅱ層の遺構検出の段階で暗褐色の広がり認められたため精査をおこなった。

〈形状・規模〉 調査の制約上水田の畦畔に沿った調査しかできず遺構の平面形については不明であるが、東側に南北に直線的な壁が確認され、何らかの遺構の壁の一部と推定される。南北方向8.1m・東西方向5.0mである。

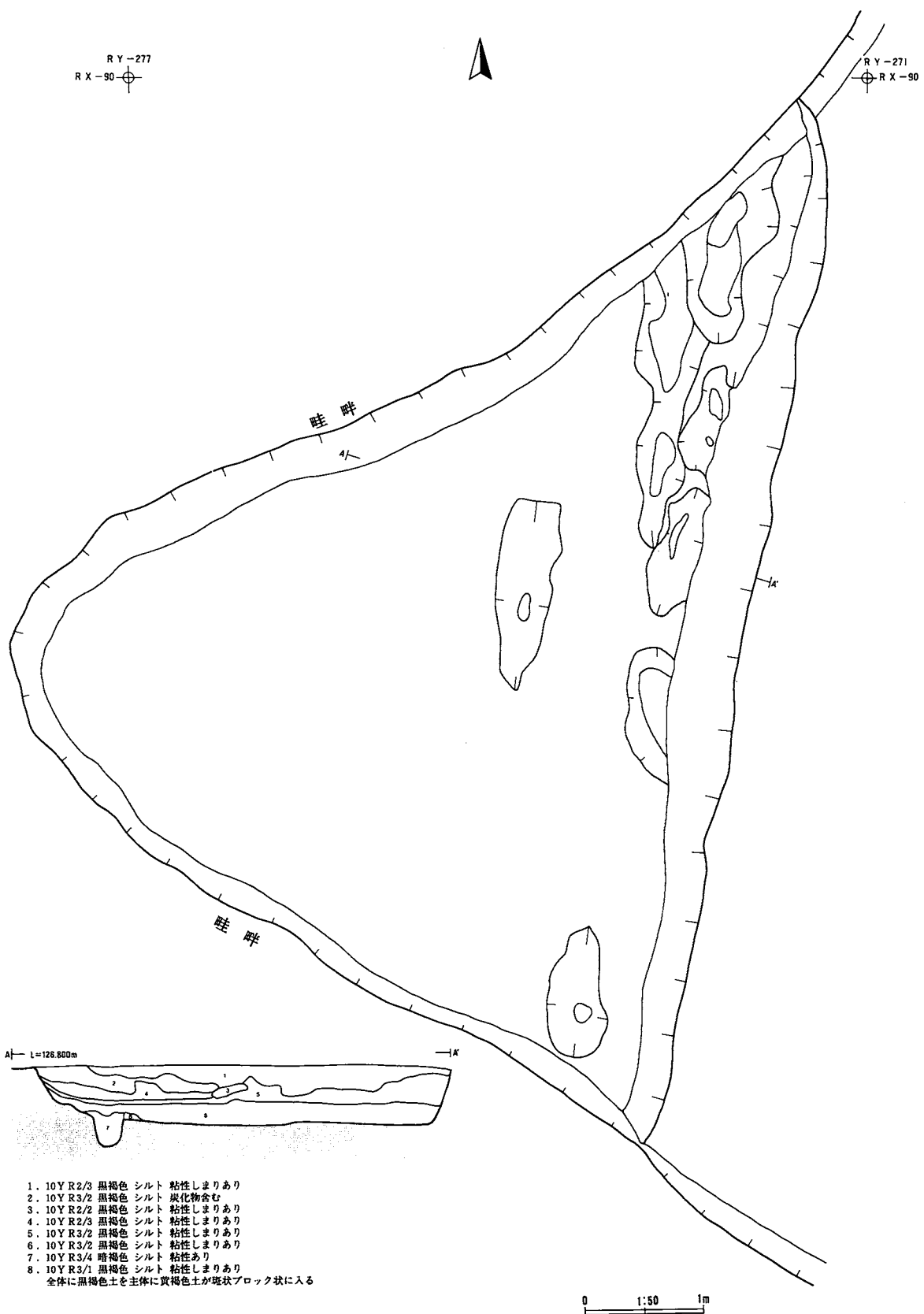
〈埋土〉 基本的には4層に分層される。最上部にはⅡ層起源の土を主体にしてⅣ層地山起源の褐色の砂質土がブロック状に多く入り込んでいる。その下部には上部の層に類似した土が形成されているがブロックの入りかたは少なくなっている。その下部には薄く黄褐色のシルト質土が入る。最下層には暗褐色のシルト質土を主体とし炭化物・褐灰色の粘土質シルトが混入している。全体に人為的に形成された層と考えられ、東方向からの土の流入の様子が認められる。

〈壁・底面〉 壁高45cm±で直線的に外傾気味に立ち上がっている。また、東側の壁際に深さ10cmほどの無数の落ち込みが見られる。床面は整えられたように一様に水平である。

遺物

〈出土状況〉 出土していない。

〈所属時期〉 性格については判断しかねるが、埋土の状況や重複関係から平安時代と思われる。



1. 10Y R2/3 黒褐色 シルト 粘性しまりあり
 2. 10Y R3/2 黒褐色 シルト 炭化物含む
 3. 10Y R2/2 黒褐色 シルト 粘性しまりあり
 4. 10Y R2/3 黒褐色 シルト 粘性しまりあり
 5. 10Y R3/2 黒褐色 シルト 粘性しまりあり
 6. 10Y R3/2 黒褐色 シルト 粘性しまりあり
 7. 10Y R3/4 暗褐色 シルト 粘性あり
 8. 10Y R3/1 黒褐色 シルト 粘性しまりあり
- 全体に黒褐色土を主体に黄褐色土が斑状ブロック状に入る

第40図 R Z 01

11. 出土遺物

ここでは遺構外から出土した遺物について地区ごと、遺物の種別ごとにその概要について記載する。

A調査区（第64・67・68 図、写真図版74）

271は酸化炎焼成で内面にヘラミガキ・黒色処理の施された鉢である。底部は砂底である。272は酸化炎焼成非内黒の脚の短い高台付坏である。273は底部の非常に厚い酸化炎焼成非内黒のべた高台の坏である。底部は回転糸切り無調整である。310は丸瓦で外面にはヘラミガキ状の調整痕、内面は布目の痕が見られる。343～363は陶磁器類で、主にA調査区の北東地域から出土している。

B調査区（第68・71図、写真図版75）

364～404は陶磁器類で半数以上は肥前産とされるものであり、RG02溝の南西コーナーより新しい攪乱部から比較的多く出土している。銭貨では寛永通宝1点（551）と判読不能のもの1点（552）が出土している。

C調査区（第64・68・71図、写真図版74・75）

274はDⅡ類の酸化炎焼成非内黒の高台付坏である。図化はしていないが他に酸化炎焼成非内黒の坏B類が出土している。405～502は陶磁器類で産地が特定できたものの多くは肥前産とその他に相馬産と思われる陶器類が数点出土している。陶磁器類はこの調査区で最も多く出土しており、これらのものはRB03掘立柱建物跡やその周辺の土坑・竪穴状遺構に関連すると思われる。銭貨では寛永通宝が1点出土している（553）。

E調査区（写真図版83）

503～518は磁器で肥前産とされるものが主体で、他に瀬戸・美濃系の磁器が出土している。

F調査区（第64・65・66 図、写真図版74）

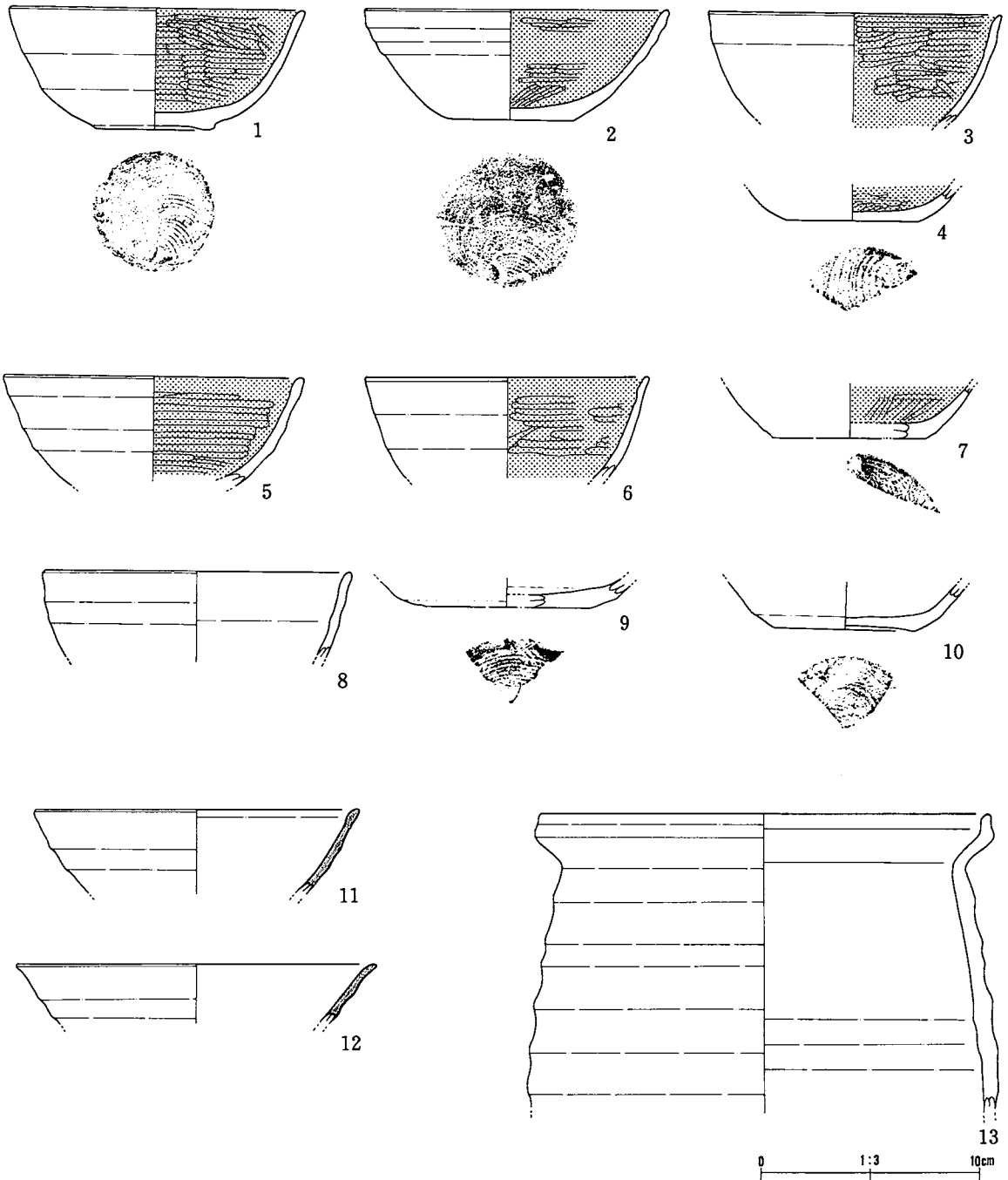
275は静止糸切り無調整、酸化炎焼成内黒の坏A類である。体部下端にヘラケズリの再調整が加えられている。276～292は酸化炎焼成非内黒の坏B類である。底部は回転糸切り無調整である。293は酸化炎焼成でロクロ成形の小形の甕である。294は還元炎焼成の甕、295は長頸壺と思われる。519～523は陶磁器類である。

G調査区（第66・70図、写真図版74）

296は脚の短い酸化炎焼成内黒の高台付坏である。図化できなかったが酸化炎焼成非内黒の坏B類が多く出土している。524は肥前産の染付磁器、525は東北産（白岩系）の陶器甕である。

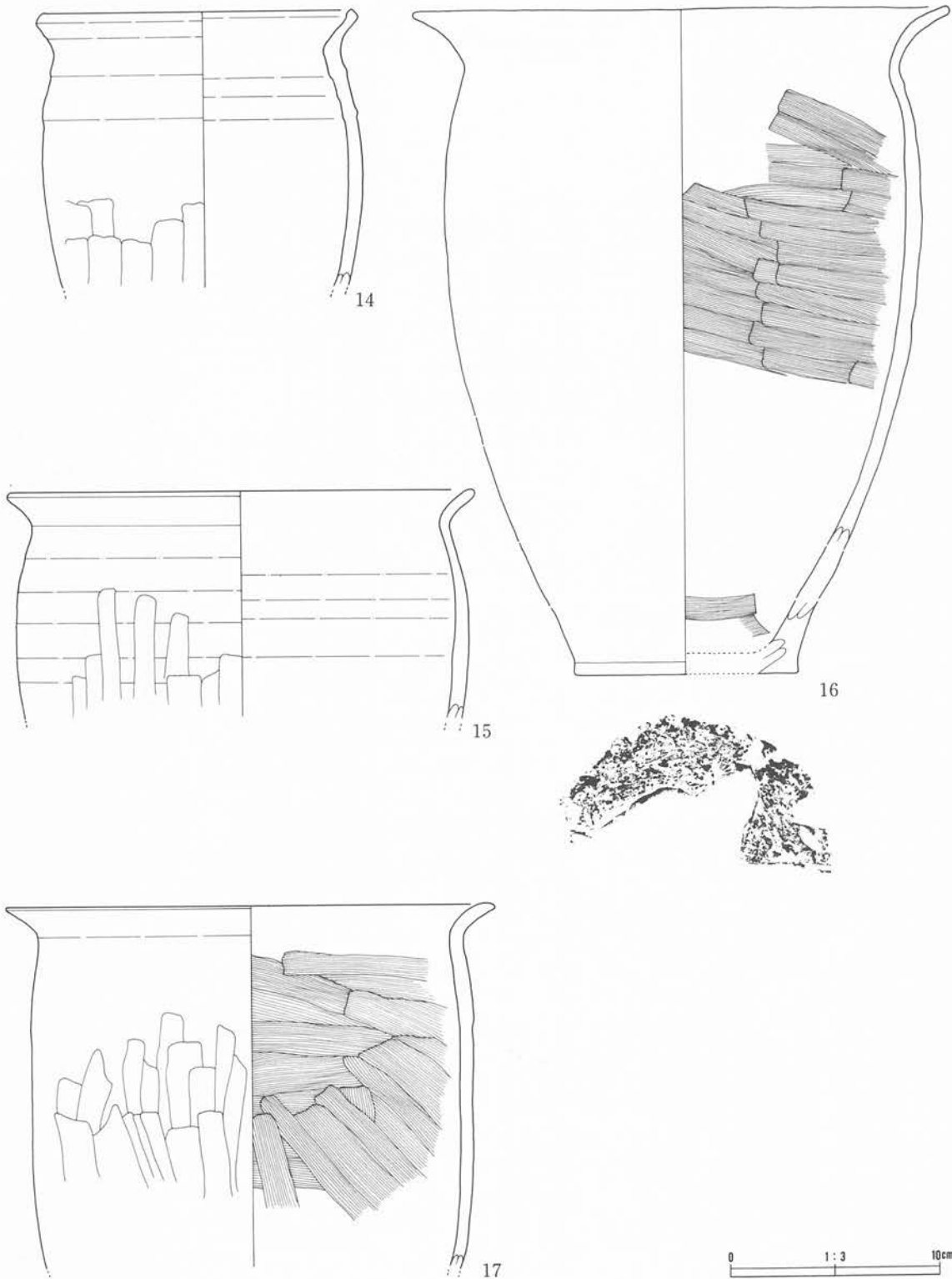
H調査区（第66・70図、写真図版74）

297～299は酸化炎焼成内黒の坏A類である。297・299の底部は回転糸切り無調整、298は静止糸切り無調整で体部下端には再調整が見られる。300～305は酸化炎焼成非内黒の坏B類で底部は回転糸切り無調整である。306は還元炎焼成の坏C類で底部は回転糸切り無調整である。307・308は「ハ」字状の高台がついた酸化炎焼成非内黒の高台付坏である。308は非ロクロ成形の酸化炎焼成の甕である。526～538陶磁器類である。半数以上は肥前産の533は紅皿である。



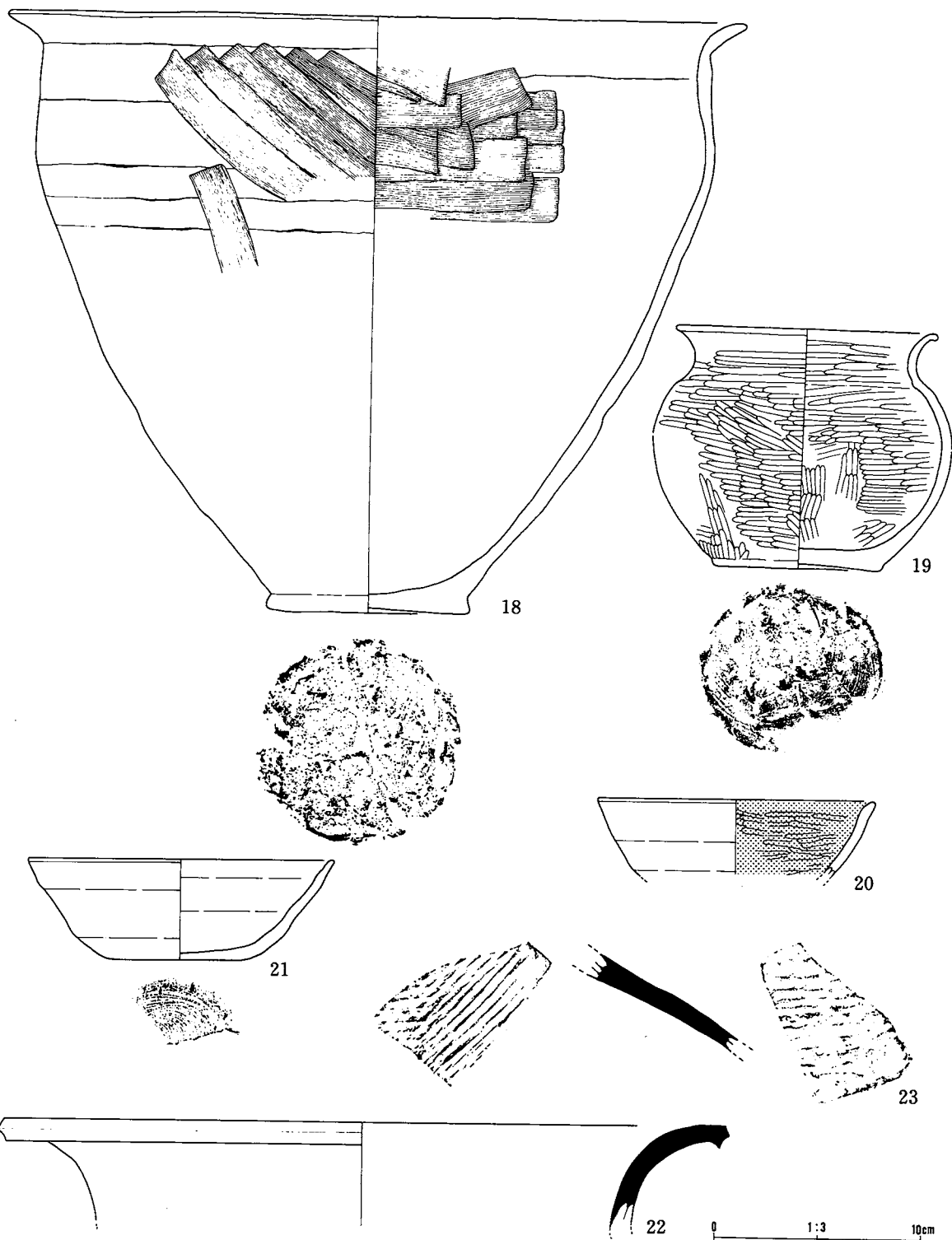
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 | |
|----|---------------|-------|-------|------|------|------|---------|-------------------|-------|---------|------|-----|-----|------|----|------|---------|-----------------|----|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | 口/底 | | | | | | |
| 1 | RA01カマド・煙道内 | 酸化炎焼成 | 坏 | 一部調整 | HM | ○ | 回糸・無 | | A10 | 5.6 | 13.7 | 5.3 | 3 | 2 | 54 | A | A | 7.5YR7/3にぶい・橙色 | 65 |
| 2 | RA01カマド・煙道内 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | ○ | 回糸・無 | 二次加熱 | A10 | 5.1 | 14.0 | 5.8 | 2 | 3 | 51 | A-KU | A | 7.5YR6/3にぶい・橙色 | 65 |
| 3 | RA01カマド・煙道内 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | | | 反転突刺、一部外面口縁部へラミガキ | B00 | *5.0 | 13.6 | | | | | A | A | 10YR6/6明黄褐色 | 65 |
| 4 | RA01カマド・煙道・焚口 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | ○ | 回糸・無 | 反転突刺 | A10 | *1.7 | | 6.0 | | | | A | A | 10YR7/4にぶい・黄褐色 | 65 |
| 5 | RA01埋土上部 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | ○ | | | A00 | *5.0 | 13.9 | | | | | A | A | 5YR5/4にぶい・赤褐色 | 65 |
| 6 | RA01埋土上部 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | ○ | | 反転突刺 | A00 | *4.7 | 13.2 | | | | | A | A | 7.5YR6/3にぶい・褐色 | 65 |
| 7 | RA01埋土上部 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | ○ | 回糸・無 | 反転突刺 | A10 | *2.5 | | 7.0 | | | | A | A | 7.5YR7/6橙褐色 | 65 |
| 8 | RA01床面 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | | 反転突刺 | B00 | *4.0 | 14.2 | | | | | B | B | 5YR7/6褐色 | 65 |
| 9 | RA01埋土上部 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 反転突刺 | B10 | *1.4 | | 7.6 | | | | A | A | 7.5YR6/6橙褐色 | 65 |
| 10 | RA01埋土上部 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 反転突刺 | B10 | *2.3 | | 6.4 | | | | C | B | 10YR8/3浅黄褐色 | 65 |
| 11 | RA01埋土上部 | 還元炎焼成 | 坏 | | | | | 反転突刺 | C00 | *3.8 | 15.0 | | | | | A | A | 2.5YR7/2灰黄色 | 65 |
| 12 | RA01埋土上部 | 還元炎焼成 | 坏 | | | | | 反転突刺 | C00 | *2.7 | 16.6 | | | | | A | A | 10YR7/2にぶい・黄褐色 | 65 |
| 13 | RA01床面 | 酸化炎焼成 | 甕・ロクロ | | | | | | E11b1 | *13.7 | 20.0 | | | | | B | A | 7.5YR6/4にぶい・橙褐色 | 65 |

第41図 RA01出土遺物(1)



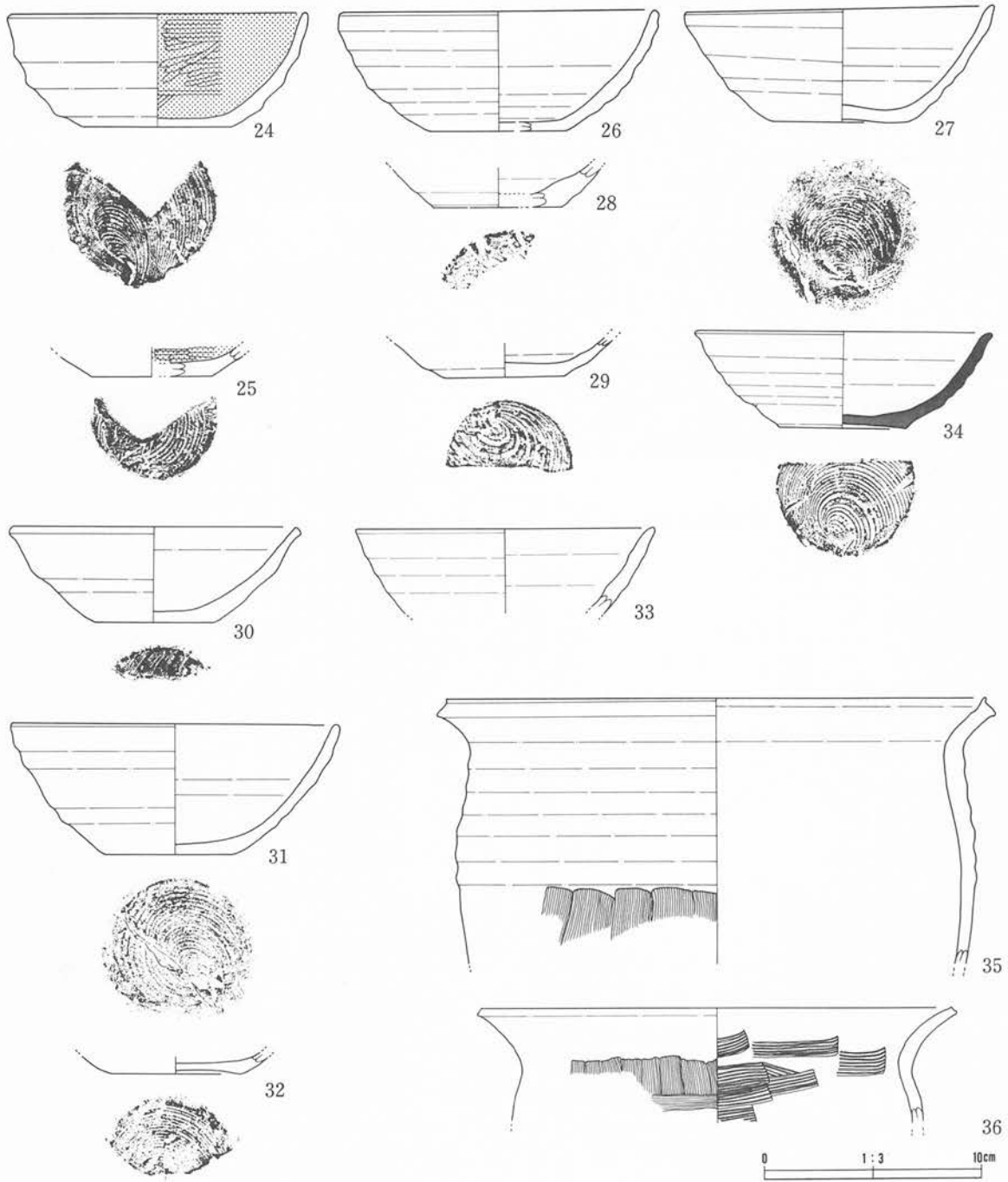
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾角度 | 胎土 | 地成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|----|---------------|-------|--------|------|------|------|---------|-------|-------|---------|------|------|-----|-----|------|----|---------------|---------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 14 | RA01カマド焚口 | 酸化炭焼成 | 甕・ロクロ | HK | | | | 反転実測 | E1b | ★13.3 | 14.9 | | | | A | A | 10YR8/3淡黄褐色 | 65 | |
| 15 | RA01カマド焚口・煙道内 | 酸化炭焼成 | 甕・ロクロ | HK | | | | | E11a1 | ★11.0 | 22.5 | | | | A | A | 7.5YR6/4い・橙褐色 | 65 | |
| 16 | RA01カマド焚口・煙道内 | 酸化炭焼成 | 甕・非ロクロ | | HN | | | 63と同一 | F11a | 26.0 | 31.8 | 10.8 | | | C | A | 5YR7/6褐色 | 65 | |
| 17 | RA01カマド焚口・煙道内 | 酸化炭焼成 | 甕・非ロクロ | HK | HN | | | | F11b | 17.5 | 23.7 | | 1 | | C | A | 5YR7/6褐色 | 65 | |

第42図 RA01出土遺物(2)



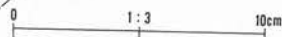
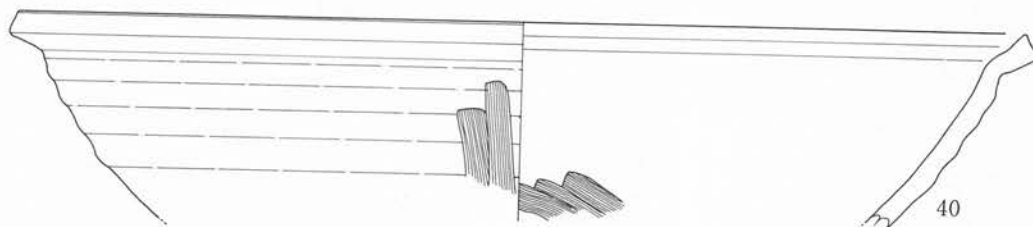
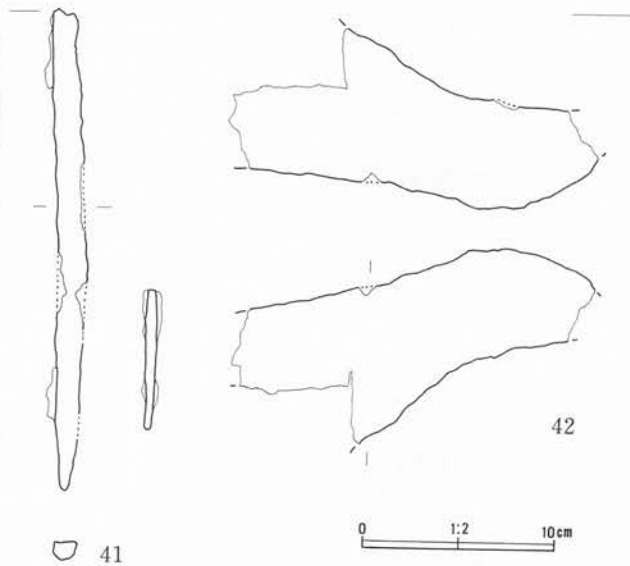
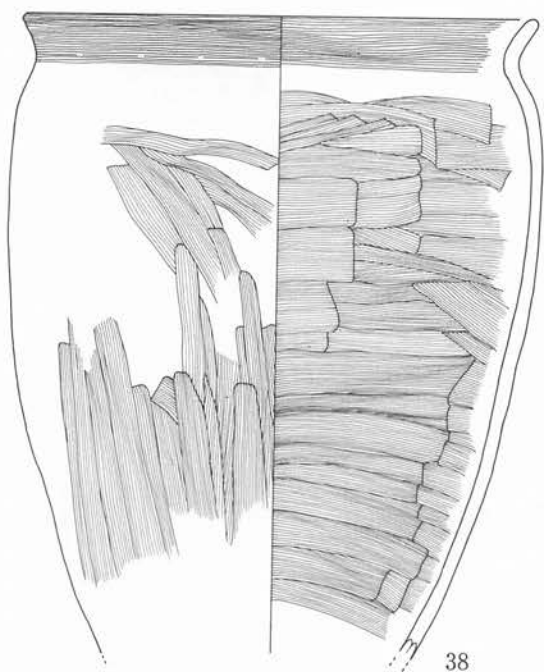
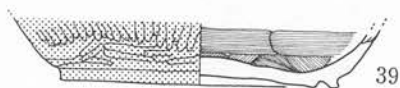
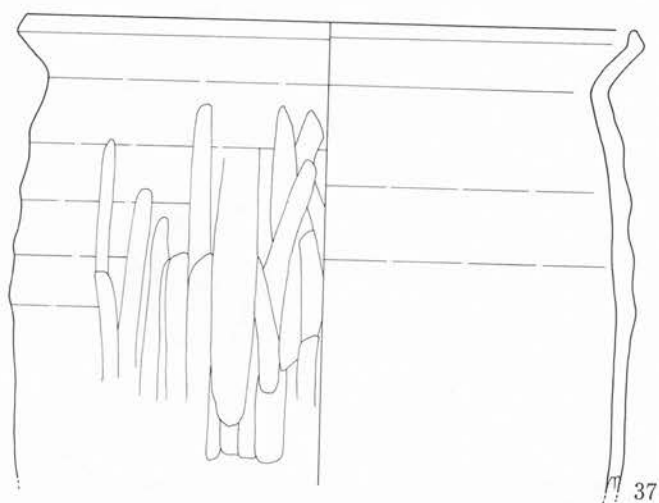
| No. | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切磨再調整 | 備考 | 分類 | 法線 (cm) | | | 口縁 | 口/高 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|-----|----------------|-------|--------|------|------|------|---------|-------|------|---------|------|------|----|-----|------|----|----|--------------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 18 | RA01カマド築口・煙道内 | 酸化炭焼成 | 壺・非ロクロ | HN | HN | | | 外面煤付着 | FIIb | 29.0 | 37.0 | 9.9 | 4 | 1 | | C | A | 5YR6/6棕色 | 66 |
| 19 | RA01カマド周辺・埋土上部 | 酸化炭焼成 | 壺・ロクロ | HK | HM | | 回糸・無 | | E | 11.7 | 12.7 | 8.0 | 2 | 1 | | A | A | 2.5YR5/6明赤褐色 | 66 |
| 20 | RA02埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | | 反転実刷 | AO0 | *3.9 | 13.6 | | | | | A | A | 7.5YR7/6橙 | 66 |
| 21 | RA02埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 反転実刷 | BI0e | 4.9 | 15.0 | 4.9 | 3 | 3 | 49 | A | B | 5YR6/6橙 | 66 |
| 22 | RA02埋土 | 還元炭焼成 | 壺 | TT | TT | | | | EF | | | | | | | A | C | 2.5YR6/2灰黄色 | 66 |
| 23 | RA02埋土 | 還元炭焼成 | 壺 | TT | TT | | | 反転実刷 | EF | *4.9 | | 35.2 | | | | A | B | | 66 |

第43図 RA01(3)・RA02出土遺物



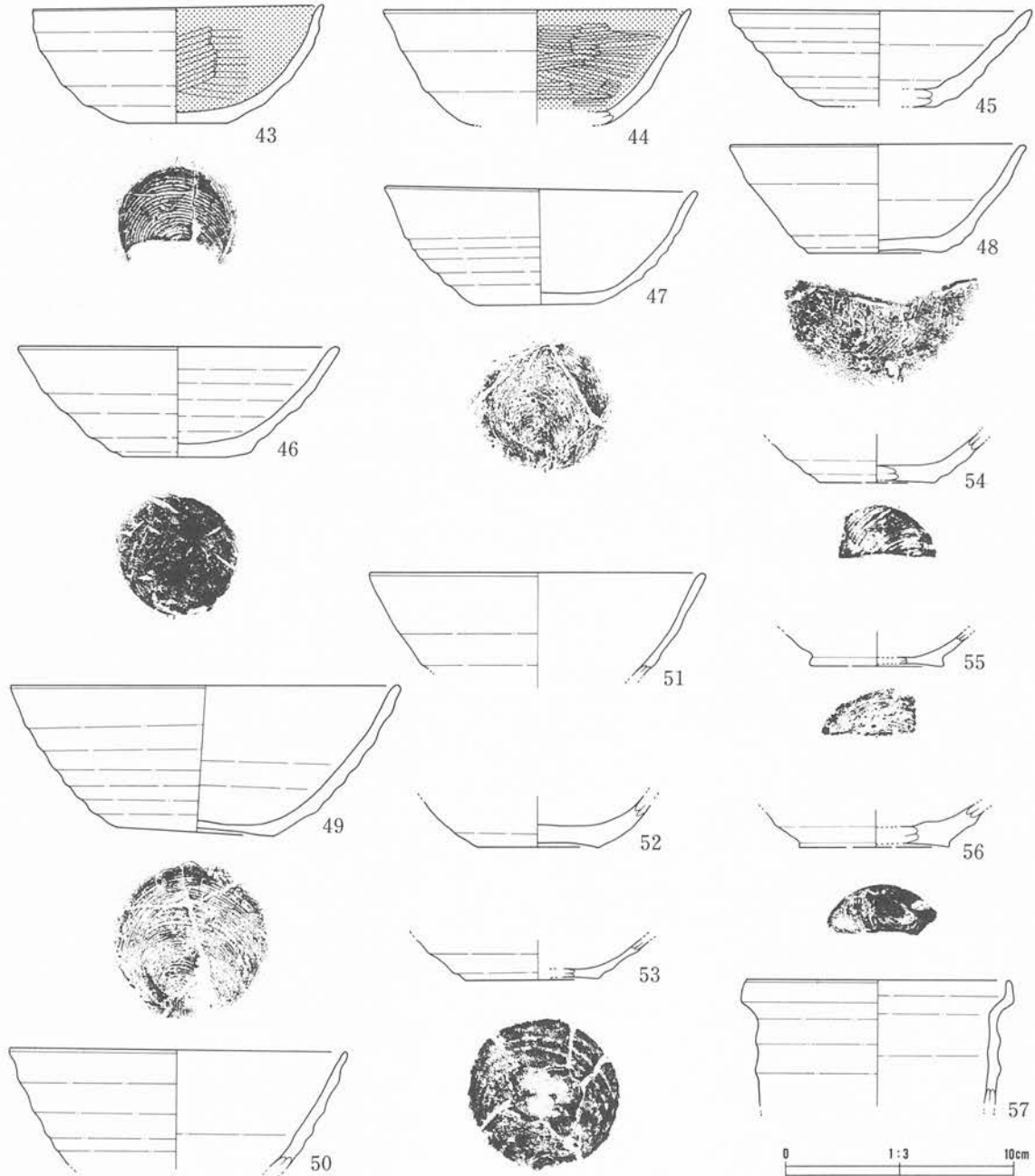
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|----|--------------|-------|-------|------|------|------|---------|------------|-------|---------|------|------|-----|-----|------|----|----|--------------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 24 | RA03カマド袖内・埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | 同系・無 | 反転実測, 二次加熱 | A10 | 5.3 | 14.0 | 6.7 | 2 | 3 | 58 | A | A | 5YR6/3にふい・橙色 | 66 |
| 25 | RA03カマド埋土上部 | 酸化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | 同系・無 | | A10 | *5.3 | | 5.6 | | | | A | A | 5YR6/4赤褐色 | 66 |
| 26 | RA03カマド埋土上部 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同系・無 | | B10c | 5.6 | 14.9 | 6.4 | 2 | 3 | 54 | A | C | 2.5YR8/3状色 | 66 |
| 27 | RA03カマド埋土内 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同系・無 | | B10e | 5.5 | 14.6 | 6.3 | 2 | 3 | 56 | C | C | 10YR8/3浅黄褐色 | 66 |
| 28 | RA03埋土上部 | 酸化炭焼成 | 葵・ロクロ | | | | 同系・無 | 反転実測 | E | *2.0 | | *6.0 | | | | C | B | 5YR6/6橙色 | 66 |
| 29 | RA03埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同系・無 | 反転実測 | B10 | *2.6 | | 5.6 | | | | A | A | 5YR6/6橙 | 66 |
| 30 | RA03カマド燃焼部 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同系・無 | 反転実測 | B10d | 4.4 | 13.6 | 5.6 | 2 | 3 | 50 | A | A | 5YR7/6橙色 | 66 |
| 31 | RA03カマド床直 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同系・無 | | B10c | 6.1 | 15.4 | 6.0 | 3 | 3 | 52 | C | C | 5YR7/8橙色 | 66 |
| 32 | RA03カマド袖部 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同系・無 | 反転実測 | B10 | *0.8 | | 6.0 | | | | A | C | 5YR7/6橙色 | 66 |
| 33 | RA03埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同系・無 | 反転実測 | B00 | *3.9 | 14.0 | | | | | B | B | 7.5YR7/8黄褐色 | 66 |
| 34 | RA03カマド埋土上部 | 還元炭焼成 | 坏 | | | | 同系・無 | 反転実測, 重ね焼き | C10 | 4.4 | 13.9 | 6.0 | 2 | 3 | 51 | A | C | 5YR8/4にふい・橙色 | 66 |
| 35 | RA03カマド埋出し | 酸化炭焼成 | 葵・ロクロ | HN | | | | 反転実測 | E11b2 | *12.2 | 25.0 | | | | | C | B | 5YR8/4淡橙褐色 | 66 |
| 36 | RA03カマド燃焼部 | 酸化炭焼成 | 葵・ロクロ | HN | H | | | | E11a2 | *5.4 | 22.4 | | | | | A | A | 2.5YR6/6橙色 | 66 |

第44図 RA03出土遺物(1)



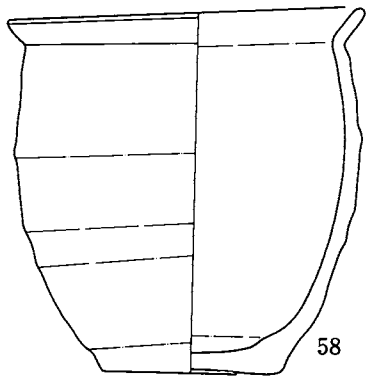
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|----|------------|-------|--------|------|------|------|---------|--------|------|---------|------|------|-----|------|----|-------------|---------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | 口/高 | | | | | |
| 37 | RA03カマド燃焼部 | 酸化炎焼成 | 壺・ロクロ | HN | | | | | EBbl | *18.6 | 24.4 | | | C | A | 5YR7/4にふく橙色 | 66 | |
| 38 | RA03カマド周辺 | 酸化炎焼成 | 壺・非ロクロ | HN | HN | | | | FIIb | *25.7 | 20.7 | | | C | A | 5YR6/6橙色 | 66 | |
| 39 | RA03カマド縁部 | 酸化炎焼成 | 壺? | K-HM | HN | | ヘラミガキ | | EF | *2.4 | | 11.2 | | A-KU | A | 黒色 | 66 | |
| 40 | RA03カマド燃焼部 | 酸化炎焼成 | 壺・ロクロ | HN | HN | | | | GIIa | *8.2 | 40.7 | | | A | A | 5YR6/6橙色 | 66 | |
| 41 | RA03埋土中部厚縁 | 鉄製品 | 釘 | | | | | 13.55g | | | | | | | | | 67 | |
| 42 | RA03埋土 | 鉄製品 | 鎌 | | | | | 31.92g | | | | | | | | | 67 | |

第45図 RA03出土遺物(2)

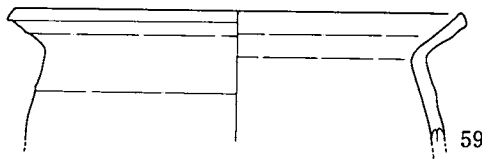
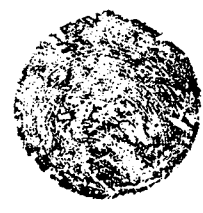


| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口縁 | 口高 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|----|--------------|-------|-------|------|------|------|---------|------|------|---------|------|-----|----|----|------|----|----|---------------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 43 | RA05床直No2 | 酸化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | 同赤・無 | | A10 | 5.3 | 12.9 | 4.5 | 3 | 2 | 53 | A | A | 5YR5/6明赤褐色 | 67 |
| 44 | RA05床直No1 | 酸化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | 不明 | 反転実測 | A00 | 5.2 | 13.6 | 6.2 | 2 | 3 | 46 | A | A | 7.5YR7/4c.赤褐色 | 67 |
| 45 | RA05床直・カマド周辺 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同赤・無 | 反転実測 | B10c | 4.3 | 13.4 | 4.8 | 3 | 3 | 47 | B | A | 5YR7/6褐色 | 67 |
| 46 | RA05支脚② | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同赤・無 | 反転実測 | B10c | 4.8 | 14.3 | 5.0 | 3 | 3 | 52 | A | A | 5YR5/4c.赤褐色 | 67 |
| 47 | RA05埋土中部 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同赤・無 | 反転実測 | B10c | 5.5 | 13.9 | 5.3 | 3 | 3 | 50 | C | C | 5YR7/6褐色 | 67 |
| 48 | RA05カマド周辺 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同赤・無 | 反転実測 | B10c | 4.8 | 13.2 | 6.0 | 2 | 3 | 55 | C | C | 10YR8/1灰色 | 67 |
| 49 | RA05支脚① | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同赤・無 | 反転実測 | B10c | 7.0 | 17.4 | 6.9 | 3 | 2 | 55 | B | B | 10YR8/4浅黄褐色 | 67 |
| 50 | RA05カマド右袖付近 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | | 反転実測 | B00 | *5.2 | 14.4 | | | | | B | B | 5YR6/6褐色 | 67 |
| 51 | RA05カマド埋土中位 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | | | B00 | *4.5 | 14.9 | | | | | B | C | 5YR7/6褐色 | 67 |
| 52 | RA05栗髷脇ピット | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同赤・無 | 反転実測 | B10 | *2.3 | | 5.3 | | | | A | B | 7.5YR6/6褐色 | 67 |
| 53 | RA05床直No1 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同赤・無 | 反転実測 | B10 | *1.7 | | 6.0 | | | | B | B | 7.5YR8/6褐色 | 67 |
| 54 | RA05カマド周辺床 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同赤・無 | 反転実測 | B10 | *1.8 | | 5.0 | | | | A | B | 7.5YR7/6褐色 | 67 |
| 55 | RA05埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同赤・無 | 反転実測 | B10 | *1.5 | | 6.0 | | | | C | C | 2.5YR8/4浅黄褐色 | 67 |
| 56 | RA05埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 同赤・無 | 反転実測 | B10 | *1.6 | | 6.6 | | | | A | A | 5YR6/6褐色 | 67 |
| 57 | RA05カマド埋土 | 酸化炭焼成 | 罌・ロクロ | | | | | 反転実測 | E1b | *3.5 | 12.0 | | | | | C | B | 7.5YR7/3c.赤褐色 | 67 |

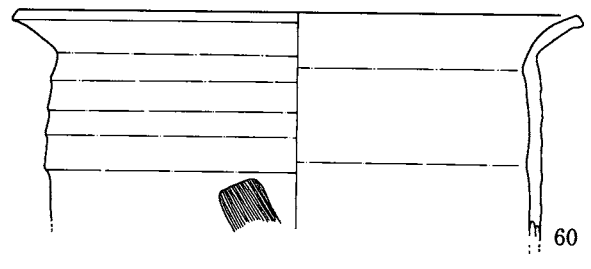
第46図 RA05出土遺物(1)



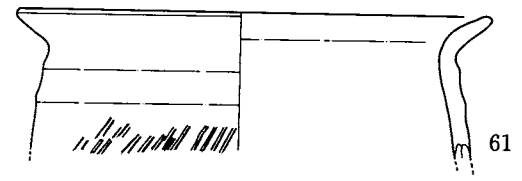
58



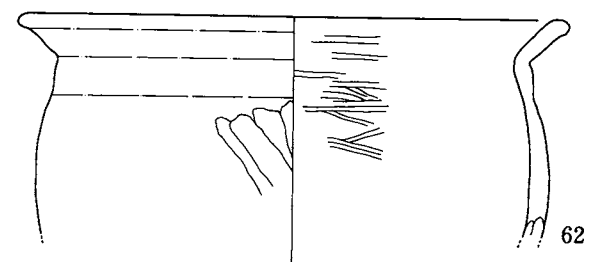
59



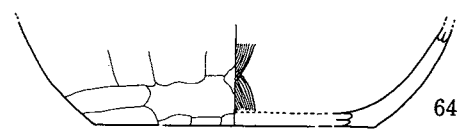
60



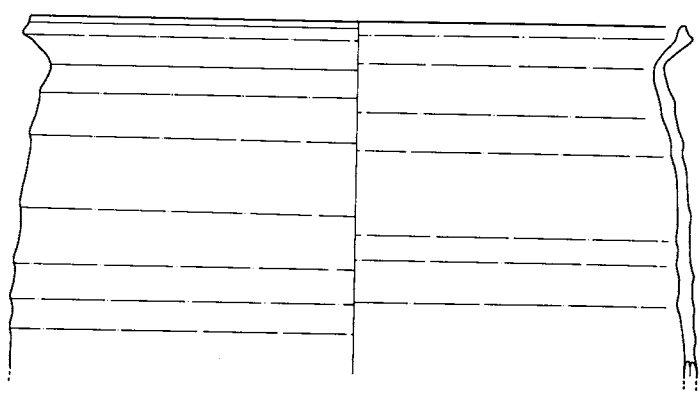
61



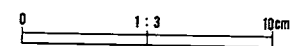
62



64

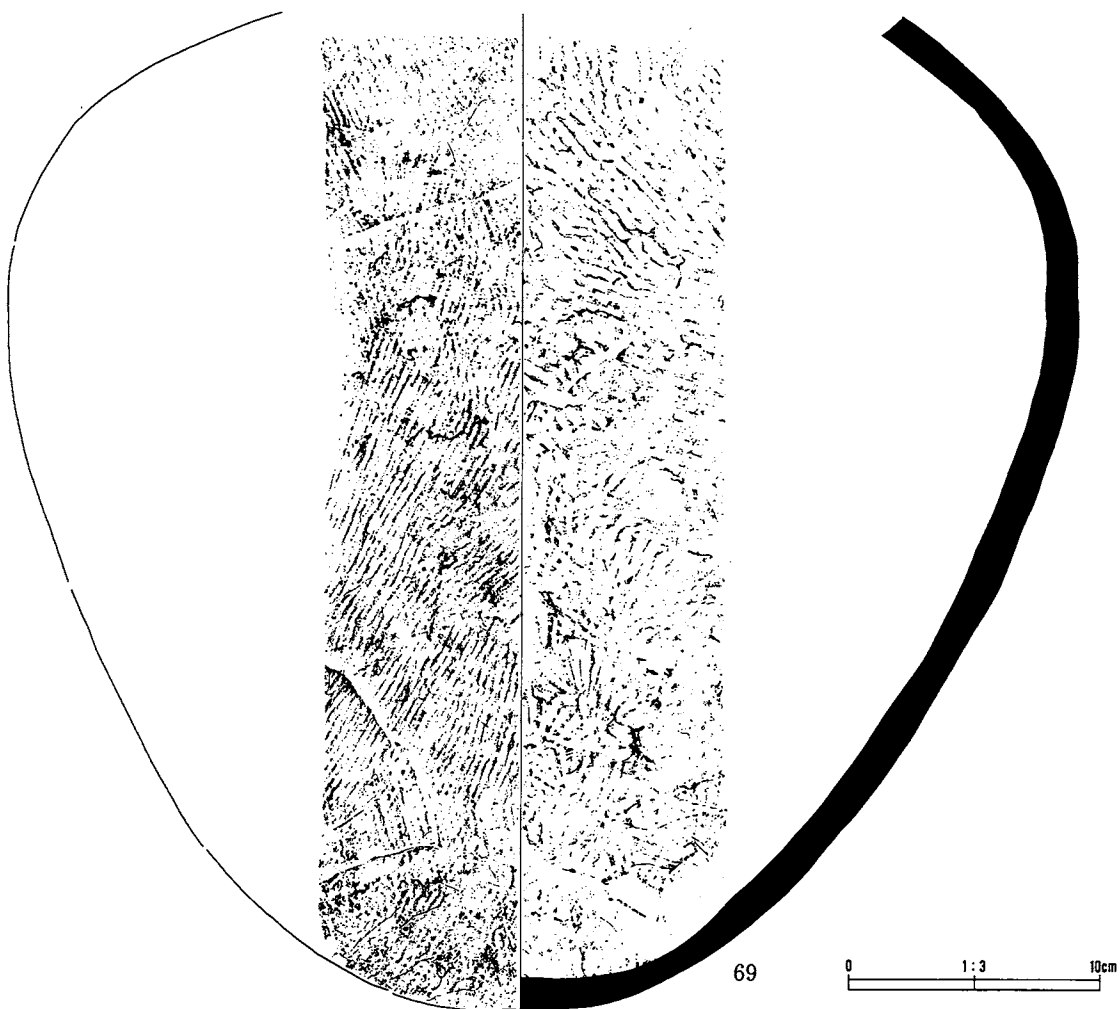
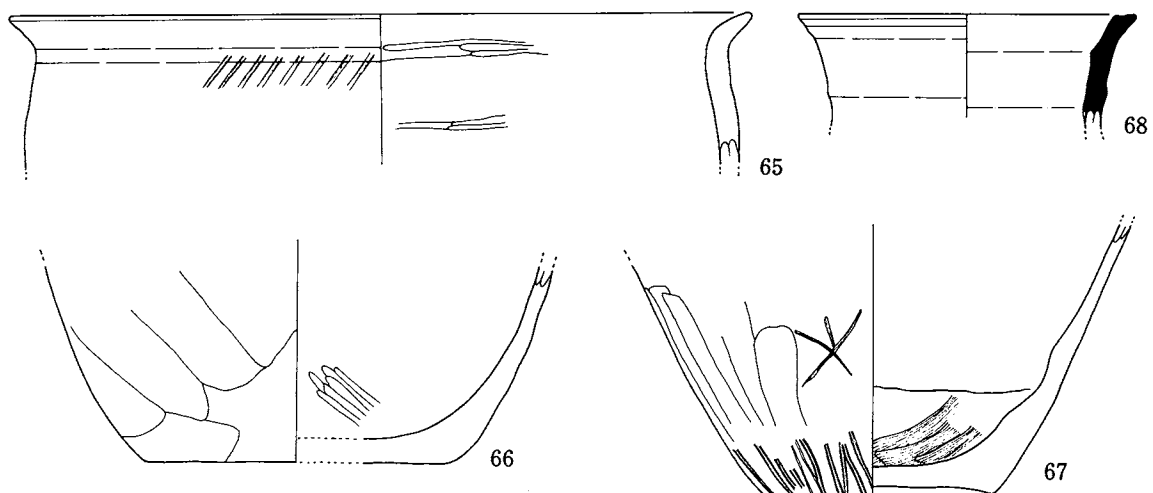


63



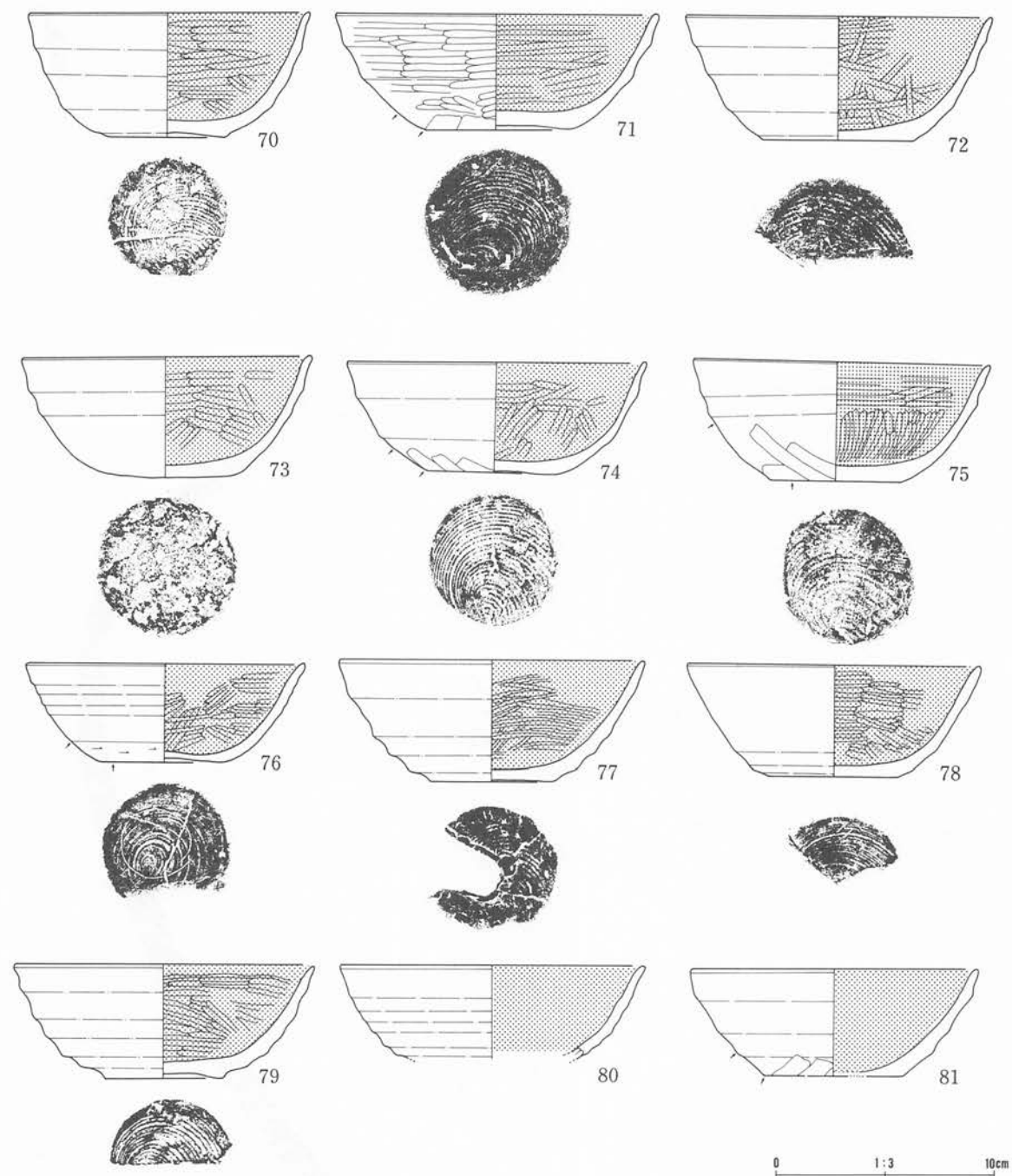
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口縁/底径 | 口/底 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|----|--------------|-------|--------|------|------|------|---------|----------|-------|---------|------|-----|-------|-----|------|----|----------------|---------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 58 | RA05貯蔵穴 | 酸化炭焼成 | 甕・ロクロ | | | | 同赤・無 | | E1a | 14.8 | 14.3 | 7.0 | 2 | 1 | A | A | 5YR7/4にふい・橙色 | 67 | |
| 59 | RA05右袖ピット | 酸化炭焼成 | 甕・ロクロ | | | | | 反転実測 | E11b2 | *5.2 | 18.0 | | | | C | B | 7.5YR7/6橙 | 67 | |
| 60 | RA05ピット | 酸化炭焼成 | 甕・ロクロ | HN | | | | 反転実測 | E11b2 | *8.7 | 22.4 | | | | C | A | 5YR7/4にふい・橙色 | 67 | |
| 61 | RA05カマド箕口 | 酸化炭焼成 | 甕・ロクロ | タタキ目 | 摩減 | | | 反転実測 | E11a1 | *5.7 | 19.2 | | | | B | B | 5YR7/8橙 | 67 | |
| 62 | RA05ピット | 酸化炭焼成 | 甕・ロクロ | HK | HM | | | No6と同一個体 | E11a1 | *8.8 | 22.1 | | | | A | A | 7.5YR7/4にふい・橙色 | 67 | |
| 63 | RA05カマド箕口奥 | 酸化炭焼成 | 甕・ロクロ | | | | | 反転実測 | E11b1 | *14.2 | 26.4 | | | | A | A | 5YR7/4にふい・橙色 | 67 | |
| 64 | RA05カマド袖構築土内 | 酸化炭焼成 | 甕・非ロクロ | HK | HN | | ヘラケスリ | 反転実測 | F | *4.0 | 11.2 | | | | B | A | 5YR6/6暗色 | 67 | |

第47図 RA05出土遺物(2)



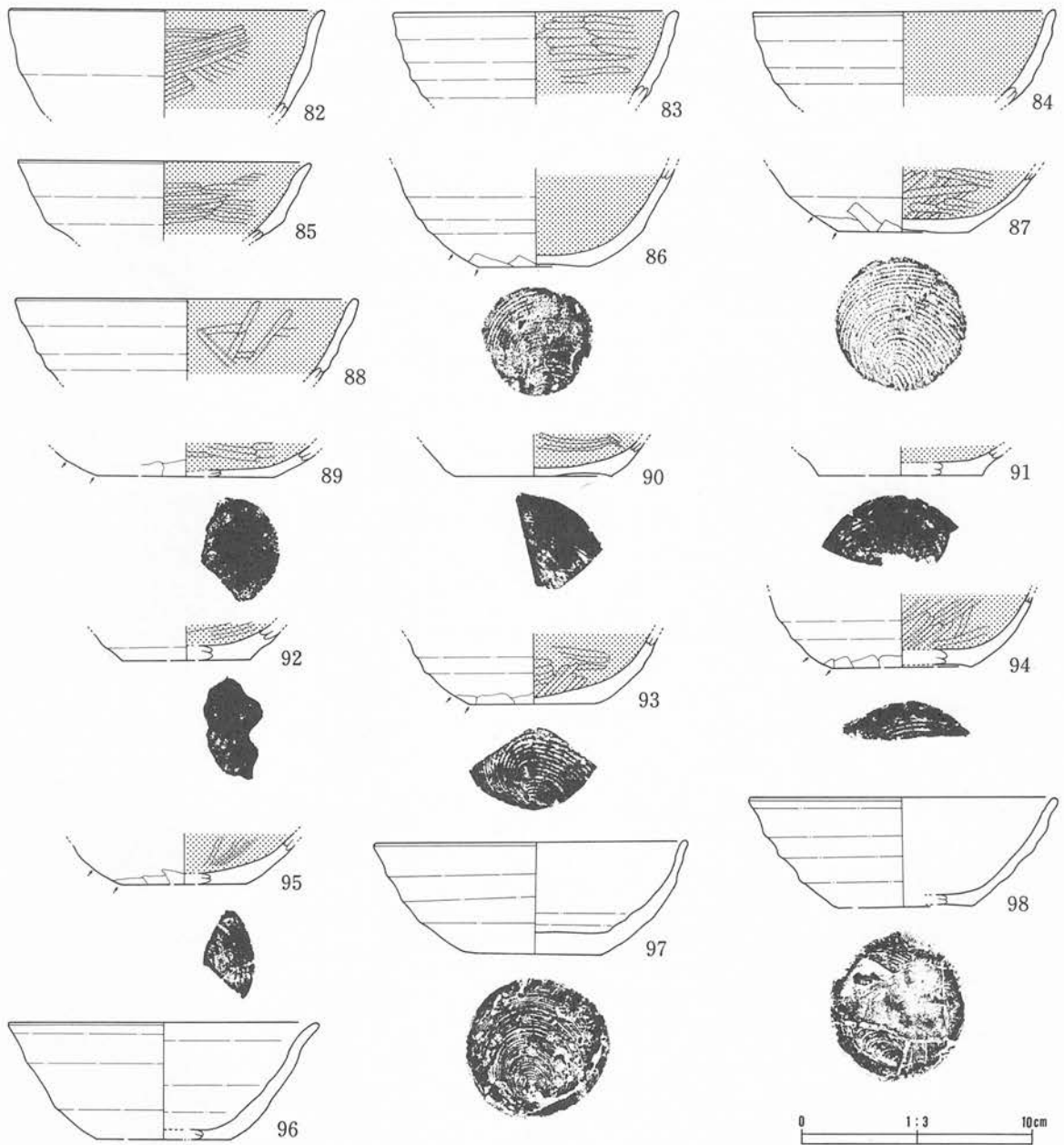
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|----|-------------|-------|-------|-------|------|------|---------|---------------|-------|---------|------|-----|-----|-----|------|----|----------------|---------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 65 | RA05カマド埋土中位 | 酸化炭焼成 | 壺・ロクロ | TT | HM | | | 反転実測 | EIIa1 | *6.2 | 30.0 | | | | A | A | 2.5YR5/4に多い赤褐色 | 68 | |
| 66 | RA05カマド床面 | 酸化炭焼成 | 埴 | HK | HM | 砂底 | | 反転実測 | G | *7.9 | 12.0 | | | | A | A | 10YR7/4に多い黄褐色 | 68 | |
| 67 | RA05カマド巻繞部 | 酸化炭焼成 | 壺 | HK-TT | HM | | | | EF | *10.8 | | 9.2 | | | C | B | 5YR7/6褐色 | 68 | |
| 68 | RA05埋土中部 | 還元炭焼成 | 壺・ロクロ | | | | | 反転実測 | E | *4.5 | 13.6 | | | | A | A | 10YR5/1褐灰 | 68 | |
| 69 | RA05カマド周辺 | 還元炭焼成 | 大甕 | タタキ目 | 連ぐり文 | | | 反転実測, RA06と接合 | EF | *40.0 | | | | | A | A | 5Y4/1灰色 | 68 | |

第48図 RA05出土遺物(3)



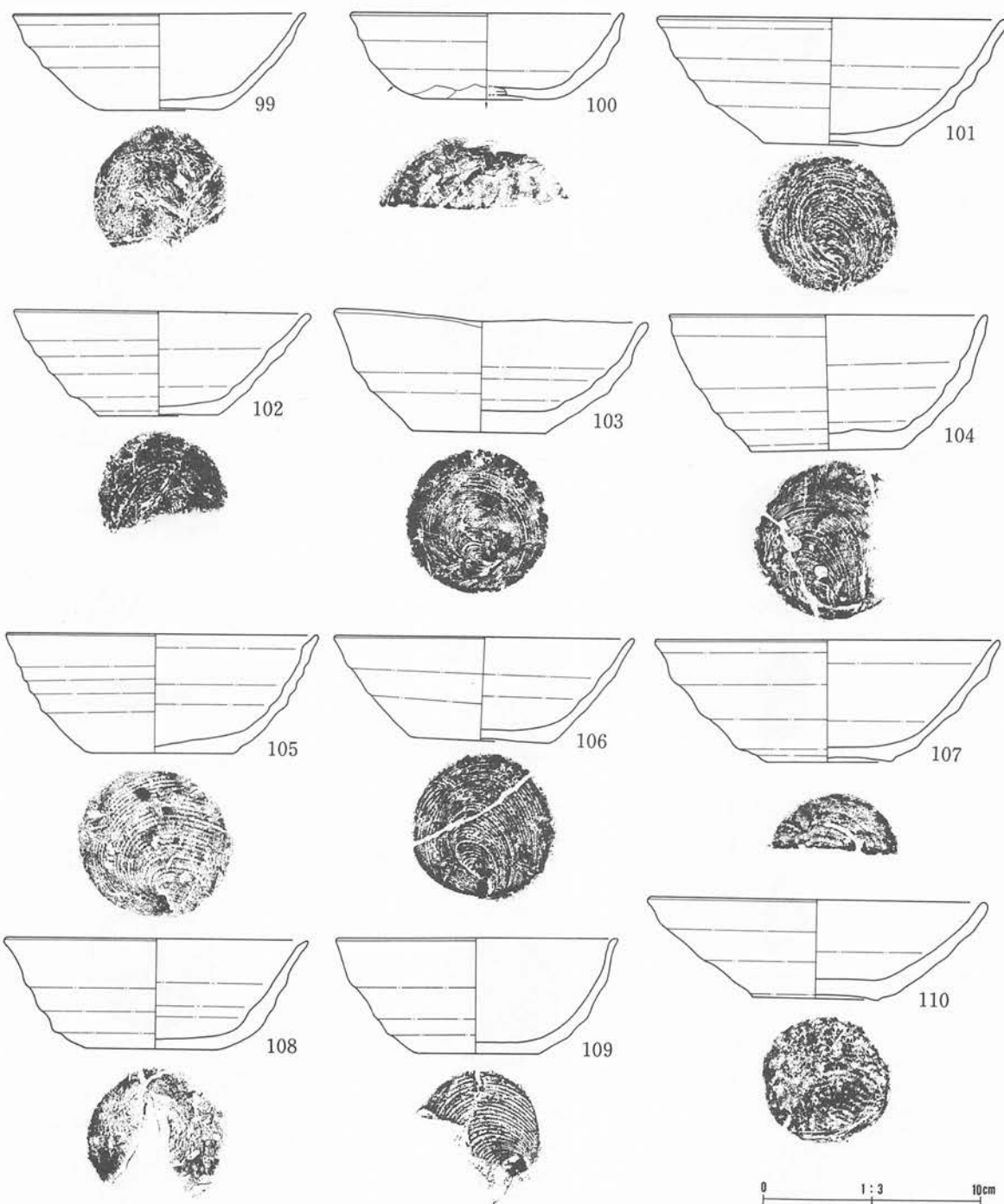
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切欠再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|----|--------------------|-------|----|-------|------|------|---------|----------|-----|---------|------|-----|-----|-----|------|------|----|------------------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 70 | RA06貯藏穴 | 酸化炎焼成 | 坏 | HM | HM | ○ | 回糸・無 | | A12 | 5.8 | 13.1 | 5.5 | 2 | 2 | 58 | A | A | 7.5YR7/4C.25V・橙色 | 68 |
| 71 | RA06_S埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | HM-HK | HM | ○ | 回糸・無 | | A11 | 5.4 | 15.0 | 6.5 | 2 | 3 | 54 | A | A | 7.5YR6/6橙色 | 68 |
| 72 | RA06貯藏穴内 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | ○ | 回糸・無 | | A10 | 5.8 | 14.2 | 7.0 | 2 | 2 | 59 | A-KU | A | 7.5YR6/4C.25V・橙色 | 68 |
| 73 | RA06貯藏穴内 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | ○ | 不明 | | A00 | 5.7 | 13.5 | 5.8 | 2 | 2 | 59 | A | A | 5YR7/4C.25V・橙色 | 68 |
| 74 | RA06貯藏穴内 | 酸化炎焼成 | 坏 | HK | HM | ○ | 回糸・有 | | A11 | 5.3 | 13.9 | 6.0 | 2 | 3 | 55 | A | A | 5YR6/4橙色 | 68 |
| 75 | RA06埋出し | 酸化炎焼成 | 坏 | HK | HM | ○ | 回糸・無 | | A11 | 5.6 | 13.8 | 6.0 | 2 | 2 | 55 | A | A | 7.5YR6/4C.25V・橙色 | 68 |
| 76 | RA06埋道内 | 酸化炎焼成 | 坏 | 回転HK | HM | ○ | 回糸・有 | 反転実測 | A11 | 4.5 | 12.8 | 3.8 | 2 | 3 | 54 | A | A | 7.5YR6/6橙色 | 68 |
| 77 | RA06埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | ○ | 回糸・無 | 反転実測 墨書? | A10 | 5.4 | 14.1 | 5.5 | 3 | 3 | 54 | A | A | 7.5YR7/4C.25V・橙色 | 68 |
| 78 | RA06埋土上部 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | ○ | 回糸・無 | 反転実測 | A10 | 5.1 | 13.6 | 6.0 | 2 | 3 | 55 | A | A | 7.5YR7/3C.25V・橙色 | 68 |
| 79 | RA06埋道内 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | ○ | 回糸・無 | 反転実測 | A10 | 5.2 | 14.0 | 5.6 | 3 | 3 | 52 | A | A | 7.5YR7/4C.25V・橙色 | 68 |
| 80 | RA06石軸ビット周辺・左袖周辺 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | ○ | | 二次加熱 | A00 | *4.3 | 14.2 | | | | | A | A | 5YR7/6橙色 | 68 |
| 81 | RA06埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | HK | HM摩減 | ○ | 摩減不明 | | A01 | 5.2 | 13.4 | 6.4 | 2 | 3 | 58 | A-KU | A | 10YR7/6C.25V・黄橙色 | 68 |

第49図 RA06出土遺物(1)



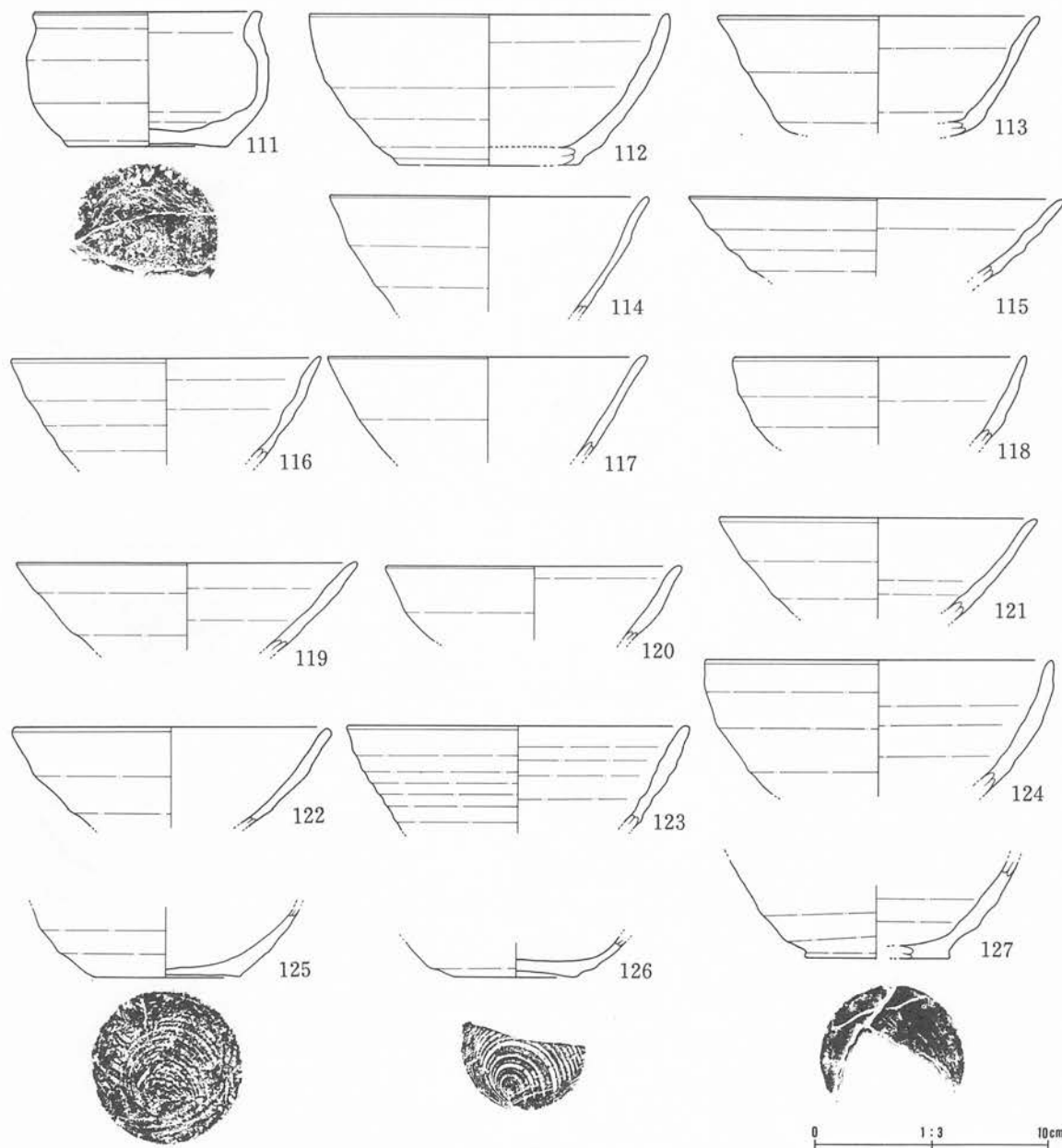
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|----|-------------|-------|----|------|------|------|---------|------|------|---------|------|-----|-----|-----|------|--------------|---------------|-------------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 82 | RA06埋土 | 織化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | 不明 | 反転実測 | A00 | *4.8 | 13.8 | | | | A | A | 7.5YR7/4にふい橙色 | 68 | |
| 83 | RA06貼床内 | 織化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | 不明 | 反転実測 | A00 | *4.1 | 12.6 | | | | A | A | 5YR6/6橙色 | 68 | |
| 84 | RA06カマド左袖周辺 | 織化炭焼成 | 坏 | | HM摩減 | ○ | | 反転実測 | A00 | *4.2 | 13.4 | | | | A-KU | A | 5YR6/6橙色 | 68 | |
| 85 | RA06埋土 | 織化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | | 反転実測 | A00 | *3.5 | 13.0 | | | | A | A | 7.5YR6/4にふい橙色 | 68 | |
| 86 | RA06右袖周辺 | 織化炭焼成 | 坏 | HK | HM摩減 | ○ | 回糸・無 | | A11 | *4.4 | 5.0 | | | | A | A | 5YR7/6橙色 | 68 | |
| 87 | RA06右袖周辺 | 織化炭焼成 | 坏 | HK | HM | ○ | 回糸・無 | | A11 | *2.7 | 6.0 | | | | A-KU | A | 10YR6/4にふい橙色 | 68 | |
| 88 | RA06埋土最下部 | 織化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | | | A00 | *3.6 | 15.2 | | | | A-KU | A | 7.5YR6/6橙色 | 68 | |
| 89 | RA06右袖ビット周辺 | 織化炭焼成 | 坏 | | | ○ | 回糸・無 | 反転実測 | B10 | *1.1 | 4.6 | | | B | B | 7.5YR8/4沈黄橙色 | 68 | | |
| 90 | RA06埋土 | 織化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | 回糸・無 | | A10 | *1.6 | 6.8 | | | | A | A | 5YR6/6橙色 | 68 | |
| 91 | RA06埋土下部 | 織化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | 回糸・無 | 反転実測 | A10 | *1.3 | 7.2 | | | | A | A | 7.5YR6/8沈黄橙色 | 68 | |
| 92 | RA06埋土 | 織化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | 回糸・無 | 反転実測 | A10 | *1.6 | 5.6 | | | | A | A | 7.5YR7/6橙色 | 68 | |
| 93 | RA06カマド袖内 | 織化炭焼成 | 坏 | HK下端 | HM | ○ | 回糸・無 | | A11 | *3.2 | 5.6 | | | | A | A | 5YR6/4にふい橙色 | 68 | |
| 94 | RA06カマド脇ビット | 織化炭焼成 | 坏 | HK下端 | HM | ○ | 回糸・無 | 反転実測 | A11 | *3.3 | 6.2 | | | | A | A | 7.5YR7/6橙色 | 68 | |
| 95 | RA06埋土 | 織化炭焼成 | 坏 | HK下端 | HM | ○ | 回糸・無 | 反転実測 | A11 | *2.3 | 5.6 | | | | A | A | 7.5YR7/6橙色 | 68 | |
| 96 | RA06埋土 | 織化炭焼成 | 坏 | | 摩減 | | 摩減 | | B00 | 5.2 | 13.8 | 6.0 | 2 | 3 | 57 | A | C | 7.5YR7/6橙色 | 68 |
| 97 | RA06貯蔵穴内 | 織化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10c | 5.1 | 13.9 | 5.7 | 2 | 3 | 56 | A | A | 5YR6/4にふい橙色 | 68 |
| 98 | RA06貯蔵穴内 | 織化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10e | 5.0 | 13.7 | 6.0 | 2 | 3 | 53 | A | A | 5YR7/6橙色 | 68 |

第50図 RA06出土遺物(2)



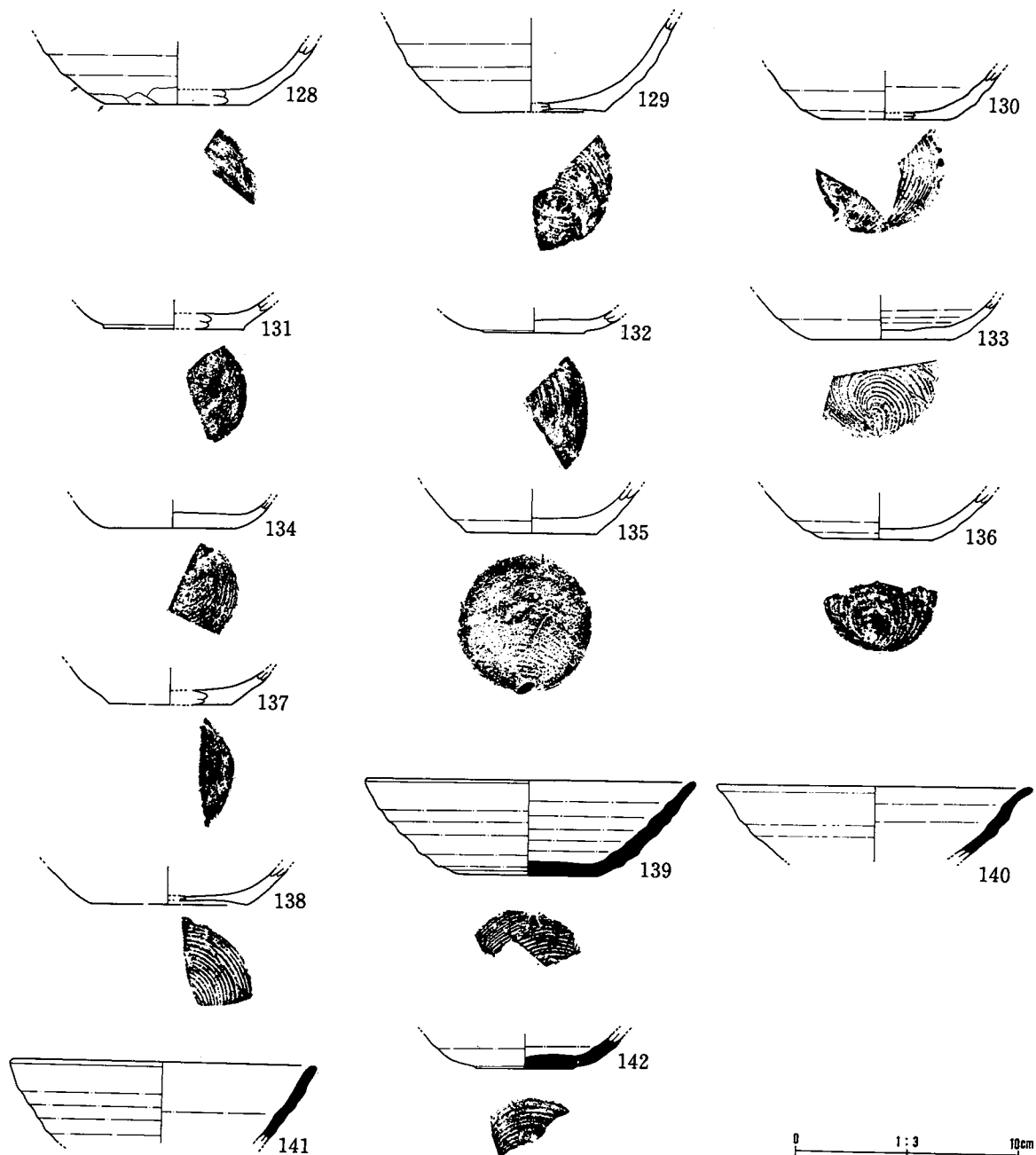
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切磨再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | | 外側角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 | |
|-----|-------------|-------|----|------|------|------|---------|------|------|---------|------|-----|-----|------|----|------|---------|----------------|----|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | 口/底 | | | | | | |
| 99 | RA06貯蔵穴 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10e | 4.5 | 13.7 | 5.6 | 2 | 3 | 50 | B | B | 7.5YR7/4にふい・褐色 | 69 |
| 100 | RA06埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | HK | | | 回糸・有 | 反転実割 | B111 | 4.0 | 12.8 | 6.0 | 2 | 3 | 52 | A-KU | B | 7.5YR6/4にふい・褐色 | 69 |
| 101 | RA06貯蔵穴内 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10c | 6.0 | 16.3 | 6.3 | 3 | 3 | 52 | C | C | 7.5YR6/6褐色 | 69 |
| 102 | RA06埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10e | 5.0 | 13.8 | 5.7 | 2 | 3 | 49 | A | B | 5YR7/4にふい・褐色 | 69 |
| 103 | RA06貯蔵穴内 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 添み有り | B10c | 5.7 | 14.6 | 6.5 | 2 | 3 | 50 | A | A | 5YR6/6褐色 | 69 |
| 104 | RA06貯蔵穴内 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10c | 6.5 | 14.8 | 7.1 | 2 | 2 | 58 | A | C | 5YR6/6褐色 | 69 |
| 105 | RA06貯蔵穴内 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10c | 5.6 | 14.5 | 6.7 | 2 | 3 | 58 | A-KU | A | 7.5YR6/4にふい・褐色 | 69 |
| 106 | RA06貯蔵穴内 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10e | 5.0 | 14.0 | 6.5 | 2 | 3 | 56 | C | C | 7.5YR8/4浅黄褐色 | 69 |
| 107 | RA06埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 反転実割 | B10c | 5.7 | 16.0 | 5.6 | 3 | 3 | 49 | C | C | 5YR7/4にふい・褐色 | 69 |
| 108 | RA06埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 反転実割 | B10e | 5.1 | 14.2 | 6.3 | 2 | 3 | 54 | A | A | 5YR6/6褐色 | 69 |
| 109 | RA06貯蔵穴内 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 内面に縦 | B10c | 5.3 | 13.1 | 5.7 | 2 | 2 | 60 | A | A | 5YR6/8褐色 | 69 |
| 110 | RA06カマド左袖周辺 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10d | 4.6 | 15.8 | 6.0 | 3 | 3 | 44 | B | C | 7.5YR7/8黄褐色 | 69 |

第51図 RA06出土遺物(3)



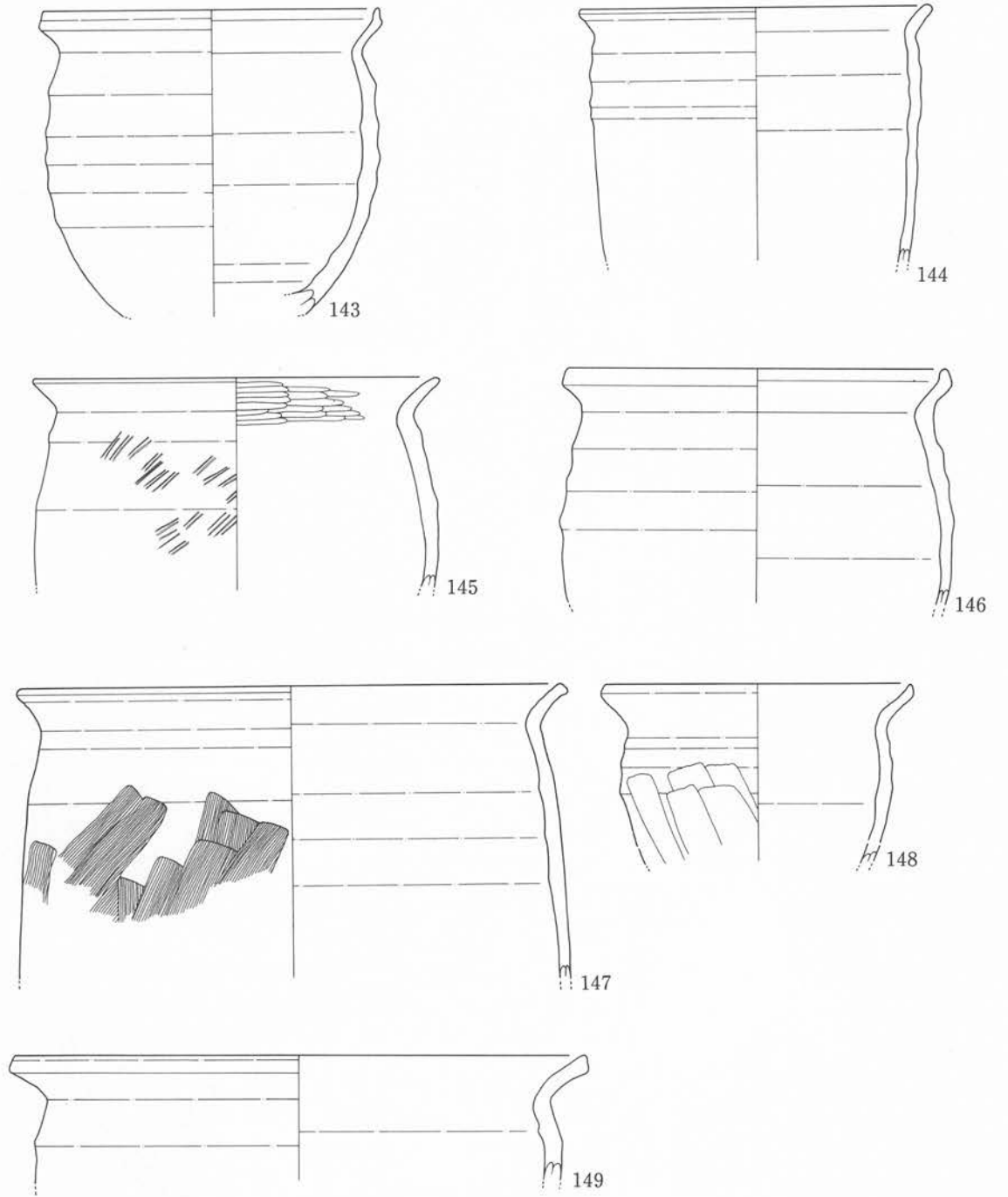
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾角度 | 粘土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|-----|-------------|-------|----|------|------|------|---------|-------------|------|---------|------|-----|-----|-----|------|------|----|----------------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 111 | RA06Q1埋土上部 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | | B10a | 5.9 | 10.0 | 7.0 | 1 | 2 | 82 | B | C | 5YR8/1灰色 | 69 |
| 112 | RA06貯蔵穴内 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | 反転実測 | B10c | 6.6 | 15.8 | 8.0 | 2 | 2 | 60 | B | C | 5YR6/8褐色 | 69 |
| 113 | RA06カマド脇ビット | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | | 反転実測 | B00 | *6.4 | 14.0 | | | | 60 | C | C | 5YR8/3淡褐色 | 69 |
| 114 | RA06床直No1 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | | 反転実測 | B00 | *5.3 | 14.0 | | | | | C | C | 10YR8/6黄褐色 | 69 |
| 115 | RA06左袖周辺 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | | 反転実測 | B00 | *3.6 | 16.4 | | | | | A | C | 5YR7/6褐色 | 69 |
| 116 | RA06埋土上部 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | | 反転実測 | B00 | *4.6 | 13.6 | | | | | C | C | 5YR7/6褐色 | 69 |
| 117 | RA06カマド脇ビット | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | | 反転実測 | B00 | *5.4 | 14.0 | | | | | C | C | 7.5YR8/6淡黄褐色 | 69 |
| 118 | RA06埋土上部 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | | 反転実測 | B00 | *3.8 | 12.8 | | | | | B-KU | B | 7.5YR6/6褐色 | 69 |
| 119 | RA06埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | | 反転実測 | B00 | *5.8 | 14.0 | | | | | C | C | 5YR7/6褐色 | 69 |
| 120 | RA06埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | | 反転実測, 外面煤付着 | B00 | *3.2 | 13.0 | | | | | C | C | 7.5YR7/6褐色 | 69 |
| 121 | RA06左袖周辺 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | | 反転実測 | B00 | *4.4 | 14.0 | | | | | C-KU | C | 5YR6/6褐色 | 69 |
| 122 | RA06カマド脇ビット | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | | | B00 | *4.3 | 14.0 | | | | | C | C | 7.5YR8/6淡黄褐色 | 69 |
| 123 | RA06埋土 | 還元炭焼成 | 坏 | | | | | | C00 | *4.6 | 15.0 | | | | | A | A | 10YR4/1黒灰色 | 69 |
| 124 | RA06埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | | 反転実測 | B00 | *5.9 | 15.2 | | | | | A | B | 5YR6/8褐色 | 69 |
| 125 | RA06煙道 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | | B10 | *3.0 | | 6.5 | | | | B | A | 7.5YR7/6褐色 | 69 |
| 126 | RA06左袖 | 還元炭焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | | C10 | *1.5 | | 5.5 | | | | A | C | 7.5YR6/4cにぶい褐色 | 69 |
| 127 | RA06貼床内 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回来・厚減 | | B10 | *4.3 | | 6.3 | | | | A-KU | A | 7.5YR6/6にぶい褐色 | 69 |

第52図 RA06出土遺物(4)



| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 注量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|-----|-------------|-------|-------|------|-------|------|---------|------------|-----|---------|------|-----|-----|-----|------|----|---------------|------------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 128 | RA06埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | HK下端 | HM | ○ | 回来・無 | | A11 | *2.8 | | 6.4 | | | A | A | 7.5YR7/6橙色 | 69 | |
| 129 | RA06埋土右袖ビット | 酸化炎焼成 | 壁・ロクロ | | | | 回来・無 | | E | *4.2 | | 6.6 | | | C | C | 5YR7/6褐色 | 69 | |
| 130 | RA06貼床内 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM・摩滅 | ○ | 回来・無 | 反転実測 | A10 | *2.2 | | 5.6 | | | A | A | 10YR5/2灰黄褐色 | 69 | |
| 131 | RA06埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 摩滅・不明 | | B00 | *1.4 | | 6.4 | | | C | C | 5YR8/7褐色 | 69 | |
| 132 | RA06右袖ビット | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | 二次加熱?・反転実測 | B10 | *1.5 | | 7.6 | | | A・KU | A | 5YR6/6褐色 | 69 | |
| 133 | RA06カマド標箱土内 | 還元炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | | C10 | *2.0 | | 7.4 | | | A | A | 7.5YR6/2灰褐色 | 69 | |
| 134 | RA06埋土上部 | 還元炎焼成 | 坏 | | | | | | B10 | *1.3 | | 6.0 | | | C | B | 10YR8/4浅黄褐色 | 69 | |
| 135 | RA06甕腹部 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | | B10 | *2.0 | | 6.0 | | | A | B | 5YR7/1灰白色 | 69 | |
| 136 | RA06貯蔵穴内 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | 反転実測 | B10 | *2.1 | | 5.0 | | | C | C | 7.5YR8/4浅黄褐色 | 69 | |
| 137 | RA06埋土 | 還元炎焼成 | 坏 | | | | 摩滅・不明 | 反転実測 | B00 | *1.6 | | 5.6 | | | C | C | 5YR7/6褐色 | 69 | |
| 138 | RA06埋土 | 還元炎焼成 | 壁・ロクロ | | | | 回来・無 | 反転実測 | E | *1.7 | | 7.0 | | | C | C | 7.5YR8/4浅黄褐色 | 69 | |
| 139 | RA06カマド左袖周辺 | 還元炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | 反転実測・重ね焼き | C10 | 4.3 | 15.0 | 6.0 | 3 | 3 | 46 | A | A | 7.5YR6/6褐色 | 69 |
| 140 | RA06埋土下部 | 還元炎焼成 | 坏 | | | | | 重ね焼き | C00 | *3.4 | 14.4 | | | | A | A | 5Y5/1灰色 | 69 | |
| 141 | RA06貼床内 | 還元炎焼成 | 坏 | | | | | | C00 | *3.6 | 14.0 | | | | A | A | 7.5YR7/4にょい褐色 | 69 | |
| 142 | RA06埋土 | 還元炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | 反転実測 | C10 | *1.6 | | 4.4 | | | A | A | 5Y5/1灰色 | 69 | |

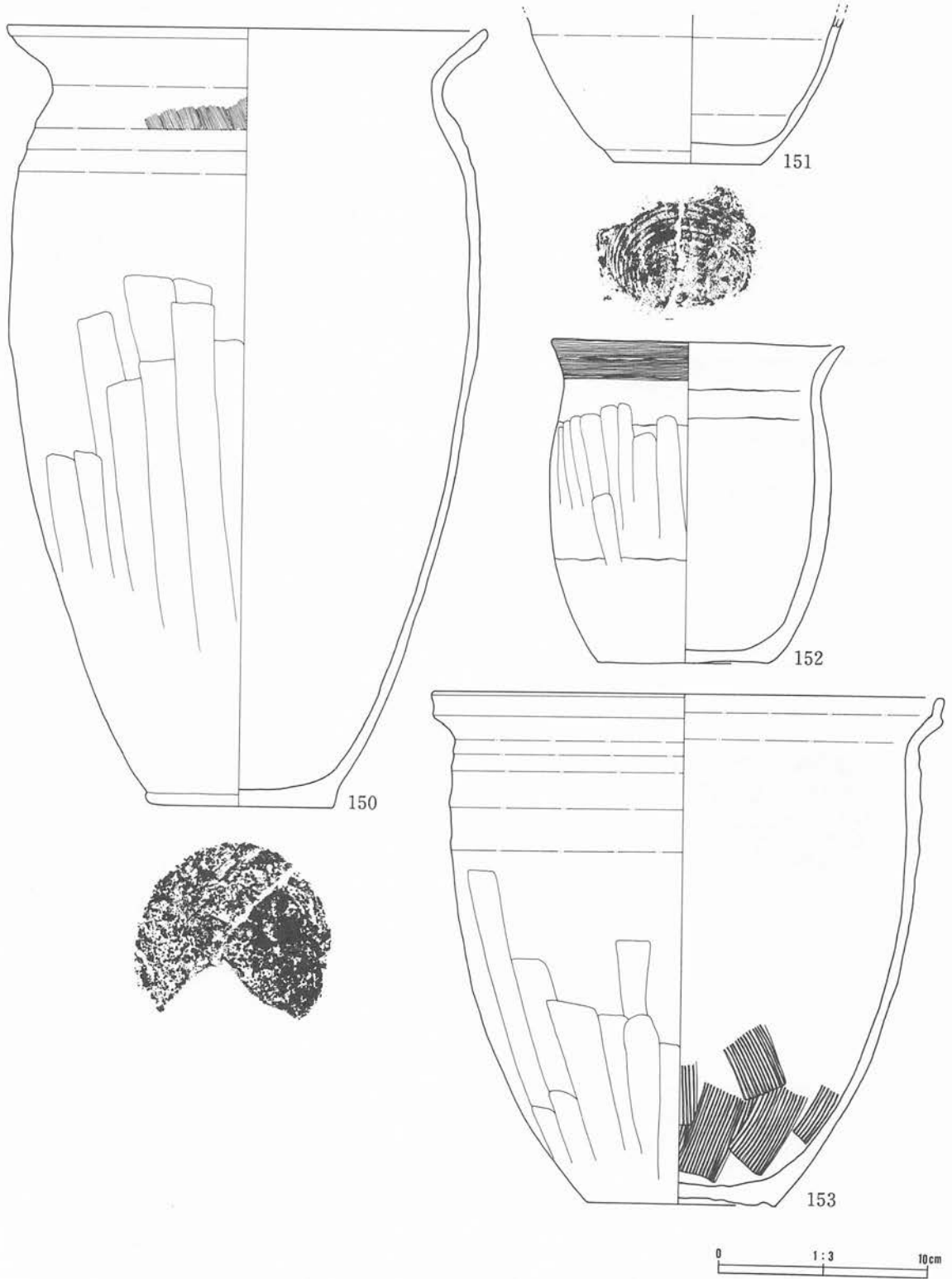
第53図 RA06出土遺物(5)



0 1:3 10cm

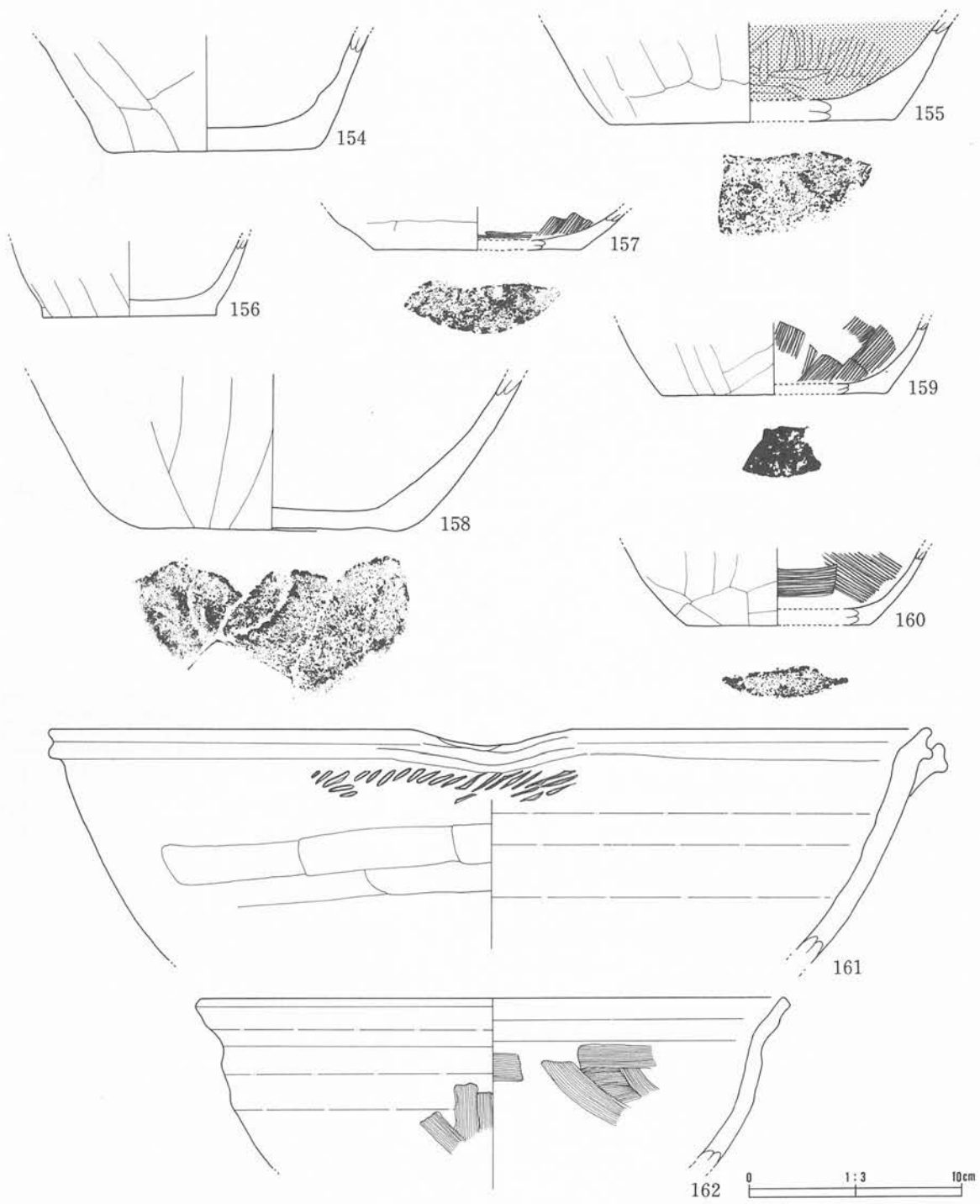
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|-----|--------------|-------|-------|------|------|------|---------|------|--------|---------|------|-----|-----|-----|------|----|----------------|---------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 143 | RA06床面 | 酸化炭焼成 | 変・ロクロ | | | | | 反転実測 | E1b | 14.1 | 15.6 | 8.1 | 2 | 1 | A | B | 7.5YR8/4浅黄褐色 | 70 | |
| 144 | RA06埋土 | 酸化炭焼成 | 変・ロクロ | | | | 回糸・無 | | E | *11.9 | 16.3 | | | | C | C | 7.5YR7/3にふい・褐色 | 70 | |
| 145 | RA06埋土中部 | 酸化炭焼成 | 変・ロクロ | TT | HM | | | | EIIa1 | *9.8 | 18.8 | | | | A-KU | A | 7.5YR6/6褐色 | 70 | |
| 146 | RA06右袖ビット周辺 | 酸化炭焼成 | 変・ロクロ | | | | | 反転実測 | EIIIb1 | | 17.6 | | | | B | B | 5YR7/6褐色 | 70 | |
| 147 | RA06床面 | 酸化炭焼成 | 変・ロクロ | HN | | | | 反転実測 | EIIIb2 | *13.5 | 25.0 | | | | C | A | 5YR7/6褐色 | 70 | |
| 148 | RA06カマド右袖ビット | 酸化炭焼成 | 変・ロクロ | HK | | | | 反転実測 | E1b | *8.8 | 14.4 | | | | C | A | 5YR6/8褐色 | 70 | |
| 149 | RA06右袖ビット | 酸化炭焼成 | 変・ロクロ | | | | | | EIIIb2 | *5.8 | 26.4 | | | | B | B | 5YR7/6褐色 | 70 | |

第54図 RA06出土遺物(6)



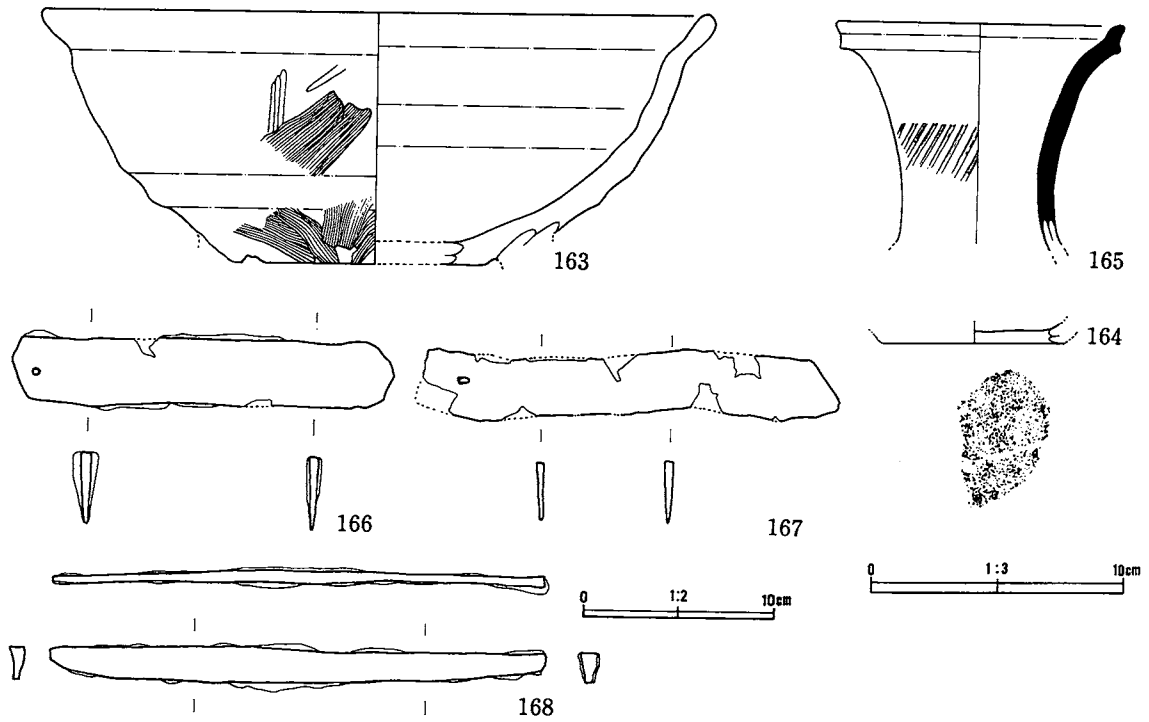
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 注量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|-----|-------------|-------|--------|-------|------|------|---------|----|-------|---------|------|-----|-----|-----|------|-----|---------------|---------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 150 | RA06カマド燃焼部 | 酸化炭焼成 | 罍・ロクロ | HN-HK | | | | | EIIa2 | 27.8 | 23.3 | 9.0 | 3 | 1 | | C B | 7.5YR7/4に近・橙色 | 70 | |
| 151 | RA06埋土上部 | 酸化炭焼成 | 罍・ロクロ | | | 同赤・無 | | | EIIa1 | 7.2 | | 7.1 | | | | C C | 7.5YR7/3に近・褐色 | 70 | |
| 152 | RA06カマド燃焼部内 | 酸化炭焼成 | 罍・非ロクロ | YN-HK | | | | | F1a | 15.7 | 14.2 | 8.4 | 2 | 1 | | C B | 5YR6/8褐色 | 70 | |
| 153 | RA06カマド燃焼部 | 酸化炭焼成 | 罍・ロクロ | HK | H | | | | EIIb1 | 24.8 | 24.7 | 9.2 | 3 | 1 | | B B | 5YR6/6褐色 | 70 | |

第55図 R A 06出土遺物(7)



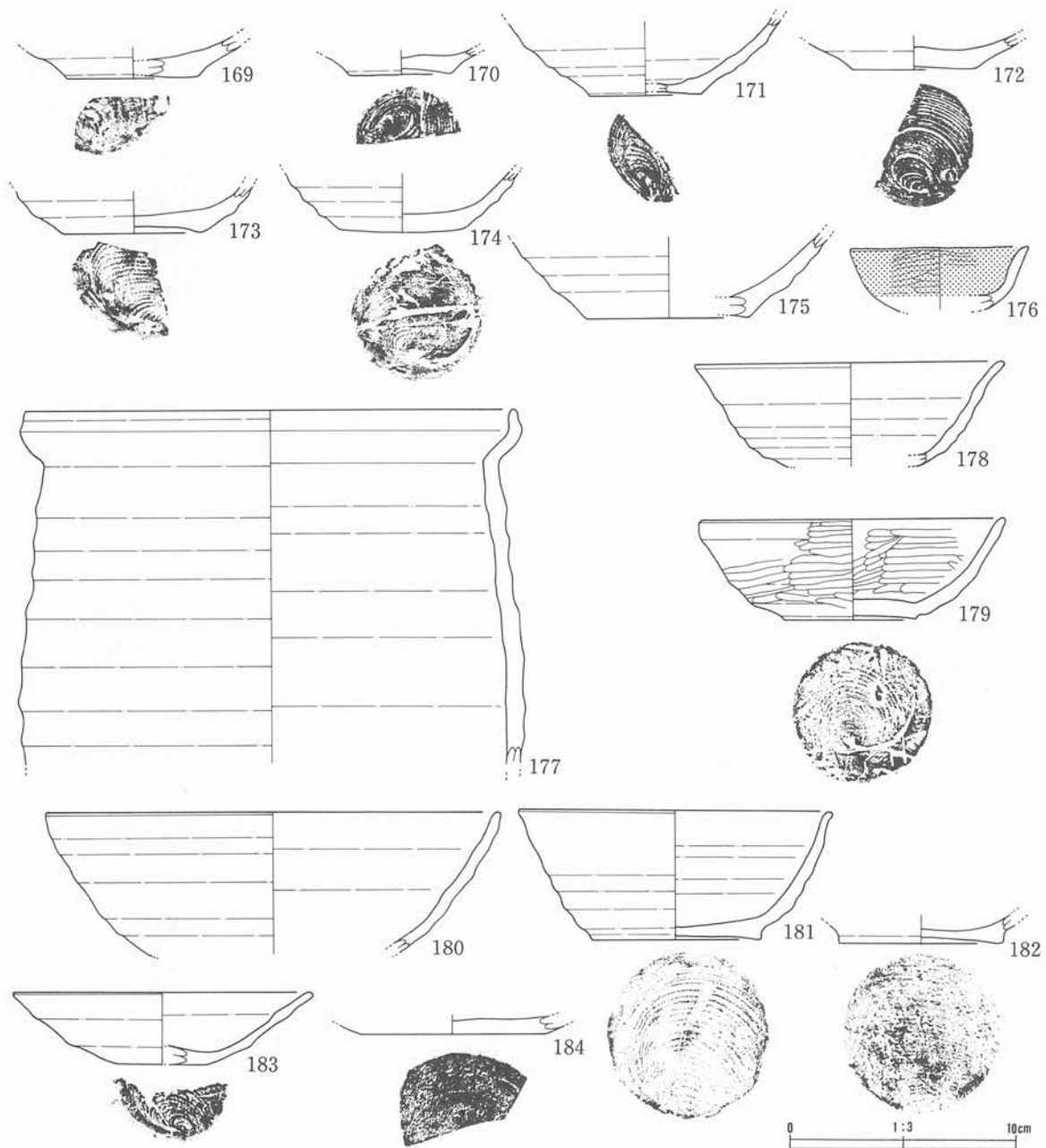
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|-----|--------------------|-------|--------|-------|------|------|---------|--------------|------|---------|------|----|-----|-----|------|----|--------------|---------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 154 | RA06カマド右袖ビット | 酸化炭焼成 | 甕 | HK | HN? | | | | EF | *5.5 | 9.4 | | | | C | B | 5YR7/6褐色 | 70 | |
| 155 | RA06カマド内 | 酸化炭焼成 | 鉢 | HK | HM | ○ | 砂底 | 二次加熱 | EF | *4.8 | 13.6 | | | | A | B | 7.5YR8/4浅黄褐色 | 70 | |
| 156 | RA06燃焼部 | 酸化炭焼成 | 甕・非ロクロ | HK | | | | | F | *3.6 | 8.4 | | | | C | B | 5YR6/6褐色 | 70 | |
| 157 | RA06カマド右袖ビット | 酸化炭焼成 | 甕 | HK | H | | 砂底 | | EF | *2.0 | 10.0 | | | | C | C | 7.5YR8/4浅黄褐色 | 70 | |
| 158 | RA06カマド脇ビット | 酸化炭焼成 | 甕OR鉢 | HK | HM | ○ | 砂底 | 二次加熱 | EF | *7.4 | 12.2 | | | | A | A | 7.5YR6/6褐色 | 70 | |
| 159 | RA06埋土上部 | 酸化炭焼成 | 甕 | HK | H | | 砂底 | | EF | *3.4 | 10.8 | | | | B | C | 5YR7/8褐色 | 70 | |
| 160 | RA06埋土上部 | 酸化炭焼成 | 甕 | HK | H | | 砂底 | | EF | *3.7 | 8.8 | | | | C | B | 7.5YR7/6褐色 | 70 | |
| 161 | RA06埋土・左袖固定・脇ビット・R | 酸化炭焼成 | 甕 | TT-HK | HN | | | RE06と接合、反転実測 | GIIa | *11.1 | 42.3 | | | | C | C | 5YR7/4に濃い褐色 | 70 | |
| 162 | RA06右袖ビット | 酸化炭焼成 | 鍋・ロクロ | HN | HN | | | | GIa | *9.2 | 28.0 | | | | C | A | 5YR7/4に濃い褐色 | 71 | |

第56図 RA06出土遺物(8)



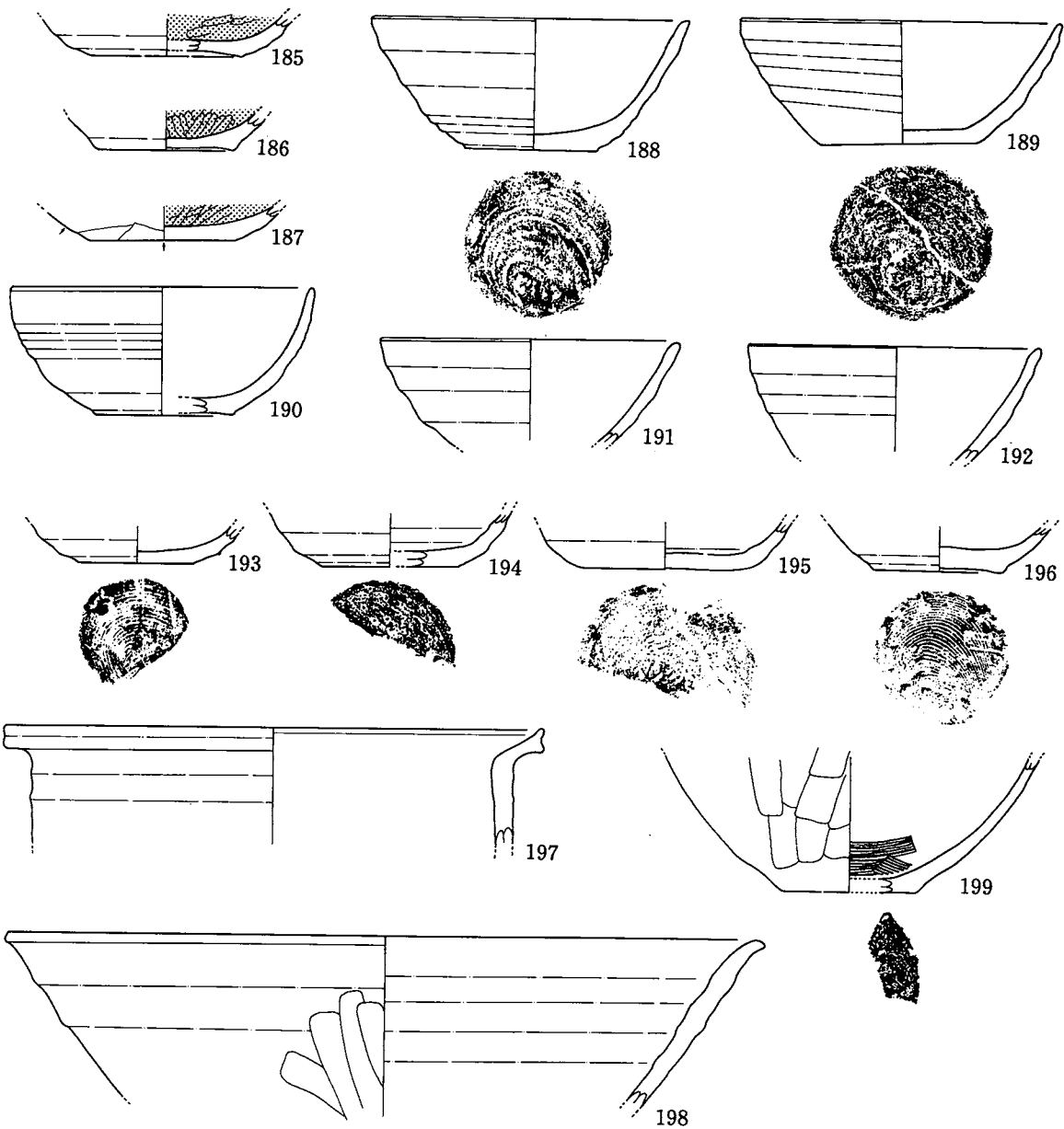
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 注量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾角度 | 粘土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|-----|------------|-------|---------|-------|------|------|---------|---------|-----|---------|------|-----|-----|-----|------|----|----|-------------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 163 | RA06カド器ビット | 酸化炭焼成 | 鳩?・ロクロ | HN-HM | | | 砂底 | 反転実測、印? | G1a | 10.1 | 27.2 | 9.0 | 3 | 3 | | C | B | 10YR8/4浅黄褐色 | 71 |
| 164 | RA06カド周辺 | 酸化炭焼成 | 笏 | 摩滅 | | | 砂底 | | EF | *0.9 | | 7.4 | | | | C | C | 5YR5/9明赤褐色 | 71 |
| 165 | RA06左袖埋土中位 | 還元炭焼成 | 長筒壺・ロクロ | TT | | | | | EF | *8.8 | 11.4 | | | | | A | A | 10YR5/1編灰色 | 71 |
| 166 | RA06右袖上部 | 鉄製品 | 刀子 | | | | | 9.74g | | | | | | | | | | | 71 |
| 167 | RA06床面 | 鉄製品 | 刀子 | | | | | 5.20g | | | | | | | | | | | 71 |
| 168 | RA06埋出し | 鉄製品 | 釘? | | | | | 14.51g | | | | | | | | | | | 71 |

第57図 RA06出土遺物(9)



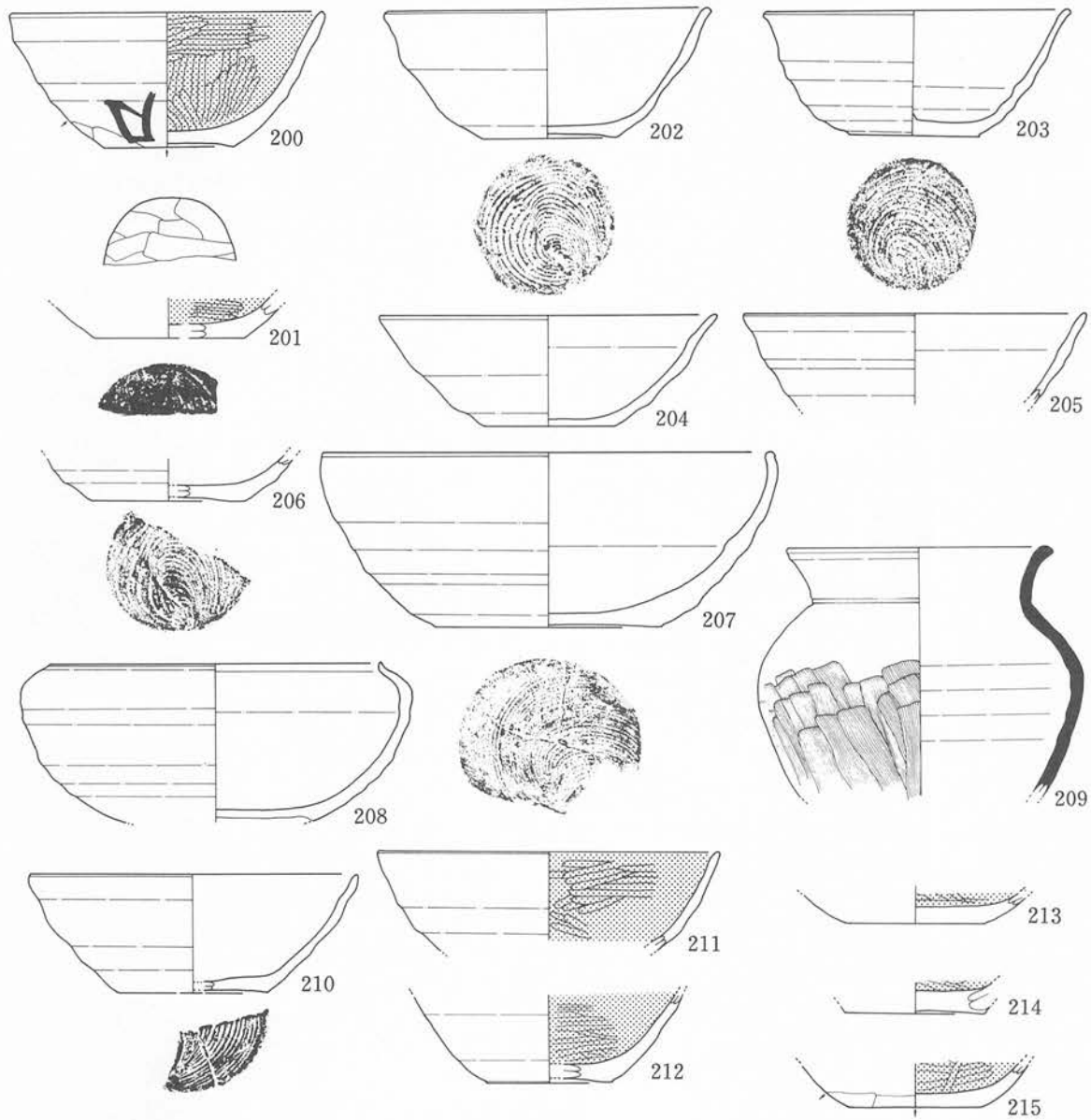
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切彫 再調整 | 備考 | 分類 | 注量 (cm) | | | 口/底 口/高 | 外相 角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真 図版 | |
|-----|---------|-------|-------|------|------|------|-------------|------|-------|---------|------|-----|------------|----------|------|------|-----------------|-----------------|----|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 169 | RB03-P3 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | ●1.4 | | 5.8 | | | A | A | 7.5YR7/4C.25・橙色 | 71 | |
| 170 | RB03-P4 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | ●0.9 | | 4.6 | | | A | A | 5YR7/6橙色 | 71 | |
| 171 | RB03-P4 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | ●3.3 | | 5.0 | | | A | A | 2.5YR7/6橙色 | 71 | |
| 172 | RB03-P4 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | ●1.1 | | 5.5 | | | A | A | 5YR7/6橙色 | 71 | |
| 173 | RB03-P3 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | ●2.0 | | 6.2 | | | A-KU | A | 7.5YR7/4C.25・橙色 | 71 | |
| 174 | RB03-P1 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | ●2.2 | | 6.0 | | | A | A | 7.5YR7/4B.25・橙色 | 71 | |
| 175 | RB03-P1 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 反転実測 | B10 | ●3.5 | | 7.3 | | | A-KU | A | 7.5YR7/4C.25・橙色 | 71 | |
| 176 | RB03-P4 | 酸化炭焼成 | 坏 | HM | HM | ○ | | | A03 | ●2.8 | | 8.0 | | | A | A | 黒色 | 71 | |
| 177 | RD001埋土 | 酸化炭焼成 | 甕・ロクロ | | | | | | EHbl | ●16.0 | 22.0 | | | | A-KU | A | 10YR7/4C.25・黄橙色 | 71 | |
| 178 | RD043埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 不明 | 反転実測 | B00 | 4.6 | 14.0 | 5.7 | 2 | 3 | 52 | A-KU | A | 5YR6/6橙色 | 71 |
| 179 | RD044埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | HM | HM | | 回糸・無 | | B12 | 4.5 | 13.8 | 6.0 | 2 | 3 | 50 | A | A | 5YR6/6橙色 | 71 |
| 180 | RD045埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | | 反転実測 | B00 | ●6.4 | 20.4 | | | | B | B | 10YR8/4灰黄橙色 | 71 | |
| 181 | RD094埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10e | 5.9 | 14.1 | 7.6 | 2 | 2 | 62 | A-KU | A | 7.5YR7/4C.25・橙色 | 71 |
| 182 | RD109埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 静糸・無 | | BIII0 | ●1.3 | | 7.2 | | | A | A | 7.5YR7/6橙色 | 71 | |
| 183 | RD110埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 反転実測 | B10d | 3.2 | 13.5 | 4.2 | 3 | 4 | 36 | A-KU | A | 7.5YR6/4C.25・橙色 | 71 |
| 184 | RE01埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | 回糸・無 | | A10 | ●1.1 | | 6.0 | | | A | A | 7.5YR7/4C.25・橙色 | 71 | |

第58図 RB03・RD・RE 出土遺物



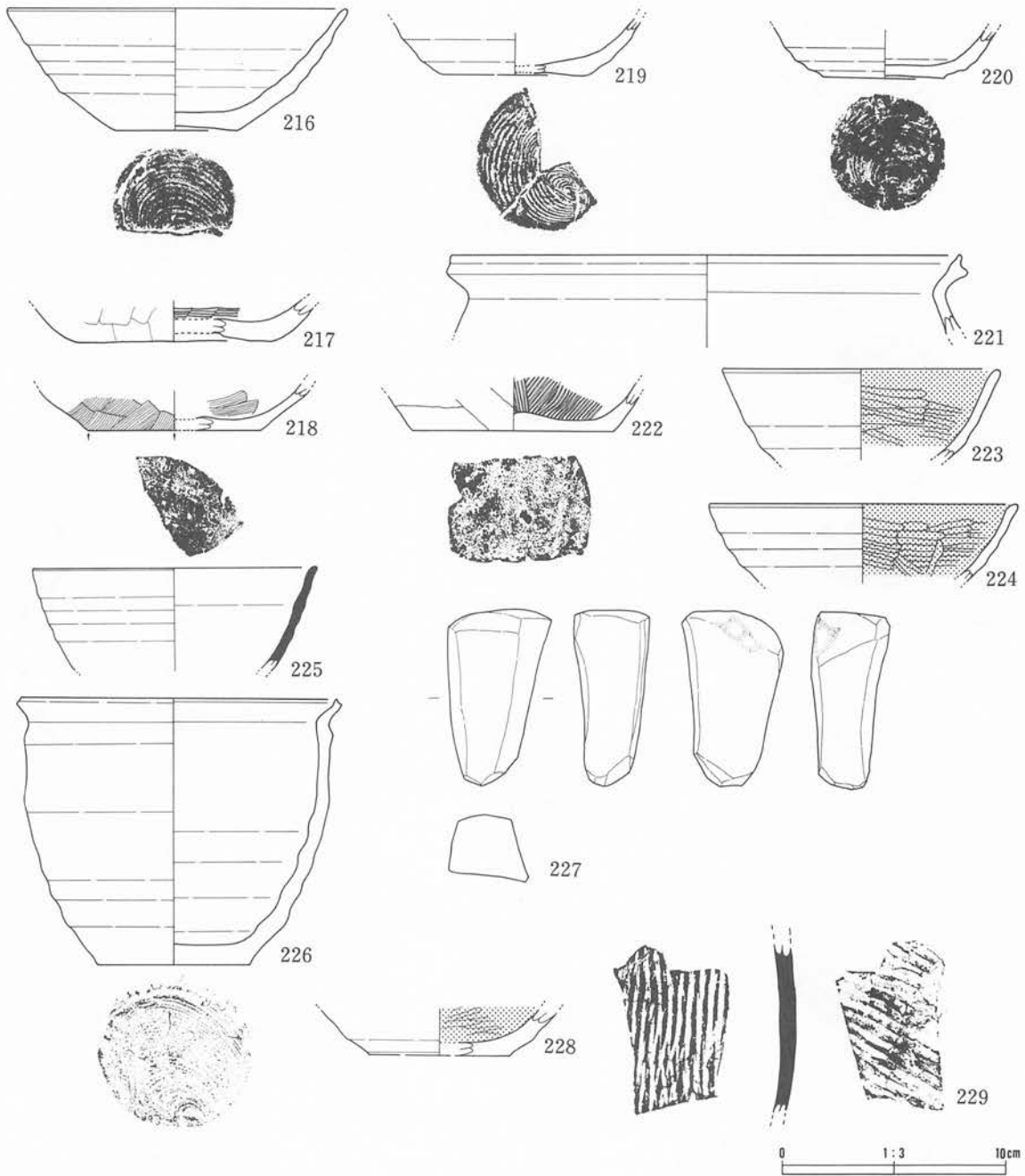
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切廻再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口底 | 口高 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|-----|---------|-------|-------|-------|------|------|---------|------------|-------|---------|------|-----|----|----|------|----|----|----------------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 185 | RE02埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | 回糸・無 | 二次加熱 | A10 | *1.6 | | 6.6 | | | | A | A | 10YR7/4におい黄褐色 | 71 |
| 186 | RE02埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | 回糸・無 | | A10 | *1.4 | | 6.0 | | | | A | A | 7.5YR6/6褐色 | 71 |
| 187 | RE02埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | HA?層基 | HM | ○ | 回糸・有 | | A111 | *1.5 | | 6.4 | | | | A | A | 7.5YR6/6褐色 | 71 |
| 188 | RE02埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10e | 5.7 | 13.9 | 5.8 | 2 | 2 | 58 | C | B | 7.5YR6/4におい褐色 | 71 |
| 189 | RE02埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 反転実測 | B10e | 5.5 | 14.1 | 6.8 | 2 | 3 | 55 | C | C | 5YR6/6褐色 | 71 |
| 190 | RE02埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | 摩滅 | ? | 回糸・無 | 反転実測、二次加熱? | A10 | 5.6 | 13.3 | 6.0 | 2 | 2 | 59 | A | B | 7.5YR6/4におい黄褐色 | 71 |
| 191 | RE02埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | | | B00 | *4.4 | 13.2 | | | | | A | A | 5YR7/6褐色 | 71 |
| 192 | RE02埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | 剥落 | ? | | 二次加熱 | A00 | *5.0 | 12.8 | | | | | C | C | 7.5YR7/4におい褐色 | 71 |
| 193 | RE02埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 外面燻 | B10 | *1.6 | | 4.8 | | | | B | B | 7.5YR8/4浅黄褐色 | 71 |
| 194 | RE02埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 反転実測 | B10 | *2.3 | | 6.0 | | | | C | B | 5YR6/8褐色 | 71 |
| 195 | RE02埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | HM? | | 回糸・無 | | B10 | *2.1 | | 7.2 | | | | B | A | 10YR7/4におい黄褐色 | 71 |
| 196 | RE02埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *2.0 | | 5.6 | | | | A | A | 5YR7/6褐色 | 71 |
| 197 | RE02埋土 | 酸化炭焼成 | 瓿・ロクロ | | | | | | E11b2 | *5.2 | 23.4 | | | | | B | A | 10YR7/4におい黄褐色 | 71 |
| 198 | RE02埋土 | 酸化炭焼成 | 瓿・ロクロ | HK | | | | 反転実測、外面燻付着 | G1b | *7.4 | 33.0 | | | | | C | B | 7.5YR8/4浅黄褐色 | 72 |
| 199 | RE02埋土 | 酸化炭焼成 | 瓿 | HK | ハケノ | | 砂底 | 反転実測 | EF | *5.9 | | 5.8 | | | | C | B | 5YR7/6褐色 | 72 |

第59図 RE 出土遺物



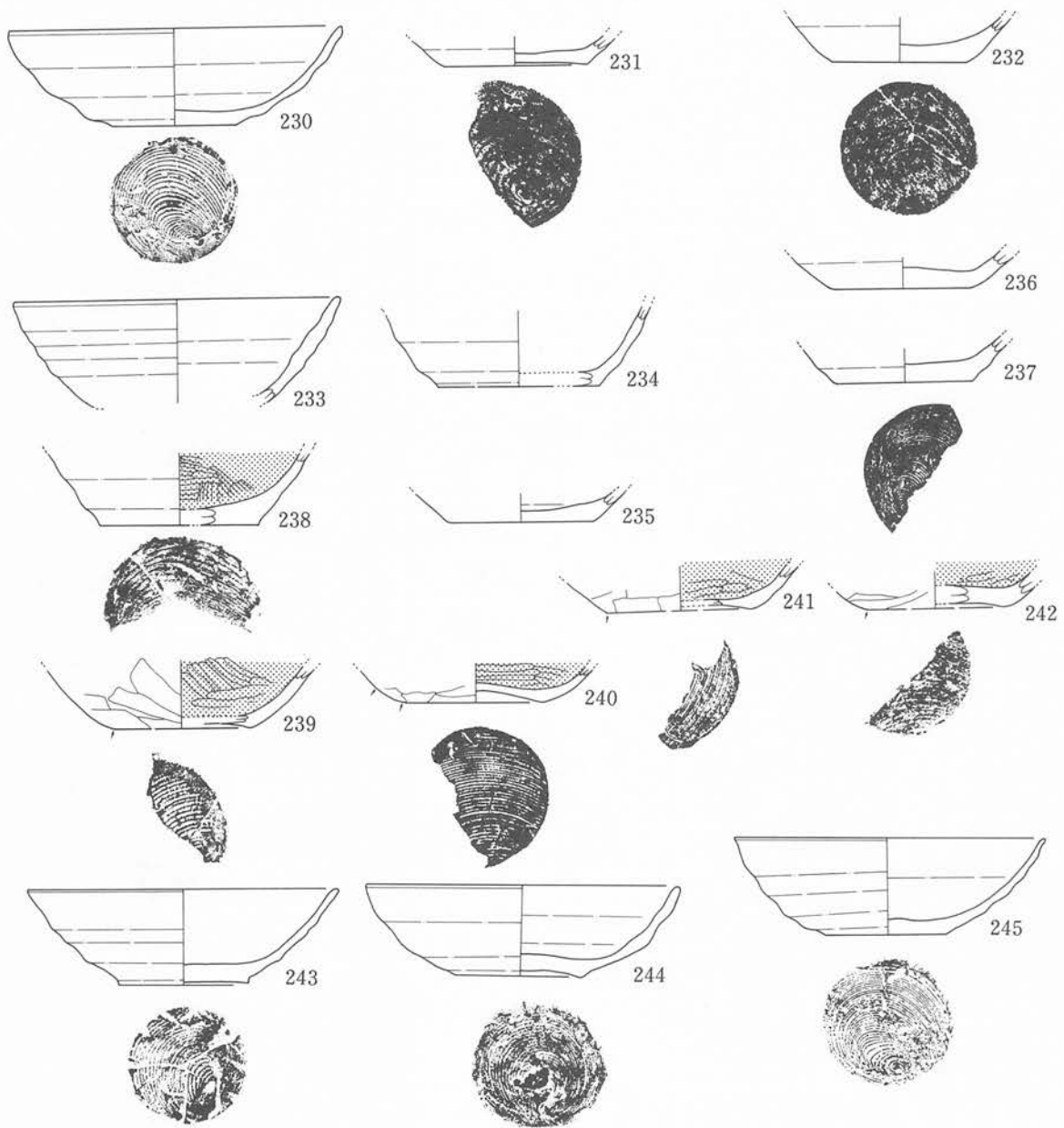
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|-----|-----------|-------|-------|------|------|------|---------|----------|------|---------|------|-----|-----|-----|------|----|----|-------------------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 200 | RE03No2-5 | 酸化炎焼成 | 坏 | HK | HM | ○ | 同糸・有 | 反転実測, 墨書 | AII1 | 5.8 | 13.6 | 5.6 | 2 | 2 | 58 | A | A | 7.5YR6/6褐色 | 72 |
| 201 | RE03No2-5 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | ○ | 同糸・無 | | A10 | *1.3 | | 6.4 | | | | A | A | 7.5YR7/4に, 2.5+褐色 | 72 |
| 202 | RE03No2-3 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 同糸・無 | | B10e | 5.5 | 14.2 | 5.8 | 2 | 3 | 55 | C | B | 7.5YR8/4洗黄褐色 | 72 |
| 203 | RE03No2-1 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 同糸・無 | | B10e | 5.5 | 13.1 | 5.5 | 2 | 2 | 56 | C | B | 5YR6/6褐色 | 72 |
| 204 | RE03No2-6 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 同糸・無 | 反転実測 | B10e | 4.8 | 14.6 | 5.6 | 3 | 3 | 49 | C | B | 5YR7/3に, 2.5+褐色 | 72 |
| 205 | RE03No2-6 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 同糸・無 | 反転実測 | BO0 | *4.0 | 14.8 | | | | | C | C | 10YR8/4洗黄褐色 | 72 |
| 206 | RE03No3 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 同糸・無 | | B10 | *1.8 | | 6.5 | | | | A | A | 7.5YR8/4洗黄褐色 | 72 |
| 207 | RE03No1 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 同糸・無 | 反転実測 | B10b | 7.5 | 19.5 | 9.8 | 2 | 3 | 59 | C | C | 5YR6/4に, 2.5+褐色 | 72 |
| 208 | RE03No2-4 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 同糸・無 | 反転実測 | BO0 | 6.8 | 14.2 | | 2 | 67 | | A | A | 7.5YR5/3に, 2.5+褐色 | 72 |
| 209 | RE03No2-2 | 還元炎焼成 | 器・ロクロ | HN | | | | 一部自然釉 | EF | *10.7 | 11.2 | | | | | A | A | 7.5YR5/2灰褐色 | 72 |
| 210 | RE05埋土上部 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 同糸・無 | 反転実測 | B10e | 5.1 | 14.2 | 6.4 | 2 | 3 | 53 | C | C | 10YR8/3洗黄褐色 | 72 |
| 211 | RE06炭化物上部 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | ○ | 同糸・無 | 反転実測 | AO0 | *4.2 | 14.7 | | | | | A | A | 5YR6/4に, 2.5+褐色 | 72 |
| 212 | RE06埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | ○ | 同糸・無 | | A10 | *3.8 | | 5.4 | | | | A | A | 7.5YR7/6褐色 | 72 |
| 213 | RE06埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 同糸・無 | | B10 | *0.9 | | 8.2 | | | | A | A | 7.5YR7/6褐色 | 72 |
| 214 | RE06炭化物上部 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | ○ | 同糸・無 | | A10 | *1.3 | | 6.0 | | | | A | A | 7.5YR7/4に, 2.5+褐色 | 72 |
| 215 | RE06埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | HK | HM | ○ | 同糸・有 | | AII1 | *1.9 | | 5.6 | | | | A | A | 7.5YR6/8褐色 | 72 |

第60図 RE出土遺物



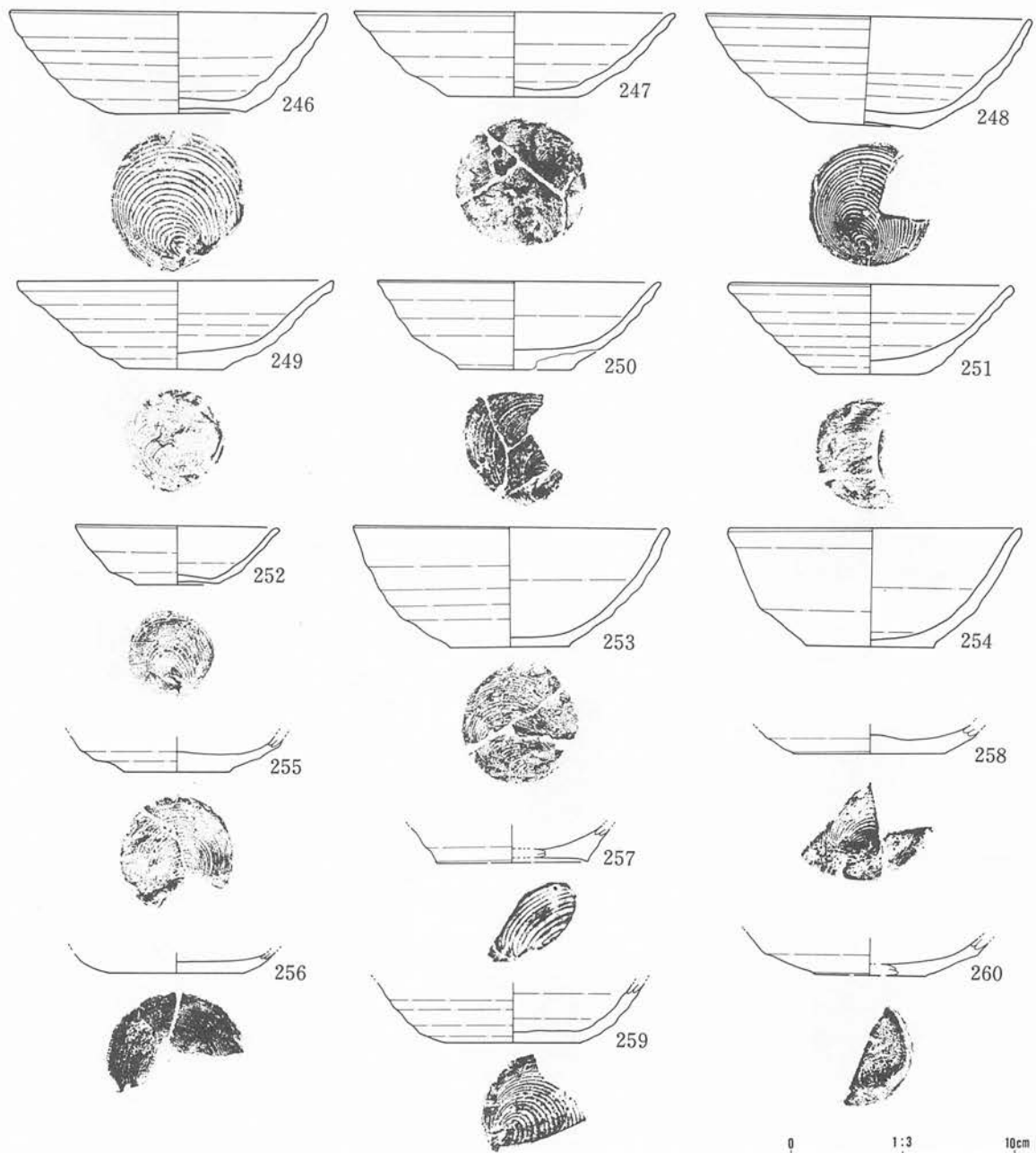
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | | 外傾角成 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 | |
|-----|-----------|-------|-------|------|------|------|---------|------------------------|------|---------|------|------|-----|------|----|------|---------|--------------|----|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | 口/底 | | | | | | |
| 216 | RE06炭化物上部 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 反転実測 | B10c | 5.5 | 15.5 | 5.4 | 3 | 3 | 49 | A | A | 7.5YR7/6褐色 | 72 |
| 217 | RE06埋土 | 酸化炭焼成 | 壺 | HK | HK | | 砂底 | | EF | *1.8 | | 9.0 | | | | C | B | 7.5YR6/8褐色 | 72 |
| 218 | RF08埋土 | 酸化炭焼成 | 壺・口クワ | HK | HN | | 回糸・有 | 反転実測 | E | *1.8 | | 7.8 | | | | C | A | 10YR7/4C・黄褐色 | 72 |
| 219 | RF08埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 反転実測 | B10 | *2.4 | | 6.6 | | | | C | B | 10YR8/4浅黄褐色 | 72 |
| 220 | RF08埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *2.2 | | 5.6 | | | | A・KU | A | 7.5YR7/6褐色 | 72 |
| 221 | RF08埋土 | 酸化炭焼成 | 壺・口クワ | | | | | 反転実測 | E | *3.6 | | 23.0 | | | | A | A | 7.5YR7/6褐色 | 72 |
| 222 | RF08埋土 | 酸化炭焼成 | 壺・口クワ | HK | H | | 砂底 | | E | *2.4 | | 9.2 | | | | A | B | 5YR7/6褐色 | 72 |
| 223 | RG02埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | | | A00 | *4.1 | | 12.6 | | | | A・KU | A | 5YR6/4C・黄褐色 | 72 |
| 224 | RG02埋土 | 酸化炭焼成 | 坏 | | HM | ○ | | | A00 | *3.5 | | 14.0 | | | | A | A | 5YR6/6褐色 | 72 |
| 225 | RG02埋土 | 還元炭焼成 | 坏 | | | | | 重ね焼き | CO0 | *4.7 | | 13.0 | | | | A | A | 5YR6/4C・黄褐色 | 72 |
| 226 | RG02埋土 | 酸化炭焼成 | 壺・口クワ | | | | 回糸・無 | 反転実測 | E1b | 12.0 | | 14.2 | 7.0 | 2 | 1 | A | A | 5YR6/4C・黄褐色 | 72 |
| 227 | RG02埋土 | 磁石 | | | | | | 普通輝石高嶺石安山岩 二戸 中割焼0.30g | | | | | | | | | | | 73 |
| 228 | RG03埋土 | 酸化炭焼成 | 鉢 | | HM | ○ | 回糸・無 | | E | *2.1 | | 6.4 | | | | A | A | 5YR6/4C・黄褐色 | 73 |
| 229 | RG03埋土 | 還元炭焼成 | 壺 | TT | TT | | | | EF | | | | | | | A | C | 5Y5/1灰色 | 73 |

第61図 RE・RF・RG出土遺物



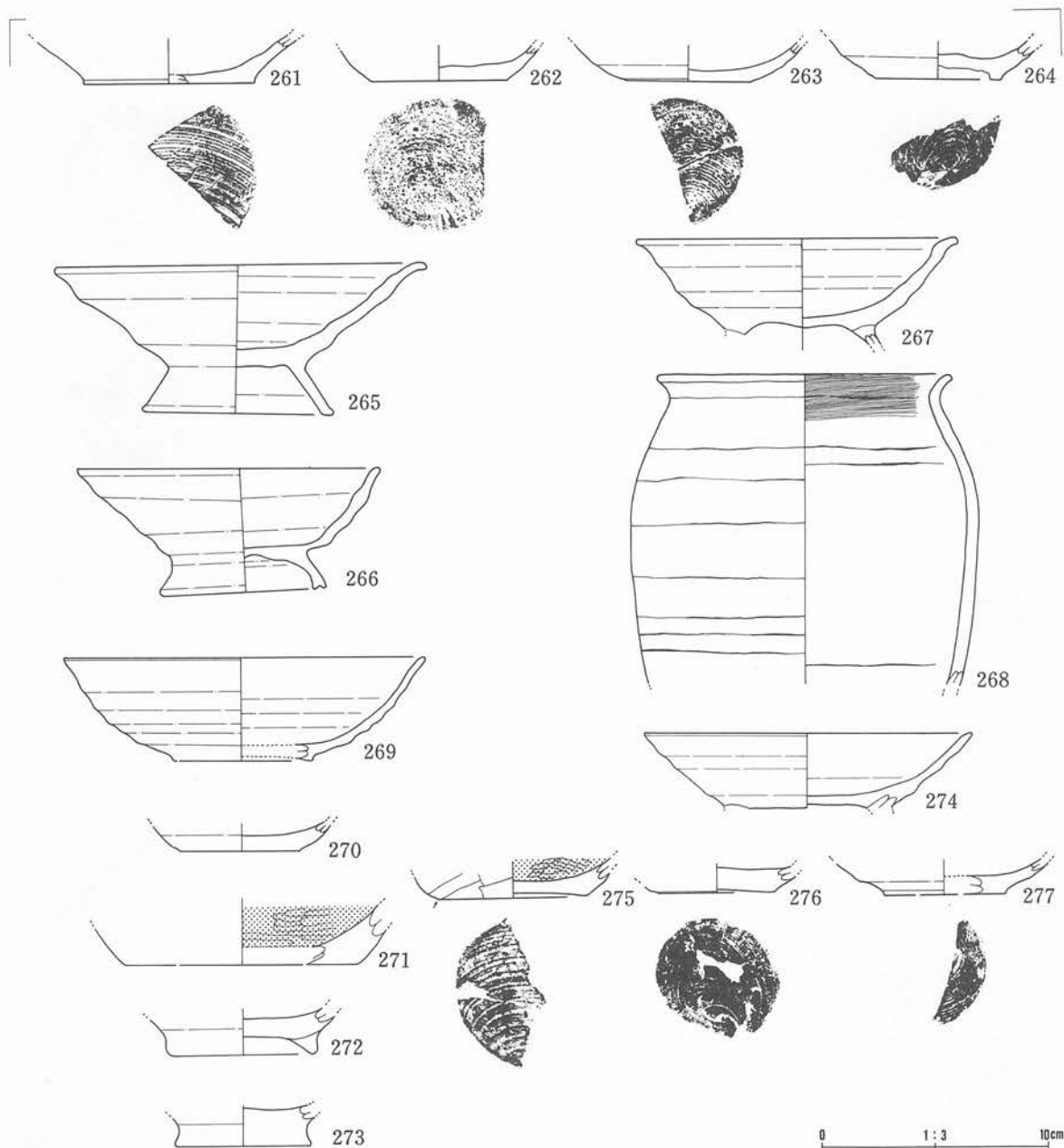
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|-----|------------------|-------|----|------|------|------|---------|--------|------|---------|------|-----|-----|-----|------|------|----------|---------------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 230 | RG10灰白色火山灰上(C調査) | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | | B10d | 4.3 | 14.8 | 5.6 | 3 | 3 | 43 | A | A | 7.5YR5/4C・赤褐色 | 73 |
| 231 | RG10灰白色火山灰下部 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | | B10 | *1.2 | | 6.4 | | | | A | C | 5YR6/8褐色 | 73 |
| 232 | RG10灰白色火山灰上部 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | 反転実測 | B10 | *2.0 | | 6.0 | | | | C | C | 5YR6/8褐色 | 73 |
| 233 | RG10灰白色火山灰上(C調査) | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | 反転実測 | B00 | *4.6 | 14.6 | | | | 57 | A | A | 7.5YR7/6褐色 | 73 |
| 234 | RG10灰白色火山灰下部 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | | B10 | *3.4 | | 7.2 | | | | A | C | 5YR6/6褐色 | 73 |
| 235 | RG10灰白色火山灰上部 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | | B10 | *2.0 | | 6.0 | | | B-KU | B | 5YR7/6褐色 | 73 | |
| 236 | RG11埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | 目付・無障減 | B10 | *1.4 | | 6.0 | | | | A | B | 2.5YR7/6褐色 | 73 |
| 237 | RG15埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | | B10 | *1.5 | | 6.0 | | | | A | A | 5YR7/6褐色 | 73 |
| 238 | RG19埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | | HM | ○ | 回来・無 | 反転実測 | A10 | *3.5 | | 6.6 | | | | A | A | 7.5YR7/4C・赤褐色 | 73 |
| 239 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炎焼成 | 坏 | HK | HM | ○ | 静糸・無 | | AIII | *2.7 | | 6.0 | | | | A | A | 7.5YR6/4C・赤褐色 | 74 |
| 240 | RG27埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | HK | HM | ○ | 静糸・無 | | AIII | *1.6 | | 6.0 | | | | A | A | 5YR6/6褐色 | 73 |
| 241 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炎焼成 | 坏 | HK | HM | ○ | 静糸・無 | | AIII | *1.9 | | 6.4 | | | | A | A | 5YR6/4C・赤褐色 | 73 |
| 242 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炎焼成 | 坏 | HK | HM | ○ | 静糸・無 | | AIII | *1.5 | | 6.0 | | | | A | A | 5YR6/6褐色 | 73 |
| 243 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | 反転実測 | B10d | 4.2 | 13.8 | 5.7 | 2 | 3 | 48 | A | B | 5YR6/6褐色 | 73 |
| 244 | RG27埋土最下部 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | | B10d | 4.1 | 13.9 | 5.6 | 2 | 3 | 46 | A-KU | A | 5YR5/4C・赤褐色 | 73 |
| 245 | RG27埋土最下部 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回来・無 | 歪み有り? | B10d | 4.4 | 13.7 | 5.2 | 3 | 3 | 46 | A | B | 5YR7/6褐色 | 73 |

第62図 RG 出土遺物



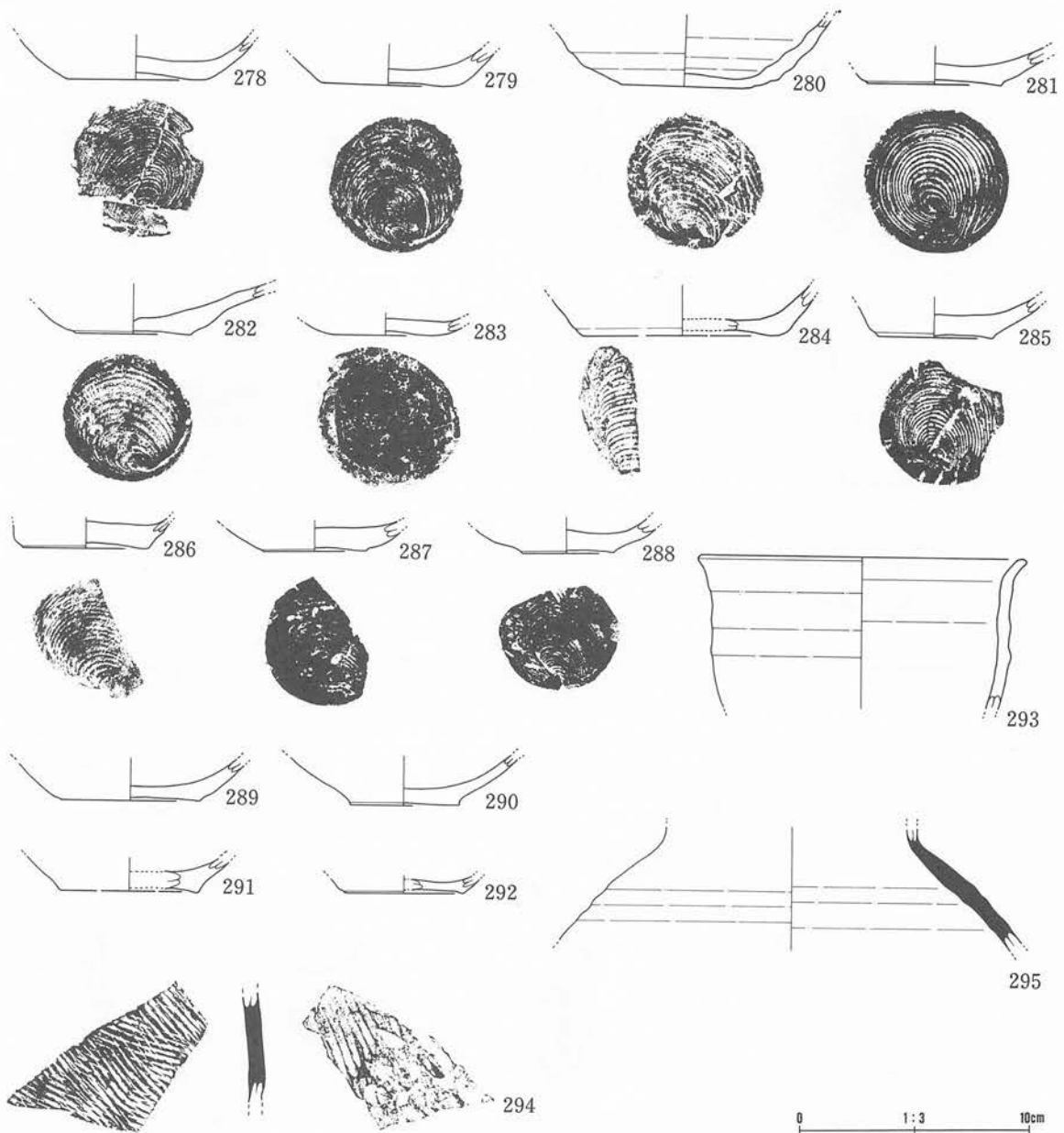
| No. | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|-----|-------------|-------|----|------|------|------|---------|------|------|---------|------|-----|-----|-----|------|------|----|------------------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 246 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 固赤・無 | | B10d | 4.8 | 14.3 | 5.8 | 2 | 3 | 51 | A | A | 7.5YR6/6橙色 | 73 |
| 247 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 固赤・無 | | B10d | 3.8 | 14.4 | 5.8 | 2 | 4 | 43 | A | B | 5YR6/8橙色 | 73 |
| 248 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 固赤・無 | | B10d | 5.1 | 14.8 | 5.8 | 3 | 3 | 49 | A | A | 5YR6/8橙色 | 73 |
| 249 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 固赤・無 | | B10d | 4.1 | 14.2 | 4.4 | 3 | 3 | 41 | A | B | 7.5YR7/6橙色 | 73 |
| 250 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 固赤・無 | 反転実測 | B10d | 4.0 | 12.8 | 5.0 | 3 | 3 | 48 | A | B | 7.5YR7/4C:2.5V橙色 | 73 |
| 251 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 固赤・無 | | B10d | 4.1 | 12.8 | 4.6 | 3 | 3 | 47 | A | B | 5YR7/4C:2.5V橙色 | 73 |
| 252 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 固赤・無 | | B10d | 2.7 | 9.2 | 3.8 | 2 | 3 | 49 | A-KU | B | 7.5YR7/4C:2.5V橙色 | 73 |
| 253 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 固赤・無 | | B10c | 5.5 | 14.2 | 5.4 | 3 | 3 | 51 | C-KU | C | 7.5YR7/4C:2.5V橙色 | 73 |
| 254 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 固赤・無 | 歪み有り | B10c | 5.4 | 13.3 | 5.8 | 2 | 2 | 56 | A | B | 7.5YR7/4C:2.5V橙色 | 73 |
| 255 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 固赤・無 | 反転実測 | B10 | *1.6 | | 4.8 | | | | A | A | 7.5YR5/6明褐色 | 73 |
| 256 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 固赤・無 | 反転実測 | B10 | *0.9 | | 6.0 | | | | A | B | 7.5YR7/4C:2.5V橙色 | 73 |
| 257 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 固赤・無 | | B10 | *1.7 | | 6.8 | | | | A | A | 7.5YR7/4C:2.5V橙色 | 73 |
| 258 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 固赤・無 | | B10 | *1.3 | | 6.8 | | | | A-KU | B | 10YR7/4C:2.5V褐色 | 73 |
| 259 | RG27灰白色火山灰上 | 還元炭焼成 | 坏 | | | | 固赤・無 | | C10 | *2.7 | | 6.0 | | | | A | C | 5YR6/4C:2.5V褐色 | 73 |
| 260 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炭焼成 | 坏 | | | | 固赤・無 | | B10 | *1.7 | | 5.0 | | | | B | C | 5YR7/6褐色 | 73 |

第63図 RG出土遺物



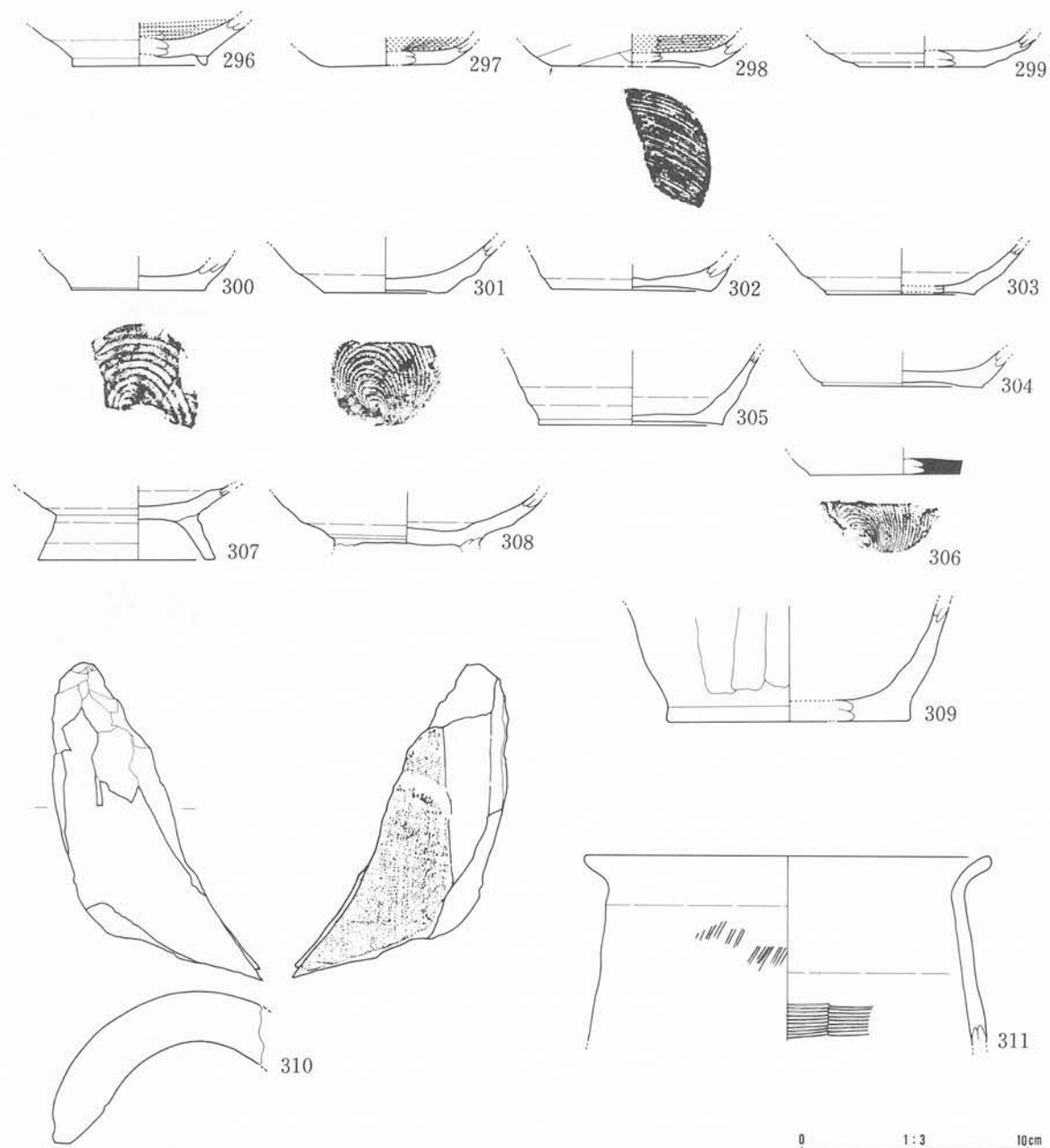
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切離再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|-----|-------------|-------|-------|------|------|------|---------|---------|-------|---------|------|------|-----|-----|------|------|----------------|---------------|------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 261 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 静糸・無 | | BIII0 | *2.1 | | 7.6 | | | A | A | 7.5YR7/4に淡い橙色 | 73 | |
| 262 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *1.6 | | 6.0 | | | B-KU | C | 10YR8/4浅橙色 | 73 | |
| 263 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *1.6 | | 5.6 | | | B | C | 7.5YR8/4浅黄橙色 | 73 | |
| 264 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 反転実測 | B10 | *1.7 | | 5.6 | | | A | B | 7.5YR7/6橙色 | 73 | |
| 265 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炎焼成 | 高台付坏 | | | | | | DIIb1 | 6.9 | 16.6 | 8.7 | 2 | 2 | 43 | A | B | 5YR7/4に淡い橙色 | 74 |
| 266 | RG27埋土最下部 | 酸化炎焼成 | 高台付坏 | | | | | | DIIb2 | 5.8 | 13.5 | 7.5 | 2 | 2 | 49 | A | B | 7.5YR7/6橙色 | 74 |
| 267 | RG27埋土最下部 | 酸化炎焼成 | 高台付坏 | | | | | | DIIb2 | *5.0 | 14.2 | | | | 53 | A-KU | B | 5YR6/6橙色 | 74 |
| 268 | RG27灰白色火山灰上 | 酸化炎焼成 | 雙・非口口 | | | | | 反転実測 | F1b | *13.7 | 13.2 | | | | | B | A | 7.5YR6/4に淡い橙色 | 74 |
| 269 | RG28埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 反転実測 | B10d | 4.6 | 16.1 | 6.3 | 3 | 4 | 44 | A | A | 5YR6/3に淡い橙色 | 74 |
| 270 | RG28埋土 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *1.1 | | 5.2 | | | A | A | 10YR8/4浅黄橙色 | 74 | |
| 271 | A調査区1層 | 酸化炎焼成 | ■OR端 | HK | HM | ○ | 砂底 | 二次加熱 | EF | *2.7 | | 10.2 | | | B | A | 5YR7/4に淡い橙色 | 74 | |
| 272 | A調査区1層 | 酸化炎焼成 | 高台付坏 | | | | 回糸・無 | 三角貼付高台 | DIIc | *2.0 | | 6.4 | | | B | A | 5YR6/6橙色 | 74 | |
| 273 | A調査区1層 | 酸化炎焼成 | 高台付坏 | | | | 回糸・無 | べた高台 | DIIId | *2.8 | | 6.0 | | | B | A | 5YR6/6橙色 | 74 | |
| 274 | C調査区2W1 | 酸化炎焼成 | 高台付坏 | | | | 回糸・無 | 「ハ」の字高台 | D1a2 | *3.3 | 14.6 | | | | A | A | 10YR8/6黄橙色 | 74 | |
| 275 | F調査区1UGII層 | 酸化炎焼成 | 坏 | HK | HM | ○ | 静糸・無 | | AMII | *1.6 | | 6.6 | | | A | A | 7.5YR6/4に淡い黄橙色 | 74 | |
| 276 | F調査区1UGII層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *1.1 | | 5.2 | | | A | A | 10YR7/4に淡い黄橙色 | 74 | |
| 277 | F調査区1UGII層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *1.5 | | 5.4 | | | A-KU | B | 7.5YR7/6橙色 | 74 | |

第64図 RG・遺構外出土遺物



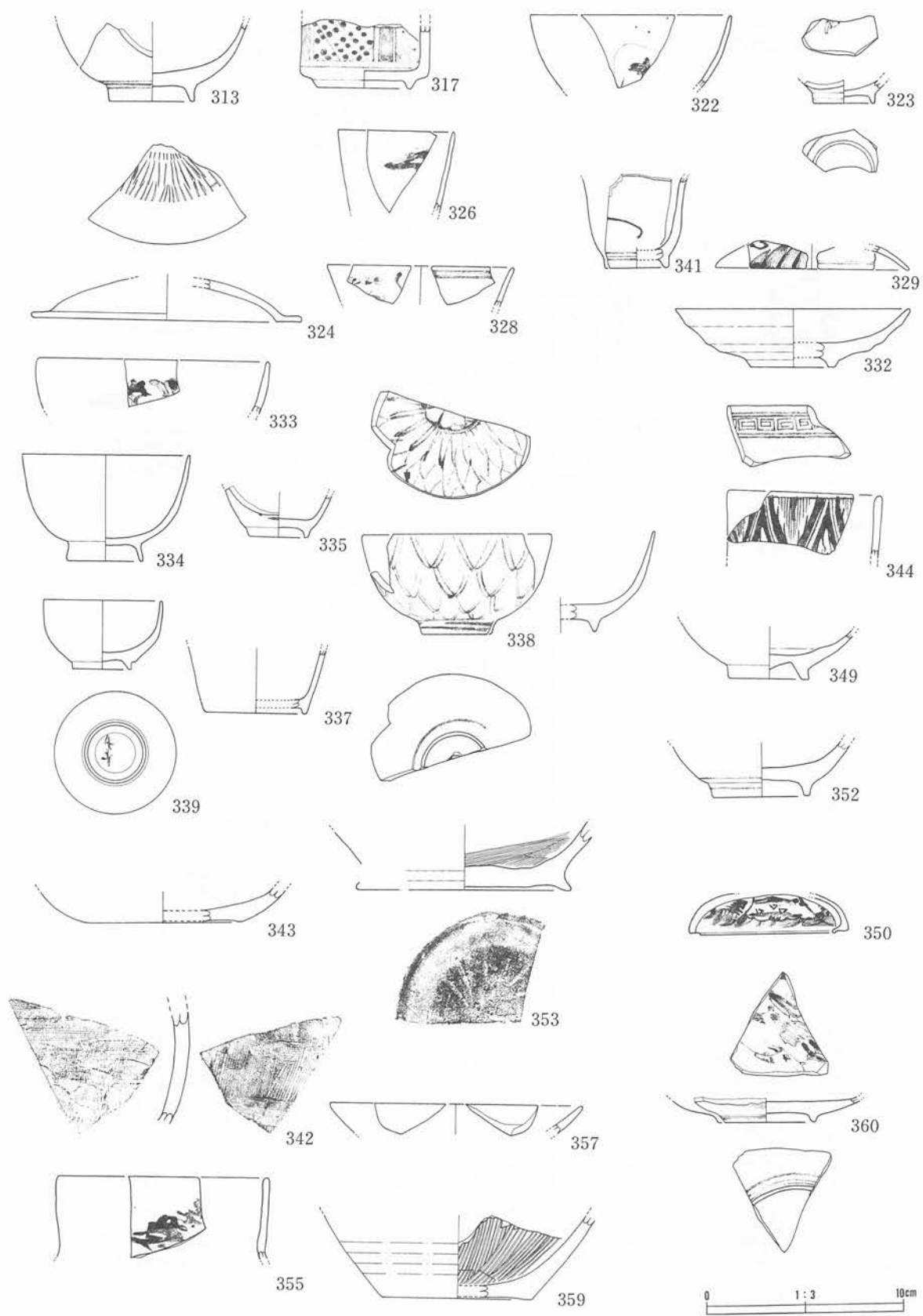
| No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黑色処理 | 底部切磨再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真図版 |
|-----|-------------|-------|-------|------|------|------|---------|-------|-----|---------|------|-----|-----|-----|------|------|----|--------------------|------|
| | | | | | | | | | | 容高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 278 | F調査区1UG II層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *2.0 | | 6.0 | | | | A-KU | A | 7.5YR7/6褐色 | 74 |
| 279 | F調査区1UG II層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *1.7 | | 6.0 | | | | A-KU | A | 7.5YR7/6褐色 | 74 |
| 280 | F調査区II層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 外面窪付着 | B10 | *3.2 | | 5.2 | | | | A | A | 5YR6/8褐色 | 74 |
| 281 | F調査区1UG II層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *1.7 | | 6.0 | | | | A | A | 7.5YR7/6褐色 | 74 |
| 282 | F調査区1UG II層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *2.2 | | 5.2 | | | | A-KU | A | 10YR8/4淡黄褐色 | 74 |
| 283 | F調査区1UG II層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *0.8 | | 5.0 | | | | A | A | 5YR6/6褐色 | 74 |
| 284 | F調査区1UG II層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *2.3 | | 8.8 | | | | A | A | 10YR7/4c.c.c.c.褐色 | 74 |
| 285 | F調査区1UG II層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *1.8 | | 5.0 | | | | A | A | 7.5YR6/6褐色 | 74 |
| 286 | F調査区1UG II層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *1.3 | | 5.6 | | | | A | B | 7.5YR6/8褐色 | 74 |
| 287 | F調査区1UG II層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *1.3 | | 4.6 | | | | A | A | 5YR7/6褐色 | 74 |
| 288 | F調査区1UG II層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *1.5 | | 4.0 | | | | A-KU | A | 7.5YR7/6褐色 | 74 |
| 289 | F調査区1UG II層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 反転実測 | B10 | *1.8 | | 6.2 | | | | A | A | 7.5YR7/6褐色 | 74 |
| 290 | F調査区1UG II層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *2.2 | | 4.8 | | | | B | C | 7.5YR7/8黄褐色 | 74 |
| 291 | F調査区1UG II層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | 反転実測 | B10 | *1.5 | | 6.0 | | | | A | A | 7.5YR7/6褐色 | 74 |
| 292 | F調査区1UG II層 | 酸化炎焼成 | 坏 | | | | 回糸・無 | | B10 | *0.8 | | 5.2 | | | | B | B | 5YR7/8褐色 | 74 |
| 293 | F調査区II層 | 酸化炎焼成 | 壺・口クロ | | | | | 反転実測 | E1a | *6.7 | 14.4 | | | | | C | B | 7.5YR5/3c.c.c.c.褐色 | 74 |
| 294 | F調査区1UG II層 | 還元炎焼成 | 壺 | | | | | | EF | | | | | | | | | 5Y5/1灰色 | 74 |
| 295 | F調査区II層 | 還元炎焼成 | 壺・口クロ | | | | | 反転実測 | EF | *5.4 | | | | | | A | A | 5Y5/1灰色 | 74 |

第65図 遺構外出土遺物

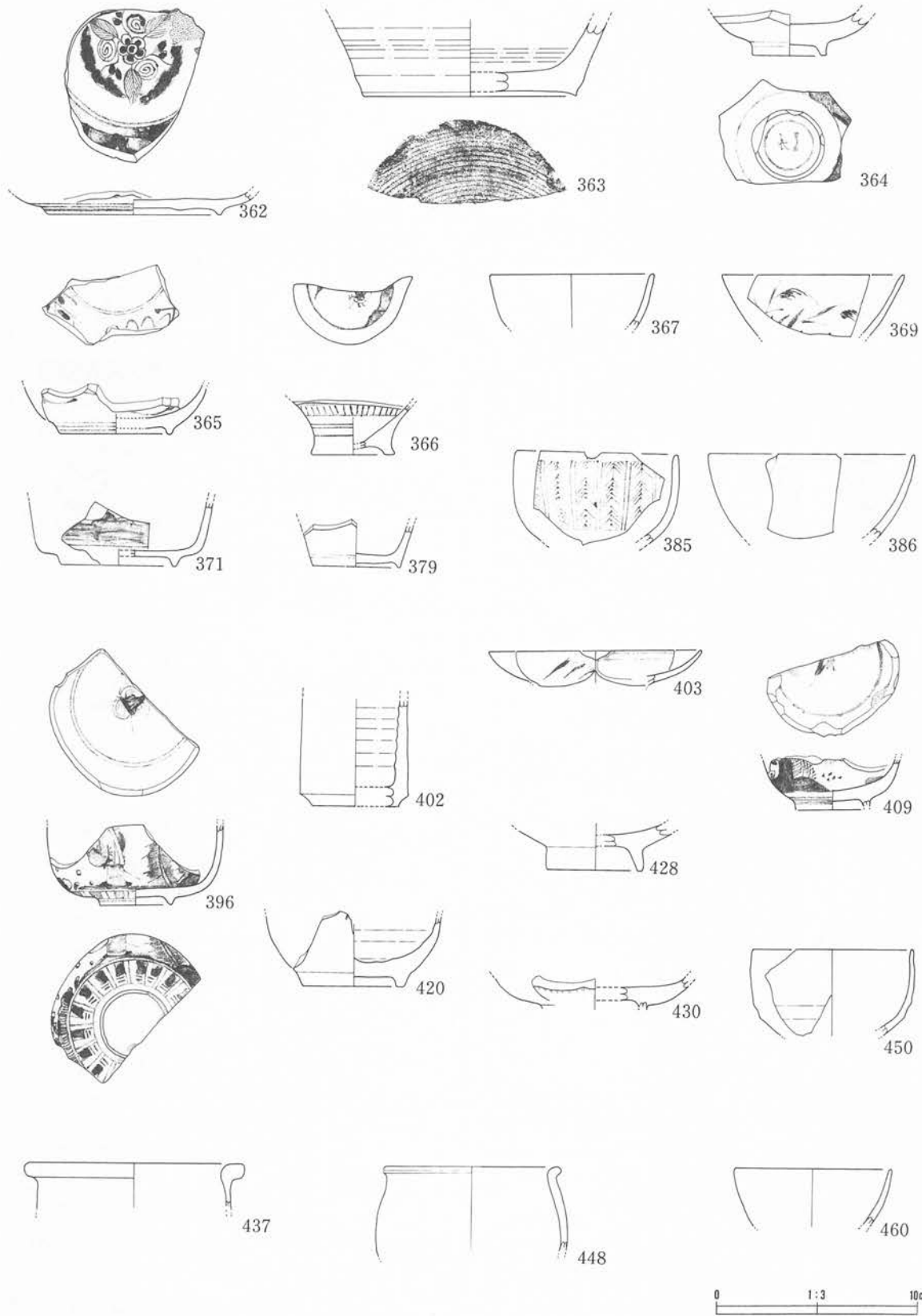


| No | 出土地点・層位 | 種類 | 器種 | 外面調整 | 内面調整 | 黒色処理 | 底部切彫 再調整 | 備考 | 分類 | 法量 (cm) | | | 口/底 | 口/高 | 外傾 角度 | 胎土 | 焼成 | 色調 (外面) | 写真 図版 |
|-----|-------------|-------|--------|------|------|------|-------------|--------|-------|---------|------|------|-----|-----|----------|----|------------------|---------|----------|
| | | | | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | | | | | | |
| 296 | G調査区II層 | 酸化炎焼成 | 高台付坪 | | HM | ○ | 同系・無 | | A10 | *1.2 | | 6.2 | | | A | A | 5YR6/4L2.5S+褐色 | 74 | |
| 297 | H調査区2TUGII層 | 酸化炎焼成 | 坪 | | HM | ○ | 同系・無 | | A10 | *1.2 | | 6.2 | | | A | A | 5YR6/4L2.5S+褐色 | 74 | |
| 298 | H調査区2TUGII層 | 酸化炎焼成 | 坪 | | HM | ○ | 同系・無 | | AIII | *1.2 | | 7.2 | | | A | A | 7.5YR6/4L2.5S+褐色 | 74 | |
| 299 | H調査区2TUGII層 | 酸化炎焼成 | 坪 | | | | 同系・無 | | B10 | *1.4 | | 5.6 | | | A | A | 5YR6/6褐色 | 74 | |
| 300 | H調査区2TUGII層 | 酸化炎焼成 | 坪 | | | | 同系・無 | | B10 | *1.5 | | 6.0 | | | A | A | 7.5YR7/6褐色 | 74 | |
| 301 | H調査区2TUGII層 | 酸化炎焼成 | 坪 | | | | 同系・無 | | B10 | *2.0 | | 5.4 | | | A-KU | A | 10YR7/4L2.5S+黄褐色 | 74 | |
| 302 | H調査区2TUGII層 | 酸化炎焼成 | 坪 | | | | 同系・無 | | B10 | *1.2 | | 7.2 | | | A | A | 5YR6/6褐色 | 74 | |
| 303 | H調査区2TUGII層 | 酸化炎焼成 | 坪 | | | | 同系・無 | | B10 | *2.3 | | 6.6 | | | A | A | 7.5YR7/4L2.5S+褐色 | 74 | |
| 304 | H調査区2TUGII層 | 酸化炎焼成 | 坪 | | | | 同系・無 | | B10 | *1.6 | | 7.2 | | | A | A | 10YR6/4L2.5S+黄褐色 | 74 | |
| 305 | H調査区2TUGII層 | 酸化炎焼成 | 坪 | | | | 静系・無 | 破片断面に煤 | BIII | *3.4 | | 8.4 | | | A | A | 5YR5/8明赤褐色 | 74 | |
| 306 | H調査区2TUGII層 | 還元炎焼成 | 坪 | | | | 同系・無 | | C10 | *1.1 | | 8.0 | | | A | A | 5Y5/1灰色 | 74 | |
| 307 | H調査区2TUGII層 | 酸化炎焼成 | 高台付坪 | | | | | 貼付高台 | DII | *3.3 | | 8.0 | | | A | A | 5YR7/6褐色 | 74 | |
| 308 | H調査区2TUGII層 | 酸化炎焼成 | 高台付坪 | | | | | 貼付高台 | DII | *2.5 | | 6.3 | | | A | A | 7.5YR7/4L2.5S+褐色 | 74 | |
| 309 | H調査区2TUGII層 | 酸化炎焼成 | 袋・非口?口 | HN | HN | | | | F | *5.1 | | 10.8 | | | C | B | 7.5YR7/4L2.5S+褐色 | 74 | |
| 310 | A調査区24XG1層 | 瓦 | | | | 布目 | | 胎土灰白 | 瓦 | | | | | | | | 5Y5/1灰色 | 74 | |
| 311 | PP073埋土 | 酸化炎焼成 | 袋・口?口 | TT | 田字減 | | | 反転実測 | EIIa1 | *8.3 | 18.1 | | | | C | C | 7.5YR7/8黄褐色 | 74 | |

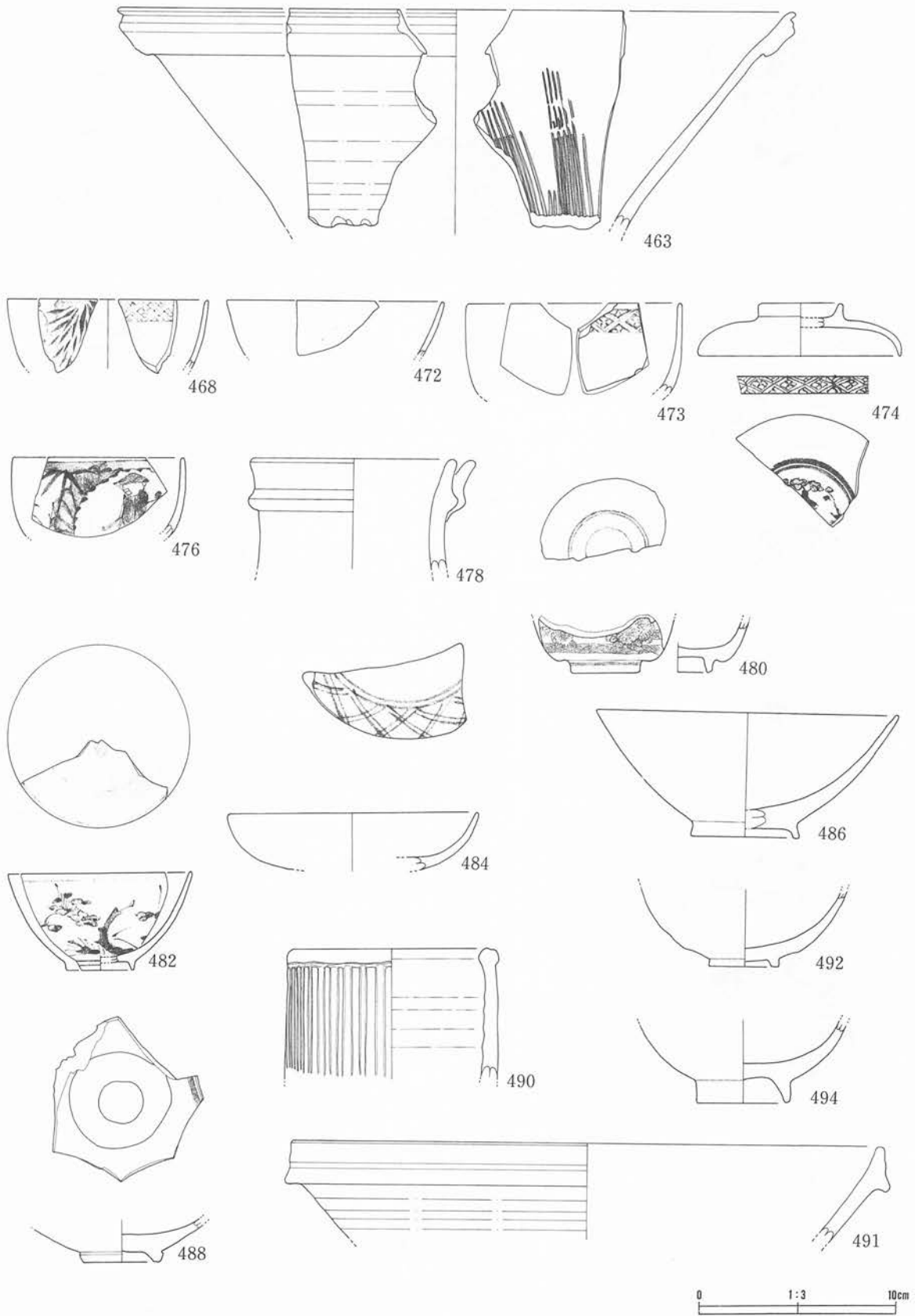
第66図 遺構外出土遺物



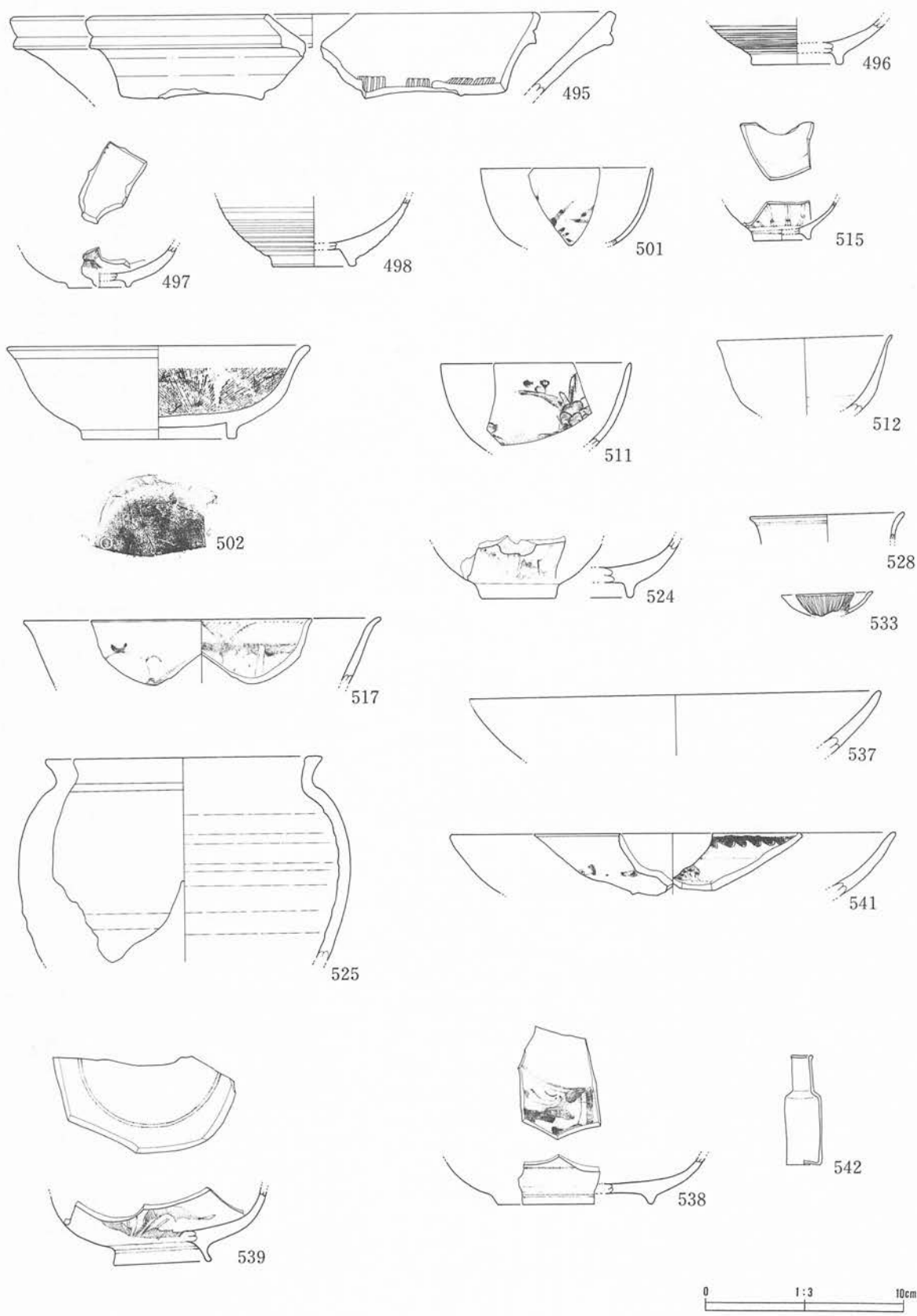
第67図 陶磁器類(1)



第68图 陶磁器類(2)



第69图 陶磁器類(3)



第70図 陶磁器類(4)

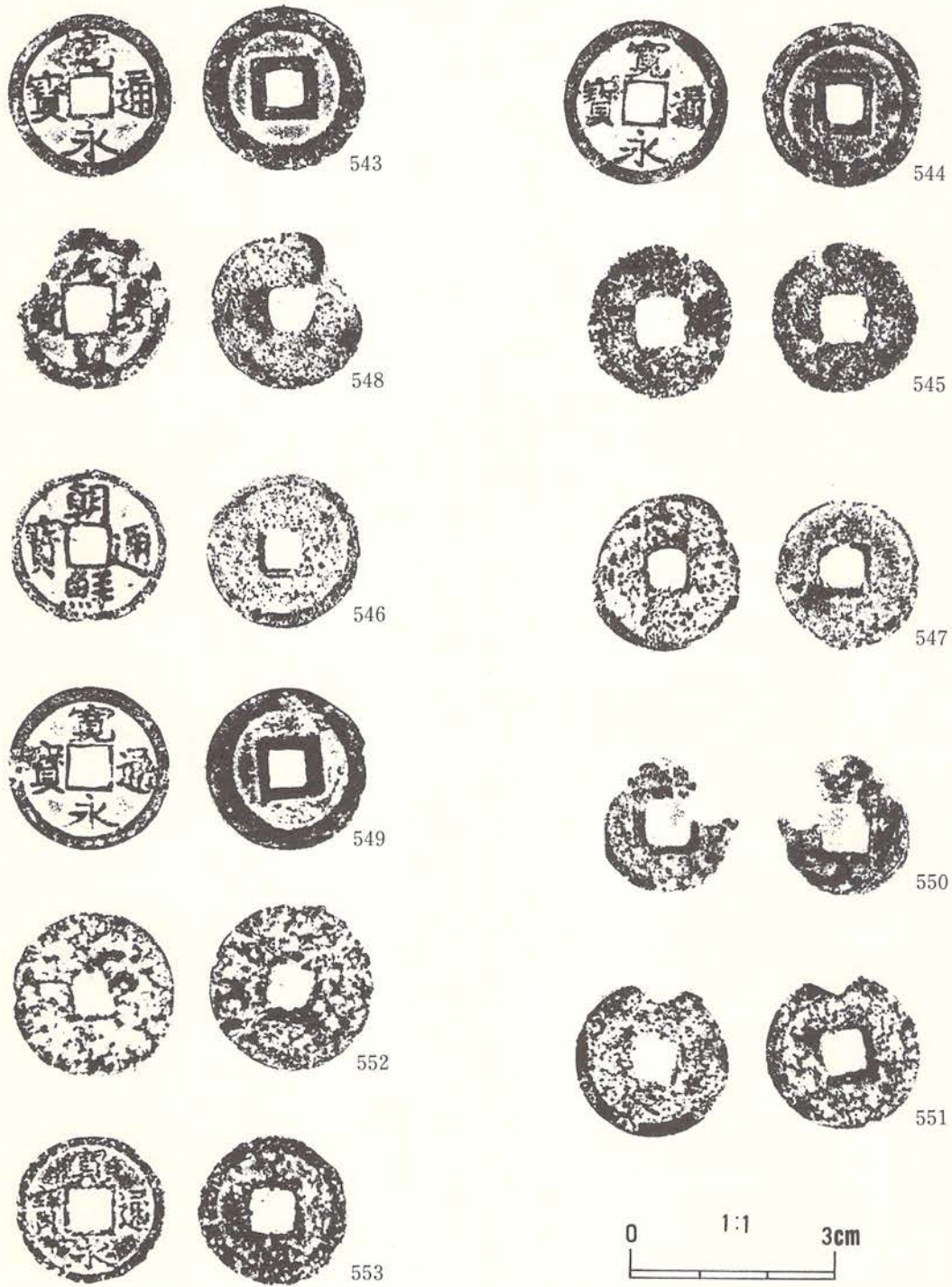
| No | 出土地点・層位 | 種 | 器種 | 外面 | 内面 | 備考 | 法量 (cm) | | | 写真・実測 | |
|-----|------------|----|---------|--------------|---------------|----------------------|---------|------|------|-------|----|
| | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | 図版 | 図版 |
| 312 | RA06煙出し最上部 | 陶器 | 碗 | | | | | | | 83 | - |
| 313 | RA06煙出し最上部 | 陶器 | 染付・碗 | 透明釉、高台内一重圈線 | 透明釉、見込み蛇の目釉髹げ | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | *4.0 | | 4.4 | 75 | 67 |
| 314 | RD035埋土 | 陶器 | 播り鉢 | | 卸目 | 胎土灰色、東北産 | | | | 83 | - |
| 315 | RD098埋土 | 陶器 | | | | | | | | 83 | - |
| 316 | RD098埋土 | 陶器 | 染付・碗 | | | 肥前系OR東北、1820～1860年代 | | | | 80 | - |
| 317 | RD103黒褐色 | 磁器 | 染付・猪口 | 畳付け露胎 | | 肥前産、1780～1810年代 | *3.2 | | 4.8 | 75 | 67 |
| 318 | RE05埋土下部 | 磁器 | | | | 近世以降 | | | | 80 | - |
| 319 | RE05埋土下部 | 陶器 | 甕 | 鉄釉、褐釉 | 鉄釉 | 胎土灰色 | | | | 80 | - |
| 320 | RE05埋土下部 | 陶器 | 皿 | | 肥前産、18世紀代 | | | | | 80 | - |
| 321 | RE05埋土下部 | 陶器 | 播り鉢 | 鉄釉 | | 近世以降 | | | | 80 | - |
| 322 | RE05埋土最下部 | 磁器 | 染付・碗 | 山水文 | | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | *3.8 | 10.4 | | 75 | 67 |
| 323 | RE05埋土最下部 | 磁器 | 染付・小杯 | | | 肥前産、1770～1810年代 | *1.2 | | 3.2 | 75 | 67 |
| 324 | RE05埋土最下部 | 陶器 | 蓋 | かきめ | 透明釉 | 胎土淡黄色 | *2.1 | | 13.8 | 75 | 67 |
| 325 | RE05埋土上部 | 陶器 | | | | | | | | 80 | - |
| 326 | RE05埋土上部 | 陶器 | 染付・猪口 | | | 肥前産、18世紀中葉～末葉 | *4.2 | 6.0 | | 75 | 67 |
| 327 | RE05埋土上部 | 陶器 | 播り鉢 | 褐釉 | 褐釉 | 近世以降 | | | | 80 | - |
| 328 | RE05埋土上部 | 磁器 | 染付・碗 | | | 瀬戸・美濃系、1820～幕末 | *2.0 | 9.6 | | 75 | 67 |
| 329 | RE05埋土上部 | 磁器 | 染付・壺物 | | | 肥前産、1780～1840年代、広東型碗 | *1.2 | 10.0 | | 75 | 67 |
| 330 | RE08埋土 | 磁器 | 銚子 | | | 近世以降 | | | | 80 | - |
| 331 | RE09埋土 | 陶器 | 碗 | 透明釉 | 透明釉 | 近世以降 | | | | 80 | - |
| 332 | RE09埋土 | 磁器 | 白磁・皿 | 透明釉、高台内無釉 | 透明釉、蛇の目髹げ | 波佐見系、18世紀代 | 3.0 | 12.1 | 4.4 | 75 | 67 |
| 333 | RE09埋土 | 磁器 | 染付・碗 | | | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | *2.7 | 12.0 | | 75 | 67 |
| 334 | RE09埋土 | 磁器 | 白磁・碗 | | | 肥前系、18世紀代 | 5.5 | 8.7 | 4.0 | 75 | 67 |
| 335 | RE09埋土 | 磁器 | 染付・小杯 | 蛇の目釉髹 | | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | *2.1 | | 3.0 | 75 | - |
| 336 | RE09埋土 | 陶器 | | 透明釉 | 透明釉 | 近世以降 | | | | 80 | - |
| 337 | RE09埋土 | 磁器 | 白磁OR染付 | | | 肥前産、18世紀代 | *3.3 | | 5.2 | 75 | - |
| 338 | RE09埋土 | 磁器 | 染付・碗 | 二重網目文 | 見込み菊花文 | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | 5.2 | 9.8 | 3.6 | 75 | 67 |
| 339 | RE09埋土 | 磁器 | 盃 | 杯灰釉、高台内墨書銘 | 灰釉 | 胎土白、大堀相馬 | 3.5 | 6.3 | 3.1 | 75 | 67 |
| 341 | RG10埋土上部 | 磁器 | 染付・小杯 | 透明釉 | 透明釉 | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | *4.6 | | 3.2 | 75 | 67 |
| 342 | RG28埋土 | 陶器 | 壺・ロクロ | HN | H | 拓撮図処理 | | | | 76 | 67 |
| 343 | A調査区24XG1層 | 磁器 | 皿 | 上半鉄釉、底部および下半 | | 胎土灰色 | *2.7 | | 8.0 | 75 | 67 |
| 344 | A調査区24XG1層 | 磁器 | 染付・火入れ? | | | 肥前産、19世紀初頭～幕末 | *3.1 | 8.0 | | 75 | 67 |
| 345 | A調査区24XG1層 | 陶器 | | | | 近世以降 | | | | 80 | - |
| 346 | A調査区24XG1層 | 磁器 | | | | 近世以降 | | | | 80 | - |
| 347 | A調査区24XG1層 | 陶器 | 碗 | | | 肥前産、18世紀後半～19世紀初頭 | | | | 80 | - |
| 348 | A調査区24XG1層 | 陶器 | | | | 近世以降 | | | | 80 | - |
| 349 | A調査区24XG1層 | 陶器 | 碗 | 鉄釉 | 灰釉 | 胎土灰白色、畳付け露胎 | *2.6 | | 4.1 | 75 | 67 |
| 350 | A調査区24XG1層 | 磁器 | 染付・蓋 | 草花文 | | 肥前産、18世紀前半～幕末 | *2.0 | 8.2 | | 76 | 67 |
| 351 | A調査区24XG1層 | 磁器 | 染付・猪口 | | | 肥前産、18世紀中葉～末葉 | | | | 80 | - |
| 352 | A調査区24XG1層 | 磁器 | 染付・碗 | 透明釉、圈線 | 透明釉 | 肥前産、17世紀後半～18世紀前半 | *2.6 | | 5.0 | 75 | 67 |
| 353 | RE02埋土 | 陶器 | 甕 | 褐釉 | ハケメ | | *3.4 | | 11.0 | 76 | 67 |
| 354 | A調査区24XG1層 | 陶器 | | | | | | | | 80 | - |
| 355 | A調査区24XG1層 | 陶器 | 陶器 | | | 関西系、18世紀代 | *3.6 | 11.0 | | 75 | 67 |
| 356 | A調査区24XG1層 | 陶器 | 播り鉢 | 鉄釉 | 鉄釉、卸目 | 近世以降 | | | | 80 | - |
| 357 | A調査区24XG1層 | 磁器 | 磁器・粗製皿 | | | 波佐見系、18世紀代 | *1.5 | 13.1 | | 76 | 67 |
| 358 | A調査区24XG1層 | 磁器 | 染付・碗 | | | 肥前産、18世紀～1780年代 | | | | 80 | - |

| No | 出土地点・層位 | 種 | 器種 | 外面 | 内面 | 備考 | 法量 (cm) | | | 写真 | 実測 |
|-----|---------------|----|---------|-------------|-------------|------------------------|---------|------|------|----|----|
| | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | |
| 359 | A調査区攪乱 | 陶器 | 甕 | | 卸目 | 胎土黄橙色、回転糸切り無調整 | *4.3 | | 7.8 | 76 | 67 |
| 360 | A調査区攪乱 | 磁器 | 染付・皿 | | 圏線、見込み風景文 | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | *1.1 | | 5.0 | 76 | 67 |
| 361 | A調査区攪乱 | 陶器 | 碗 | | | 相馬 | | | | 80 | - |
| 362 | A調査区攪乱 | 磁器 | 染付・皿 | 蛇の目大型高台 | | 肥前産、1780～19世紀前半 | *1.0 | | 8.8 | 76 | 68 |
| 363 | A調査区攪乱 | 陶器 | 甕 | 鉄釉 | 褐釉、回転糸切り無調整 | 胎土黒褐色 | *3.8 | | 10.8 | 76 | 68 |
| 364 | B調査区1XG攪乱 | 磁器 | 染付・碗 | 高台銘、太明年製の崩し | | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | *2.1 | | 2.8 | 76 | 68 |
| 365 | B調査区1XG攪乱 | 磁器 | 染付・皿 | | 圏線、文様 | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | *2.5 | | 5.6 | 76 | 68 |
| 366 | B調査区25XG攪乱最下部 | 磁器 | 染付・鉢 | | | 肥前系、1820～1860年代 | *2.5 | | 4.2 | 76 | 68 |
| 367 | B調査区25XG攪乱上部 | 磁器 | 染付・碗 | | | 肥前産、18世紀代 | *2.7 | 8.4 | | 76 | 68 |
| 368 | B調査区25XG攪乱部 | 陶器 | 播り鉢 | 鉄釉 | 鉄釉、卸目 | 胎土灰褐 | | | | 80 | - |
| 369 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 染付・碗 | 草花文 | | 肥前産、1770～1810年代 | *3.1 | 9.2 | | 76 | 68 |
| 370 | B調査区25XG攪乱部 | 陶器 | | | | 近代以降 | | | | 80 | - |
| 371 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 染付・蓋物 | | | 肥前産、17世紀末葉～18世紀初頭 | *3.3 | | 5.9 | 76 | 68 |
| 372 | B調査区25XG攪乱部 | 陶器 | 甕 | 褐釉 | 褐釉 | 19世紀以降 | | | | 81 | - |
| 373 | B調査区25XG攪乱部 | 陶器 | | | | 近代以降 | | | | 81 | - |
| 374 | B調査区25XG攪乱部 | 陶器 | | | | | | | | 81 | - |
| 375 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 染付・碗 | | | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | | | | 81 | - |
| 376 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 碗 | | | 近代以降 | | | | 81 | - |
| 377 | B調査区25XG攪乱部 | 陶器 | 碗 | | | 相馬 | | | | 81 | - |
| 378 | B調査区25XG攪乱部 | 陶器 | 碗 | 鉄釉 | 鉄釉 | 胎土灰色 | | | | 81 | - |
| 379 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 染付・猪口 | | | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | *2.2 | | 4.4 | 76 | 68 |
| 380 | B調査区25XG攪乱部 | 陶器 | 碗 | | | 相馬 | | | | 81 | - |
| 381 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 陶胎染付 | 唐草文様 | | 肥前産、18世紀前半 | | | | 81 | - |
| 382 | B調査区25XG攪乱部 | 陶器 | 甕 | | | 19世紀以降 | | | | 81 | - |
| 383 | B調査区25XG攪乱部 | 陶器 | 碗 | | | 相馬 | | | | 81 | - |
| 384 | B調査区25XG攪乱部 | 陶器 | | | | | | | | 81 | - |
| 385 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 染付・碗 | 矢羽文 | | 肥前産、1770～1810年代 | *4.5 | 8.2 | | 76 | 68 |
| 386 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 染付・碗 | | | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | *4.2 | 10.4 | | 76 | 68 |
| 387 | B調査区25XG攪乱部 | 陶器 | 碗 | | | 相馬 | | | | 81 | 67 |
| 388 | B調査区25XG攪乱部 | 陶器 | 碗 | | | 相馬 | | | | 81 | - |
| 389 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 染付・碗 | | | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | | | | 81 | - |
| 390 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 火入れ | | | 肥前産、18世紀～幕末 | | | | 81 | - |
| 391 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 染付・碗 | | | 肥前産、18世紀後半～19世紀初頭 | | | | 81 | - |
| 392 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 碗 | | | 肥前系、18世紀中葉～19世紀初頭 | | | | 81 | - |
| 393 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 染付・猪口 | | | 肥前系、18世紀後半～19世紀初頭 | | | | 81 | - |
| 394 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 染付・碗 | | | 肥前産、18世紀後半 | | | | 81 | - |
| 395 | B調査区25XG攪乱部 | 陶器 | 碗 | | | 東北産、19世紀以降 | | | | 81 | - |
| 396 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 染付・碗 | 高台銘熱 | 二重圏線、見込み昆虫文 | 胎土灰色、肥前産、18世紀後半～1810年代 | *4.0 | | 3.7 | 77 | 68 |
| 397 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | | | | | | | | 81 | - |
| 398 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | | | | | | | | 81 | - |
| 399 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | | | | | | | | 81 | - |
| 400 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 染付・碗 | | | 肥前系、1820～1860年代 | | | | 81 | - |
| 401 | B調査区25XG攪乱部 | 陶器 | | | | | | | | 81 | - |
| 402 | B調査区25XG攪乱部 | 陶器 | 火入れOR香炉 | 灰釉 | 灰釉 | 胎土黄褐色、底部回転糸切り、胎土黄褐色 | 5.4 | | 4.4 | 77 | 68 |
| 403 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 染付・蓋物 | | | 肥前産、1780～1840年代、広東型 | *1.8 | 10.8 | | 76 | - |
| 404 | B調査区25XG攪乱部 | 磁器 | 碗 | | | 近代以降 | | | | 81 | - |

| No | 出土地点・層位 | 種 | 器種 | 外面 | 内面 | 備考 | 法量 (cm) | | | 写真 図版 | 実測 図版 |
|-----|------------|----|---------|------|-------|-------------------------|---------|------|-----|----------|----------|
| | | | | | | | 器高 | 口径 | 底経 | | |
| 405 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 染付・小杯 | | | 肥前産、1780～1780年代 | | | | 81 | - |
| 406 | C調査区1WG I層 | 陶器 | | | | 近代以降 | | | | 81 | - |
| 407 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 陶胎染付 | | 内面無釉 | 肥前産、18世紀前半 | | | | 81 | - |
| 408 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 陶胎染付・土瓶 | | | 近代以降 | | | | 81 | - |
| 409 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 染付・碗 | | 見込み文様 | 瀬戸・美濃系、1820～幕末 | *2.6 | | 3.8 | 76 | 68 |
| 410 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 碗 | | | 相馬、19世紀代 | | | | 81 | - |
| 411 | C調査区1WG I層 | 磁器 | | | | 近代以降 | | | | 81 | - |
| 412 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 碗 | | | 相馬 | | | | 81 | - |
| 413 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 碗 | 透明釉 | 透明釉 | 相馬 | | | | 81 | - |
| 414 | C調査区1WG I層 | 陶器 | | | | 京焼き風、肥前、18世紀代 | | | | 81 | - |
| 415 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 蓋 | | | 近代以降 | | | | 81 | - |
| 416 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 碗 | | | 東北産、19世紀以降 | | | | 81 | - |
| 417 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 鉢 | | | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 418 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 水滴? | | | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 419 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 陶器・大皿 | | | 唐津産、17世紀後半～18世紀中葉 | | | | 82 | - |
| 420 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 染付・瓶 | | 無釉 | 胎土白、肥前産、18世紀代 | *3.7 | | 5.0 | 77 | 68 |
| 421 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 蓋 | | 灰釉 | 胎土黄橙色 | | | | 82 | - |
| 422 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 甕 | 鉄釉 | 鉄釉 | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 423 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 德利 | | | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 424 | C調査区1WG I層 | 陶器 | | | | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 425 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 紅皿 | | | 肥前産 | | | | 82 | - |
| 426 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 皿 | | | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 427 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 皿 | | | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 428 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 碗 | 透明釉 | 透明釉 | 胎土淡黄色、大堀相馬 | *2.0 | | 4.8 | 76 | 68 |
| 429 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 碗 | | | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 430 | C調査区1WG I層 | 磁器 | | | | | *1.2 | | | 77 | 68 |
| 431 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 磁器・皿 | | | 肥前産、19世紀初頭～幕末 | | | | 82 | - |
| 432 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 皿? | | | 近代以降 | 2.0 | 13.6 | 8.5 | 82 | 68 |
| 433 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 染付・皿 | | | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | | | | 82 | - |
| 434 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 磁器・碗 | | | 肥前産、19世紀初頭～1860年代 | | | | 82 | - |
| 435 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 碗 | | | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 436 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 皿 | | | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 437 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 甕 | 褐釉 | 鉄釉 | 胎土黒褐色、東北産(白岩系) | *2.2 | 11.2 | | 77 | 68 |
| 438 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 皿 | | | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 439 | C調査区1WG I層 | 陶器 | | 内面無釉 | | | | | | 82 | - |
| 440 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 土瓶 | | | 相馬19世紀以降 | | | | 82 | - |
| 441 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 行平 | 褐釉 | 褐釉 | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 442 | C調査区1WG I層 | 不明 | | | | | | | | 82 | - |
| 443 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 甕 | | | 東北産、19世紀以降 | | | | 82 | - |
| 444 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 碗 | | | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 445 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 染付 | | | 肥前産、18世紀後半 | | | | 82 | - |
| 446 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 碗 | 透明釉 | 透明釉 | 京焼き風陶器、肥前、18世紀以降 | | | | 82 | - |
| 447 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 碗 | | | 肥前系OR東北、1820～1860年代、広東型 | | | | 82 | - |
| 448 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 甕 | 透明釉 | 透明釉 | 胎土黄褐色 | *4.2 | 9.0 | | 77 | 68 |
| 449 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 染付・碗 | | | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | | | | 82 | - |
| 450 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 碗 | 鉄釉 | 灰釉 | 胎土灰白、大堀相馬 | *4.3 | 8.2 | | 77 | 68 |

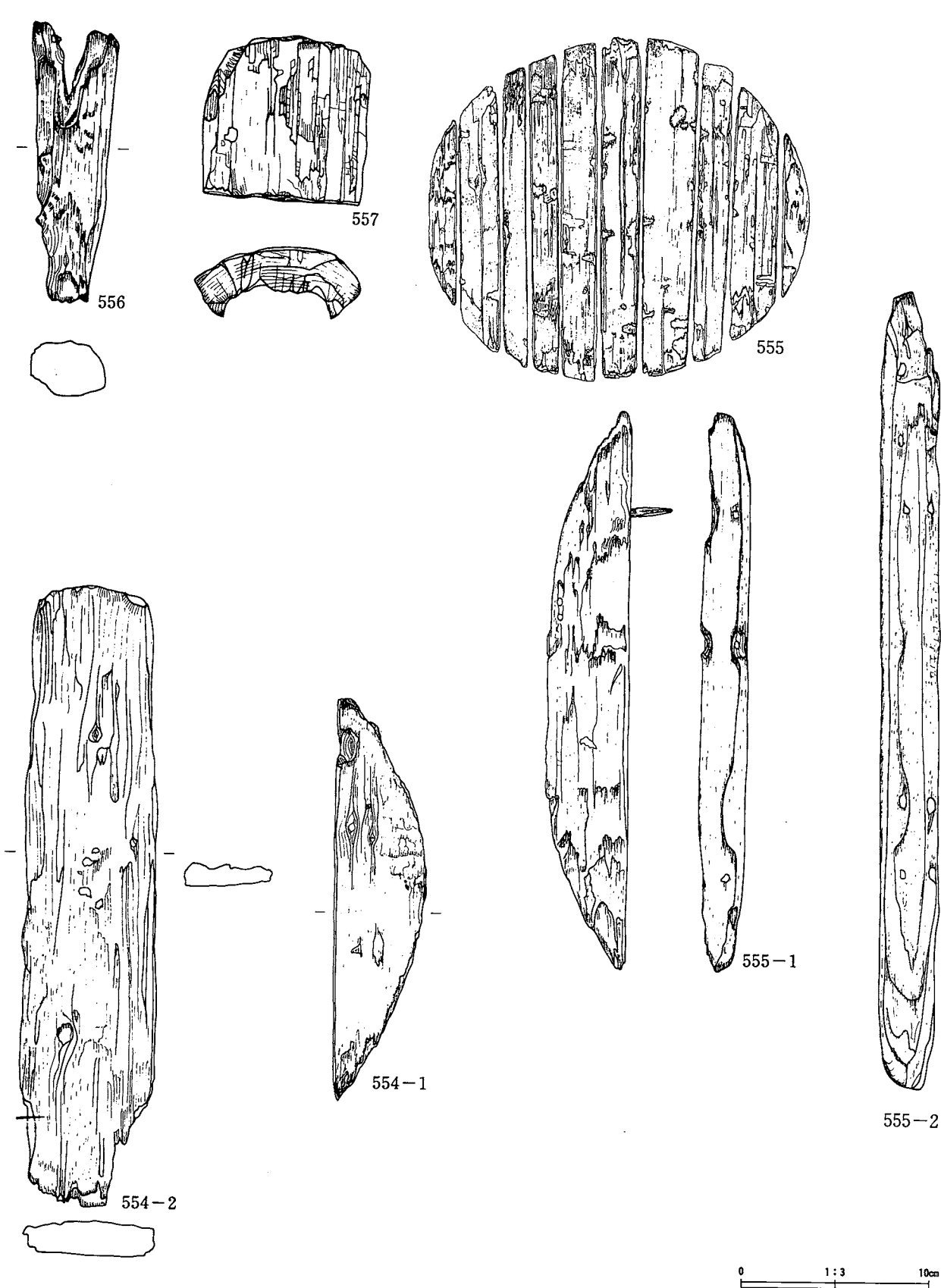
| No | 出土地点・層位 | 種 | 器種 | 外面 | 内面 | 備考 | 法量 (cm) | | | 写真実測 | |
|-----|------------|----|---------|-----------|---------------|-------------------------|---------|------|-----|------|----|
| | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | 図版 | 図版 |
| 451 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 鉢子 | | | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 452 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 皿 | | | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 453 | C調査区1WG I層 | 陶器 | | | | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 454 | C調査区1WG I層 | 磁器 | | | | 関西系OR東北、1820年代～1860年代 | | | | 82 | - |
| 455 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 碗 | | | 肥前系OR東北、1820～1860年代、広東型 | | | | 82 | - |
| 456 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 水滴 | | | 肥前産、白磁?、型押し成形、18世紀～幕末 | | | | 82 | - |
| 457 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 染付 | | | 肥前産、18世紀～19世紀初頭 | | | | 82 | - |
| 458 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 碗 | 透明釉 | 透明釉 | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 459 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 皿 | | | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 460 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 染付・碗 | | | 肥前産、18世紀代 | *2.9 | 8.0 | | 77 | 68 |
| 461 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 染付 | | | 肥前産、18世紀代、漆継ぎ | | | | 82 | - |
| 462 | C調査区1WG I層 | 磁器 | 磁器・碗 | | | 肥前産、18世紀代 | | | | 82 | - |
| 463 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 摺り鉢 | 鉄釉 | 卸目 | 胎土黄橙色 | *11.2 | 34.8 | | 77 | 69 |
| 464 | C調査区1WG I層 | 陶器 | | | | 近代以降 | | | | 82 | - |
| 465 | C調査区1WG I層 | 陶器 | 摺り鉢 | 鉄釉 | 卸目 | 胎土暗褐色、東北産、近世以降 | | | | 82 | - |
| 466 | C調査区1WG攪乱 | 陶器 | 碗 | | 相馬 | | | | | 82 | - |
| 467 | C調査区1WG攪乱 | 磁器 | 染付・猪口 | | | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | | | | 82 | - |
| 468 | C調査区1WG攪乱 | 磁器 | 磁器・碗 | | | 肥前産、1780～1810年代 | *3.5 | 10.4 | | 77 | 69 |
| 469 | C調査区2VG I層 | 陶器 | 甕 | 鉄釉、褐釉 | 鉄釉、褐釉 | 東北産、19世紀以降 | | | | 83 | - |
| 470 | C調査区2VG I層 | 陶器 | | | | 瀬戸・美濃系 | | | | 83 | - |
| 471 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 染付・碗 | | | 肥前産、18世紀代 | | | | 83 | - |
| 472 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 染付・碗 | | | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | *2.8 | 11.2 | | 77 | 69 |
| 473 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 染付・碗 | 瑠璃釉 | 四方博文 | 肥前産、18世紀後半 | *4.7 | 11.2 | | 77 | 69 |
| 474 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 染付・碗 | 瑠璃釉 | 見込み松竹梅 | 肥前産、19世紀後半 | 2.7 | 10.5 | | 77 | 69 |
| 475 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 碗 | | | 近代以降 | | | | 83 | - |
| 476 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 染付・碗 | 竹掘り文様 | | 肥前産、1780～1810年代 | *4.1 | 8.8 | | 77 | 69 |
| 477 | C調査区2XG I層 | 陶器 | | | | | | | | 83 | - |
| 478 | C調査区2XG I層 | 陶器 | 片口鉢 | 鉄釉 | 鉄釉 | 胎土黄褐色 | *5.5 | 17.7 | | 77 | 69 |
| 479 | C調査区2XG I層 | 陶器 | 白磁? | | | 肥前産、18世紀後半～19世紀初頭 | | | | 83 | - |
| 480 | C調査区2XG I層 | 磁器 | | | | 近代 | *2.8 | | 3.4 | 77 | 69 |
| 481 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 染付・皿 | | | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | | | | 83 | - |
| 482 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 染付・碗 | 梅樹文 | 圏線 | 肥前産、1770～1810年代 | 5.0 | 9.5 | 3.5 | 78 | 69 |
| 483 | C調査区2XG I層 | 陶器 | | | | | | | | 83 | - |
| 484 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 染付・皿 | 見込み蛇の目釉髹げ | | 肥前産、18世紀中葉～18世紀末葉 | *2.9 | 12.8 | | 78 | 69 |
| 485 | C調査区2XG I層 | 陶器 | 摺り鉢 | 褐釉 | 卸目 | 近代以降 | | | | 83 | - |
| 486 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 白磁・碗 | | | 肥前系、18世紀代 | 6.5 | 15.6 | 5.6 | 78 | 69 |
| 487 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 白磁? | | | 肥前産、18世紀代 | | | | 83 | - |
| 488 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 染付・皿 | 透明釉、高台内無釉 | 透明釉、見込み蛇の目釉髹げ | 佐佐見系、18世紀代 | *1.9 | | 4.0 | 78 | 69 |
| 489 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 碗 | | | 近代以降 | | | | 83 | - |
| 490 | C調査区2XG I層 | 陶器 | 火入れOR香炉 | 口縁部緑釉、透明釉 | 無釉 | 胎土淡黄、近代、口唇部釉の剥落 | *6.8 | 10.3 | | 78 | 69 |
| 491 | C調査区2XG I層 | 陶器 | 摺り鉢 | 鉄釉 | 鉄釉 | 胎土黒褐色、東北産 | *5.0 | 30.5 | | 78 | 69 |
| 492 | C調査区2XG I層 | 陶器 | 碗 | 灰釉 | 灰釉 | 胎土灰白、外面高台内無釉、大堀相馬 | *4.0 | | 3.6 | 78 | 69 |
| 493 | C調査区2XG I層 | 陶器 | 碗 | | | 相馬、18世紀～19世紀代 | | | | 83 | - |
| 494 | C調査区2XG I層 | 陶器 | 碗 | 透明釉 | 透明釉 | 胎土淡黄色、大堀相馬 | *4.0 | | 4.8 | 78 | 69 |
| 495 | C調査区2XG I層 | 陶器 | 摺り鉢 | 鉄釉 | 鉄釉 | 胎土黒褐色、東北産 | *4.9 | 31.0 | | 78 | 70 |
| 496 | C調査区2XG I層 | 陶器 | 碗 | 鉄釉、かきめ | 灰釉 | 胎土灰色、大堀相馬 | *2.1 | | 4.6 | 78 | 70 |

| No | 出土地点・層位 | 種 | 器種 | 外面 | 内面 | 備考 | 法量 (cm) | | | 写真 図版 | 実測 図版 |
|-----|-------------|-----|--------|--------|------------|----------------------|---------|------|-----|----------|----------|
| | | | | | | | 器高 | 口径 | 底径 | | |
| 497 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 染付・碗 | | | 肥前産、18世紀後半～19世紀初頭 | *2.0 | | 3.2 | 79 | 70 |
| 498 | C調査区2XG I層 | 陶器 | 碗 | 褐釉、かきめ | | 胎土灰白、大堀相馬 | *3.55 | | 4.2 | 78 | 70 |
| 499 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 染付・皿 | | | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | | | | 83 | - |
| 501 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 染付・碗 | 草花文 | | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | *4.0 | 8.8 | | 78 | 70 |
| 502 | C調査区2XG I層 | 陶器 | 摺り鉢 | 鉄釉 | 鉄釉 | 胎土黄橙色、高台内刻印 | *4.8 | 15.6 | 8.0 | 79 | 70 |
| 503 | C調査区2XG I層 | 磁器 | 染付 | | | 瀬戸・美濃系、1820～幕末 | | | | 83 | - |
| 504 | E調査区3XG I層 | 磁器 | | | | 近代以降 | | | | 83 | - |
| 505 | E調査区3XG I層 | 磁器 | 染付 | | | 瀬戸・美濃系、1820～幕末 | | | | 83 | - |
| 506 | E調査区3XG I層 | 磁器 | 染付 | | | 瀬戸・美濃系、1820～幕末 | | | | 83 | - |
| 507 | E調査区3XG I層 | 磁器 | 磁器・皿 | | | 瀬戸・美濃系、1820～幕末 | | | | 83 | - |
| 508 | E調査区3XG I層 | 磁器 | 磁器・皿 | | | 肥前産、19世紀初頭～幕末 | | | | 83 | - |
| 509 | E調査区3XG I層 | 磁器 | 碗 | | | 肥前系OR東北産、1820～1840年代 | | | | 83 | - |
| 510 | E調査区3XG I層 | 磁器 | 染付・碗 | | | 近代以降 | | | | 83 | - |
| 511 | E調査区3XG I層 | 磁器 | 染付・碗 | 梅樹文 | | 肥前産、18世紀前半～18世紀中葉 | *4.2 | 9.8 | | 78 | 70 |
| 512 | E調査区3XG I層 | 陶器 | 碗 | 灰釉 | 横位白線 | | *3.9 | 9.0 | | 78 | 70 |
| 513 | E調査区3XG I層 | 陶器 | | | | | | | | 83 | - |
| 514 | E調査区3XG I層 | 磁器 | 染付・蓋物 | 口唇部釉剥け | | 肥前産、18世紀代 | | | | 83 | - |
| 515 | E調査区3XG I層 | 磁器 | | | | 肥前産、1770～1810年代 | *1.9 | | 3.0 | 78 | 70 |
| 516 | E調査区3XG I層 | 磁器 | 磁器・皿 | | | 瀬戸・美濃系、1820～幕末 | | | | 83 | - |
| 517 | E調査区3XG I層 | 磁器 | 染付・鉢 | 文様 | 四方櫛文 | 肥前産、18世紀後半 | *3.3 | 18.4 | | 79 | 70 |
| 518 | E調査区3XG I層 | 磁器 | 皿 | | | 肥前産、18世紀代 | | | | 83 | - |
| 519 | E調査区3XG I層 | 磁器 | 染付・皿 | | | 肥前産、18世紀以降 | | | | 83 | - |
| 520 | F調査区1UG II層 | 磁器 | 皿 | | | 近代以降 | | | | 83 | - |
| 521 | F調査区1UG II層 | 陶器 | 磁器・火入れ | | | 肥前産、19世紀初頭～幕末 | | | | 83 | - |
| 522 | F調査区1UG II層 | 陶器 | | | | 東北産・19世紀以降 | | | | 83 | - |
| 523 | F調査区1UG II層 | 磁器 | 青磁 | | | 19世紀以降 | | | | 83 | - |
| 524 | F調査区1UG II層 | 磁器 | 染付・碗 | 草花文 | | 胎土白色、肥前産、18世紀～1780年代 | *2.8 | | 3.8 | 79 | 70 |
| 525 | G調査区1VG I層 | 陶器 | 甕 | 鉄釉、褐釉 | 褐釉 | 胎土黒褐色、東北産(白岩系) | *10.5 | 14.2 | | 79 | 70 |
| 526 | H調査区2TG I層 | 陶器 | 皿 | | | 瀬戸・美濃系、18世紀代 | | | | 83 | - |
| 527 | H調査区2TG I層 | 磁器 | 染付・碗 | | | 肥前産、18世紀～1780年代 | | | | 83 | - |
| 528 | H調査区2UG I層 | 磁器 | 染付・猪口 | | | 肥前産、18世紀～1780年代 | *1.4 | 8.0 | | 79 | 70 |
| 529 | H調査区2UG I層 | 磁器 | 染付・碗 | | | 肥前産、18世紀～1780年代 | | | | 83 | - |
| 530 | H調査区2UG I層 | 青磁 | 皿 | | | 肥前産 | | | | 83 | - |
| 531 | H調査区2UG I層 | 磁器 | | | | 近代以降 | | | | 83 | - |
| 532 | H調査区2UG I層 | 陶器 | 碗 | | | 肥前産、17世紀後半～18世紀前半 | | | | 83 | - |
| 533 | H調査区2UG I層 | 磁器 | 白磁・紅皿 | | | 型押し成形、肥前産、18世紀代 | *1.2 | 4.8 | | 79 | - |
| 534 | H調査区2UG I層 | 磁器 | 染付 | | | | | | | 83 | - |
| 535 | H調査区2UG I層 | 陶器 | | 施釉 | 露胎 | 近代以降 | | | | 83 | - |
| 536 | H調査区2UG I層 | 陶器 | | | | 近代以降 | | | | 83 | - |
| 537 | H調査区2TG I層 | 磁器 | 白磁OR染付 | 透明釉 | 透明釉 | 肥前産、17世紀後半～18世紀前半 | *3.2 | 21.2 | | 79 | 70 |
| 538 | H調査区2TG I層 | 磁器 | 染付・皿 | 圏線 | 圏線、見込み有り不明 | 肥前産、18世紀前半～18世紀中葉 | *2.4 | | 8.0 | 79 | 70 |
| 539 | 不明 | 磁器 | 染付・碗 | 文様 | 圏線、見込み有り不明 | 肥前産、18世紀後半 | *3.7 | | 5.0 | 79 | 70 |
| 540 | 不明 | 磁器 | 甕 | 鉄釉、灰釉 | 灰釉 | 胎土黒褐色 | | | | 83 | - |
| 541 | 不明 | 磁器 | 染付・皿 | | | 肥前産、18世紀前半～1780年代 | *3.2 | 23.0 | | 79 | 70 |
| 542 | 不明 | ガラス | 目薬瓶 | | | | 5.7 | 1.1 | 1.8 | 79 | 70 |

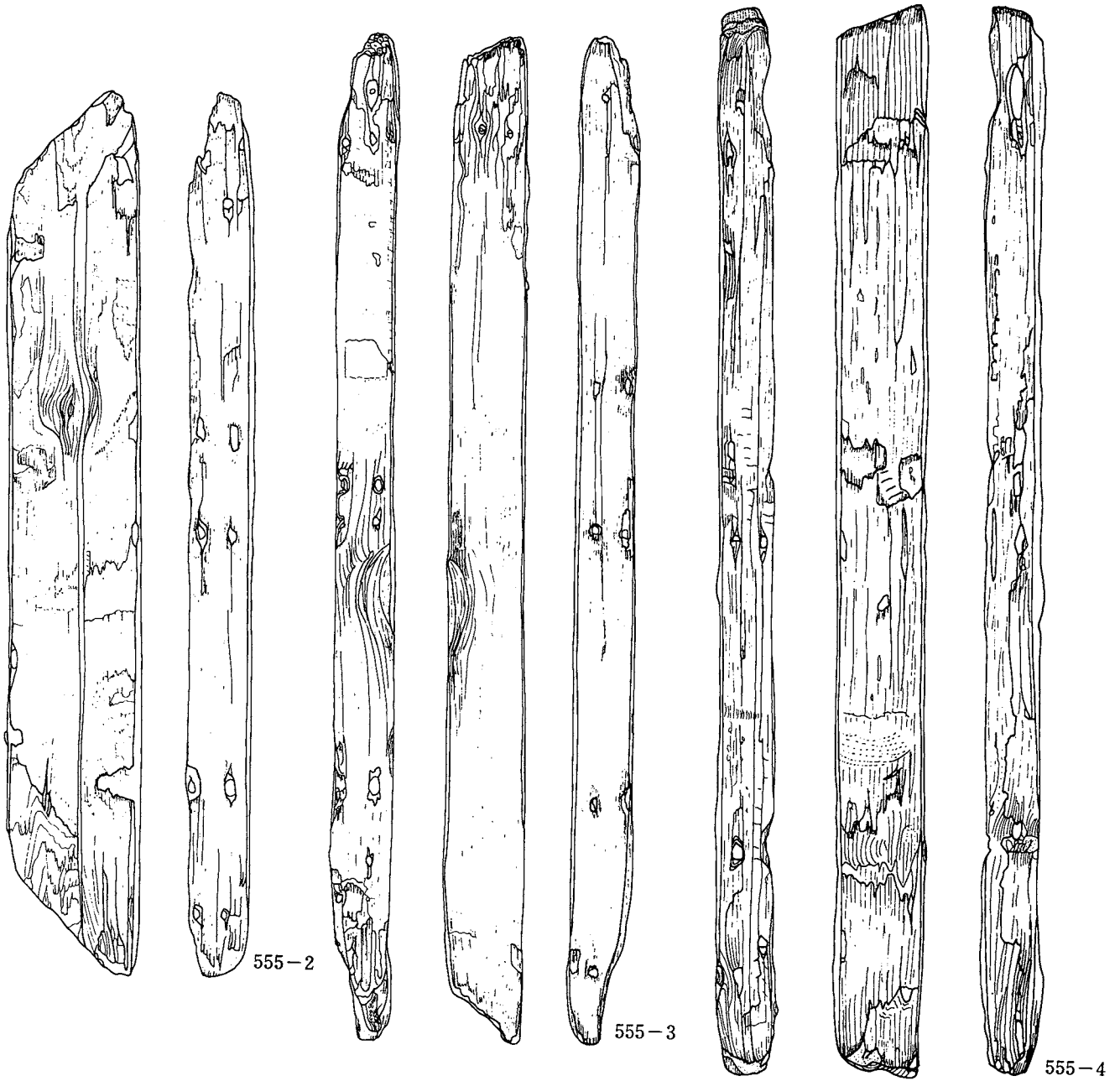


| No. | 出土地点・層位 | 種別 | 名称 | 時代 | 初録年 | 直径 (cm) | 釐目 (厘) | 備 | 考 | 写真図版 |
|-----|------------|----|-------|------|------|---------|--------|------|---|------|
| 543 | RD005埋土 | 銭貨 | 寛永通寶 | 江戸 | 1636 | 2.4 | 3.09 | 古寛永銭 | | 75 |
| 544 | RD014埋土殿上部 | 銭貨 | 寛永通寶 | 江戸 | 1668 | 2.4 | 2.95 | 古寛永銭 | | 75 |
| 545 | RD050埋土 | 銭貨 | 不詳 | | | 2.2 | 1.30 | | | 75 |
| 546 | RD050埋土 | 銭貨 | 朝鮮通寶 | 李氏朝鮮 | 1423 | 2.3 | 3.67 | 李氏朝鮮 | | 75 |
| 547 | RD050埋土 | 銭貨 | 永楽通寶 | 明 | 1408 | 2.1 | 2.36 | | | 75 |
| 548 | RD050埋土 | 銭貨 | 元豊通寶 | 北宋 | | 2.3 | 1.91 | | | 75 |
| 549 | RE08床直 | 銭貨 | 寛永通寶 | 江戸 | 1636 | 2.4 | 2.36 | 古寛永銭 | | 75 |
| 550 | RE09埋土中位 | 銭貨 | 不詳 | | | 2.0 | 0.47 | | | 75 |
| 551 | B調査区X1粗掘り | 銭貨 | 寛永通寶? | 江戸 | | 2.3 | 2.07 | | | 75 |
| 552 | B調査区X1粗掘り | 銭貨 | 不詳 | | | 2.4 | 1.61 | | | 75 |
| 553 | C調査区粗掘り | 銭貨 | 寛永通寶 | 江戸 | 1668 | 2.2 | 1.52 | 新寛永銭 | | 75 |

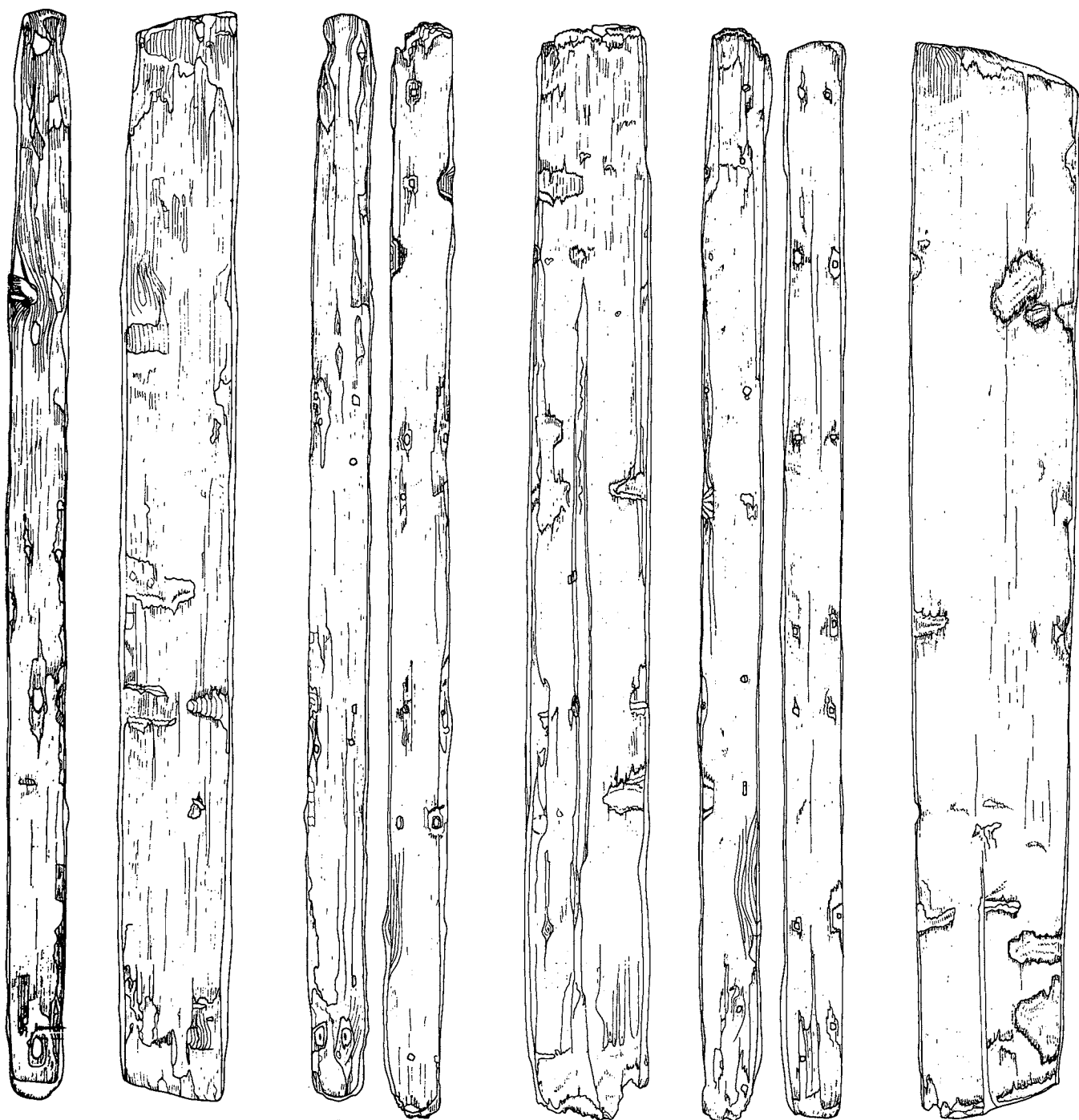
第71図 銭貨



第72図 木製品(1)



第72図 木製品(2)

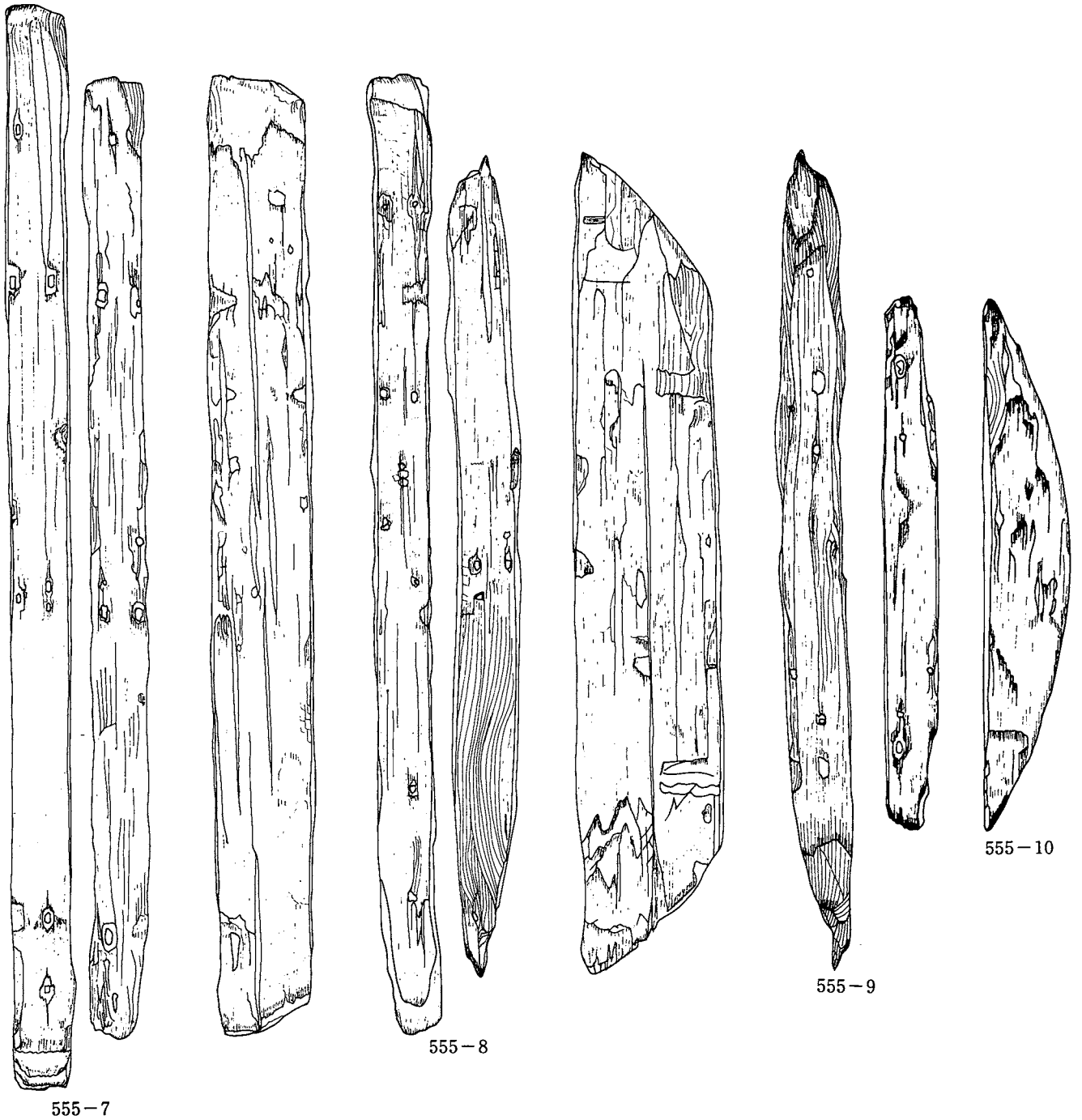


555-5

555-6

0 1:3 10cm

第73図 木製品(1)



第73図 木製品(2)

V. まとめ

1. 遺物について

(1) 平安時代の土器について

今回の調査で本遺跡から出土した土器は、甕形土器の一部を除き成形にロクロを使用した土器群が主体である。器種では坏・高台坏坏・甕・埴(鉢)・壺などが出土している。土器の分類にあたっては従来の土師器・須恵器の枠を取り除き、製品として最終的な結果が酸化炎焼成か還元炎焼成のいずれを意図して製作したか、成形の際にロクロを使用したか否かを主眼として行った。特に量的に多く出土している坏形土器のなかに「須恵系土器」・「土師質土器」・「赤焼き土器」・「あかやき土器」などといわれるものが多く見られる。これらのなかには前述の土器の概念規定から逸脱する土器も認められることから、分類にあたってはこの点にあまり拘泥しなかった。還元炎焼成の土器としたものはほぼ従来の須恵器の概念で理解されるものであり、それ以外のものについては酸化炎焼成の土器として把握した。坏類については全体の形状が明かなものを対象にして行ったが、他の器種については全体の形状が明かなものが少なく、部分の形状などから類推を行ったものもある。

土器の分類

1. 坏形土器

焼成技法と土器内面へのヘラミガキ・黒色処理の有無により、以下の3類に分類した。さらに分類の下位項目として、ロクロ回転台から器物を取り去る際の底部切り離し技法、外面の調整方法により細分した。特に、B類については体部の形状も加味した。これら複数の分類項目を組み合わせて記号で表現した。

<焼成状態>

A類…ロクロにより成形され、内面ヘラミガキ調整と黒色処理が施された酸化炎焼成の坏。

B類…ロクロにより成形された内面に黒色処理が施されない酸化炎焼成の坏。

C類…ロクロにより成形された還元炎焼成の坏。

<底部切り離し技法>

O…摩滅、欠損のため不明。

I…回転糸切り、再調整無し。

II…回転糸切り、再調整有り。

III…静止糸切り、再調整無し。

Iの回転糸切り無調整の技法はA・B・C類の各類に認められ、特にC類については総てこの方法によるものである。IIについては少数例であるがA・B類に認められるが、よりA類に多く見られる技法である。IIIについては少数例であるがすべてA類に認められる技法である。

<外面の調整方法>

0…ロクロナデの痕跡のみで、なんの調整もみられないもの。

1…ヘラケズリ調整。多くは底部下端への手持ちヘラケズリ調整で、1点のみ回転ヘラケズリ調整の認められるものがある。

2…ヘラミガキ調整が施されるもの。

3…ヘラミガキ調整後に黒色処理が施されるもの。

体部下半から底部外端にかけてヘラケズリ調整されるものはB類に比較してA類に多く認められ、このような手法は酸化炎焼成内黒坏に係わる要素と考えられる。

〈体側部の状況〉

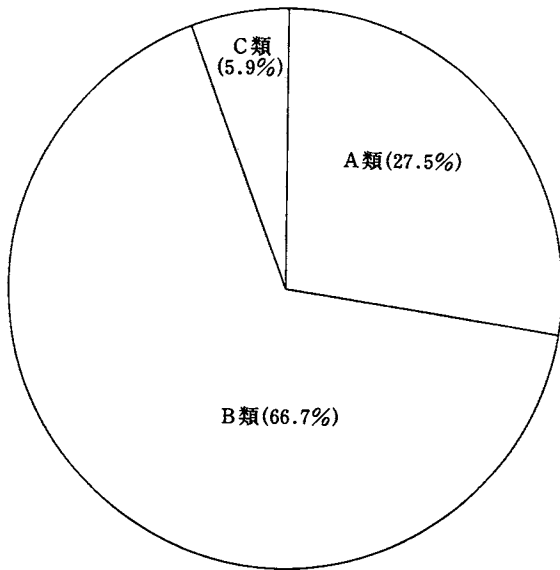
- a…体側部が直線的に立ち上がるもの。
 - b…体側部下半に膨らみをもち口縁部が内湾するもの。
 - c…体側部下半に膨らみをもち口縁部に向かい緩やかに立ち上がるもの。坏A類に形状・法量的に近い。
 - d…底部から体側部～口縁部に向かい直線的に外傾しているもの。一般に外傾角度小さく、器高の低い体部の開きの大きいもの該当する。
 - e…d類に近いが、d類に比較して器高が高く外傾角度が大きいもの。
- a・b・d・eの要素は主に坏B類にみられ、特にd・eについてはB類に限定して見られるようである。
cの要素はおもに坏A類に一般的でありA類とCの要素を持つ坏B類は類似している。

・今回の調査で出土した坏形土器で図化できたものは222点、内訳はA類の酸化炎焼成内黒坏61点(27.5%)、B類の酸化炎焼成非内黒坏148点(66.7%)、C類の還元炎焼成坏13点(5.9%)で約7割がB類土器で占められておりこの構成比率はA類：B類：C類＝4：10：1という値を示している。この構成比率は破片資料を含めた操作でもほぼ近似した値を示している。

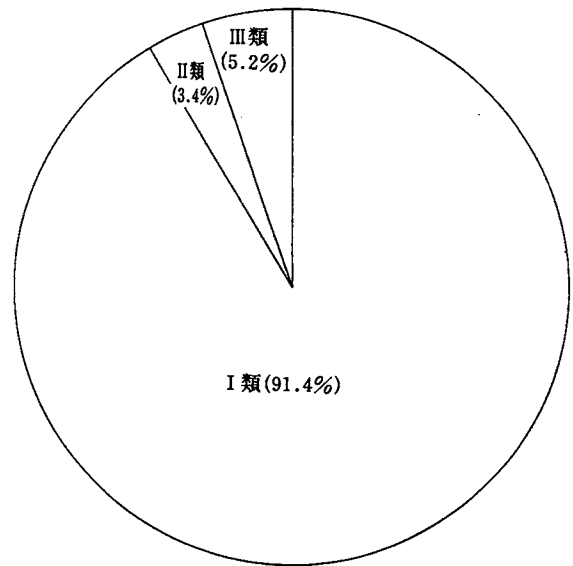
・成形には全てロクロが使用されており、非ロクロ成形のものは1点も含まれていない。

・底部の切り離し技法は回転糸切り技法と静止糸切り技法が認められ、回転ヘラ切り技法のものは1点も認められなかった。回転糸切り技法の一部に再調整をおこなったものが認められる。底部の切り離し方法の観察可能なものはA類44個体、B類123個体、C類7個体でその内訳はグラフに示した通りである。回転糸切り無調整のものが全体の9割以上をしめしている。特に坏B類のほぼ97%がこの技法に依っており、回転糸切りで再調整の施されないことは坏B類を特徴づける主要素と考えられる。回転糸切りで再調整の見られるものは坏A類に認められることが多く、体部下端へのヘラケズリによる再調整と合わせ、より坏A類と関連する要素である。底部切り離しⅢ類とした静止糸切り無調整のものは坏A・B類に認められた。このような方法は他の遺跡でも類例が少なく、本遺跡でも出土範囲に地域的な片寄りが見られる。

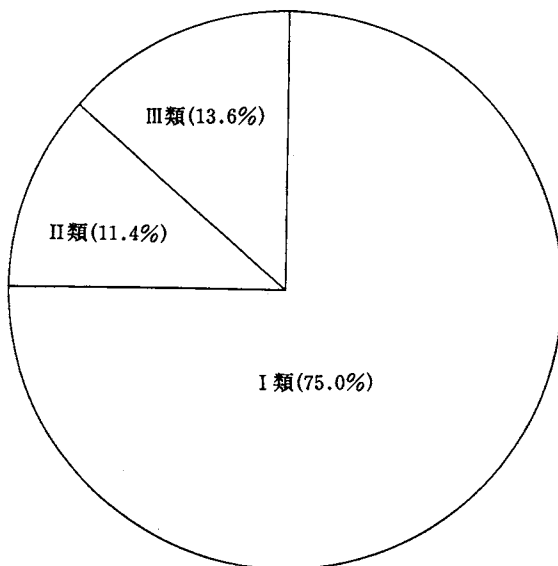
・法量で器高が高く身の深い外傾角度のきつい椀形のタイプは坏A類を特徴づけており、このような椀形のタイプは坏B類では口径14.5cmを越える大形のタイプに多い。1点であるがB類のなかに口径10cm以下の小皿に分類可能なものが出土している。この種の土器は坏B類のなかでも、口径が14.5cm以下・器高が5.5cm以下で外傾角度が小さく口縁部の大きく開く小振り系統のBI0d・e類や以下に述べる酸化炎焼成無調整の「ハ」の字高台坏とともに出土している。坏B類タイプは大形タイプと中・小形タイプでは胎土・焼成・色調に違いが認められる。大形タイプは色調が赤褐色～橙色で胎土に砂を多く含み、焼成も不良で器壁薄く非常に脆弱な土器が多い、これに対し中・小形のタイプはくすんだにぶい橙色系統の色調で胎土に金雲母を含むことが多く、きめのこまかい精選された土が使用されており、焼成も良好なものが多く見受けられる。坏B類の遺構ごと・調査区ごとの出土状況には傾向性が指摘できそうである。大振りて胎土・焼成のよくないグループは今回の調査区の北東側のA調査区の各遺構から、小振りて焼成・胎土の良好なグループは調査区南西側のH・F調査区やRG10・RG27などの溝から出土している。



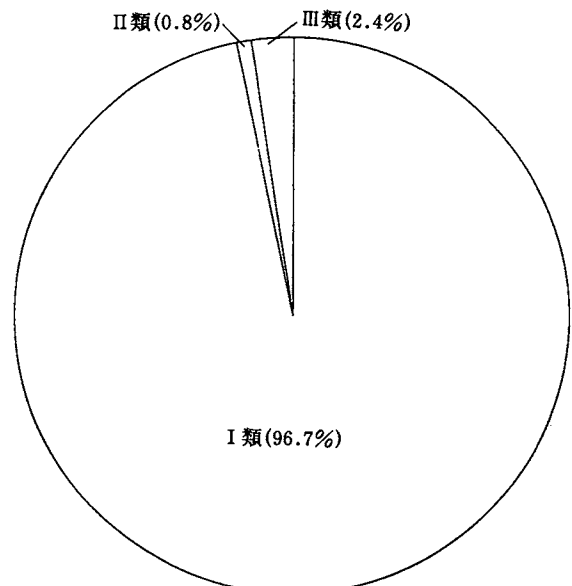
坏類型別組成



坏類底部切り離し構成



坏A類底部切り離し構成



坏B類底部切り離し構成

2. 高台付坏形土器

D類…ロクロ成形で酸化炎焼成の高台付坏である。量的には非常に少なく、高台の種類と内面調整により細分した。内面に黒色処理が施されたものをD I類、施されないものをD II類とした。本遺跡では今回の調査で、脚の短い三角高台(a)、「ハ」の字高台(b)、脚の短い高台(c)、べた高台(d)が認められた。これらを組み合わせて分類をおこなった。

D I a…脚の短い三角高台が付き内面黒色処理が施されたロクロ成形で酸化炎焼成の高台付坏である。
(296)

D II b…「ハ」の字状の高台がついたロクロ成形で酸化炎焼成の高台付坏である。坏部の形状により体部が

大きく開くものD II b1 (266・267) と直線的に外傾するものD II b2 (169・581) が見られる。

坏部は高台部のほぼ2倍前後である。

D II c…脚の短い三角高台が付いたロクロ成形で酸化炎焼成非内黒の高台付坏である。(272)

D II d…充実した短い柱状の高台がついたロクロ成形の酸化炎焼成の高台付坏である。(273)

・高台付坏は量的に非常に少なく、器種組成の面からも主要な構成要素とはなっていない。ただし、酸化炎焼成非内黒無調整の「ハ」の字高台の付くD II b類はRG27溝から数点出土しており坏B類の小振り胎土・焼成良好なグループとともに出土している。

3. 甕形土器

E 類…成形にロクロを使用した酸化炎焼成の甕である。口径15.0cm±、器高15.0cm±で大小に区分される。

小形の甕類をE I 類、中・大形の甕類をE II 類とする。さらにこれらは口縁部の形状により次のように細分した。

E I a…頸部に括れを持ち、短めに口縁部が外反するロクロ成形の小形甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。胴部に膨らみが見られる。58・293

E I b…頸部に括れを持ち「く」の状に開く短めの口縁部で、口唇部が上方に挽き出されているロクロ成形の小形の甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。胴部に膨らみがみられる。

14・57・226・143・148

E II a1…頸部に括れを持ち、短めに口縁部が外反するロクロ成形の中・大形の長胴甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。胴部に膨らみが見られる。口唇部が丸みをもつ例が多い。

65・44・311・62・145・61

E II a2…頸部に括れを持ち、長めの口縁部が外傾するロクロ成形の中・大形の長胴甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。胴部に膨らみが見られる。150・36

E II b1…頸部に括れを持ち、「く」の状に開く短めの口縁部で口唇部が上方に挽き出されているロクロ成形の中・大形の長胴甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。胴部に膨らみが見られる。

37・146・13・177・63・153

E II b2…頸部に括れを持ち、「く」の状に開く短めの口縁部で口唇部が上方に挽き出されることが少ないロクロ成形の中・大形の長胴甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。胴部に膨らみが見られる。口唇部は還元炎焼成の甕や壺に類似し凹状・平坦となっている。

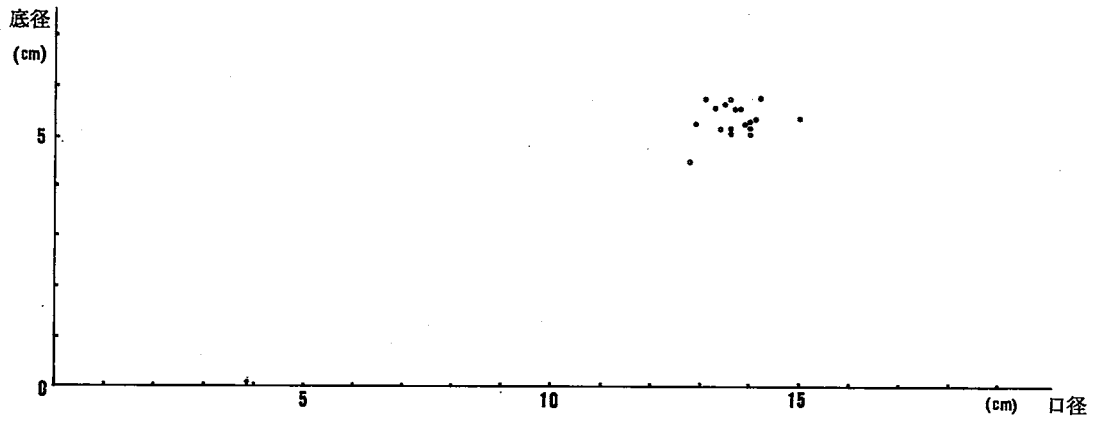
60・147・149・59・221・35

E I a類とした甕類は一般に口唇部が丸みをもっており、これに対しE I b類の小形甕の口唇部は上方に引き出される形状を示すものが多い。

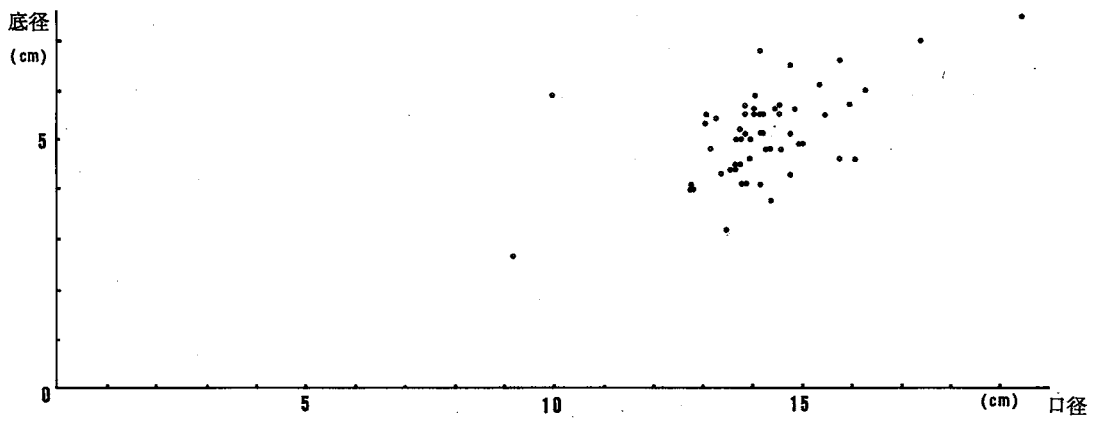
F 類…成形にロクロを使用しない酸化炎焼成の甕である。口径15.0cm±、器高15.0cm±で大小に区分される。

小形の甕類をF I 類、中・大形の甕類をF II 類とする。さらにこれらは口縁部の形状により次のように細分した。

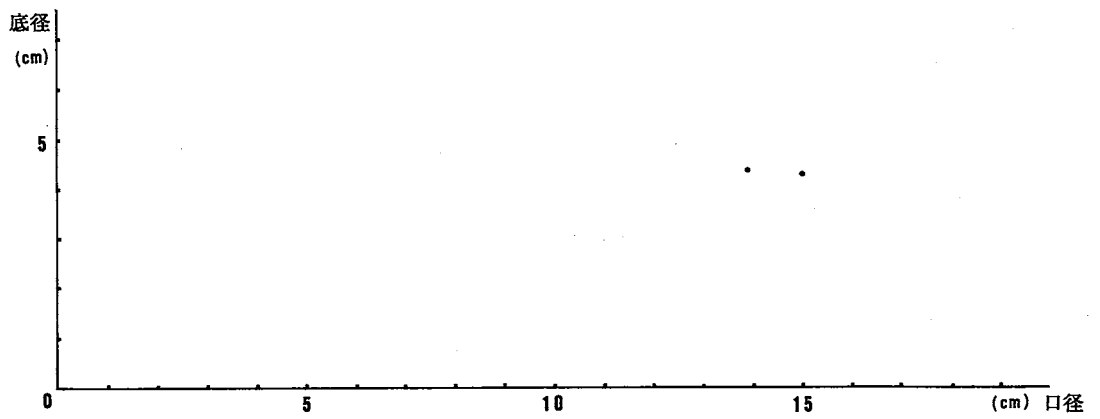
F I a…頸部に括れを持ち、長めの口縁部が緩やかに外反する非ロクロ成形小形の甕である。外面の括れに対応する内面の稜は連続的で不明瞭である。152



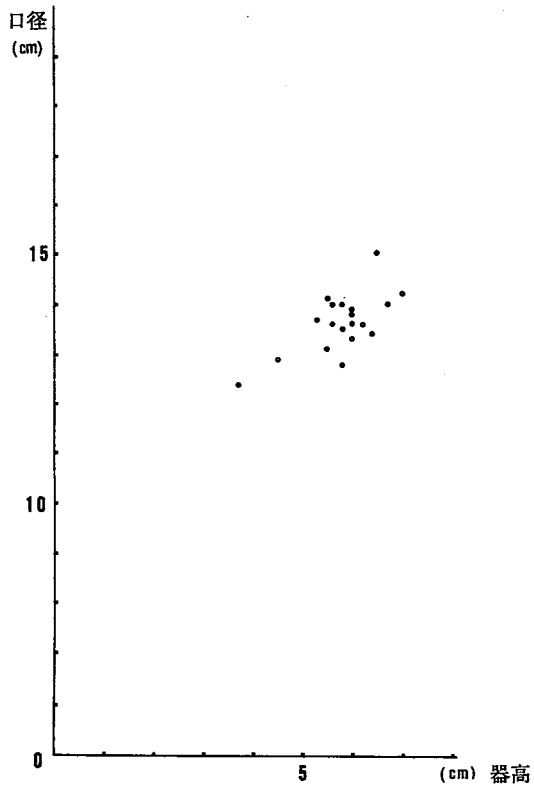
环A類 底径/口径分布



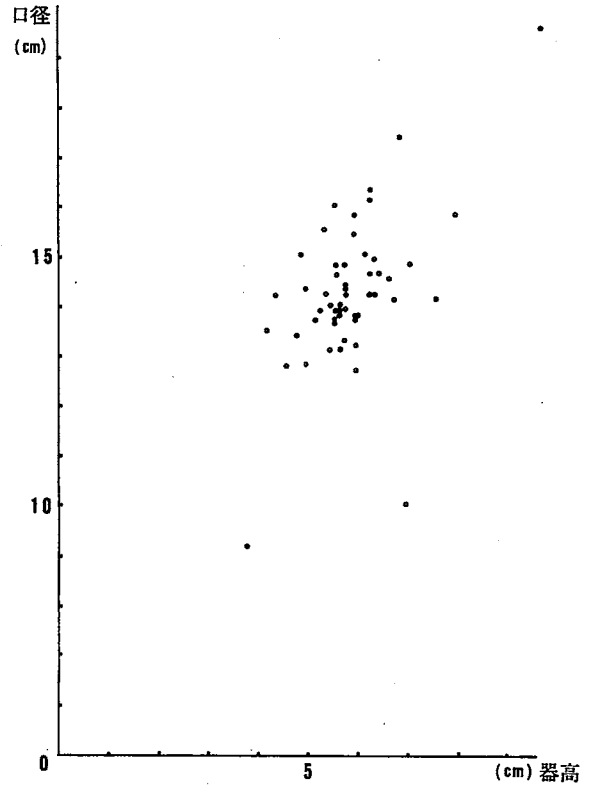
环B類 底径/口径分布



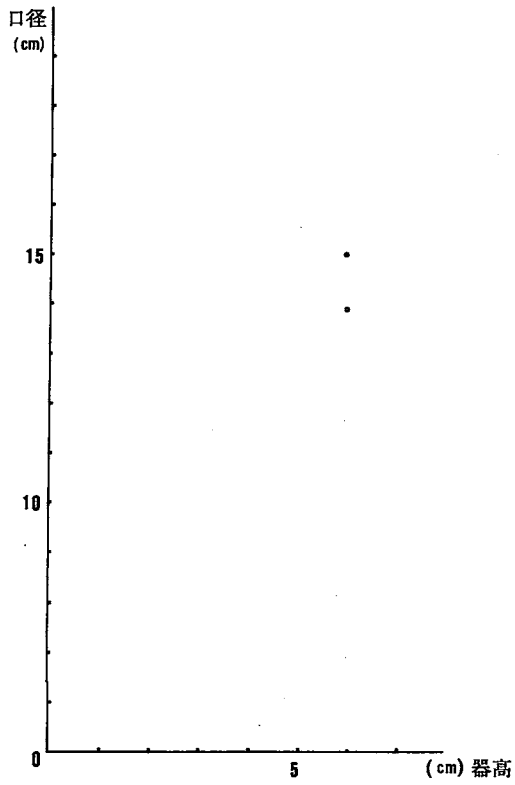
环C類 底径/口径分布



坏A類 口径/器高分布



坏B類 口径/器高分布



坏C類 口径/器高分布

F I b…頸部に括れを持ち、短めに口縁部が外反する非ロクロ成形小形の甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。268

F II a…頸部に括れを持ち、長めの口縁部が強く外反する非ロクロ成形の大形の長胴甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。16

F II b…頸部に括れを持ち、短めの口縁部が強く外反する大形の長胴甕である。外面の括れに対する内面の稜も明瞭である。17・18・38

内外面はヘラナデ・ヘラケズリ調整される場合が多く特に大形の甕に顕著である。

- ・酸化炎焼成の甕類にはロクロ成形（E類）・非ロクロ成形（F類）の二者が認められロクロ成形のものがやや多く存在する。

- ・相対的に甕類の絶対量は少ない。

- ・甕E類・F類とも小形、中・大形という器形分化が認められる。

- ・非ロクロ成形の甕F類は胎土に小礫を多量に含み、雑であるが焼成は比較的良好で硬質なものが多い。

- ・器形の大小、ロクロ成形・非ロクロ成形の如何を問わず甕類の多くは頸部に括れを持ち、「く」の字状に外反するものである。

- ・非ロクロ成形の甕F類は口縁部の長短にやや差異が見られるが全てこのタイプで占められており、口唇部も丸みを持つタイプである。これに対し甕E類では口縁部が「く」の字状のもの他に口縁部を「く」の字状に屈曲させさらに口唇部を上方に引き出すタイプが見られる。

- ・調整技法では甕E I類としたロクロ成形の小形甕にはロクロ成形後調整が加えられることは少なく、調整が見られる場合は幅の広い工具によるナデ様のヘラケズリ調整が見られる。

- ・甕E II a1類としたロクロ成形で口縁部が屈曲するタイプは口縁部の形状が非ロクロ成形の甕F類に類似しており外面調整でこの類にかぎりタタキが体部上半に残る例が多い。E II a2類は「く」の字状の口縁部で口縁部が上方に引き出されるものであるが体部上半への調整は全くないものとヘラケズリ・ヘラナデ調整がほどこされるものが見られる。

- ・非ロクロ成形の中～大形甕F II類は内外面にヘラナデ調整が施される場合が多い。

- ・底部に砂の付着した砂底土器が見られる。

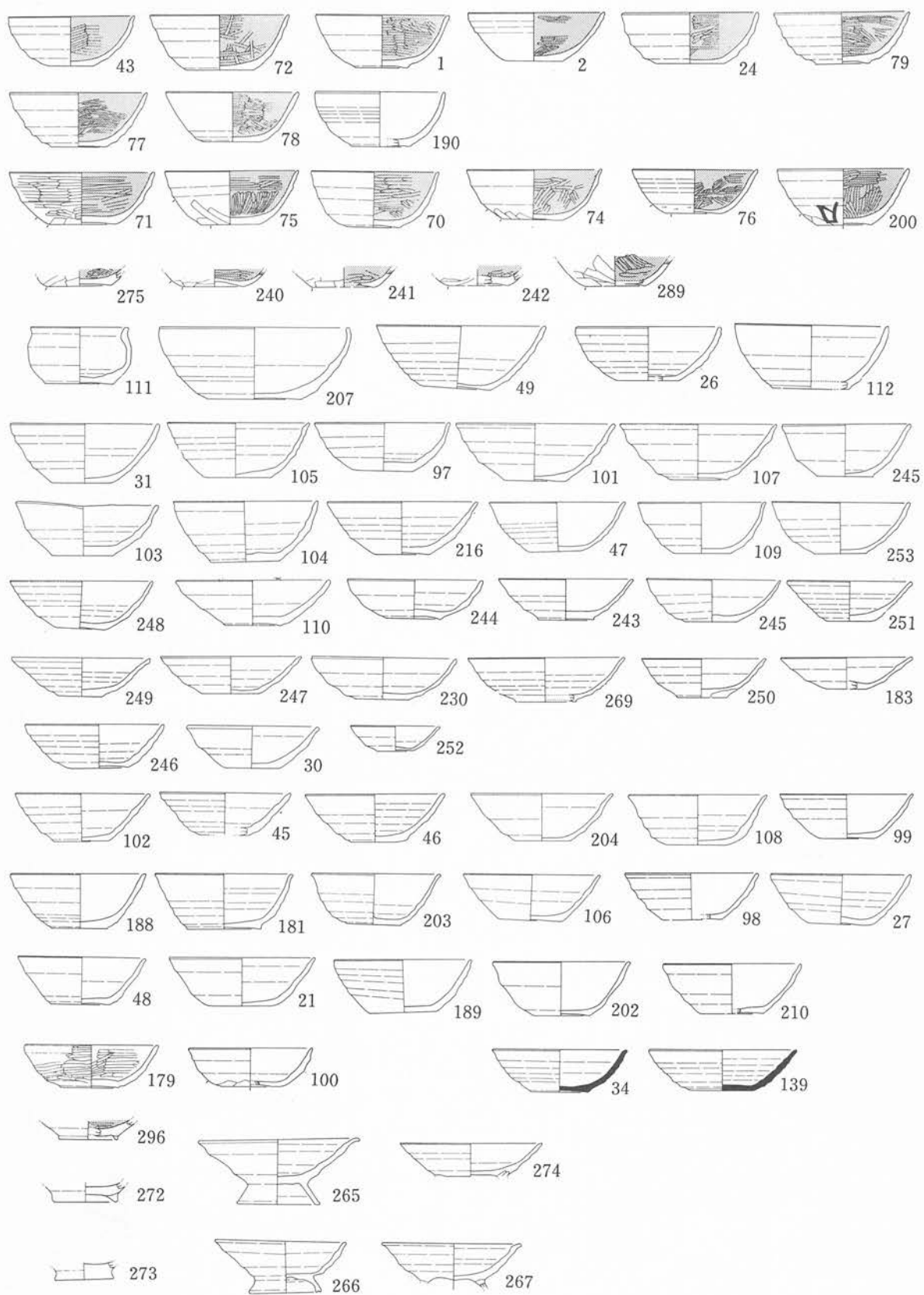
- ・還元炎焼成の大甕類は非常に少ない。容器としての機能を失い多くはカマドのそ袖の芯材として使用されている。

4. 鉢・埴形土器

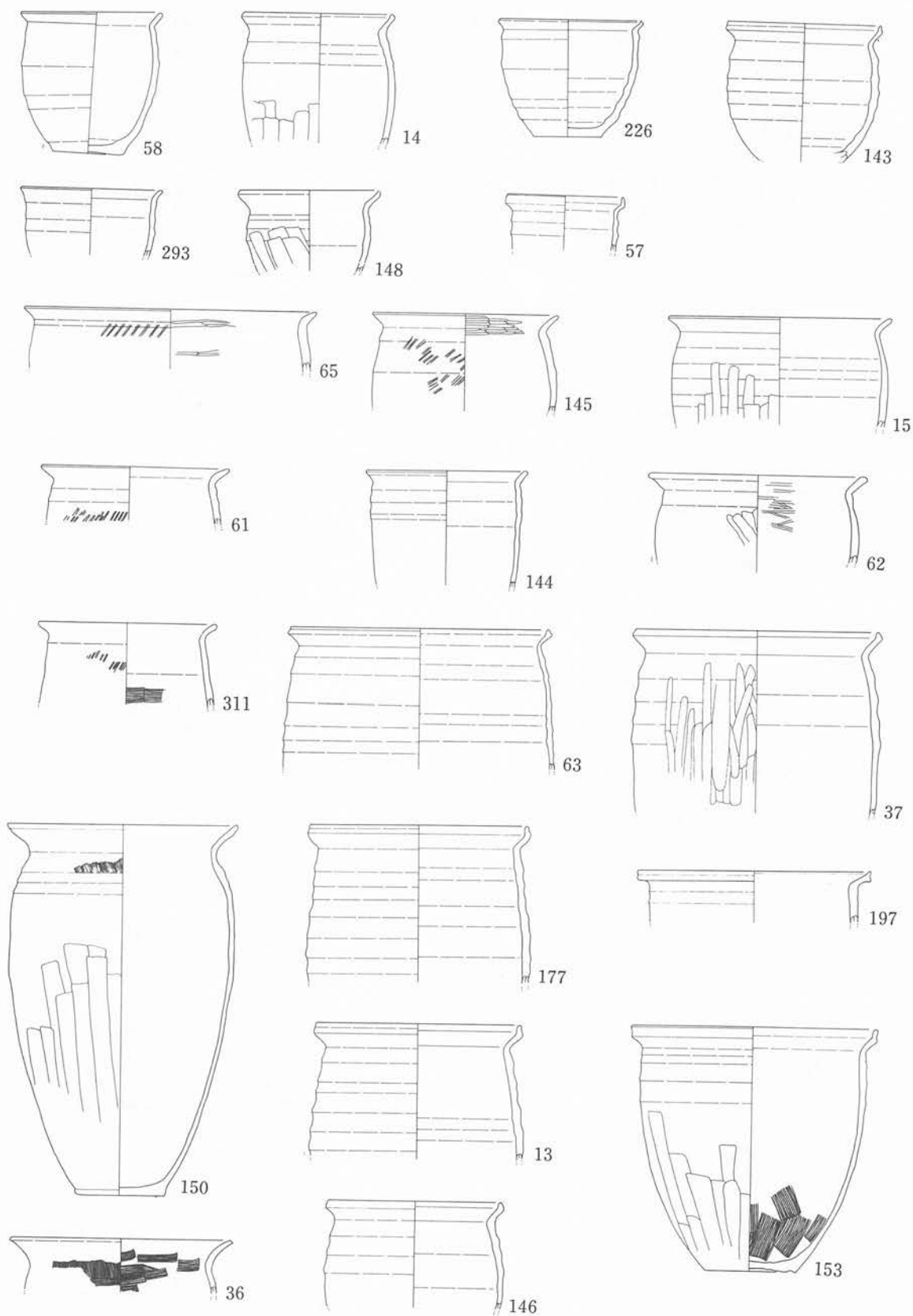
G類…埴としていますが鉢あるいは盤に分類される可能性もある。ロクロ成形で酸化炎焼成である。5点とも図上復元のため計測値にはやや信頼性を欠くが口径30.0cm±のものと同口径40.0cm±に二分される。口径30cm±をG I類、口径40cm±をG II類とした。これらはさらに口縁部の形状により以下のように細分した。

G I a…口径30cm±で口縁部下に括れを持ち短い口縁部が外傾する一群。内面には括れに対応する稜が明瞭に認められる。163・162

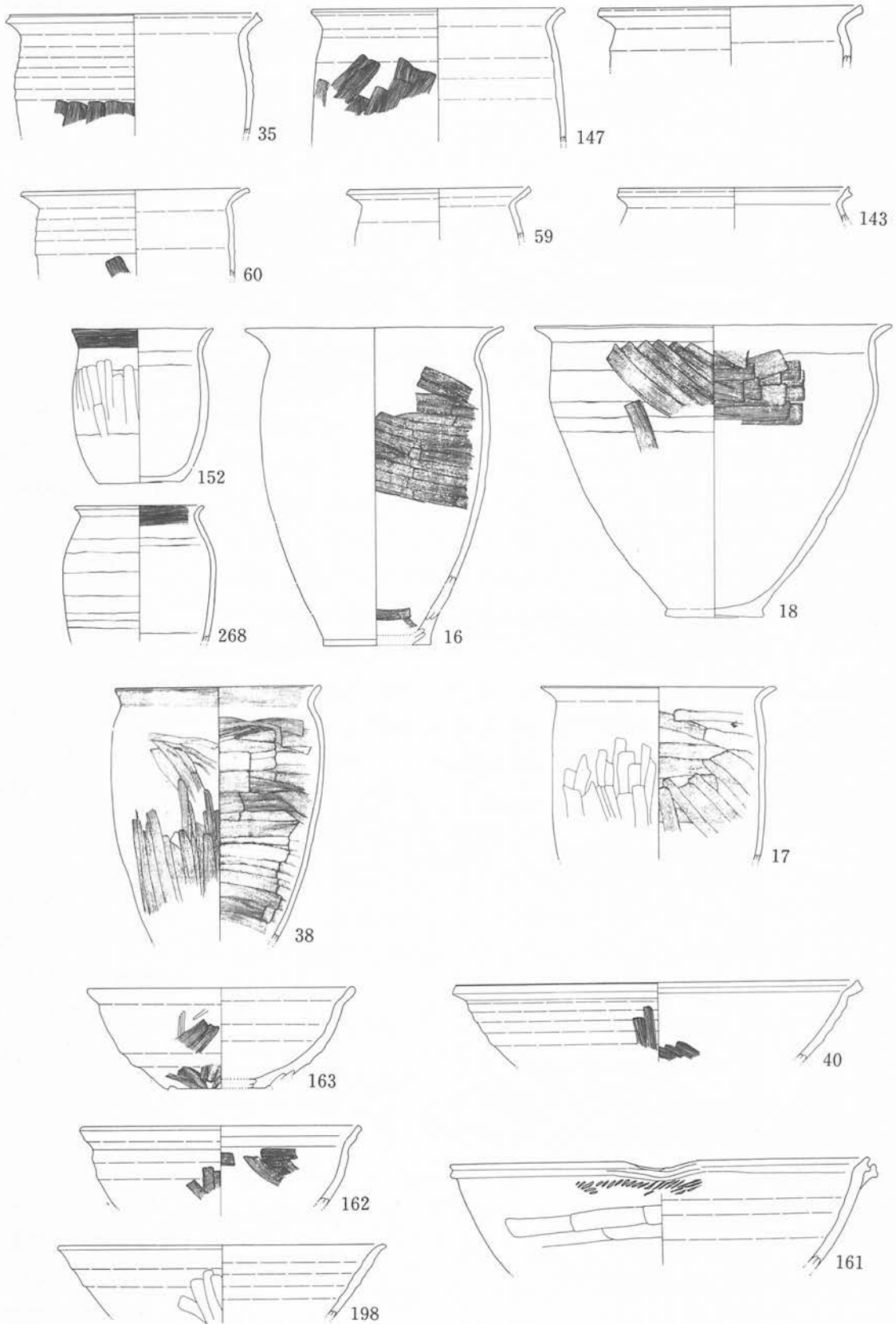
G I b…口径30cm±で口縁部下には括れが形成されず口縁部はそのまま直線的に外傾する一群。内面には稜は形成されていない。198



第74図 土器分類図(1)



第75図 土器分類図(2)



第76図 土器分類図(3)

G II a…口径40cm±で口縁部下に括れを持ち短い口縁部が外傾する一群。内面には括れに対応する稜が形成されている。40・161

- ・埴G類は厚手で胎土に小礫を多量に含み、雑であるが焼成は比較的良好である。
- ・すべてロクロ成形である。
- ・大きくは2種類の器形分化が見られる。
- ・調整技法としては内面ヘラナデ、外面ヘラナデ・ヘラケズリ調整が施される。一部にタタキの残る例も見られる。

各遺構における土器群の構成

ここでは比較的多数個体を出土している遺構についてその構成等について触れる。

〈RA01 竪穴住居跡〉

坏類ではA・B・Cの各類が出土している。坏C類の還元炎焼成の坏については混入の可能性も考えられる。A類の坏では底部は回転糸切り無調整のものであり、B類よりも個体数では卓越している。三者の構成比率はA類58%・B類25%・C類17%である。甕類ではロクロ成形の小形甕、中・大形甕、非ロクロ使用の大形甕で構成されている。ロクロ成形の甕では外面体部の上半から下半にかけてヘラケズリ調整が見られる。これに対し非ロクロ成形の甕は内外面にナデ調整を施す場合が多く、口縁部は強く屈曲し口唇部は丸みをもっている。このような構成に回転糸切り無調整でロクロ成形の小形の壺が加わる。

〈RA03 竪穴住居跡〉

坏類ではA類2個体(18.2%)、B類8個体(72.7%)、C類1個体(9.1%)で構成されている。底部の観察では全て回転糸切り無調整である。B類の坏では口径が15cm±比較的大振りのもが見られる。甕ではヘラナデ調整のある中・大形のロクロ成形、非ロクロ成形のもが見られ両者とも小形のもの欠落している。これに還元炎焼成の長頸壺を模したと思われる外面ヘラミガキ・黒色処理の壺、ロクロ成形の大形の埴が加わって構成されている。

〈RA05 竪穴住居跡〉

坏類ではA類2個体(14.3%)、B類12個体(85.7%)、C類0個体(0%)で構成されている。底部の観察では全て回転糸切り無調整である。甕類では酸化炎焼成でロクロ成形の小形甕、ロクロ成形の中・大形甕で主に構成されており、非ロクロ成形のものは少ない。外面調整では口縁部下にロクロ整形以前の叩き目が認められる例がある。これに還元炎焼成の壺と大甕、酸化炎焼成内黒の鉢が加味される。還元炎焼成の大甕については生活時の器としての機能を失いカマドの構築材等に使用されていたものである。また、砂の付着した砂底土器の甕の底部が出土している。

〈RA06 竪穴住居跡〉

流れ込みの個体も含むが坏類ではA類26個体(35.6%)、B類43個体(58.9%)、C類4個体(5.5%)で構成されている。また、カマド右袖脇の貯蔵穴内での構成はA類8個体(33.3%)、B類16個体(66.7%)、C類0個体(0%)であり、流れ込みと思われるC類を除いた場合のA(37.7%)・B(62.3%)類の構成比率は非常に近似した値を示している。底部では回転糸切り無調整がほとんどであるが少数再調整が認められるものも存在する。また、体部下半から底部外端にかけてヘラケズリ調整をするものが坏A類に比較的多く認められる。甕類ではロクロ成形の小形甕、ロクロ成形の中・大形甕、非ロクロ成形の小形甕、内面ヘラミガキ黒色処理の鉢、ロクロ成形の小形・大形の埴、還元炎焼成の長頸壺で構成されている。甕類では底部

までの状況を知り得る資料が少なく全体の形状については不明な点が多い、しかし甕の体部下半の破片観察では外面に幅の広い工具により粗いヘラナデあるいはヘラケズリ調整されるものが多いようである。本遺構からは砂の付着の見られる砂底土器が大形の甕・鉢に認められた。

〈RB03掘立柱建物跡〉

全体を知り得るものはなかったが回転糸切り無調整、酸化炎焼成非内黒の坏B類が主体的に出土している。口縁部・底部破片との総計ではA類1個体(1.9%)、B類51個体(98.1%)と圧倒的にB類が占めており全て底部は回転糸切り無調整のものである。ここで見られる坏B類は底部下端に特徴があり、下端が緩やかに内側に入り込むものが多く見られる。

〈RE02竪穴状遺構〉

坏類ではA類3個体(25.0%)、B類9個体(75.0%)、C類0個体(0%)である。底部に再調整の見られるのはA類のみである。また、B類では比較的口径の大きいものが出土している。甕ではロクロ成形の中～大形の甕、ロクロ成形の埴が加味される。底部に砂の付着の見られる砂底土器も出土している。

〈RE03竪穴状遺構〉

坏類ではA類2個体(22.2%)、B類7個体(77.7%)、C類0個体(0%)である。底部に再調整の見られるのはA類に1点見られる。B類は総て回転糸切り無調整である。B類は大振りのものが多く内湾するタイプも存在する。これらに還元炎焼成の小形の壺がくわわる。

〈RE06竪穴状遺構〉

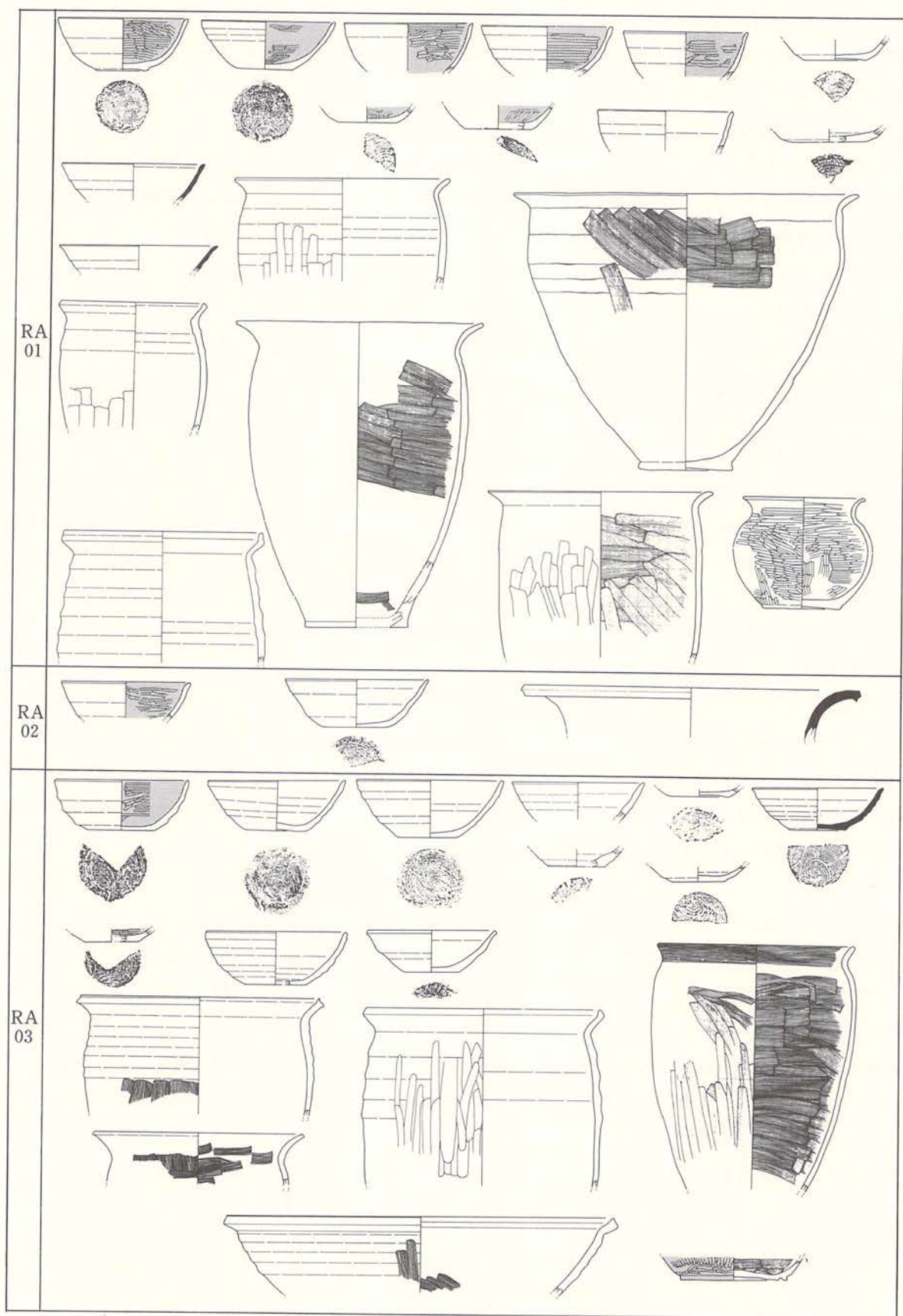
坏類ではA類5個体(83.3%)、B類1個体(16.7%)、C類0個体(0%)である。底部に再調整の見られるものはA類に1点存在する。

〈RG10溝跡〉

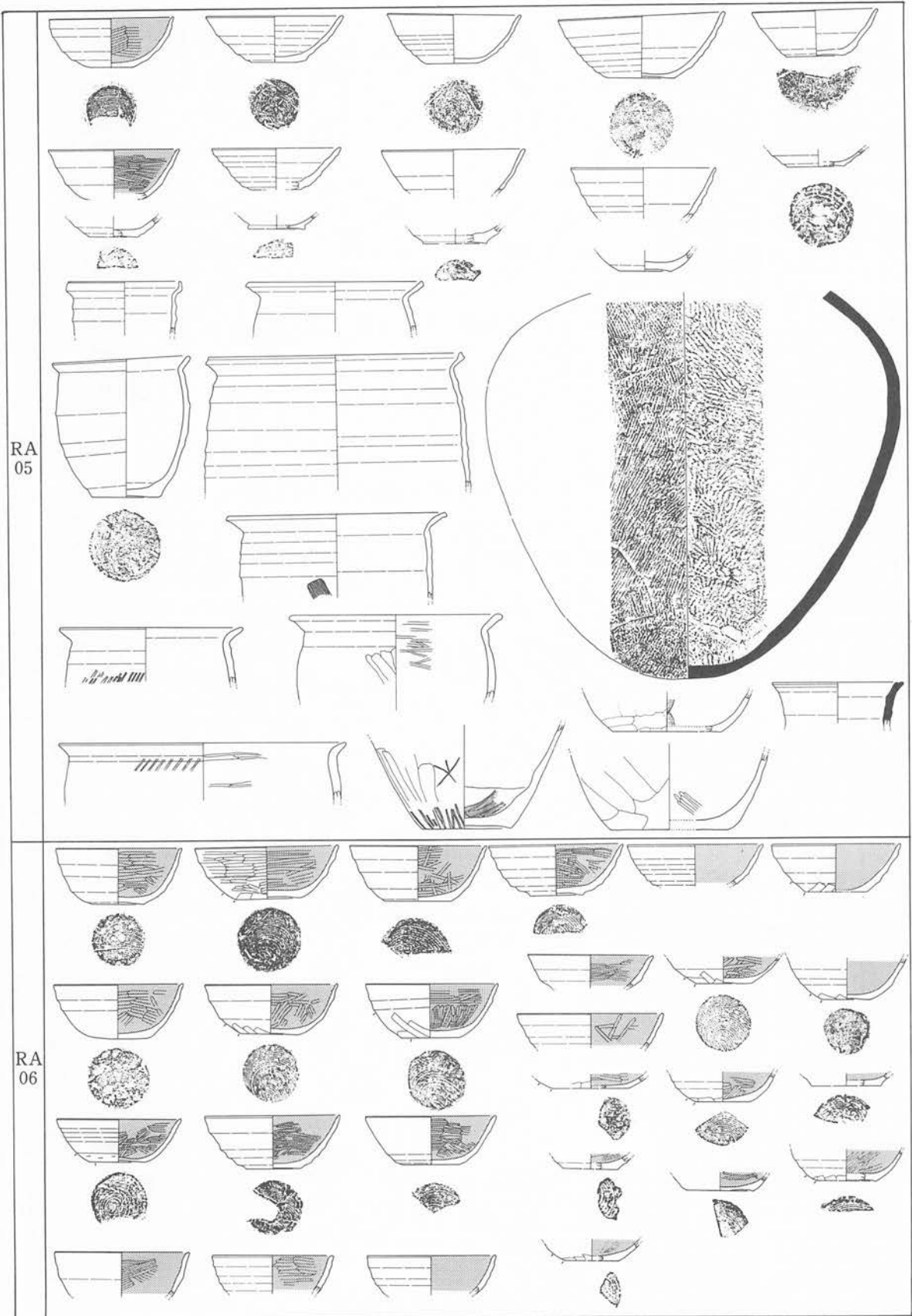
埋土中に灰白色火山灰が認められる溝である。土器は火山灰の上部より出土している。図化できたものは坏B類の6点である。これに破片を加えるとA類6個体(17.1%)、B類29個体(82.9%)という構成である。坏A・B類とも底部は総て回転糸切り無調整である。坏B類にはRG27溝出土の小振り焼成・胎土良好の酸化炎焼成非内黒のものが含まれる。

〈RG27溝跡〉

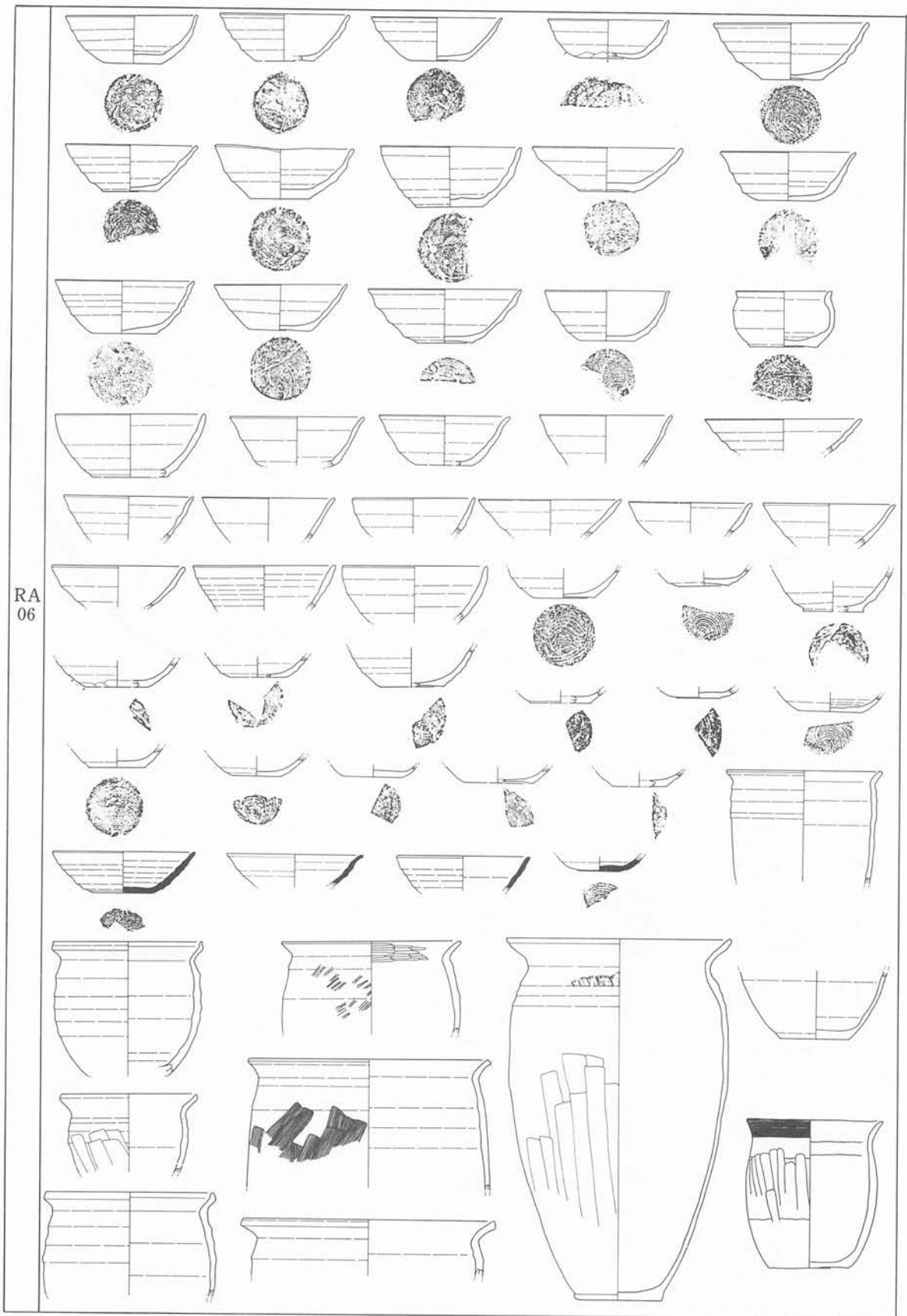
埋土中に灰白色火山灰が認められる溝である。土器は火山灰上部より主に出土している。これらについては流れ込みも考えられるが土器相互に比較的類似性が認められ、一括廃棄ないしは近い時間軸のなかに共存した可能性の高い土器群である。図化したものでは坏A類4個体(15.4%)、B類22個体(84.6%)これに破片資料を加えたものではA類43個体(21.5%)、B類157個体(78.5%)という構成である。A類で底部が観察できたものの多くは回転糸切り無調整であるが、他には見られない5個体の静止糸切り無調整のものを含んでいる。B類も多くは回転糸切り無調整であるが261のように静止糸切り無調整のものが1点存在する。これらに酸化炎焼成非内黒のハの字高台の坏が伴うものと思われる。図化した甕は非ロクロ成形のもの1点であるがこれは破片資料でも甕の破片はそれほど多くはなく、甕類が少ないこと自体がこの遺構ひいてはこの時期の特徴の一つとも考えられる。B類は焼成方法、薄い器壁、金雲母の含有、良質の胎土、法量(低い器高)、ロクロの凹凸が明瞭である共通性が見られる。



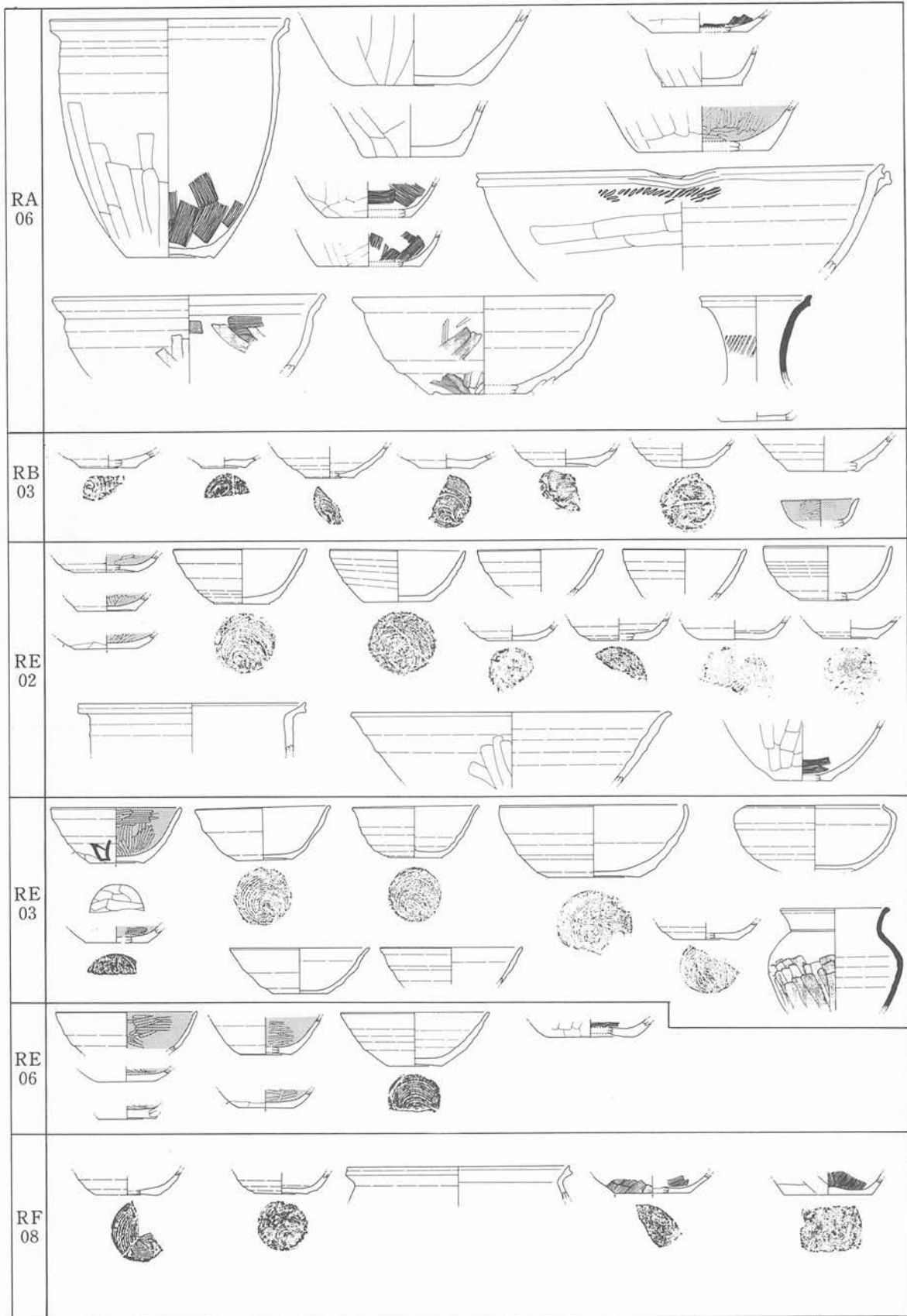
第77図 遺構別土器集成図(1)



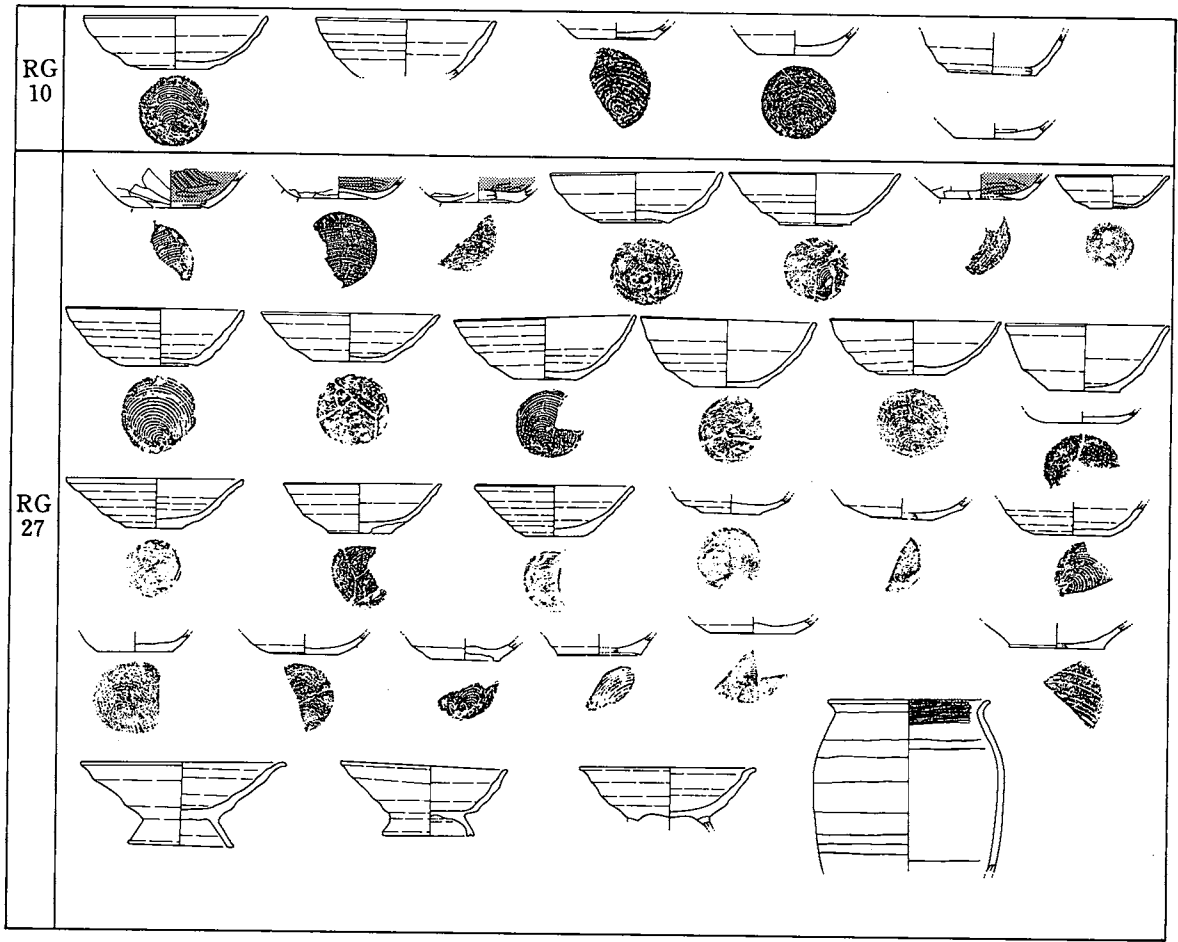
第78図 遺構別土器集成図(2)



第79図 遺構別土器集成図(3)



第80図 遺構別土器集成図(4)



第81図 遺構別土器集成図(5)

表 遺構毎の土器構成

| | 坏A類 | | | 坏B類 | | | 坏C類 | | | 高台付坏D類 | | | | 甕E類 | | 甕F類 | | 甕EF類砂底 | 埴G類 |
|------|-----|----|-----|-----|----|-----|-----|----|-----|--------|---|---|---|-----|----|-----|----|--------|-----|
| | I | II | III | I | II | III | I | II | III | a | b | c | d | I | II | I | II | | |
| RA01 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| RA03 | ○ | | | ○ | | | | ○ | | | | | | | ○ | | ○ | | ○ |
| RA05 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| RA06 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| RB03 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| RE02 | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ |
| RE03 | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| RE06 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | |
| RE08 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | ○ | |
| RG03 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| RG10 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| RG27 | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| RG28 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |

遺跡内における土器群の構成

今回の調査で上記のような土器群の構成がみられた。これらの土器群の年代観を明らかにしていくには絶対年代に迫る共伴遺物が必要であるが、本遺跡ではそのような遺物はなく、先学の研究成果や周辺地域での調査結果を参考にしておよその実年代に触れてみたい。

第Ⅰ期 RA01・03・04・05 竪穴住居跡、RE02・03・06 竪穴状遺構出土遺物

・坏類では主体をなすものは酸化炎焼成非内黒坏で、ついで再調整の見られる坏を含む酸化炎焼成内黒が少量加わり、還元炎焼成坏C類が僅少であるが認められる。底部の多くは回転糸切り無調整であるが坏A類に再調整が見られる。三者の構成比率や大振りの坏B類の存在などから八木氏が示したⅢa期（八木：1989）、H期（八木：1992）にほぼ相当し、10世紀前半の年代観が充たされ、酸化炎焼成非内黒が急増し還元炎焼成の坏類が激減する時期とされている。

・絶対量は少ないが甕類でもやはり還元炎焼成のものはほとんど含まれず、酸化炎焼成のものが主体である。口縁部の形状や小形甕にロクロ成形のものが多いこと、ヘラナデ・ヘラケズリが主要な調整技法であること、タタキ調整が一部に残存することなどの特徴が10世紀前半段階とされていること、「く」の字状口縁部や口唇部を上方にひきだす甕類は9世紀後半から10世紀前半に認められること等々などから甕類については9世紀後半から10世紀前半代のなかに収まると考えられる。

・第Ⅰ期としたものは現段階では9世紀後半から10世紀前半代より9世紀後半代～10世紀初頭におさまるものと思われる。

第Ⅱ期 RB03 掘立柱建物跡、RG10・RG27 溝跡出土遺物

・坏類では酸化炎焼成非内黒、底部回転糸切り無調整のものが主体でこれに少量の酸化炎焼成内黒のものが加わる。坏B類の酸化炎焼成非内黒の坏は第Ⅰ期に含まれる同種のものに比べ胎土・色調・焼成・法量で相異が見られ小型化の傾向が看取される。現に小形の皿に分類可能な土器も出土しており器形分化・法量変化の分岐点の時期と考えられる。八木氏の編年では10世紀中～後半段階のされているⅢc・Ⅲd期（八木：1989）、I期（八木：1992）の土器群に類似した構成・特徴を示している。

・「ハ」の字高台の酸化炎焼成非内黒の高台付坏が伴う。やはりこの種の高台付坏Ⅲd期に認められること。

・甕類が極端にすくないこと、これは10世紀中葉～後半段階とされている。

・全体を知り得るものはなかったが、酸化炎焼成内黒の坏A類の共伴がすくないこと、坏A類のなかに底部

が静止糸切りのものが複数例認められる。静止糸切りは類例そのものが少なく浄法寺町飛鳥台地Ⅰ遺跡で複数例出土しており10世紀前半代とされている。特にこの報告書では系譜について大きな問題が残るとしている。

・RG27溝跡ではこれらの平安時代の土器が埋土中に見られる灰白色火山灰とそれほどのレベル差をもたない上位から出土しており、この火山灰が10世紀前半代の十和田a火山灰であるならば、ほぼこの時期周辺と想定される。

・上記の事実から第Ⅱ期とした一群は10世紀前半代から半ばの時期を想定しておきたい。

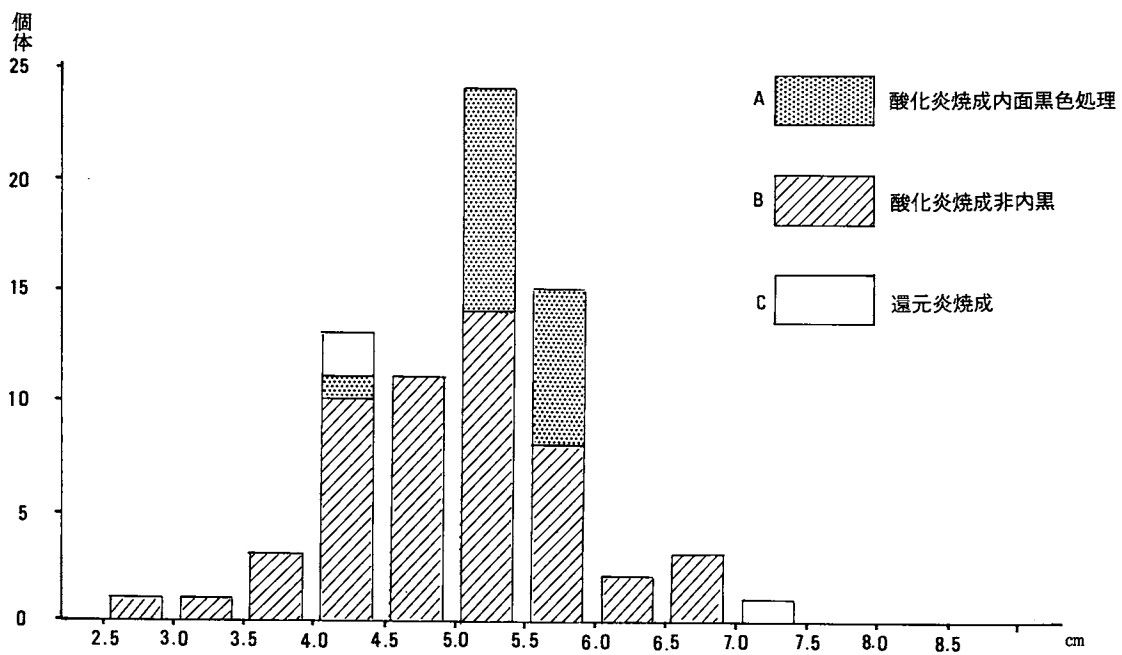
坏類計測表（全体）

| | 器高 | | | | 口径 | | | | 底径 | | | | 口径/底径 | | | | 口径/器高 | | | | 外傾角度 | | | |
|---------|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|------|------|------|------|
| | 全体 | A類 | B類 | C類 | 全体 | A類 | B類 | C類 | 全体 | A類 | B類 | C類 | 全体 | A類 | B類 | C類 | 全体 | A類 | B類 | C類 | 全体 | A類 | B類 | C類 |
| 対象個体 | 115 | 18 | 54 | 2 | 113 | 31 | 74 | 8 | 182 | 48 | 127 | 7 | 73 | 18 | 53 | 2 | 74 | 18 | 54 | 2 | 76 | 18 | 56 | 2 |
| 最小値(cm) | 2.7 | 4.5 | 2.7 | 4.3 | 9.2 | 12.6 | 9.2 | 13.0 | 3.8 | 4.5 | 3.8 | 4.4 | 1.4 | 2.0 | 1.4 | 2.3 | 1.7 | 2.3 | 1.7 | 3.2 | 36.0 | 46.0 | 36.0 | 45.5 |
| 平均 | 5.1 | 5.4 | 5.1 | 4.4 | 14.1 | 13.7 | 14.3 | 14.6 | 6.0 | 6.1 | 6.0 | 6.2 | 2.4 | 2.3 | 2.4 | 3.3 | 2.8 | 2.6 | 2.9 | 3.3 | 52.8 | 54.0 | 52.3 | 48.3 |
| 最大値(cm) | 7.5 | 5.8 | 7.5 | 4.4 | 20.4 | 15.2 | 20.3 | 16.6 | 9.8 | 8.0 | 9.8 | 8.0 | 3.2 | 2.9 | 3.2 | 3.5 | 4.2 | 2.8 | 4.2 | 3.5 | 82.0 | 59.0 | 82.0 | 51.0 |

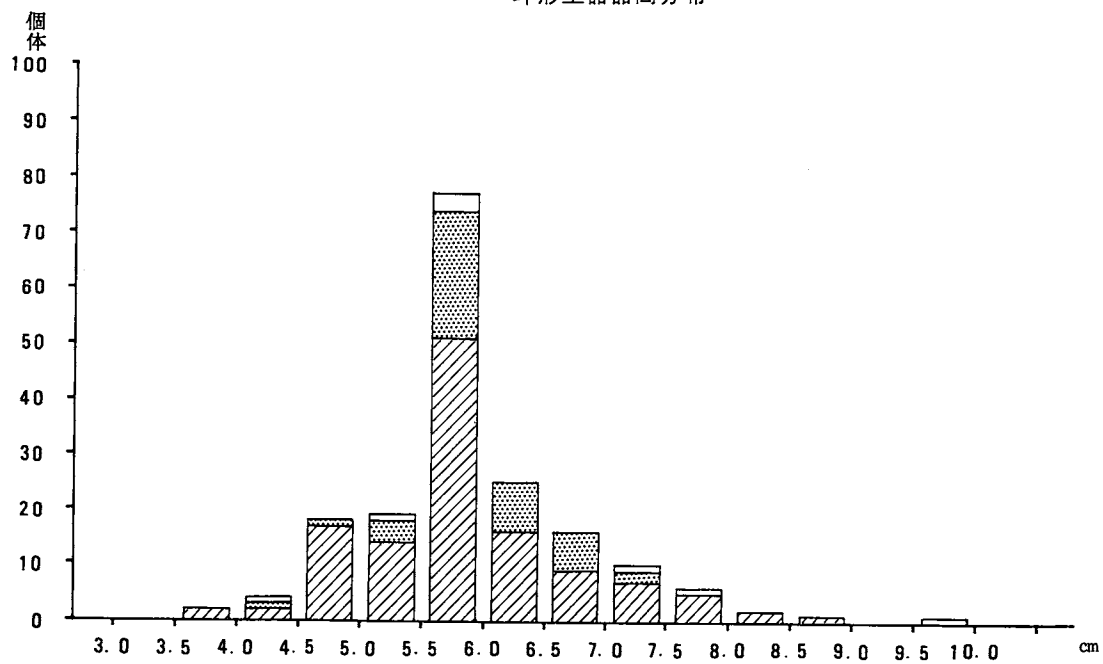
坏類計測表（遺構別）

| | 器高 | | | | 口径 | | | | 底径 | | | | 口径/底径 | | | | 口径/器高 | | | |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|
| | RA03 | RA05 | RA06 | RE03 | RA03 | RA05 | RA06 | RE03 | RA03 | RA05 | RA06 | RE03 | RA03 | RA05 | RA06 | RE03 | RA03 | RA05 | RA06 | RE03 |
| 対象個体 | 4 | 5 | 17 | 5 | 16 | 7 | 28 | 6 | 19 | 10 | 26 | 5 | 16 | 5 | 17 | 4 | 16 | 5 | 17 | 5 |
| 最小値(cm) | 4.4 | 4.3 | 4.0 | 4.8 | 9.2 | 13.2 | 10.0 | 13.1 | 3.8 | 4.8 | 4.6 | 5.5 | 2.3 | 2.2 | 1.4 | 2.0 | 2.5 | 2.5 | 1.7 | 2.1 |
| 平均 | 5.4 | 5.4 | 5.3 | 6.0 | 13.2 | 14.5 | 14.1 | 15.1 | 6.4 | 5.7 | 6.2 | 6.6 | 3.2 | 2.6 | 2.3 | 2.4 | 3.7 | 2.8 | 2.7 | 2.5 |
| 最大値(cm) | 6.1 | 7.0 | 6.6 | 7.5 | 14.8 | 17.4 | 20.3 | 19.5 | 21.0 | 6.9 | 8.0 | 9.8 | 12.0 | 2.9 | 2.9 | 2.6 | 12.0 | 3.1 | 3.4 | 3.0 |

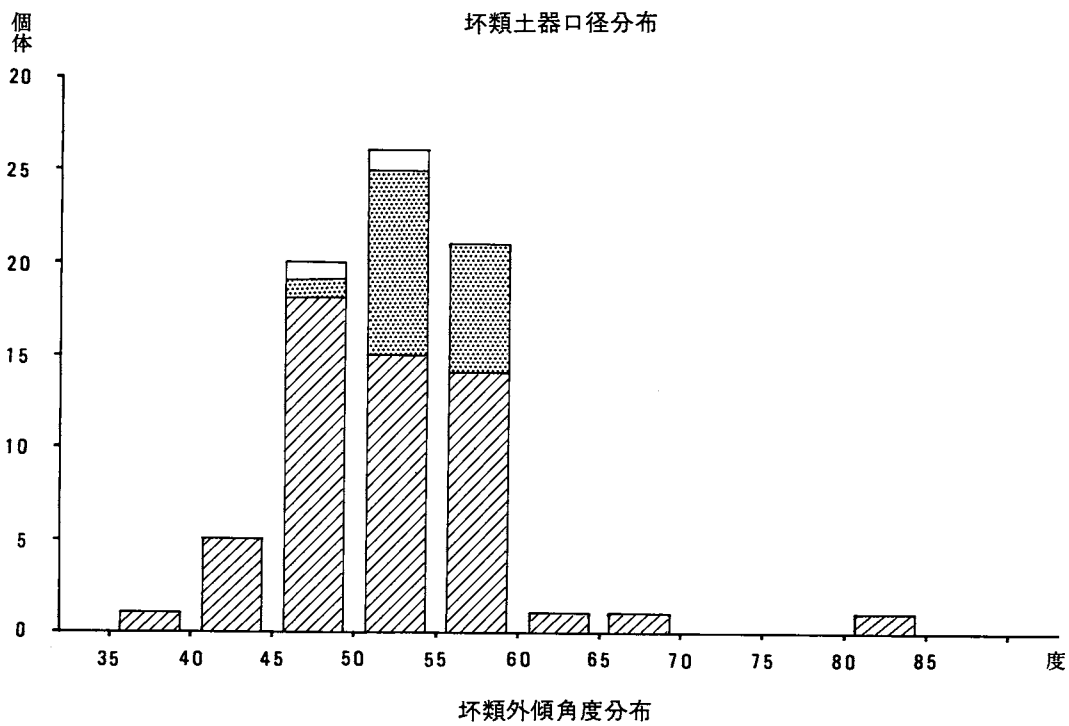
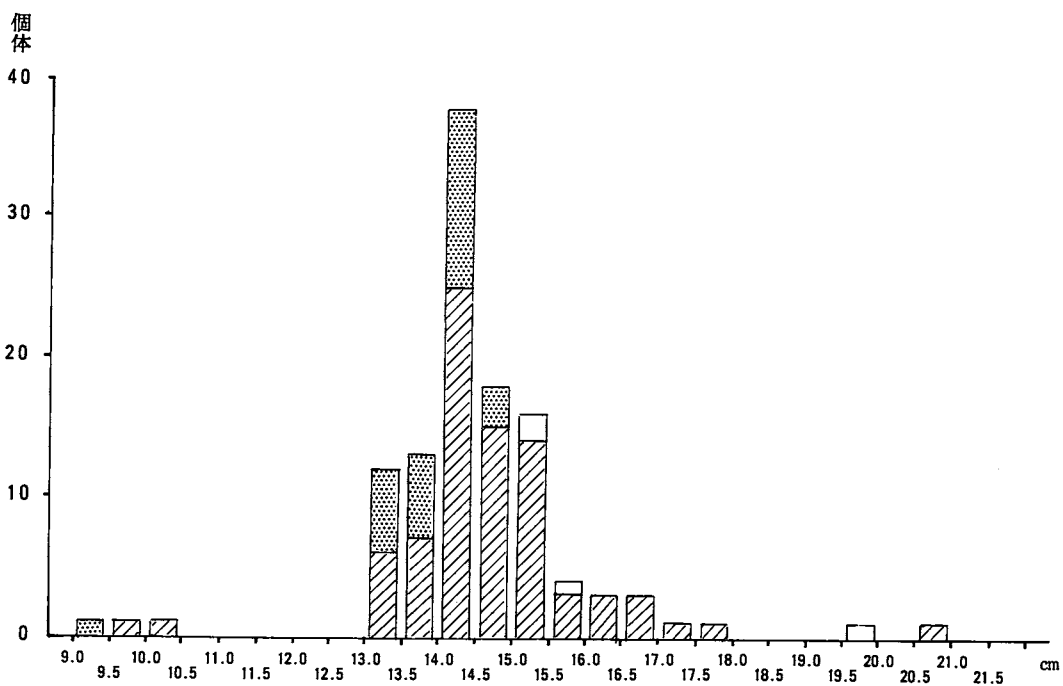
| | 器高 | | | 口径 | | | 底径 | | | 口径/底径 | | | 口径/器高 | | |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|
| | RG10 | RG27 | CA59 | RG10 | RG27 | CA59 | RG10 | RG27 | CA59 | RG10 | RG27 | CA59 | RG10 | RG27 | CA59 |
| 対象個体 | 1 | 12 | 9 | 2 | 12 | 11 | 5 | 21 | 9 | 1 | 12 | 9 | 1 | 12 | 9 |
| 最小値(cm) | 4.3 | 2.7 | 2.9 | 14.6 | 9.2 | 12.0 | 5.6 | 3.8 | 4.4 | 2.6 | 2.3 | 2.4 | 3.4 | 2.5 | 3.3 |
| 平均 | 4.3 | 4.4 | 3.5 | 14.7 | 13.5 | 13.1 | 6.2 | 5.6 | 4.8 | 2.6 | 2.6 | 2.7 | 3.4 | 3.1 | 3.7 |
| 最大値(cm) | 4.3 | 5.5 | 4.4 | 14.8 | 14.8 | 16.0 | 7.2 | 7.6 | 5.4 | 2.6 | 3.2 | 3.0 | 3.4 | 3.8 | 4.1 |



环形土器器高分布



环类土器底径分布



(2)砂底土器について

土器の外表面底部に何らかの事情により砂が付着した所謂砂底の土器が本遺跡でも出土している。この種の遺物については櫻田氏（櫻田：1993）の詳細な論考があり、岩手県内の出土例についても詳細に調べられている。本県ではおもに県北部地域を中心にその出土例が確認されており、県央・県南地域では少ないとされていた。その後の資料の増加では本遺跡をはじめ、滝沢村仏沢遺跡・盛岡市志波城跡・北上周辺の遺跡などで知られているようである（西野：1992, PP28）。櫻田によれば本県における砂底土器は奈良時代を初現として平安時代末期（11世紀中頃）まで、非ロクロ・ロクロ成形を問わず認められるという。

本遺跡ではこの種の土器について全体を知り得る資料はなかったが、RA05住居跡から1点・RA06住居跡から7点・RE02竪穴状遺構から1点・RE06竪穴状遺構から1点・RF08焼土遺構から1点が出土している。付着している器種は埴・鉢・甕に限定されており坏形土器への付着は全く認められない。埴についてはロクロ成形のものであり、鉢・甕類についてはロクロ成形・非成形については判断できなかったが、これらの土器類の体部下半には多くは幅の広い工具によるヘラケズリ調整が施されたものである。砂の付着も櫻田の研究では各種のパターンが知られているが、本遺跡の資料はすべて底部外端部であり詳細については不明であるが、本遺跡の土器を見る限り砂は胎土に沈着しており、粘土がまだ軟らかい段階に付着したことは推察される。次に年代観であるがこの種の遺物を出土している遺構の土器群はほぼ9世紀後半段階のなかにおさまると考えられるものであり、本遺跡出土の砂底土器もほぼこの年代観で把握しておきたい。

(3)陶磁器類

調査区全域にわたって粗掘り段階で比較的多数の陶磁器類が出土している。特にB・C調査区からの出土が顕著である。C調査区では近世民家と思われる掘立柱建物跡が検出されており、この遺構に伴うものと思われる。主に18世紀～幕末を中心とした肥前産陶磁器類および大掘相馬産、秋田県白岩産系と推定される陶器類が出土している。肥前産陶磁器類では染付・陶胎染付・白磁などの磁器碗類を中心に皿・瓶・紅皿・猪口・水滴などの器種が出土しており特異な器種構成を示している状況ではない。

2. 遺構と遺跡について

〈平安時代の竪穴住居跡について〉

今回の調査では4棟の平安時代の住居跡が確認された。段丘縁の調査であったため集落の主体部からは若干離れた場所と考えられる。今後の調査により特にA調査区の南東側には相当数の住居跡の存在が予想される。これらRA01・03・05・06竪穴住居跡の4棟はカマドの位置・煙道・袖の構築方法などに共通性が見られるとともに、遺物の面からもかなり類似した様相を示している。特にRA05・06竪穴住居跡は遺構の埋土、出入口状の施設、カマド右袖脇への貯蔵穴の設置およびその構築方法、相互の遺物の接合関係など細部にわたって共通性がみられほぼ同時存在と考えられる。過去の調査事例や盛岡市周辺の土器編年を精力的に行っている八木氏などの研究成果から、これらの遺構はほぼ9世紀後半から10世紀初頭の時期と想定されるようである。小幅遺跡は猪去館遺跡や林崎遺跡などと時期的には近い時期に営まれた集落である。

〈近世民家について〉

全容は明らかにできなかったがC調査区から近世と思われる掘立柱建物跡が検出されている。この民家跡にともなう施設として周辺に隣接している屋外便所と考えられるRD098・099土坑、また性格は明らかにできなかったがRE11・12竪穴状遺構なども付随する施設と考えられる。時期的には周辺から出土している陶

磁器類などから18世紀後半から19世紀代の年代が想定される。

引用・参考文献

- 岩手県教育委員会 1979 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-I-』
岩手県教育委員会 1979 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-II-』
岩手県教育委員会 1979 『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書-III-』
岩手県教育委員会 1980 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-III-』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1981 『稲村・中田・古屋敷遺跡発掘調査報告書』
岩手県教育委員会 1982 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-VIII-』 「志波城跡」
岩手県埋蔵文化財センター 1982 『志波城跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1994 『白木野 I・II・III 遺跡発掘調査報告書』
小笠原好彦 1976 「東北地方における平安時代の土器についての二・三の問題」 『東北考古学の諸問題』 東北考古学会
加藤道男 1992 「宮城県における土師器研究の現状」 考古学論叢 II
桑原滋郎 1976 「須恵系土器について」 『東北考古学の諸問題』 東北考古学会
桑原滋郎・岡田茂弘 1974 「多賀城周辺における古代坏形土器の変遷」 研究紀要 I 多賀城跡調査研究所
小井川和夫 1984 「いわゆる赤焼土器について」 研究紀要10号 東北歴史資料館
桜田 隆 1993 「『砂底』土器考」 『翔古論しゅう』 久保哲三先生追悼論文集
白鳥良一 1980 「多賀城跡出土土器の変遷」 研究紀要 VII 多賀城跡調査研究所
高橋与右エ門 1994 「掘立柱建物跡からみた南部「曲が家」出現期の一試論」 紀要 X III 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
都南村教育委員会 1970 『百目木遺跡』
羽柴直人 1994 「東北地方北部における近世陶磁器の様相」 紀要 X IV 岩手県埋蔵文化財センター
本堂寿一 1980 「極楽寺伝座主坊跡緊急発掘調査報告」 研究報告第3号 北上市立博物館
村田晃一 1995 「宮城県における10世紀前後の土器」 福島考古第36号 福島考古学会
盛岡市教育委員会 1981 『志波城跡 I - 太田方八丁遺跡範囲確認調査報告 -』
盛岡市教育委員会 1989 『上平遺跡群 猪去館遺跡 - 昭和63年度発掘調査概報 -』
盛岡市教育委員会 1992 『館・松ノ木遺跡 - 古代の遺構編 -』
八木光則 1992 「古代斯波郡と爾薩体の土器様相」 第18回古代城柵官衙遺跡検討会
八木光則 1993 「陸奥中部における古代末期の土器群」 歴史時代土器研究第8号 歴史時代土器研究同人会
矢巾町教育委員会 1992 『白沢 VII 遺跡』 矢巾町文化財報告書第13集

盛岡市小幅遺跡出土材の樹種同定

高橋 利彦(木工舎「ゆい」)

1. 試料

試料は1点で、近世の民家の便所の桶の底板と考えられているものである。

2.

剃刀の刃を用いて試料の木口・柀目・板目の3面の徒手切片を作製、ガム・クロラル (Gum Chloral) で封入し、生物顕微鏡で観察・同定した。同時に顕微鏡写真図版(図版.1)も作製した。なお作製したプレパレートは木工舎「ゆい」に保管されている。

3. 結果

試料はスギに同定された。試料の主な解剖学的特徴や現生種の一般的な性質は次のようなものである。

・スギ (*Cryptomeria japonica*) スギ科

早材部から晩材部への移行はやや急で、年輪界は明瞭。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められ、樹脂道はない。放射仮道管はなく、放射柔細胞の壁は滑らか、分野壁孔はスギ型 (Taxodioid) で2~4個。放射組織は単列、1~15細胞高。

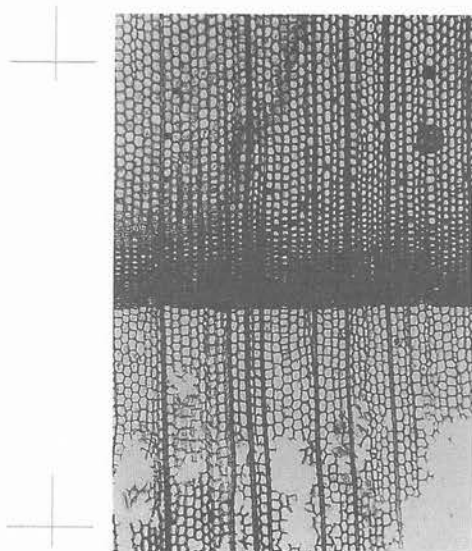
スギは本州・四国・九州に自生する常緑高木で、また各地で植栽・植林される。国内では現在ヒノキに次ぐ植林面積をもち、長寿の木としても知られる。材は軽軟で割裂性は大きく、加工は容易、保存性は中程度である。建築・土木・樽桶類・舟材など各種の用途がある。

4. 考察

出土桶の用材の検討例はそれほど多くはないが、スギやヒノキ(属)を中心とした針葉樹が主で(伊東ほか 1987、伊東 1990)、これは現在のスギ・ヒノキ・サワラといった用材とも共通している。ところで出土桶の場合には器種は推定できてもその用途(使用目的・使用場所)までは推定が難しい例がほとんどと思われるが、今回の試料はその用途まで推定できたまれな例といえよう。近年まで行われていた下肥の貯蔵・運搬にはスギ製の桶や担桶(たご)の存在が不可欠ともいえ、このことが農業生産や居住地(区)の衛生にはたした役割はきわめて大きかったとされるが(遠山 1976)、試料もスギであった。

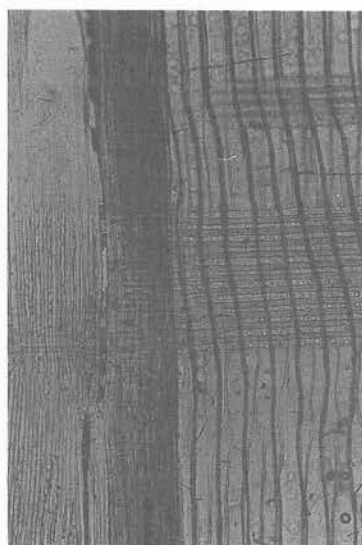
引用文献

- 伊東 隆夫・山口 和穂・林 昭三・布谷 知夫・島地 謙 1987 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途、「木材研究・資料」、第23号、42-210。
伊東 隆夫 1990 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途 II、「木材研究・資料」、第26号、91-189。
遠山 富太郎 1976 「杉のきた道 日本人の暮らしを支えて」、中公新書、215pp。



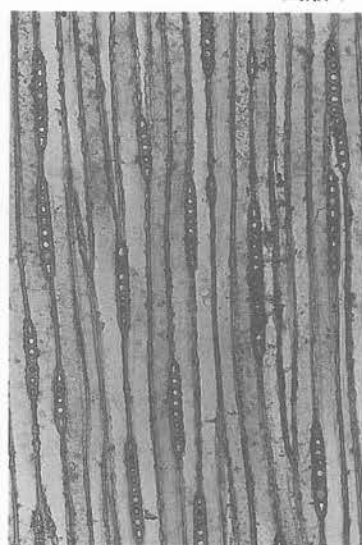
木口

×40



柁目

×100



板目

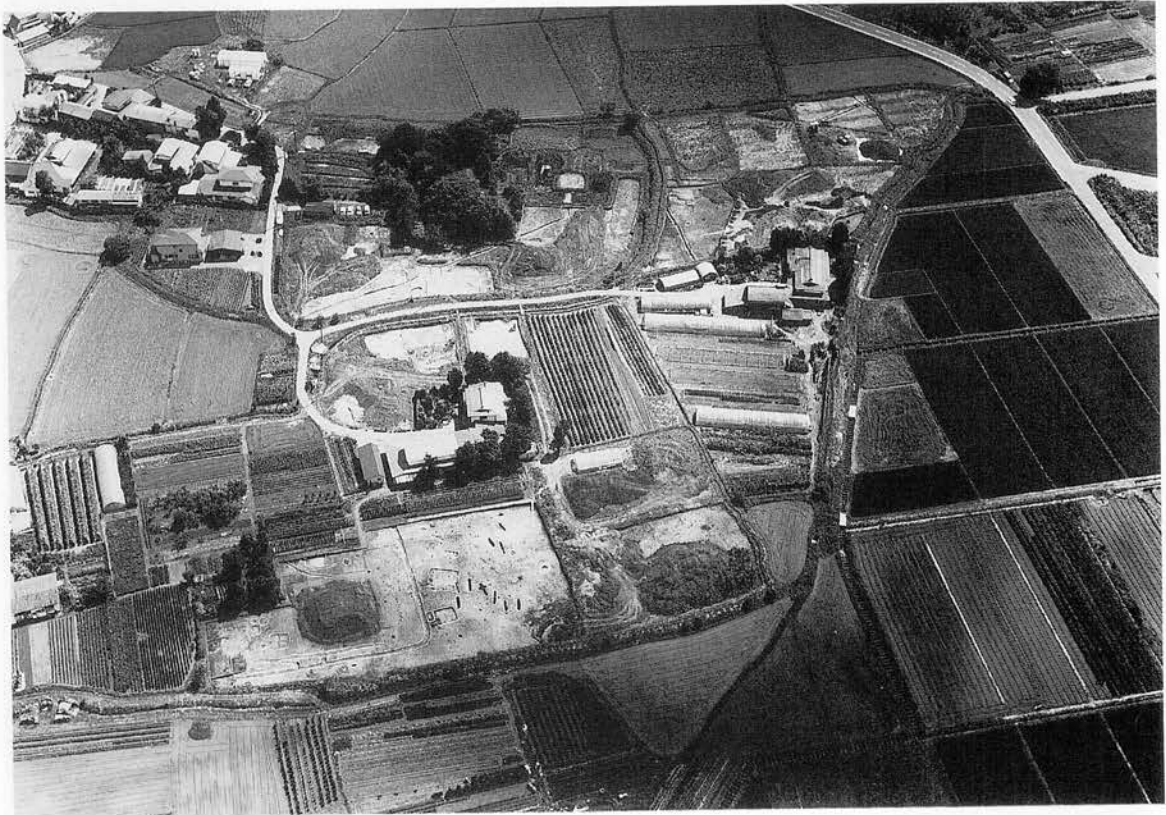
×100

スギ

写 真 图 版



空中写真（南より）



空中写真（北より）

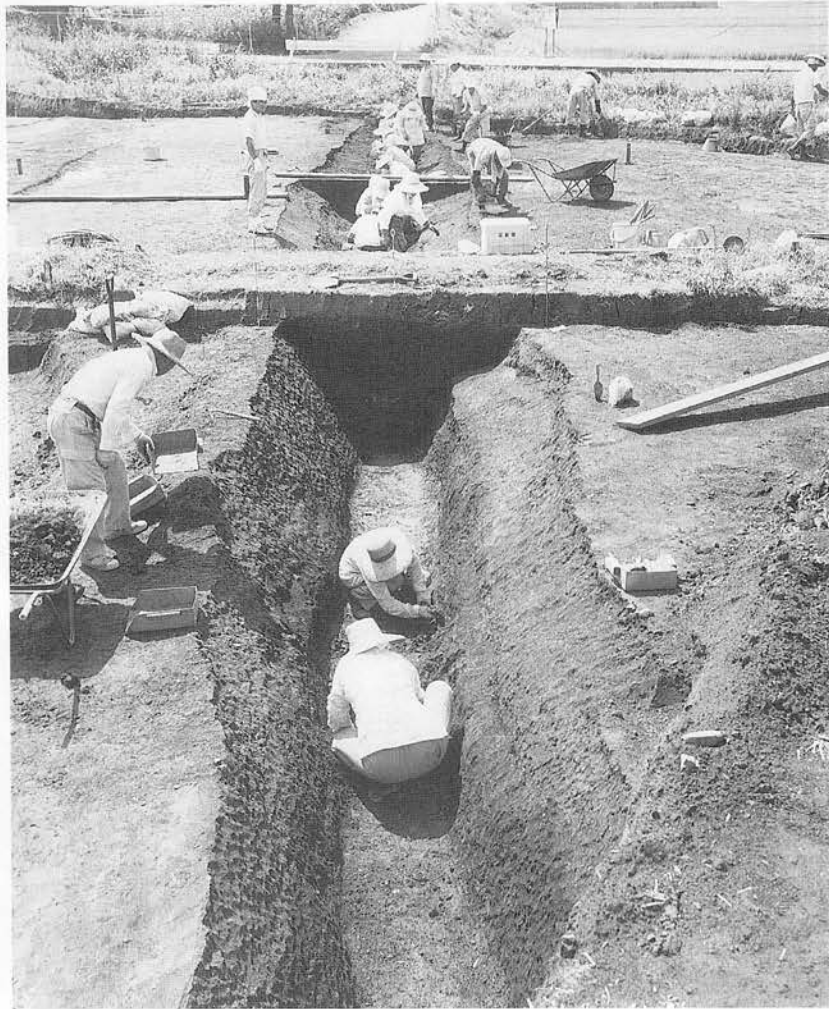
図版1 遺跡遠景



図版2 空中写真(鉛直方向)

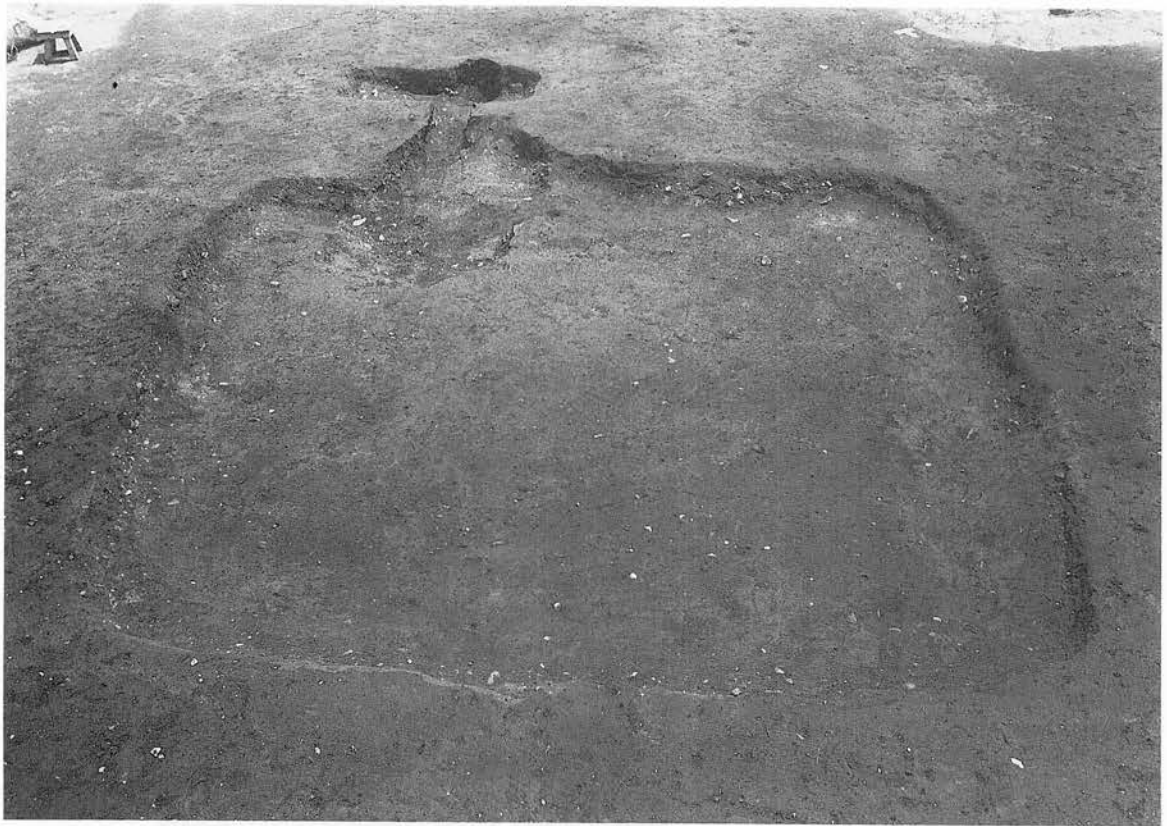


G調査区北壁基本土層

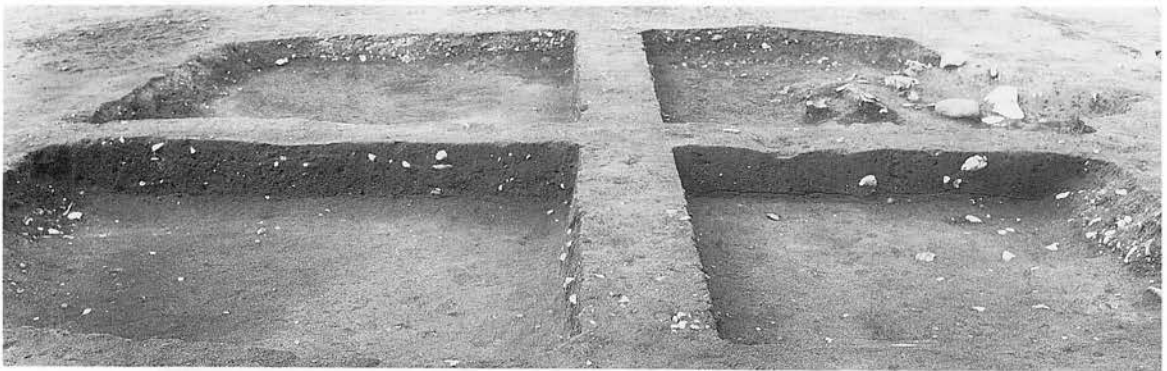


作業風景(RG27)

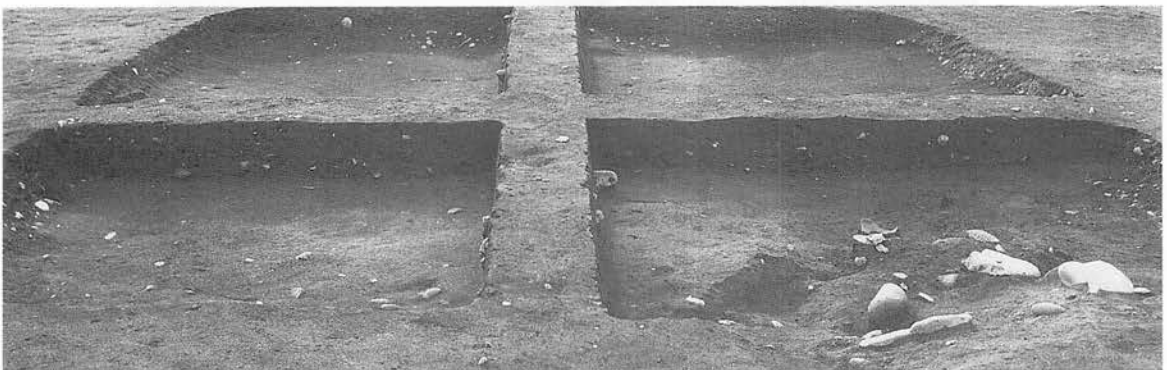
図版3 G調査区北壁基本土層・作業風景



RA01 平面

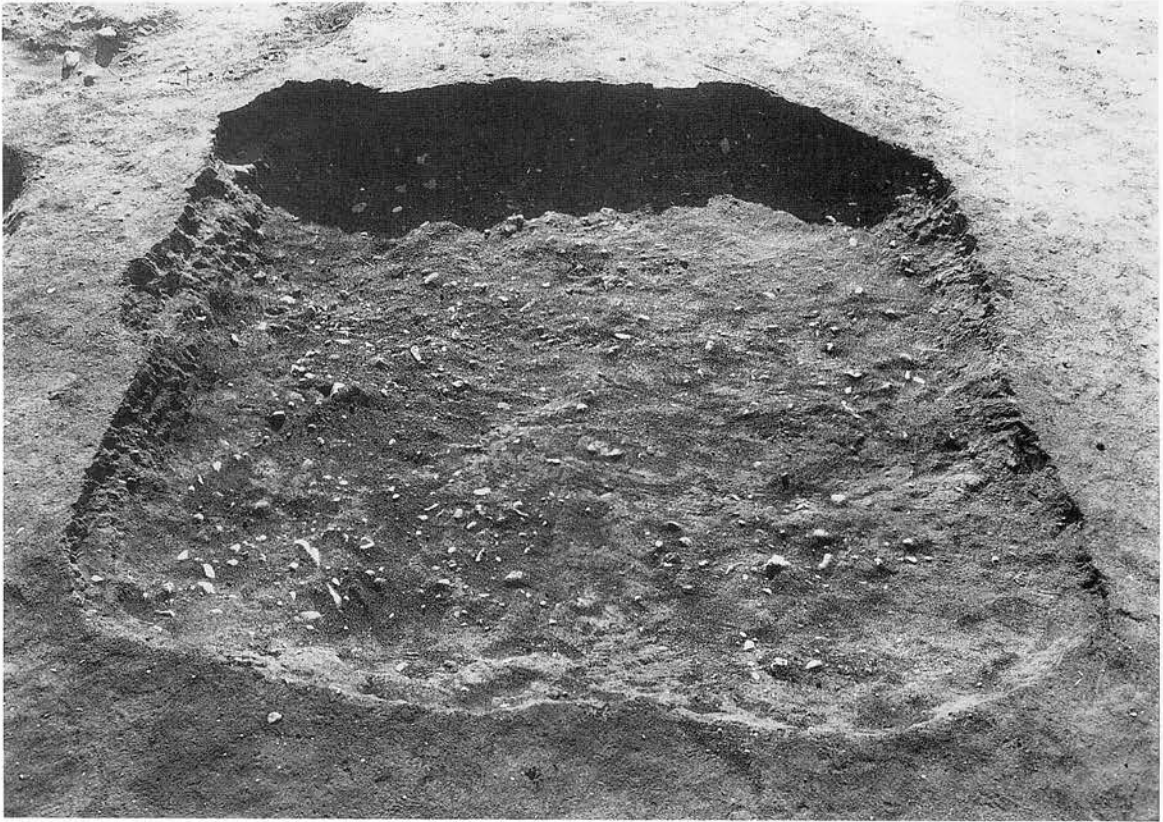


RA01 埋土断面

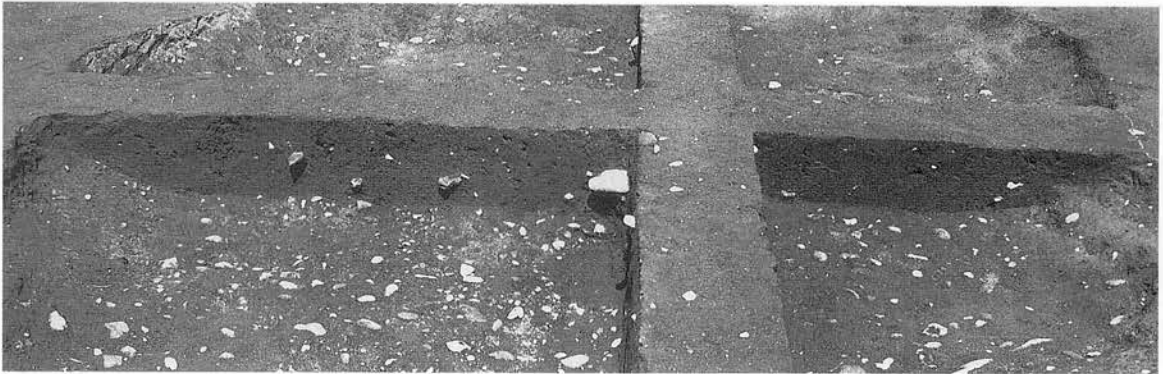


RA01 埋土断面

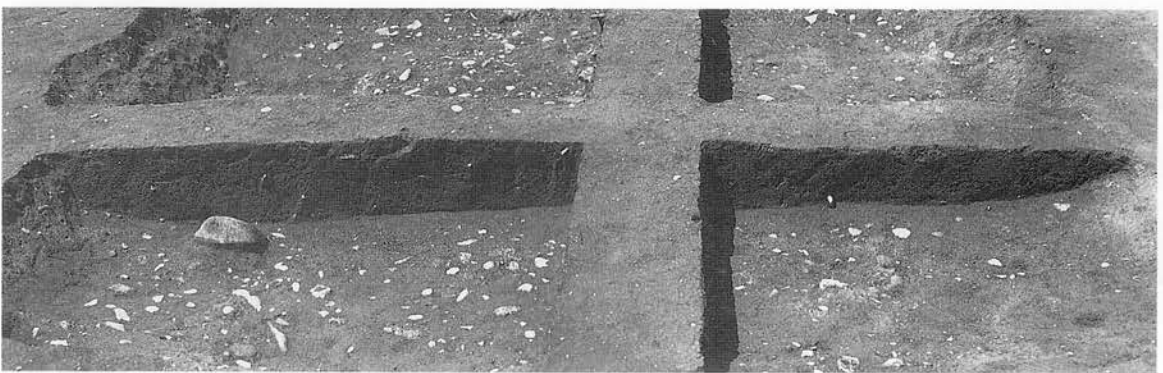
图版 4 RA01



RA02 平面

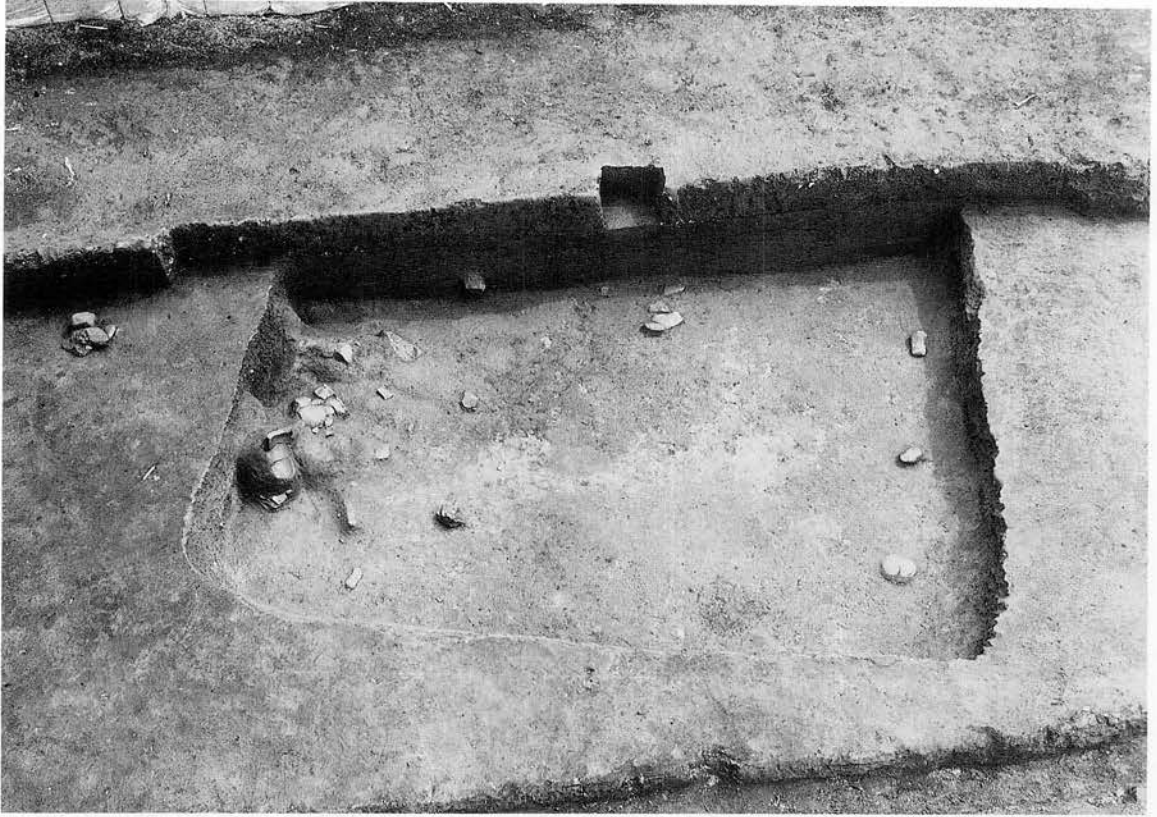


RA02 埋土断面

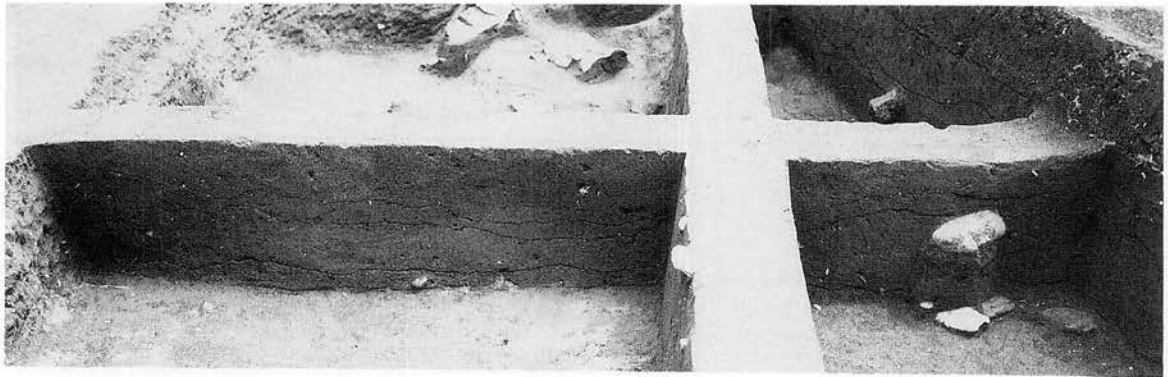


RA02 埋土断面

图版 5 RA02



RA03 平面

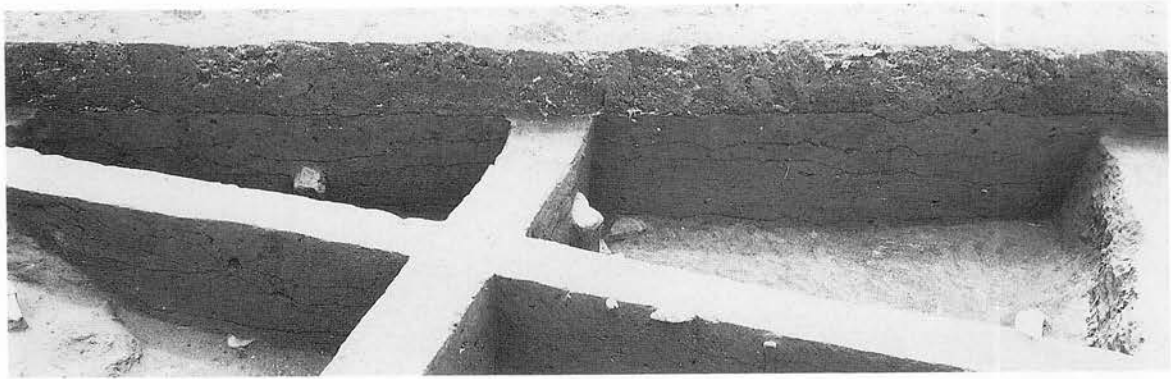


RA03 埋土断面



RA03 埋土断面

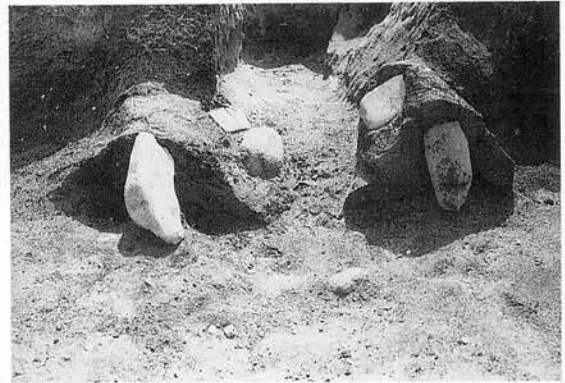
图版 6 RA03(1)



RA03 埋土断面



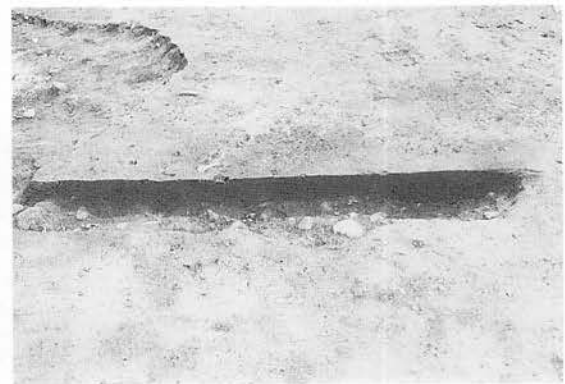
RA03 カマド燃烧部



RA03 カマド袖たちわり



RA03 鉄製品出土状況



RA04 カマド断面

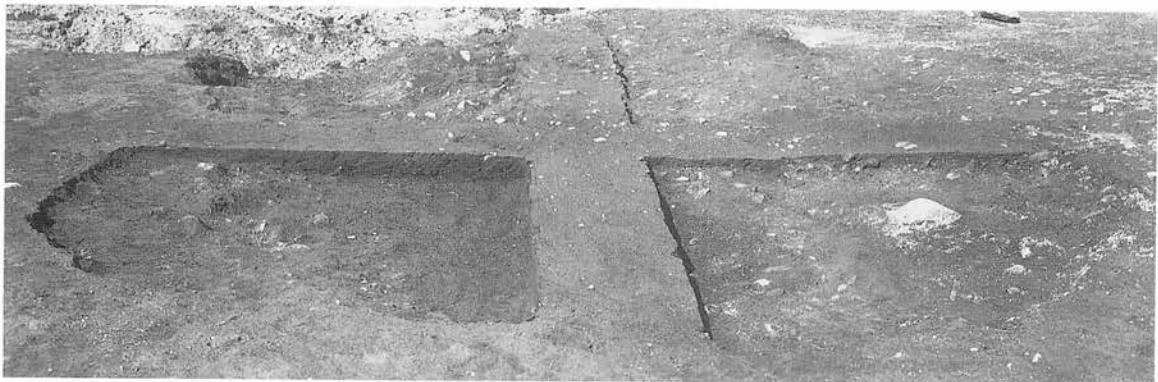
図版7 RA03(2)・RA04(1)



RA04 平面



RA04 埋土断面

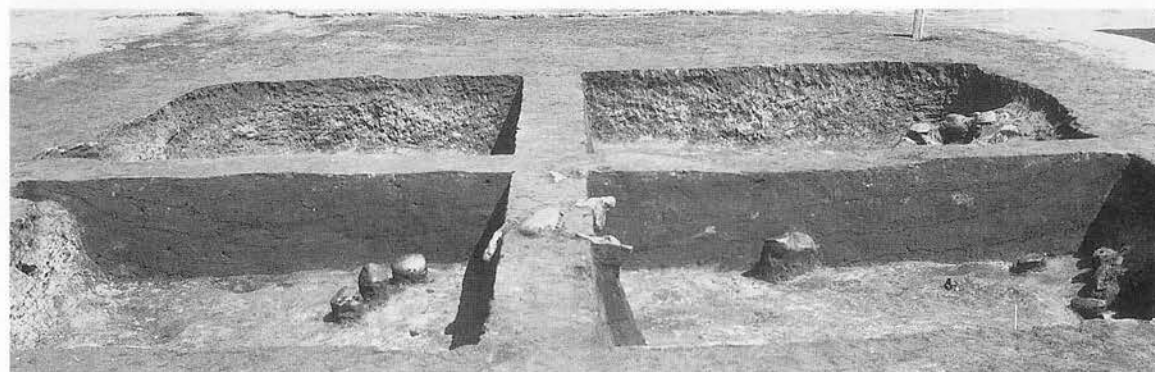


RA04 埋土断面

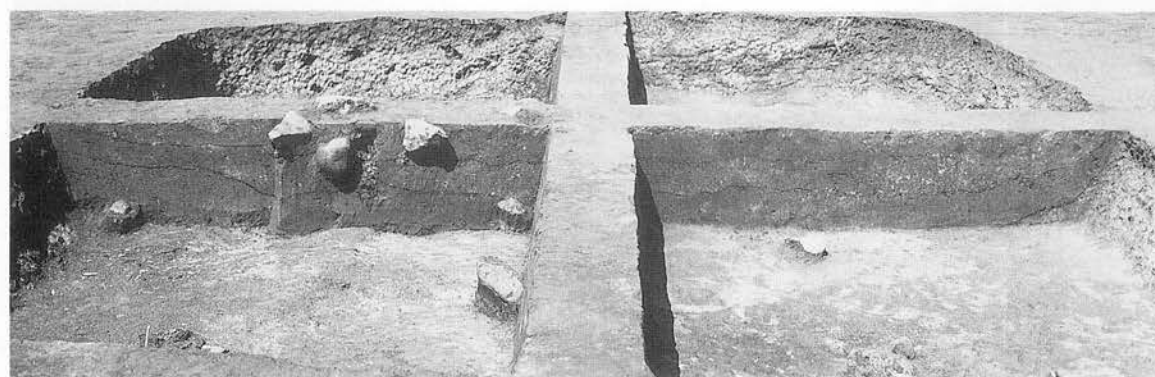
图版 8 RA04(2)



RA05 平面 (西→)



RA05 埋土断面

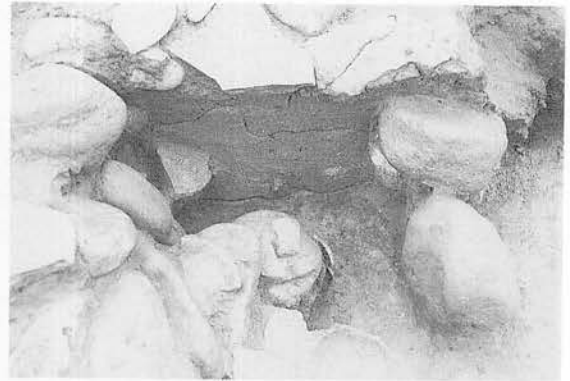


RA05 埋土断面 (東→)

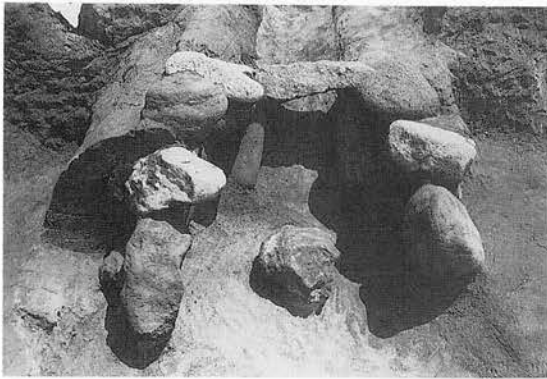
図版 9 RA05(1)



カマド右袖脇ピット



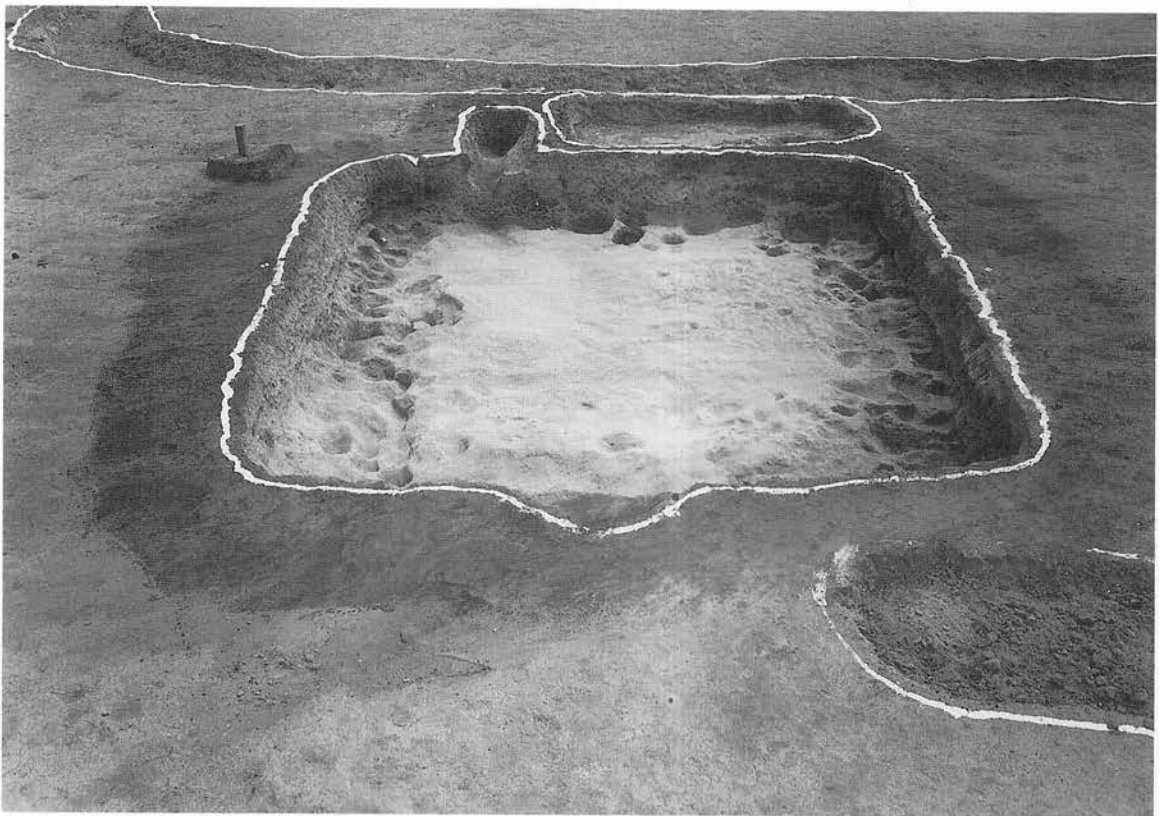
カマド掛け口・支脚



カマド袖たちわり



カマド

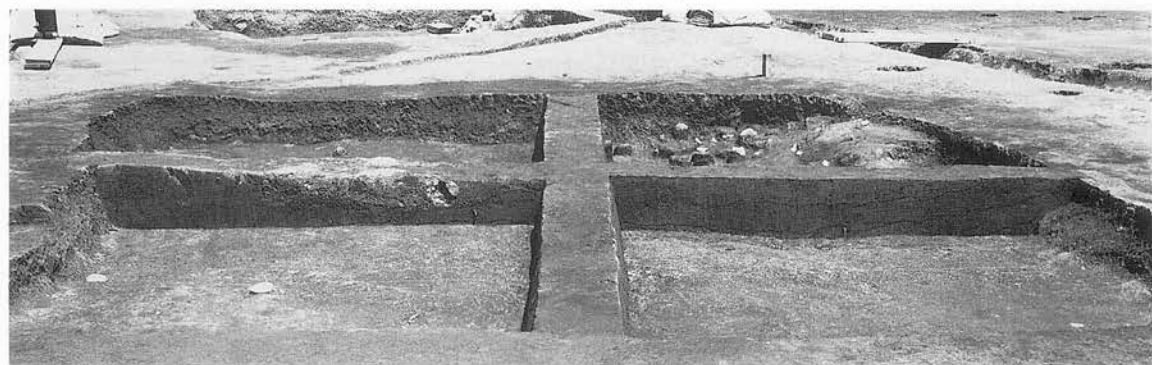


掘り方

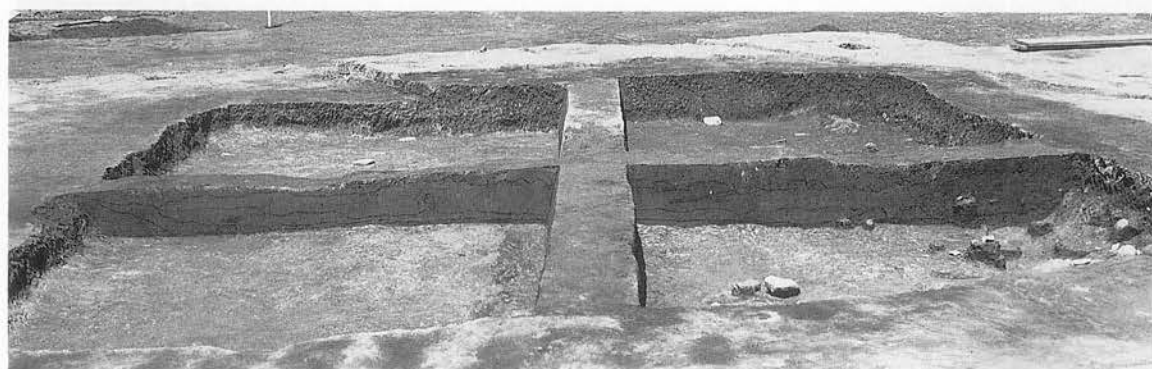
図版10 RA05(2)



RA06 平面 (西→)

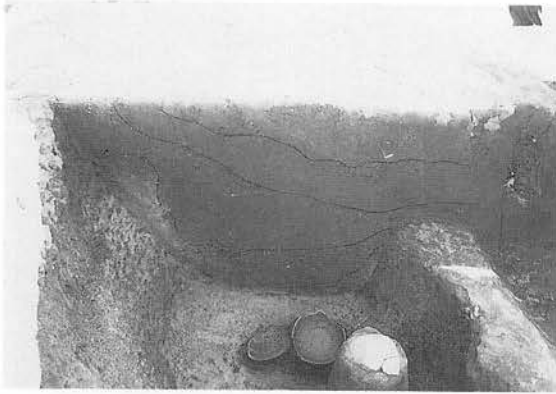


RA06 埋土断面

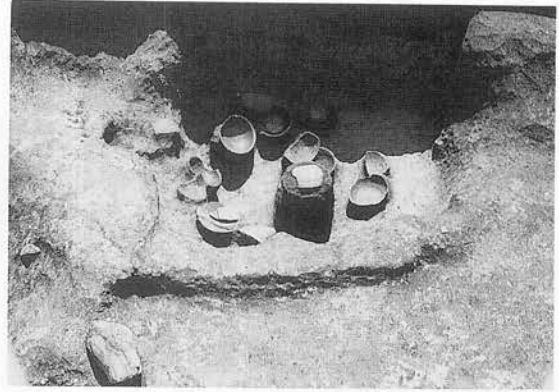


RA06 埋土断面

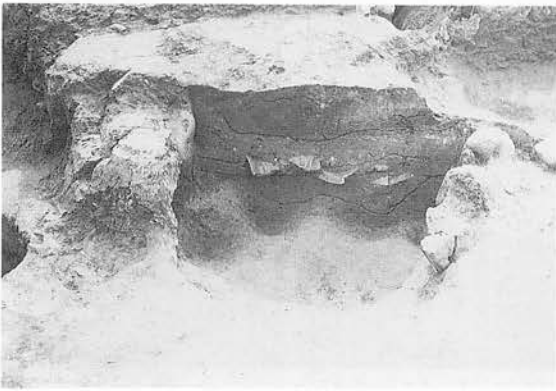
図版11 RA06(1)



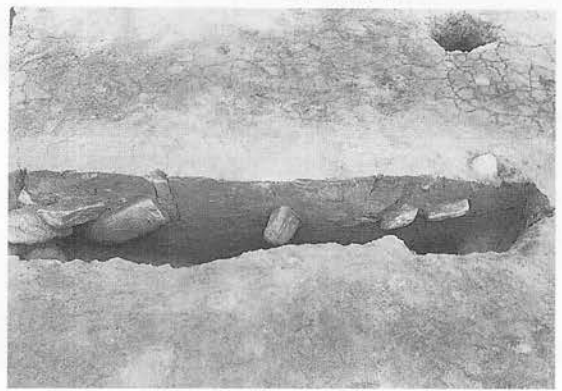
RA06 カマド右袖脇貯蔵穴断面



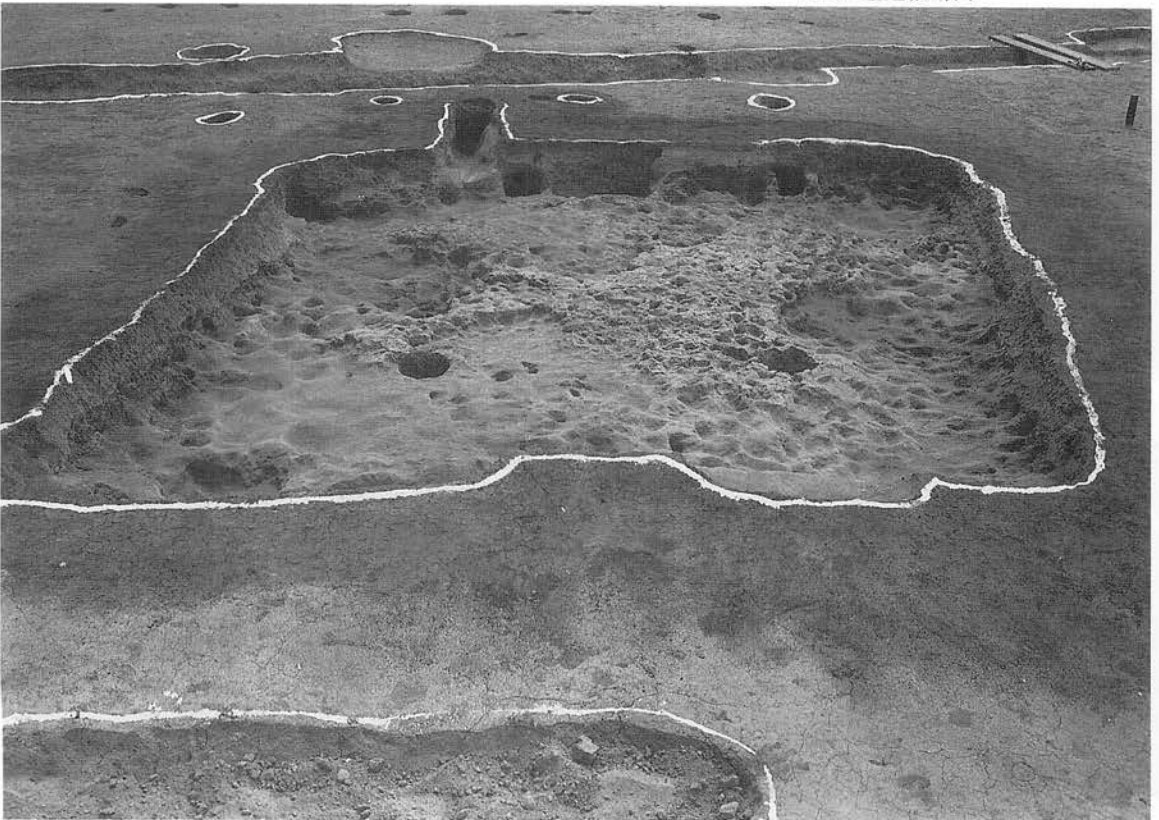
RA06 カマド右袖脇貯蔵穴



RA06 カマド燃烧部横断面

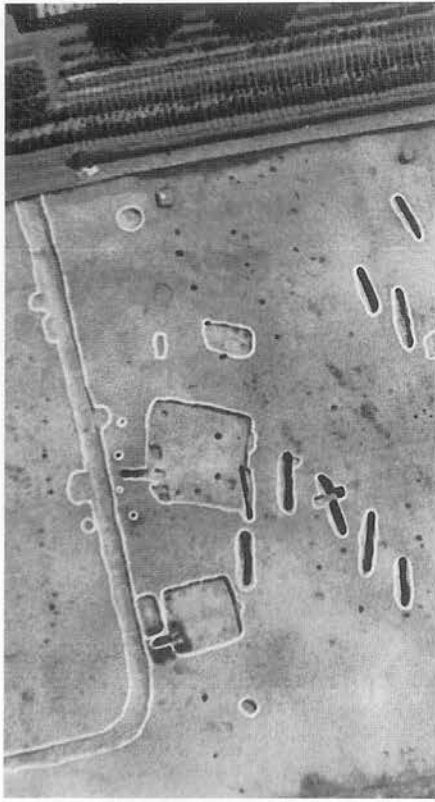


RA06 煙道縦断面



RA06 掘り方

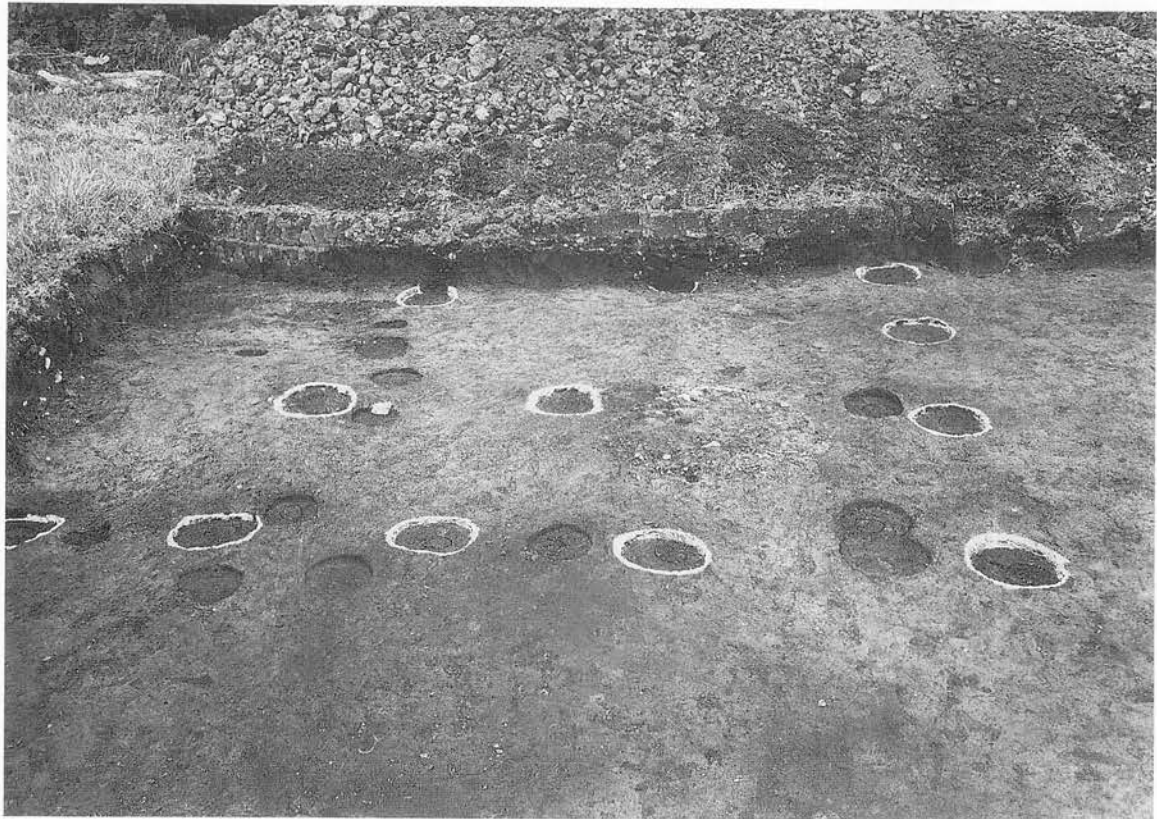
図版12 RA06(2)



RB01

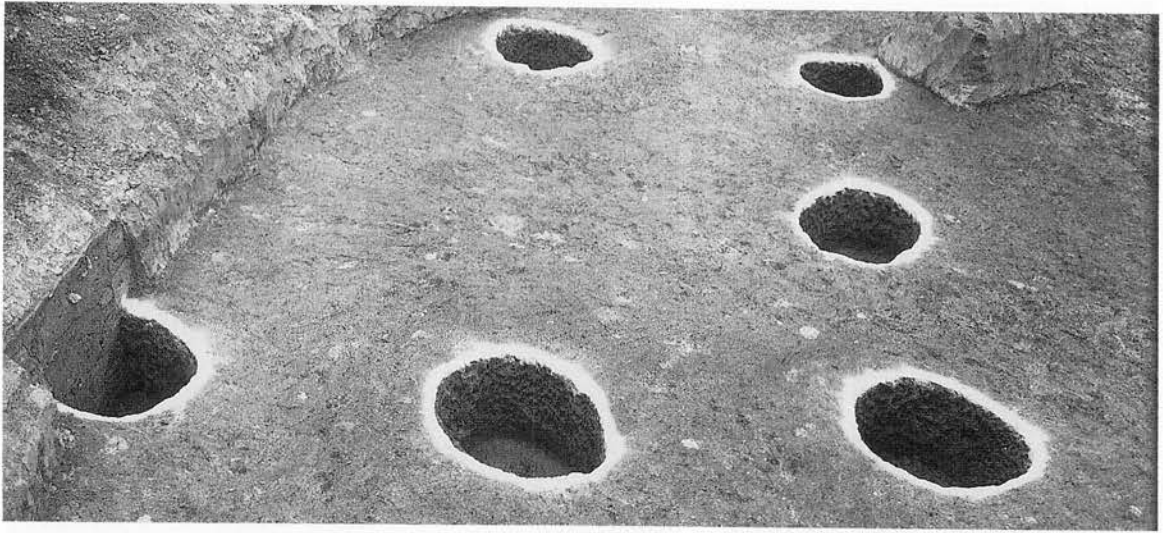


RB02 調査区拡張後

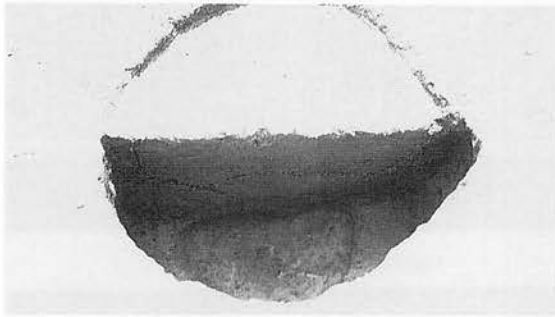


RB02 調査区拡張前

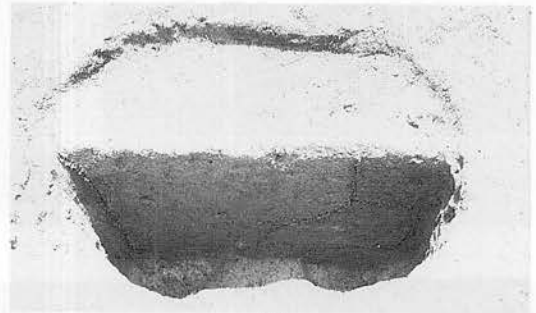
図版13 RB01・RB02



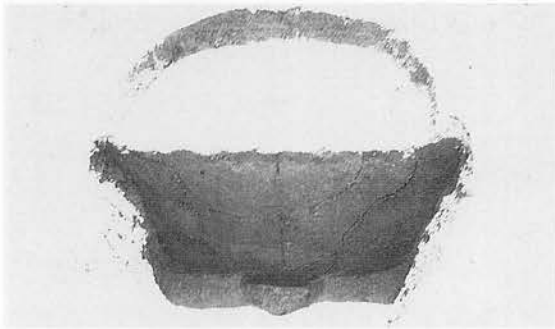
RB03



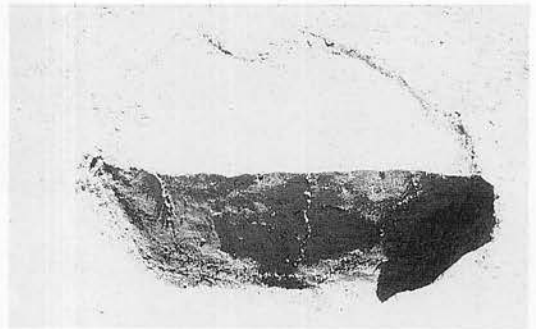
P1



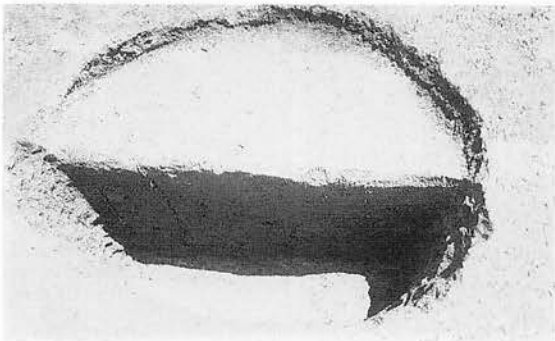
P2



P3



P4

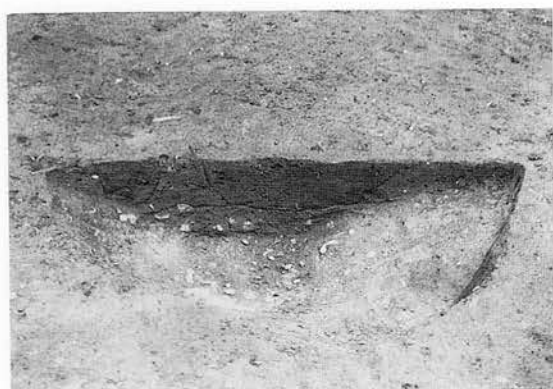


P5



P6

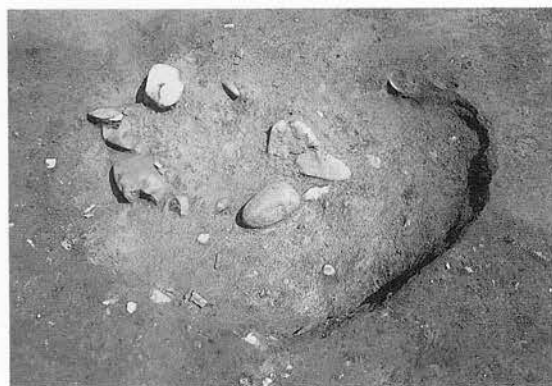
图版14 RB03



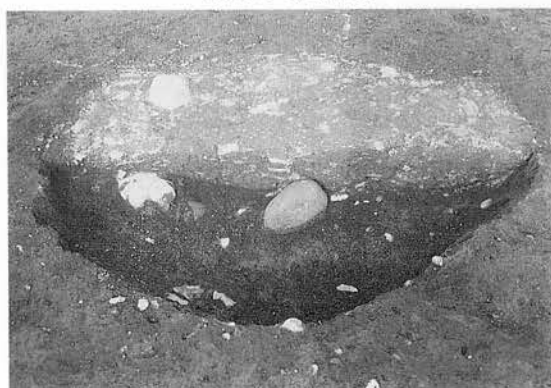
RD001 埋土断面



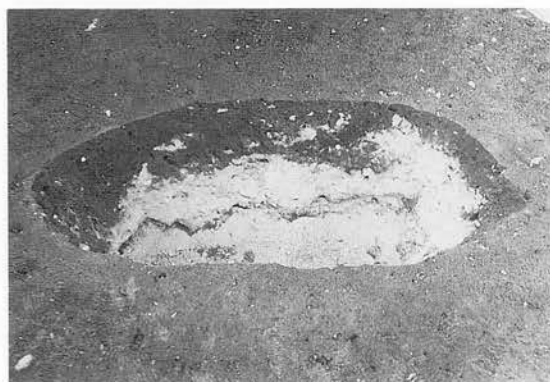
RD004 埋土断面



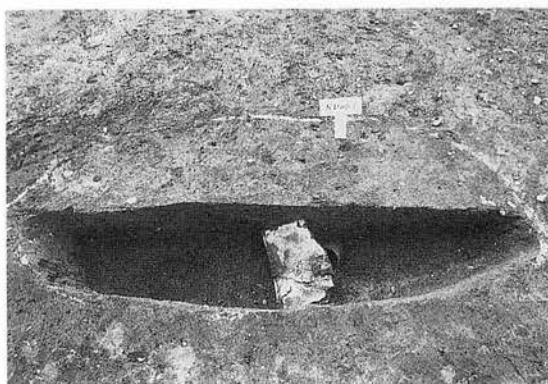
RD002平面



RD002 埋土断面



RD003 平面



RD003 埋土断面

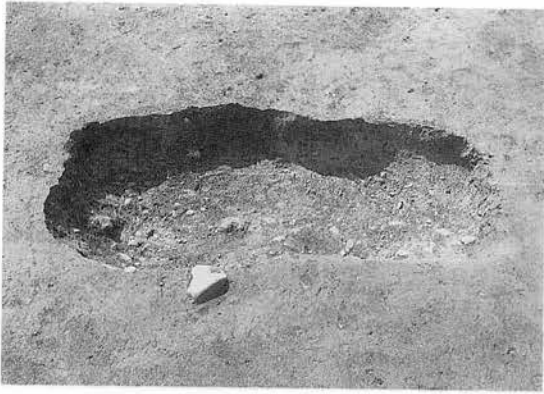


RD005 平面

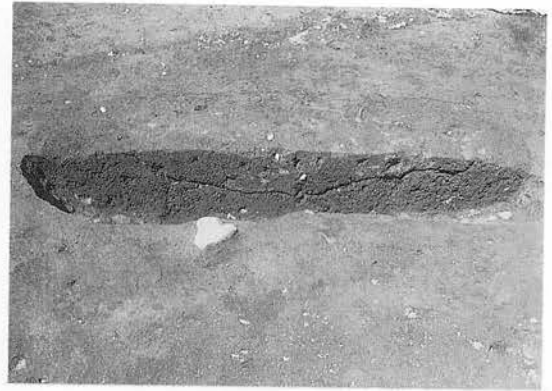


RD005 埋土断面

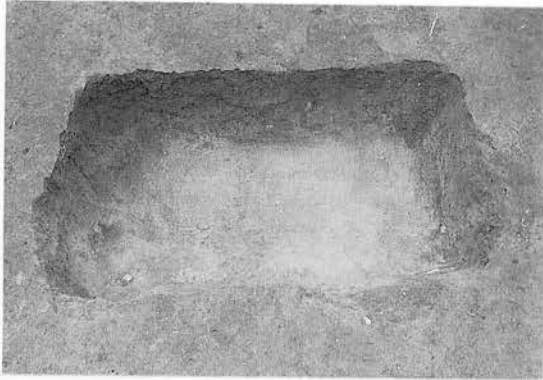
图版15 RD(1) 001~005



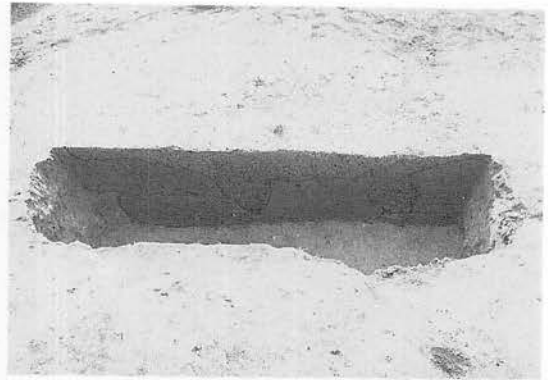
RD006 平面



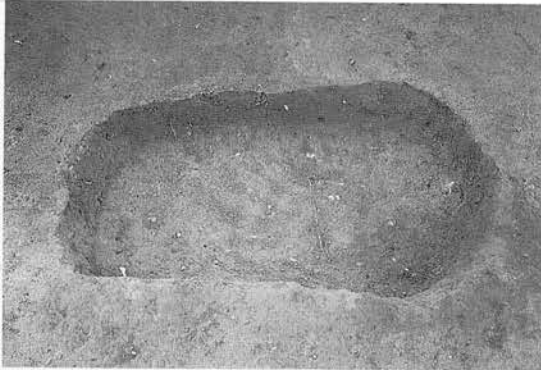
RD006 埋土断面



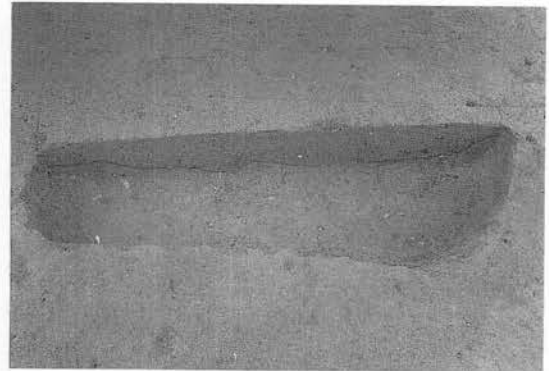
RD007 平面



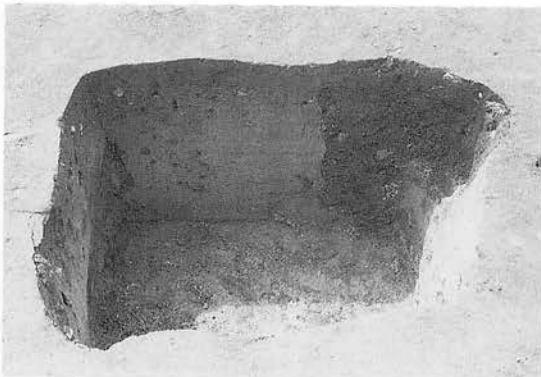
RD007 埋土断面



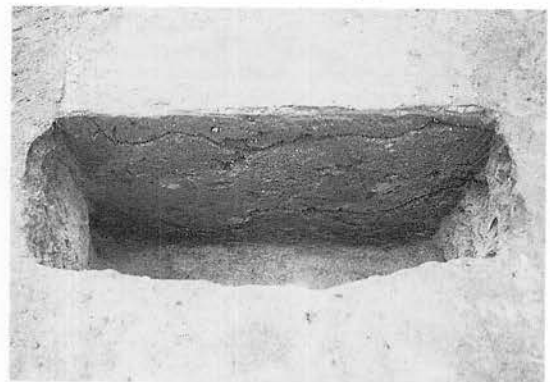
RD008 平面



RD008 埋土断面



RD009 平面

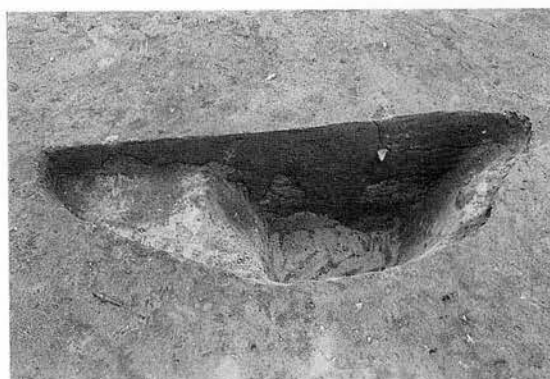


RD009 埋土断面

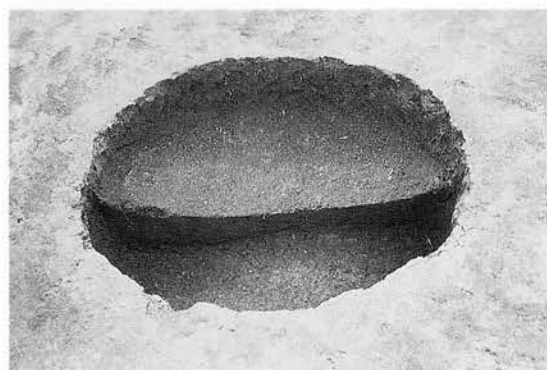
图版16 RD(2) 006~009



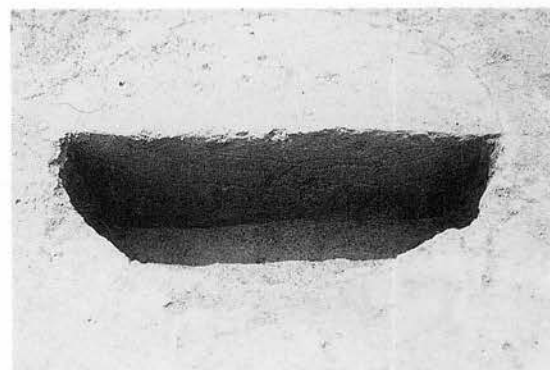
RD012 平面



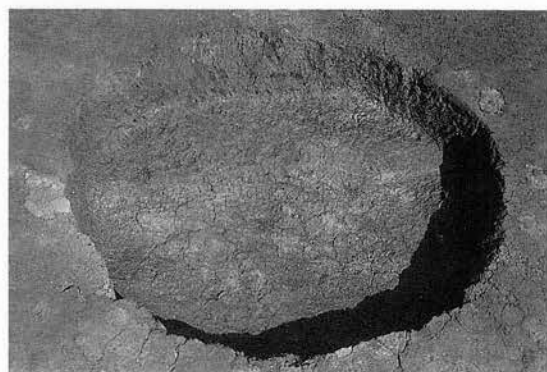
RD010 埋土断面



RD014 平面



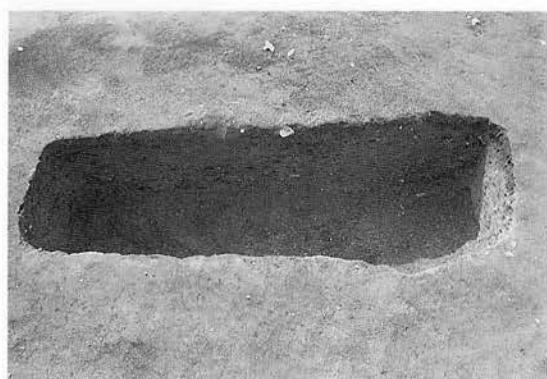
RD014 埋土断面



RD015 平面

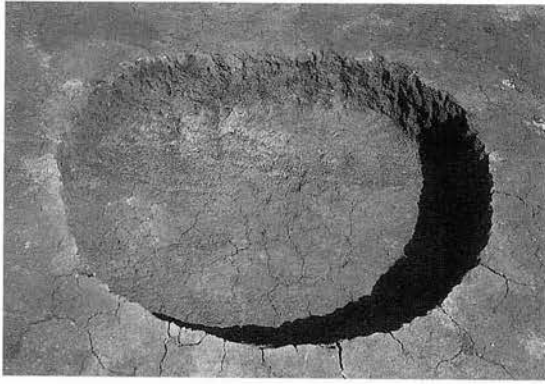


RD015 埋土断面

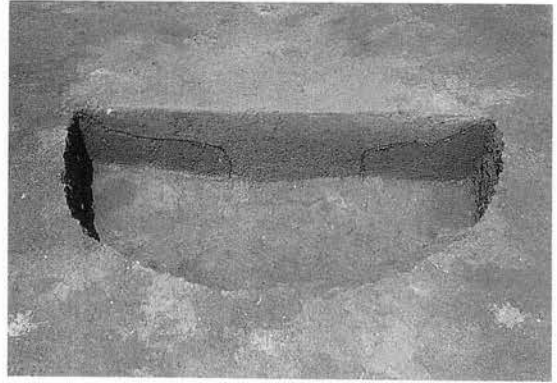


RD013 平面

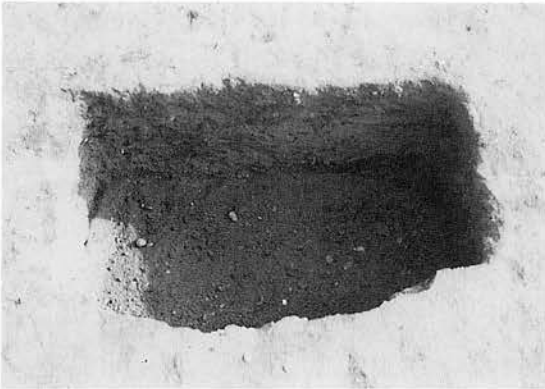
图版17 RD(3) 010~015



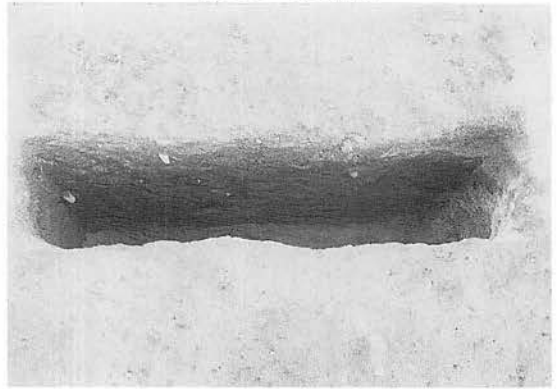
RD016 平面



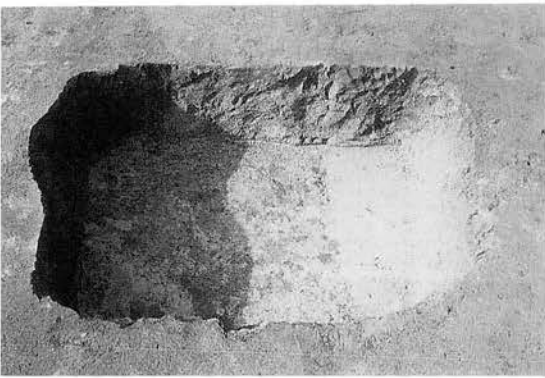
RD016 埋土断面



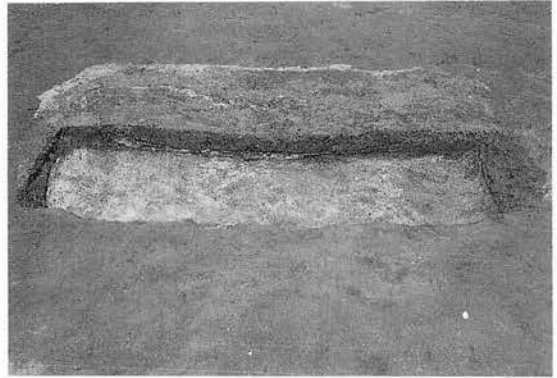
RD017 平面



RD017 埋土断面



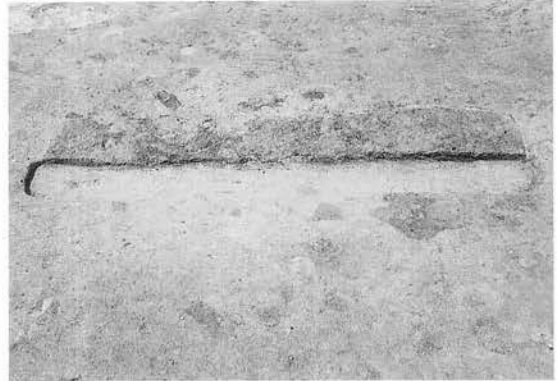
RD019 平面



RD019 埋土断面



RD020 平面

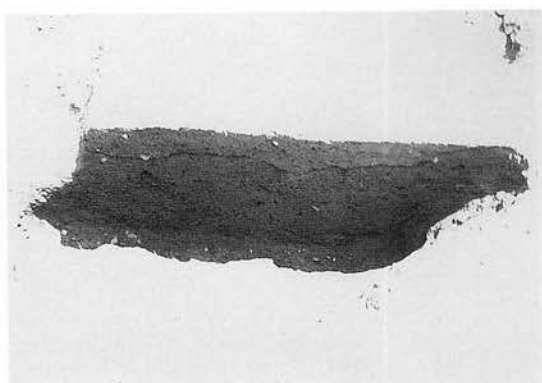


RD020 埋土断面

図版18 RD(4) 016~020



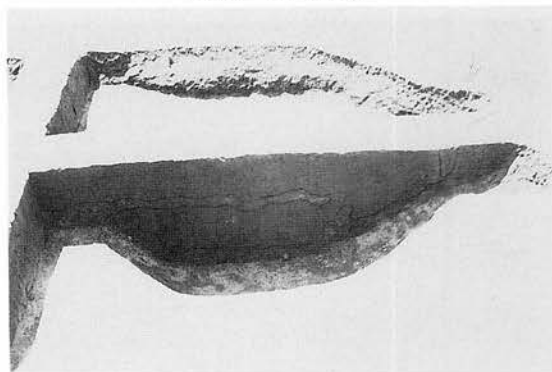
RD021 平面



RD021 埋土断面



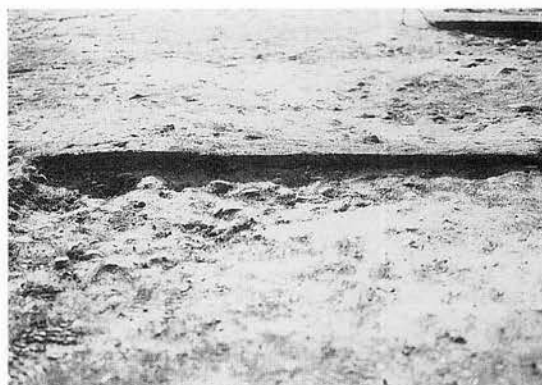
RD022 平面



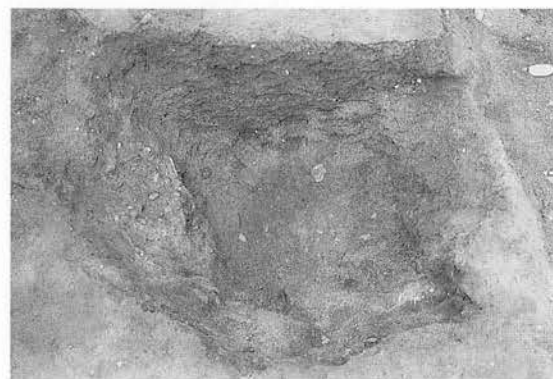
RD022 埋土断面



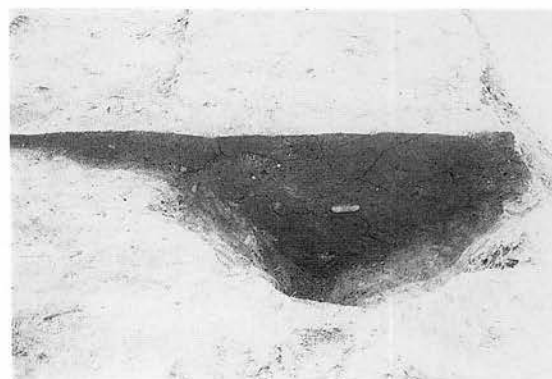
RD023 平面



RD023 埋土断面



RD024 平面



RD024 埋土断面

图版19 RD(5) 021~024



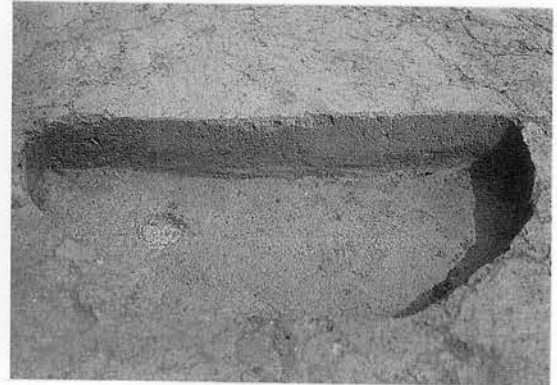
RD025 平面



RD025 埋土断面



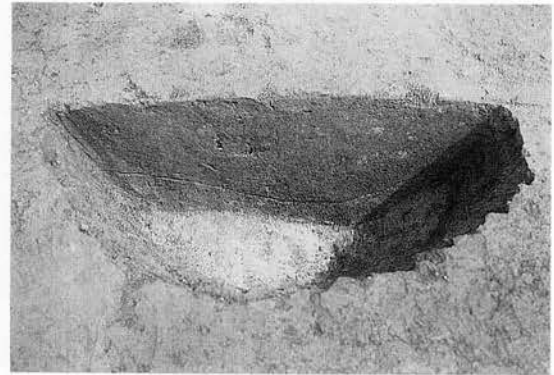
RD026 平面



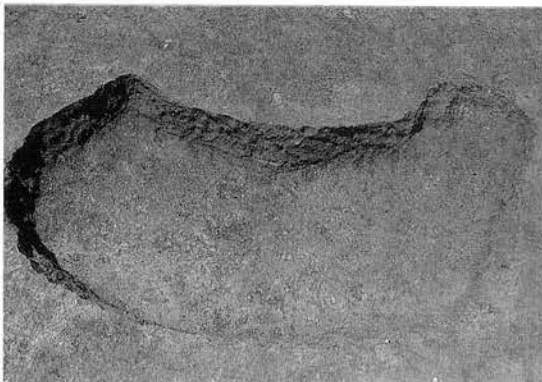
RD026 埋土断面



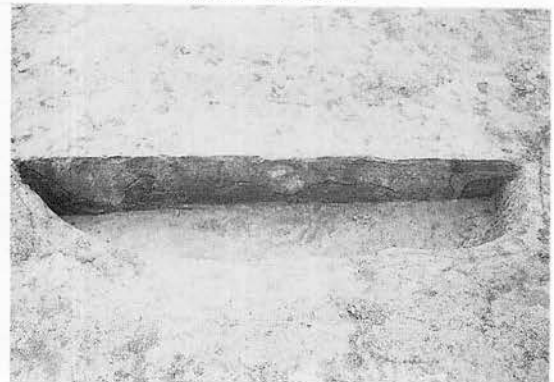
RD027 - 平面



RD027 埋土断面

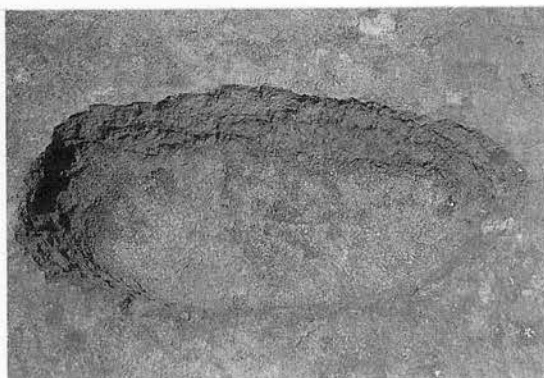


RD028 平面

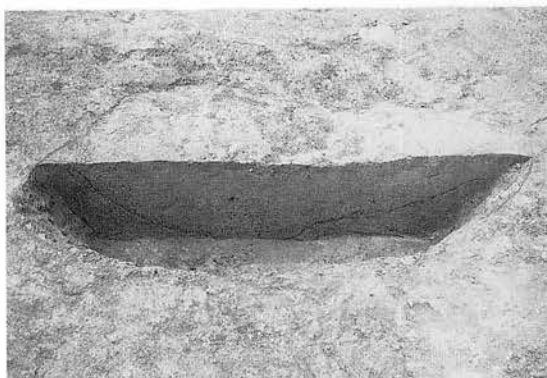


RD028 埋土断面

图版20 RD(6) 025~028



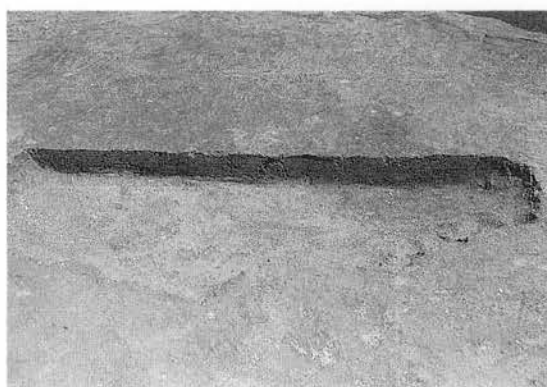
RD029 平面



RD029 埋土断面



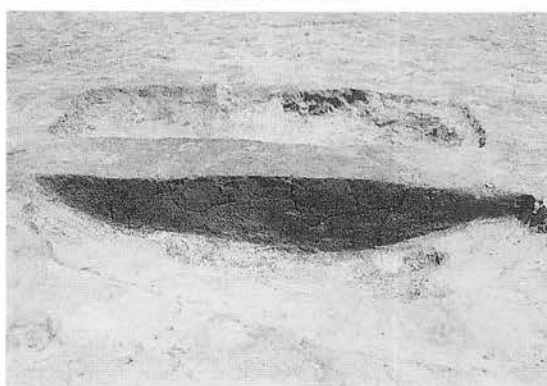
RD030 平面



RD030 埋土断面



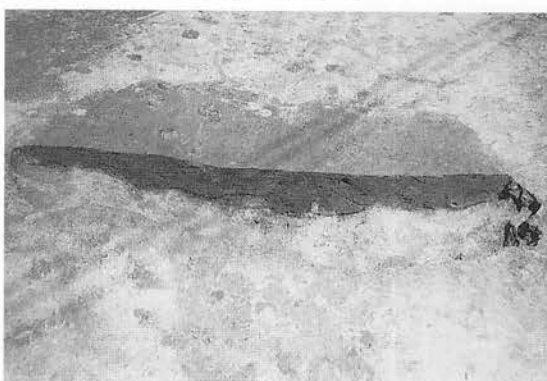
RD031 平面



RD031 埋土断面



RD032 平面

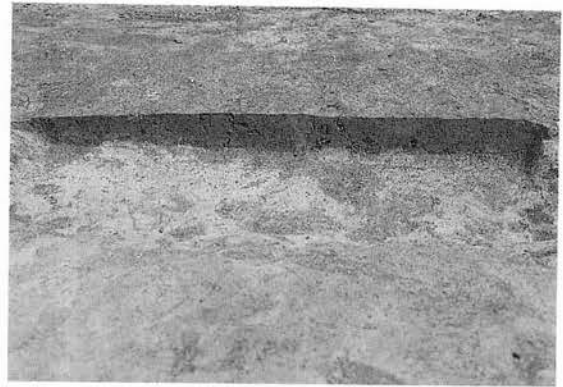


RD032 埋土断面

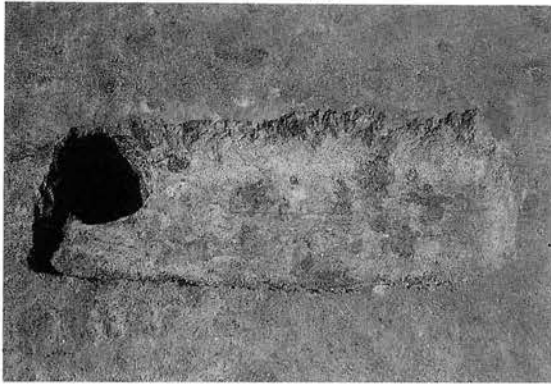
图版21 RD(7) 029~032



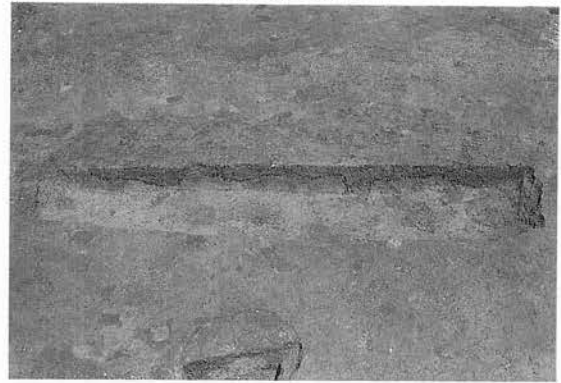
RD034 平面



RD034 埋土断面



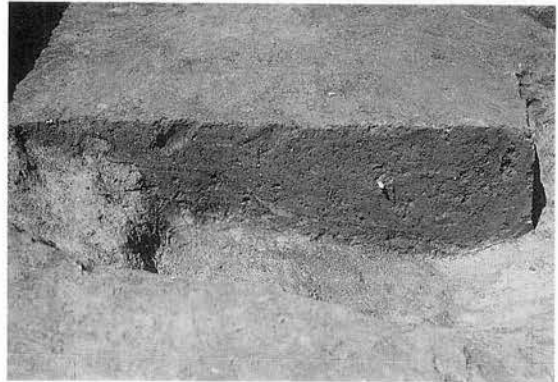
RD035 平面



RD035 埋土断面



RD036 平面



RD036 埋土断面

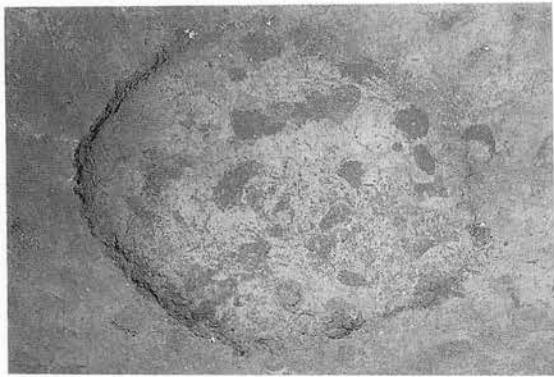


RD037 平面

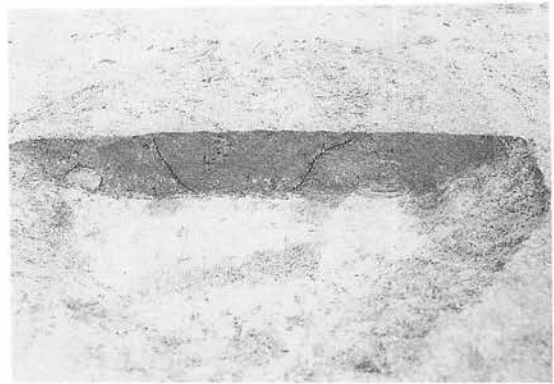


RD037 埋土断面

图版22 RD(8) 034~037



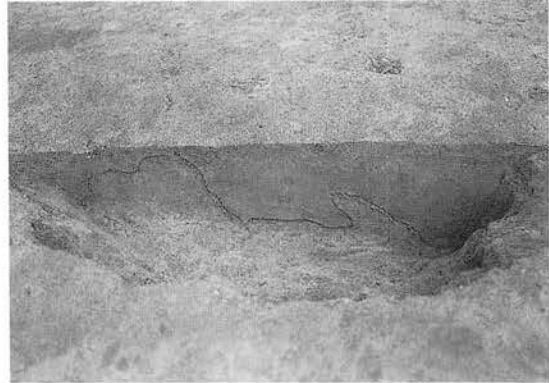
RD038 平面



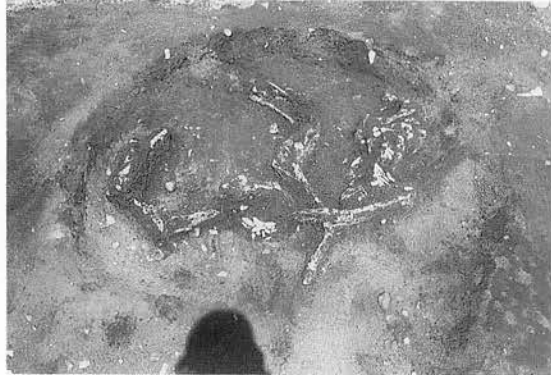
RD038 埋土断面



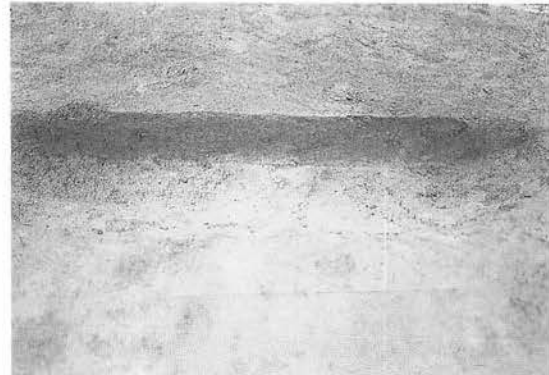
RD039 平面



RD039 埋土断面



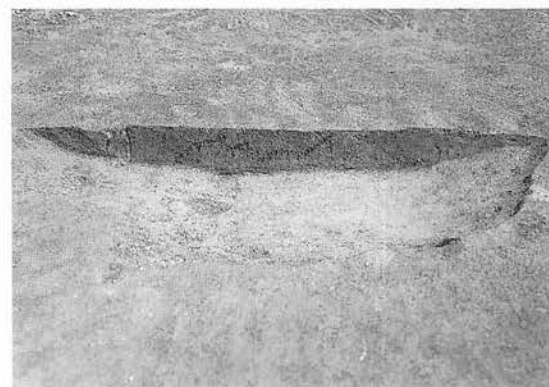
RD018 平面



RD040 埋土断面

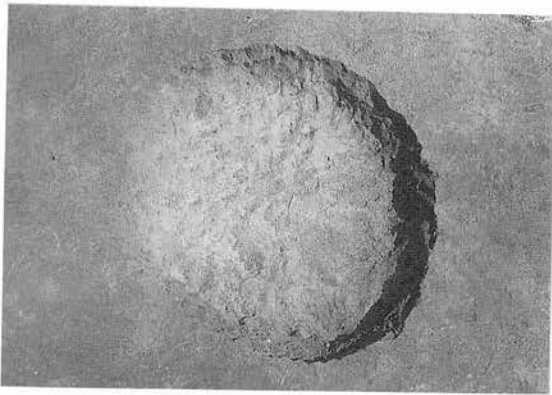


RD041 平面

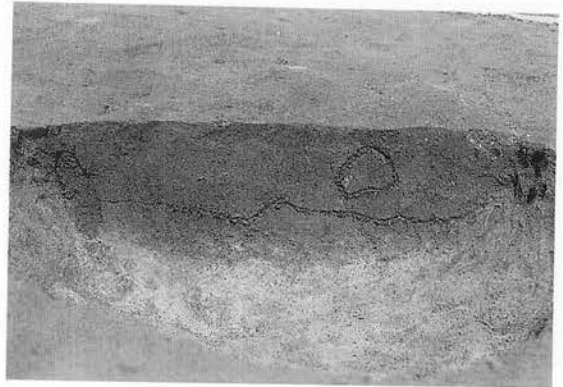


RD041 埋土断面

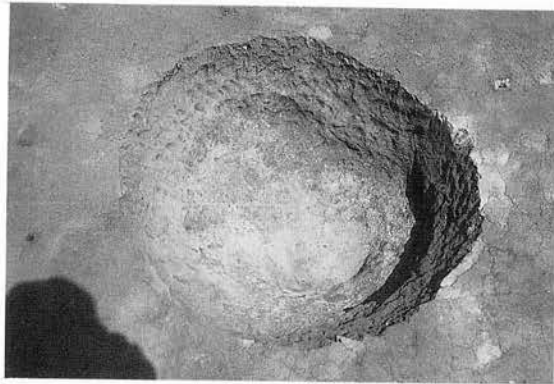
图版23 RD(9) 018·038~041



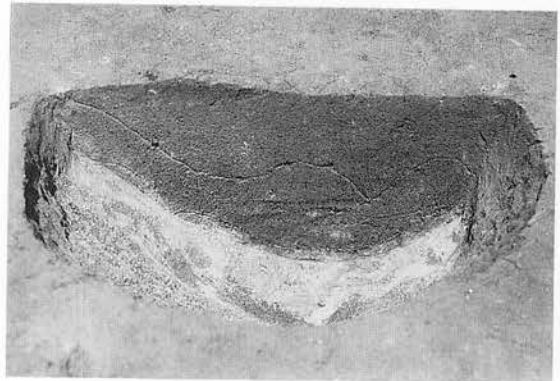
RD043 平面



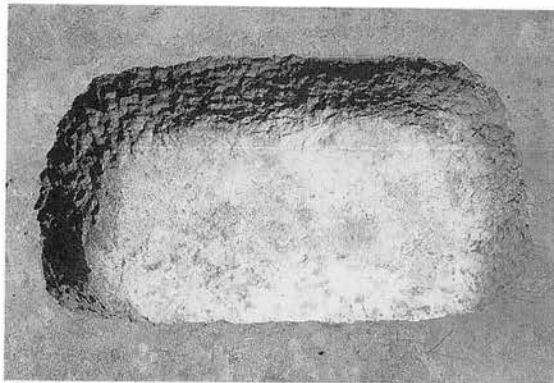
RD043 埋土断面



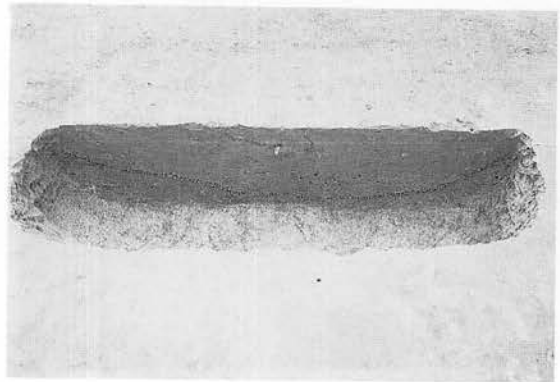
RD044 平面



RD044 埋土断面



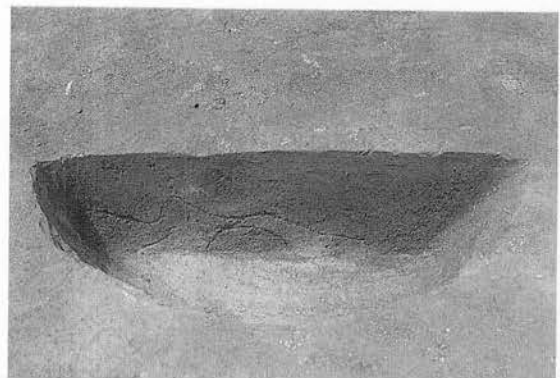
RD045 平面



RD045 埋土断面

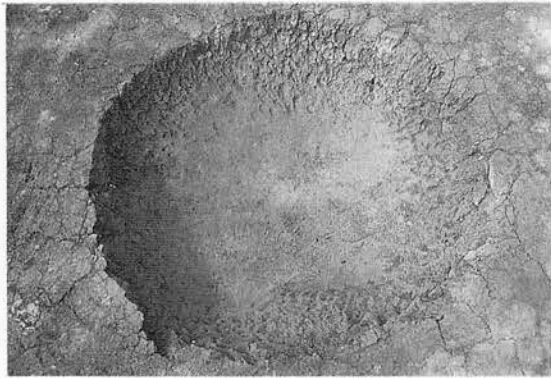


RD046 平面

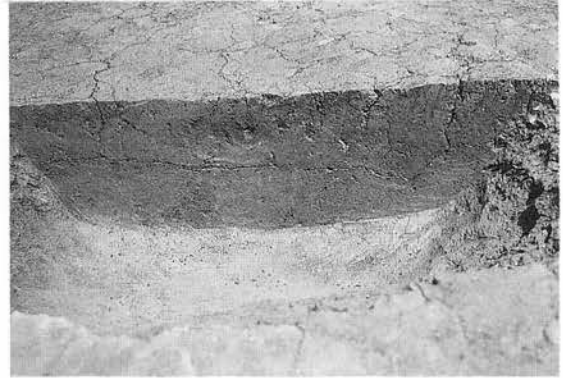


RD046 埋土断面

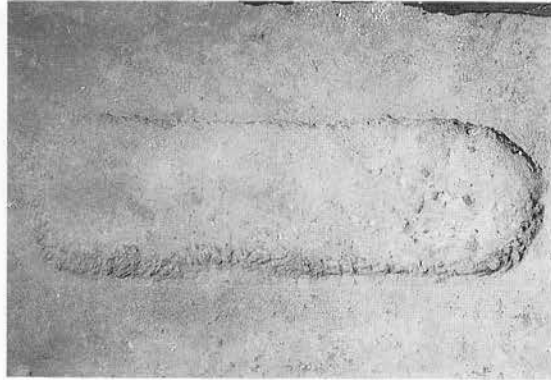
图版24 RD(10) 043~046



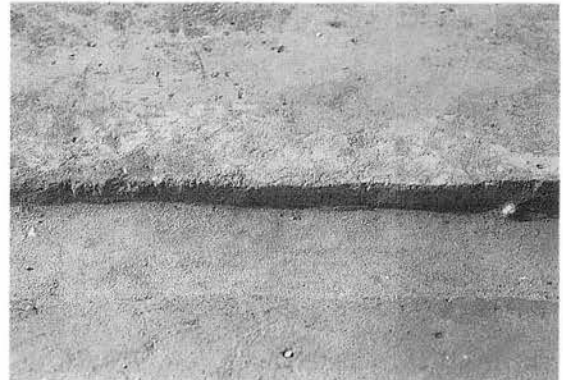
RD047 平面



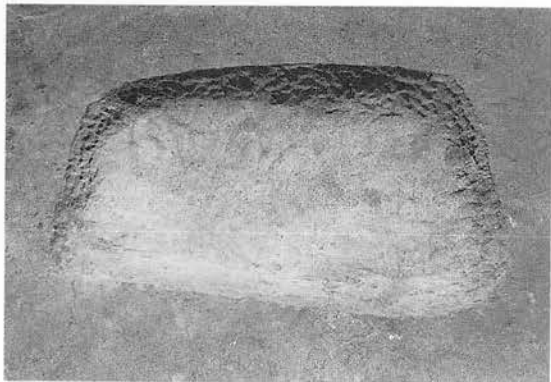
RD047 埋土断面



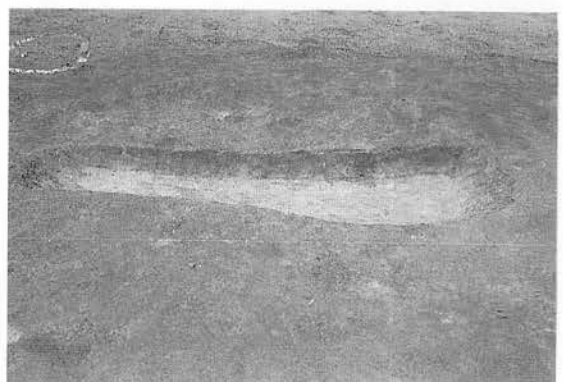
RD048 平面



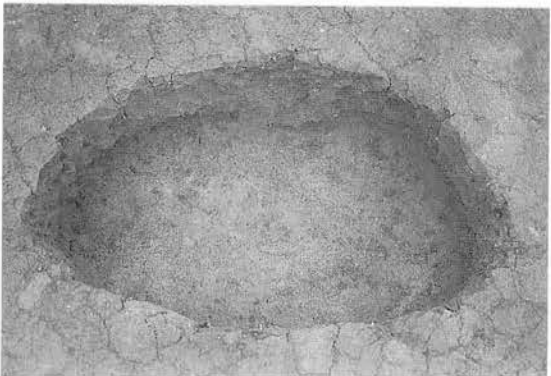
RD048 埋土断面



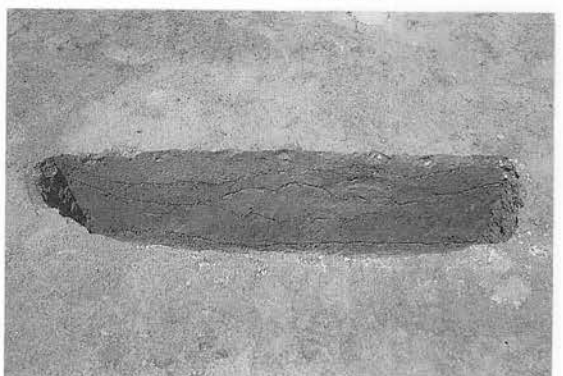
RD049 平面



RD049 埋土断面

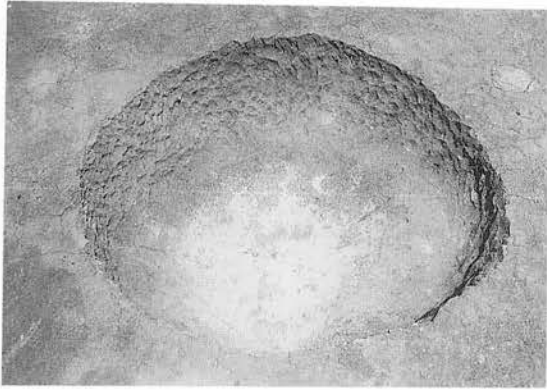


RD050 平面

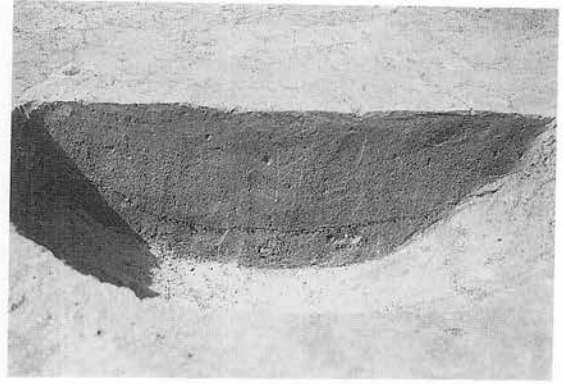


RD050 埋土断面

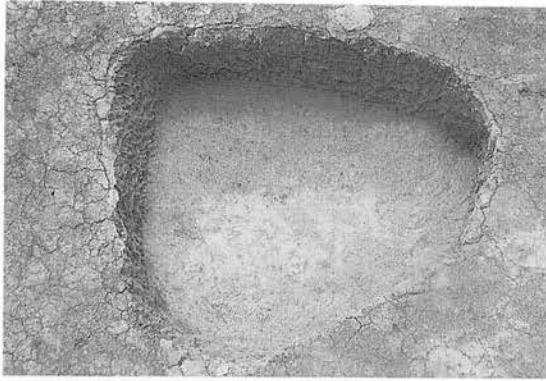
图版25 RD(11) 047~050



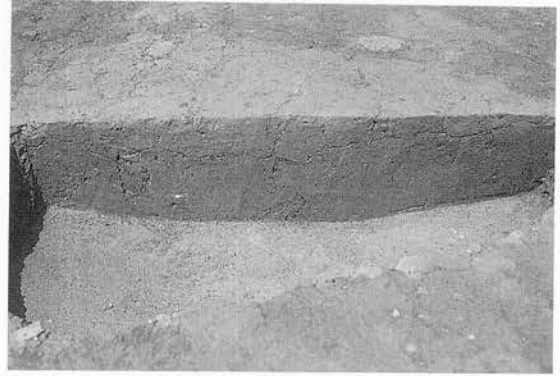
RD051 平面



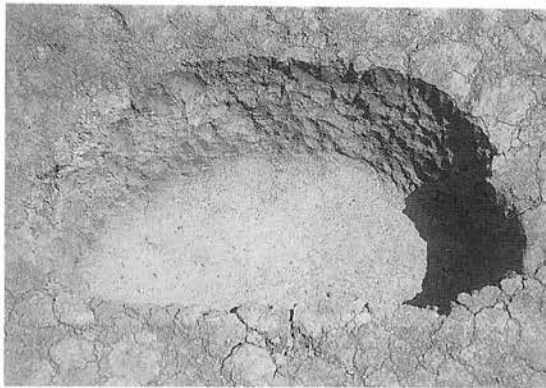
RD051 埋土断面



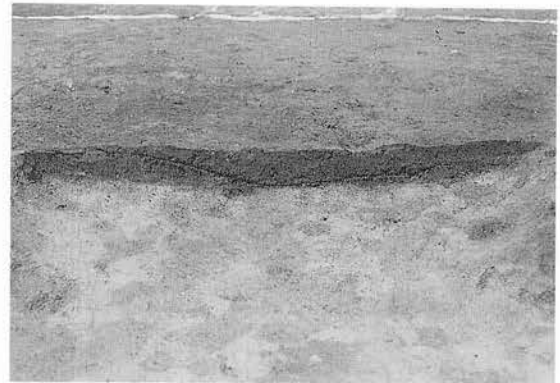
RD052 平面



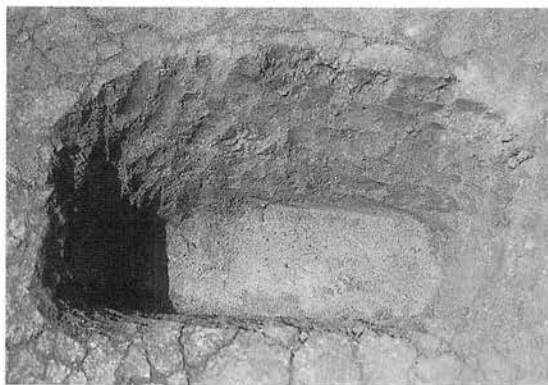
RD052 埋土断面



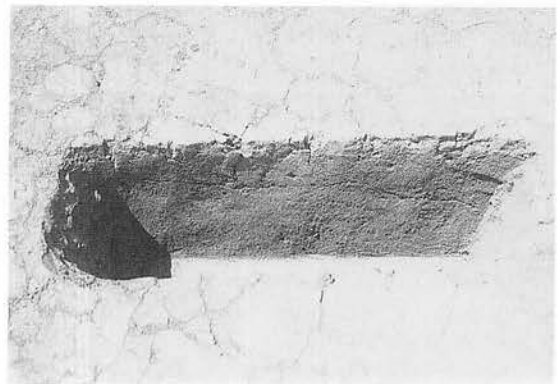
RD053 平面



RD042 埋土断面



RD054 平面



RD054 埋土断面

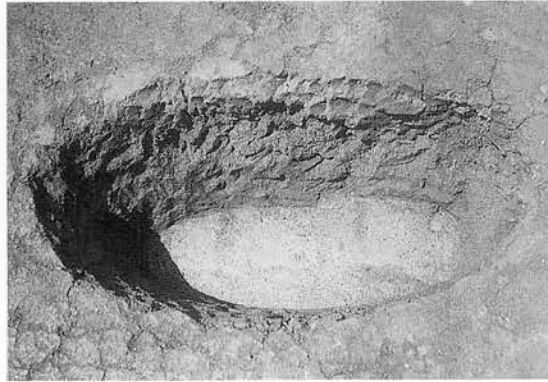
图版26 RD(12) 042·051~054



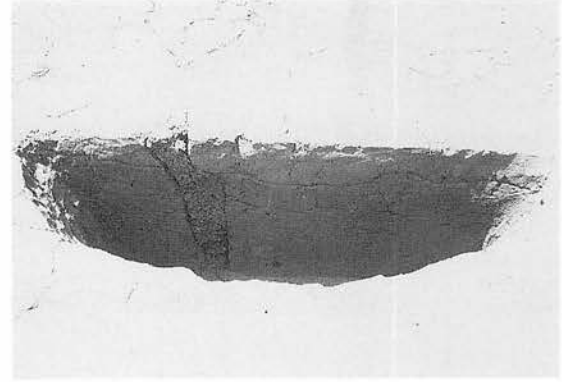
RD055 平面



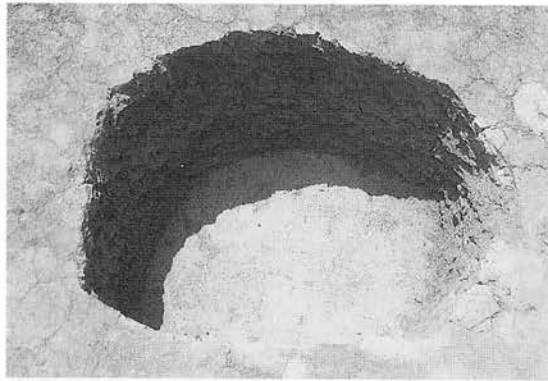
RD055 埋土断面



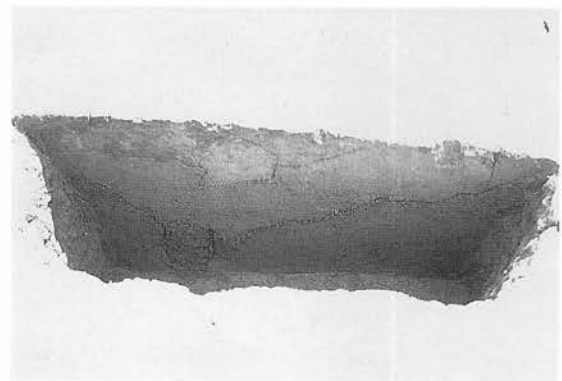
RD056 平面



RD056 埋土断面



RD057 平面



RD057 埋土断面



RD067 平面

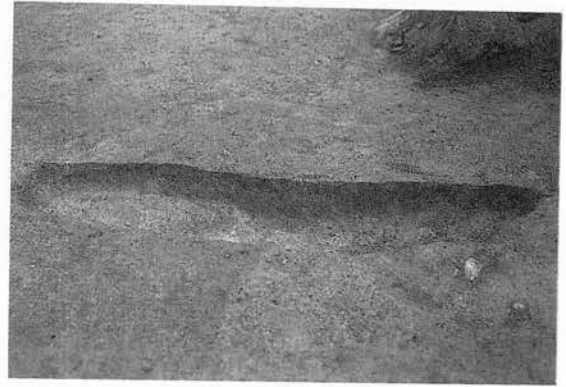


RD067 埋土断面

图版27 RD(13) 055~057·067



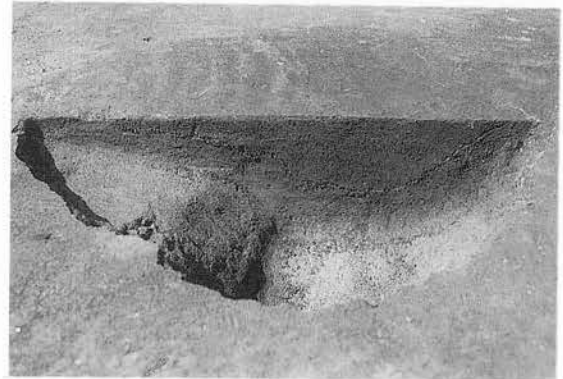
RD068 平面



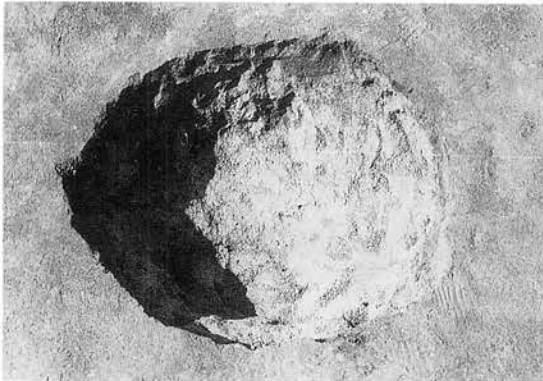
RD068 埋土断面



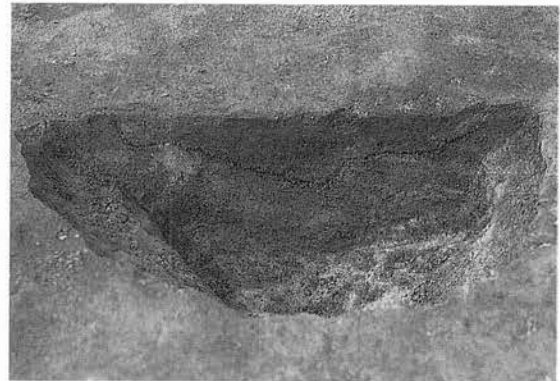
RD069 平面



RD069 埋土断面



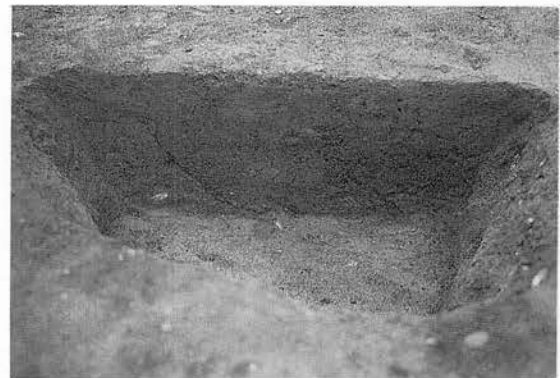
RD070 平面



RD070 埋土断面



RD071 平面



RD071 埋土断面

图版28 RD(14) 068~071



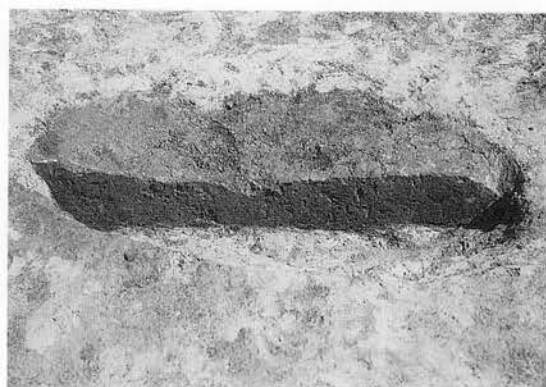
RD072 平面



RD072 埋土断面



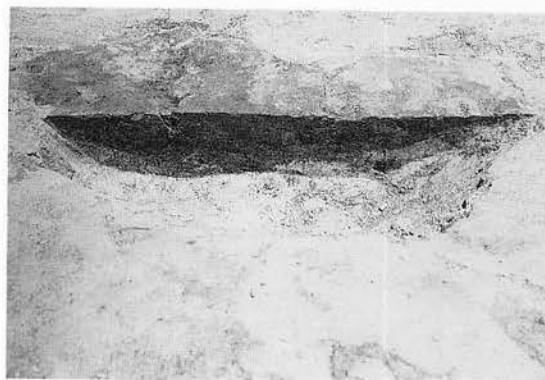
RD076 平面



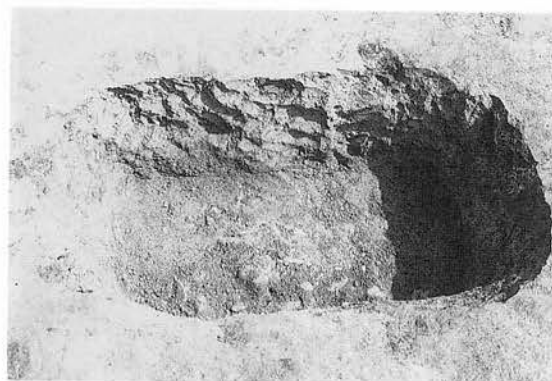
RD076 埋土断面



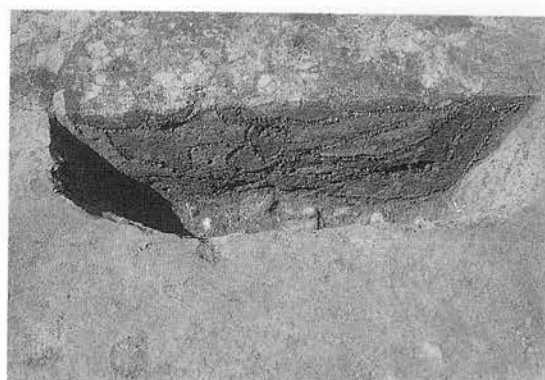
RD077 平面



RD077 埋土断面



RD079 平面

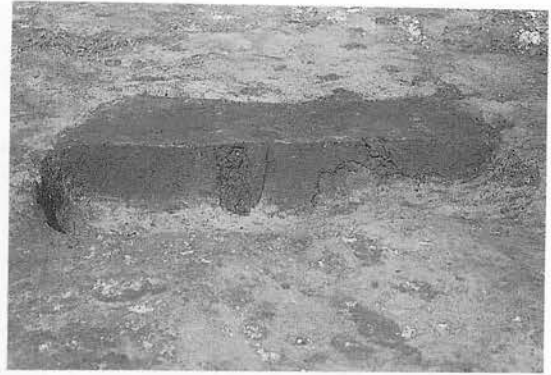


RD079 埋土断面

图版29 RD(15) 072·076·077·079



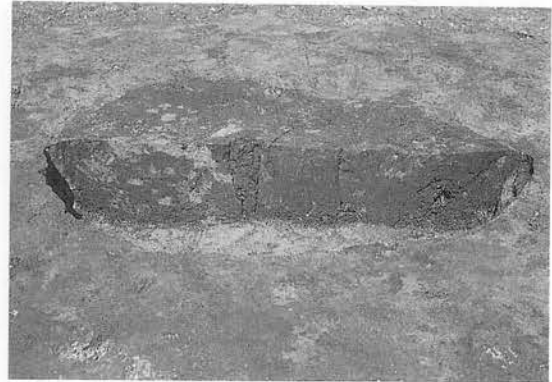
RD080 平面



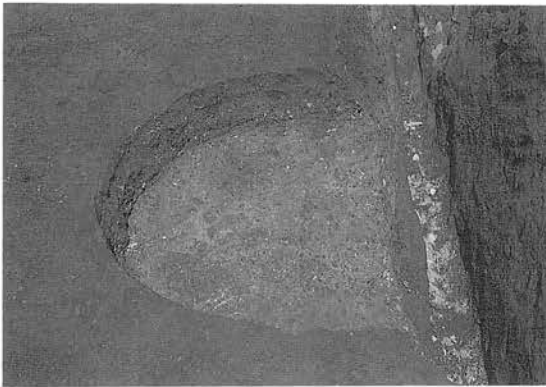
RD080 埋土断面



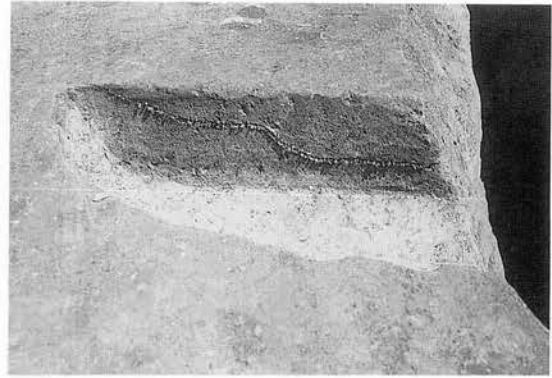
RD081 平面



RD081 埋土断面



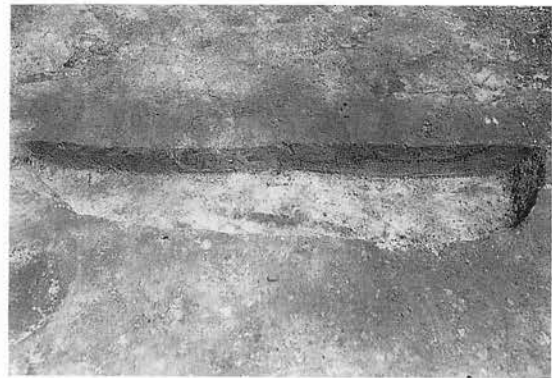
RD083 平面



RD083 埋土断面



RD084 平面

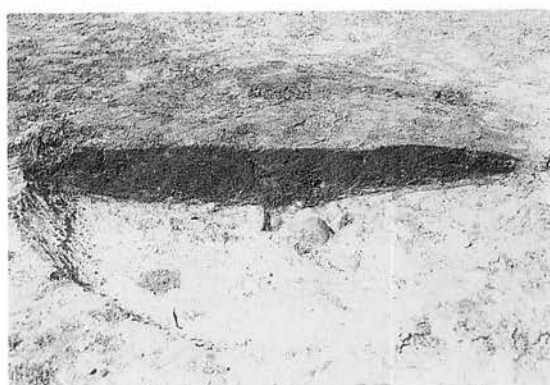


RD084 埋土断面

图版30 RD(16) 080~084



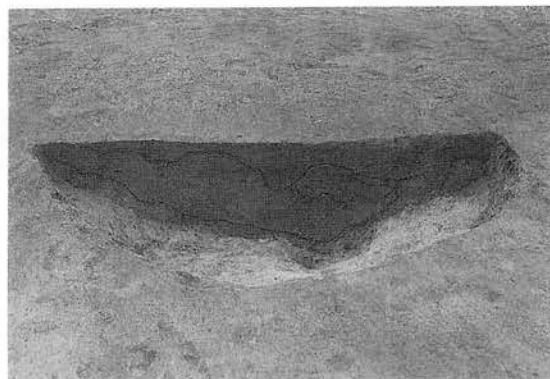
RD086 平面



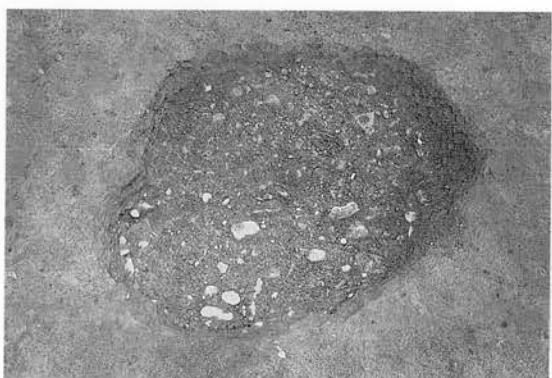
RD086 埋土断面



RD087 平面



RD087 埋土断面



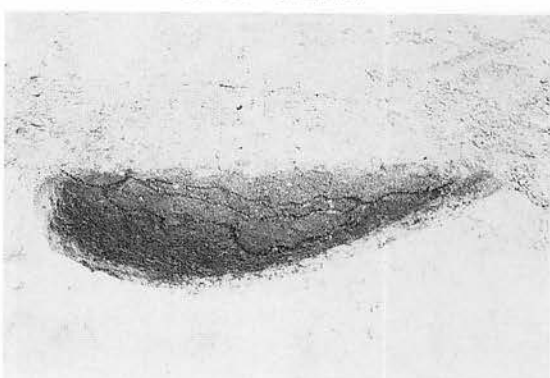
RD088 平面



RD088 埋土断面



RD089 平面

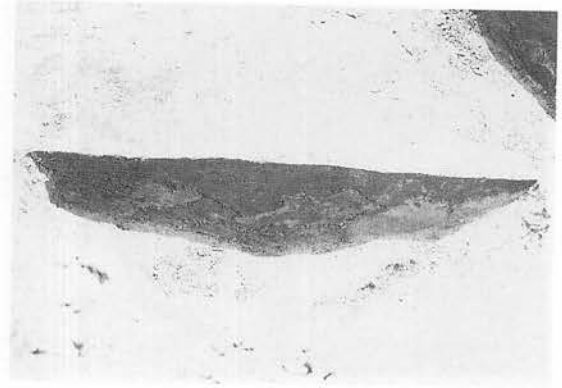


RD089 埋土断面

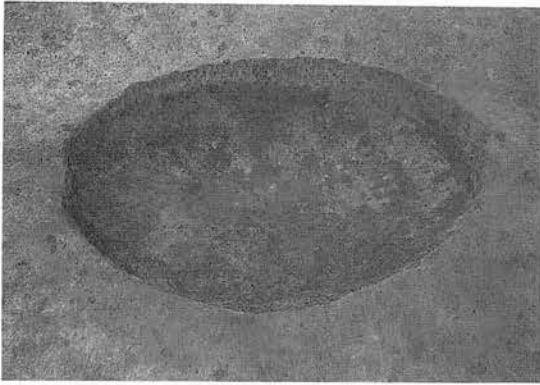
图版31 RD(17) 086~089



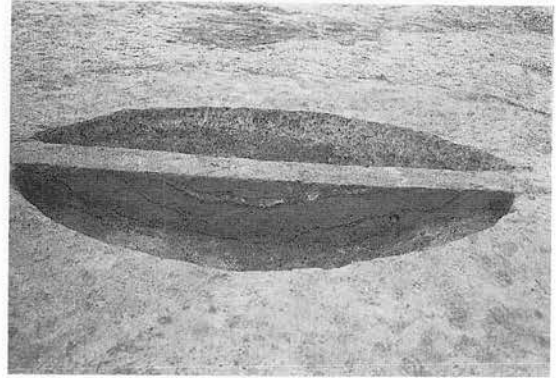
RD090 平面



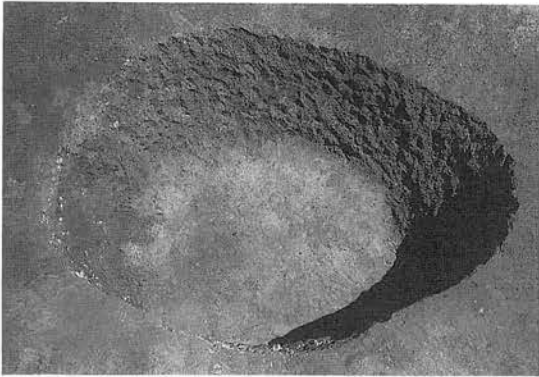
RD090 埋土断面



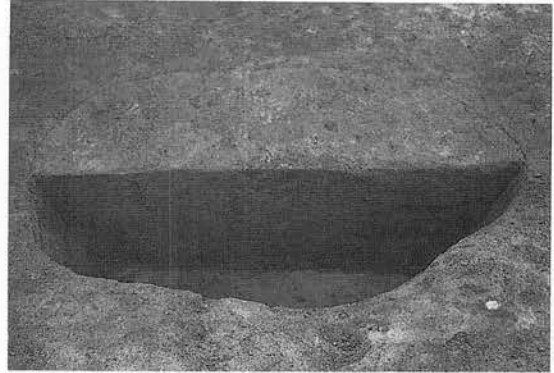
RD091 平面



RD091 埋土断面



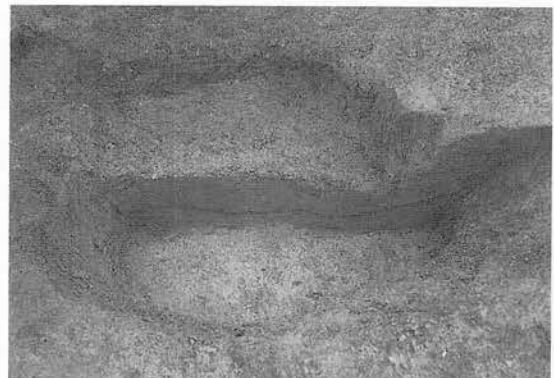
RD092 平面



RD092 埋土断面

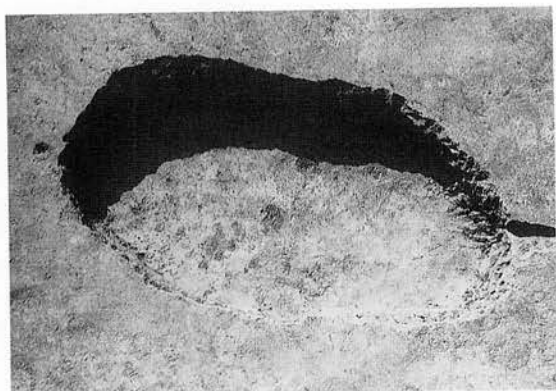


RD093 平面

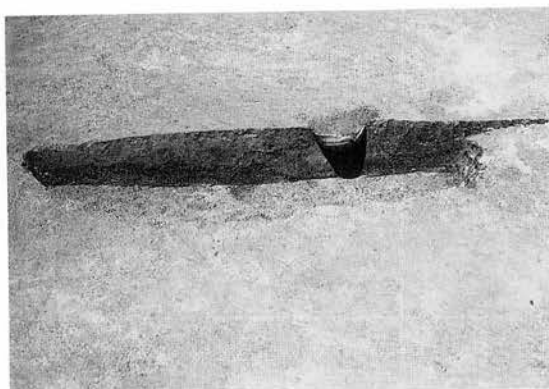


RD093 埋土断面

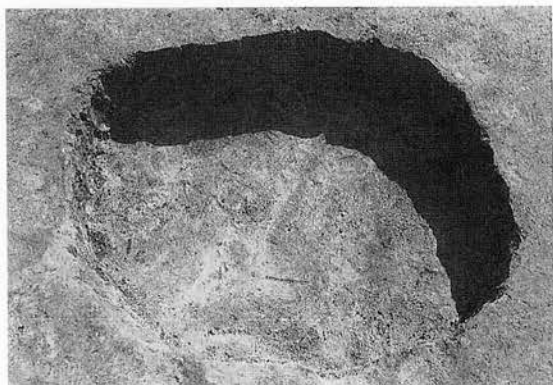
图版32 RD(18) 090~093



RD094 平面



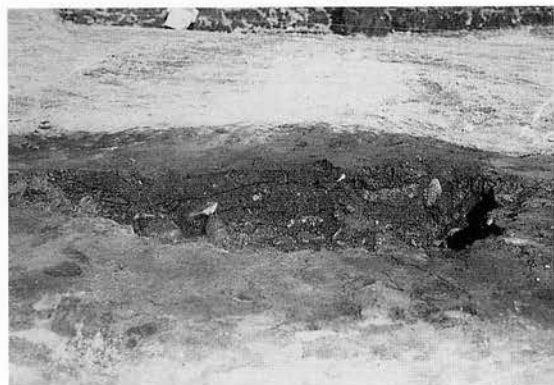
RD094 埋土断面



RD095 平面



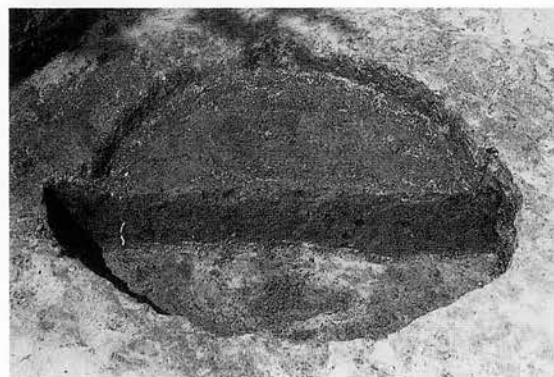
RD095 埋土断面



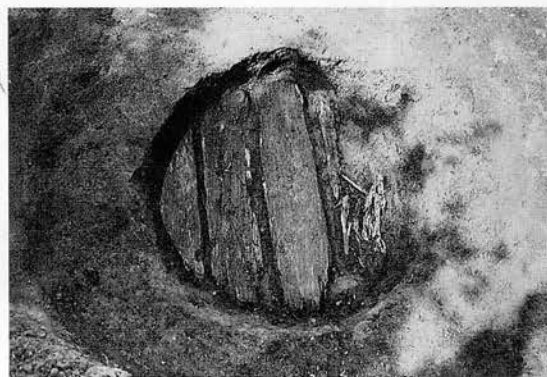
RD082 埋土断面



RD096 平面



RD098 埋土断面

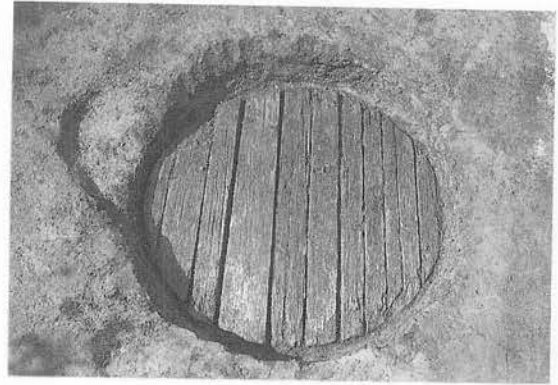


RD098 桶底板

图版33 RD(19) 082·094~096·098



RD099 埋土断面



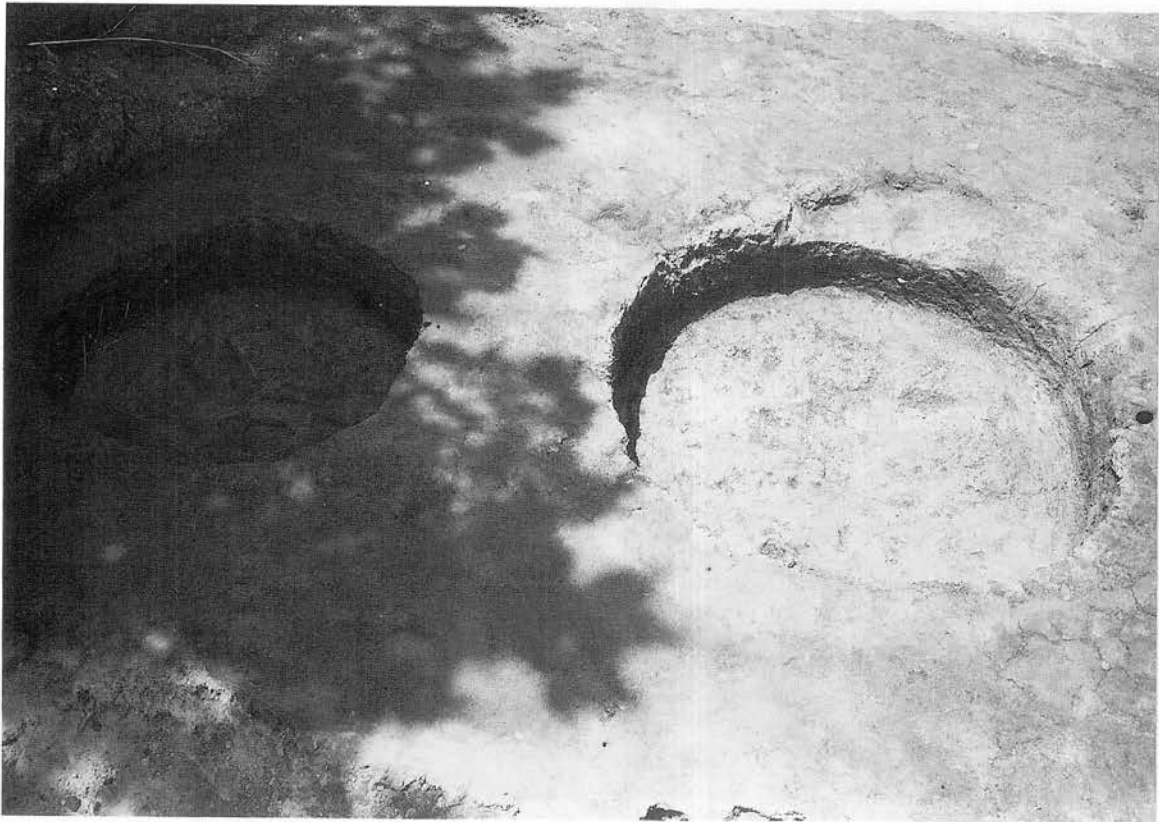
RD099 桶底板



RD098 完掘



RD099 完掘



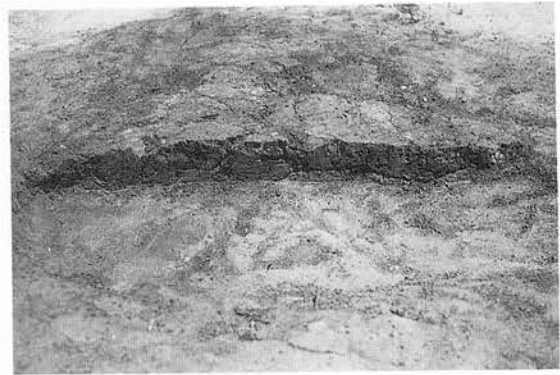
RD098

RD099

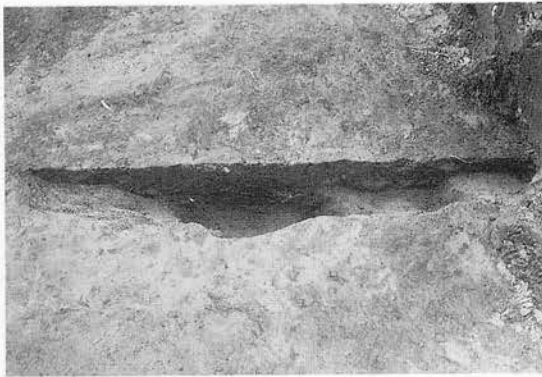
图版34 RD(20) 098·099



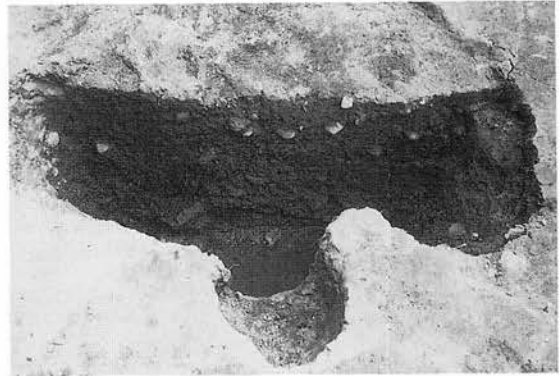
RD100 平面



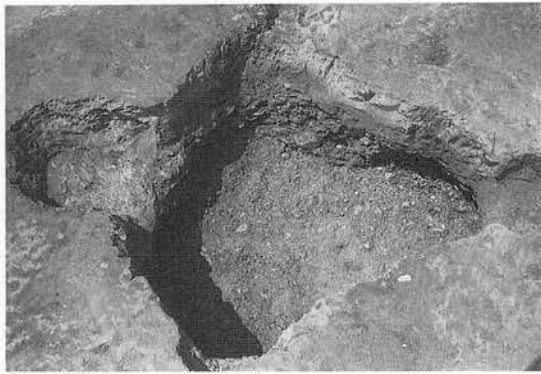
RD100 埋土断面



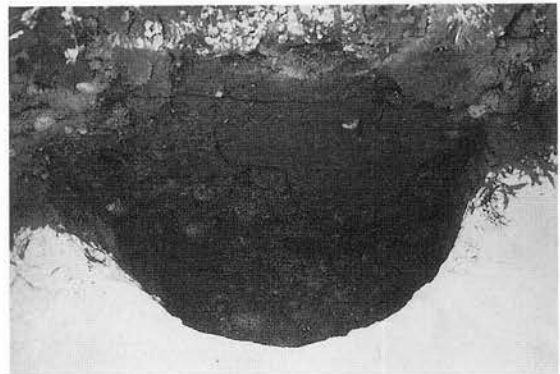
RD101 埋土断面



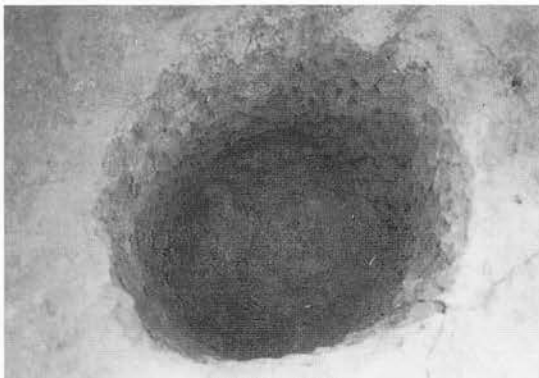
RD103 埋土断面



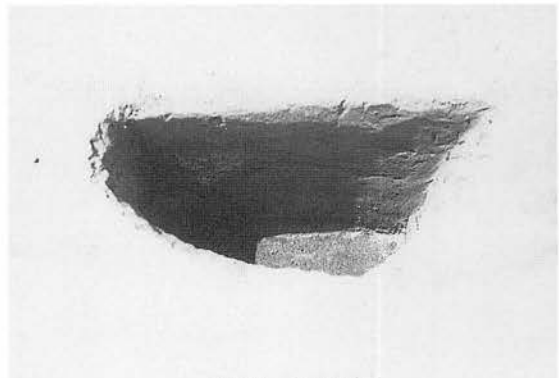
RD104 平面



RD105 埋土断面

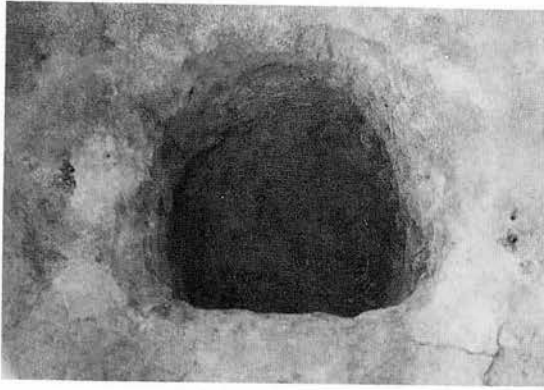


RD107 平面

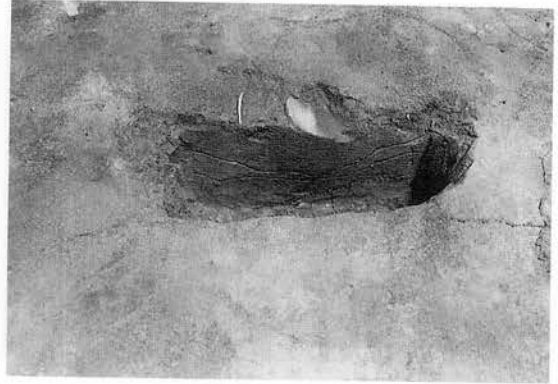


RD107 埋土断面

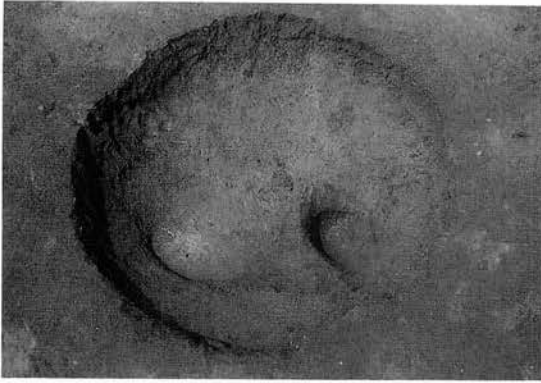
图版35 RD(21) 100·101·103~105·107



RD109 平面



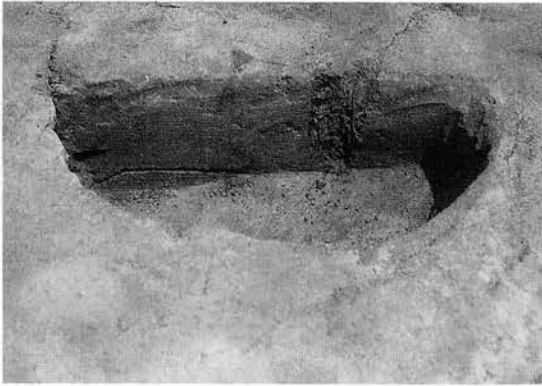
RD109 埋土断面



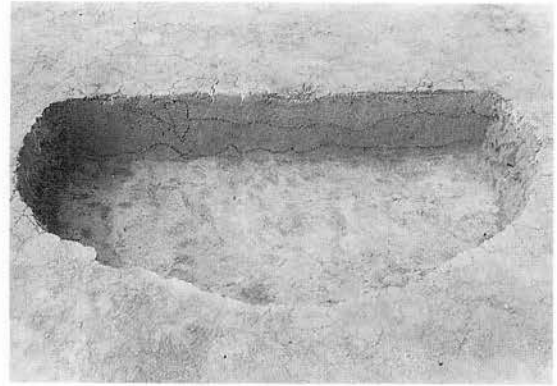
RD110 平面



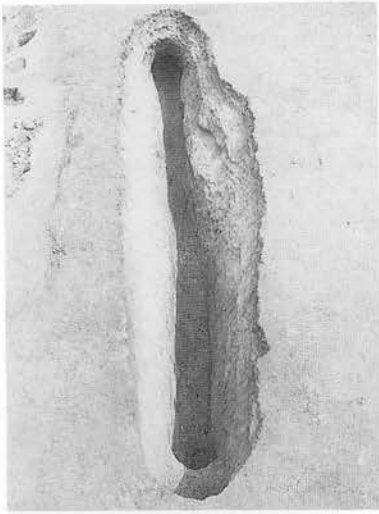
RD110 埋土断面



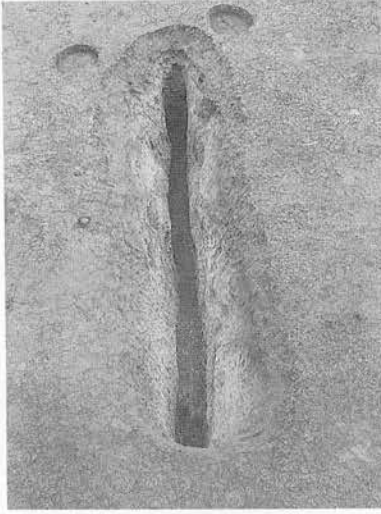
RD108 埋土断面



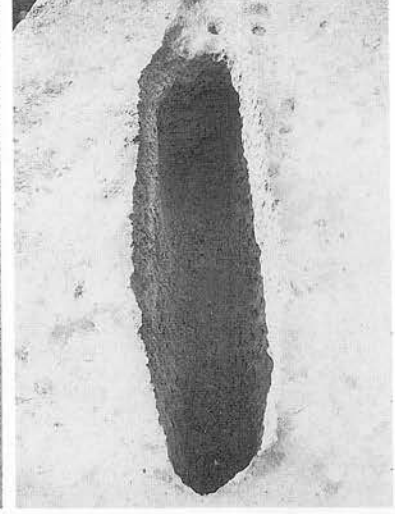
RD060 埋土断面



RD058 平面・埋土断面



RD059 平面・埋土断面



RD061 平面・埋土断面



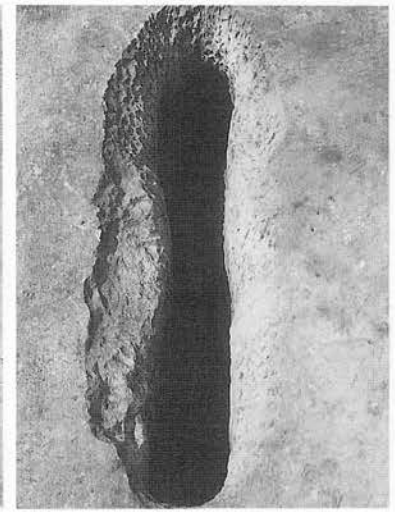
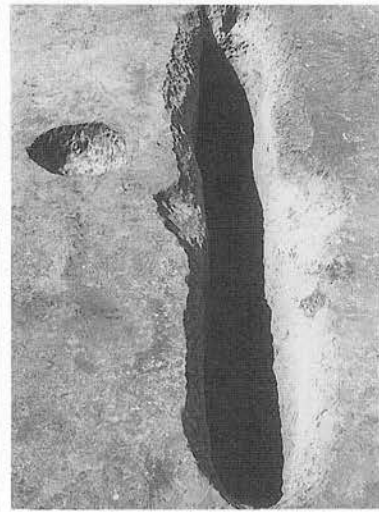
RD062 平面・埋土断面



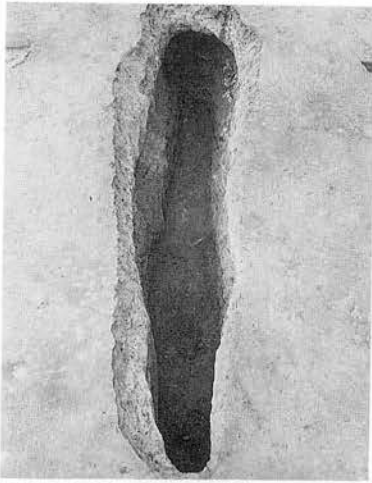
RD063 平面・埋土断面



RD064 平面・埋土断面



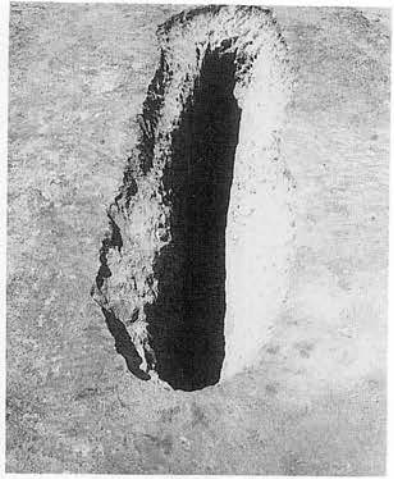
图版37 RD(23) 058·059·061~064



RD065 平面·埋土断面



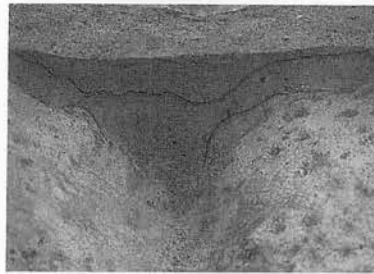
RD066 平面·埋土断面



RD073 平面·埋土断面



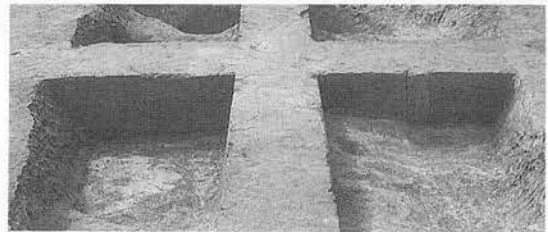
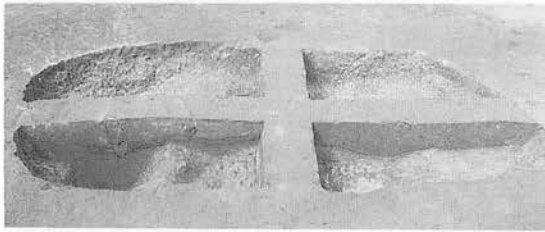
RD074 平面·埋土断面



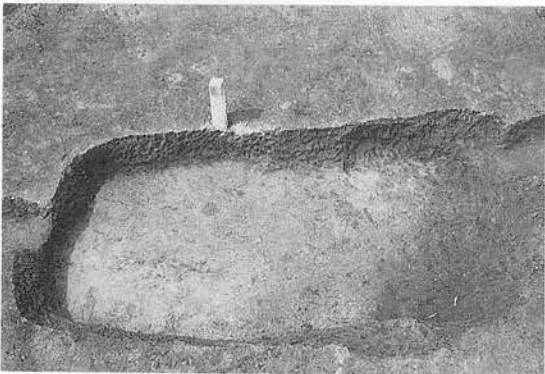
RD075 平面·埋土断面



图版38 RD(24) 065·066·073~075

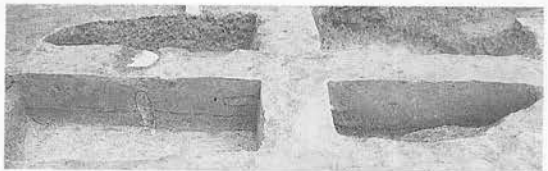


RE01 平面・埋土断面



RE02 埋土断面

RE02 平面

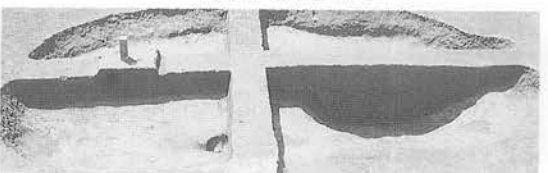


RE02 埋土断面



RE04 埋土断面

RE04 平面



RE04 埋土断面

图版39 RE01·02·04



RE03 平面



RE03 土坑内遺物出土狀況



RE03 埋土断面



RE12 平面

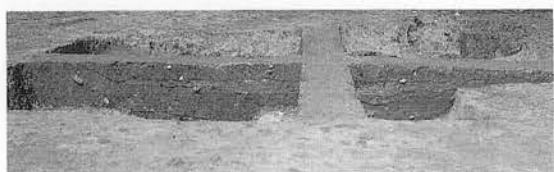


RE12 埋土断面

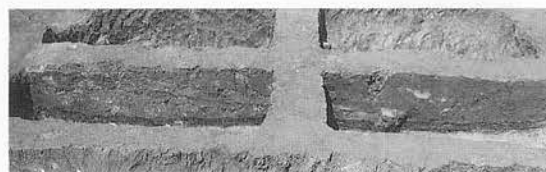


RE12 埋土断面

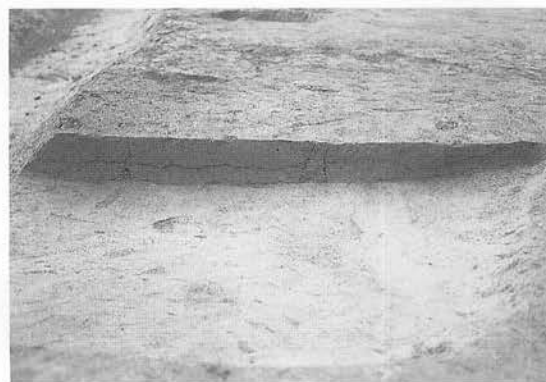
图版40 RE03·12



RE05 平面・埋土断面

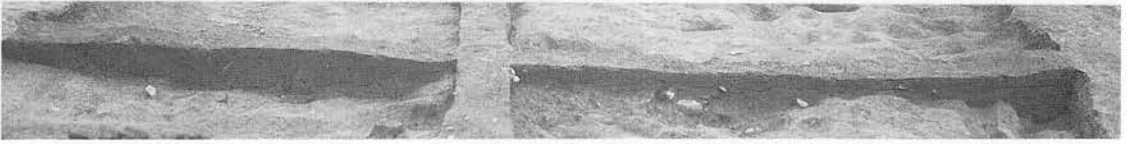
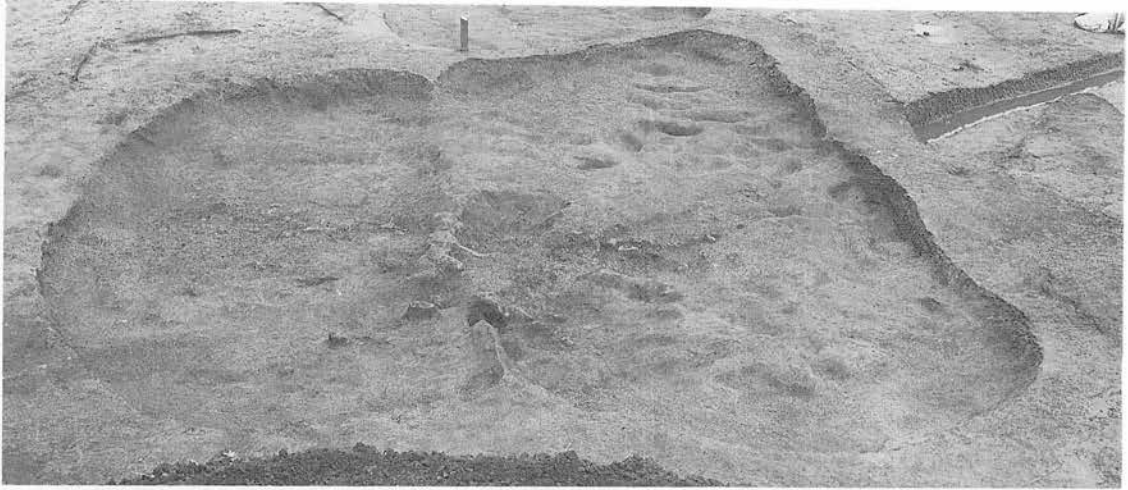


RE06 平面・埋土断面



RE07 平面・埋土断面

図版41 RE05~07

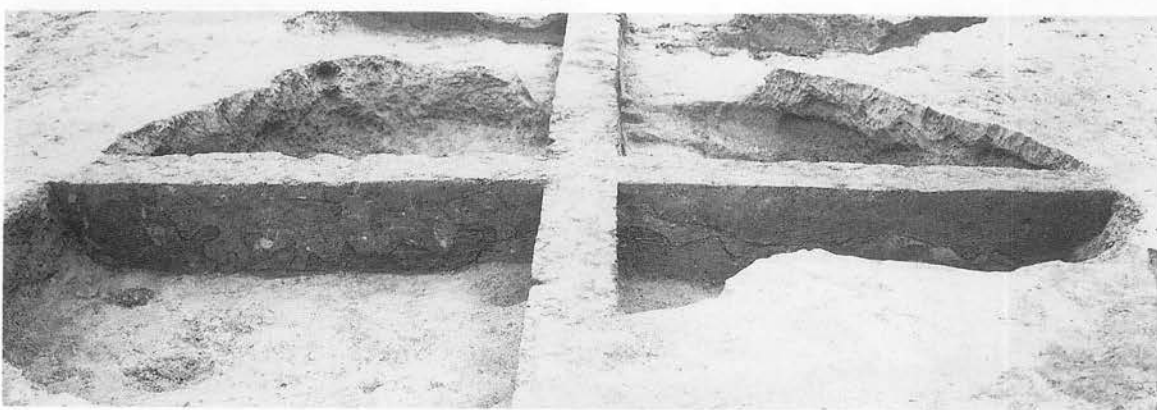
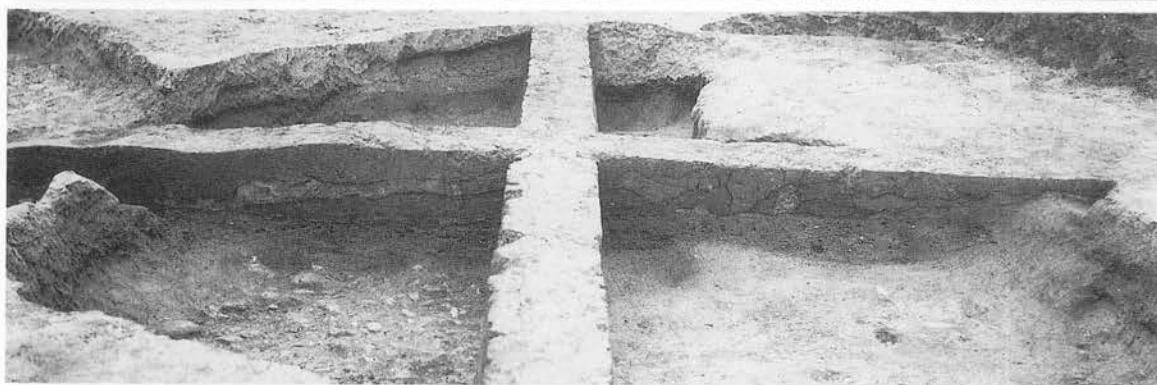


RE09、10 平面・埋土断面



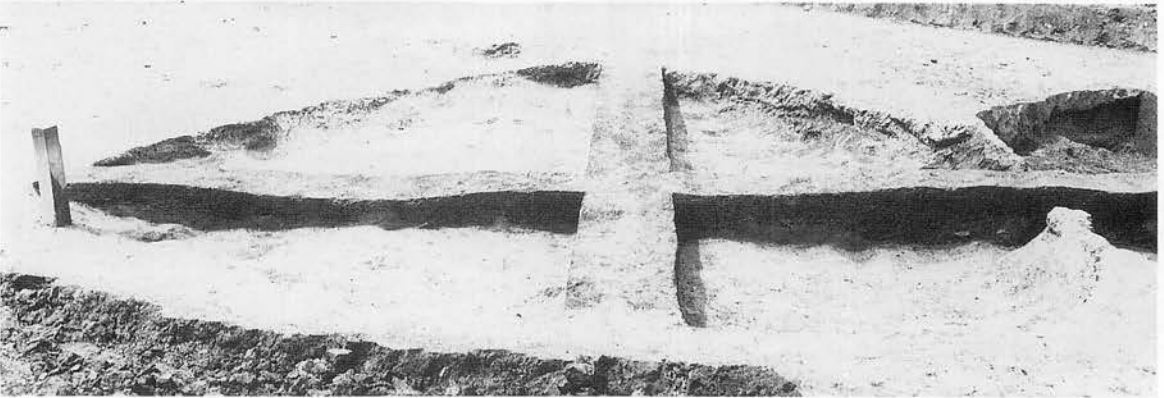
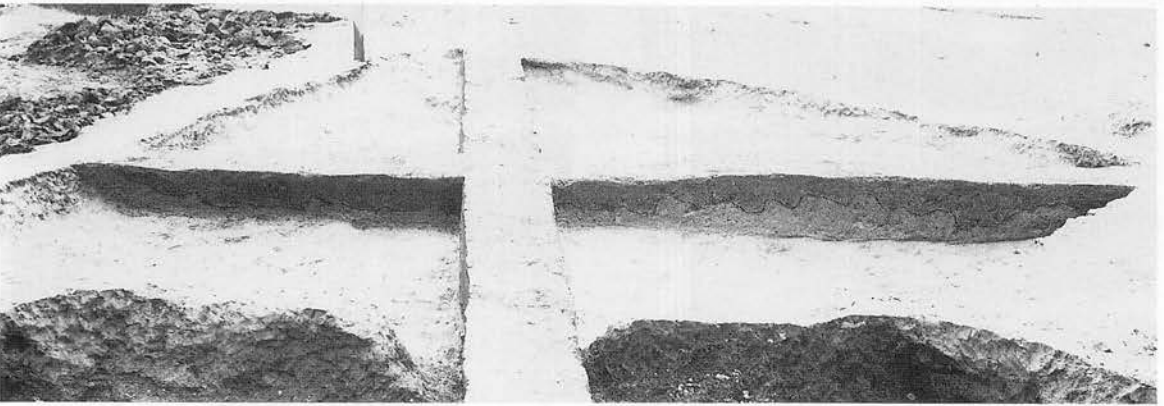
RE11 平面・埋土断面

图版42 RE09~11



RE08 平面·埋土断面

图版43 RE08

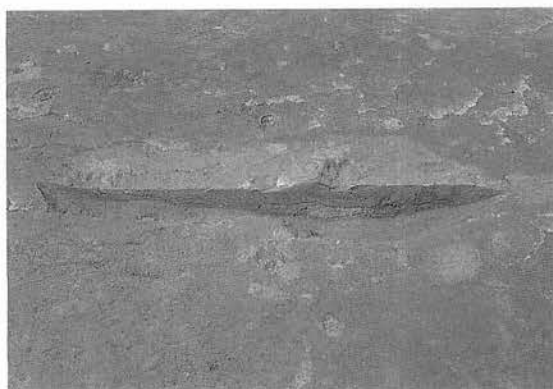


RE13 平面・埋土断面

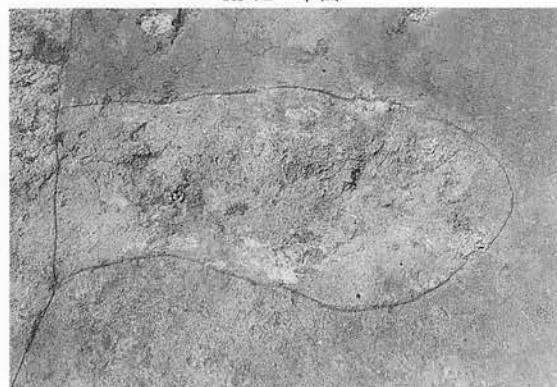
图版44 RE13



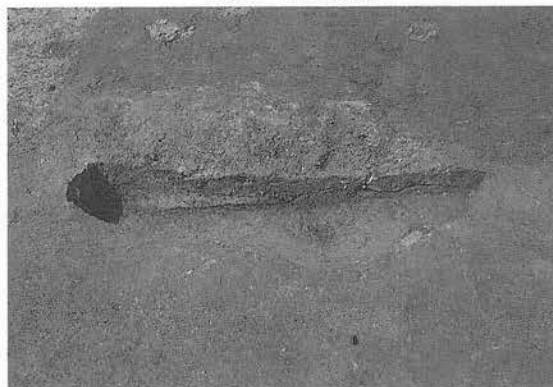
RF01 平面



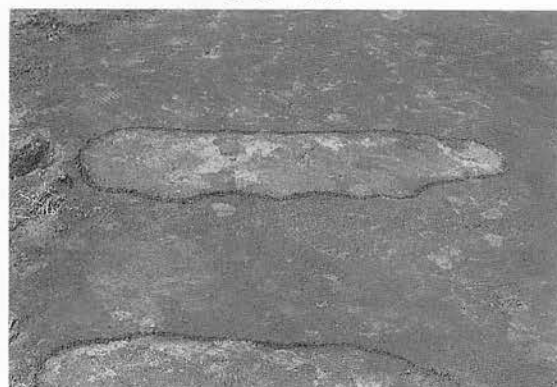
RF01 埋土断面



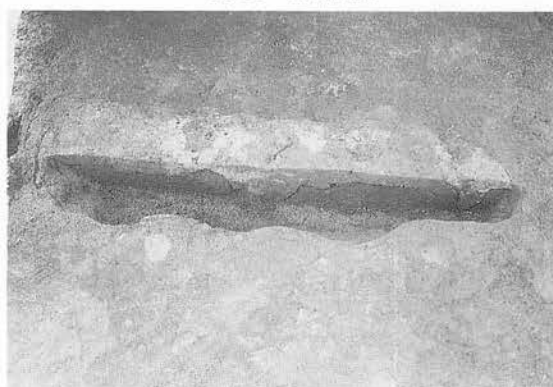
RF02 平面



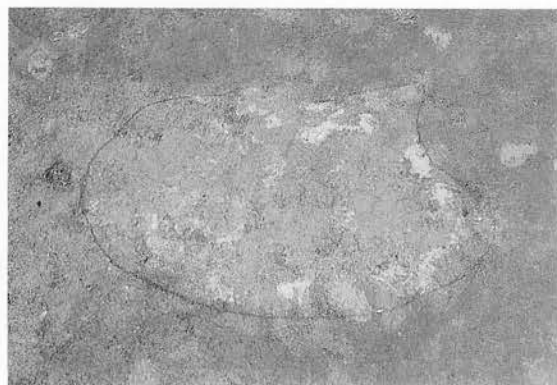
RF02 埋土断面



RF03 平面



RF03 埋土断面

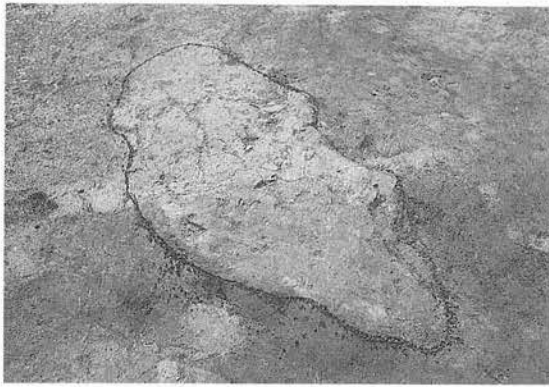


RF04 平面

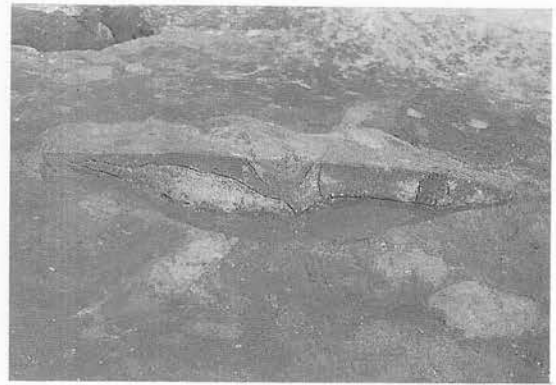


RF04 埋土断面

図版45 RF(1) 01~04



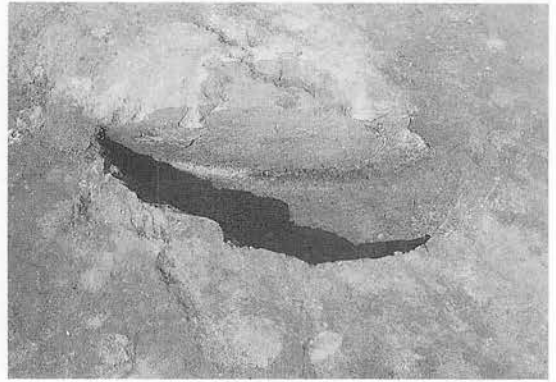
RF05 平面



RF05 埋土断面



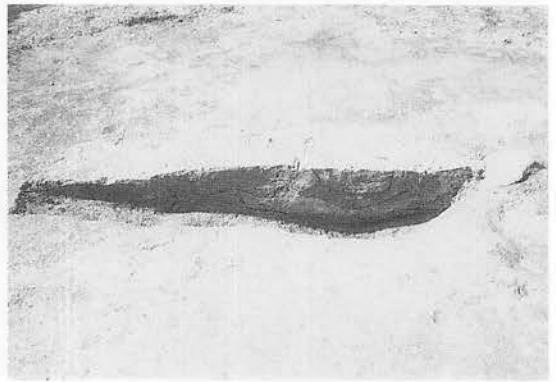
RF06 平面



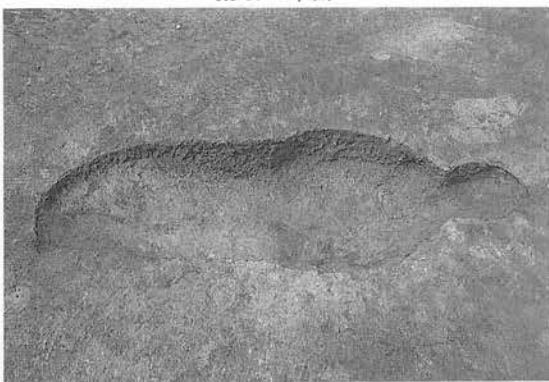
RF06 埋土断面



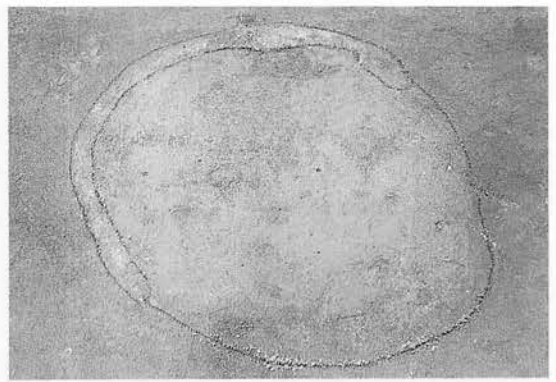
RF07 平面



RF07 埋土断面

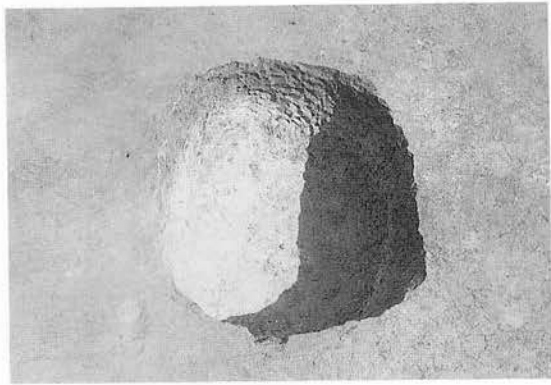


RF07 平面

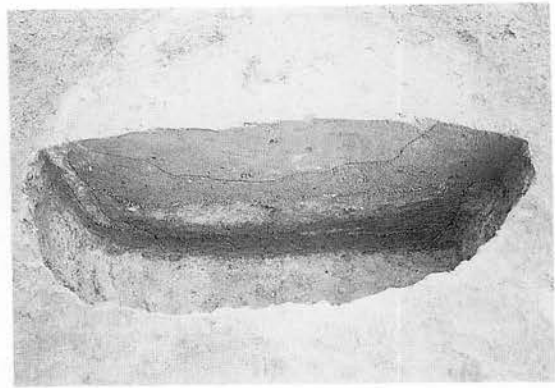


RF08 平面

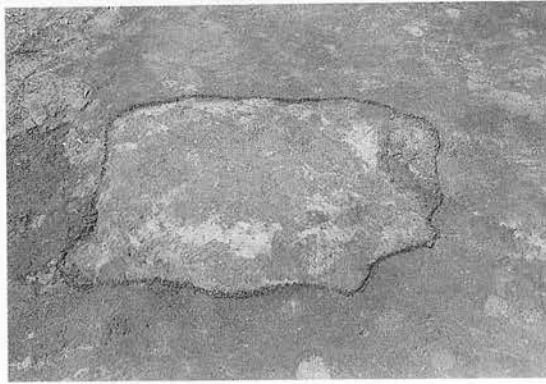
图版46 RF(2) 05~08



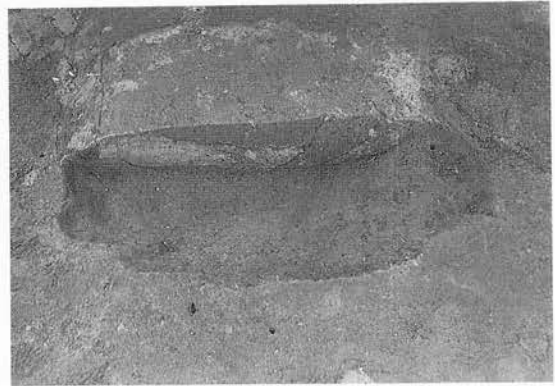
RF08 平面



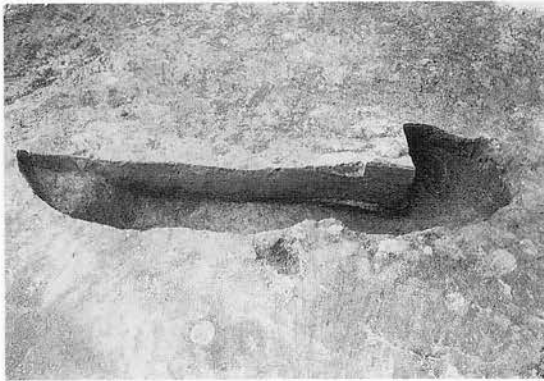
RF08 埋土断面



RF09 平面



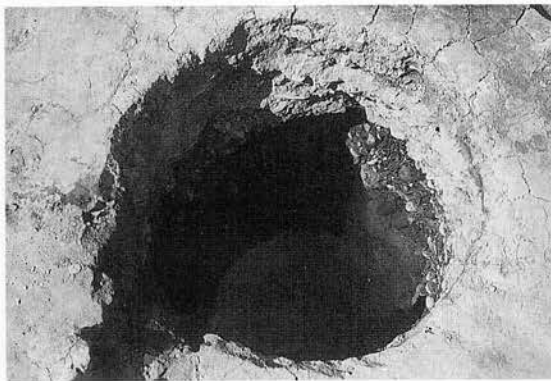
RF09 埋土断面



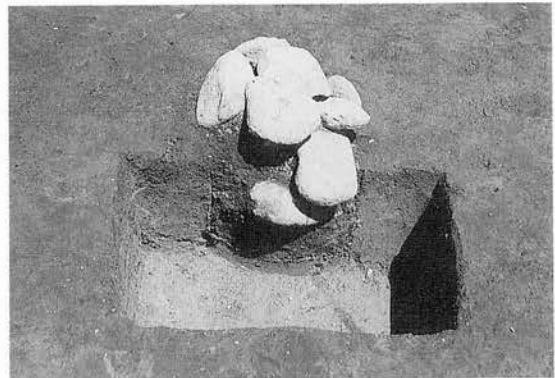
RF10 埋土断面



RH01 平面

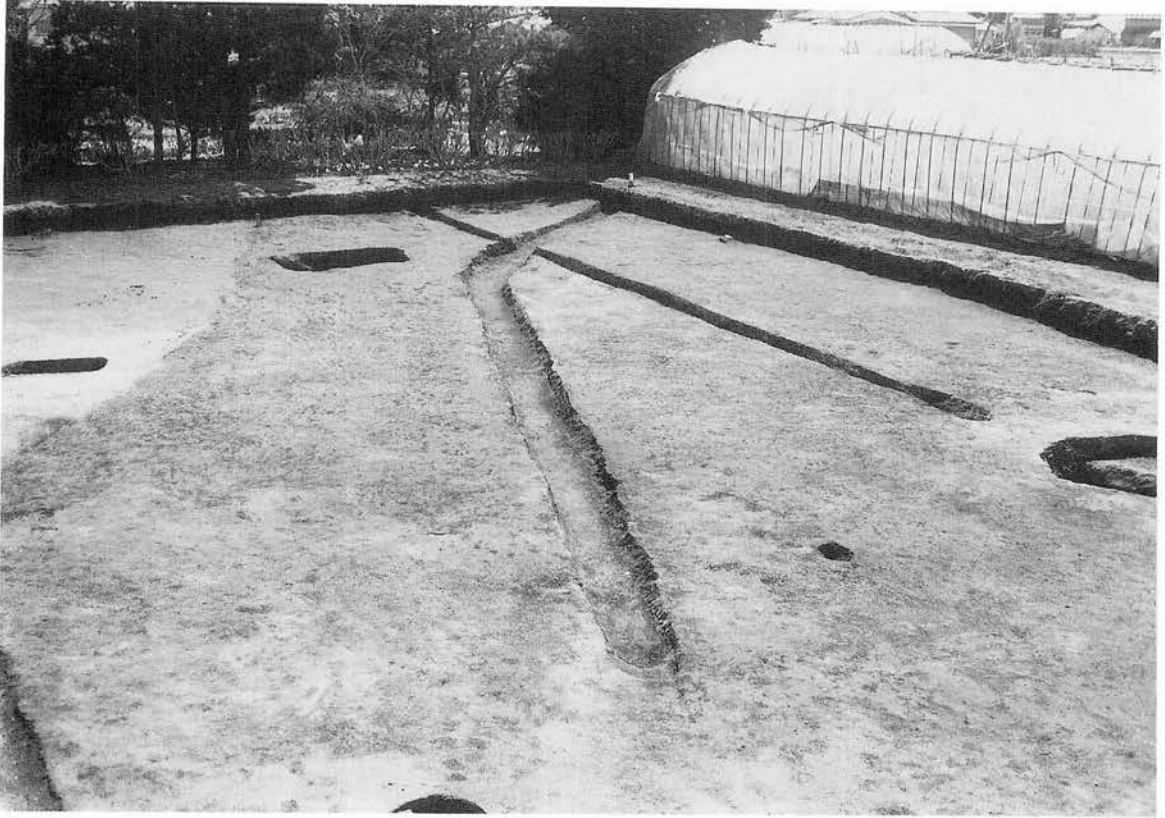


RI01 平面

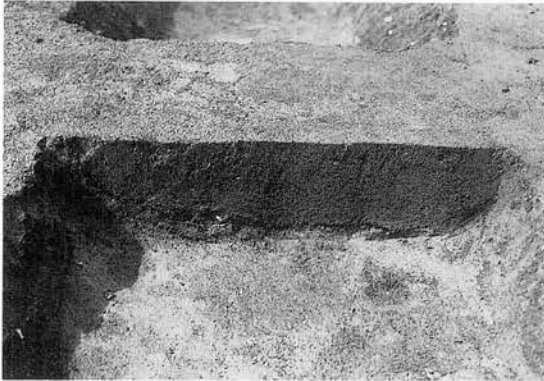


RH01 埋土断面

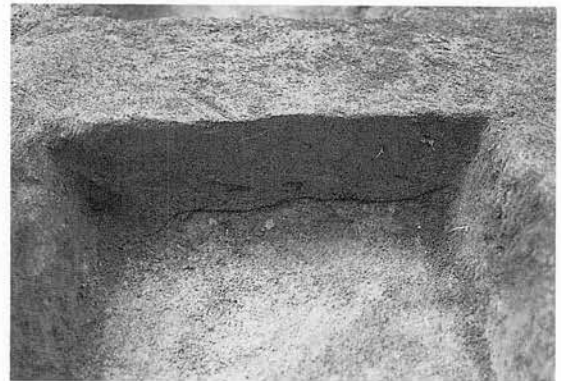
图版47 RF(3) 08~10·RH01·RI01



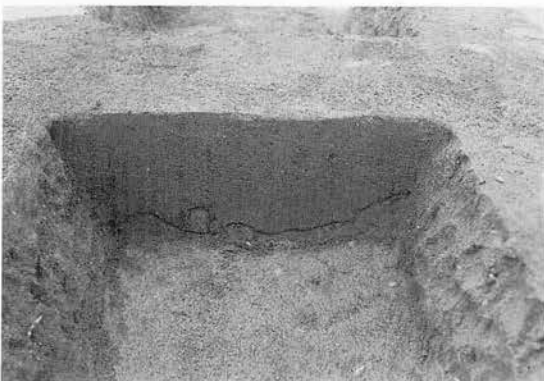
RG01 平面 (北西→)



RG01 埋土断面A



RG01 埋土断面B



RG01 埋土断面C



RG01 埋土断面D

图版48 RG01



RG02 北辺 (西→)



RG02 西辺 (南→)

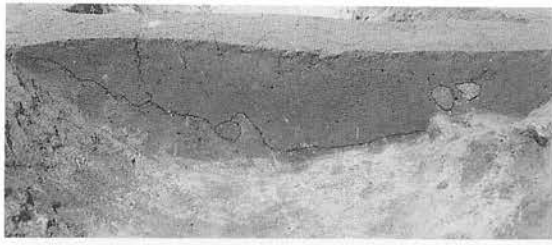


RG02 西辺 (北→)



RG02 南西隅 (南→)

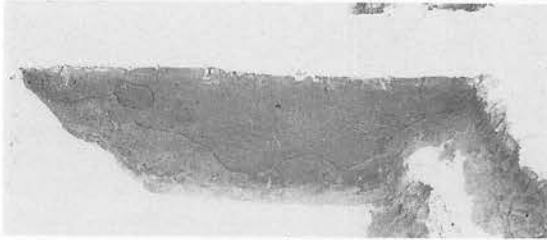
図版49 RG02(1)



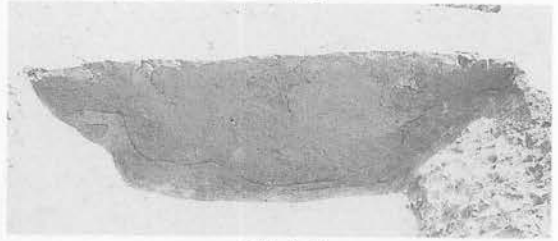
ベルトA



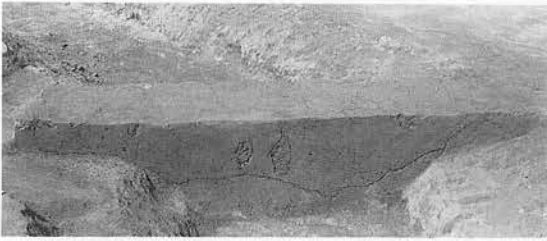
ベルトH



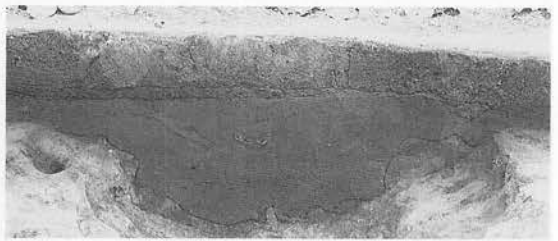
ベルトB



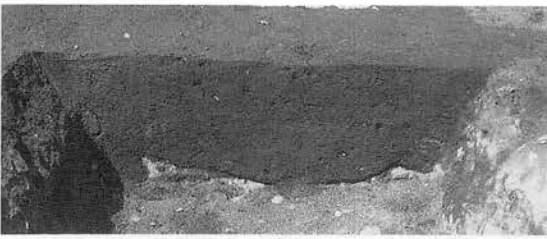
ベルトI



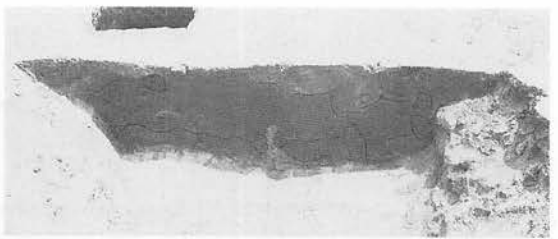
ベルトC



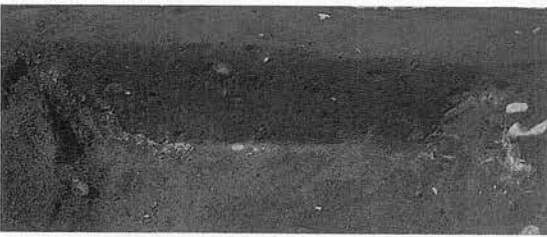
ベルトJ



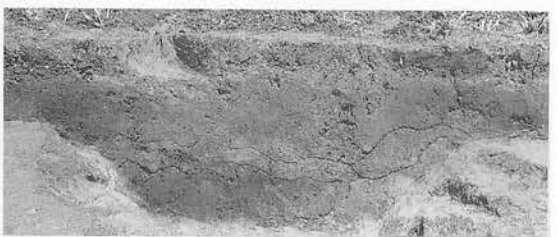
ベルトE



ベルトK



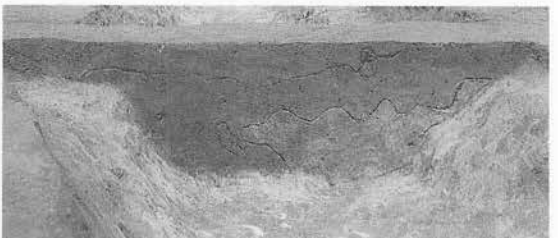
ベルトF



ベルトL



ベルトG

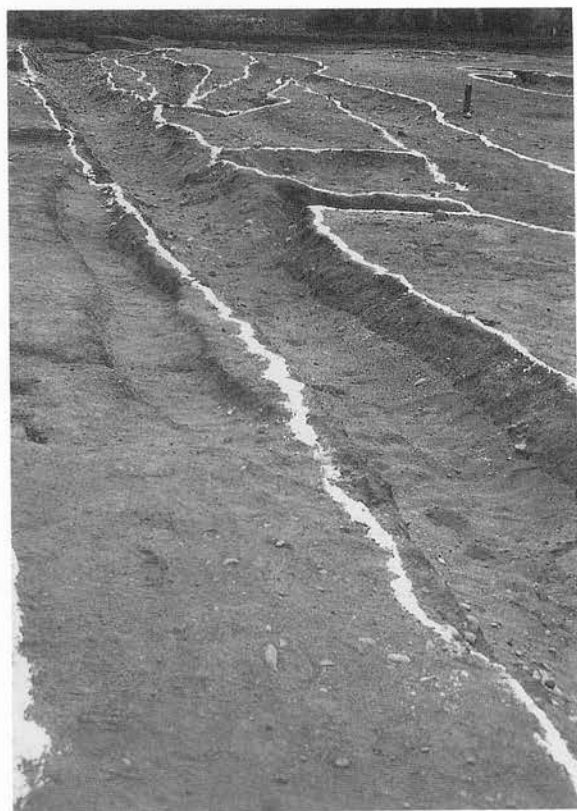


ベルトM

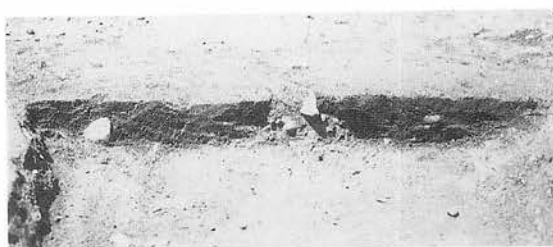
図版50 RG02(2)



RG03 平面 (西→)



RG04 平面 (北西→)



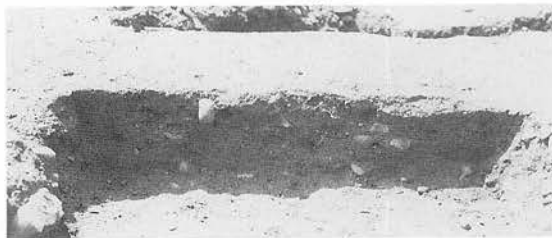
RG03 埋土断面F



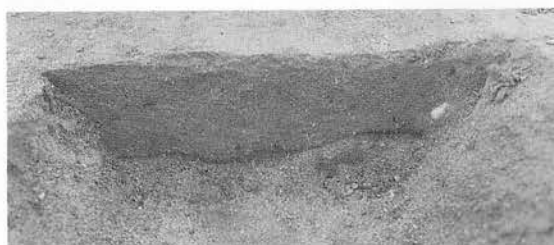
RG03 埋土断面G



RG03 埋土断面H



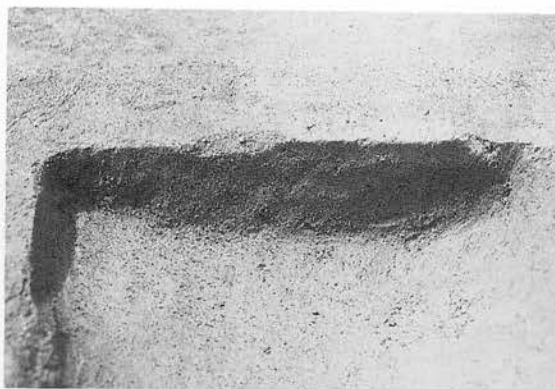
RG04 埋土断面I



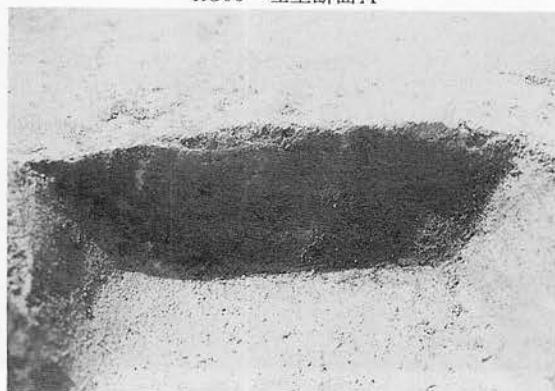
RG04 埋土断面J



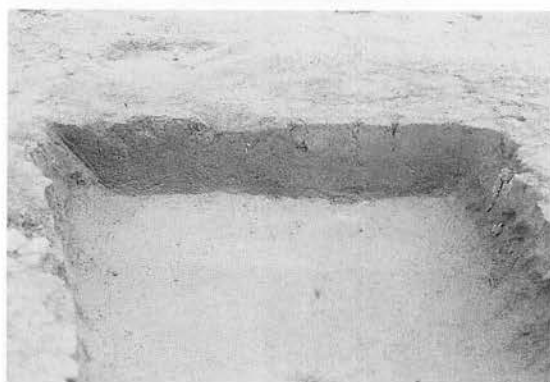
RG06 平面 (南西→)



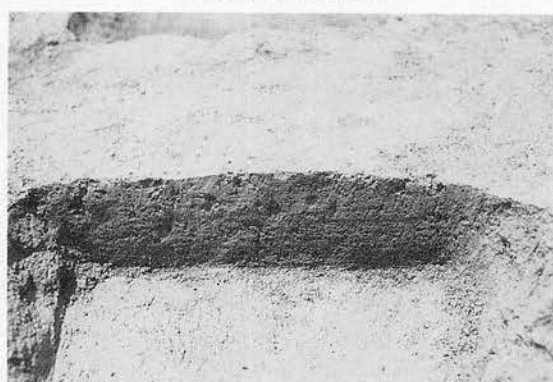
RG06 埋土断面A



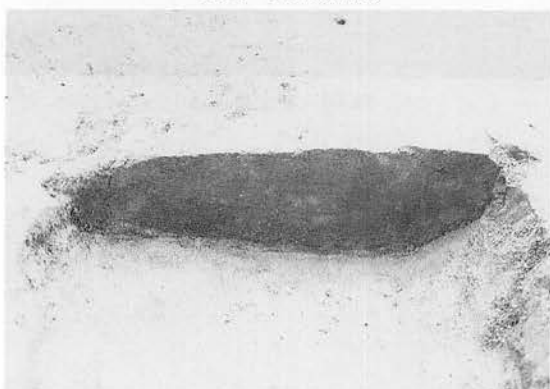
RG06 埋土断面B



RG06 埋土断面D



RG06 埋土断面C



RG06 埋土断面E

图版52 RG06



RG07 平面 (東→)



RG07 埋土断面K



RG07 埋土断面L



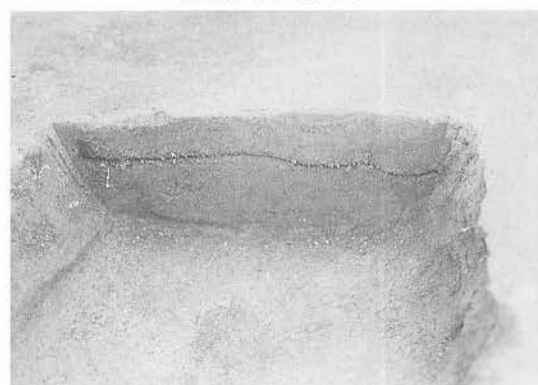
RG07 埋土断面M



RG08 平面 (東→)



RG08 埋土断面N



RG08 埋土断面O

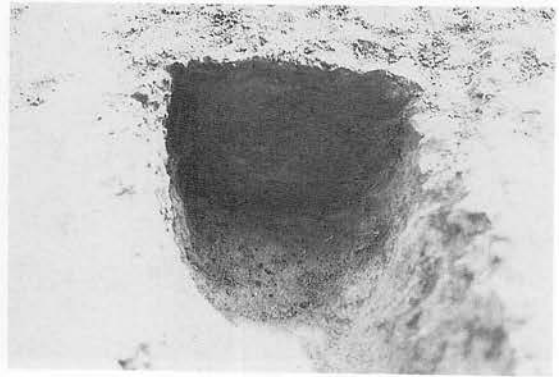
图版53 RG07·08



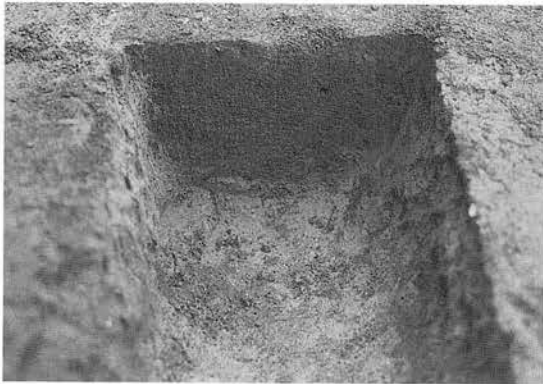
RG09 平面 (北東→)



RG09 埋土断面K



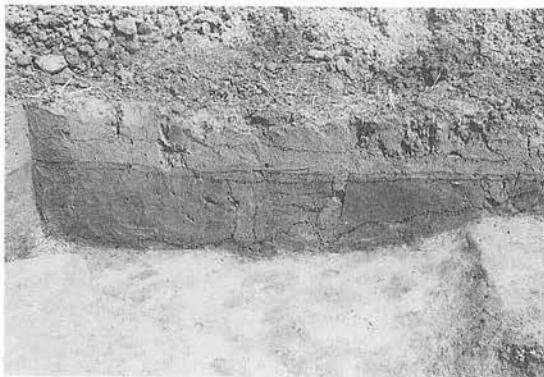
RG09 埋土断面L



RG09 埋土断面N

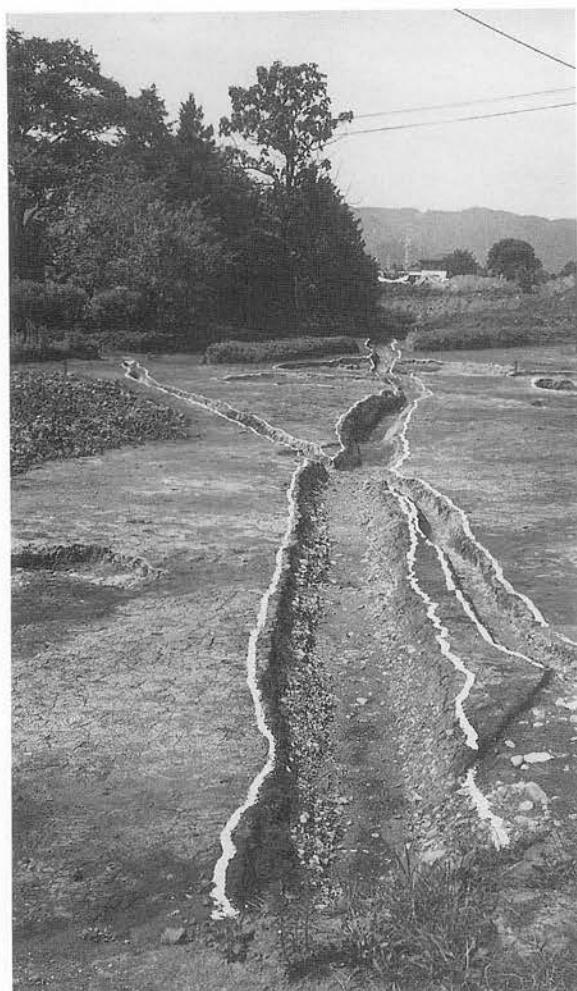


RG09 埋土断面M



RG11 埋土断面J

图版54 RG09·11



RG10 北東端 (北東→)



RG10 南端 (北→)



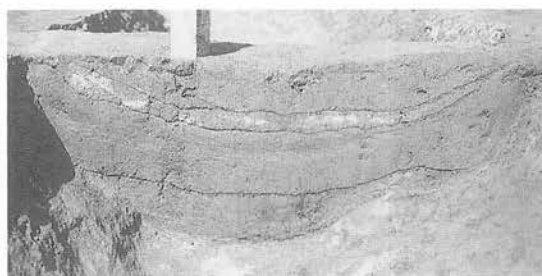
RG10 埋土断面A



RG10 埋土断面B



RG10 埋土断面C

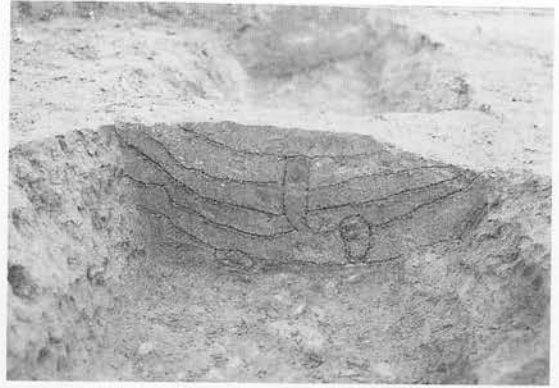


RG10 埋土断面D

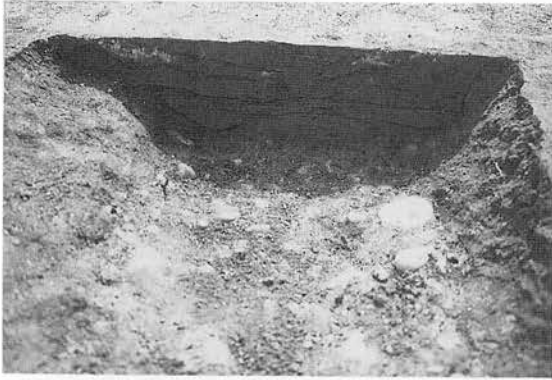
図版55 RG10(1)



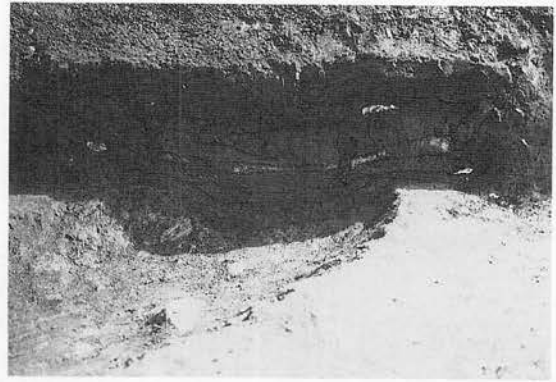
RG10 埋土断面E



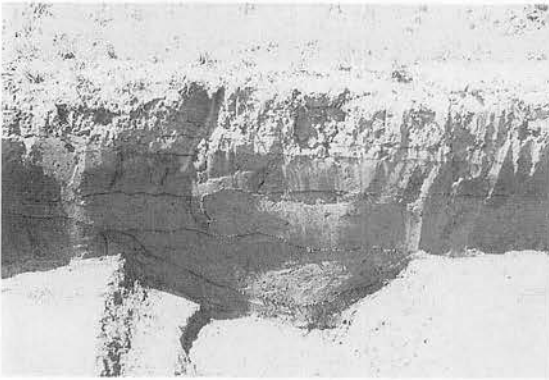
RG10 埋土断面F



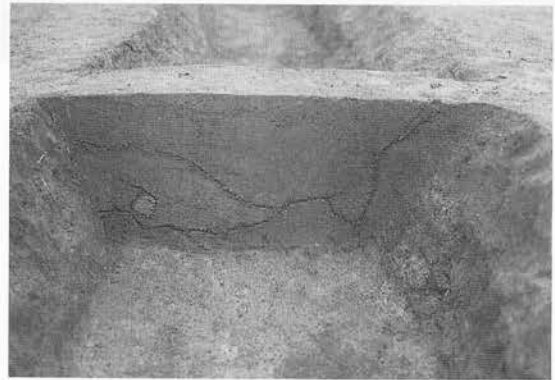
RG10 埋土断面G



RG10 埋土断面H



RG10 埋土断面I

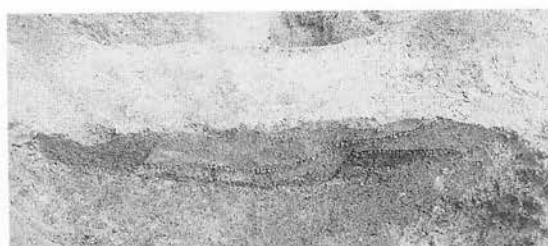


RG10 埋土断面J

图版56 RG10(2)



RG12 平面(南→)



RG12 埋土断面I



RG12 埋土断面H



RG12 埋土断面G



RG13 平面(東→)

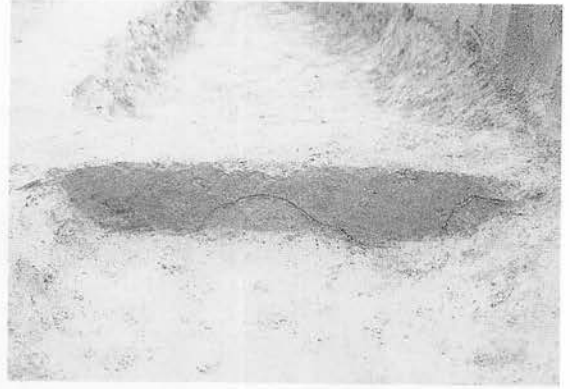


RG12 埋土断面L

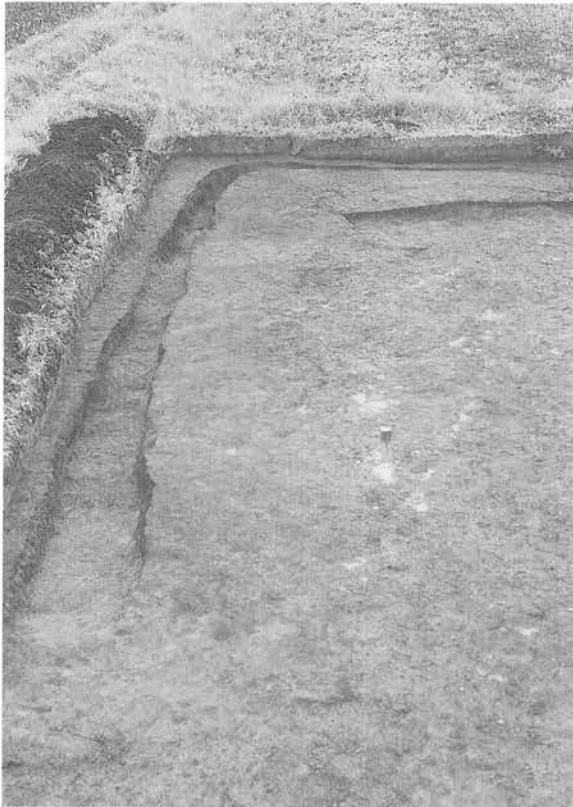
図版57 RG12・13



RG14 平面(南西→)



RG14 埋土断面F



RG15 平面(東→)



RG15 埋土断面A

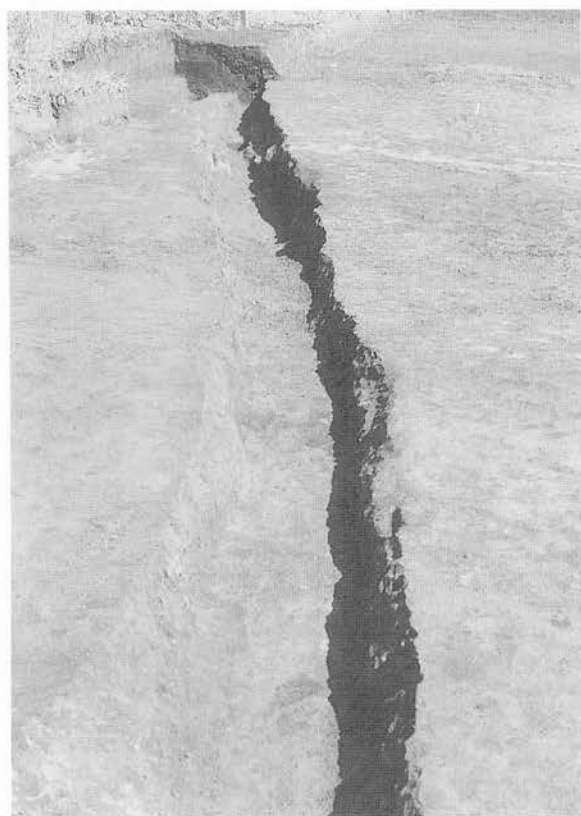


RG15 埋土断面B

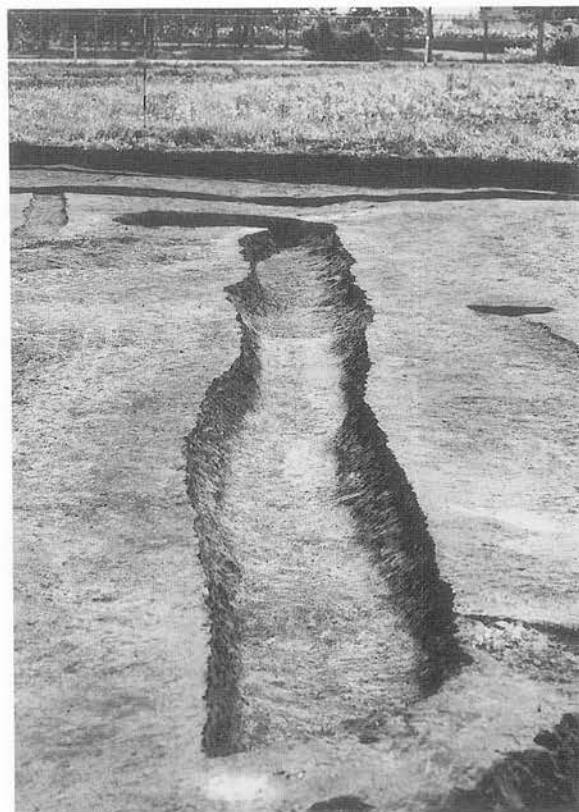


RG15 埋土断面C

图版58 RG14·15



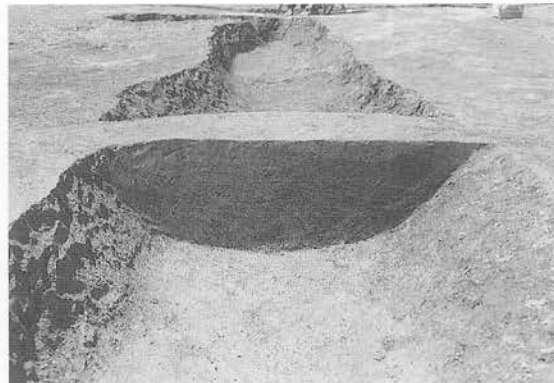
RG16,17 平面(南→)



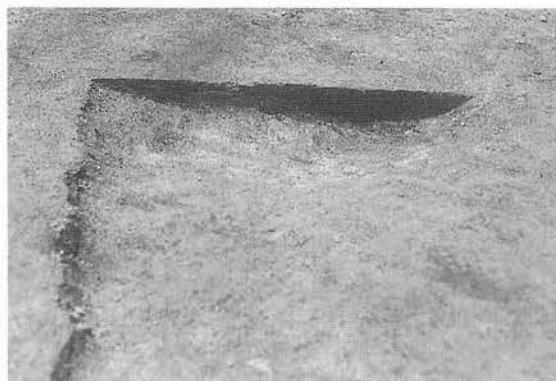
RG18 平面(東→)



RG17 埋土断面D



RG18 埋土断面A

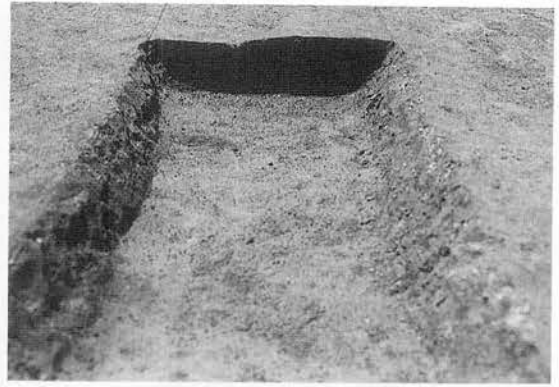


RG19 埋土断面A

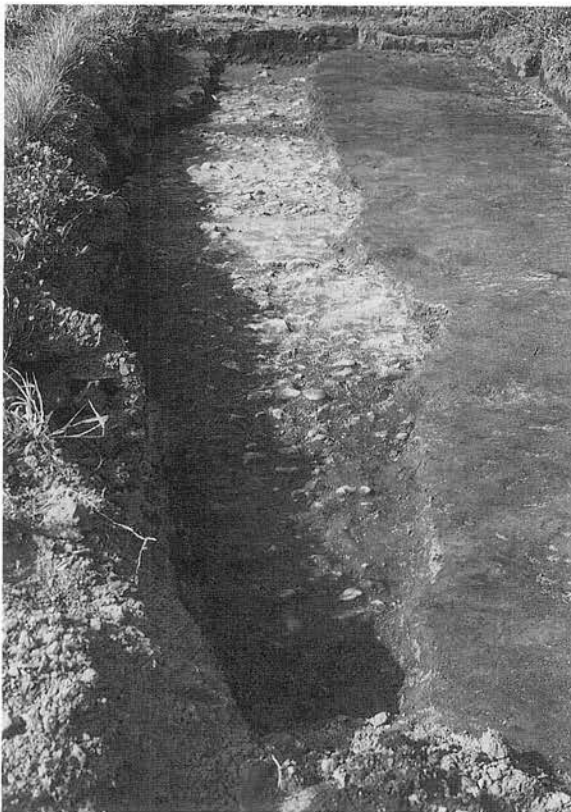
图版59 RG16~19



RG20 平面



RG20 埋土断面B

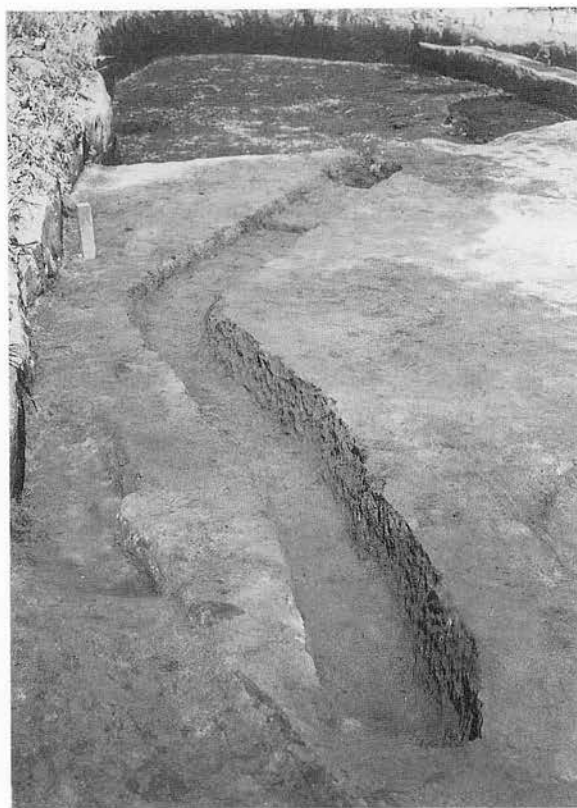


RG22 平面



RG22 埋土断面E

图版60 RG20~22



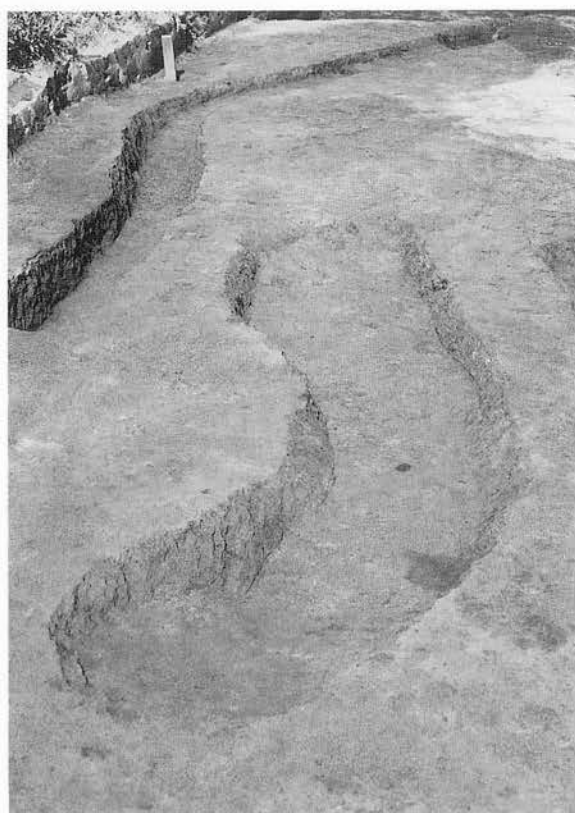
RG23 平面



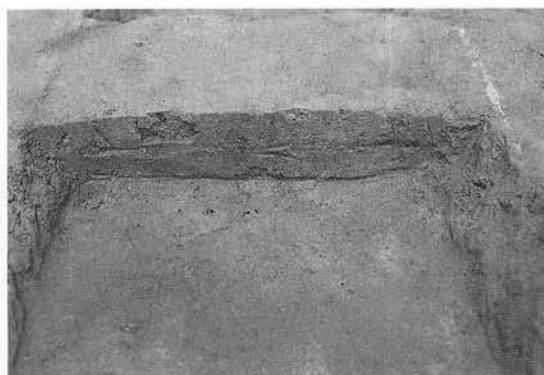
RG23 埋土断面G



RG23 埋土断面F

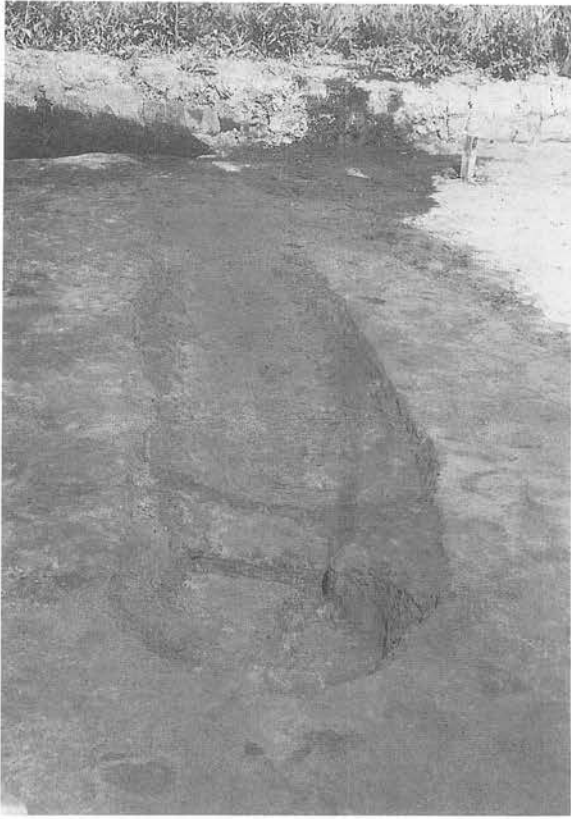


RG24 平面

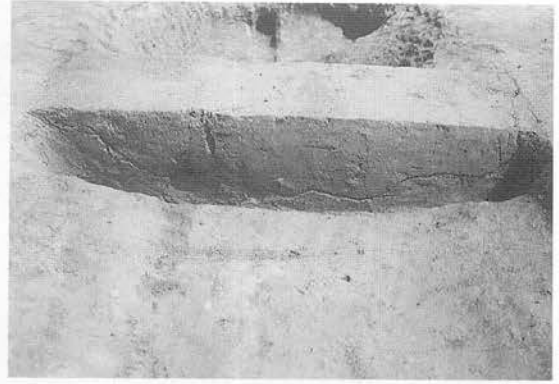


RG24 埋土断面H

图版61 RG23·24



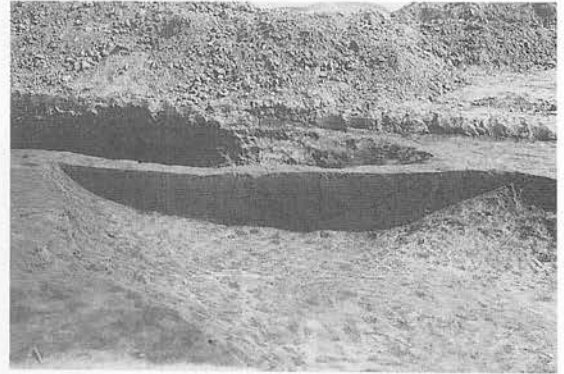
RG25 平面



RG25 埋土断面 I



RG28 平面



RG28 埋土断面 F



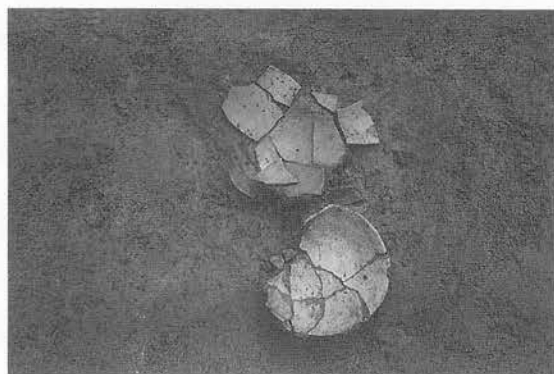
RG27 平面(東→)



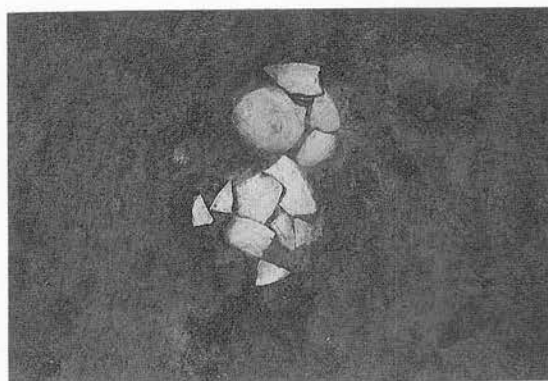
RG27 埋土断面C



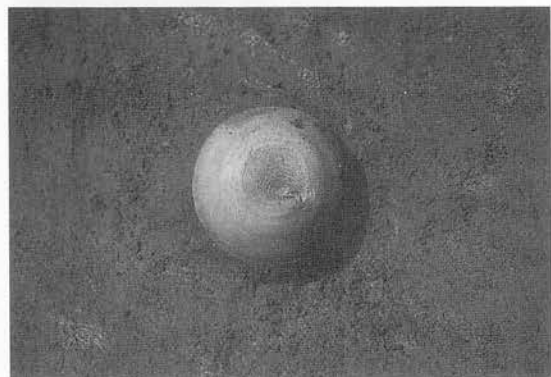
RG27 埋土断面D



RG27 遺物出土状況



RG27 遺物出土状況



RG27 遺物出土状況

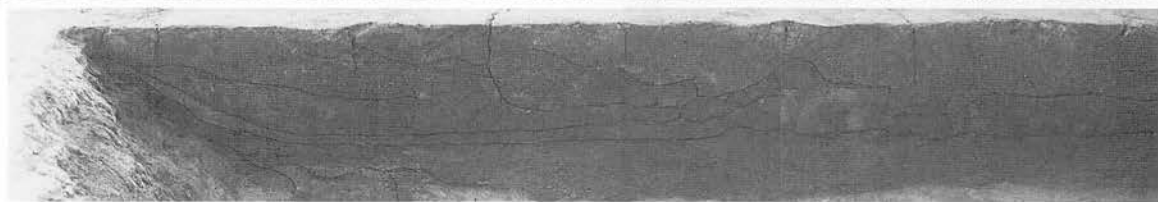
図版63 RG27



RG29 平面 (東→)



RG29 埋土断面J

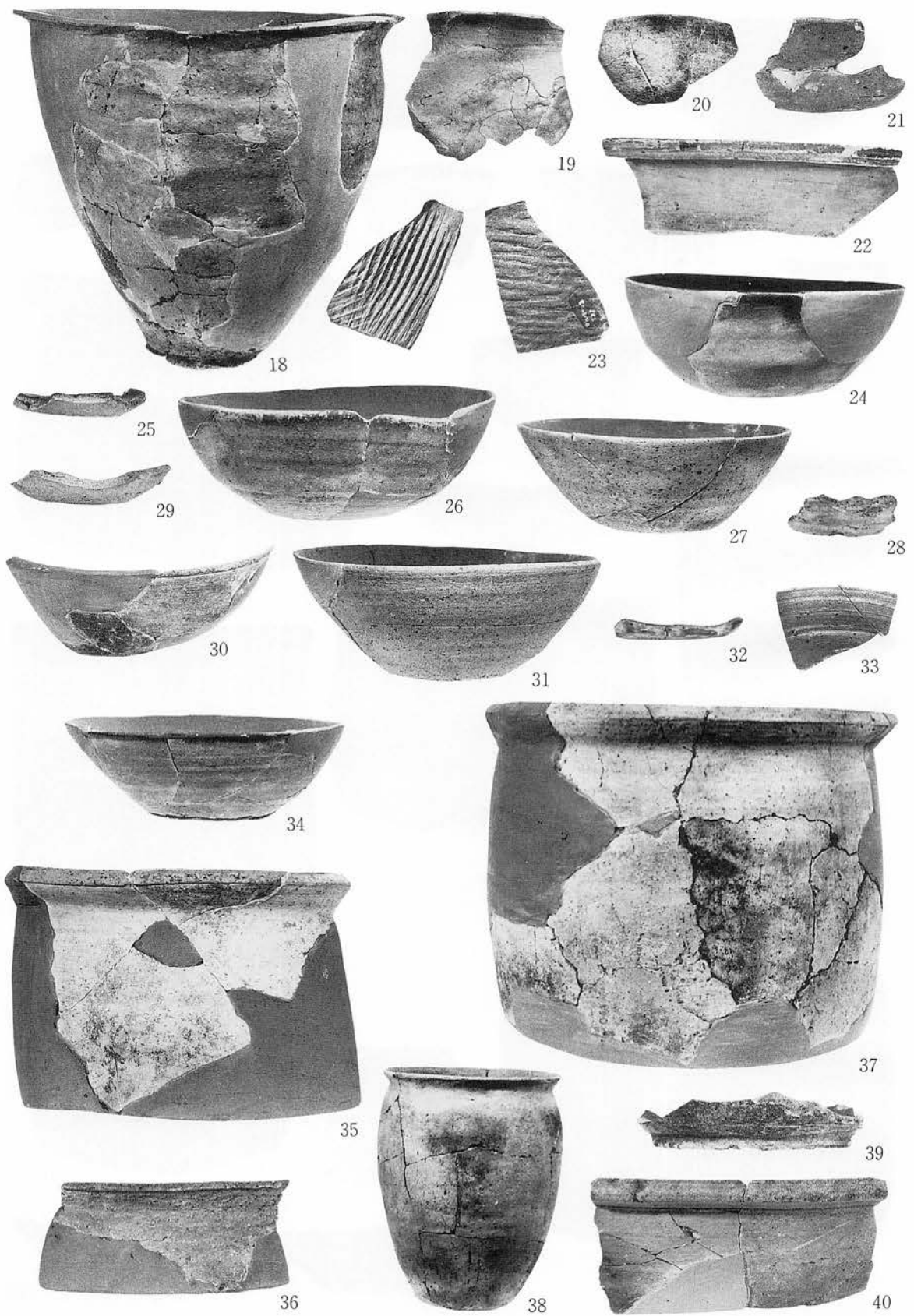


RZ01 平面・埋土断面

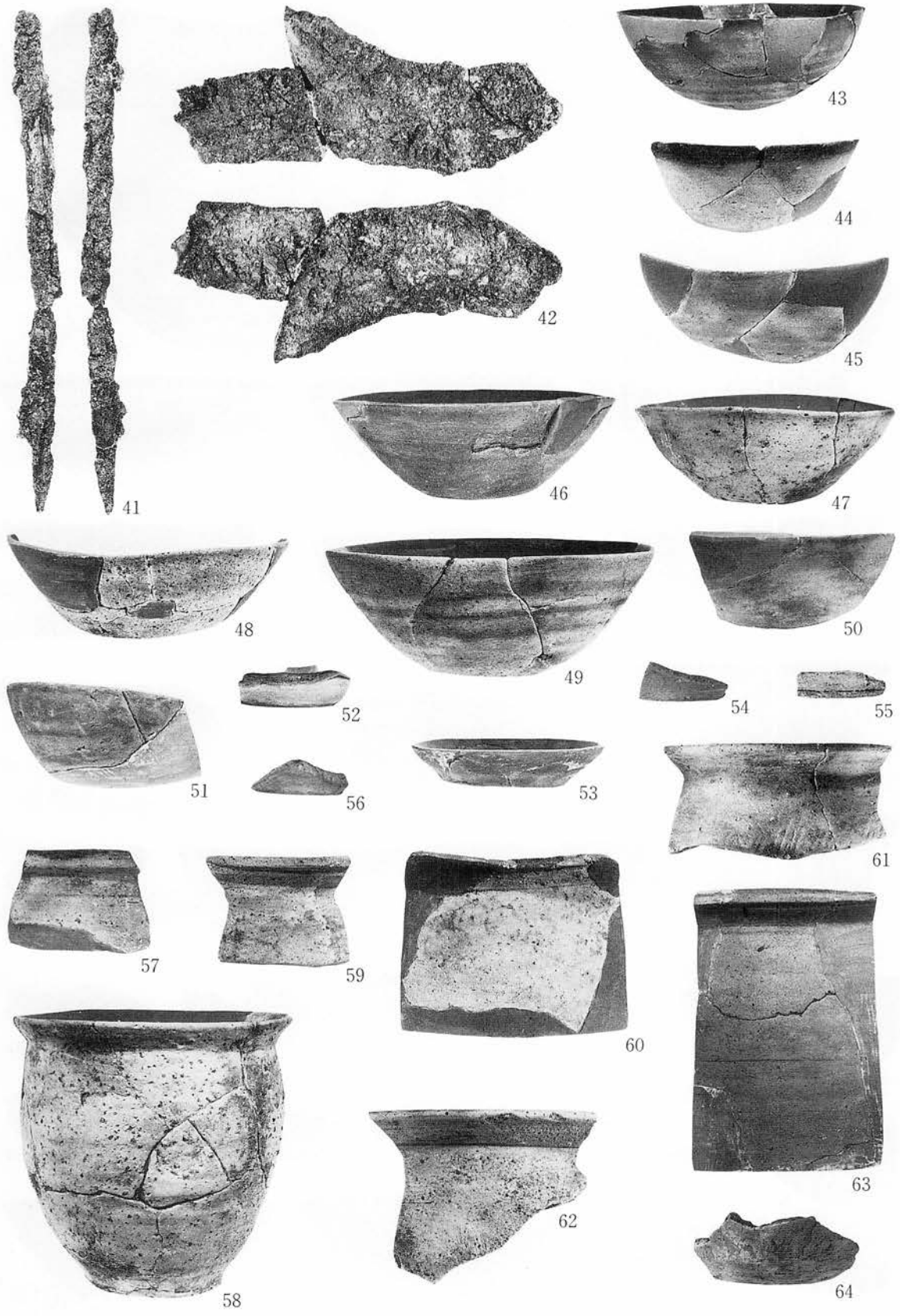
図版64 RG29・RZ01



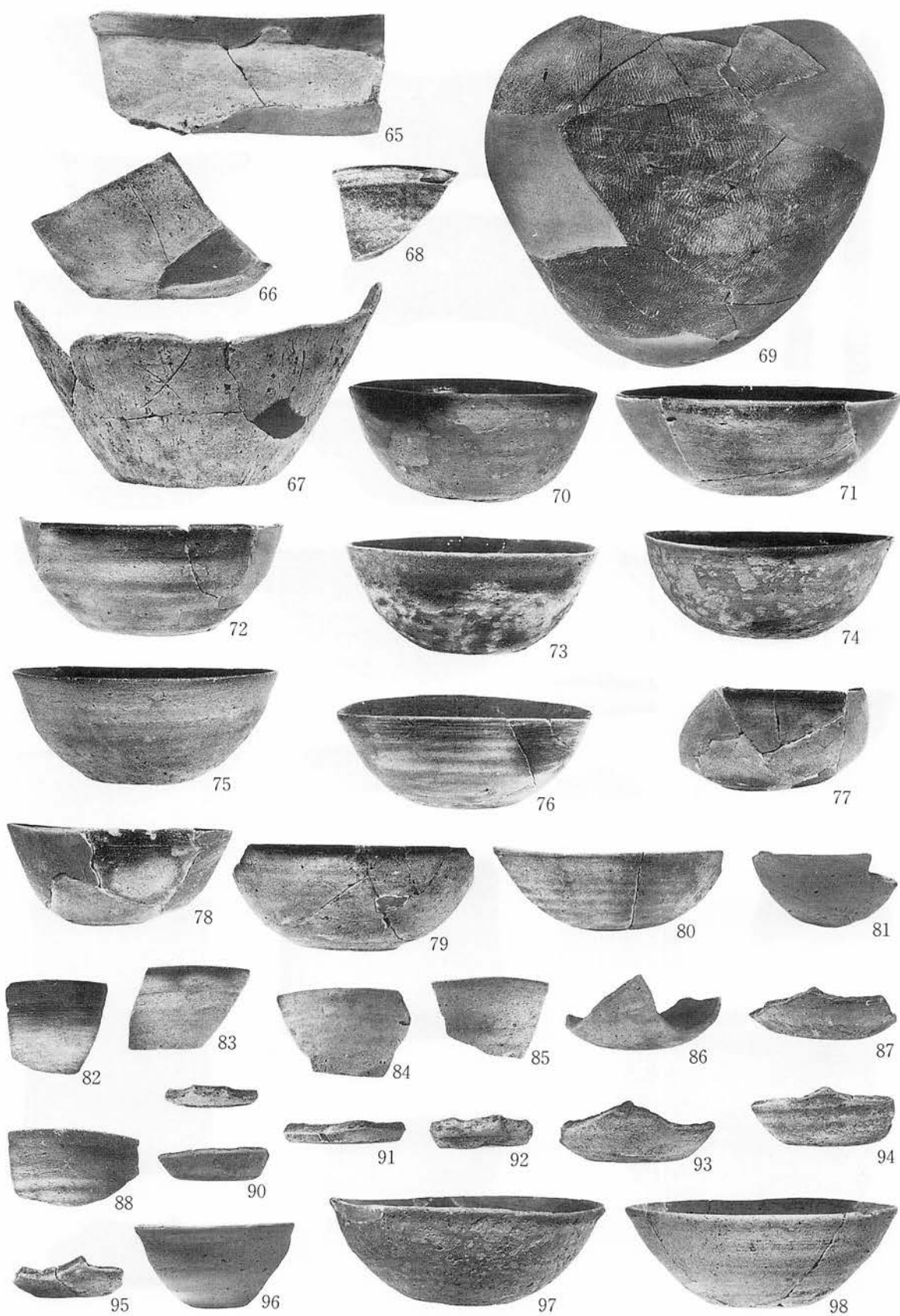
図版65 遺構内出土土器(1)



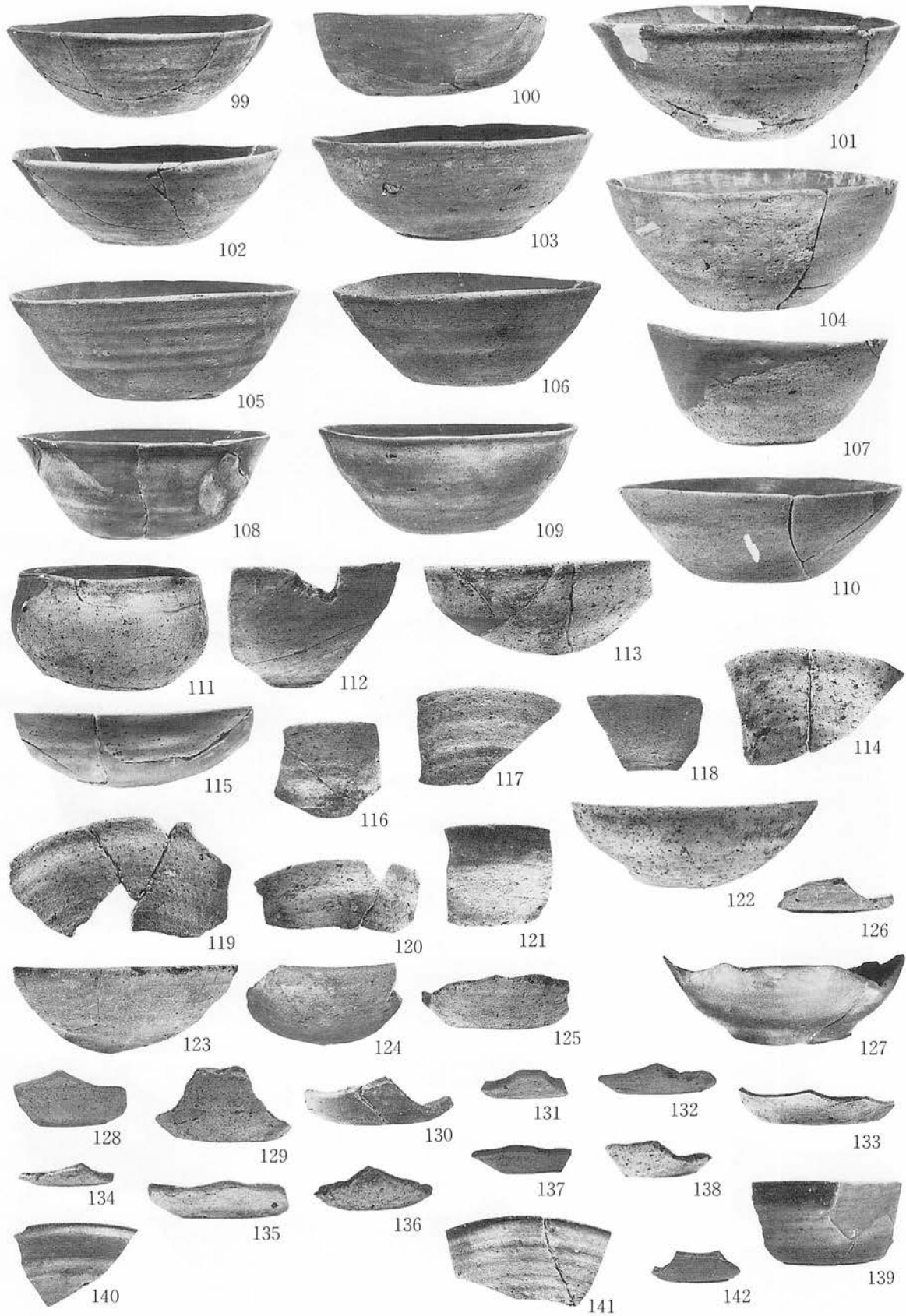
図版66 遺構内出土土器(2)



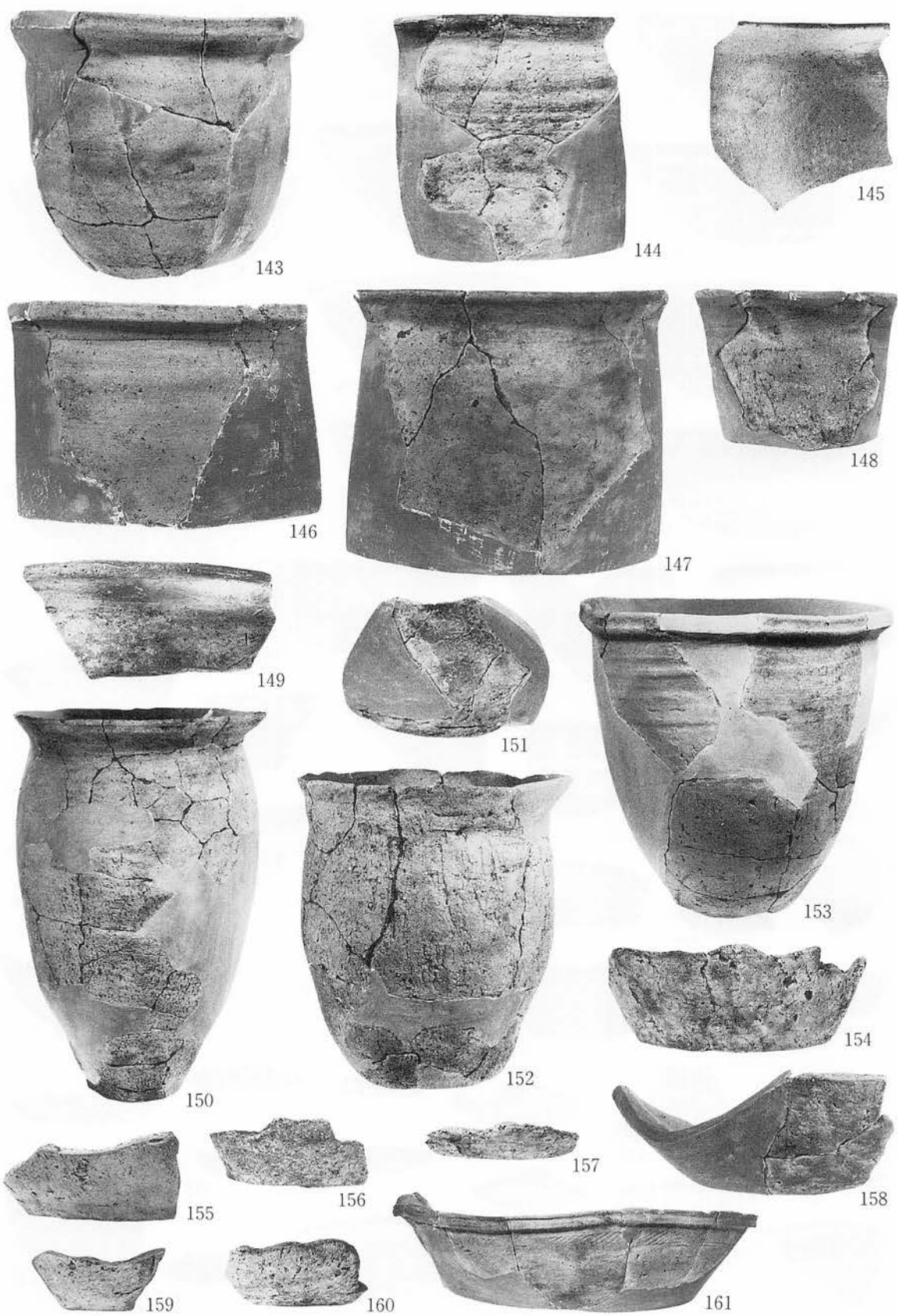
図版67 遺構内出土土器(3)



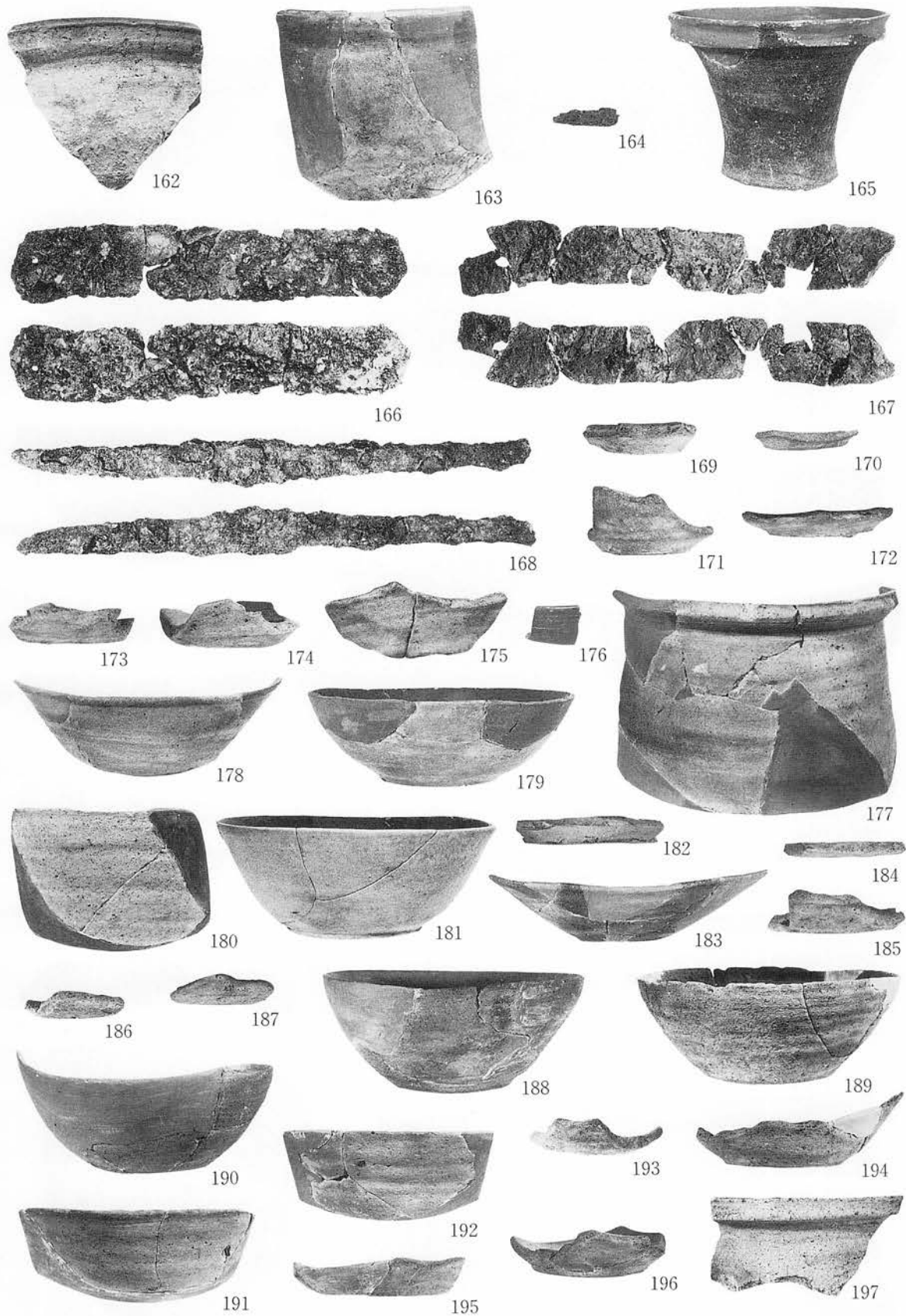
図版68 遺構内出土土器(4)



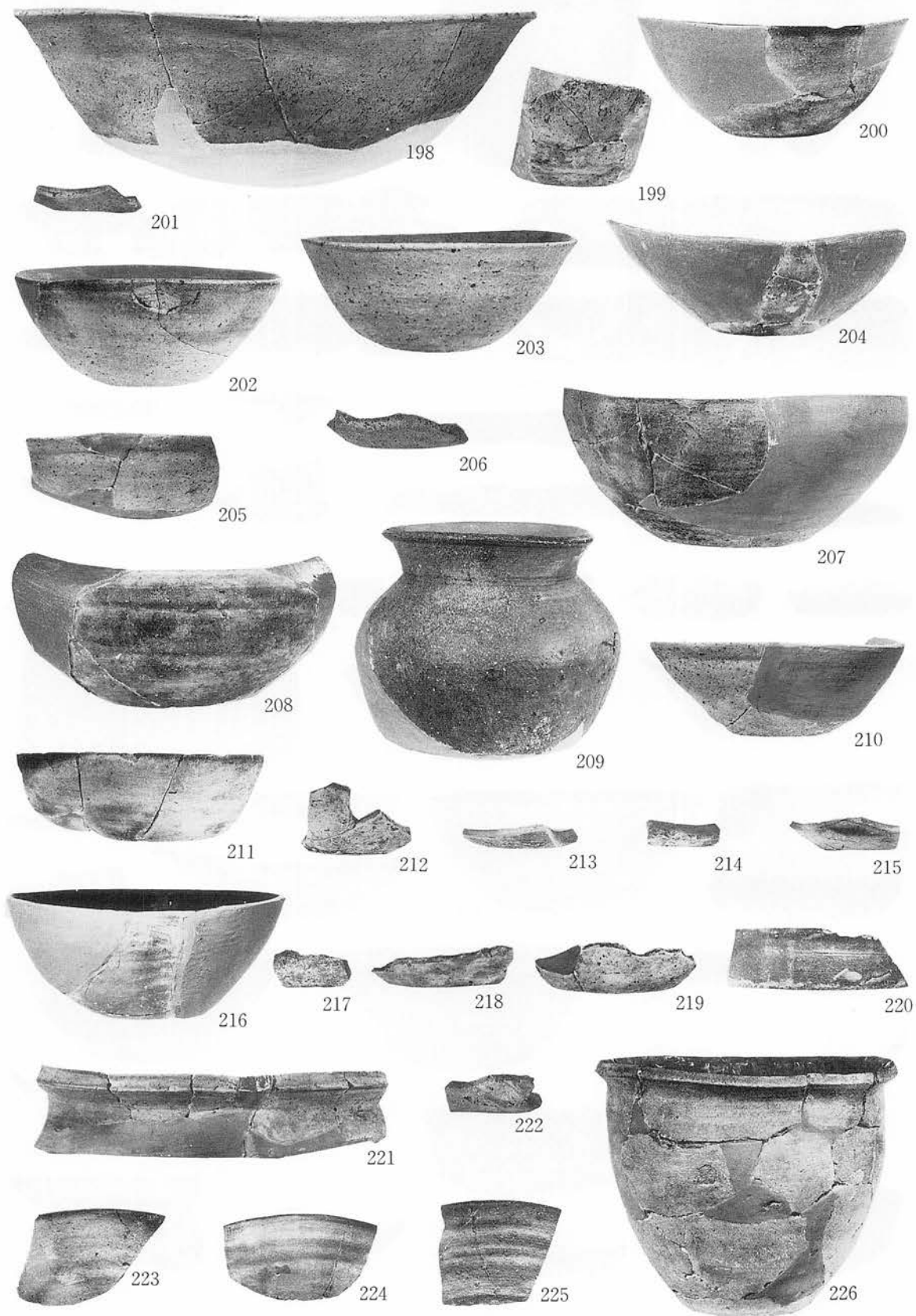
图版69 遺構内出土土器(5)



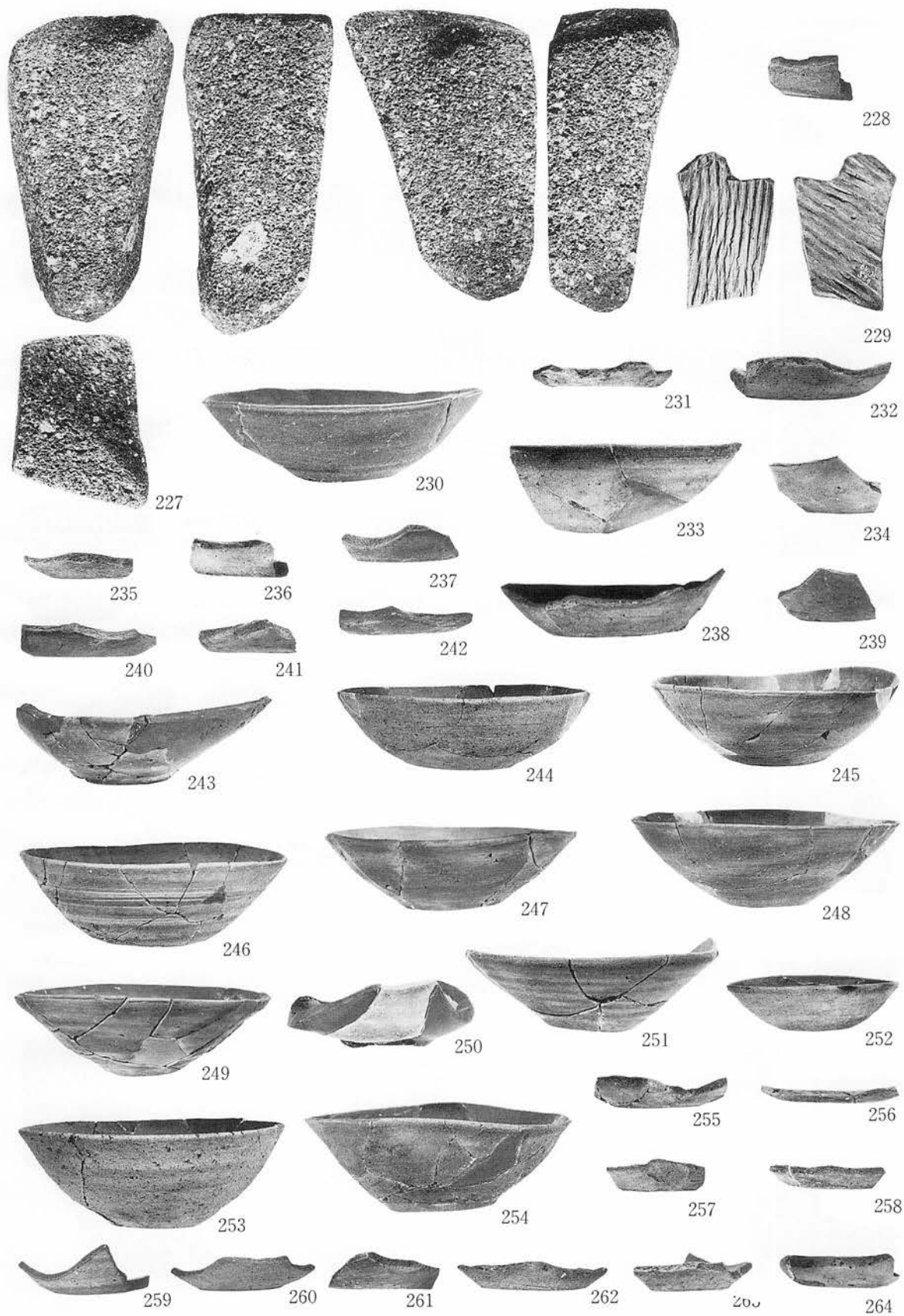
图版70 遺構内出土土器(6)



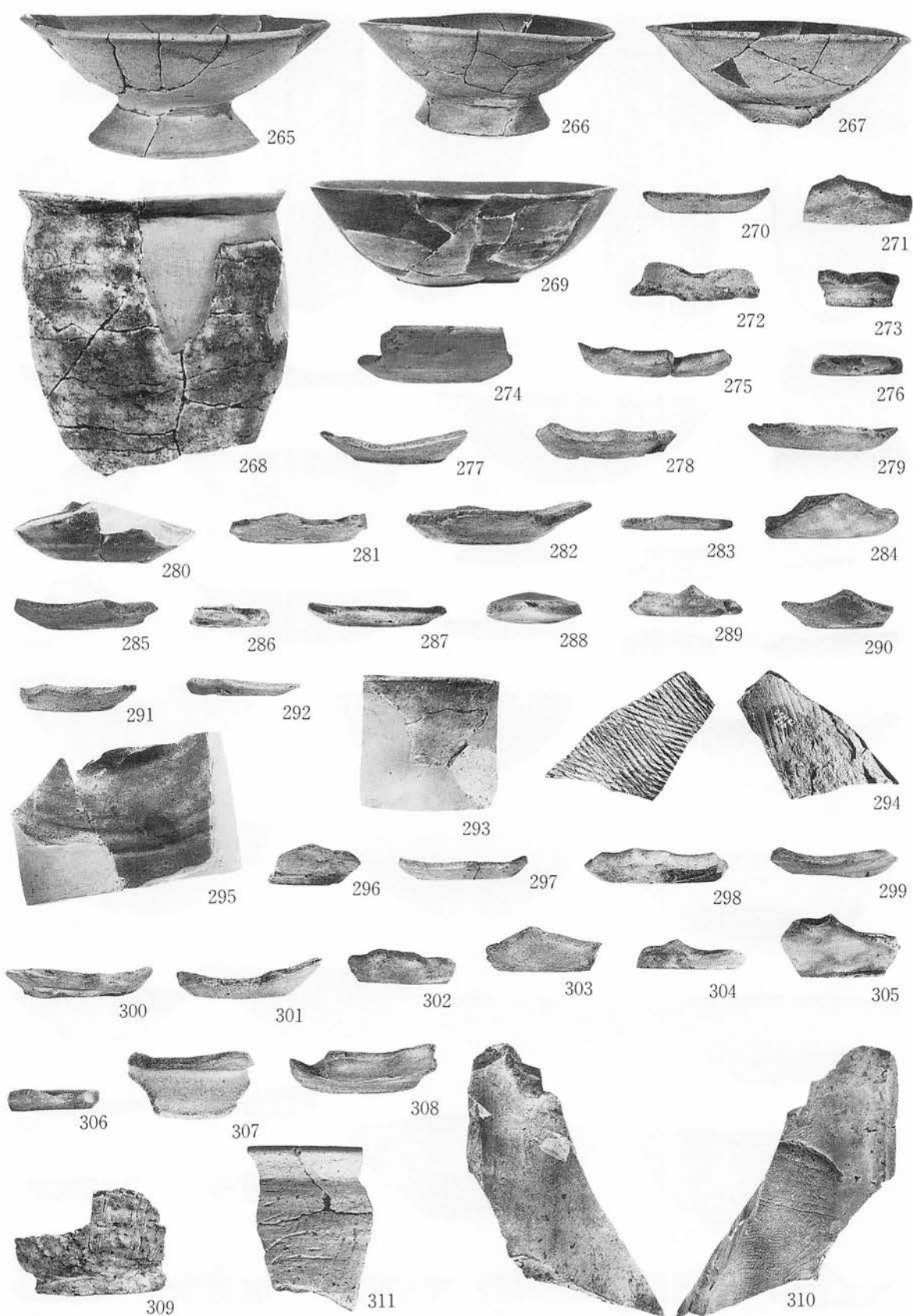
図版71 遺構内出土土器(7)



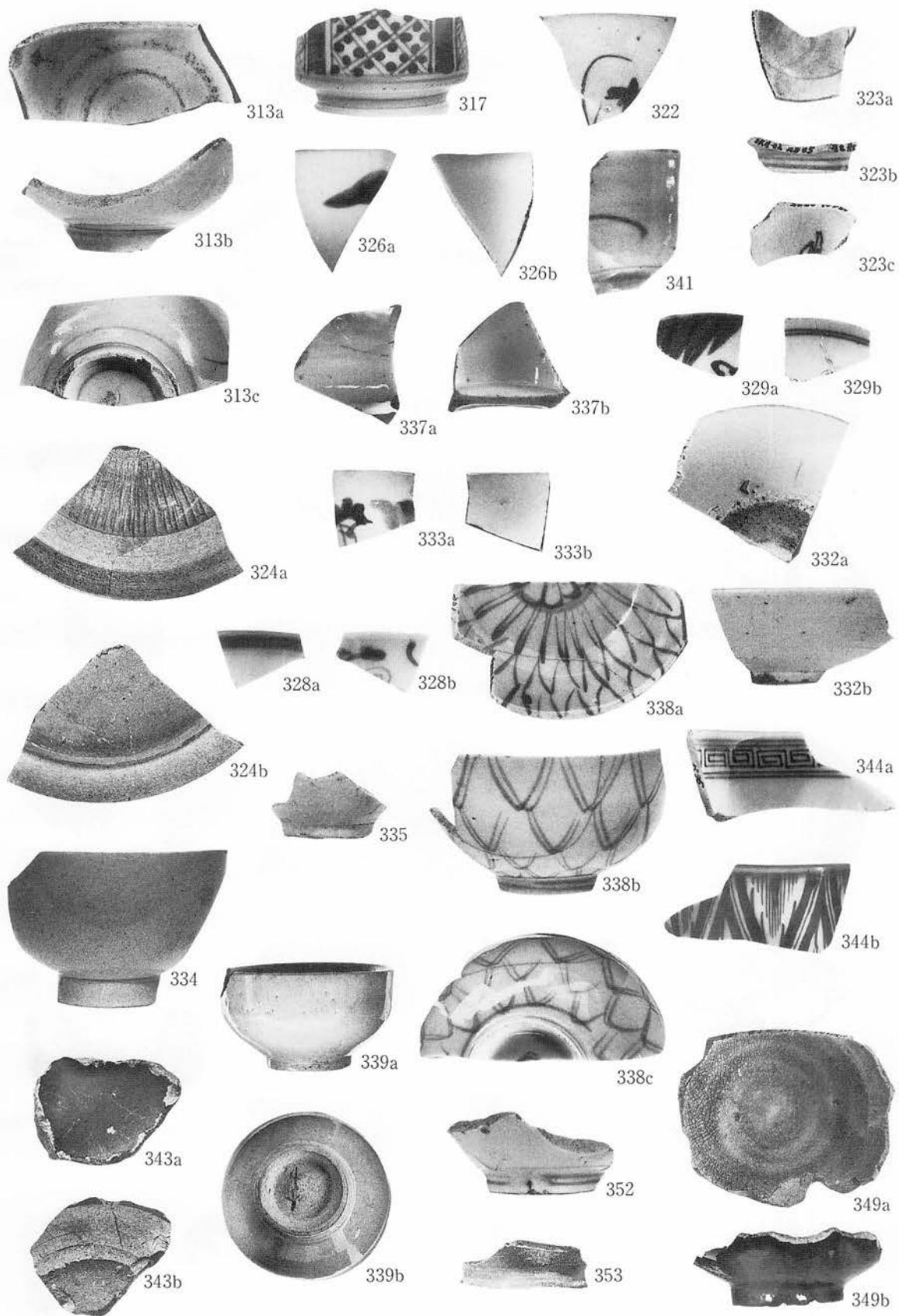
图版72 遺構内出土土器(8)



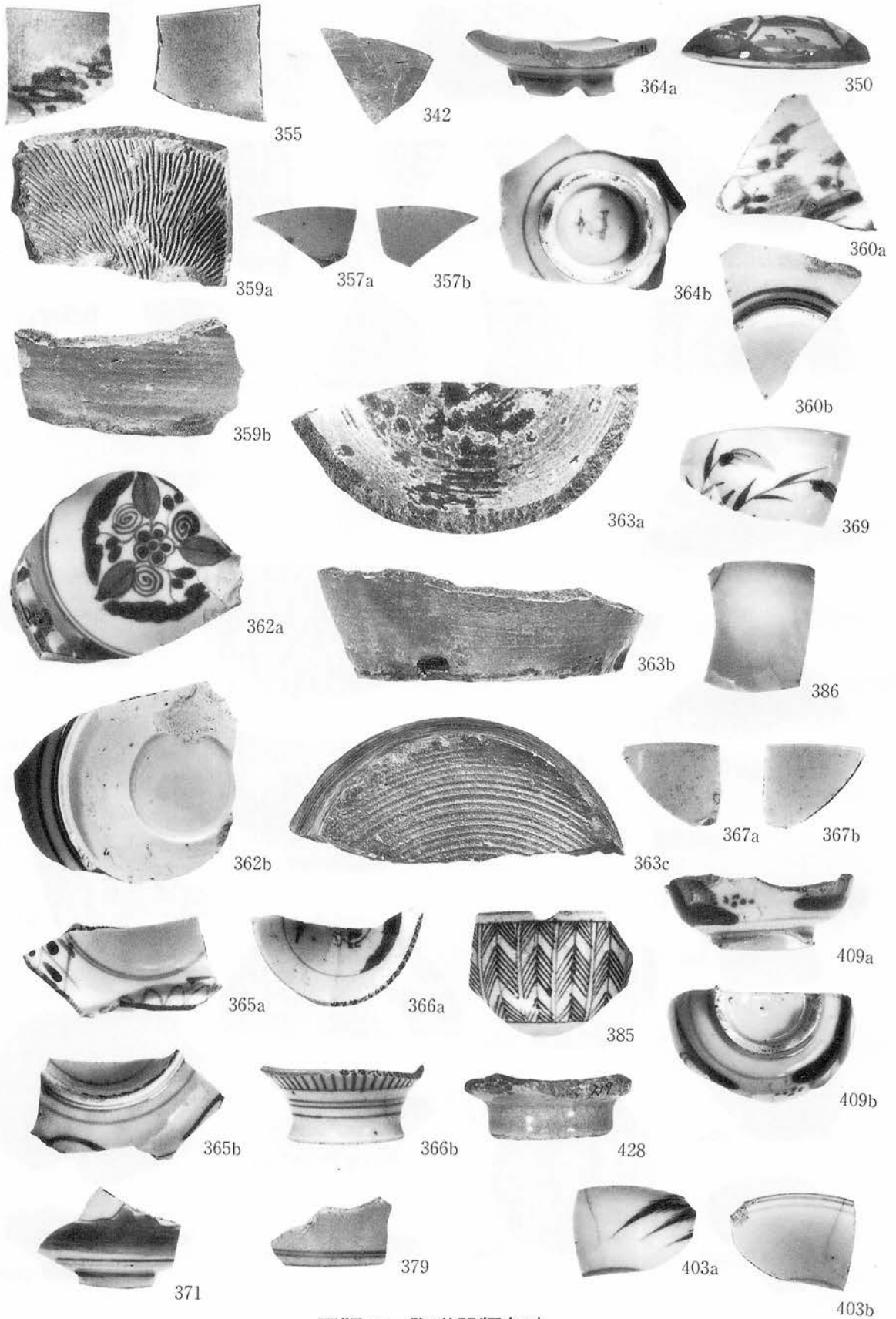
図版73 遺構内出土土器(9)



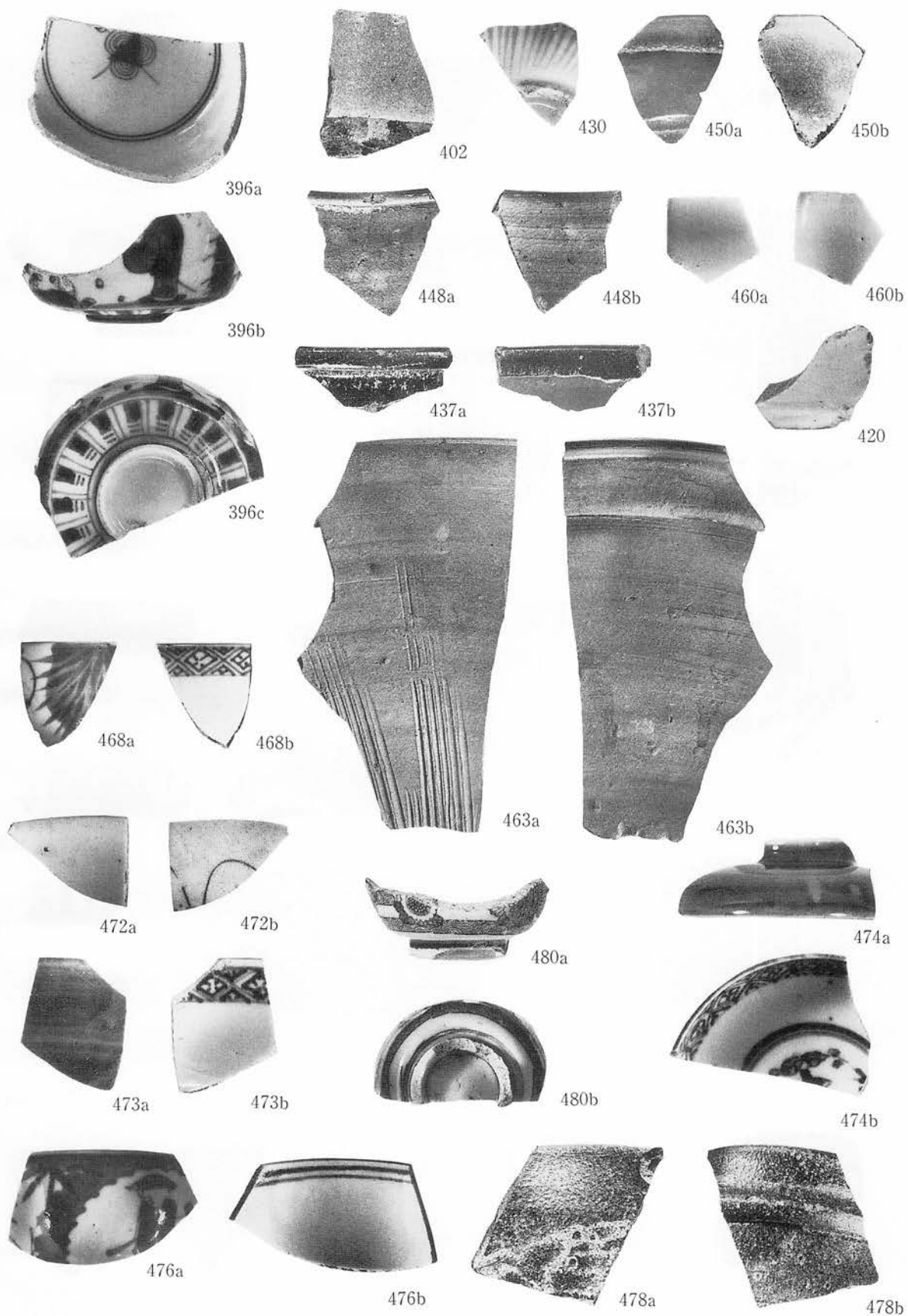
図版74 遺構内出土土器(10)・遺構外出土土器



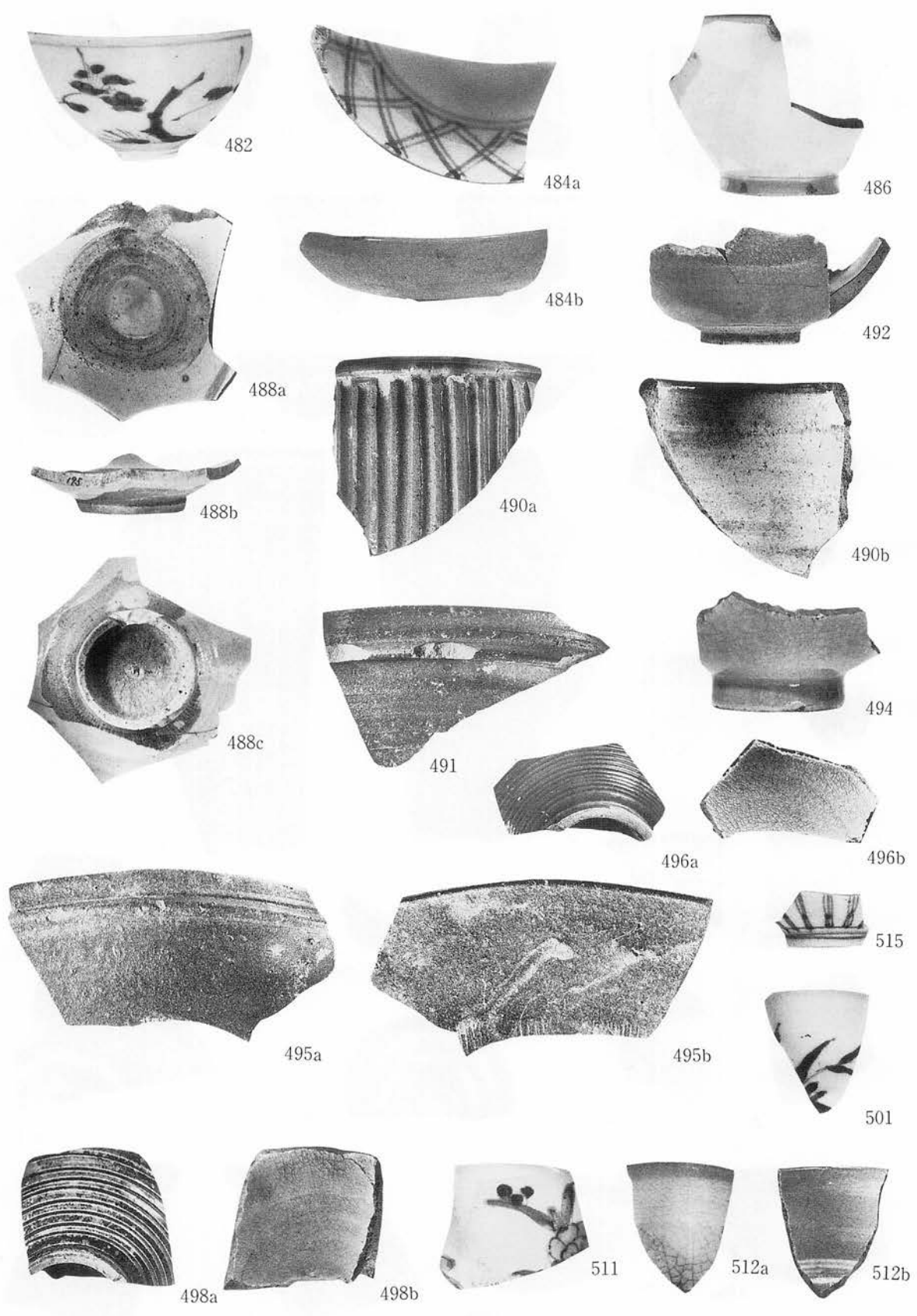
图版75 陶磁器類(1)



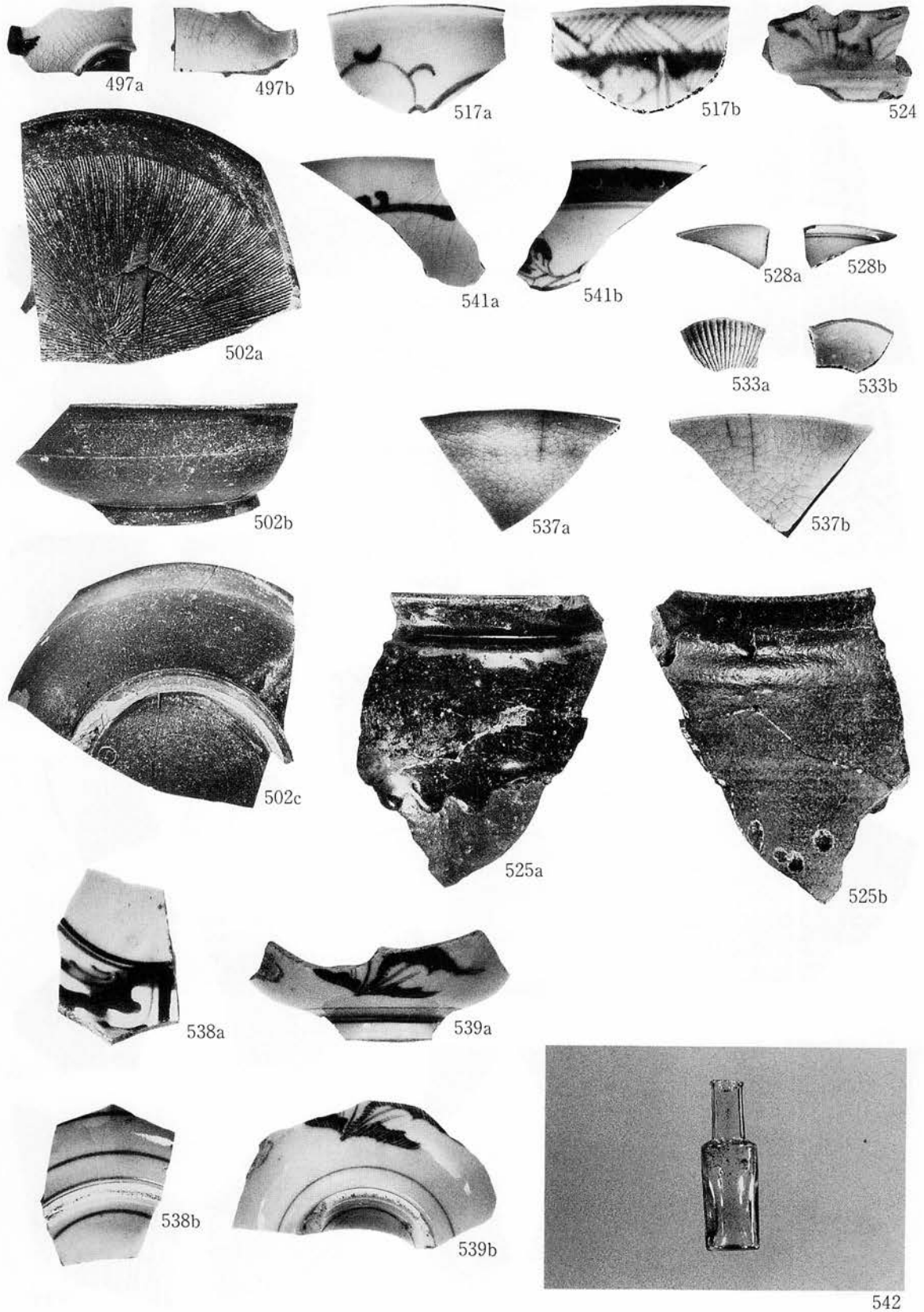
图版76 陶磁器類(2)



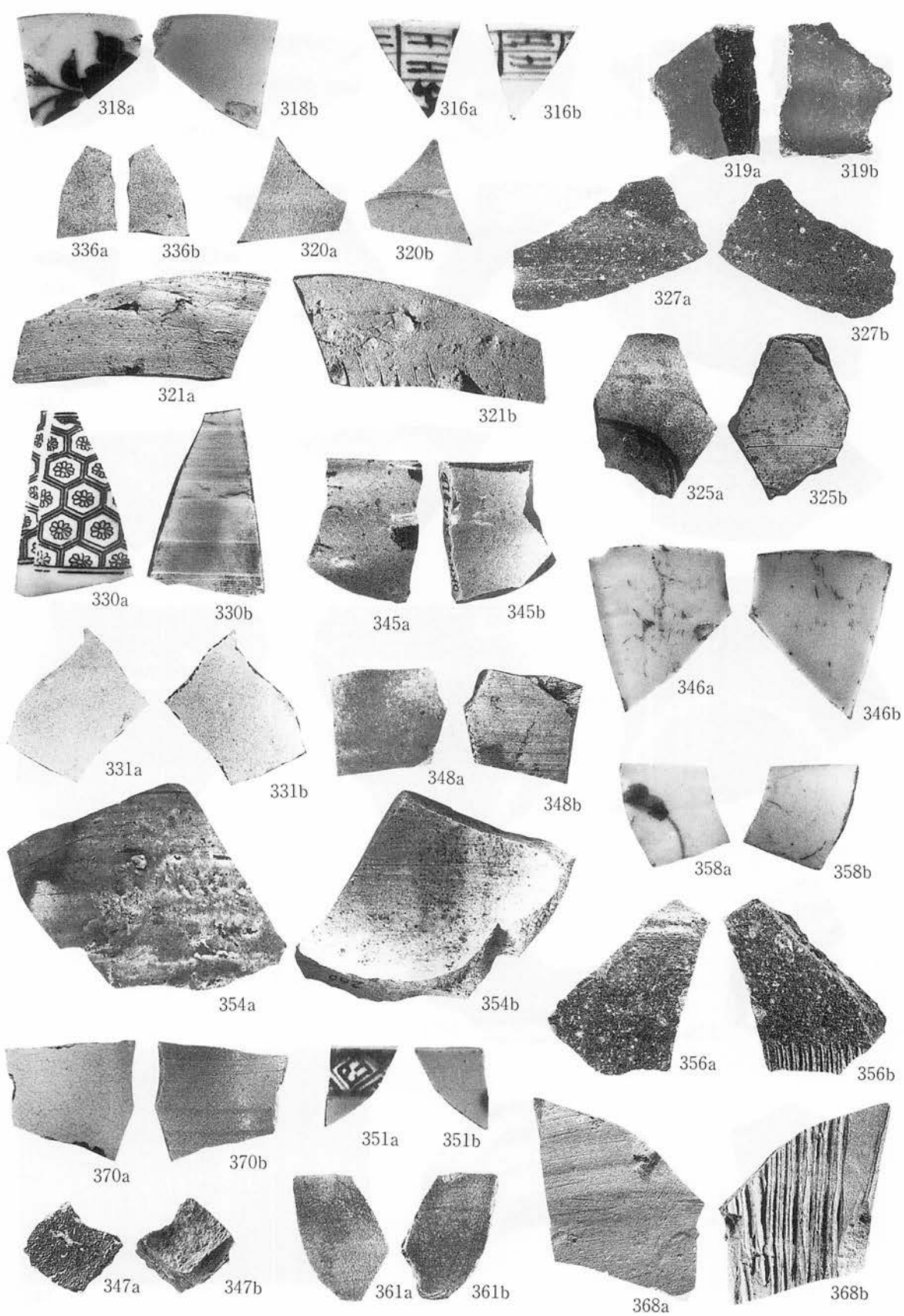
图版77 陶磁器類(3)



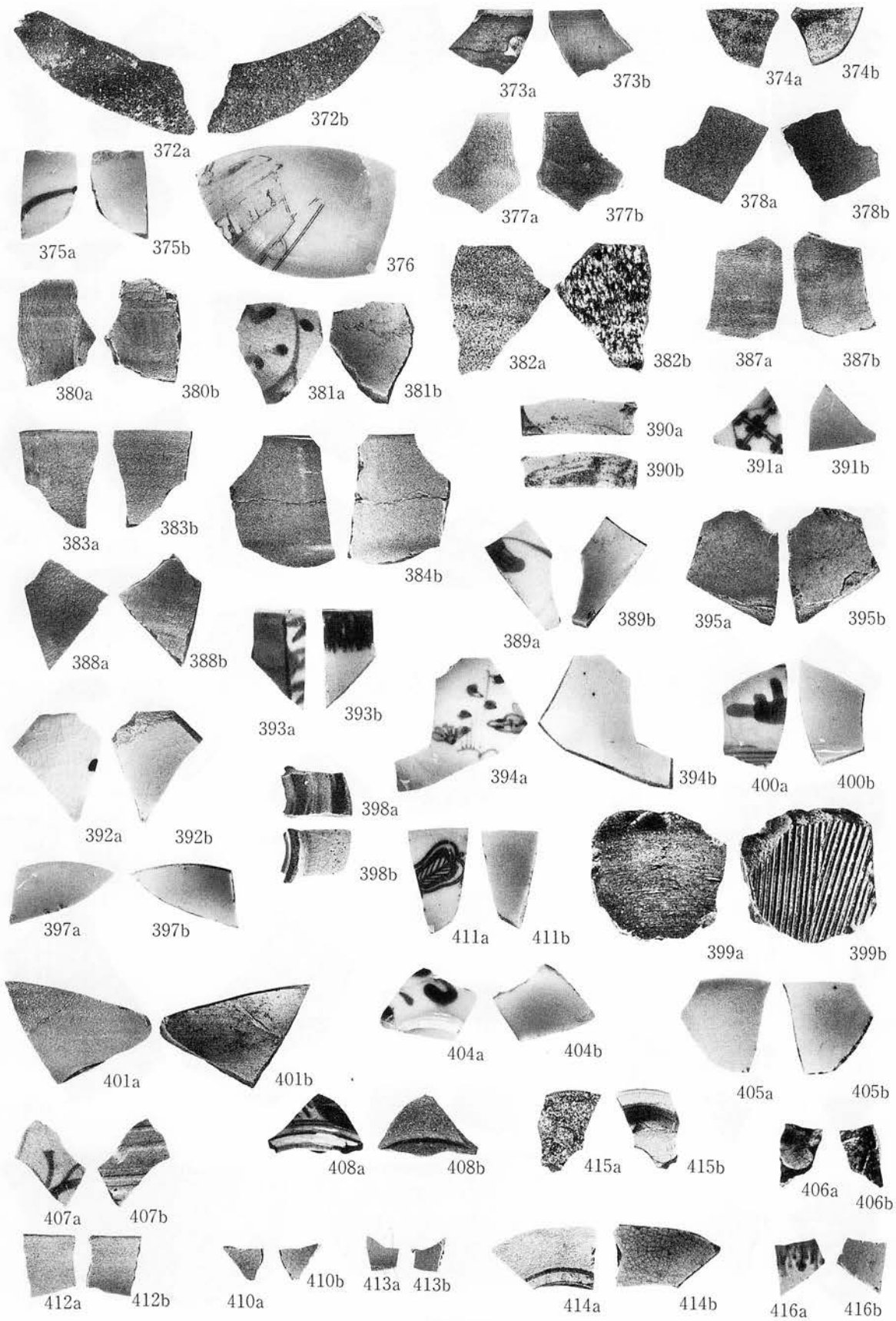
图版78 陶磁器類(4)



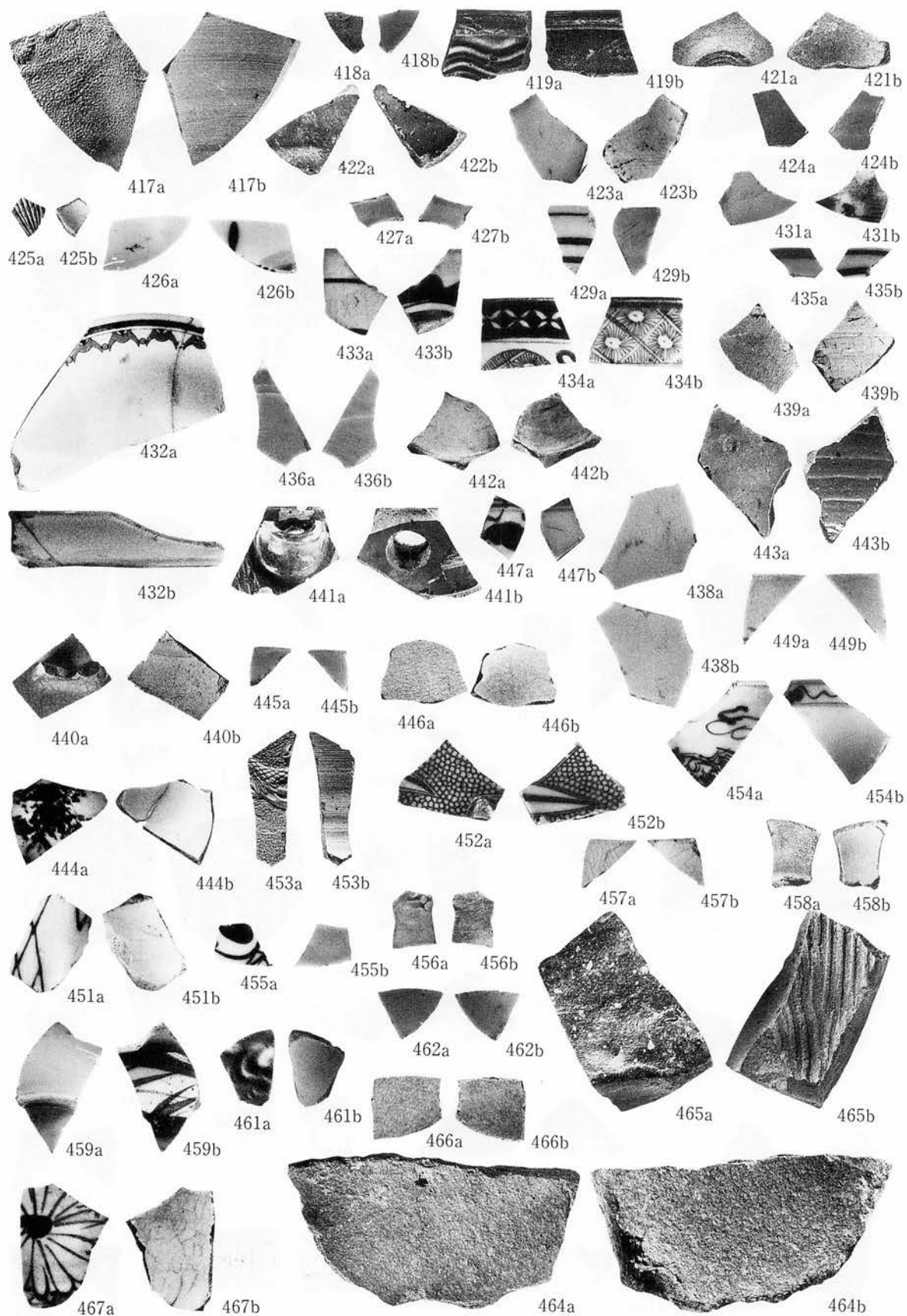
図版79 陶磁器類(5)



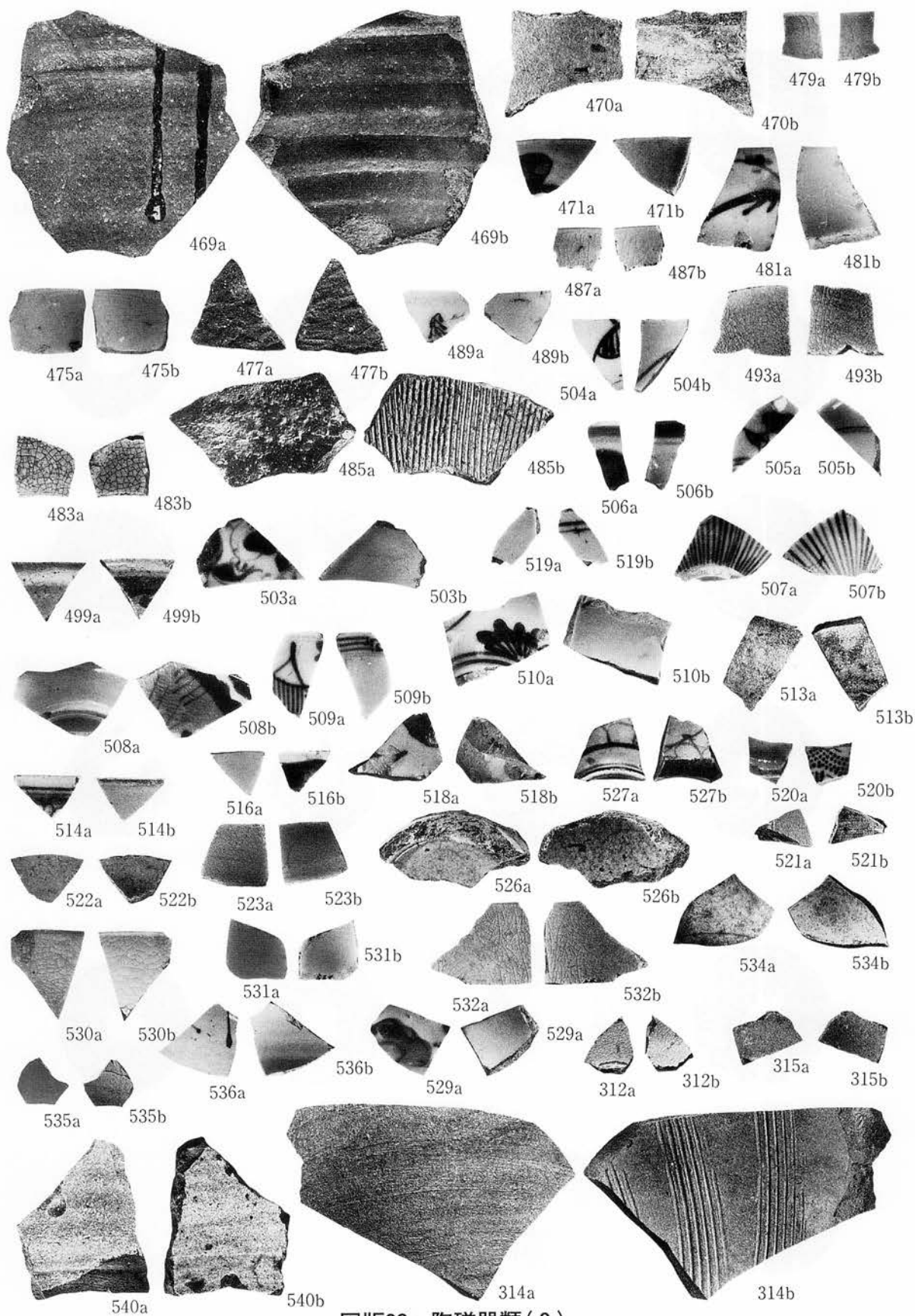
图版80 陶磁器類(6)



图版81 陶磁器類(7)



图版82 陶磁器類(8)



图版83 陶磁器類(9)



543



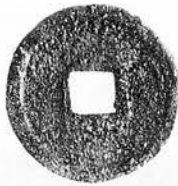
544



548



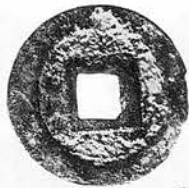
545



546



547



549



550



552

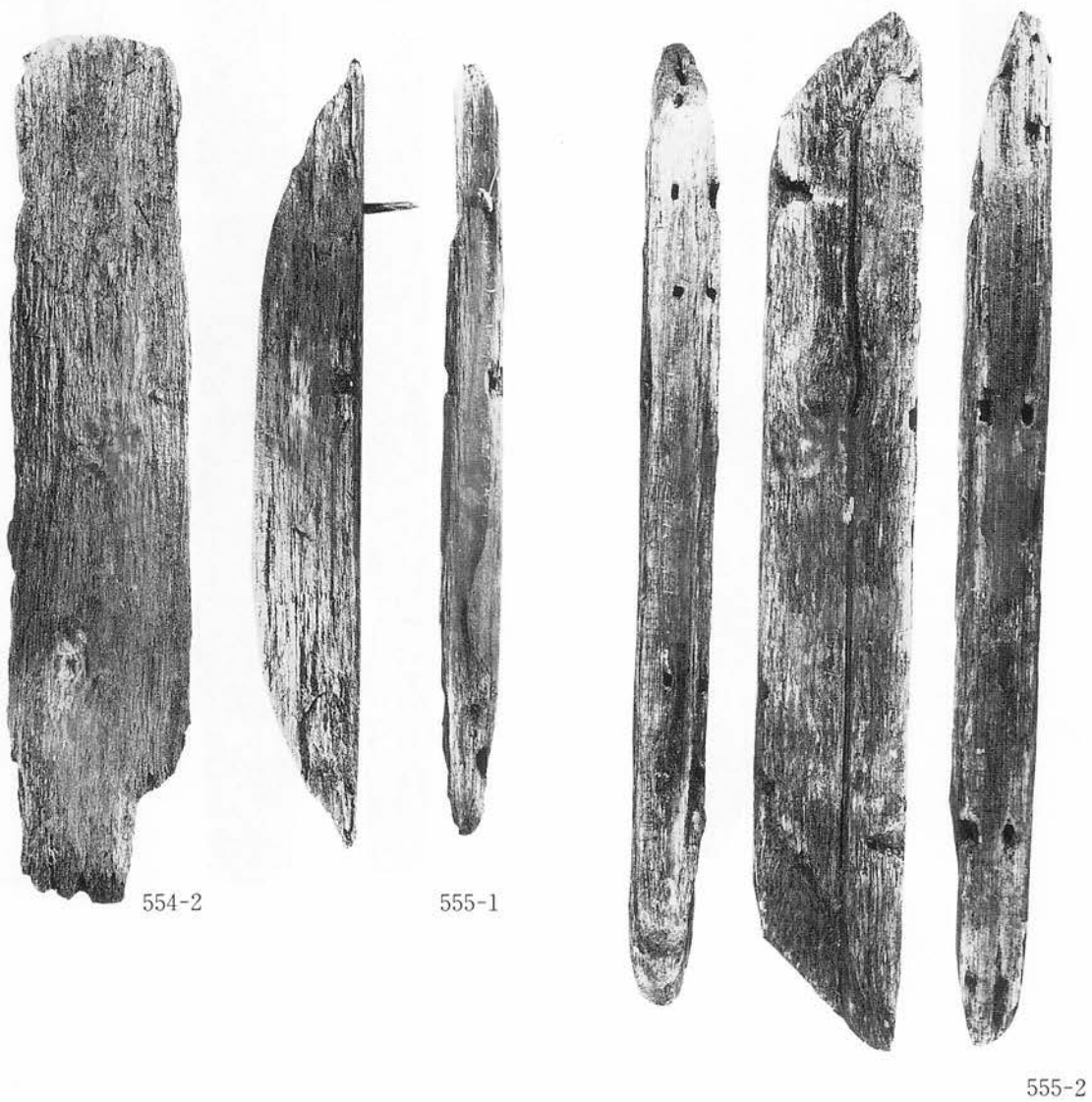
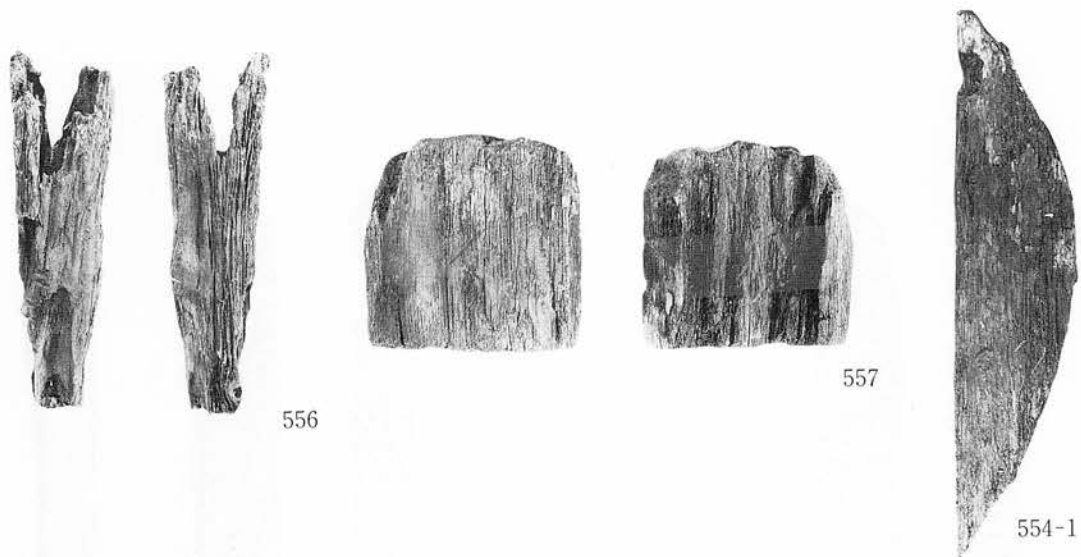


551

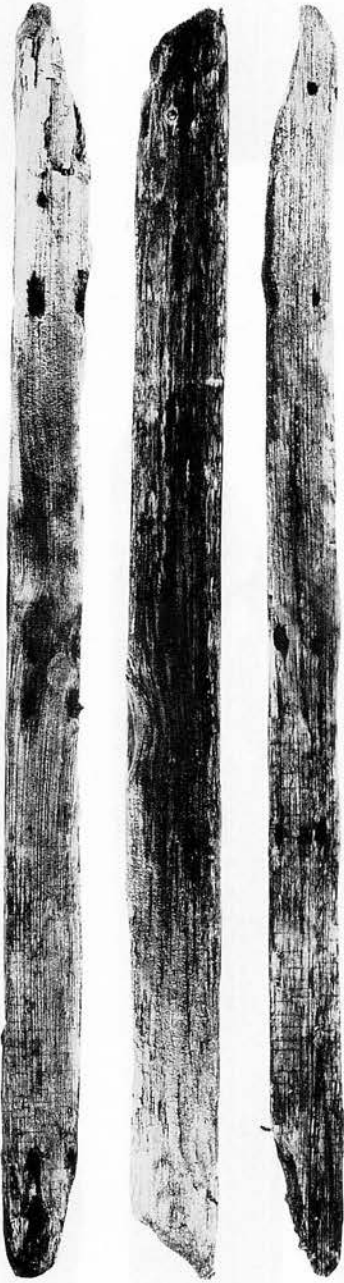


553

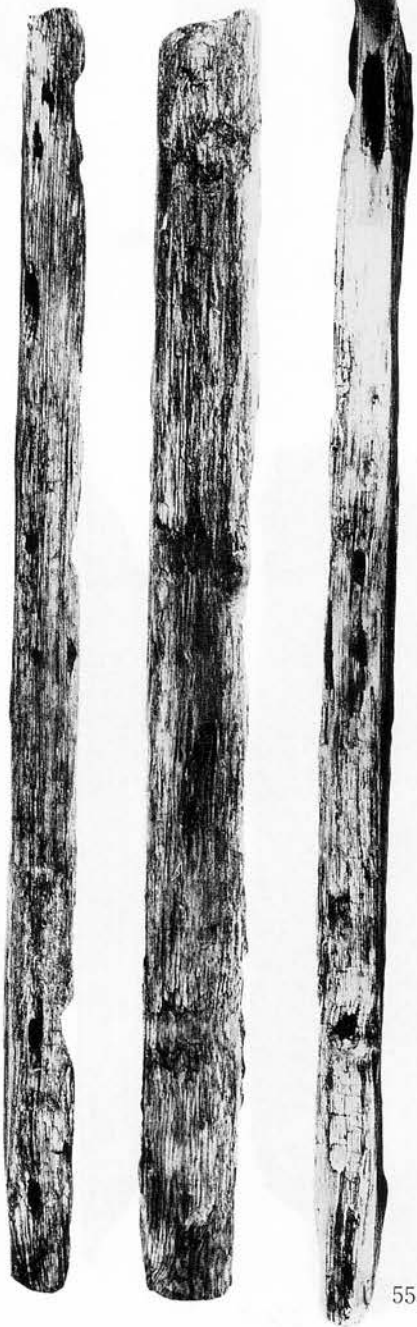
図版84 銭貨



図版85 木製(1)

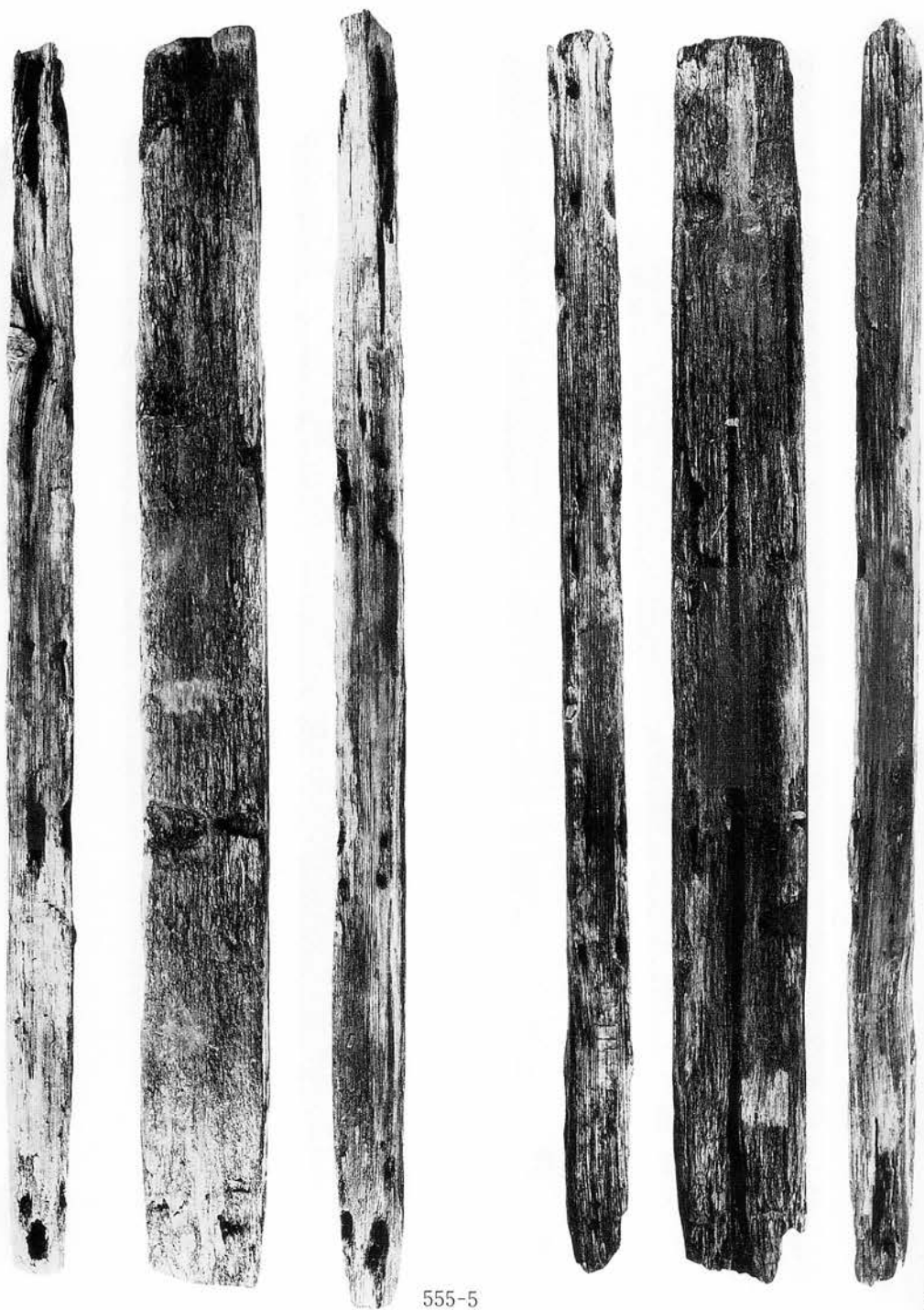


555-3



555-4

図版86 木製品(2)



555-5

555-6

図版87 木製品(3)



図版88 木製品(4)



図版89 木製品(5)

報告書抄録

| ふりがな | こはばいせきだいにじはくつちようさほうこくしょ | | | | | | | |
|---------------|-----------------------------------|--------------------------|--|-------------------|---|-----------------------|---|---------------------|
| 書名 | 小幅遺跡第2次発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 副書名 | 盛岡南新都市開発整備事業 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第244集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 斉藤邦雄 | | | | | | | |
| 編集機関 | (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒020 盛岡市下飯岡11-185 TEL0196-38-9001 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦 1996 年 3 月 31日 | | | | | | | |
| ふりがな | ふりがな | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積㎡ | 調査原因 |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | ・〃 | ・〃 | | | |
| 小幅 | 岩手県盛岡市 本宮字小幅 9-1 外 | 03201 | LE16-2009 | 39度 40分 38秒 | 141度 7分 10秒 | 19940418~ 19940810 | 13548㎡ | 盛南開発に 伴う事前調 査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 小幅遺跡 第2次調査 | 集落跡 | 平安時代 近世 不明 | 住居跡 5 溝跡 3 すみがま? 3 掘立柱建物跡 1 土坑 民家跡 1 溝跡 土坑 便所跡 溝、土坑、竪穴状遺構 | | 土師器(ロクロ成形) 須恵器僅少 鉄製器(刀子・手鎌) 銭貨(寛永通寶、朝鮮 通寶、永樂通寶) 陶磁器(肥前焼・相馬 焼) | | 10世紀前後の志波城周 辺の一般集落 砂底土器 静止糸切りの土師器坏 | |

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所 長 山 影 源 吉
副 所 長 千 葉 政 男

[管理課]

管 理 課 長 澤 田 寛
主 事 千 葉 勝 彦
〃 久 保 田 幸 恵

文 化 財
専 門 調 査 員

阿 部 勝 則

〃 星 雅 之

〃 羽 柴 直 人

〃 高 木 晃

〃 杉 沢 昭 太 郎

〃 伊 藤 拓

〃 村 上 拓

〃 大 道 篤 史

〃 溜 浩 二 郎

〃 中 村 直 美

〃 稻 垣 雅 宏

〃 高 橋 英 樹

〃 元 吉 弘 明

〃 佐 々 木 裕 司

〃 千 葉 貴 子

〃 沼 田 和 宏

〃 大 場 慎 也

〃 吉 田 理

[調査課]

調 査 課 長 鈴 木 恵 治
課 長 補 佐 三 浦 謙 一

〃 高 橋 與 右 衛 門

主 任 文 化 財 工 藤 利 幸
専 門 調 査 員

〃 中 川 重 紀

〃 佐 々 木 清 文

〃 高 橋 義 介

〃 酒 井 宗 孝

〃 菊 池 人 見

〃 吉 田 充

〃 鎌 田 勉

〃 小 山 内 透

〃 高 橋 佐 知 子

〃 松 本 建 速

〃 宮 本 節 子

〃 金 子 昭 彦

〃 木 戸 口 俊 子

期 限 職 付
専 門 員

[資料課]

資 料 課 長 菊 池 強 一

主 任 文 化 財 中 村 英 俊
専 門 調 査 員

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第244集

小幅遺跡第2次発掘調査報告書

—盛岡南新都市開発整備事業—

平成8年3月25日 印刷

平成8年3月29日 発行

発行 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (0196) 38-9001

印刷 株式会社 吉田印刷

〒020 盛岡市名須川町23-27

電話 (0196) 25-2323